

# 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅸ・Ⅹ

平成5・6年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

1995年3月

# 序

平成5年から6年にかけて鹿児島大学は建築ラッシュでした。郡元団地に限っても、教育学部音楽美術棟・同教育実践研究指導センター、福利厚生施設（生協食堂など）・地域共同研究センター・稲盛会館・中央図書館等の新築があり、新しい建物がつぎつぎと姿を現しました。

遺跡の上にある鹿児島大学では、当然のことながら、建築に先立つ埋蔵文化財調査を免れることができません。そのため、平成5年から埋蔵文化財調査室は多忙を極め、予定していた平成5年度の『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』の発行を見送らざるをえませんでした。調査が一段落した現在、平成5年1月から6年12月に行われた調査報告と4年度調査の未報告分を併せ『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報IX・X』として発行する運びになりました。

これらの調査により、郡元団地の中央図書館新築地や附属中学校の校庭からは古墳時代の住居跡が確認されました。また、地域共同研究センター敷地の調査では、同じく古墳時代の河川跡とそれに付随する杭列が検出されました。ここからは、木製鋤等を含む多種多様な遺物が出土しており、古墳時代の農業の実態が明らかにされることが期待されます。

桜ヶ丘団地では、縄文時代早期の包含層が確認されましたので、同地域の建築に当たっては、より慎重な調査が必要です。

埋蔵文化財調査室には全学のご協力を頂いておりますが、なお大きな問題をかかえております。調査の数が増えるにしたがい出土する遺物数は増加しています。現在は各学部へ保管を依頼しておりますが、このような在り方は出土品の保管・整理・研究に支障をきたします。早急にこれらの遺物を保管・展示し、加えて出土品の研究ができる施設ができますように、各学部のご協力をお願いする次第です。

平成7年3月

埋蔵文化財調査委員会  
委員長 安藤 保

# 例 言

- 1 本年報は鹿児島大学構内において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成5年1月4日から平成6年12月31日までに行った調査活動の成果をまとめたものである。調査報告は平成4年度分（平成5年1～3月）をⅡ部、平成5年度分（平成5年4月～平成6年3月）をⅢ部、平成6年度分（平成6年4月～12月）をⅣ部とし、Ⅱ・Ⅲ部を年報Ⅸ、Ⅳ部を年報Ⅹとする。Ⅰ 鹿児島大学の立地と環境、鹿児島大学構内遺跡調査要項、受贈図書目録は両年報の共通項目とする。なお、郡元団地P-4・5区（音楽美術科棟建設地）と郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査報告、中央図書館南側移植及び撤去工事に伴う立合調査における出土遺物の報告を付編として掲載した。
- 2 本書に掲載している発掘調査及び立合調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。個々の調査の担当者は各調査報告に記述した。調査における図面の担当は以下の通りである。  
Ⅱ. 2：中村直子・松村みどり・前幸男、Ⅲ. 2：中村・池口洋人、Ⅲ. 3：大西智和・峰山いづみ、Ⅲ. 4：中村・池口・陣内高志、Ⅲ. 5：前・松村・中村・峰山、付編Ⅰ：中村・大西・黒木綾子・前・古澤生・西谷彰・横手浩二郎、付編Ⅱ：中村・大西・黒木・前・松村・田野辺昭穂・西庄司
- 3 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行った。遺物の実測の担当は以下の通りである。  
Ⅱ. 2：中村、Ⅲ. 3：峰山、Ⅲ. 5：中村、Ⅳ. 2：中村、付編Ⅰ：古澤・大西・峰山・中村、付編Ⅱ：峰山・中村、付編Ⅲ：中村  
製図はⅠ、Ⅱ. 2、Ⅲ. 2、Ⅲ. 4、Ⅲ. 5、Ⅳ. 2、付編Ⅲ：中村、Ⅲ. 3：峰山、付編Ⅰ：古澤・峰山・小原愛・星野恵美、付編. 2：峰山が担当した。  
写真撮影は峰山・大西が行った。  
執筆はⅡ. 3と付編Ⅰを大西が、Ⅱ. 2とⅢ. 5を中村と前が、その他を中村が行った。編集はⅢ. 3と付編Ⅰを大西が、その他を中村が行った。
- 4 本書掲載の発掘調査にあたっては本田道輝氏（鹿児島大学法文学部助手）・新田栄治氏（鹿児島大学教養部教授）・森脇広氏（鹿児島大学法文学部教授）・渡辺芳郎氏（鹿児島大学法文学部助教授）・新東晃一氏・前迫亮一氏（鹿児島県埋蔵文化財センター）・山崎純男氏（福岡市教育委員会）にご教授を賜った。また、本書報告の石器については両宮瑞生氏にご教授を賜った。英文翻訳については、新田栄治氏・中植満美子氏にご協力いただき、ご教授を賜った。
- 5 発掘調査による遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理の下、各学部、部局が収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

# 凡 例

- 1 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便であるように鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は以下のようである。
  - (1) 郡元団地では、国土座標第2座標系 ( $X = -158.200$ ,  $Y = -42.400$ ) を基点として一辺50mの方形地区割りを行った (Fig. 3 参照)。
  - (2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系 ( $X = -161.600$ ,  $Y = -44.400$ ) を基点として一辺50mの方形地区割りを行った (Fig. 4 参照)。
- 2 本年報において報告を行った調査地点については、立合調査地点を除き、Fig. 2～Fig. 4 にその位置を記している。
- 3 本年報におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
- 4 本書で使用した遺構の表示記号は以下の通りである。  
SK：土壙 SD：溝状遺構 P：ピット
- 5 遺物については観察表を作成した。その表記、表現については以下の通りである。  
色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。  
胎土：粒子の大きさで礫（～3mm）・粗砂粒・砂粒・細砂粒・微細な砂粒に分けた。また、砂粒の種類については、特定できないものはその色調で表記した。  
法量：復元による法量は、（ ）をつけた。
- 6 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致させた。

# 本文目次

I	鹿児島大学構内遺跡の立地と環境	1
II	平成4年度(平成5年1～3月)調査報告	7
II. 1	調査の概要	9
II. 2	立合調査の報告	10
III	平成5年度調査報告	15
III. 1	調査の概要	17
III. 2	郡元団地H-11区(工学部窒素タンク建設地)における発掘調査報告	19
1	調査に至る経過	19
2	調査の体制	19
3	調査の経過	19
4	層位	20
5	まとめ	20
III. 3	教育学部附属養護学校日常訓練施設建設地における試掘調査報告	21
1	調査に至る経過	21
2	調査の体制	21
3	調査の経過	21
4	層位	22
5	遺物	24
6	まとめ	24
III. 4	郡元団地M・N-3・4区(水泳プール建設地)における試掘調査報告	26
1	調査に至る経過	26
2	調査の体制	27
3	調査の経過	27
4	層位	27
5	まとめ	28
III. 5	立合調査の報告	28
IV	平成6年度(平成6年4月～12月)調査報告	35
IV. 1	調査の概要	37
IV. 2	立合調査の報告	39
	鹿児島大学構内遺跡調査要項	45
	受贈図書目録	47
付編I.	郡元団地P-4・5区(音楽美術科棟)における発掘調査報告	59
1	調査に至る経過	59
2	調査の体制	59
3	調査の経過	59
4	層位	59
5	遺構と遺構出土の遺物	65
6	包含層出土の遺物	92
7	まとめ	110
付編II	郡元団地O-7区(福利厚生施設建設地)における発掘調査報告	130
1	調査に至る経過	130
2	調査の体制	130
3	調査の経過	130

4 層位について .....	135
5 遺構 .....	136
6 遺物 .....	145
7 まとめ .....	156
付編Ⅲ 92-C中央図書館南側樹木移植及び撤去工事に伴う立合調査における出土遺物について .....	167
SUMMARY .....	241

## 挿図目次

Fig.1 鹿児島市の位置 .....	3	Fig.33 94-A 調査地点 S=1/2000 .....	39
Fig.2 鹿児島大学構内遺跡の位置 S=1/50000 .....	4	Fig.34 94-B・94-E・94-I・94-J 調査地点 S=1/2000 .....	39
Fig.3 鹿児島大学郡元団地構内図 S=1/4000 .....	5	Fig.35 94-B 出土遺物 S=1/3 .....	40
Fig.4 鹿児島大学桜ヶ丘団地構内図 S=1/4000 .....	6	Fig.36 94-E・94-I・94-J 出土遺物 S=1/3 .....	41
Fig.5 92-D 調査地点 S=1/2000 .....	10	Fig.37 94-F 調査地点 S=1/2000 .....	41
Fig.6 92-D 出土遺物 S=1/3 .....	10	Fig.38 94-H 調査地点 S=1/2000 .....	42
Fig.7 92-E・92-H 調査地点 S=1/2000 .....	10	Fig.39 94-M 調査地点 S=1/2000 .....	42
Fig.8 92-E d 地点層位断面図 S=1/40 .....	11	Fig.40 94-N 調査地点 S=1/2000 .....	43
Fig.9 92-H 出土遺物 S=1/3 .....	11	Fig.41 94-O 調査地点 S=1/2000 .....	43
Fig.10 92-F 調査地点 S=1/2000 .....	12	Fig.42 遺構平面図 S=1/250 .....	60
Fig.11 92-F 出土遺物 S=1/3 .....	12	Fig.43 層位断面図(1) S=1/50 .....	61
Fig.12 92-G・92-J 調査地点 S=1/2000 .....	13	Fig.44 層位断面図(2) S=1/50 .....	63
Fig.13 92-J 出土遺物 S=1/3 .....	13	Fig.45 3層検出の遺構 SK1 S=1/20 .....	66
Fig.14 調査地点 S=1/1000 .....	19	Fig.46 SD1 出土の遺物 S=1/3 .....	66
Fig.15 北壁層位断面図 S=1/40 .....	19	Fig.47 3層検出の遺構平面図 S=1/100 .....	67
Fig.16 教育学部附属養護学校構内図 S=1/1500 .....	21	Fig.48 3層検出の遺構 SK1 S=1/20 .....	69
Fig.17 トレンチ配置図 S=1/400 .....	22	Fig.49 4層検出の遺構平面図 S=1/100 .....	71
Fig.18 層位断面図 S=1/50 .....	23	Fig.50 4層検出の遺構 SK2 S=1/20 .....	73
Fig.19 出土遺物 S=1/3 .....	24	Fig.51 4層検出の遺構 SK3 S=1/20 .....	73
Fig.20 トレンチ配置図 S=1/1000 .....	26	Fig.52 4層検出の遺構 SD2 S=1/100 .....	75
Fig.21 層位断面図 S=1/40 .....	26	Fig.53 SD2 出土の遺物(1) S=1/3 .....	77
Fig.22 93-A・93-H 調査地点 S=1/2000 .....	28	Fig.54 SD2 出土の遺物(2) S=1/3 .....	78
Fig.23 93-B・93-C 調査地点 S=1/2000 .....	29	Fig.55 SD2 出土の遺物(3) S=1/3 .....	79
Fig.24 93-B 出土遺物 S=1/3 .....	29	Fig.56 SD2 出土の遺物(4) S=1/3 .....	80
Fig.25 93-F・93-G・93-J・93-O・93-N 調査地点 S=1/2000 .....	30	Fig.57 5層検出の遺構平面図 S=1/100 .....	81
Fig.26 93-F d 地点南壁層位断面図 S=1/40 .....	30	Fig.58 5層検出の遺構 SK7 S=1/20 .....	83
Fig.27 93-G 出土遺物 S=1/3 .....	30	Fig.59 SK7 出土の遺物 S=1/3 .....	84
Fig.28 93-J 出土遺物 S=1/3 .....	31	Fig.60 5層検出の遺構 SD3・SD5・SK4 S=1/50 .....	84
Fig.29 93-O 出土遺物 S=1/3 .....	31	Fig.61 5層検出の遺構 SD4・SD6・SD7 S=1/100 埋土断面；S=1/20 .....	85
Fig.30 93-N 北壁層位断面図 S=1/40 .....	32	Fig.62 SD4 出土の遺物 S=1/3 .....	87
Fig.31 93-N 出土遺物 S=1/3 .....	32	Fig.63 SD6 出土の遺物 S=1/3 .....	87
Fig.32 93-L 調査地点 S=1/2000 .....	32	Fig.64 5層検出の遺構 SD8 S=1/50 .....	87
		Fig.65 5層検出の遺構 SD9・SD10・SD11 S=1/50 .....	88
		Fig.66 SD12 出土の遺物 S=1/3 .....	88

Fig.67	5層検出の遺構 SD13 S=1/50	88	Fig.94	層位断面図(2) S=1/50	133
Fig.68	6層検出の遺構平面図 S=1/100	89	Fig.95	5b層上面検出の遺構 SD1 S=1/50	135
Fig.69	5層検出の遺構 SD12 S=1/50	91	Fig.96	5b層上面検出の遺構 SD4 S=1/50	136
Fig.70	3a層出土の遺物 S=1/3	92	Fig.97	5層直下検出の遺構平面図 S=1/120	137
Fig.71	3b層出土の遺物 S=1/3	92	Fig.98	5層直下検出の遺構 SD2 S=1/100	139
Fig.72	4a層出土の遺物 S=1/3	92	Fig.99	5層直下検出の遺構 SD3 S=1/100	140
Fig.73	4c層出土の遺物 S=1/3	92	Fig.100	8b層上面検出の遺構 SD5 S=1/50	144
Fig.74	4e層出土の遺物 S=1/3	93	Fig.101	2層出土の遺物 S=1/3	146
Fig.75	5a層出土の遺物 S=1/3	93	Fig.102	4a層出土の遺物 S=1/3	146
Fig.76	5b層出土の遺物(1) S=1/3	94	Fig.103	4b層出土の遺物 S=1/3	146
Fig.77	5b層出土の遺物(2) S=1/3	95	Fig.104	4c層出土の遺物(1) S=1/3	147
Fig.78	5d層出土の遺物 S=1/3	96	Fig.105	4c層出土の遺物(2) S=1/3	148
Fig.79	5f層出土の遺物 S=1/3	97	Fig.106	4c層出土の遺物(3) S=1/3	149
Fig.80	5g層出土の遺物 S=1/3	98	Fig.107	4c層出土の遺物(4) S=1/3	150
Fig.81	5層出土の遺物(1) S=1/3	99	Fig.108	4d層出土の遺物 S=1/3	151
Fig.82	5層出土の遺物(2) S=1/3	100	Fig.109	4e層出土の遺物 S=1/3	152
Fig.83	5層出土の遺物(3) S=1/3	102	Fig.110	5a層出土の遺物 S=1/3	153
Fig.84	5層出土の遺物(4) S=1/3	103	Fig.111	5b層出土の遺物(1) S=1/3	154
Fig.85	5層出土の遺物(5) S=1/3	105	Fig.112	5b層(2)・7層出土の遺物 S=1/3	155
Fig.86	5層出土の遺物(6) S=1/3	106	Fig.113	カクランおよび出土層不明の遺物 S=1/3	156
Fig.87	6層出土の遺物 S=1/3	106	Fig.114	土師器の分類 S=1/4	157
Fig.88	層位観察ベルト等から出土の遺物(1) S=1/3	107	Fig.115	出土遺物 S=1/3	167
Fig.89	層位観察ベルト等から出土の遺物(2) S=1/3	108			
Fig.90	表土・カクラン層出土の遺物 S=1/3	109			
Fig.91	その他の遺物 S=1/3	109			
Fig.92	遺構平面図 S=1/300	130			
Fig.93	層位断面図(1) S=1/50	131			

## 表目次

Tab. 1	平成4年度(平成5年1~3月)調査 一覧表	9	Tab. 6	平成6年度立合調査における出土遺物 観察表	44
Tab. 2	平成4年度立合調査における出土遺物 観察表	14	Tab. 7	遺物観察表	113
Tab. 3	平成5年度調査一覧表	18	Tab. 8	ピット一覧表	141
Tab. 4	平成5年度立合調査における出土遺物 観察表	33	Tab. 9	遺物出土状況	145
Tab. 5	平成6年度(4~12月)調査一覧 表	37	Tab.10	遺物観察表	159
			Tab.11	遺物観察表	167

# 図版目次

P L.1	平成4年度立合調査	171
	1.出土遺物1(表) 2.出土遺物1(裏) 3.出土遺物2	
P L.2	教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設地における試掘調査(1)	172
	1.調査地点 2.1トレンチ5・6層検出状況	
P L.3	教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設地における試掘調査(2)	173
	1.1トレンチ西壁 2.2トレンチ西壁	
P L.4	教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設地における試掘調査(3)	174
	1.出土遺物(表) 2.出土遺物(裏)	
P L.5	郡元団地M・N-3・4区(水泳プール建設地)における試掘調査(1)	175
	1.調査地点(1トレンチ) 2.調査地点(2トレンチ) 3.1トレンチ北壁	
P L.6	郡元団地M・N-3・4区(水泳プール建設地)における試掘調査(2)	176
	1.2トレンチ東壁 2.1トレンチ完掘状況 3.2トレンチ完掘状況	
P L.7	平成5年度立合調査(1)	177
	1.出土遺物1(表) 2.出土遺物1(裏) 3.出土遺物2(表) 4.出土遺物2(裏)	
P L.8	平成5年度立合調査(2)	178
	1.出土遺物3(側面) 2.出土遺物4(表) 3.出土遺物4(裏)	
P L.9	平成6年度立合調査(1)	179
	1.出土遺物1(表) 2.出土遺物1(裏)	
P L.10	平成6年度立合調査(2)	180
	1.出土遺物2(表) 2.出土遺物2(裏) 3.出土遺物2(側面)	
P L.11	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(1)	181
	1.㊸-e区南壁 2.㊹-e区南壁	
P L.12	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(2)	182
	1.㊺-c区西壁 2.㊻-b区南壁	
P L.13	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(3)	183
	1.3b層上面畝検出状況 2.3b層上面畝完掘状況 3.SK1完掘状況	
P L.14	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(4)	184
	1.SK6完掘状況 2.SD1完掘状況 3.SD2遺物出土状況	
P L.15	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(5)	185
	1.SD2遺物出土状況 2.SD2完掘状況 3.SD3, SK4完掘状況	
P L.16	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(6)	186
	1.P1・2・3完掘状況 2.P2断面 3.SD4断面	
P L.17	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(7)	187
	1.SD4完掘状況 2.SK5, SD6完掘状況 3.SD6完掘状況	
P L.18	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(8)	188
	1.SD7断面(南) 2.SD7断面(北) 3.SD7完掘状況	
P L.19	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(9)	189
	1.SD8検出状況 2.SD8完掘状況 3.SD9~11, ピット検出状況	
P L.20	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(10)	190
	1.㊼・㊽-c区5b層検出状況 2.P23・24検出状況 3.P23・24完掘状況	
P L.21	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(11)	191
	1.P25・26検出状況 2.P25・26完掘状況 3.SK7検出状況	
P L.22	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(12)	192
	1.SK7完掘状況 2.SD12検出状況 3.SD12完掘状況	
P L.23	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(13)	193
	1.SD6, SD13検出状況 2.SD6, SD13完掘状況 3.㊿・㊻-c区5層遺物出土状況	



P L.24	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(14)	194
	1.6層検出状況(P27~51) 2.調査区完掘状況	
P L.25	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(15)	195
	1.SD1出土遺物(表) 2.SD1出土遺物(裏) 3.SD2出土遺物1(表)	
	4.SD2出土遺物1(裏)	
P L.26	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(16)	196
	1.SD2出土遺物2(表) 2.SD2出土遺物2(裏)	
P L.27	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(17)	197
	1.SD2出土遺物3(表) 2.SD2出土遺物3(裏)	
P L.28	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(18)	198
	1.SD2出土遺物4(表) 2.SD2出土遺物4(裏)	
P L.29	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(19)	199
	1.SD2出土遺物5(表) 2.SD2出土遺物5(裏) 3.SD2出土寛永通寶(表)	
	4.SD2出土寛永通寶(裏)	
P L.30	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(20)	200
	1.SK7出土遺物(表) 2.SK7出土遺物(裏) 3.SD4・6・12出土遺物(表)	
	4.SD4・6・12出土遺物(裏)	
P L.31	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(21)	201
	1.3a・3b・4a・4c層出土遺物(表) 2.3a・3b・4a・4c層出土遺物(裏)	
	3.4e層出土遺物(表) 4.4e層出土遺物(裏)	
P L.32	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(22)	202
	1.5a層出土遺物(表) 2.5a層出土遺物(裏) 3.5b層出土遺物1(表)	
	4.5b層出土遺物1(裏)	
P L.33	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(23)	203
	1.5b層出土遺物2(表) 2.5b層出土遺物2(裏) 3.5b層出土遺物2(側面)	
P L.34	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(24)	204
	1.5b層出土遺物3 2.5d層出土遺物1(表) 3.5d層出土遺物1(裏)	
P L.35	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(25)	205
	1.5d層出土遺物2(表) 2.5d層出土遺物2(裏) 3.5d層出土遺物2(側面)	
P L.36	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(26)	206
	1.5d層出土遺物3(表) 2.5d層出土遺物3(裏) 3.5f層出土遺物(表)	
	4.5f層出土遺物(裏)	
P L.37	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(27)	207
	1.5g層出土遺物(表) 2.5g層出土遺物(裏) 3.5g層出土遺物(側面)	
P L.38	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(28)	208
	1.5層出土遺物1(表) 2.5層出土遺物1(裏)	
P L.39	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(29)	209
	1.5層出土遺物2(表) 2.5層出土遺物2(裏)	
P L.40	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(30)	210
	1.5層出土遺物3(表) 2.5層出土遺物3(裏) 3.5層出土遺物3(側面)	
P L.41	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(31)	211
	1.5層出土遺物4(表) 2.5層出土遺物4(裏) 3.5層出土遺物5(側面)	
	4.5層出土遺物6(側面)	
P L.42	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(32)	212
	1.5層出土遺物7(側面) 2.5層出土遺物8(表) 3.5層出土遺物8(裏)	
P L.43	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(33)	213
	1.5層出土遺物9(表) 2.5層出土遺物9(裏)	
P L.44	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(34)	214
	1.5層出土遺物10(表) 2.5層出土遺物10(裏)	
P L.45	郡元団地P-4・5区(教育学部音楽美術科棟建設地)における発掘調査(35)	215
	1.5層出土遺物11(表) 2.5層出土遺物11(裏) 3.5層出土遺物11(側面)	

P L.46	郡元団地P-4・5区（教育学部音楽美術科棟建設地）における発掘調査（36）	216
	1.5層出土遺物12（表） 2.5層出土遺物12（裏）	
P L.47	郡元団地P-4・5区（教育学部音楽美術科棟建設地）における発掘調査（37）	217
	1.5層出土遺物13（側面） 2.5層出土遺物14（表） 3.5層出土遺物14（裏）	
P L.48	郡元団地P-4・5区（教育学部音楽美術科棟建設地）における発掘調査（38）	218
	1.6層出土遺物（表） 2.6層出土遺物（裏） 3.層位観察ベルト等の出土遺物1（表） 4.層位観察ベルト等の出土遺物1（裏）	
P L.49	郡元団地P-4・5区（教育学部音楽美術科棟建設地）における発掘調査（39）	219
	1.層位観察ベルト等の出土遺物2（表） 2.層位観察ベルト等の出土遺物2（裏） 3.層位観察ベルト等の出土遺物3（側面） 4.層位観察ベルト等の出土遺物4（側面）	
P L.50	郡元団地P-4・5区（教育学部音楽美術科棟建設地）における発掘調査（40）	220
	1.層位観察ベルト等の出土遺物5（表） 2.層位観察ベルト等の出土遺物5（裏） 3.層位観察ベルト等の出土遺物6	
P L.51	郡元団地P-4・5区（教育学部音楽美術科棟建設地）における発掘調査（41）	221
	1.表土・カクラン出土遺物（表） 2.表土・カクラン出土遺物（裏） 3.その他の遺物（表） 4.その他の遺物（裏）	
P L.52	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（1）	222
	1.①-a区東壁 2.⑨-e区西壁	
P L.53	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（2）	223
	1.⑧-a区北壁 2.⑧・⑨-c区北壁 3.②・③-e区南壁 4.⑥-e区南壁	
P L.54	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（3）	224
	1.SD1完掘状況 2.SD2検出状況 3.SD2完掘状況	
P L.55	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（4）	225
	1.SD2検出状況 2.SD2完掘状況	
P L.56	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（5）	226
	1.④~⑦-e区ピット完掘状況 2.②・③-e区ピット完掘状況	
P L.57	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（6）	227
	1.⑦~⑨-e区ピット完掘状況 2.⑦・⑧-a・b区ピット完掘状況 3.⑦・⑧-b・c区ピット完掘状況	
P L.58	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（7）	228
	1.⑦~⑨-c・d区ピット完掘状況 2.SD4完掘状況 3.SD5完掘状況 4.SD5完掘状況	
P L.59	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（8）	229
	1.足跡状遺構完掘状況（南から） 2.足跡状遺構完掘状況（北から） 3.足跡状遺構完掘状況（西から）	
P oL.60	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（9）	230
	1.2層出土遺物（表） 2.2層出土遺物（裏）	
P L.61	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（10）	231
	1.4 a・4 b層出土遺物（表） 2.4 a・4 b層出土遺物（裏） 3.4 b層出土土器（側面）	
P L.62	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（11）	232
	1.4 c層出土遺物1（表） 2.4 c層出土遺物1（裏）	
P L.63	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（12）	233
	1.4 c層出土遺物2（表） 2.4 c層出土遺物2（裏） 3.4 c層出土土師器（側面） 4.4 c層出土土師器（真下から）	
P L.64	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（13）	234
	1.4 c層出土遺物3（表） 2.4 c層出土遺物3（裏） 3.4 c層出土寛永通寶（表） 4.4 c層出土寛永通寶（裏）	
P L.65	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（14）	235
	1.2・4c・4e層出土土錘、銃弾（側面） 2.2・4c・4e層出土土錘、銃弾（真上から） 3.4d・4e層出土遺物（表） 4.4d・4e層出土遺物（裏）	
P L.66	郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（15）	236
	1.5 a層出土遺物（表） 2.5 a層出土遺物（裏）	

P L.67	郡元団地O-7区(福利厚生施設建設地)における発掘調査(16)	237
	1.5b層出土遺物1(表) 2.5b層出土遺物1(裏)	
P L.68	郡元団地O-7区(福利厚生施設建設地)における発掘調査(17)	238
	1.5b層出土遺物2(表) 2.5b層出土遺物2(裏)	
P L.69	郡元団地O-7区(福利厚生施設建設地)における発掘調査(18)	239
	1.5b・7層出土遺物(表) 2.5b・7層出土遺物(裏)	
	3.カクランおよび出土層不明遺物(表) 4.カクランおよび出土層不明遺物(裏)	
P L.70	中央図書館南側樹木移植及び撤去工事に伴う立合調査	240
	1.出土遺物(表) 2.出土遺物(裏)	

# I 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

# I 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島東岸部のほぼ中央に位置する。鹿児島市は、東側の湾岸部以外はシラス台地に囲まれ、シラス台地と諸河川によって形成された沖積平野に分かれる。鹿児島大学構内遺跡のうち、本書に掲載する調査地域は郡元団地、桜ヶ丘団地、教育学部附属養護学校である。

郡元団地は、標高7mほどで、鹿児島市の沖積平野のほぼ中央に位置する。東側は鹿児島湾に向かい、西にはシラス台地が後背地となっている。周辺では、一の宮遺跡<sup>1)</sup>など弥生時代から古墳時代の遺跡が多い。郡元団地でも、これまでの調査によって、弥生時代・古墳時代・中世・近世の遺物包含層が確認されており、特に古墳時代の住居跡が密集している。また、住居跡の集中する場所は、理学部から教養部の一帯と、教育学部附属小学校・中学校から運動場の南西側一帯の2ヶ所が確認されており、集落の中心地があったことがうかがえる。

同じく、教育学部附属養護学校は郡元団地から北方約4kmの沖積平野の奥部に位置する。甲突川の東岸で、付近には弥生時代の遺跡として知られる玉里遺跡<sup>2)</sup>や古墳時代の遺跡である甲突川川底遺跡<sup>3)</sup>・刑務所跡遺跡<sup>4)</sup>などがあり、郡元団地周辺と同様、弥生時代や古墳時代の遺跡が多い地域である。

桜ヶ丘団地は郡元団地の約2.5km南の亀ヶ原台地上に位置する。鹿児島市のシラス台地上の遺跡は、縄文時代早期から後期にかけての遺跡が点在しており、弥生時代や古墳時代の遺跡が少ない。桜ヶ丘団地では、これまでの調査で縄文時代草創期・早期・弥生時代前半期の遺物包含層が確認されており、特に、南部九州でも少ない遺構である弥生時代前半期の住居跡は貴重な資料である。

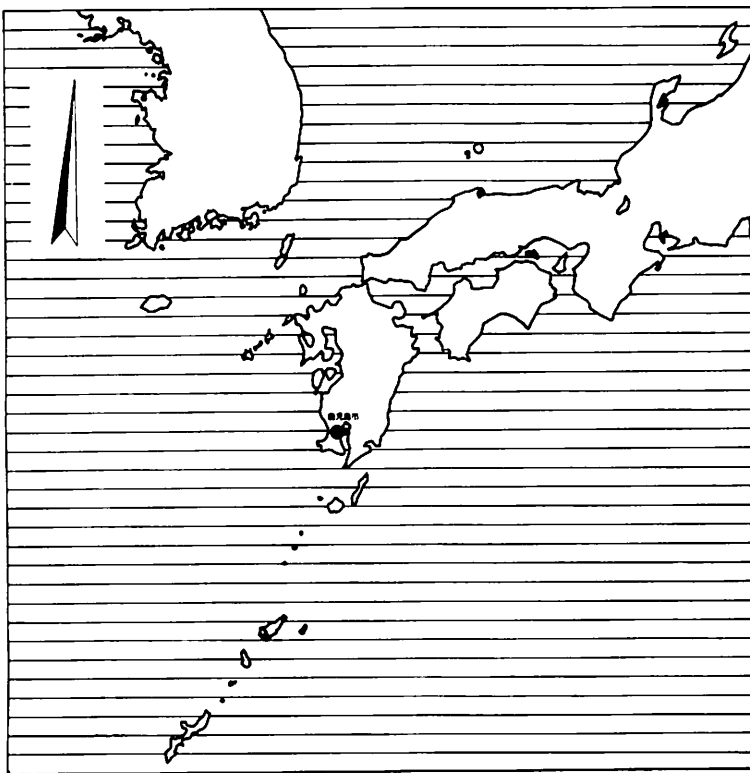


Fig. 1 鹿児島市の位置

## 註

- 1) 河口貞徳「一の宮遺跡の報告」『考古学雑誌』37-4 1951
- 2) 麻生孝行「有溝の石庖丁」『鹿児島県考古学会紀要』2 1952  
山之内宏行・出口浩編『鹿児島市文化財基本調査報告書』鹿児島市文化財調査報告書(5) 鹿児島市教育委員会 1988
- 3) 山之内宏行・出口浩編『鹿児島市文化財基本調査報告書』鹿児島市文化財調査報告書(5) 鹿児島市教育委員会 1988
- 4) 註3)に同じ

I 鹿兒島大学構内遺跡の立地と環境

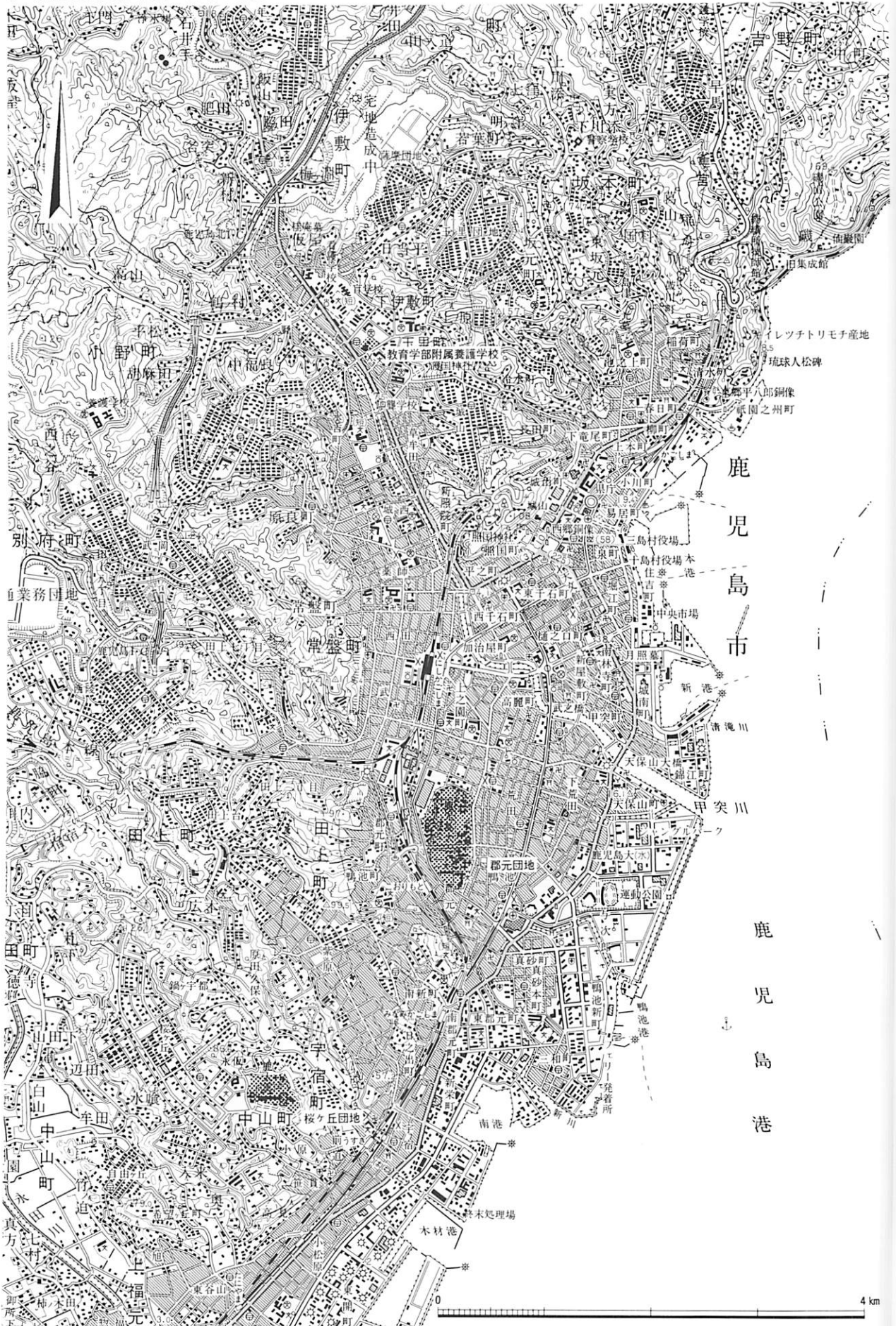


Fig. 2 鹿兒島大学構内遺跡の位置 S=1/50000

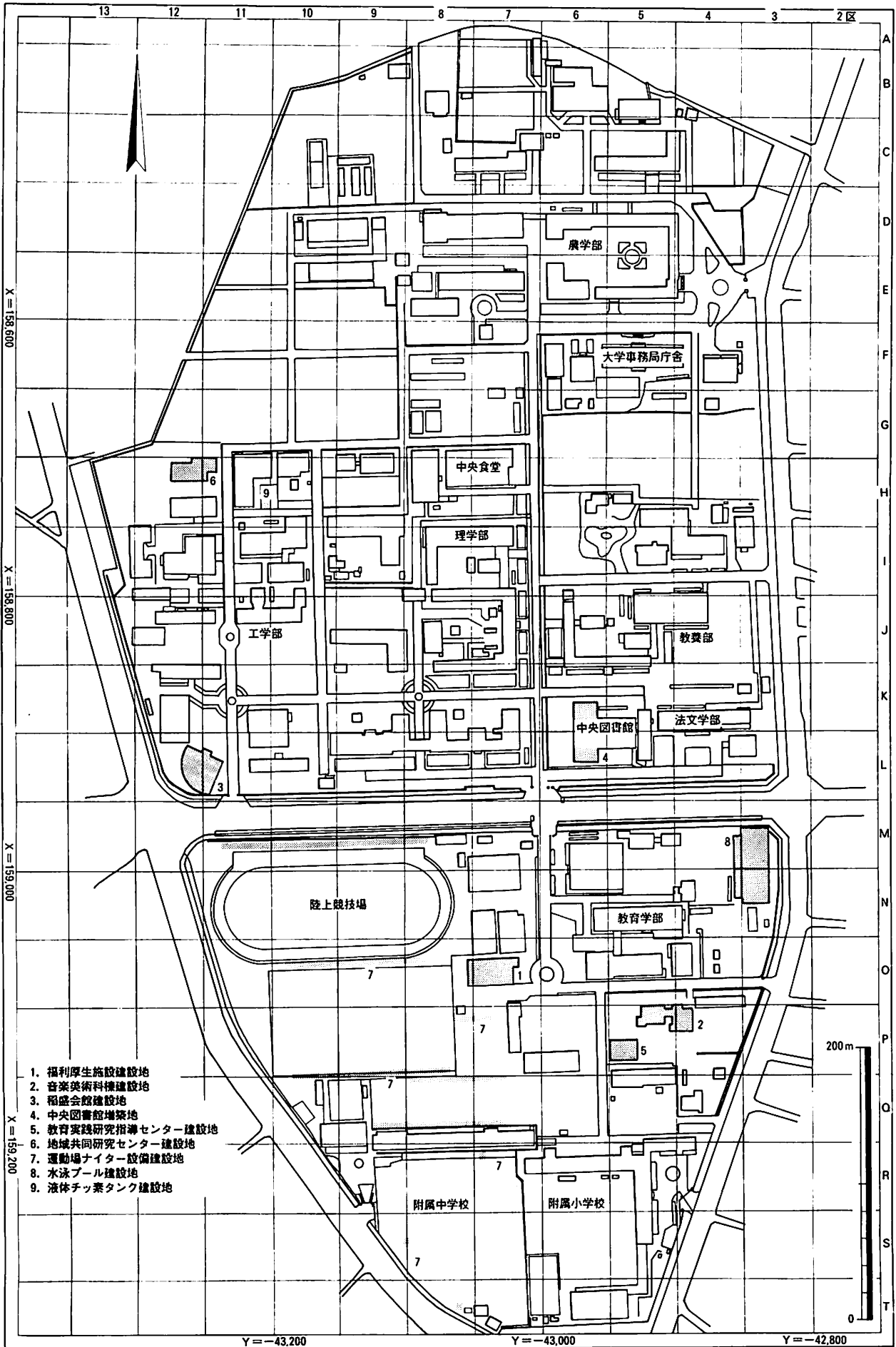


Fig. 3 鹿児島大学郡元団地構内図 S=1/4000

I 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

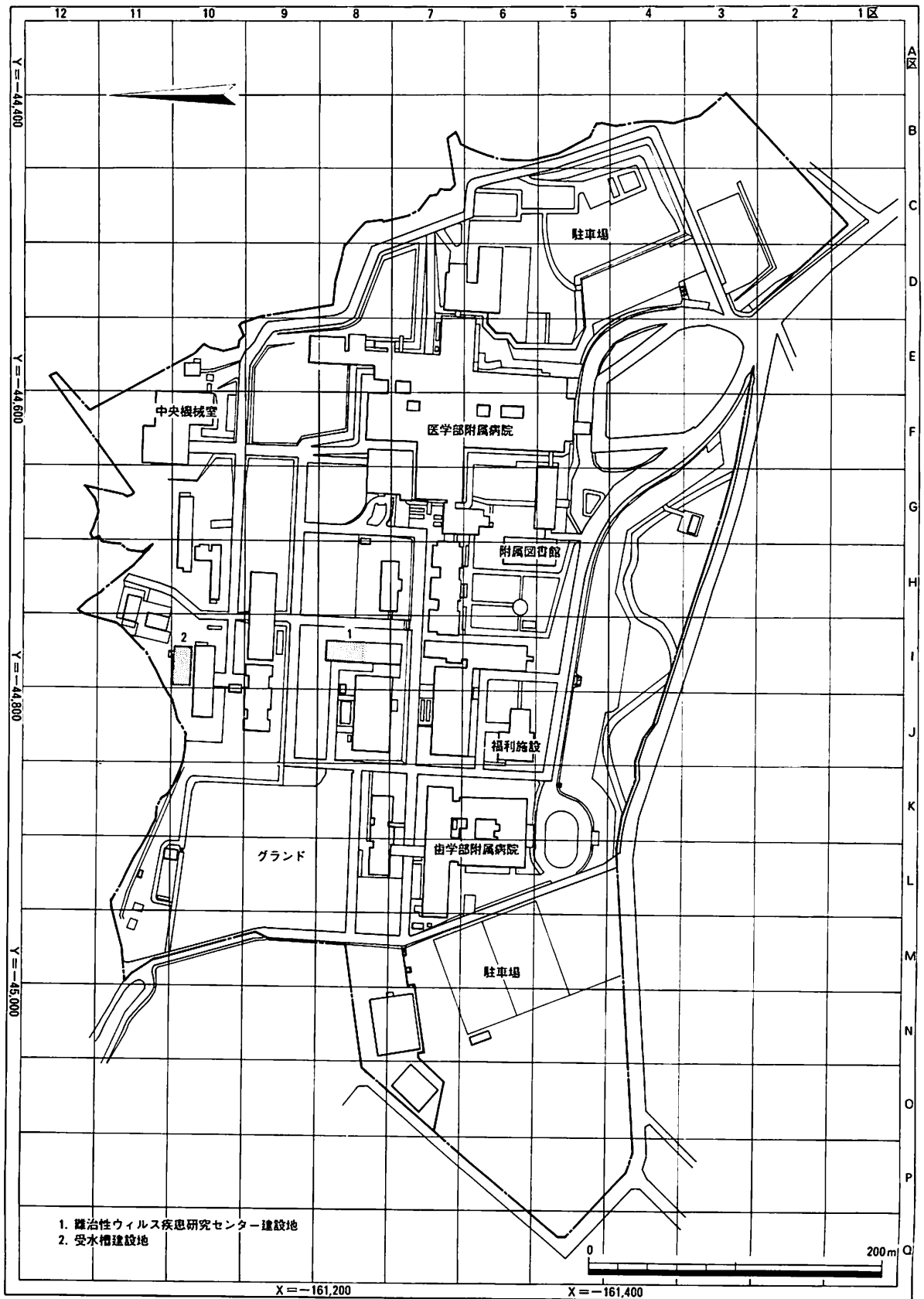


Fig. 4 鹿児島大学校ヶ丘団地構内図 S=1/4000



## Ⅱ 平成4年度（平成5年1～3月） 調査報告

- Ⅱ. 1 調査の概要
- Ⅱ. 2 立合調査の報告

## Ⅱ. 1 調査の概要

平成5年1月から3月において、発掘調査（1件）と立合調査（6件）を実施した（Tab. 1）。

92-4では、中央図書館の増築予定地の南側172㎡の範囲の発掘調査を行った。この周辺では、古墳時代の住居跡が密集して発見された釘田第1地点<sup>1)</sup>が北東に位置しており、古墳時代の土器を主体とする包含層が一带に広がっている。

92-4の調査でも、古墳時代の住居跡を1基確認した。住居跡の北側が調査区外に広がっていたため全形は明らかにできなかったが、平面形は柄鏡形を呈するもので、その両脇に浅い土塋を配している。これまで郡元団地で検出した古墳時代の住居跡は方形が圧倒的に多く、それとは形態を異にしている。

住居跡は調査区の北西隅に位置し、これより東側では検出していない。釘田第1地点で検出した住居跡の範囲がこの地点で終わる可能性が高い。

また、住居跡を検出した上層で溝状遺構を2条検出している。

立合調査では、新しい建築物の環境設備整備に

関係する工事に伴う調査が多かった。

92-Eでは教育学部付属小学校の北側で、やはり古墳時代のものであろうと考えられる溝状遺構を確認した。また、92-Jでは多量の古墳時代の土器が包含層中より出土し、玉利ヶ池周辺に良好な遺跡が存在していることを示唆している。

### 註

1) 松永幸男・坪根伸也編「第三章 鹿児島大学埋蔵文化財調査室設置以前の調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅰ 昭和60年度』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1986

「付編. 釘田第一地点（鹿児島大学教養部）遺跡発掘調査報告—遺構及び遺構出土遺物編—」『南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究』平成3年度教育研究学内特別経費研究成果報告書 鹿児島大学法文学部 1992

2) 「第Ⅱ部 第1章 平成4年度（平成4年4月～12月）調査の概要」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅳ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1993

Tab. 1 平成4年度（平成5年1～3月）調査一覧表

調査の種類	調査No	調査・工事名	期 間	地 区
発掘調査	92-4	中央図書館増築予定地における発掘調査	1月20日～3月30日	郡元団地L-6区
立合調査	92-D	農学部附属農場鉄骨ハウス取設工事	3月1日～9日	郡元団地B-9区
	92-E	教育学部附属小学校等幹線改修電気工事	3月10日～4月1日	郡元団地P～R-5～7・T-6区
	92-F	教育学部音楽美術科棟新営設備工事	3月11日～31日	郡元団地O-3～5区
	92-G	中央図書館西側・北側樹木移植および撤去工事	3月15日～17日	郡元団地H-7・J-8・K-5・7区
	92-J	玉利ヶ池南側道路側溝改修工事	3月17日	郡元団地I-6区
	92-H	農学部農芸化学科等屋内消火栓改修工事	3月23日～25日	郡元団地P-5区

## II. 2 立合調査の報告

平成4年度(平成5年1~3月)においては6件の立合調査を実施した。以下、隣接する地点ごとに説明を行う(Tab. 1)。

### 92-D 農学部附属農場鉄骨ハウス取設工事に伴う立合調査 (Fig. 5・Fig. 6)

馬術馬房南側部分において、鉄骨ハウス取設のため、幅1m×1m、深さ30~70cmほどの基礎部分の掘削を52カ所行った。掘削範囲のうち、南側で地表下約30cmから水田層と考えられる灰色の粘質土が露出したが、ほとんどが盛土の範囲で掘削を終了した。

盛土中から土器が2点出土している(Fig. 6)。2点とも「成川式」と総称される古墳時代の土器様式のうち、最も新しいタイプの笹貫式の甕形土器である。1はまっすぐ立ち上がる口縁部で、胴

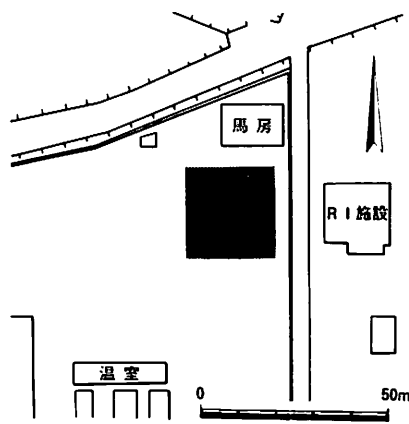


Fig.5 92-D調査地点 S=1/2000

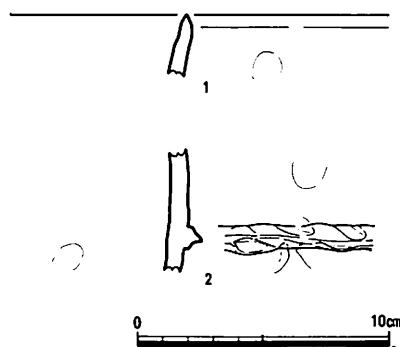


Fig.6 92-D出土遺物 S=1/3

部はバケツ形に広がる器形を呈するものであると思われる。2は絡縄突帯をもつ胴部片で突帯直下には、突帯をつまんだユビオサエの痕が明瞭に残っている。

### 92-E 附属小学校等幹線改修工事に伴う立合調査 (Fig. 7a~f・Fig. 8)

工事は附属小・中学校付近一帯で幅0.7m、深さ0.7~1.3m、長さ280mにわたる溝と、マンホール埋設のため2m四方の範囲を、1.6~2mの深さまでの掘削を行った。以下、プライマリーな層の堆積が確認できた地点について土層の観察結果を記す。

#### a地点

1層 盛土、南側に落ち込んでいる、層厚110~160cm

2層 灰褐色、やや粘質のシルト、水田層、層厚50~0cm

#### b地点

1層 盛土、層厚100cm

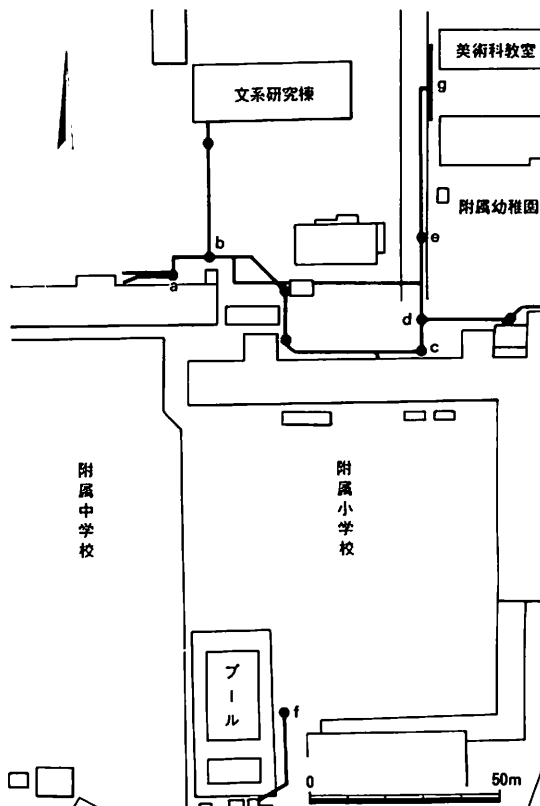


Fig.7 92-E・92-H調査地点 S=1/2000

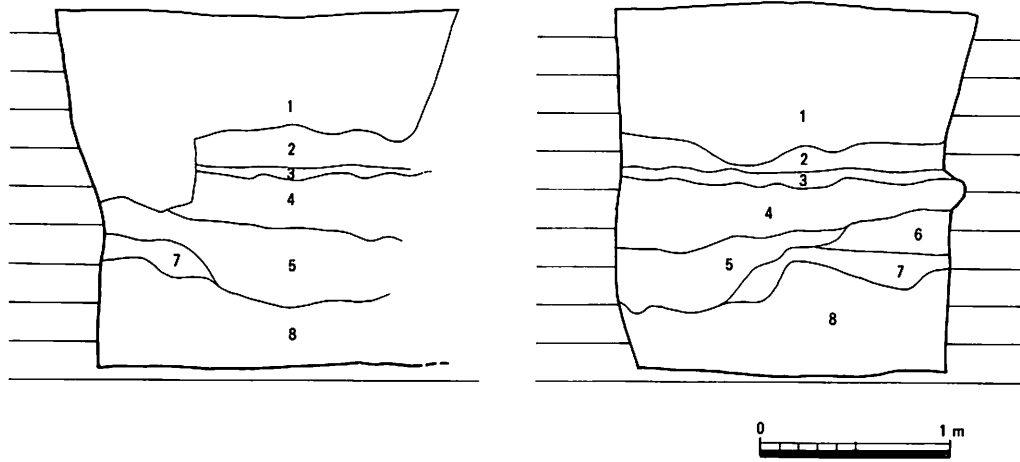


Fig.8 92-E d 地点層位断面図 S=1/40

- 2層 灰褐色，やや粘質のシルト，水田層，a 地点2層と同一層，層厚50cm
- 3層 灰色，硬くしまったシルト，層厚5～10cm
- 4層 黄色，シルト混じり砂，パミスを多く含む，層厚8cm
- 5層 灰白色，細砂層，層厚5cm
- 6層 黒褐色，泥炭層，層厚50cm

c 地点

- 1層 盛土，層厚30cm
- 2層 明黄褐色，シルト質砂，層厚20cm
- 3層 暗褐色，シルト質砂，層厚10cm

d 地点 (Fig. 8)

- 1層 盛土
- 2層 暗灰褐色，シルト質砂層
- 3層 明褐色，シルト質砂，パミスの小粒を含み鉄分が浸透している
- 4層 シルト質砂層，パミスの小粒を多く含む
- 5層 上部は4層と粗砂層との混土，遺構の埋土
- 6層 上部は明黄褐色のシルト，下部は暗黒灰色シルト，境界が不明瞭
- 7層 黒褐色，シルト質砂，軽石・礫を含む，層厚10cm
- 8層 明黄白色～黄橙色，粗砂層，軽石や礫を含む，層厚30～50cm

e 地点

- 1層 盛土，層厚80cm
- 2層 暗灰白色，粘質の砂質シルト，鉄分が少し浸透，水田層，層厚15cm

f 地点

- 1層 褐色，シルト質砂，盛土，層厚30～50cm
- 2層 黒色，シルト質砂
- 3層 黄褐色，砂層

このうち、d 地点では7・8層を掘り込んだ遺

構を検出した (Fig. 8)。5層土を埋土とし、下部に軽石を多く含んでいる。底面付近から磨滅した土器片が多く出土した。このような埋土の堆積状況から、遺構は溝状の遺構であろうと考えられ、壁の層位観察から、北東-南西方向に走っていると推定できる。時期は含まれる土器片が小片だが、古墳時代の土器であろうと推定でき、遺構も該期のものである可能性が高い。

92-H 教育学部附属小学校等屋内消火栓改修工事 (Fig. 7g・Fig. 9)

本工事では、配管埋設のため、幅60cm、深さ80cmにわたって掘削を行った。g 地点においてプライマリーな層が確認できたが、g 地点以北では盛土であった。以下、層の説明を行う。

- 1層 盛土，層厚55cm
- 2層 暗灰褐色，シルト質砂，層厚10cm
- 3層 暗灰褐色，シルト，層厚25cm

1層中より土器数点が出土した。このうち、図示できるものはFig. 9の1点である。これは、古墳時代の甕形土器の脚台で、胴部との接合部で上部を欠損している。脚は少し湾曲しながら外へ開く器形を呈する。

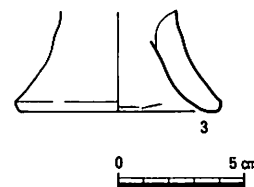


Fig.9 92-H出土遺物 S=1/3

92-F 教育学部音楽美術科棟新営電気設備  
工事に伴う立合調査 (Fig.10・Fig.11)

本工事では教育学部音楽美術科棟北側道路部分において幅1m、深さ1.3m、長さ80mほどの掘削を行った。なお、一部はマンホール埋設のため、2m四方の範囲を、深さ2mまで掘削を行った。掘削地点全域においてプライマリーな堆積が確認されたため、a～dの4地点において土層観察を行った。

a地点

- 1層 盛土および客土, 層厚82cm
- 2層 灰褐色, シルト, やや粘質で鉄分の浸透がみられる, 層厚35cm
- 3層 暗灰褐色, シルト質砂, 層厚15cm
- 4層 黒色, シルト, やや粘質, 層厚25cm
- 5層 黄褐色砂層, 層厚30cm
- 6層 灰褐色砂層

b地点

- 1層 盛土, 層厚40cm
- 2層 灰色, シルト, パミス粒を含む, 層厚30cm
- 3層 灰黄色, シルト, 鉄分の浸透がみられる, 層厚20cm
- 4層 灰色, シルト, 鉄分の浸透がみられる, 層厚10cm
- 5層 灰黄色, シルト, 鉄分の浸透がみられる, 層厚12cm
- 6層 暗灰黄色, シルト, 粘質が強い, 層厚8cm
- 7層 黒褐色, シルト, 粘質が強い, 層厚30cm
- 8層 黄白色, 粗砂

c地点

- 1層 側溝および客土, 層厚10cm
- 2層 灰褐色シルト, 粘質強く鉄分の浸透がみられる, 層厚30cm
- 3層 茶褐色 シルト, 粘質強い, 層厚20cm
- 4層 黒褐色, シルト, 層厚10cm
- 5層 黄褐色, 粗砂層

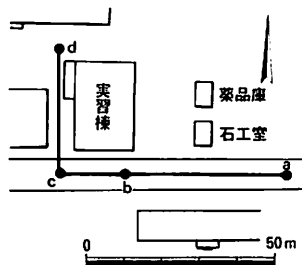


Fig.10 92-F調査地点  
S=1/2000

d地点

- 1層 盛土, 層厚90cm
- 2層 褐色, 砂混じりシルト, パミス粒みられる, 層厚15cm
- 3層 黄褐色, 砂混じりシルト, パミス粒みられる, 層厚20cm
- 4層 茶褐色, シルト

a地点の4層、b地点の7層、c地点の3・4層、d地点の4層が黒色から茶褐色を帯びる郡元団地一帯に広がる古墳時代の遺物包含層に対応するものである。本調査地点では地表下約120～135cmに位置し、盛土とこれらの層との間に水田層と考えられる層が複数層挟まれている。遺物は、b地点付近の5層中より陶磁器2点が、d地点3層中より土錘1点を出土した。遺構は検出されなかった。

土錘 (Fig.11) は、長さ3.8cm、幅1.2cmの筒状を呈する。器表はゆがんでおり、一部ハケ状の調整痕が認められる。

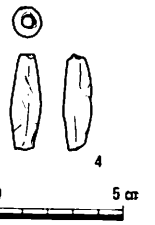


Fig.11 92-F出土  
遺物 S=1/3

92-G 中央図書館西側・北側樹木移植および撤去工事 (Fig.12)

中央図書館の増築に伴う樹木の移植のため、a～d地点で立合調査を行った。b・c・d地点ではいずれも盛土中での掘削で、埋蔵文化財への影響はなかった。

a地点では3ヶ所の、南北190cm、東西160cmの範囲を地表下80cmまでの掘削を行ったところ、表土でとどまったが、底面に水田層と考えられる灰褐色シルト質砂層が露出した。遺物は出土しなかった。

92-J 玉利ヶ池南側道路側溝改修工事に伴う立合調査 (Fig.11e・f・Fig.13)

本地点は、玉利ヶ池の南側に位置する道路側溝の改修工事に伴って掘削工事を行っているのを埋蔵文化財調査室員が発見し、急遽立合調査を行った。しかし、すでに掘削工事が終了していたため、土層の観察及び遺物の採集にとどまったものである。掘削は、幅80cm、地表下約1mにわたっている。以下、土層の説明と出土遺物の説明を行う。

e地点

- 1層 盛土, 層厚50cm

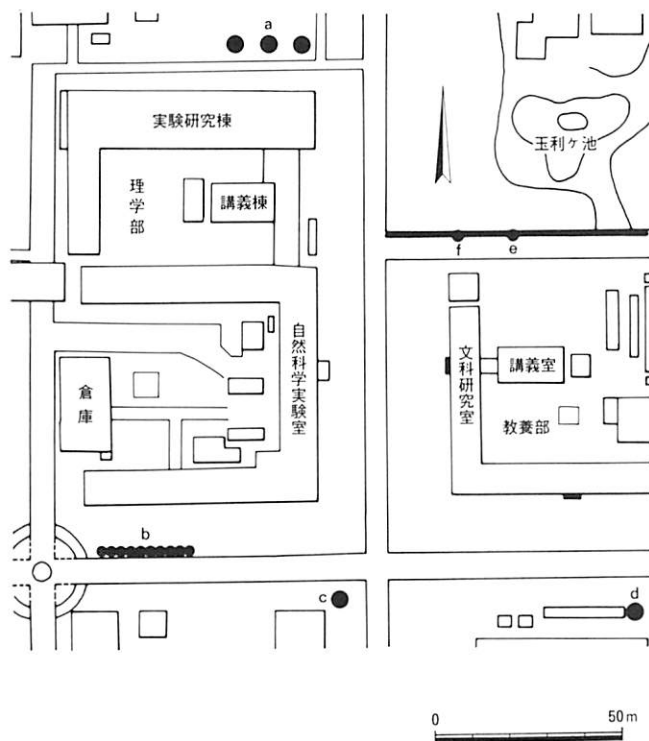


Fig.12 92-G・92-J調査地点 S=1/2000

- 2層 明灰褐色，かたいシルト質砂，層厚30cm
  - 3層 明黄褐色，砂混じりシルト質砂，層厚10cm
  - 4層 明褐色，シルト質砂，層厚10cm
  - 5層 暗褐色，シルト質砂，層厚3cm
- f 地点では、1層が地表下85cmに及び、その直下に5層が露出していた。1層は西に傾斜しているため、f 地点付近から掘削は盛土の範囲にとどまっていたと考えられる。

遺物は廃土中や掘削した断面から採集したが、遺物に付着していた土から、5層に包含されていたものであったと思われる。5・6は甕形土器の口縁部で、どちらもまっすぐあるいは少し端部を内湾させながらバケツ形に開く形態を呈するものである。7は甕の脚部である。脚部断面が三角形を呈し、低い脚台である。8～10は高坏で、いずれも外面に赤色顔料を添付している。8は杯部の口縁部

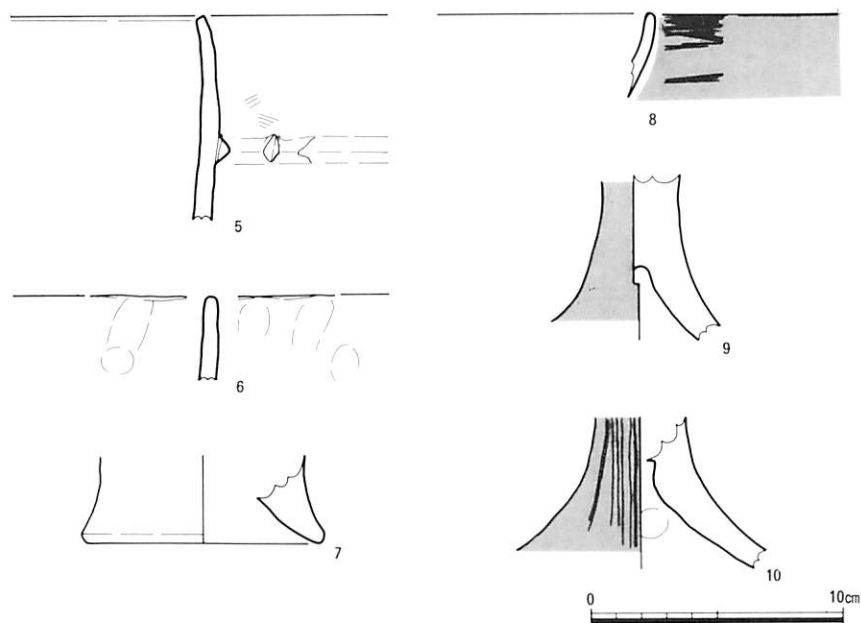


Fig.13 92-J出土遺物 S=1/3

II 平成4年度の調査報告

で、少し内湾する器形を呈する。9・10は脚の上 ぎ、5・6は笹貫式である。  
部である。7以外は、古墳時代の土器に比定で

Tab.2 平成4年度立合調査における出土遺物観察表

Fig	No	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
6	1	甕	口縁部		浅黄色2.5Y7/3.	砂粒を多く含む。石英、雲母、赤色粒、黒色粒。	ナデ	
6	2	甕	突帯		外面；褐色10YR 4/6. 内面；にぶい黄色2.5Y6/4.	砂粒を多く含む。石英、雲母、赤色粒、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ナデ？.	古墳時代の土器。外面；スス附着。内面；摩滅している。
9	3	甕	底部		褐色7.5YR4/6.	粗砂粒～細砂粒を多く含む。石英、白色粒、黒色粒。	内面；ハケ？のちナデ。他；ナデ。	弥生土器？。脚径(8.2) cm.
11	4	土錘			にぶい黄褐色10YR5/4.	細砂粒を含む。石英、白色粒、黒色粒。	ハケ状の平行のスジが認められる。	長さ；3.75cm。幅；1.2cm.
13	5	甕	口縁部	5	浅黄橙色10YR8/3.	細砂粒、微細な砂粒を含む。石英、白色粒、黒色粒。	ナデ。	古墳時代の土器。
13	6	甕	口縁部	5	外面；灰黄褐色10YR4/2. 内面；にぶい黄橙色10YR7/3.	砂粒、細砂粒を多く含む。石英、赤色粒、黒色粒。	外面；突帯付近ヨコナデ、上部ハケのちナデ、下部ナデ。内面；ナデ。	古墳時代の土器。外面；スス附着。
13	7	甕	底部		赤褐色5YR4/6.	礫、細砂粒を含む。石英、白色粒。	ナデ。	弥生土器？。脚径(9.7) cm.
13	8	高杯	杯部	5	外面；赤褐色2.5YR4/8. 内面；浅黄橙色10YR8/3.	細砂粒を少し含む。石英。	外面；横方向のミガキ。内面；ナデ。	古墳時代の土器。外面；赤色顔料貼付。
13	9	高杯	脚部		外面；赤色10R4/8. 内面；鉄分附着のため不明。	鉄分附着のため不明。	鉄分附着のため不明。	古墳時代の土器。外面；赤色顔料貼付。鉄分が全体に附着している。
13	10	高杯	脚部		外面；10R 4/6. 内面；灰色5Y4/1.	細砂粒を多く含む。石英、白色粒。	外面；縦方向のミガキ。内面；ナデ。	古墳時代の土器。外面；赤色顔料貼付。摩滅が著しい。

## Ⅲ 平成5年度調査報告

- Ⅲ. 1 調査の概要
- Ⅲ. 2 郡元団地H-11区（工学部窒素タンク建設地）における発掘調査報告
- Ⅲ. 3 教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設地における試掘調査
- Ⅲ. 4 郡元団地M・N-3・4区（水泳プール建設地）における試掘調査報告
- Ⅲ. 5 立合調査の報告



### Ⅲ. 1 調査の概要

平成5年度には、6件の本調査と2件の試掘調査、13件の立合調査を行った（Tab. 3）。

発掘調査では、93-1と93-6において古墳時代の住居跡を確認している。93-1は昨年度に引き続いて中央図書館の増築予定地を調査したもので、4軒の住居跡と4条の溝状遺構を検出した。また、93-6では、郡元団地の運動場から教育学部附属中学校の校庭の調査を行ったが、全部で11軒の住居跡を検出している。この地点検出の住居跡は少なくとも2時期の土器様式に伴うもので、集落の形態や位置の時期的な移り変わりを知る重要な資料となった。

93-4では古墳時代の包含層とされていた層から、多量の弥生時代中期から終末期の遺物が出土した。また、その層の直下から多くのピットを検出したが、この中には、1間×1間の掘立柱になるものも認められた。特に、南部九州では遺跡自体も少ない弥生時代後期の遺物が比較的多く出土しており、他地域の技法を取り入れた土器などもみられることから、該期の地域間の情報や物質の交流を探る貴重な資料といえるだろう。

92-1においても、弥生時代中期の土器が、やはり古墳時代を主体とする遺物包含層中から比較的大きな破片である程度の量が出土している。弥生時代の安定した遺物包含層が確認できたことは、遺跡の形成時期や当時の環境の解明に示唆を与えるものである。

93-5では弥生時代から古墳時代に相当すると考えられる河川跡とそれに付随する杭列が検出した。河川跡は、釘田第8地点<sup>1)</sup>、情報処理センター<sup>2)</sup>や工学部情報工学科棟<sup>3)</sup>の敷地の調査で確認されており、特に釘田第8地点では同じような杭列が出土している。これらは近世まで、何度も流路を変えていたようだが、およそ東西方向の流路上にあり、93-5はその最も東側に位置するものである。河川の埋土からは多くの土器の他、紡錘車などの石器、木製品などの多種多様な遺物が出土し、当時の人々の生活に迫れる資料であるといえる。

93-2では、中世までの複数の水田層の下に、砂層を挟んで泥炭層を検出した<sup>4)</sup>。泥炭層は放射性炭素による年代測定法によると、 $4410 \pm 90$ y.

B.P.～ $4890 \pm 90$ y.B.P.という結果を得られた。また、その層のプラント・オパール分析や樹種・種子同定によってイネが検出された。この結果は、当時の生業や環境に関して、重要な問題を含んでいるが、調査では当時の遺構・遺物は確認できず、また、郡元団地全体をみても、当時の埋蔵文化財に関する資料は出土していない状況である。この泥炭層は郡元団地に所々見受けられるもので、今後の調査で、自然科学分析を頻繁に行い、蓋然性を高めていく必要があるだろう。

試掘調査では92-3と92-7、2ヶ所の調査を行ったが、どちらの建設工事も、埋蔵文化財には影響はないという判断ができる結果であった。

立合調査は、郡元団地、桜ヶ丘団地で行われた。郡元団地では、中央図書館と教養部周辺で掘削が古墳時代の包含層に達し、その際、多量の土器が出土した。

桜ヶ丘団地では、中央機械室から看護婦宿舍まで、桜ヶ丘団地北部分の調査を行った。その結果、看護婦宿舍東側で縄文時代早期の遺物包含層を確認した。桜ヶ丘団地はもともと縄文時代から古墳時代の遺跡として知られていたが、桜ヶ丘団地の造成時にかなりの掘削が行われている。今回の調査によって、北側では縄文時代早期の層から残っていることが確認できた。

#### 註

- 1) 「第三章 鹿児島大学埋蔵文化財調査室設置以前の調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅰ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1986
- 2) 「第三章 鹿児島大学埋蔵文化財調査室設置以前の調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅰ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1986  
「付編 鹿児島大学郡元団地G・H-9・10区（電子計算機室増築地）における花粉分析結果」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅲ 昭和62年度』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1988  
「付編Ⅲ 鹿児島大学電子計算機室新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（昭和58年度 鹿児島県教育委員会調査）」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅵ 平成2年度』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1991
- 3) 「付編Ⅱ. 鹿児島大学郡元団地H-11・12区（工

Ⅲ 平成5年度の調査報告

学部情報工学科校舎建築予定地)における発掘調査報告」【鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ 平成3年度】鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1992

「付編Ⅰ. 鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-11・12区, 工学部情報工学科建設地発掘調査河2 出土遺物の紹介」【鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ

平成4年度】鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1993

4) この調査は既に平成6年11月に報告書を作成している。

【鹿児島大学構内遺跡郡元団地L-11・12区】鹿児島大学稲盛会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1994

Tab.3 平成5年度調査一覧表

調査の種類	調査No	調査・工事名	期 間	地 区
発掘調査	93-1	中央図書館増築地における発掘調査	平成5年5月13日～9月10日	郡元団地K・L-6区
	93-2	稲盛会館建設予定地における発掘調査	平成5年5月17日～9月29日	郡元団地L-11・12区
	93-4	教育学部教育実践研究指導センター建設地における発掘調査	平成5年10月12日～12月24日	郡元団地P-4区
	93-5	地域共同研究センター建設地における発掘調査	平成6年1月10日～4月19日	郡元団地H-11区
	93-6	運動場における発掘調査	平成6年1月10日～4月19日	郡元団地M～T-7～12区
	93-8	工学部液体窒素タンク建設地における発掘調査	平成6年3月23日～30日	郡元団地H-11区
試掘調査	93-3	教育学部付属養護学校日常生活訓練施設建設地における試掘調査	平成5年10月25日～11月4日	鹿児島市下伊敷一丁目10番1号
	93-7	郡元水泳プール新営工事に伴う事前の試掘調査	平成6年3月22日～25日	郡元団地M・N-3・4区
立合調査	93-A	福利厚生施設新営電気設備工事	平成5年4月1日～28日	郡元団地N-5・6, O-7区
	93-B	医学部附属病院ガス埋設管分岐部掘削調査	平成5年4月5日	桜ヶ丘団地H・I-10区
	93-C	医学部附属病院基幹設備(冷凍機設備)工事	平成5年5月13日	桜ヶ丘団地F・G-12区
	93-D	医学部附属病院看護婦宿舍改修機械設備工事	平成5年6月10日	桜ヶ丘団地H-10区
	93-F	図書館新営その他電気設備工事	平成5年7月15日～30日	郡元団地K-5・6区
	93-G	図書館新営その他機械設備工事	平成5年8月2日～6日	郡元団地K-4～6区
	93-H	教育学部教育研究指導センター新営電気設備工事	平成5年10月20日～30日	郡元団地P-5・6, Q-6区
	93-I	医学部附属病院中央機械室等新営工事	平成5年11月16日	桜ヶ丘団地G-10・11区
	93-J	郡元環境設備(電気設備)工事	平成5年11月19日～25日	郡元団地H～L-6・7区
	93-K	農学部道路舗装工事	平成5年12月6日	郡元団地E-5・6, C-6区
	93-L	稲盛会館建設に伴う電源等配線引込み管路敷設工事	平成5年12月17日	郡元団地J・K-11区
	93-O	教養部樹木移植工事	平成6年2月2日	郡元団地K-5区
	93-N	中央図書館南側掘削工事	平成6年2月17日	郡元団地L-5・6区

# Ⅲ. 2 郡元団地H-11区（工学部液体窒素タンク建設地）における発掘調査報告

## 1 調査に至る経過

鹿児島大学工学部において、液体窒素タンクの建設が計画された（Fig.3・Fig.14）。建設予定地は、弥生時代や古墳時代の土器を中心とした多量の遺物を出土した河川跡を検出した情報工学科棟<sup>1)</sup>、地域共同センター<sup>2)</sup>、情報処理センター<sup>3)</sup>の隣接地にあたり、埋蔵文化財への影響が考えられ

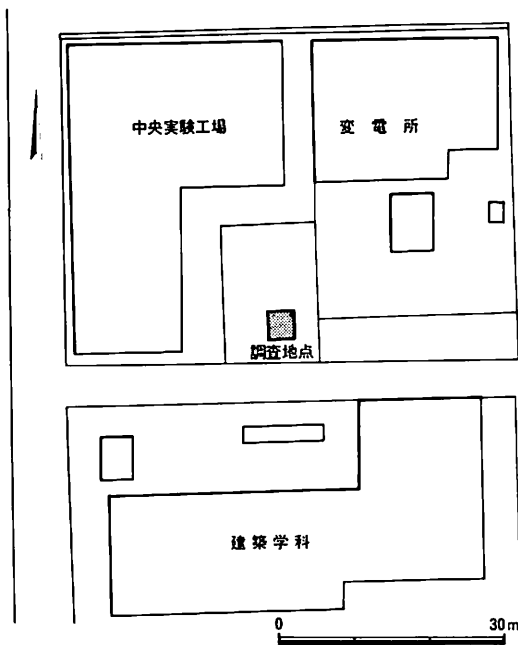


Fig.14 調査地点 S=1/1000

た。建設工事での掘削が地表下1.5 mにとどまる予定であることから、調査もこの深さまでを行うことにした。

## 2 調査体制

調査は下記の体制で、平成6年3月23日～30日まで行った。

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室長  
上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室  
中村直子

発掘調査作業員 名越ヒデ子・盛満アイ子・狩集  
エミ子・脇ツルエ・岩戸エミ子

## 3 調査の経過

調査にあたっては、タンク建設範囲に幅2 mを拡張した4 m四方のトレンチを設定した。調査は層ごとに掘削を行ったが、調査地点が緑地の築山になっていたため、基準としていた道路面から地表下1.5 mの面で掘削を終了した。層はほぼ整合的に堆積しており、遺構・遺物などは認められなかった。

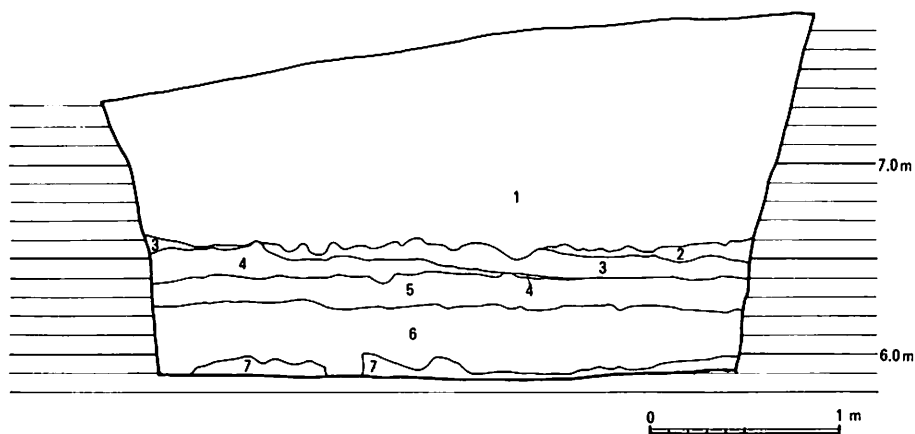


Fig.15 北壁層位断面図 S=1/40

## 4 層位

- 1層 盛土
- 2層 灰色5Y1/4, 砂質シルト, 5mm大以下の軽石粒を含む
- 3層 灰色5Y1/5, 砂質シルト, 5mm大以下の軽石粒を含む
- 4層 灰黄色2.5Y2/5, 砂質シルト, 5mm大以下の軽石粒を含む
- 5層 明黄褐色10YR8/6, シルト質砂
- 6層 灰黄褐色10YR2/6, 粗砂混じりシルト質砂, 2～3mm大の軽石を含む
- 7層 黄褐色2.5Y1/6, シルト, 粘性はなく、マンガンを含む

## 5 まとめ

今回は地表下1.5mまでの調査であったが、7つの層を確認できた。色調や鉄分などの浸透具合か

ら、複数の水田層であると考えられる。5層・6層は水平に堆積しているが、2～4層は北に傾斜している。隣接地での調査でも、上部に水田層が確認されており、それらと符合するものである。

遺物が少ないため、各層の時期を決定することができないが、6層から土師器の胴部片が1点出土している。周辺の調査でも土師器は出土しており、中世の層である可能性もある。

### 註

- 1) 「付編Ⅱ 鹿児島大学郡元団地H-11・12区(工学部情報工学科校舎建築予定地)における発掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1991
- 2) 本書Ⅲ. 1に概要を説明
- 3) 「第三章 鹿児島大学埋蔵文化財調査室設置以前の調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅰ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1986年  
「付編Ⅱ 鹿児島大学郡元団地G・H-9・10区(電子計算機室増築地)」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅲ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1988年

# Ⅲ. 3 教育学部附属養護学校日常生活訓練 施設建設地における試掘調査報告

## 1 調査に至る経過

鹿児島大学では、鹿児島市下伊敷一丁目10番1号に所在する教育学部附属養護学校内に日常生活訓練施設の建設が予定された (Fig.2)。予定地は養護学校敷地の北東隅にあたり (Fig.16)、予定地の北約150mの地点には弥生時代前期の遺物が出土した玉里遺跡が位置している<sup>1)</sup>。また、かつて試掘調査が行なわれた地点<sup>2)</sup>よりも標高が1mほど高く、自然地形がよく残っていることが予想された。以上のことから、埋蔵文化財調査室では本建設予定地において試掘調査を実施し、遺構および遺物の有無の確認をすることになった。

## 2 調査体制

試掘調査は下記の体制で平成5年10月25日か

ら11月4日まで行った。

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室長  
上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室  
大西智和・峰山いづみ

発掘調査作業員 谷村勝・岩戸トシ子・岩戸ミツ子・末吉ミヤ・末吉ナミ・末吉サチ子

## 3 調査の経過

今回の調査では、長さ5m×幅1mのトレンチを平行に2カ所設定し、西側からNo.1トレンチ、No.2トレンチとした (Fig.17)。両トレンチを同時に掘り下げたが、地表面から約2.2m掘り下げたところで、トレンチの壁面が崩れるおそれが出てきたため、重機によって幅を一部拡張した。その後、それぞれの拡張部分を掘り下げた。

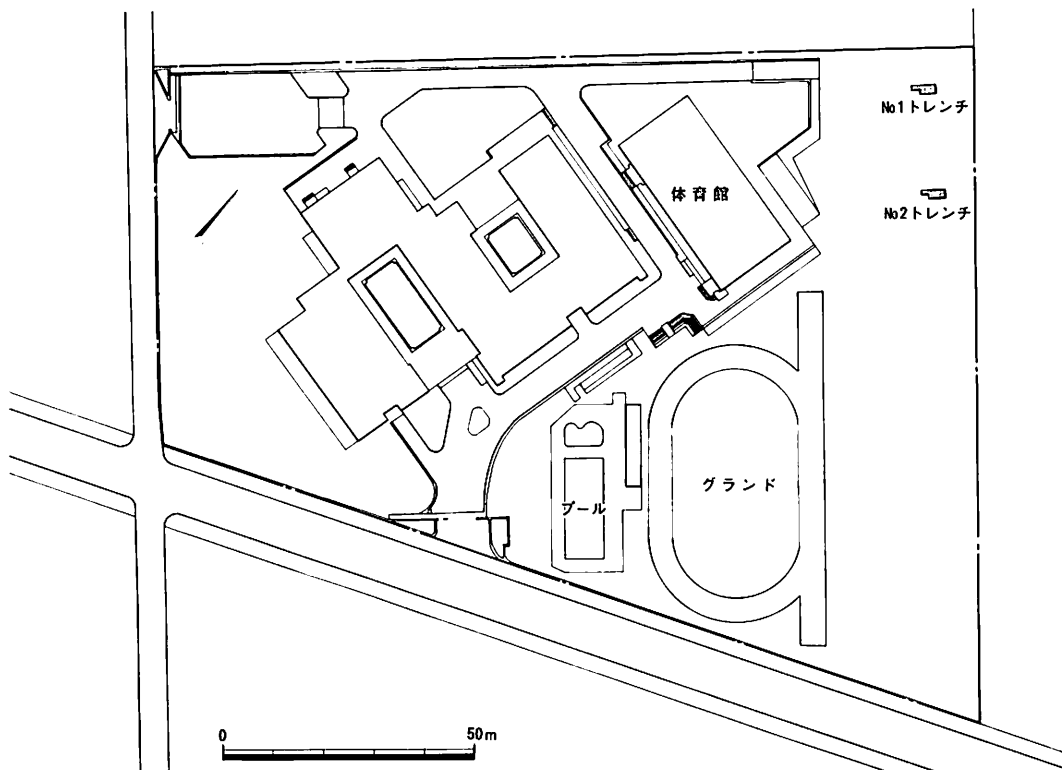


Fig.16 教育学部附属養護学校構内図 S=1/1500

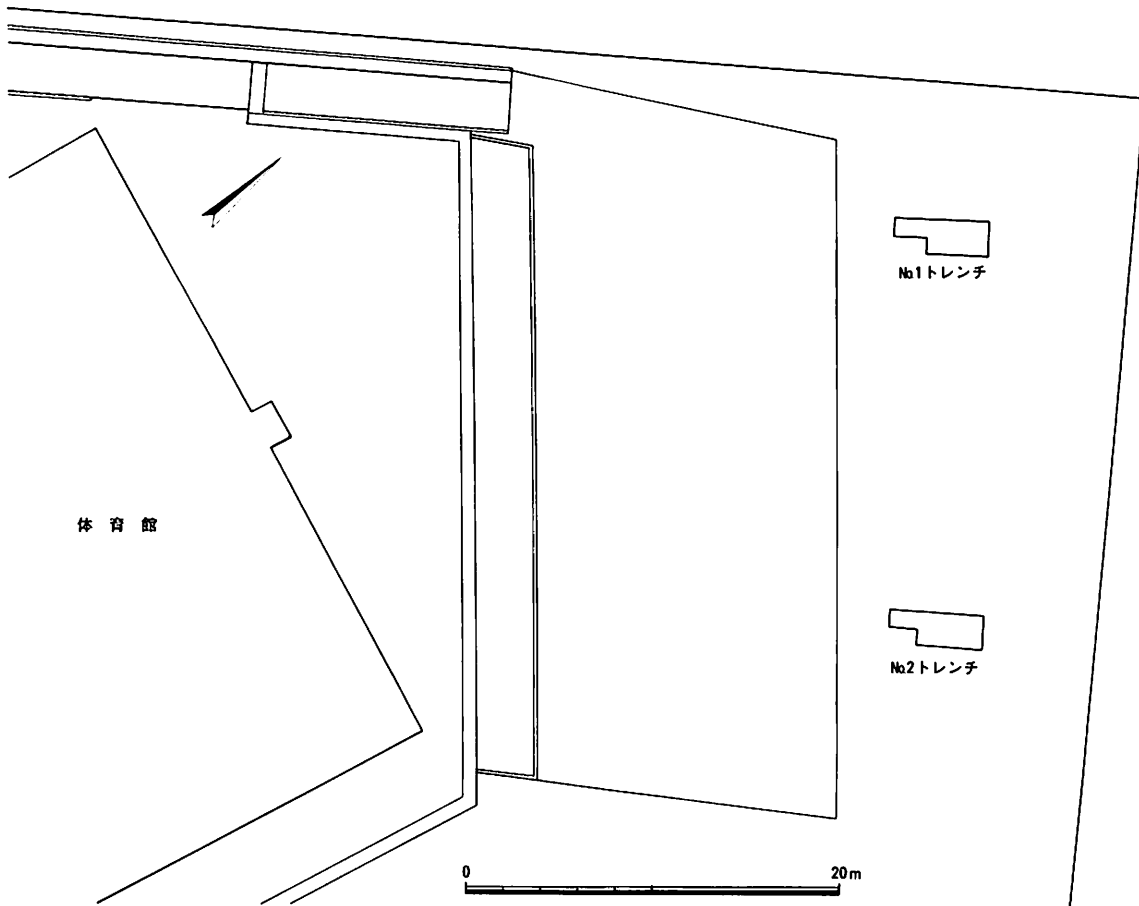


Fig.17 トレンチ配置図 S=1/400

No.1 トレンチでは地表面から約1.7m下までが客土であった。地表下約2.9mで泥炭層になり、掘り進めていくと次第に水が湧き出し、掘り下げが困難になったため、地表下約4.2mで掘り下げを中止した。ボーリングステッキで確認したところ、地表下4.7mで砂層になることがわかった。

No.2 トレンチは約1.4mの客土が見られた。地表下約2.5mで泥炭層になり、掘り進めていくとNo.1 トレンチと同様に、次第に水が湧き出し、掘り下げが困難になってきたため、地表下約3.6mで掘り下げを中止した。

いずれのトレンチからも遺構は検出されなかった。

トレンチ壁面の写真撮影、層位断面図を作成した後、埋め戻しを行ってすべての作業を終了した。

## 4 層位 (Fig.18)

### No.1 トレンチ

地表下約4.2mまで掘り下げた。1層は表土、2～4層は客土、5・6層は水田層、9～23層は

泥炭層である。泥炭層はいずれの層もアシやヨシと思われる葉や茎を含んでいる。

以下に各層についての概要を述べる。

- 1層 表土層（耕作土）、褐灰色（5YR4/1）を呈する。
- 2層 客土、にぶい黄褐色（10YR4/3）を呈する砂質土をベースとし、2～3cm大の黄橙色の粒子、こぶし大までの黒褐色粘土、1～2cm、まれに5cm大のパミス、貝殻を含む。非常に堅くしまっている。
- 3層 客土、灰色（5Y4/1）を呈する砂層で、1～2cm大までのパミスを含む。
- 4層 客土、にぶい黄色（2.5Y6/3）を呈するシルスをベースとし、灰～暗灰色の粘土、1cm大のパミスを含む。
- 5層 オリーブ黒色（7.5Y3/1）を呈する砂～シルト質のやや粘性のある層で、1～2cm大のパミスを含む。水田層と考えられる。
- 6層 灰黄褐色（10YR4/2）を呈する細砂～シルト層。2cm大までのパミスを含み、やや堅い層である。水田層と考えられる。
- 7層 黄灰色（2.5Y4/1）を呈する細砂～シルト

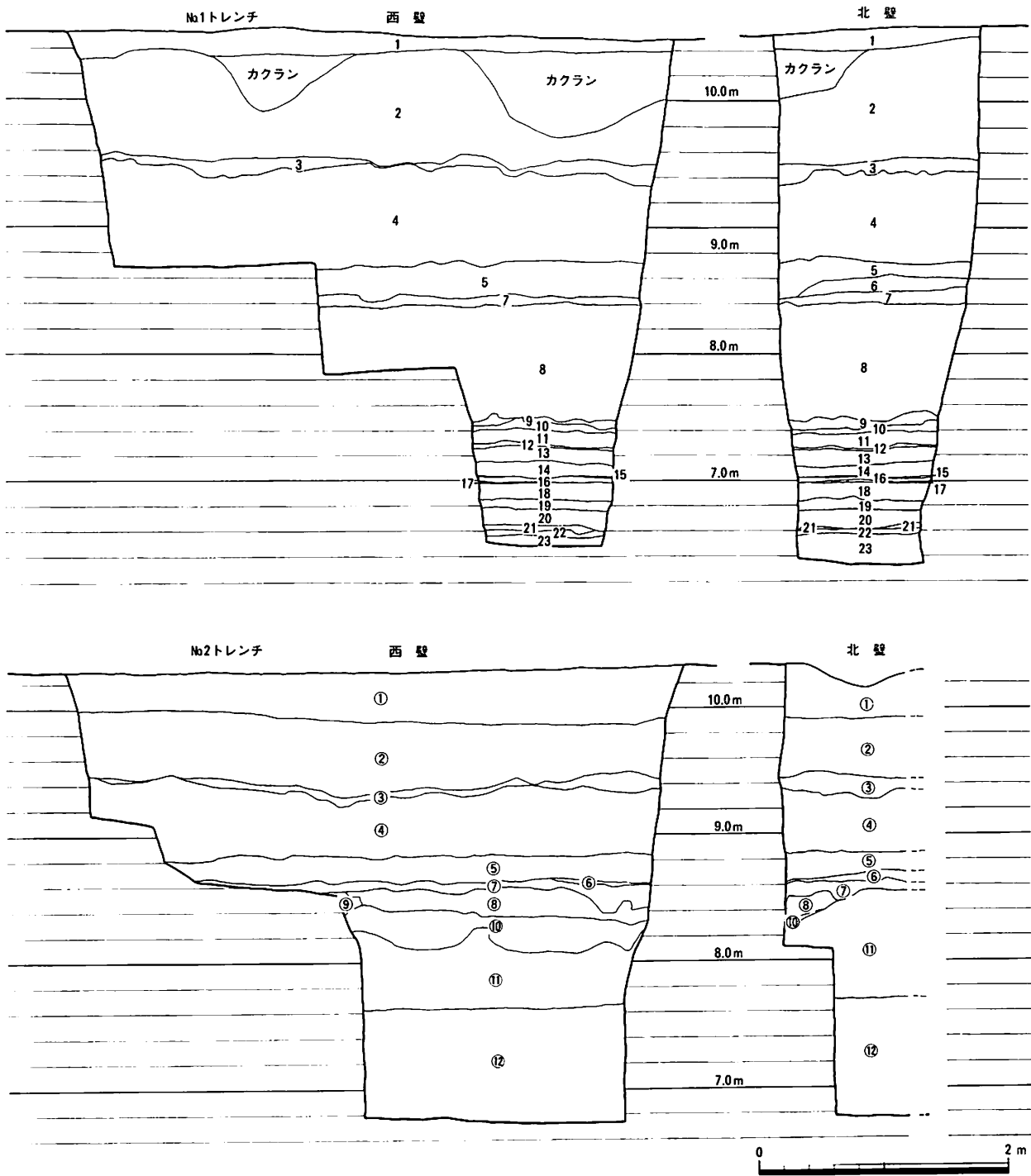


Fig.18 層位断面図 S=1/50

- 質のやや粘性がある層である。2 cm大までのパミスを含む。
- 8層 黒褐色 (2.5Y3/2) を呈する細砂～シルト質のやや粘性がある層である。2 cm大までのパミスを含む。
- 9層 泥炭層で、オリーブ黒色 (5Y3/1) を呈する。
- 10層 泥炭層で、灰色 (5Y5/1) を呈し、細砂を

- 含む。
- 11層 泥炭層で、オリーブ黒色 (5Y3/1) を呈する。
- 12層 泥炭層で、灰色 (5Y6/2) を呈し、細砂を含む。
- 13層 泥炭層で、黒色 (5Y2/1) を呈する。
- 14層 泥炭層で、オリーブ黒色 (5Y3/2) を呈する。

- 15層 泥炭層で、灰色 (5Y5/2) を呈し、細砂を含む。
- 16層 泥炭層で、オリーブ黒色 (5Y3/1) を呈する。
- 17層 泥炭層で、灰オリーブ色 (5Y5/2) を呈し、細砂を含む。
- 18層 泥炭層で、黒色 (5Y2/1) を呈する。
- 19層 泥炭層で、灰色 (5Y6/2) を呈し、細砂を含む。
- 20層 泥炭層で、オリーブ黒色 (5Y3/1) を呈する。
- 21層 泥炭層で、灰オリーブ色 (5Y5/2) を呈し、細砂を含む。
- 22層 泥炭層で、オリーブ黒色 (5Y3/1) を呈する。
- 23層 泥炭層で、灰オリーブ色 (5Y4/2) を呈する。

#### No. 2 トレンチ

地表面から約3.6mまで掘り下げた。地表面から2.2mのところまで水没したため、それよりも下の実測はできなかったが、No. 1 トレンチと同様、泥炭層が検出された。

以下に各層の概要を述べるが、①層～④層まではNo. 1 トレンチの1～4層と一致するため省略する。

- ⑤層 黄灰色 (2.5Y4/1) を呈するシルト質でやや粘性がある層である。水田層と考えられる。下部にはやや赤みを帯びた粗砂も見られる。No. 1 トレンチの5層に対応する。
- ⑥層 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) を呈するシルト～砂層で、1～2cm大のパミスを含む。水田の床土と考えられる。No. 1 トレンチの6層に対応する。
- ⑦層 黄灰色 (2.5Y5/1) を呈するシルト質で、やや粘性のある層である。1cm大までのパミスを含む。
- ⑧層 褐色 (10YR4/1) を呈するシルト～細砂層で、シルト質の部分は粘性がある。5mm大のパミスを含む。
- ⑨層 暗灰黄色 (2.5Y5/2) を呈する細砂層であるが場所によって若干色が異なっている。
- ⑩層 灰黄褐色 (10YR4/2) を呈する粗砂層であるが、下部には赤みがかった部分も見られる。
- ⑪層 暗灰黄色 (2.5Y4/2) を呈する粘土層を

ベースとし、黒褐色・黄褐色の粘土をブロック状に含む。1～2cm大くらいまでのパミスを含む。

## 5 遺物

遺物として土器などがごく少量出土している。土器についてはいずれも小破片で摩滅しているものがほとんどである。Fig.19はNo. 2 トレンチ⑤層から出土した陶器の甕の口縁部である。口縁部上面は水平な面を持ち、端部は若干丸みを帯びて外方に突出している、内面の端部も内側に若干突出している。外面には、オリーブ黒色 (7.5YR2/2) の不透明釉がかかけられており、口縁部上端面は無釉である。内面は横方向のカキメが施され、部分的に釉がかかっている。器肉の色調は赤色 (10Y5/7) で、胎土には砂粒、白色粒子を多く含んでいる。

その他に、No. 1 トレンチの2層から牛乳瓶の破片、4層からガラス瓶の破片、土器片2点、5層から土器片5点、瓦片2点、葉きょう1点 (PL. 4-2)、8層から土器片1点が出土している。

No. 2 トレンチでは、④層から土器片1点、瓦片2点、⑤層から土器片1点、『君ふ代』と書かれたガラス瓶 (PL. 4-3) が出土している。

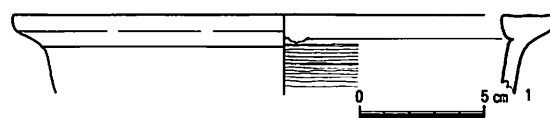


Fig.19 出土遺物 S=1/3

## 6 まとめ

本調査地点は、弥生時代前期の玉里遺跡に近接しているため、同時期の包含層の存在が想定された。しかし、本試掘調査では近～現代の水田層を確認したものの、その下は水性作用などによる二次堆積層と、泥炭層であり、遺物の出土は非常に少なく、それらの層の形成年代を知ることはできなかった。また、両トレンチにおいて遺構を検出することはできなかった。



註

- 1) 麻生孝行「有溝の石庖丁」『鹿児島県考古学会紀要』2、1952
- 2) 「第Ⅱ部 第3章 鹿児島大学教育学部附属養護学

校校舎建設予定地における試掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅵ 平成2年度』鹿児島大学埋蔵文化財調査室、1991

# Ⅲ. 4 郡元団地M・N-3・4区（水泳プール建設地）における試掘調査報告

## 1 調査に至る経過

鹿児島大学では、教育学部の東側に水泳プールの建設が計画された。予定地周辺では、釘田第6地点<sup>1)</sup>、郡元団地N・O-5区<sup>2)</sup>の発掘調査を行っており、水路や溝状遺構を検出している。このため、プール予定地でもこれらに類似した状況であることが予想され、埋蔵文化財調査室では試掘調査を実施した。

## 2 調査体制

調査は平成6年3月22日～25日まで下記の体制で行った。

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室長  
上村俊雄

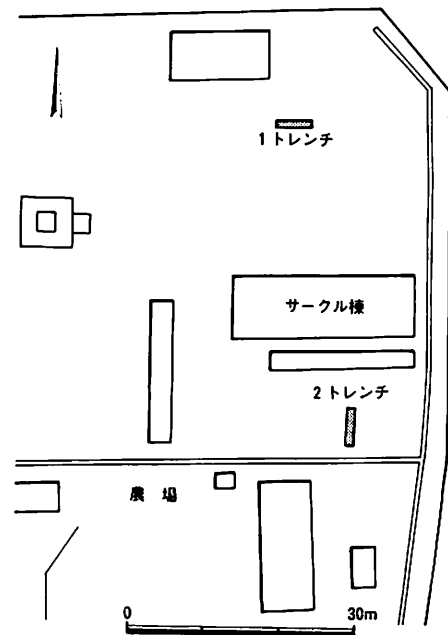


Fig.20 トレンチ配置図 S=1/1000

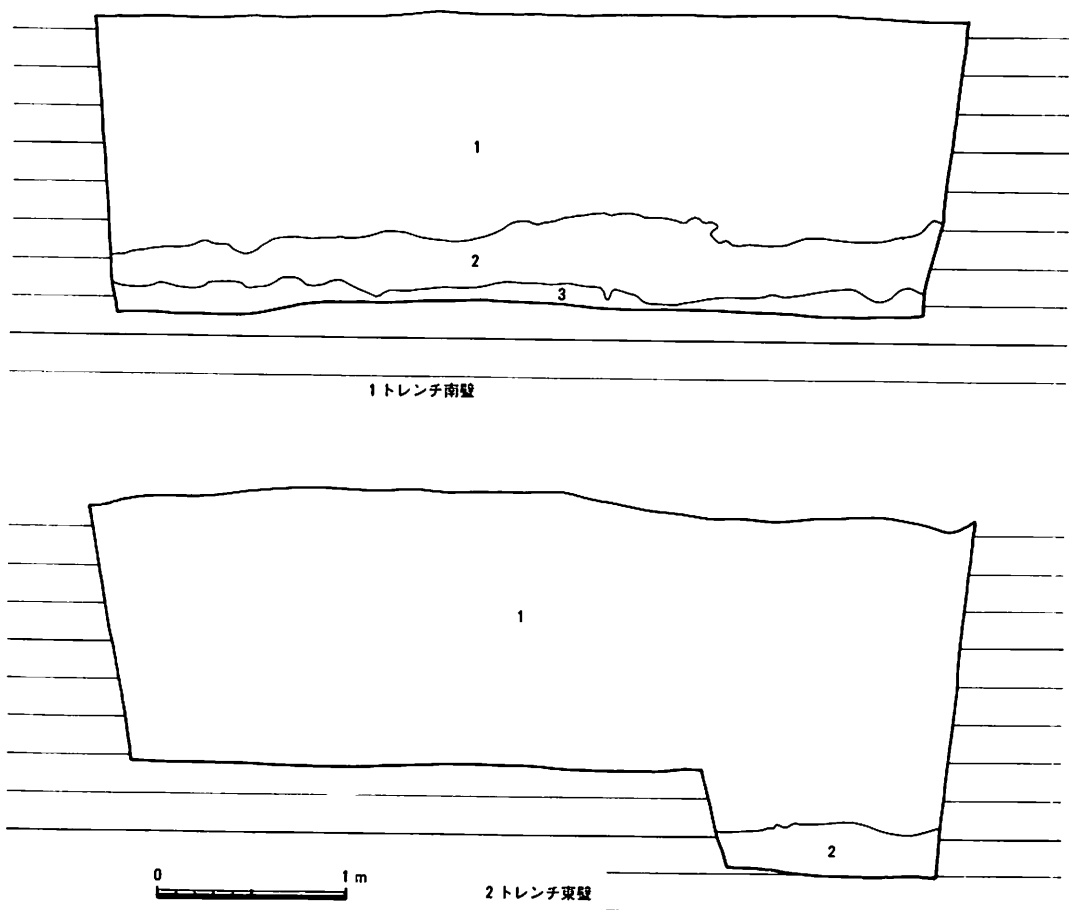


Fig.21 層位断面図 S=1/40

調査担当 鹿兒島大学埋蔵文化財調査室  
 室員 中村直子  
 発掘調査作業員 寺光ミツ子・安部松伊都子・増  
 満ミエ子・請園チリ・請園アキエ・西村チエ  
 子・池口洋人・陣内高志

3層 暗灰黄色2.5Y4/2, 粗砂, 軽石を含む  
 2層は郡元団地に広がる古墳時代を主体とする  
 遺物包含層と同一層であるが、1トレンチ、2ト  
 レンチとも遺物はこの層からは出土しなかった。

### 3 調査の経過

建設予定の範囲のうち、北側と南側にそれぞ  
 れ、1トレンチ、2トレンチを設定した  
 (Fig.20)。1トレンチは東西5m、南北1m  
 で、2トレンチは東西1m、南北5mである。両  
 トレンチを並行して層ごとに掘り下げ作業を行っ  
 た。1層が非常に厚く、その直下に古墳時代の遺  
 物包含層と対応すると思われる2層を検出した  
 が、1層・2層ともに遺物はほとんどなく、砂層  
 まで達したところで層位断面図を作成し、作業を  
 終了した。

### 4 層位 (Fig.21)

1トレンチ、2トレンチとも層の堆積状況は同  
 じであった。以下、層について説明を行う。

- 1層 1トレンチ：砂利層および盛土，2トレン  
 チ：耕作土  
 2層 黒色5YR1.7/1，シルト，下部は砂混じり  
 で、色も薄い

### 5 まとめ

今回の調査では、地表下約1～1.5mまでは現代  
 の攪乱を受けており、プライマリーな層はそれ以  
 下から検出した。しかし、古墳時代の包含層と同  
 一であると考えられるこの層も、本地点では無遺  
 物層であった。平成3年に発掘調査を行った音楽  
 美術科棟建設地の発掘調査結果<sup>3)</sup>をみると、2層  
 と同一の層が、東に傾斜しており、東ほど遺物の  
 量は少なかった。これらのことから、本地点では  
 安定した遺跡は形成されていないと考えられる。  
 ただし、約70m北方に位置する法文学部ではこの  
 層から遺物が出土しており、遺物が包含される範  
 囲に注意する必要がある。

#### 註

- 1) 松永幸男・坪根伸也編「第三章 鹿兒島大学埋蔵文  
 化財調査室設置以前の調査」『鹿兒島大学埋蔵文化  
 財調査室年報Ⅰ 昭和60年度』鹿兒島大学埋蔵文化  
 財調査室 1986
- 2) 「付編Ⅲ. 鹿兒島大学工学部機械工学科校舎建設に  
 伴う埋蔵文化財発掘調査報告」『鹿兒島大学埋蔵文  
 化財調査室年報Ⅱ』鹿兒島大学埋蔵文化財調査室  
 1987
- 3) 本書付編Ⅰに調査報告を掲載

## Ⅲ. 5 立合調査の報告

平成5年度では、10件の工事に伴い、立合調査を実施した。ここでは、隣接した調査地点ごとに調査結果を記載する。

### 93-A 福利厚生施設新営電気設備工事 (Fig.22 a～c)

教育学部第2体育館と教育学部校舍間の道路部分、教育学部文系研究棟の西側を幅60cm、深さ120cm、長さ100cmにわたって掘削を行った。以下、土層の観察結果を記す。

#### a 地点

- 1層 アスファルトおよび客土，層厚5cm
  - 2層 灰黄色，シルト，パミス小粒少量含む，層厚40cm
  - 3層 黄褐色，シルト，鉄分の浸透がみられる，層厚25cm
  - 4層 淡黄褐色，シルト，鉄分の浸透がみられる，層厚15cm
  - 5層 黒色，シルト，層厚35cm
- 2～4層は水田層と思われる。5層は、郡元団

地一帯に広がる古墳時代の遺物を主体とする遺物包含層に対応すると思われるが、本地点では非常に粘質の層で、遺物は出土しなかった。

#### b 地点

- 1層 客土（シラス），層厚60cm
  - 2層 灰褐色，炭混じりの砂質土層，2～3cm大の軽石を含む，層厚10cm
  - 3層 灰褐色，シルト質砂層，2～3cm大の軽石を含む，層厚10cm
- 3層は水田層の可能性が考えられる。

#### c 地点

- 1層 客土，層厚90cm
  - 2層 黄灰褐色，シルト質砂，1cm大の軽石を含む，層厚10cm
- 2層は水田層の可能性が高い。

### 92-H 教育学部教育研究指導センター新営電気設備工事に伴う立合調査 (Fig.22 d～f)

本工事は、教育学部文系研究棟から音楽美術科棟の南側を東西方向に幅50cmにわたって掘削を行った。以下、地点ごとに層位の説明を行う。

#### d 地点

- 1層 盛土，層厚70cm
- 2層 暗褐色，砂質シルト，黄色パミスを多く含む，粘質

#### e 地点

- 1層 客土，層厚50cm
- 2層 暗灰黄色（2.5YR5/2），砂まじりシルト，層厚4cm
- 3層 灰黄褐色（10YR4/2），砂まじりシルト，層厚11cm
- 4層 10YR2/2，黒褐色シルト，層厚27cm
- 5層 砂層，層厚30cm

#### f 地点

- 1層 客土，層厚50cm
- 2層 e地点2層に同じ，層厚5cm
- 3層 黄褐色（2.5YR5/4），砂まじりシルト，層厚8cm
- 4層 暗黄褐色（10YR6/8），粗砂まじりシルト

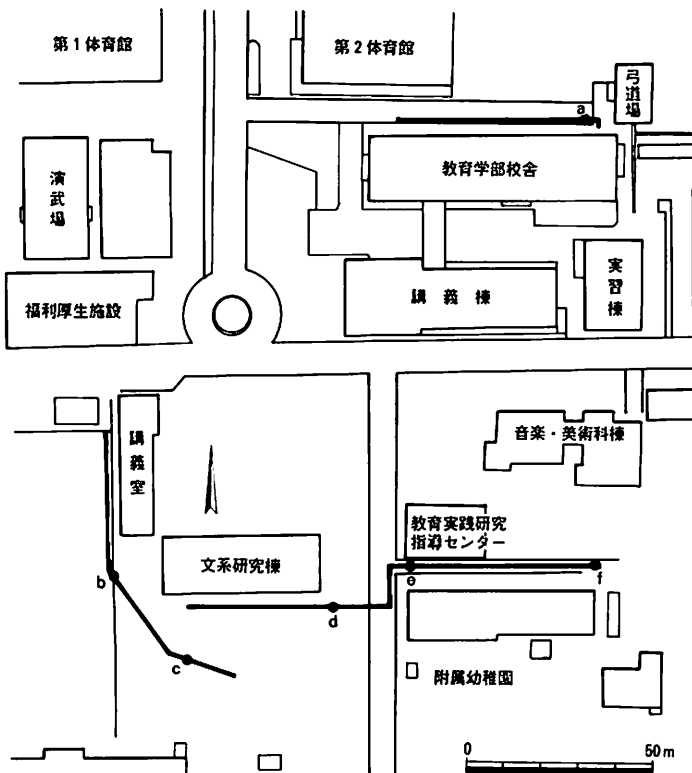


Fig.22 93-A・93-H調査地点 S=1/2000

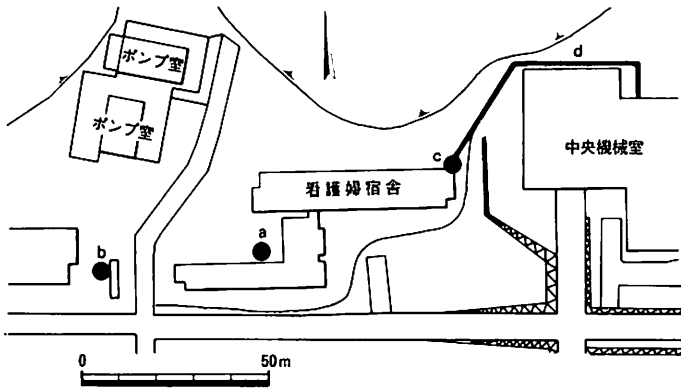


Fig.23 93-B・93-C調査地点 S=1/2000

ト, 層厚14cm

5層 e地点4層に同じ, 層厚24cm

6層 砂層 層厚40cm

5層上面から溝状の遺構が掘り込まれ、南西から北東方向に走っている。埋土は4つに分層でき、上から①黄褐色砂層7cm、②鉄分が固まった硬い層2cm、③暗褐色砂層20cm、④5層土18cmである。

### 93-B 医学部附属病院ガス埋設管分岐部掘削工事 (Fig.23 a・b・Fig.24)

本工事においては、看護婦寮東側および寄宿舍西側の2地点を1m×1m、深さ0.9~1.3mにわたって掘削を行った。調査の結果、2地点ともプライマリーな層の堆積が同じような状況で確認された。以下、堆積状況の説明を行う。

1層 攪乱および客土, 層厚40cm

2層 明茶褐色, 0.5~1cm大のパミスを含み粒子細かい, 層厚40cm

3層 明茶褐色, シルト, 1cm大のパミスをまばらに含む, 層厚30cm

4層 明黄褐色, 粗砂, 1cm大のパミスを多量に含む

2層はアカホヤ火山灰、4層は薩摩火山灰である。4層は相当厚く堆積しているものと思われ、その下限は確認できなかった。また3層は、平成元年度にMRI-CT棟建設地において行った発掘調査<sup>1)</sup>の際に確認した縄文時代早期の遺物包含層と

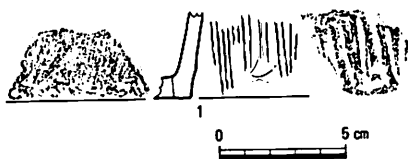


Fig.24 93-B出土遺物 S=1/3

同一層にあたると思われる。

また、A地点においては1層中ではあるが、貝殻文円筒系土器の底部が1点出土した (Fig.24)。平底で、底面から直線的に立ち上がる器形を呈し、外面には貝殻条痕を施している。底部の断面に接合痕が認められる。

### 93-C 医学部附属病院基幹設備 (冷凍機設備) 工事 (Fig.23 c・d)

本工事においては看護婦寮北側斜面および中央機械室北側を幅0.7~0.8m、深さ0.8~1.4m、総延長70mにわたって掘削を行った。以下、土層の観察結果を記す。

#### c地点

1層 盛土, 層厚30cm

2層 アカホヤ層, 層厚5cm

3層 黒褐色, 黄色パミスを含む, 層厚10cm

4層 薩摩火山灰層, 層厚100cm

5層 チョコ層

2層および3層は斜面の上部においてのみ検出された。3層は、縄文時代早期の遺物包含層である。

#### d地点

30~50cmの客土の下から、c地点の5層の一部およびシラスが堆積しているのを確認した。

中央機械室は看護婦寮より数メートル下がった場所に位置するが、造成の際にシラスに達するまで掘削されたものと思われる。今回の調査においては、遺物・遺構等は検出されなかった。

### 93-F 図書館新営その他電気設備工事に伴う立合調査 (Fig.25 a~d・Fig.26)

教養部研究棟の南側緑地帯を幅80cm、深さ60~120cmにわたって掘削を行った。本地点周辺は郡元団地内でも埋蔵文化財の包含される密度が最も高いところである。掘削工事を行ったところ、やはり古墳時代を主体とする包含層が露出した。以下、観察地点ごとに土層の説明を行う。

#### a地点

1層 盛土, 層厚40cm

2層 灰白色, シルト質砂, 層厚15cm

3層 褐色がかった灰色, シルト質砂, 鉄分浸透, 層厚8cm

4層 黄灰色, シルト質砂, 鉄分浸透, 層厚15cm

5層 灰白色, シルト, 鉄分浸透, 層厚12cm

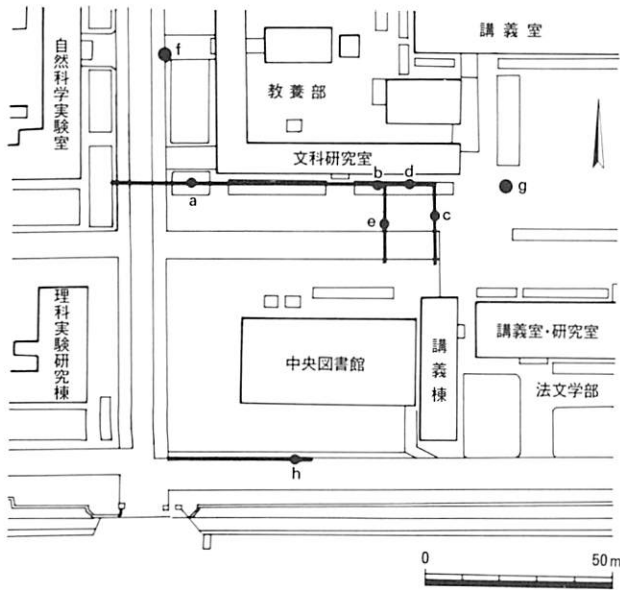


Fig.25 93-F・93-G・93-J・93-O・93-N調査地点 S=1/2000

6層 黒褐色，シルト，層厚10cm

**b地点**

1層 盛土，層厚20cm

2層 灰色，シルト質砂，層厚25cm

4層 黄灰色，シルト質砂，層厚35cm

6層 黒褐色，シルト，層厚20cm

**c地点**

1層 盛土，層厚95cm

6層 黒褐色，層厚35cm

2～5層は水田層であると考えられる。6層は古墳時代を主体とする遺物包含層で、土器が数点出土した。

**d地点 (Fig.26)**

この地点では6層下の砂層まで掘削が及んでおり、断面に砂層を掘り込んだ遺構を確認した。

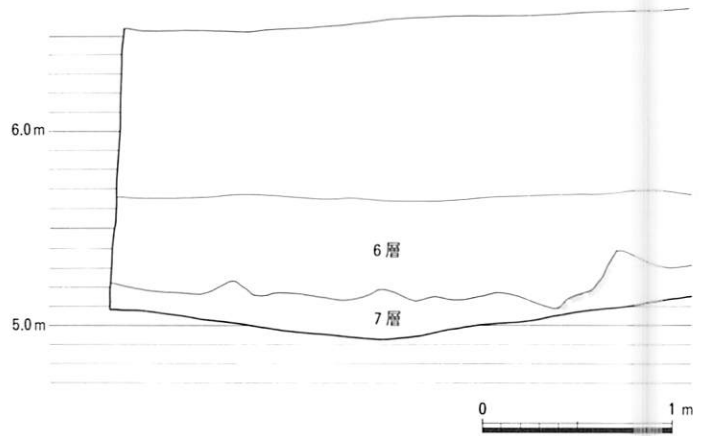


Fig.26 93-F d地点南壁層位断面図 S=1/40

周囲の発掘調査例から古墳時代の住居跡の可能性が高く、5層以下のみの土層断面図を作成した。

6層はふかふかして軟らかく、上層との境界付近10cm幅に土器片が集中していた。断面図の網掛けをした部分はおそらく遺構の立ち上がり部分と考えられ、東側の6層の最下部には1cm大の炭が所々に見受けられた。このような状況から、遺構は住居跡と考えられる。

**93-G 図書館新営その他機械設備工事に伴う立合調査 (Fig.25 e・Fig.27)**

本工事では、教養部研究棟の南側緑地帯と道路を横切って、幅80cm、深さ95cmにわたって掘削を行った。e地点において土層の観察を行ったが、93-F図書館新営その他電気設備工事に伴う立合調査のb地点の層の堆積状況とほとんど同じであった。ただし、本調査では、遺物が多く出土した。

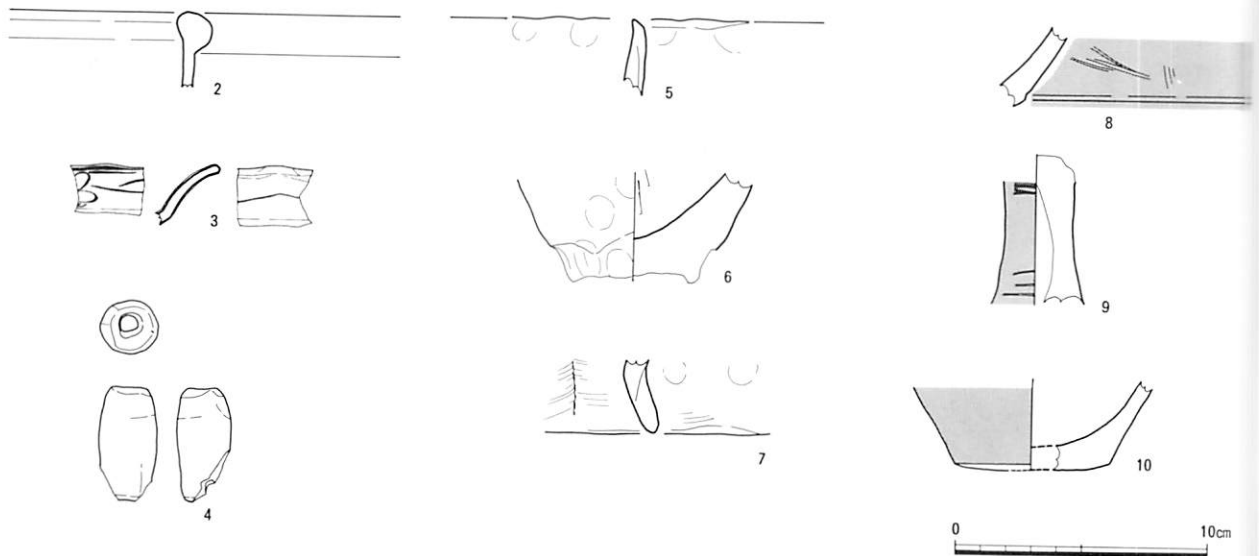


Fig.27 93-G出土遺物 S=1/3

遺物はいずれも廃土中より採集したもので、出土した層は不明である。2は陶器の口縁部で、器種は不明である。玉縁状の器形を呈する。3は青磁の皿である。口縁部は緩やかな波状を呈し、胴部は屈曲する。内面に草花文であると考えられる文様が施されている。4は土錘である。筒状を呈し、端部が少し欠損している。

5から10は古墳時代の土器である。5から7は甕形土器である。6は体部と脚部との接合部で欠損しており、接合のためにつけたユビオサエの凹凸が明瞭に残っている。8・9は高坏で、両方とも外面に赤色顔料を添付している。10は埴形土器の底部で、体部立ち上がりには明瞭な稜線を持ち、少し膨らむ底面である。これも、外面に赤色顔料を添付している。

93-J 郡元環境設備（電気設備）工事  
(Fig.25 f・Fig.28)

工事は教養門入り口から農学部に至る南北方向の長さ約350mの道路沿いの部分において照明柱部分で150cm、配管部分で60~70cmほどの掘削

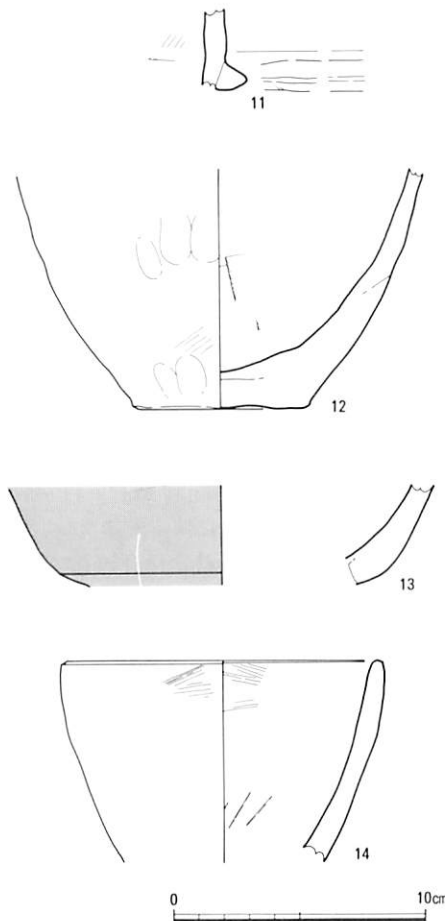


Fig.28 93-J出土遺物 S=1/3

を11カ所行った。このうち、照明柱部分においては掘削が包含層中にまで及んだ地点がf地点である。以下、その説明を行う。

f 地点

- 1層 コンクリート及び客土、層厚40cm
- 2層 黄褐色2.5Y5/4、砂混じりシルト、パミスを含む、層厚15cm
- 3層 灰黄褐色10YR4/2、シルト質砂、パミスを含む、層厚8cm
- 4層 黒褐色10YR2/2、シルト、層厚38cm
- 5層 黒色5YR1.7/1、シルト、まれに3~5cm大のパミスを含む、層厚30cm
- 6層 砂層、層厚80cm

4層中より土器数点を出土した。そのうち、図化できるものについて説明を行う (Fig.28)。

いずれも古墳時代の土器である。11は甕形土器の突帯部である。突帯は断面三角形を呈するが、シャープな作りではなく、下部が少し膨らんでいる。12は平底を呈する壺の底部である。底面や器表は少しゆがんでおり、弥生時代の壺の平底と比べると、調整が粗雑で、立ち上がりも急であることから、古墳時代のものと判断した。13は高坏の杯部で、接合部で下部は欠損し、外面に赤色顔料が付着している。14は埴形土器の口縁部である。少し内湾気味に立ち上がる器形を呈し、口縁部の長さから大型の埴形土器であると考えられる。

93-O 教養部樹木移植工事に伴う立合調査  
(Fig.25 g・Fig.29)

教養部では、講義棟南の中庭に銀杏の移植を行い120×160cmの範囲を深さ1mにわたって掘削した。以下、土層の説明と出土した遺物の説明を行う。

- 1層 盛土、層厚60cm
- 2層 褐色10YR4/4、砂混じりシルト、パミスを多く含む、層厚20cm
- 3層 黒褐色7.5YR3/1、シルト、軽石礫を含む、層厚20cm

3層は、上面に土器片が多く集中して含まれていた。ただし、土器片は小片が多く、その中で図化できたのはFig.29のみである。15は古墳時代の

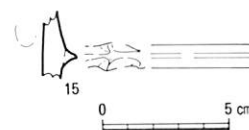


Fig.29 93-O出土遺物 S=1/3

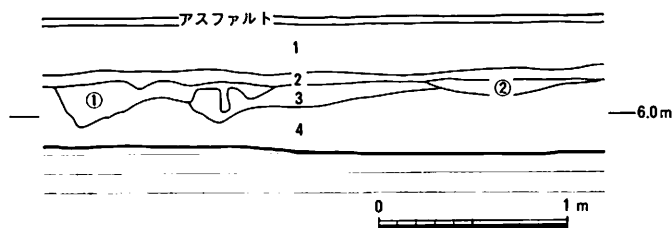


Fig.30 93-N北壁層位断面図 S=1/40

甕形土器で、胴部の絡縄突帯である。

93-N 中央図書館南側掘削工事に伴う立合調査 (Fig.25 h・Fig.30・Fig.31)

工事は中央図書館南側を東西に走る道路沿い部分で幅1~1.5 m、深さ0.7~0.8 m、長さ約40 mの掘削を行った。本地点では平成4年度の中央図書館増築予定地の調査<sup>2)</sup>から、古墳時代を中心とした遺物・遺構等の存在が確認されており、それらへの影響が考えられた。掘削地東側南壁および北壁においては、3層に掘り込まれたほぼ南北方向に流れる溝が2条検出された。これらの溝は平成4年度の中央図書館南側増築予定地の発掘調査の際に検出された溝に続くものと思われ、南壁の土層断面図を作成した (Fig.30)。

- 1層 客土
- 2層 灰色10Y5/1, シルト
- 3層 にぶい黄褐色10YR4/3, シルト, 明褐色7.5YR5/8の鉄分浸透がみられる
- 4層 黒色7.5YR2/1, シルト, 粘質
- ①・② 明褐色7.5YR5/8, 粗砂, パミスを含む  
4層中より土器が出土した (Fig.31)。口唇部を欠損しているが、口縁部が上向きになっており、弥生時代中期の甕形土器だと考えられる。

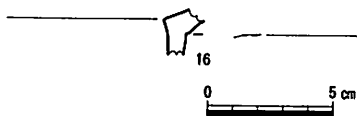


Fig.31 93-N出土遺物 S=1/3

93-L 稲盛会館建設に伴う電源等配線引込み管路敷設工事 (Fig.32)

工事は稲盛会館建設予定地東側の道路, 工学部管理棟北側道路および海洋土木工学科西側花壇を幅70 cm, 深さ80~170 cm, 長さ40 mにわたって掘削を行った。ほとんどの部分でプライマリーな層が確認された。土層は隣接する稲盛記念会館建設予定地 (平成5年度調査) の6 a~13層に対応する<sup>3)</sup>。遺物および遺構等は検出されなかった。

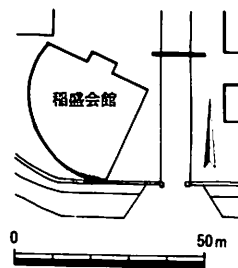


Fig.32 93-L調査地点 S=1/2000

註

- 1) 「第II部 第2章 鹿児島大学宇宿団地E-8・9区における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報V 平成元年度』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1989
- 2) 本書II. 1に概要を掲載
- 3) 「鹿児島大学構内遺跡郡元団地L-11・12区 - 鹿児島大学稲盛会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-」鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1994



Tab. 4 平成5年度立合調査における出土遺物観察表

Fig	No	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
24	1	深鉢	底部	カクラン	外面；橙色7.5YR6/6. 内面；体部黄灰色2.5Y4/1, 底部 浅黄色2.5Y7/4.	礫粗砂粒～細砂粒を含む。白色粒, 石英, 黒色粒.	外面；貝殻条痕。内面・底面；ナデ.	縄文土器.
27	2	鉢?	口縁部	カクラン	透明釉, 灰白色7.5Y7/2に類似。貫入あり。胎土；灰白色5Y7/2に類似.	微細な砂粒を少し含む.	施釉.	陶器.
27	3	皿?	口縁部	カクラン	透明釉, オリーブ灰10Y5/2に類似。胎土；灰白色10Y7/1.	黒色の微細な砂粒を少し含む.	施釉。施文；片彫り.	青磁.
27	4	土錐			にぶい黄褐色10YR5/4.		ハケ状の平行のスジが認められる.	長さ；4.5cm. 幅；2.4cm.
27	5	甕	口縁部	カクラン	口唇部；灰白色2.5Y 8/2. 外面；黒色。内面；鉄分付着のため不明.	礫, 砂粒を多く含む。石英.	ナデ.	古墳時代の土器。鉄分付着.
27	6	甕	底部	カクラン	外面；にぶい黄橙色10YR7/3. 内面；暗灰黄色2.5Y5/2類似.	礫～細砂粒を多く含む。石英, 黒色粒.	外面；ナデ。内面；ハケのちナデ.	古墳時代の土器.
27	7	甕	底部	カクラン	灰黄色2.5Y7/2.	礫, 粗砂粒～砂粒を多く含む。赤色粒, 黒色粒, 石英.	外面；ナデ。内面；ハケのちナデ.	
27	8	高杯	杯部	カクラン	外面；(赤色顔料付着のため) 赤色10R 4/6. 内面；黒色	砂粒を含む。石英, 白色粒, 赤色粒.	外面；ハケのち横方向のミガキ。内面；ナデ.	古墳時代の土器。外面；赤色顔料貼付.
27	9	高杯	脚部	カクラン	外面；(赤色顔料付着のため) 赤色10R 5/6. にぶい黄橙色10YR7/3.	粗砂粒～細砂粒を含む。赤色粒, 石英.	外面；細かい横方向のミガキ.	古墳時代の土器。外面；赤色顔料貼付.
27	10	埴	底部	カクラン	外面；(赤色顔料付着のため) 赤色7.5R 4/8.	礫, 砂粒を含む。赤色粒, 石英.	外面；ミガキ?。内面；ナデ?.	古墳時代の土器。底径；(6.2)cm. 外面；赤色顔料貼付。鉄分が破片全体に付着.
28	11	甕	突帯	4	灰黄色2.5Y7/2.	砂粒を多く含む。赤色粒, 石英, 黒色粒.	外面；突帯付近 ヨコナデ, 他 ナデ。内面；ハケのちナデ.	
28	12	壺	底部	4	にぶい黄橙色10YR7/4.	砂粒を多く含む。白色粒, 赤色粒, 石英, 黒色粒.	外面・内面；ハケのちナデ。底面；ナデ.	弥生土器。底径(7.1)cm. 器形がかなりゆがんでおり, 器表の凹凸が激しい.
28	13	高杯	杯部	4	外面；(赤色顔料付着のため) にぶい赤色7.5R4/4. 内面；にぶい黄橙色10YR7/3.	微細な砂粒を含む。白色粒.	外面；ミガキ。内面；ナデ.	古墳時代の土器。屈曲部径(13.0)cm. 外面；赤色顔料貼付.
28	14	埴	口縁部	4	外面；橙色5YR6/6. にぶい黄橙色10YR7/2. 灰色7.5YR6/6. 内面；橙色7.5YR6/6.	粗砂粒～細砂粒を含む。赤色粒, 黒色粒, 白色粒.	内面口唇部；丁寧なナデ。他；ハケのちナデ.	古墳時代の土器。口径(13.0)cm. 外面；黒斑あり.
29	15	甕	口縁部		淡黄色2.5Y8/3.	礫, 砂粒を含む。赤色粒, 石英, 黒色粒.	ナデ.	
31	16	甕	口縁部		にぶい黄色2.5Y6/3.	粗砂粒～細砂粒を多く含む。石英, 金雲母, 白色粒, 黒色粒.	ヨコナデ.	弥生土器.

## IV 平成6年度（4月～12月）調査報告

- IV. 1 調査の概要
- IV. 2 立合調査の報告

## IV. 1 調査の概要

平成6年4月から12月は、発掘調査2件、立合調査14件を行った。以下、その概要を記す。

発掘調査は、桜ヶ丘団地で2件行った。94-1では弥生時代前半期の住居跡が出土した。この調査地点は昭和62年度に行ったI-8区の調査<sup>1)</sup>の北に隣接しており、前回の調査に引き続く成果であった。旧地形は南へ傾斜しているが、本地点では水平に造成しているため、北側では弥生時代の包含層はほとんど残っておらず、遺構も南側を中心とするものであった。

その下層では、縄文時代早期の包含層が確認できた。北側に位置する94-2においても、縄文時代早期の包含層から残存しており、94-2では該期の住居跡が1軒、94-1では集石遺構が1基検出され

た。これまで遺構は、これらの調査区より東に位置するMRI-CT棟の敷地での調査<sup>2)</sup>で、該期の包含層と土壌状遺構を検出したのみで、これらが加わることで、複合的な遺構の在り方がわかってきた。

これらの遺跡は桜ヶ丘団地の北東側で確認できたわけだが、94-Hの立合調査において、北西側の層位の状況を把握することができ、地下げをされているグラウンド北側には遺跡は残っていないという結果を得られた。しかし、旧地形をある程度残している看護婦宿舎西側からは包含層が残存しており、周辺の埋蔵文化財への配慮が必要である。

郡元団地での立合調査では、郡元団地運動場周辺で古墳時代の土器が多く出土した。特に球技場

Tab.5 平成6年度(4~12月)調査一覧表

調査の種類	調査No	調査・工事名	期間	地区
発掘調査	94-1	医学部難治性ウイルス疾患研究センター建設地における発掘調査	5月10日～7月28日	桜ヶ丘団地I-8区
	94-2	医学部受水槽建設地における発掘調査	5月16日～6月15日	桜ヶ丘団地G-11区
立合調査	94-A	稲盛会館環境整備工事	4月8日	郡元団地K・L-11区
	94-B	郡元団地運動場電気設備工事	4月26日	郡元団地O-11区
	94-C	教育学部教育実践研究指導センター新営機械設備工事	5月9日	郡元団地P-6区
	94-D	郡元団地基幹設備(身障者等)工事	5月9日	郡元団地E-5区
	94-E・I・J	郡元団地球技場改修工事	7月21日, 9月7日	郡元団地O・P-9~11区
	94-F	郡元団地水泳プール新営電気設備工事	8月2日～5日	郡元団地M~O-4・5区
	94-G	農学部エレベータ電気配線工事	8月21日	郡元団地E-5区
	94-H	医学部附属病院クリーンルーム設備工事	8月22日～9月2日	桜ヶ丘団地K・I-10区
	94-K	特高受変電設備工事(理学部)	10月13日	郡元団地J-7区
	94-M	郡元団地図書館新営その他機械設備工事	8月26日	郡元団地K-6区
	94-N	郡元団地基幹設備(特高受変電設備)工事	11月2日～17日	郡元団地G-10~12区
	94-O	農学部植物機能解析ガラス・網室取設工事	12月26日	郡元団地B-9区

#### IV 平成6年度の調査報告

南西部の遺物の密度は高く、平成5年に実施した運動場の発掘調査の結果<sup>3)</sup>と合わせると、一帯に集落跡がかなり広い範囲で広がっているようである。

#### 註

1) 「第3章 鹿児島大学宇宿団地I-8区(医学部臨

床研究棟増築地)における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅲ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1988

2) 「第2章 鹿児島大学宇宿団地E-8・9区(MR I-CT装置棟建設地)における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅴ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1990

3) 本書Ⅲ. 1において概要を説明している。

## IV. 2 立合調査の報告

平成6年度には、14件の立合調査を実施した。隣接した調査地点ごとに説明を行う。

### 94-A 稲盛会館環境整備工事に伴う立合調査 (Fig.33)

稲盛会館の北側入り口スロープ部分の掘削を行うため、立合調査を行った。掘削は、地表下175cmまで及んだ。層は7層あり、水平に堆積していた。以下、土層の説明を行う。

- 1層 盛土, 層厚110cm
- 2層 におい黄褐色10YR4/3, シルト質砂, 1cm大のパミスを含む, 層厚10cm
- 3層 暗灰黄色2.5Y4/2, シルト質砂, 粘性ややあり, マンガンの浸透みられる, 層厚12cm
- 4層 灰白色10YR7/1, シルト質砂, 粘質, 稲盛会館発掘調査時の9層に相当, 層厚15cm
- 5層 灰黄褐色10YR4/2, シルト質砂, やや粘質, マンガンの浸透みられる, 1cm大のパミス含む, 層厚10cm

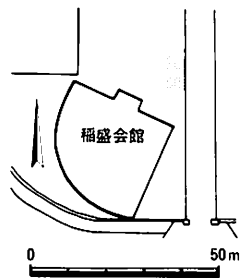


Fig.33 94-A 調査地点  
S=1/2000

- 6層 黒褐色7.5YR3/2, シルト質砂, 少し砂っぽい, 1cm大のパミス含む, 層厚8cm
- 7層 におい黄褐色10YR5/4, 粗砂層, 層厚20cm

### 94-B 郡元団地運動場電気設備工事 (Fig.34 a・b・Fig.35)

本調査では、平成5年度に発掘調査を行った照明灯の基礎部分間の配線のための掘削工事に伴い、立合調査を実施した。掘削深度は地表下90cmほどに及んだが、ここでは埋蔵文化財に影響のあった球技場西側での調査について説明を行う。

これまでの調査によってこの周辺は古墳時代を主体とする遺物包含層やその時期の住居跡などの遺構が検出しているが、今回の調査では、a地点とb地点においてそれらをやはり確認している。以下、地点ごとに説明を加える。

#### a地点

平成5年度に行った運動場発掘調査のNo15トレンチとNo16トレンチの間を幅60cmにわたって掘削をおこなった。

- 1層 灰色5Y1/5, 粗砂混じりシルト質砂, 軽石・礫を多く含む, 層厚18~30cm
- 2層 におい褐色7.5YR3/6, シルト質砂, 鉄分が浸透, 層厚5~15cm

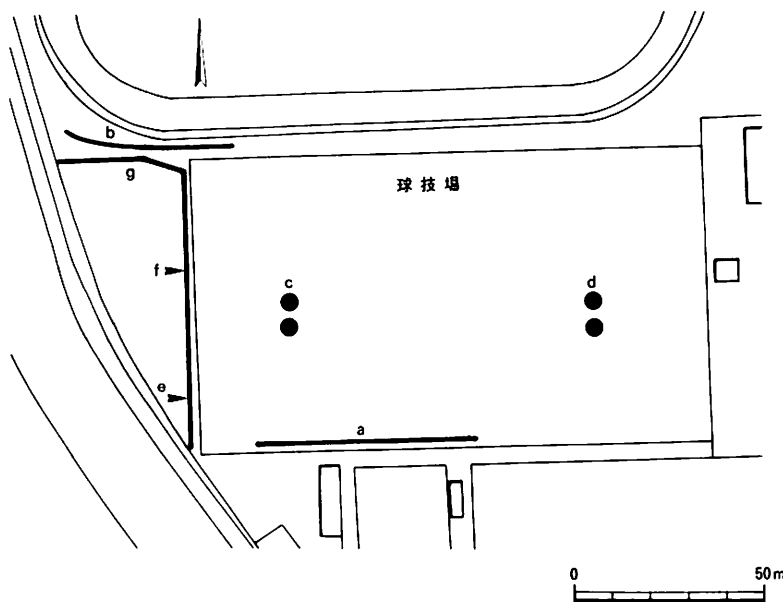


Fig.34 94-B・94-E・94-I・94-J 調査地点 S=1/2000

3層 明黄褐色2.5YR6/6, 粗砂混じりシルト質砂, 鉄分浸透, 層厚0~15cm

4層 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト, 層厚50~12cm

5層 灰黄色2.5Y2/7, 砂

遺物包含層である4層の検出面が東にむかって傾斜し、表土も少し厚くなっているのが確認できた。西から12m付近で4層が薄くなり、一部分だけ5層が露出している。4層の厚い部分は住居などの遺構である可能性が高い。4層中から、遺物が多量に出土した。

**b地点**

運動場発掘調査のNo.17トレンチから西側に約30m、幅60cm、深さ80cmにわたって掘削を行った。層位は、a地点とほぼ同じであるが、全体的に西へ傾斜している。掘削した溝の断面から、4層の落ち込みを確認した。土器は西側に多く出土したが、a地点と異なり、いずれも小片であった。

遺物は古墳時代の土器で、11・13はb地点、他はa地点で出土した。1から9は甕形土器である。2・3は絡縄突帯を施す胴部片である。4・5は胴部の脚台付近で、接合痕が認められる。6~9は脚台付近の破片で、6・7とも脚と体部との接合がわかる資料である。

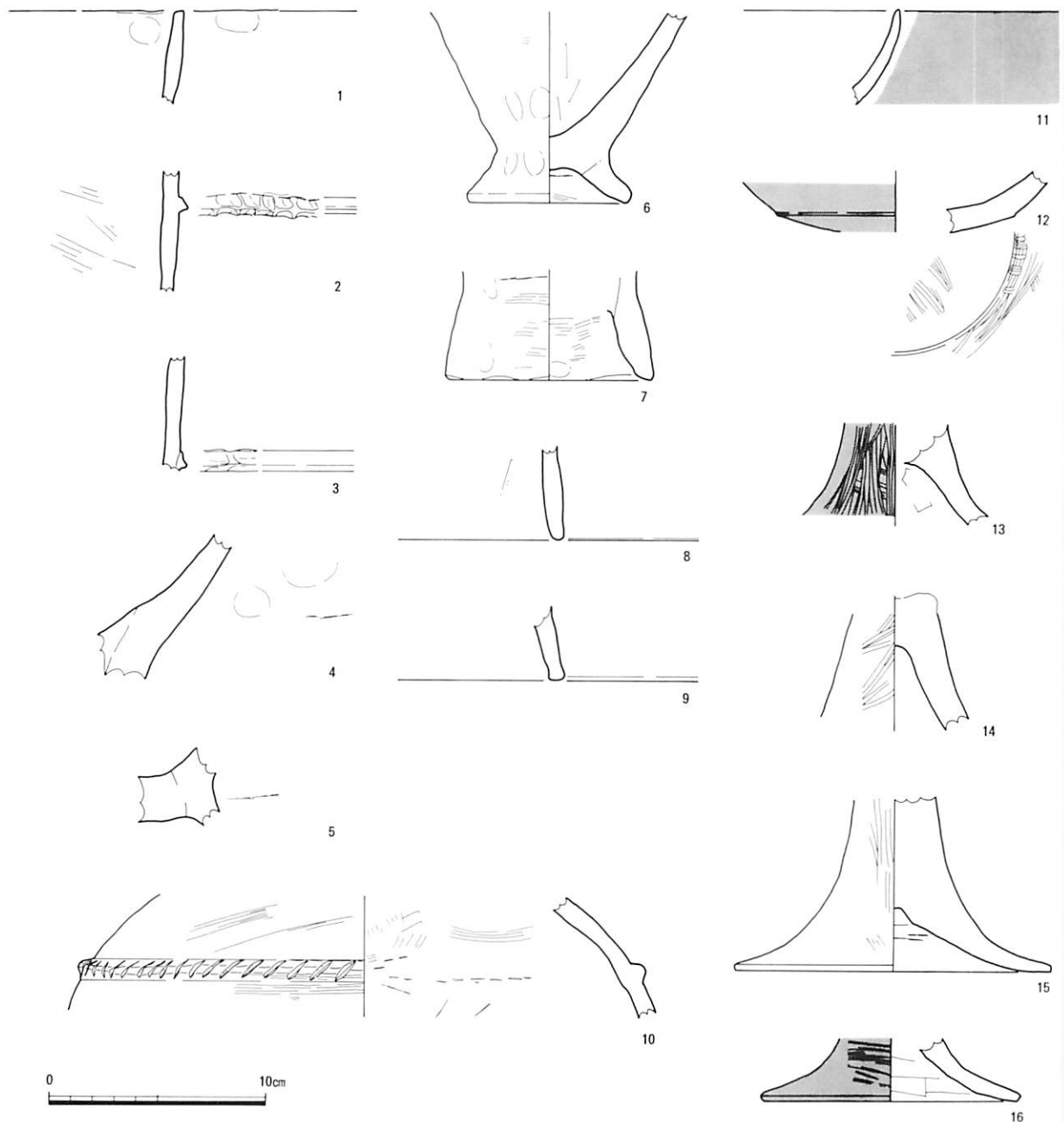


Fig.35 94-B出土遺物 S=1/3

10は壺の胴部で、胴部最大径の部分よりかなり上部に1条突帯を施している。突帯には刻み目を有し、刻みの中に胴部調整に施しているハケの単位とほぼ同じハケ状のすじが認められ、ハケ工具による刻み目であると推定できる。11~16は高坏である。11・12は杯部で、どちらも外面に赤色顔料を施している。12の外面調整は、屈曲部以下は縦方向の磨き、屈曲部以上は横方向の磨きを施しているが、その後、屈曲部に縦方向の短いみがきを施しているのが特徴的である。みがきも丁寧である。13~16は脚部であるが、13と16は赤色顔料が添付されている。14・15とも非常に磨滅しているため、磨滅によって赤色顔料が落ちたものと推測できる。13は縦方向にみがきを施しているが、ミガキは幅約1cmごとに5mm間隔の帯状になっており、ミガキを施されていない場所にミガキ調整前に施されていた横方向のハケ目が観察できる。

94-E・94-I・94-J 郡元団地球技場改修工事に伴う立合調査 (Fig.34 c ~ g・Fig.36)

本調査地点では、球技場の内部と西側の掘削工事に伴った立合調査を行った。以下、地点ごとの観察結果を記す。

c 地点

- 1層 表土, 層厚15cm
- 2層 におい黄褐色10YR5/3, 0.5cm大のパミスを含む, 水田層
- 3層 褐色7.5YR4/4, シルト質砂, 粘質
- 4層 黒褐色10YR2/3, シルト質砂, 古墳時代の遺物包含層

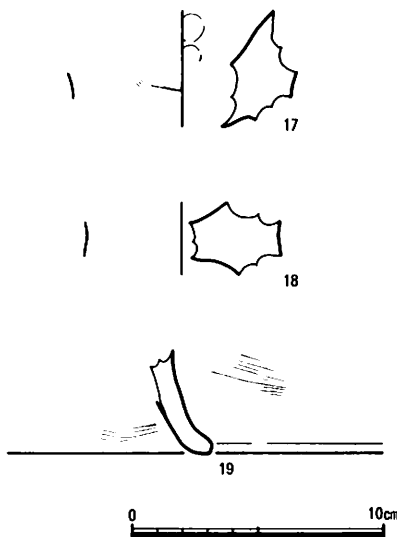


Fig.36 94-E・94-I・94-J  
出土遺物 S=1/3

d 地点

すべて表土であった。

e 地点

- 1層 表土, 層厚45cm
- 2層 におい褐色7.5YR5/3, シルト質砂, c地点2層に対応, 層厚5cm
- 3層 黒褐色7.5YR2/2, シルト, e地点4層に対応, 層厚5cm

f 地点は1層が15cm、2層25cm、3層5cmの層厚で、表土が薄くなるが、g 地点以北は、表土45cmの範囲で掘削が終わり、埋蔵文化財への影響はなかった。

この調査では、c 地点の4層とe 地点近くの1層埋土の攪乱土壌および3層から遺物が出土している。このうち、図示できるもののみ説明を加える (Fig.36)。

いずれも変形土器である。17・18は体部と脚部の接合部分である。どちらも残存部が小さいため、詳細な器形を知ることはできないが、脚台の上部が少し下がって、体部の内面形に即した形態であると推定できることから、変形の脚部でも比較的新しい形態を呈すると推定できる。19は脚部である。端部が外に踏ん張るような形態を呈し、内面に接合痕が認められる。

94-F 郡元団地水泳プール新営電気設備工事に伴う立合調査 (Fig.37)

電気配管埋設のための掘削工事に伴って a ~ g の7カ所で土層の観察を行った。その結果、f・g 地点でのみプライマリーな層が検出され、他は表土および攪乱中での掘削にとどまった。

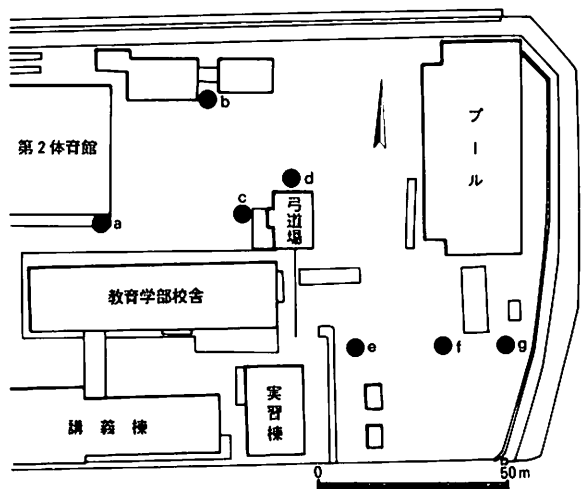


Fig.37 94-F 調査地点 S=1/2000

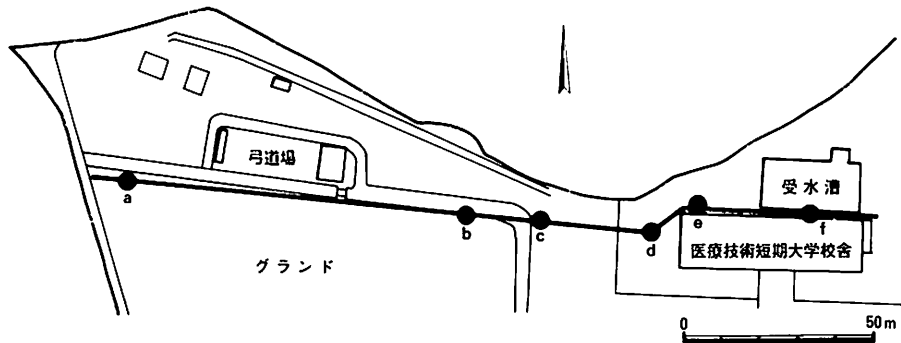


Fig.38 94-H調査地点 S=1/2000

- 1層 表土および客土, 層厚52cm
  - 2層 黄灰色2.5Y5/1, 粘質を帯びたシルト質砂, 層厚16cm
- 1層は畑の耕作土とシラスの客土である。2層は、水田層であると考えられる。遺物は出土しなかった。

94-H 医学部付属病院クリーンルーム設備工事に伴う立合調査 (Fig.38)

受水槽への配管埋設のための掘削工事に伴い立合調査を行った。平成6年5～6月に行った受水槽建設地における発掘調査結果から、この周辺では縄文時代早期の遺物包含層を確認していたが、その西側のグラウンドはかなり桜ヶ丘団地の造成時に掘削されているらしく、受水槽周辺とはかなりの標高差があった。そのため、グラウンドの東西隅 (a・b地点) で試掘調査を行った。その結果、表土や盛土の直下にはシラスが堆積しており、この地点間は埋蔵文化財に影響がないと判断し、溝の掘削に伴う立合調査はc地点から東で行った。以下、土層を観察した地点ごとに説明を行う。

- c地点**
- 1層 表土, 層厚33cm
  - 3層 暗褐色10YR3/4, シルト質砂, 若干粘性がある, パミスを含む, 層厚40cm
  - 4層 明黄褐色10YR6/8, サツマ火山灰層, パミスを多く含む, 層厚30cm
  - 5層 暗褐色7.5YR5/8, サツマ火山灰層, 粘質, 層厚10cm

- d地点**
- 1層 表土, 層厚16cm
  - 2層 褐色10YR4/4, シルト, アカホヤ, 層厚39cm

**e地点**  
この地点は、1層の下にさらに攪乱された土層

があり、プライマリーな層が残っているのが地表下約40cmからである。3層が19cm、それ以下は4層である。

**f地点**  
1層が76cm堆積し、その直下は4層である。3層が縄文時代早期の遺物包含層である。これが残存しているのが、c地点からf地点までの間である。また、東から西に旧地形が傾斜しており、そのため3層は東ほど層厚が薄く、残りが悪いようである。遺物は出土しなかった。

94-M 郡元団地図書館新営その他機械設備工事に伴う立合調査 (Fig.39)

中央図書館北側道路を幅60cm、深さ85cmにわたって掘削を行った。この地点は、既掘部であったが、西壁が旧掘削部の壁にあたり、土層観察ができたため、その説明を行う。

- 1層 アスファルトと砂利, 層厚28cm
  - 2層 灰色, 水田層, 層厚17cm
  - 3層 黄灰色, 砂混じりシルト, 層厚30cm
  - 4層 黒灰色, シルト, 層厚10cm
- 4層が古墳時代を主体とする遺物包含層であるが、本調査では遺物は認められなかった。

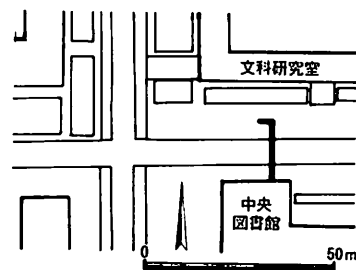


Fig.39 94-M調査地点 S=1/2000



### 94-N 郡元団地基幹設備（特高受変電設備）工事に伴う立合調査 (Fig.40)

実験農場の南側の道路から駐輪場を東西に130mにわたって掘削を行った。その間、2カ所にマンホールを設置している。深さは、マンホールでは約300cm、溝では185cmである。調査地点の南側では、発掘調査によって河川跡が確認されており<sup>1)</sup>、その埋土から縄文時代から近世までの多くの遺物が出土している。本地点でも同じような状況であることが推測でき、立合調査を実施した。

#### a 地点

- 1層 表土, 層厚50cm
- 2層 褐灰色10YR5/1, 砂質シルト, 水田層?, 鉄分多く浸透, 軽石混じり, 層厚80cm
- 3層 褐灰色10YR4/1・黒褐色10YR3/1, 軽石混じりシルト, 鉄分浸透, 粘質, 層厚9cm
- 4層 淡黄色2.5Y8/4~浅黄色2.5Y8/4, シルト, 粘質, 層厚10cm
- 5層 黒色7.5YR2/1, シルト, 粘質, 層厚16cm
- 6層 灰褐色, シルト, 層厚7cm
- 7層 黒色, シルト, 層厚11cm
- 8層 灰白色, 上部は細砂層で下部ほど軽石混じ

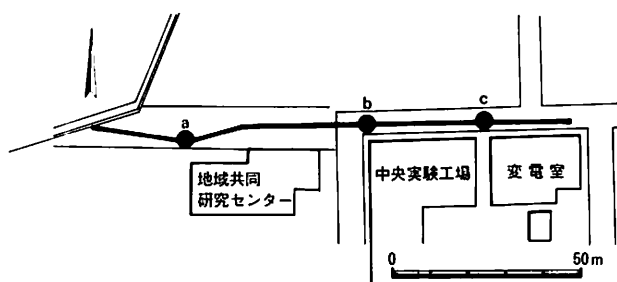


Fig.40 94-N調査地点 S=1/2000

りの粗砂層になる, 層厚50cm

9層 黒色, 泥炭層, 層厚37cm

b地点からは5層が東に傾斜し、5層上面に砂層が入る。また、9層の泥炭層がc地点周辺で厚く、黒色と灰色の層に分層できる。放射性炭素年代測定のため、この地点で、5層と9層の泥炭層のサンプリングを行った。

b地点より東側も、土層の大きな変化はなかったが、河川跡と推定できる8層をはじめとして、遺物の出土はみられなかった。

### 94-O 農学部植物機能解析ガラス・網室取設工事に伴う立合調査 (Fig.41)

網室の立て替えのため、深さ約95cmの掘削を行った。この地点は、ほとんど表土中での掘削にとどまっていたが、南東隅に一部、地表下85cmのあたりから、2層が露出していた。これは、黄灰色の砂質の層で、軽石を含む。あるいは、客土である可能性もある。遺物は出土しなかった。

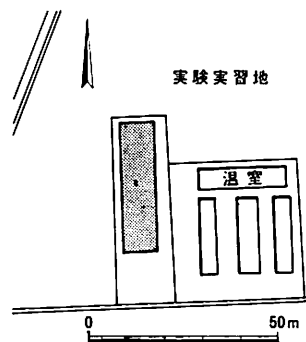


Fig.41 94-O調査地点 S=1/2000

Tab.6 平成6年度立合調査における出土遺物観察表

Fig	No	器種	部位	出土地点	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
35	1	甕	口縁部	B	4	にぶい黄橙色10YR7/4.	砂粒を多く含む。石英、白色粒、赤色粒、黒色粒。	ナデ	古墳時代の土器。
35	2	甕	胴部	B	4	外面；スス付着のため黒色。内面；にぶい黄橙色10YR7/2.	粗砂粒～砂粒を多く含む。石英、赤色粒、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ハケのちナデ。	古墳時代の土器。外面；スス付着。
35	3	甕	胴部	B	4	外面；にぶい黄橙色10YR7/3, 突帯付近灰色N4/1. 内面；浅黄褐色10YR8/3.	砂粒を多く含む。白色粒、赤色粒、石英、黒色粒。	ナデ。	古墳時代の土器。
35	4	甕	底部	B	4	外面；にぶい黄褐色10YR6/3. 内面；灰黄褐色10YR6/2類似。	粗砂粒～微細な砂粒を多く含む。白色粒、石英、黒色粒。	外面；ハケ？のちナデ。内面；摩滅のため不明。	磨滅が著しい。
35	5	甕	底部	B	4	外面；にぶい黄色2.5Y6/4. 内面；橙色7.5YR6/6. 脚台内面；にぶい黄褐色10YR5/3.	粗砂粒～細砂粒を多く含む。白色粒、赤色粒、石英。	外面；ハケ？のちナデ。他；ナデ。	
35	6	甕	底部	B	4	明赤褐色5YR5/6.	粗砂粒～細砂粒を含む。赤色粒、白色粒、石英、黒色粒。	外面；体部 ハケ？のちナデ、脚部 ナデ。内面；ハケ？のちナデ。底面；ナデ。	脚径7.75cm.
35	7	甕	底部	B	4	にぶい黄褐色10YR6/4.	細砂粒を含む。石英、黒色粒、白色粒。	ハケのちナデ。	古墳時代の土器。脚径(9.8)cm.
35	8	甕	底部	B	4	灰黄色2.5Y7/2.	砂粒、細砂粒を含む。石英、黒色粒、赤色粒。	外面；ナデ。内面；ハケ？のちナデ。	古墳時代の土器。
35	9	甕	底部	B	4	外面；明赤褐色5YR5/6. 内面；浅黄色2.5Y7/3.	砂粒を多く含む。白色粒、石英、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ハケのちナデ。	古墳時代の土器。
35	10	壺	肩部	B	4	外面；黒褐色10YR3/2. 内面；明赤褐色5YR5/6.	礫～細砂粒を含む。白色粒、赤色粒、石英。	外面突帯；ナデ。他；ハケのちナデ。	
35	11	高杯 か柑	口縁部	A	4	外面；赤色10R4/8. 内面；褐灰色10YR5/1類似。	砂粒～細砂粒を少し含む。赤色粒、白色粒、石英。	ミガキ？	古墳時代の土器。外面；赤色顔料貼付。磨滅が著しい。
35	12	高杯	杯部	B	4	外面；赤色10R5/8. 内面；黄灰色2.5Y4/1類似。	粗砂粒～微細な砂粒を含む。赤色粒、白色粒、石英。	外面；下部・屈曲部縦方向のミガキ。他横方向のミガキ。内面；ミガキ。	古墳時代の土器。外面；赤色顔料貼付。
35	13	高杯	脚部	A	4	外面；赤褐色2.5YR4/8. 内面；褐灰色10YR4/1.	細砂粒を含む。白色粒、赤色粒、石英。	外面；ハケのち縦方向のミガキ。内面；ケズリのちナデ。	古墳時代の土器。外面；赤色顔料貼付。
35	14	高杯	脚部	B	4	外面；にぶい黄褐色10YR6/4から黒色。内面；暗灰色N3/1.	微細な砂粒を含む。白色粒、石英。	外面；ミガキ。内面；ナデ。	古墳時代の土器。
35	15	高杯	脚部	B	4	橙色5Y6/6.	細砂粒を多く含む。白色粒、赤色粒、石英。	外面；ハケのちミガキ。内面；ハケ？のちナデ。	古墳時代の土器。脚径；(14.6)cm. 磨滅が著しい。
35	16	高杯	脚部	B	4	外面；赤色10R4/6. 内面；灰黄色2.5Y7/2.	微細な砂粒を含む。石英、白色粒。	外面；横方向のミガキ。内面；板状の工具による擦過。	古墳時代の土器。外面；赤色顔料貼付。脚径(12.1)cm.
36	17	甕	底部			外面；黄褐色2.5Y5/3類似。内面；にぶい黄褐色10YR5/3. 脚部内面；にぶい赤褐色5YR5/6類似。	礫～細砂粒を多く含む。石英、黒色粒、白色粒。	外面；ハケのちナデ。内面；ナデ。	
36	18	甕	底部			にぶい黄褐色10YR7/4.	砂粒を多く含む。白色粒、赤色粒、石英。	ナデ。	
36	19	甕	底部			外面；にぶい黄褐色10YR6/4. 内面；にぶい黄色2.5Y6/3類似。	砂粒、細砂粒を多く含む。白色粒、黒色粒、石英。	脚端部付近；ナデ。他；ハケのちナデ。	

# 鹿児島大学構内遺跡調査要項

## 鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

(設置)

第1条 本学に、鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議)

第2条 委員会は、本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

- (1) 基本計画の策定に関すること。
- (2) 調査結果に基づく対策に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
  - (2) 各学部長、教養部長、附属図書館長、医学部附属病院長および歯学部附属病院長
  - (3) 事務局長
  - (4) 学生部長
- (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の3分の2以上をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことが出来る。

(調査委員会)

第7条 委員会は、本学の埋蔵文化財の調査を行なうため、埋蔵文化財調査委員会(以下「調査委員会」という。)を置く。

第8条 調査委員会は次の事項を審議する。

- (1) 調査実施計画に関すること。
- (2) 第13条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。
- (3) 第13条に規定する調査室の予算に関すること。
- (4) その他埋蔵文化財及び第13条に規定する調査室の業務に関すること。

第9条 調査委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が任命する。

- (1) 各学部及び教養部の教授、助教授、講

師の中から選任された者各1名

(2) 第15条2項に規定する調査室長

2 前項第1号の委員の任期は2年とし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第10条 調査委員会に委員長を置き、前項第1項第1号の委員の中から互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

第11条 調査委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。

第12条 調査委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(調査室)

第13条 調査委員会に、本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)を置く。

第14条 調査室は、次の業務を行なう。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査及び確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) その他必要な事項

第15条 調査室に、室長、主任及びその他必要な職員を置く。

2 室長は、本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し、学長が任命する。

3 室長は、調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4 室長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し、学長が任命する。

6 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7 職員は、調査室の業務に従事する。

(その他)

第16条 埋蔵文化財に関する事務は、事務局施設部において行なう。

付 則

1 この規則は、昭和60年4月18日から施行す

る。

2 この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は、第9条第2項及び第15条第4項の規定にかかわらず、昭和62年3月31日までとする。

3 鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則（昭和51年1月22日制定）は、廃止する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（平成6年4月1日現在）

委員長 早坂祥三（鹿児島大学学長）  
委員 仲村政文（法文学部長）  
伊牟田経久（教育学部長）  
佐竹巖（理学部長）  
佐藤榮一（医学部長）  
酒匂崇（医学部附属病院長）  
小片丘彦（歯学部長）  
末田武（歯学部附属病院長）  
前田明夫（工学部長）  
橋口勉（農学部長）  
茶園正明（水産学部長）  
田川日出夫（教養部長）  
富田裕一郎・藤盛健（連合農学研究科長）  
砂本宏一（事務局長）  
辰村吉康（学生部長）  
荒川譲（附属図書館長）

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成6年4月1日現在）

委員長 安藤保（教育学部教授）  
委員 梶原敏昭（法文学部助教授）  
坂元隼雄（理学部助教授）  
秋山伸一（医学部教授）  
長岡英一（歯学部教授）  
前田滋（工学部教授）  
西中川駿（農学部教授）  
板倉隆夫（水産学部助教授）  
新田栄治（教養部教授）  
上村俊雄（調査室長併任 法文学部教授）

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長(併) 法文学部教授 上村俊雄  
主任(併) 法文学部助手 中村直子  
(併) 法文学部助手 大西智和  
技術補佐員 前幸男  
(平成4年4月～平成6年3月)  
技術補佐員 松村みどり  
(平成5年1月～平成6年3月)  
技術補佐員 峰山いづみ  
(平成5年4月～)  
技術補佐員 古澤生  
(平成6年4月～)

受贈図書目録 (1993年2月1日～1994年3月31日)

冊名	発行所	冊名	発行所
単行書		滋賀県埋蔵文化財センター	滋賀県埋蔵文化財センター
神奈川県の考古学の問題点とその展望	埋蔵文化財センター	京都府埋蔵文化財情報 第46号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
化財センター開所10周年記念		京都府埋蔵文化財情報 第48号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
磐城地方における古墳文化形成過程の研究		京都府埋蔵文化財情報 第49号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
伊勢志摩をめぐる考古学		大阪市文化財情報 第43～48号	(財)大阪府埋蔵文化財調査研究センター
三重県の中世墓		平成4年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告	(財)八尾市文化財調査研究会
中世の海人と東アジア		ひらかた文化財だより 第15～18号	(財)枚方市文化財調査研究会
太宰府市史 民俗資料編		遺跡ガイド9 弁天山古墳群	高槻市教育委員会
大牟田市市の文化財		遺跡ガイド10 塚脇古墳群	高槻市教育委員会
火山灰と南九州の縄文文化		遺跡ガイド11 嶋上郡遺跡	高槻市教育委員会
逐次刊行物		遺跡ガイド12 上田郡遺跡	高槻市教育委員会
調査年報5 平成4年度		高槻市文化財年報 平成3年度	高槻市教育委員会
釧路市立博物館館報 No.339～No.343		昭和62年度 神戸市埋蔵文化財年報	神戸市教育委員会
紀要Ⅲ		平成元年度 神戸市埋蔵文化財年報	神戸市教育委員会
研究ノート2号 平成4年度		平成2年度 神戸市埋蔵文化財年報	神戸市教育委員会
年報12 平成4年度		神戸市埋蔵文化財センター常設展示案内	神戸市埋蔵文化財センター
歴史人類 第21号		城郭研究年報 Vol.2 1992	姫路市立城郭研究会
やまかいどう No.3～6		兵庫県埋蔵文化財情報 ひょうごの遺跡 12～14号	兵庫県教育委員会
調査研究報告第6号		兵庫県埋蔵文化財調査年報 昭和58年度	兵庫県教育委員会
君津郡市文化財センター年報No.10～平成3年度		兵庫県埋蔵文化財調査年報 昭和59年度	兵庫県教育委員会
きみさらづー創刊号～第3号		遺跡が語る古代の歴史ー一般国道9号(安来道路)	鳥根県教育委員会
山武考古学研究所年報No.10		建設予定地内埋蔵文化財発掘調査概報	鳥根県教育委員会
山武考古学研究所年報No.11		鳥根県教育庁文化課 埋蔵文化財調査センター年報1 平成4年度	鳥根県教育庁文化課埋蔵文化財調査センター
平成3年度市立市川考古博物館年報 第20号		鳥根県埋蔵文化財調査センターニュース 創刊号～3号	鳥根県埋蔵文化財調査センター
考古と歴史の博物館ニュースNo.1616ほりのうち		岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第9号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
千葉県立房総風土記の丘だより第24, 26, 27号		岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第10号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
千葉県立房総風土記の丘年報15		藤山研究所 研究報告第18号	岡山理科大学 藤山研究所
千葉県立房総風土記の丘年報16		みよし風土記の丘 No.48	みよし風土記の丘友の会
神奈川県埋蔵文化財調査報告35		年報 平成3(1991)年度	広島県立みよし風土記の丘・広島県立歴史民俗資料館
神奈川県立埋蔵文化財センター年報12 平成4年度		研究紀要 創刊号	広島県立歴史民俗資料館等連絡協議会
長野県埋蔵文化財センター年報第9号		広島県立歴史民俗資料館	広島県立歴史民俗資料館
長野県埋蔵文化財センター年報第35, 36, 37		広島県立歴史民俗資料館	広島県立歴史民俗資料館
富山県埋蔵文化財センター年報 平成2年度		広島県立歴史民俗資料館	広島県立歴史民俗資料館
富山県埋蔵文化財センター年報 平成3年度		広島県立歴史民俗資料館	広島県立歴史民俗資料館
富山県埋蔵文化財センター年報 平成4年度		広島県立歴史民俗資料館	広島県立歴史民俗資料館
ふくい県埋蔵文化財センター年報 第7～9号		れきみんきょう 16, 17号	土記の丘
文化財保護センターだより きずな		山口大学環域保全 No.9	山口大学排水処理センター
博物館だより No.24～26		山口大学埋蔵文化財調査研究年報XII	山口大学埋蔵文化財調査研究センター
名古屋博物館だより 90, 92, 94, 95		山口大学埋蔵文化財調査研究だよりNo.18～21	山口大学埋蔵文化財調査研究センター
名古屋博物館研究紀要第16巻		地域文化研究 9 地域文化研究所紀要	山口大学埋蔵文化財調査研究センター
研究紀要 第2号		梅光女学院大学地域文化研究所通信No.18	梅光女学院大学
三重県埋蔵文化財センター通信 みえ No.11, 12			

書名	発行所	書名	発行所
BAIKO MUSE 博物館学過程活動報告7 高知県埋蔵文化財センター年報1 1991年度 埋文こうち 第6号	梅光女学院大学・梅光女学院大学短期大学部 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 高知県教育委員会	上反町遺跡発掘調査報告書	ター (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
九州文化史研究所紀要 第三十八号 大分市埋蔵文化財調査年報 3	九州大学文学部九州文化史研究施設 大分市教育委員会	人当I遺跡発掘調査報告書	ター (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
F u n a i - 府内及び大友氏関係遺跡総合調査 研究年報 I	大分市歴史資料館	仁瀬遺跡群発掘調査報告書	ター (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
大分市歴史資料館ニュース20~23	大分市歴史資料館	川井館跡発掘調査報告書	ター (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
大分市歴史資料館年報	大分市歴史資料館	泉屋遺跡発掘調査報告書	ター (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
別府大学附属博物館だよりNo.39, 40	別府大学附属博物館	兵庫館跡・梅ノ木台地II遺跡発掘調査報告書	ター (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
鹿児島県立埋蔵文化財センター 埋文だより第 3, 4号	鹿児島県立埋蔵文化財センター	法置野I遺跡・中屋敷遺跡発掘調査報告書	ター (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
鹿児島大学情報処理センター 広報 1994 Vol. 7 No.1	鹿児島大学情報処理センター	明通遺跡発掘調査報告書	ター (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
鹿児島大学南西地域研究会総合研究平成3・ 4年度 屋久島	鹿児島大学南西地域研究会	(仮称)水戸浄水場予定地内埋蔵文化財調査報告 書 白石遺跡	ター (財)茨城県教育財団
南九州縄文通信No.7	南九州縄文研究会	一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化 財調査報告書 I 中ノ御遺跡・小山遺跡・諏訪前遺跡	ター (財)茨城県教育財団
南西地域研究資料センター報告 No.50, 51	南西地域研究資料センター	茨城県自然博物館(仮称)建設用地内埋蔵文化財 調査報告書 I 原口遺跡・北前遺跡	ター (財)茨城県教育財団
読谷村立歴史民俗資料館紀要第17, 18号	読谷村教育委員会・歴史民俗資料館 読谷村立歴史民俗資料館	主要地方道茨城県鹿島線道路改良工事地内埋蔵文 化財調査報告書 裾山城跡	ター (財)茨城県教育財団
図録・目録		牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財 調査報告書(I) ヤツノ上遺跡	ター (財)茨城県教育財団, 住宅・都市整備公団つ くば開発局
歴史資料目録(3)-生活・産業資料- 一田村・沖宿遺跡の調査-開かれた古代への扉 平成5年夏季企画展-第8回泉州の遺跡-須 恵器の始まりをさぐる	読谷村立歴史民俗資料館	土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書 I 原田北遺跡 I・原田西遺跡	ター (財)茨城県文化振興事業団埋蔵文化財センター
地下に眠る神戸の歴史展IX	神戸市教育委員会・神戸市埋蔵文化財セン ター	埋蔵文化財センター年報 第3号(平成5年度)	ター (財)茨城県文化振興事業団埋蔵文化財センター
サルからヒトへ-最古の文化と瀬戸内- 遊戯宴 -中世生活文化のひとつま- ひろしまの晋銅器	広島県立歴史博物館 広島県立歴史博物館 広島県立歴史民俗資料館	下野国分寺跡IX 金山遺跡 I 向田西遺跡	ター 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会
川に生きる-江の川の漁撈文化-	広島県立歴史民俗資料館・江の川水系漁撈文 化研究会	砂田A遺跡 大境遺跡	ター 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会
大牟田市歴史資料館展示図録 I	大牟田市歴史資料館	栃木県埋蔵文化財保護行政年報 [平成3年度] 七人掘込遺跡	ター 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会
調査報告書		西郷遺跡・万崎古墳群	ター 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会
阿寒川水系総合調査報告書	阿寒川水系総合調査報告書	川島遺跡発掘調査報告書	ター 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会
八幡野II遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県埋蔵文化財センター	打越遺跡・神明山遺跡	ター 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会
館IV遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団	竹岡十一塚遺跡	ター 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会
湾台II・湾台III遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団		
石曾根遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財セン ター		
上鬼柳I遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財セン ター		
上八本出川遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財セン ター		

冊 名	発行所	冊 名	発行所
一千葉県木更津市一藪台遺跡群	藪台Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (有)総合技研・(財)君津郡市文化財センター	石才南遺跡Ⅱ・消尻遺跡Ⅱ	(財)大阪府埋蔵文化財協会
遺跡・六医王寺遺跡・上馬船遺跡		兵主廃寺	(財)大阪府埋蔵文化財協会
一千葉県袖ヶ浦市一清水井遺跡	レランドミヤギ株式会社・(財)君津郡市文化財センター	高安古墳群 芝塚古墳一八尾市神立1081の農業用地道路新設工事に伴う古墳の発掘調査報告一	(財)八尾市文化財調査研究会
一千葉県袖ヶ浦市一中六遺跡Ⅱ	袖ヶ浦市・(財)君津郡市文化財センター	太子堂遺跡<第1次調査・第2次調査報告書>	(財)八尾市文化財調査研究会
一君津郡袖ヶ浦町一芥田遺跡・三ツ田台遺跡	藤田観光株式会社・(財)君津郡市文化財センター	八尾市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ跡部遺跡(第7次調査)Ⅱ跡部遺跡(第8次調査)Ⅲ跡部遺跡(第9次調査)Ⅳ小阪合遺跡(第22次調査)Ⅴ小阪合遺跡(第23次調査)Ⅵ小阪合遺跡(第24次調査)Ⅶ中田遺跡(第11次調査)Ⅷ中田遺跡(第13次調査)Ⅷ美園遺跡(第1次調査)ⅧⅠ美園遺跡(第2次調査)ⅧⅡ東郷遺跡(第39次調査)ⅧⅢ久宝寺遺跡(第15次調査)ⅧⅣ成法寺遺跡(第9次調査)ⅧⅤ竹園遺跡(第3次調査)ⅧⅥ榎松遺跡(第1次調査)ⅧⅦ太子堂遺跡(第4次調査)ⅧⅧ東弓削遺跡(第6次調査)ⅧⅧⅠ中田井中遺跡(第9次調査)	(財)八尾市文化財調査研究会
一千葉県富津市一前三船台遺跡	富津市環境部環境保全課・(財)君津郡市文化財センター	八尾市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ東弓削遺跡(第4次調査)Ⅱ久宝寺遺跡(第1次調査)Ⅲ久宝寺遺跡(第6次調査)Ⅳ萱振遺跡(第4次調査)Ⅴ萱振遺跡(第5次調査)Ⅵ萱振遺跡(第8次調査)	(財)八尾市文化財調査研究会
一千葉県木更津市一田蔵中塚遺跡	木更津市・(財)君津郡市文化財センター	古曹部遺跡発掘調査概要	高槻市教育委員会
一千葉県木更津市一小浜遺跡群Ⅴ	木更津市小浜土地区画整理組合・(財)君津郡市文化財センター	新穴 新池地輪製作遺跡発掘調査報告書	高槻市教育委員会
群・マミヤク遺跡	宮内庁陵墓課	塚古古墳群	高槻市教育委員会
平成3年度陵墓関係調査概要・香陵部所蔵の石製品Ⅲ	慶応義塾横浜校地埋蔵文化財調査室	嶋上遺跡群17	財団法人大阪府埋蔵文化財協会
湖南藤沢キヤンパス内遺跡 第1巻 総論	綾瀬市教育委員会	軽部池西遺跡Ⅲ	雪野山古墳発掘調査団
吉岡堀ノ内横穴墓群 上土棚遺跡(縄文時代編)上土棚南遺跡	神奈川県教育委員会	雪野山古墳Ⅲ	大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会
天然記念物総合診断報告書(第3報)	神奈川県立埋蔵文化財センター	陶邑・大庭寺遺跡Ⅲ	大阪府教育委員会・財団法人大阪府埋蔵文化財協会
池子遺跡群Ⅰ No.2地点・No.1ーB地点 池子米軍家族住宅建設にともなう調査	神奈川県立埋蔵文化財センター	陶邑・伏尾遺跡Ⅱ	財協会
平台貝塚 横浜市中区本牧緑ヶ岡横浜緑ヶ丘高等学校敷地内試掘調査	富山県埋蔵文化財センター	雲井遺跡 第1次発掘調査報告書	神戸市教育委員会
等学校敷地内試掘調査	富山県埋蔵文化財センター	押部遺跡	神戸市教育委員会
任海遺跡・吉倉A遺跡・吉倉B遺跡	岐阜県・財団法人岐阜県文化財保護センター	本山遺跡 第12次調査の概要	神戸市教育委員会
富山県小杉町・大門町 小杉流通業務団地内遺跡群 第10・11次発掘調査概要	岐阜県・財団法人岐阜県文化財保護センター	井根口遺跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会
元三ヶ根古墳群・城土原9・10号古窯跡	岐阜県・財団法人岐阜県文化財保護センター	雨流遺跡(本文編・図版編)	兵庫県教育委員会
深沼遺跡	建設省・財団法人岐阜県文化財保護センター	岡田2号墳	兵庫県教育委員会
中蔵遺跡	建設省・財団法人岐阜県文化財保護センター	下相野窯址一近世丹羽焼の調査一	兵庫県教育委員会
国道41号線改良工事に伴う発掘調査報告書	水資源開発公団・財団法人岐阜県文化財保護センター	河津館址	兵庫県教育委員会
藤原遺跡	日本道路公団・財団法人岐阜県文化財保護センター	鴨庄古窯跡群(1)一南1号窯跡一	兵庫県教育委員会
追分遺跡・下開田村平遺跡	三重県埋蔵文化財センター	鴨庄古窯跡群(2)一上牧2・7・8号窯跡一	兵庫県教育委員会
鶴尾山城跡・深戸遺跡	三重県埋蔵文化財センター	桑原遺跡	兵庫県教育委員会
ヒタキ廃寺・打田遺跡・阿形遺跡ほか	三重県埋蔵文化財センター	戸井町坪1号窯	兵庫県教育委員会
伊賀国府跡・箕升氏館跡ほか	三重県埋蔵文化財センター	高川古墳群	兵庫県教育委員会
天白遺跡	三重県埋蔵文化財センター	国領遺跡発掘調査報告書(蓮町・井森杉・石風呂地区の調査)	兵庫県教育委員会
東浦遺跡・椋本南方遺跡ほか	三重県埋蔵文化財センター		
近畿自動車道(久居～勢和)埋蔵文化財発掘調査報告一第3分冊 10一鳥居本遺跡	三重県埋蔵文化財センター		
京都工芸繊維大学構内遺跡発掘調査報告書	京都工芸繊維大学吉田団地遺跡調査委員会		
京都大学構内遺跡調査年報 1989～1991年度	京都大学埋蔵文化財センター		
大阪市平野区 長原遺跡発掘調査報告Ⅴ	(財)大阪府埋蔵文化財協会		
吉井遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会		
軽部池西遺跡Ⅲ	(財)大阪府埋蔵文化財協会		

番 名	発 行 所
東武庫遺跡	兵庫県教育委員会
特別史跡姫路城跡Ⅱ	兵庫県教育委員会
半野山	兵庫県教育委員会
平野大墓	兵庫県教育委員会
轟山古墳	兵庫県教育委員会
宝林寺北遺跡	兵庫県教育委員会
北園遺跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会
北青木遺跡	兵庫県教育委員会
本庄町遺跡	兵庫県教育委員会
明石城跡Ⅱ	兵庫県教育委員会
明石城武家屋敷跡	兵庫県教育委員会
野村構居跡	兵庫県教育委員会
有年原・田中遺跡	兵庫県教育委員会
發掘調査報告	兵庫県教育委員会
養人・乙城山	兵庫県教育委員会
落地遺跡	兵庫県教育委員会
龍子向イ山	兵庫県教育委員会
龍野城	兵庫県教育委員会
緑ヶ丘遺跡	兵庫県教育委員会
浪滝遺跡	兵庫県教育委員会
龍台古墳・宅原遺跡	兵庫県教育委員会
一般国道9号(安来道路)建設予定地内 埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ(越峠遺跡・宮内遺跡)	島根県教育委員会
一般国道9号安来道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 西地区Ⅰ	島根県教育委員会
一般国道9号松江道路建設予定地内 埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ(才ノ峠遺跡)	島根県教育委員会
古曾志遺跡群発掘調査報告書一朝日ヶ丘団地造成工事に伴う発掘調査一	島根県教育委員会
国道431号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ 八色谷古墳群	島根県教育委員会
志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ板屋Ⅱ遺跡	島根県教育委員会
石見空港建設予定地内遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書	島根県教育委員会
石台遺跡Ⅱ一馬橋川河川改修に伴う発掘調査報告一	島根県教育委員会
父ヶ平遺跡・中ノ原遺跡・タクラ山第1・第2遺跡	島根県教育委員会
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ(図版編)	島根県教育委員会
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ(本文編)	島根県教育委員会
岡山大学構内遺跡調査研究年報10	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
鹿田遺跡3一第5次調査一	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅰ	広島県草戸千軒町遺跡調査委員会
広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報ⅩⅠ雨滝山奥14号墳	広島大学統合移転地埋蔵文化財調査委員会
江口貝塚Ⅰ一編文中期編一	愛媛大学法文学部考古学研究室

番 名	発 行 所
三田市 川除・藤ノ木遺跡	兵庫県教育委員会
山垣遺跡一「里長」関連遺構の調査一	兵庫県教育委員会
寺中遺跡	兵庫県教育委員会
七日市遺跡(Ⅰ)	兵庫県教育委員会
七日市遺跡(Ⅱ)	兵庫県教育委員会
篠山城探石場	兵庫県教育委員会
芝崎遺跡	兵庫県教育委員会
周世人相遺跡	兵庫県教育委員会
州本城武家屋敷跡一州本山手公舎建設事業に伴う発掘調査報告書一	兵庫県教育委員会
住吉宮町遺跡群Ⅰ(坊ヶ塚遺跡)	兵庫県教育委員会
住吉宮町遺跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会
小大丸遺跡Ⅰ	兵庫県教育委員会
小大丸遺跡Ⅱ	兵庫県教育委員会
小路大町遺跡発掘調査報告	兵庫県教育委員会
庄境1号墳	兵庫県教育委員会
上ノ島遺跡	兵庫県教育委員会
上榎遺跡	兵庫県教育委員会
上板井古墳群	兵庫県教育委員会
上板井古墳群	兵庫県教育委員会
森遺跡	兵庫県教育委員会
深江北町遺跡	兵庫県教育委員会
深江北町遺跡(Ⅱ)	兵庫県教育委員会
神戸ハバーランド遺跡	兵庫県教育委員会
杉ヶ川遺跡	兵庫県教育委員会
青野ダム建設に伴う発掘調査報告書(1)	兵庫県教育委員会
青野ダム建設に伴う発掘調査報告書(2)	兵庫県教育委員会
図版編	兵庫県教育委員会
相生市・緑ヶ丘窯址群	兵庫県教育委員会
多利遺跡群発掘調査報告	兵庫県教育委員会
多利向山古墳群	兵庫県教育委員会
対 中	兵庫県教育委員会
大垣内遺跡	兵庫県教育委員会
大岡山遺跡	兵庫県教育委員会
鷹取阿遺跡	兵庫県教育委員会
沢の浦古墳群	兵庫県教育委員会
谷町筋遺跡	兵庫県教育委員会
波路・志知川沖田南遺跡	兵庫県教育委員会
中井古墳群・中井鴨池窯跡	兵庫県教育委員会
中後瀬遺跡	兵庫県教育委員会
中尾城跡	兵庫県教育委員会
丁・柳ヶ瀬遺跡発掘調査報告書一本文編・図版編一	兵庫県教育委員会
長谷貝塚	兵庫県教育委員会
長尾・沖田遺跡(Ⅰ)	兵庫県教育委員会
長尾遺跡	兵庫県教育委員会



冊名	発行所
道後城北遺跡群Ⅱ	松山市教育委員会
松山市埋蔵文化財調査年報Ⅴ	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団
和気・堀江の遺跡	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団
影浦谷古墳	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
古照遺跡―第6次調査―	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
来住庵寺遺跡	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
江口貝塚 第2次・第3次発掘調査資料1990～1991	波方町教育委員会・愛媛大学考古学研究室
ひびのきサウジ遺跡Ⅱ	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
チン古城跡	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
十万遺跡Ⅱ	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
岡豊城跡Ⅱ―第6次 発掘調査報告書―	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
泉史跡 鹿持雅澄邸跡	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
高知県遺跡詳細分布調査概報―土佐・吾川プロジェクト―	高知県教育委員会
高知県遺跡地図―土佐・吾川プロジェクト―	高知県教育委員会
竹シマツ遺跡・宮崎遺跡	高知県大方可教育委員会
大谷古墳	財団法人 高知県文化財団
土佐山田北部遺跡群	土佐山田町教育委員会
足河内遺跡・炭釜遺跡	下関市教育委員会
九州大学埋蔵文化財調査報告―九州大学筑紫地区遺跡群―(第1冊)	九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室
九州大学埋蔵文化財調査報告―九州大学筑紫地区遺跡群―(第2冊)	九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室
塩田町文化財調査報告書第7集 古文書学習資料一	塩田町教育委員会
塩田町文化財調査報告書第9集 古文書学習資料二	塩田町教育委員会
吉浦神社周辺遺跡調査概報 笹谷遺跡・吉浦遺跡B・日千田遺跡・大黒町遺跡	塩田町教育委員会
戊辰遺跡Ⅰ	三日月町教育委員会
沙子遺跡	鎮西町教育委員会
特別史跡 片桐且元陣跡 木村重隆陣跡	鎮西町教育委員会
久里及水古墳確認調査概要報告(2)	唐津市教育委員会
山田団六遺跡(Ⅰ)	唐津市教育委員会
枝去木山中遺跡	唐津市教育委員会
十連Ⅱ遺跡	唐津市教育委員会
菅牟田西山遺跡(Ⅰ)	唐津市教育委員会
千々賀古園遺跡	唐津市教育委員会
竹木場前田遺跡(Ⅰ)	唐津市教育委員会
中尾ニツツ核(Ⅰ)	唐津市教育委員会

冊名	発行所
唐ノ川遺跡群 唐ノ川高峰遺跡(Ⅰ)	唐津市教育委員会
唐ノ川遺跡群 唐ノ川西ノ吹遺跡	唐津市教育委員会
唐津市内遺跡確認調査(8)	唐津市教育委員会
唐津市内遺跡確認調査(5)	唐津市教育委員会
唐津市内遺跡確認調査(6)	唐津市教育委員会
日ノ出松遺跡	唐津市教育委員会
湊松本遺跡(Ⅰ)	唐津市教育委員会
宇宿小学校遺跡	熊本大学文学部考古学研究室
高古墳群―熊本県八代市高島町高山所在の遺跡調査―	八代市教育委員会
ボウガキ遺跡―大分県中津市所在縄文集落調査報告書―	三保の文化財を守る会・中津市教育委員会
下郡遺跡群	大分市教育委員会
中津城跡(二の丸)・相原庵寺Ⅴ	中津市教育委員会
瀬谷運傍館跡・相原庵寺Ⅳ・中原遺跡	中津市教育委員会
九日田遺跡	始良郡牧野町教育委員会
カメコ遺跡	伊仙町教育委員会
志布志リゾート開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 夏井土光遺跡	夏井土光遺跡発掘調査会
牟礼ヶ城跡	金峰町教育委員会
橋牟礼川遺跡Ⅲ	指宿市教育委員会
橋牟礼川遺跡Ⅳ	指宿市教育委員会
橋牟礼川遺跡Ⅴ	指宿市教育委員会
南摺ヶ浜遺跡Ⅰ(南摺ヶ浜土城墓群)	指宿市教育委員会
南摺ヶ浜遺跡Ⅱ	指宿市教育委員会
鹿児島サン・オーシャン・リゾート埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅰ)	鹿児島県教育委員会
歴史の道調査報告書第一集 出水筋	鹿児島県教育委員会
北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅱ)	鹿児島県教育委員会
県営畑地帯総合土地改良事業會於東部二期地区(別府上工区)に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 下田遺跡	鹿児島県會於郡志布志町教育委員会
志布志町立志布志中学校屋内運動場改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿児島県會於郡志布志町教育委員会
星塚遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
竹牟礼遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
中里遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
清水城跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
谷山薮池城跡―墓地公園建設計画に伴う緊急発掘調査報告書―	鹿児島市教育委員会
平成5年度鹿児島大学工学部フアカルティ・ディベロップメント委員会報告書(平成6年3月)	鹿児島大学工学部
南別府城跡―城山遺跡―	知覧町教育委員会
床並B遺跡	入来町教育委員会

# 受贈図書目録 (1994年4月1日～1995年1月20日)

書名	発行所	書名	発行所
単行書 日女道かゞみ 昭和の大修理30周年記念誌 荒神谷遺跡と環日本海(東海) 荒神谷遺跡をたずねて	日本城郭研究センター 鳥根県斐川町	大阪文化財センター研究助成報告書 研究紀要 Vol.1 大阪文化財研究-20周年記念増刊号- (財)八尾市文化財調査研究会事業報告 平成5年度	財団法人 大阪文化財センター 財団法人 大阪文化財センター 財団法人 八尾市文化財調査研究会
逐次刊行物 釧路市立博物館紀要 第18輯 釧路市立博物館報 No.344, 345 調査年報6 平成5年度 紀要 Ⅱ	釧路市立博物館 釧路市立博物館 財団法人 北海道埋蔵文化財センター (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	下田遺跡発掘調査 大阪府埋蔵文化財協会 研究紀要 2 ひらかた文化財だより 第19, 20号 昭和三十九年度 神戸市埋蔵文化財年報 昭和63年度 神戸市埋蔵文化財年報 平成3年度 神戸市埋蔵文化財年報 平成4年度 遺跡現地説明会資料 城郭研究室年報 Vol.3 1993 兵庫県埋蔵文化財情報 ひょうごの遺跡 15～17号	財団法人大阪府埋蔵文化財協会 財団法人大阪府埋蔵文化財協会 財団法人枚方市文化財研究調査会 財団法人枚方市文化財研究調査会 神戸市教育委員会 神戸市教育委員会 神戸市教育委員会 姫路市立城郭研究室 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
研究ノート 3号 年報13 平成5年度 歴史人類 第22号 研究紀要 第2号	(財)茨城県教育財団 (財)茨城県教育財団 筑波大学歴史・人類学系 (財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	文化財學報 第十一集 むかしむかしのそのむかし～益田市上久々茂土居跡・大峠遺跡の発掘調査から～ 鳥根県教育庁文化課埋蔵文化財調査センター年報Ⅱ 平成5年度 鳥根県埋蔵文化財調査センターニュース 4～9号	奈良大学文学部文化財学科 鳥根県教育委員会 鳥根県教育委員会 鳥根県教育庁文化課埋蔵文化財調査センター
埋蔵文化財センター年報 第4号(平成6年度)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	古代文化研究 第2号 岡山大学埋蔵文化財調査センター報 第11号 森山研究所研究報告 第19号 広島県立歴史民俗資料館ニュース 第17～21号年報 第15号-平成5(1993)年度- 歴史ニュース 第9, 10号	鳥根県古代文化センター 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 岡山理科大学 広島県立歴史民俗資料館 広島県立歴史民俗資料館・広島県立みよし風土記の丘 広島県立歴史民俗資料館・広島県立みよし風土記の丘
調査研究報告 第7号 きみさら市文化財センター研究紀要Ⅵ 君津郡市文化財センター年報No.11-平成4年度- ふくいミュージアム No.25, 26 岐阜市歴史博物館研究紀要第6号 岐阜市歴史博物館年報 No.8 平成5年度 博物館だより No.27-29 名古屋市博物館より 第17巻 名古屋市博物館だより 97-102 三重県埋蔵文化財センター通信 みえ No.13, 14 第3回三重県埋蔵文化財発掘調査速報展 '93発掘三重	埼玉県立さきたま資料館 (財)君津郡市文化財センター (財)君津郡市文化財センター (財)君津郡市文化財センター 福井県立博物館 岐阜市歴史博物館 岐阜市歴史博物館 岐阜市歴史博物館 名古屋市博物館 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター	古文化研究 第2号 岡山大学埋蔵文化財調査センター報 第11号 森山研究所研究報告 第19号 広島県立歴史民俗資料館ニュース 第17～21号年報 第15号-平成5(1993)年度- 歴史ニュース 第9, 10号	鳥根県古代文化センター 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 岡山理科大学 広島県立歴史民俗資料館 広島県立歴史民俗資料館・広島県立みよし風土記の丘 広島県立歴史民俗資料館・広島県立みよし風土記の丘
滋賀埋文ニュース 第169-176号 京都府埋蔵文化財情報 第51号	滋賀県埋蔵文化財センター 財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター	九州文化史研究紀要 第三十九号 春日市埋蔵文化財年報1 平成4年度 usm No.28-34 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース 宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 1991 宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 1992 宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 1993 F u n a i 府内及び大友氏関係遺跡総合調査研究年報Ⅱ	九州大学文学部九州文化史研究施設 春日市教育委員会 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 大分市歴史資料館
京都府埋蔵文化財情報 第52号 京都府埋蔵文化財情報 第53号 京都府埋蔵文化財情報 第54号	財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター	大分市文化財情報 葦火 49-53号 大分市文化財情報 葦火 50号別冊 号総目次	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 大分市歴史資料館
大阪市文化財情報 平成4年度 (財)大阪文化財センター設立20周年記念公開シンポジウム みるみるくふれる 原始・古代のコト作り 居組の技術とまつり	(財)大阪市文化財協会 (財)大阪市文化財協会 高槻市教育委員会 財団法人 大阪文化財センター	大分市歴史資料館ニュース No.24-27 大分市歴史資料館年報 1993年度 大分市歴史資料館年報(平成5年度) 古代を探る '94歴史のふるさと県民セミナ-	大分市歴史資料館 大分市歴史資料館 大分市歴史資料館 鹿児島県立埋蔵文化財センター

冊 名

冊 名

冊 名

冊 名

冊 名

冊 名

冊 名

理文だより 第6号	鹿見島立埋蔵文化財センター	仙台東郊桑里跡 発掘調査報告書	仙台市教育委員会
鹿見島大学南西地域研究資料センター報告 No53	南西地域研究資料センター	富沢・泉崎浦・山口遺跡(7) - 富沢遺跡第87次発掘調査報告書 -	仙台市教育委員会
沖繩県立博物館紀要 第20号	沖繩県立博物館	茨城県自然博物館(仮称)建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 高崎貝塚	(財)茨城県教育財団
沖繩県立博物館年報 No27	沖繩県立博物館	伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整備事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ ノノ脇遺跡・前田村遺跡	茨城県・(財)茨城県教育財団
説谷村立歴史民俗資料館紀要 第18, 19号	説谷村立歴史民俗資料館	一般県道谷田部藤代線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 日枝西遺跡・上岩崎南遺跡	茨城県・(財)茨城県教育財団
図録・目録	剣路市立博物館	岩井幸田工業団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書 姥ヶ谷津遺跡・南開遺跡	茨城県・(財)茨城県教育財団
剣路市立博物館収蔵資料目録(Ⅱ)歴史資料目録	古代オリエント博物館	(仮称)上高津団地建設事業地内埋蔵文化財調査報告書 寄居遺跡・うぐいす平遺跡	茨城県・(財)茨城県教育財団
(4)-生活資料 -	古代オリエントからのメッセージ 暮らしの考古学展	牛久北部特定土地区画整備事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ) 中久喜遺跡	住宅・都市整備公団つくば開発局・(財)茨城県教育財団
古学展	奈良歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター財団法人 大阪文化財センター	土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 原田北遺跡Ⅱ・西原遺跡	住宅・都市整備公団つくば開発局・(財)茨城県教育財団
三重県 農耕の技術とまつり 池島・福万寺遺跡の調査から	財団法人大阪府埋蔵文化財協会	国指定史跡 上高津貝塚A地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告書 -	土浦市教育委員会
第9回 泉州の遺跡展 -平成5年度発掘調査成果・堺市下田遺跡の銅鐸と木製品 -	神戸市埋蔵文化財センター	飯野宅地造成に伴う埋蔵文化財調査 -	岩澤正道・(財)君津郡市文化財センター
企画展示 古代人と動物	広島県立歴史博物館	千葉県富津市 - 飯野陣屋二の丸跡 - 富津市下飯野宅地造成に伴う埋蔵文化財調査 -	君津市・(財)君津郡市文化財センター
開館5周年記念広島県立歴史博物館新収蔵資料展	広島県立歴史博物館	千葉県君津市 - 郡奈遺跡Ⅲ	立市川考古博物館
開館5周年記念・春の特別企画展 日本琴始め -福山琴への流れ -	広島県立歴史博物館	下総国分寺跡 平成元~5年度発掘調査報告書	小野明・(財)君津郡市文化財センター
日本のなかのアジア文化 -漢字・南画・仏像 -	広島県立歴史博物館	千葉県君津市 - 戸崎城山遺跡C地点	千葉県木更津土地改良事務所・(財)君津郡市文化財センター
開館5周年記念◆秋の特別企画展	広島県立歴史博物館	千葉県富津市 - 横峰遺跡	千葉県木更津土地改良事務所・(財)君津郡市文化財センター
歴史部門展 福山藩の教育と文化 -江戸時代後期を中心 -	広島県立歴史民俗資料館	千葉県富津市 - 上北原古墳	千葉県木更津土地改良事務所・(財)君津郡市文化財センター
古墳と大陸文化	大分市歴史資料館	千葉県袖ヶ浦市 - 美生遺跡群Ⅰ第1地点	東京湾観光株式会社・(財)君津郡市文化財センター
第12回特別展 豊後の博学 後藤碩田調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	千葉県木更津市 - 林遺跡Ⅱ 道路改良工事(市道145号線)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ	木更津市・(財)君津郡市文化財センター
越中畑V遺跡発掘調査報告書 東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	千葉県君津市外箕輪遺跡発掘調査報告書	有限会社 君津日の丸・(財)君津郡市文化財センター
観音館建設関連遺跡発掘調査 東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	千葉県袖ヶ浦市 - 下山遺跡	有限会社 芝崎・(財)君津郡市文化財センター
岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成5年度分)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	秋保陵墓参考地石室内現況調査報告 平成四年	宮内庁晋陵部陵墓課
新山権現社遺跡発掘調査報告書 一般県道長坂東稲前沢線箱石橋橋梁整備事業関連遺跡発掘調査	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	度陵墓関係調査概要	一般県道上柏屋厚木線埋蔵文化財発掘調査団
東稲前沢線箱石橋橋梁整備事業関連遺跡発掘調査	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	度陵墓上柏屋厚木線交通安全施設等整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 伊勢原市No14遺跡 伊勢原市No160遺跡	神奈川県埋蔵文化財調査報告36
千手堂・羽黒山麓Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書 東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	神奈川県埋蔵文化財センター調査報告21 宮ヶ瀬遺跡群Ⅳ 北原(No9)遺跡(2)北原(No11)遺跡	神奈川県立埋蔵文化財センター
北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	跡 宮ヶ瀬ダム建設にともなう調査	神奈川県立埋蔵文化財センター
塚野Ⅰ・塚野Ⅱ遺跡発掘調査報告書 東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター		
燧孫遺跡発掘調査報告書 東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター		
白木野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書 東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査	仙台市教育委員会		
昭和三十九年度秋田県埋蔵文化財センター調査報告書	仙台市教育委員会		

母 名	発 行 所	母 名	発 行 所
神奈川県伊原市 八幡谷戸遺跡	八幡谷戸遺跡調査団	V 東郷遺跡(第35次調査)VI八尾南遺跡(第7次調査)	
海老名本郷(IX)	富士ゼロックス株式会社・本郷遺跡調査団	三ヶ山遺跡II 主要地方道枕方・畜田林・泉	財団法人大阪府埋蔵文化財協会
海老名本郷(XII)	富士ゼロックス株式会社・本郷遺跡調査団	佐野繪建設に伴う発掘調査報告書	財団法人大阪府埋蔵文化財協会
阿弥陀堂遺跡・深作薬垣内遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター	芝ノ垣外遺跡II - 発掘調査報告書	財団法人大阪府埋蔵文化財協会
陸地遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター	上フジ遺跡III - 三田古墳 都市計画道路泉州山	財団法人大阪府埋蔵文化財協会
荒城神社遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター	手線建設に伴う発掘調査報告書	財団法人大阪府埋蔵文化財協会
諏訪洞岩遺跡	三重県埋蔵文化財センター	男里遺跡 都市計画道路樽井男里線建設に伴う	
尾崎遺跡	三重県埋蔵文化財センター	発掘調査報告書	
伊勢寺庵寺・下川遺跡ほか	三重県埋蔵文化財センター	池田寺遺跡IV 近畿自動車道松原海南線・都市	大阪府教育委員会・財団法人大阪府埋蔵文化財協会
一般国道23号 中勢道路 埋蔵文化財発掘調査	三重県埋蔵文化財センター	計画道路泉州山手線・和泉中央丘陵新住宅市街	
概報VI		地開発事業に伴う発掘調査報告書	
一般国道23号中勢道路(9工区)道路建設事業に伴う		野々井遺跡 近畿自動車道松原すさみ線建設に伴う発掘調査報告書	大阪府教育委員会・財団法人大阪府埋蔵文化財協会
伴う松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告		野々井遺跡・ON231号線跡 近畿自動車道松原すさみ線建設に伴う発掘調査報告書	大阪府教育委員会・財団法人大阪府埋蔵文化財協会
一般国道42号松阪・多気バイパス 埋蔵文化財		原すさみ線建設に伴う発掘調査報告書	大阪府教育委員会・財団法人大阪府埋蔵文化財協会
発掘調査概報IV		神並遺跡II - 第二阪奈有料道路建設に伴う神並	東大阪教育委員会・財団法人 東大阪市文化財協会
山城遺跡・北瀬古遺跡		遺跡第13次発掘調査概要報告書	東大阪教育委員会・財団法人 東大阪市文化財協会
名賀郡青山町勝地〜妙楽地 川南D遺跡・勝地		西ノ辻遺跡第23次発掘調査報告	
中世墓群発掘調査報告		高塚山古墳群発掘調査概要	神戸市教育委員会
一般国道161号(湖北バイパス)建設に伴う今津町		出合遺跡 第27次発掘調査報告書	神戸市教育委員会
内遺跡発掘調査報告書 高田館遺跡		神戸市垂水区 垂水・日向遺跡 第1, 3, 4	神戸市教育委員会・財団法人 神戸市スポーツ教育公社
内遺跡発掘調査報告書V 針江川北(II)遺跡・		次調査(日向地区・陸ノ町地区)	神戸市教育委員会・財団法人 神戸市スポーツ教育公社
吉武城遺跡		神戸市兵庫区 大開遺跡 発掘調査報告書	兵庫県水上郡教育委員会・奈良大学文学部考古学研究室
瀬田川落漕工事他関連埋蔵文化財発掘調査報告		水上郡埋蔵文化財分布調査報告書(1) 兵庫県	
巻I 蜷谷遺跡・石山遺跡		水上郡市島町	
上町台地の遺跡 - 大阪市天王寺区清水谷町の調査	(財)大阪市文化財協会	百塚第一遺跡	鳥取県西伯郡淀江町教育委員会
大坂城下町跡I - 扶桑道修町ビル建設工事に伴う発掘調査	(財)大阪市文化財協会	福岡谷ノ上遺跡発掘調査報告書	鳥取県淀江町教育委員会
大阪市平野区長原・瓜破遺跡発掘調査報告IV	(財)大阪市文化財協会	今津岸の上遺跡発掘調査報告書	鳥取県淀江町教育委員会
-1984年度大阪市長吉瓜破地区土地区画整理事業施行に伴う発掘調査報告書		今津岸の上遺跡発掘調査報告書II	鳥取県淀江町教育委員会
鳴上遺跡群18		小波原遺跡発掘調査報告書	鳥取県淀江町教育委員会
図録 大坂城跡の調査 3	高槻市教育委員会	大下原遺跡発掘調査報告書	鳥取県淀江町教育委員会
若江遺跡第44次発掘調査報告	財団法人 大阪文化財センター	北尾宮遺跡発掘調査報告書	鳥取県淀江町教育委員会
西ノ辻遺跡第35次発掘調査報告	財団法人 東大阪市文化財協会	淀江町内遺跡発掘調査報告書IV	鳥取県淀江町教育委員会
西ノ辻遺跡第36次発掘調査報告	財団法人 東大阪市文化財協会	百塚遺跡群II 小波林ノ奥遺跡発掘調査報告書	淀江町教育委員会
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告	財団法人 東大阪市文化財協会	益田市上久々茂土居跡遺跡出土鉄滓・鉄釘の金属学的調査	鳥根県教育委員会
-1992年度 -		斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査	
八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 I 田井中遺跡(志紀遺跡)II八尾南遺跡(第10次調査)III東弓削遺跡(第3次調査)	財団法人 八尾市文化財調査研究会	報伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査	
八尾市埋蔵文化財発掘調査報告III I久宝寺遺跡(第4次調査)II小阪合遺跡(第19次調査)III小阪合遺跡(第20次調査)IV東郷遺跡(第33次調査)	財団法人 八尾市文化財調査研究会	上久々茂土居跡・大時遺跡 - 一般国道191号改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -	鳥根県教育委員会・建設省浜田工事事務所
		津島岡大遺跡 4 - 第5次調査 - (大学院自然科学研究科棟新営予定地)	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

母名	発行所	書名	発行所
草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ 北部地域南半部の調査	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所	梨川内村前遺跡(1)	唐津市教育委員会
江口貝塚Ⅱ－縄文後晩期編	愛媛大学文学部考古学研究室	夏女遺跡	熊本県教育委員会
愛媛県松山市葉佐池古墳－木植がのこされた横穴式石室の調査	松山市教育委員会	小野・大遺跡	大分県安岐町教育委員会
古照遺跡－第7次調査	松山市教育委員会	永添遺跡・中津城跡(御用屋敷跡)・ホヤ池窯跡	中津市教育委員会
斎院の遺跡 北斎院地内・斎院烏山	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	1993年度中津地区遺跡群発掘調査概報(VI)	中津市教育委員会
上野遺跡	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	原遺跡 株式会社セゼエム工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	鹿兒島県始良町教育委員会
石井幼稚園遺跡 南中学校構内遺跡－第2次調査	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	始良町中世城跡	鹿兒島県肝属郡串良町教育委員会
大峰ヶ丘古墳の遺跡 朝美澤1次・客谷古墳群B地区・朝日谷1号墳	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	県営免農道整備事業(第2肝属中央地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 稲村城跡	鹿兒島県教育委員会
東山古墳群－4・5次調査	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	鹿兒島サン・オーション・リゾート地域埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅱ) 指宿地区(指宿市・喜入町・山川町・開聞町・穎娃町・三島村) 平成5年度	鹿兒島県教育委員会
北久米浄運寺遺跡～3次調査地～	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅲ) 宮之城町・薩摩町 平成5年度	鹿兒島県教育委員会
来住・久米地区の遺跡Ⅱ 来住庵寺18・20次・久米窪田森元3次	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	薩史の道調査報告書 第二集 大口筋・加久藤筋・日向筋	鹿兒島県教育委員会
妙見山古墳概報集成 発掘調査概報Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ九州大学埋蔵文化財調査報告－九州大学筑紫地区遺跡群－(第3冊)	松山市教育委員会・愛媛大学考古学研究室九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室	県営は場整備事業柴田地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中川A遺跡・中川B遺跡・浅井作遺跡	鹿兒島県指宿市教育委員会
影塚東遺跡(弥生時代編)－福岡県嘉穂郡桂川町大字土師師所在遺跡群第7地点の調査	桂川町教育委員会	橋幸礼川遺跡Ⅵ(概報)指宿駅西部土地区区画整理事業に伴う発掘調査概要報告書	鹿兒島県指宿市教育委員会
瀬戸古墳群－福岡県嘉穂郡桂川町大字瀬戸所在古墳群の調査	桂川町教育委員会	橋幸礼川遺跡Ⅶ 橋幸礼川遺跡範囲確認調査報告書	鹿兒島県指宿市教育委員会
西田地区遺跡群Ⅰ－嘉穂郡桂川町大字土師師所在西田地区遺跡群の調査	桂川町教育委員会	南迫田遺跡 ふるさと農道整備事業に伴う確認調査報告書	鹿兒島県指宿市教育委員会
土師地区遺跡群Ⅴ－福岡県嘉穂郡桂川町大字土師師所在影塚横穴墓群(1地点)・長迫・寿命隈北飯塚牟田南(2地点)等各遺跡の調査	桂川町教育委員会	榎崎B(Ⅰ)遺跡－郷之原町店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿兒島県鹿屋市教育委員会
土師地区遺跡群Ⅵ－福岡県嘉穂郡桂川町大字土師師所在寿命隈西・寿命隈東・飯塚牟田北・八王子橋穴墓群等各遺跡の調査	桂川町教育委員会	岡泉(Ⅳ)遺跡 一特殊農地保全整備事業(西原台地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿兒島県鹿屋市教育委員会
土師地区遺跡群Ⅶ－嘉穂郡桂川町大字土師師所在大坪遺跡・赤松浦遺跡等の調査	桂川町教育委員会	岡泉(Ⅴ)遺跡 一特殊農地保全整備事業(西原台2期地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿兒島県鹿屋市教育委員会
影塚横穴墓群(2地点)・二塚遺跡等の調査	桂川町教育委員会	岡泉(Ⅵ)遺跡 一特殊農地保全整備事業(西原台地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿兒島県鹿屋市教育委員会
須玖五反田遺跡	春日市教育委員会	岡泉(Ⅶ)遺跡 一特殊農地保全整備事業(西原台Ⅱ期地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿兒島県鹿屋市教育委員会
久里及水古墳調査概要(3)	唐津市教育委員会	岡泉(Ⅷ)遺跡 一特殊農地保全整備事業(西原台地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿兒島県鹿屋市教育委員会
高塚遺跡(2)	唐津市教育委員会	高付(Ⅱ)遺跡－土地区画街路新設工事(白崎・新川町)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿兒島県鹿屋市教育委員会
唐津市内遺跡確認調査(9) 土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告	唐津市教育委員会	松の岡(Ⅰ)遺跡－霧島ヶ丘公園造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿兒島県鹿屋市教育委員会
徳蔵谷遺跡(1)	唐津市教育委員会	前畑(Ⅱ)遺跡 一郷之原町給油所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿兒島県鹿屋市教育委員会

書 名 発 行 所

- 谷平(Ⅳ)遺跡 一霧島ヶ丘公園整備事業(改良舗装新設工事)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一  
谷平遺跡(Ⅳ・Ⅴ)一霧島ヶ丘公園造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一  
トカラ列島の考古学的調査  
県営ほ場整備事業針地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 水葉山遺跡  
県営圃場整備事業(平出水地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 馬場A遺跡・馬場B遺跡・辻町遺跡  
知覧城跡(二)  
林川(向林川)遺跡  
一般国道220号鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査報告書(Ⅶ) 榎崎B遺跡  
西原段Ⅱ遺跡 過疎基幹農道整備事業北3期地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  
川路山遺跡 平成5年度県営シラス対策関連事業須田木地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書  
鳴神遺跡 平成4年度大隅町八合原土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書(その1)  
向ノ段・大丸・小迫頭遺跡 大隅町道沖上～神牟礼線道路改良整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  
具志川高遺跡群
- 鹿児島県鹿屋市教育委員会  
鹿児島県鹿屋市教育委員会  
鹿児島県十島村教育委員会  
鹿児島県大口市教育委員会  
鹿児島県大口市教育委員会  
鹿児島県知覧町教育委員会  
鹿児島県知覧町教育委員会  
鹿児島県立埋蔵文化財センター  
會於郡大隅町教育委員会  
會於郡大隅町教育委員会  
會於郡大隅町教育委員会  
大隅町教育委員会  
沖繩県伊是名村教育委員会

# 付 編

- 付編Ⅰ 郡元団地P-4・5区（教育学部音楽美術科棟建設地）における発掘調査報告
- 付編Ⅱ 郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査報告
- 付編Ⅲ 中央図書館南側樹木移植及び撤去工事に伴う立合調査における出土遺物について

# 付編 I 郡元団地 P-4・5区（音楽美術科棟）における発掘調査報告

## 1 調査に至る経過

鹿児島大学では郡元一丁目20番6号に所在する教育学部の音楽美術科棟を建て替えることになり、Fig. 3-2がその建設予定地とされた。本地点の西側に近接して水町遺跡（郡元団地P-6・7地点）があり、昭和59～60年に行われた調査によって、水田、溝などの遺構が検出され、土器などの遺物も出土している<sup>1)</sup>。本地点においても昭和63年に試掘調査が行われ、溝状遺構やピットなどが検出され、また、成川式土器などの遺物が出土している<sup>2)</sup>。

以上の調査結果から新校舎の建設にあたって、建設予定地においても事前に埋蔵文化財発掘調査を行うこととなり、平成4年6月16日から10月3日にかけて実施した。

## 2 調査の体制

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室室長  
上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

室員 中村直子・大西智和・黒木綾子・

前幸男

発掘調査作業員 脇ツルエ・脇俊子・吉永セツ子・  
巖谷ミエ子・岩戸トシ子・末吉ナミ・谷口テ  
ル・野下チリ子・柳田キミ子・柳田二三子・岩  
戸ミツ子・中原チヅ子・盛満アイ子・名越ヒデ  
子・福永花江・岩戸エミ子・野下ヨシエ・坂口  
ミエ子・寺光ミツ子・石谷サチ子・増満ミエ  
子・請園チリ・請園アキエ・西村チエ子・諏訪  
田フサエ・福永シノブ・安倍松伊都子・松下ミ  
チ・末吉ミヤ

## 3 調査の経過

調査にあたっては、まず、試掘調査の結果を参

照にして、現地での立合いのもと、表土を重機によって除去した。その結果、調査区の北半分は以前に建物があり、その基礎工事のために地表から平均で約1m下のところまで攪乱されていることがわかった。調査区西側の便所と調査区東端の南北に敷設された汚水管はともに使用中のものであるため、以後の掘り下げは行わなかった。

掘り下げにあたっては、南北と東西に1本ずつ層位断面観察用のベルトを残した。

調査の結果、3b層上面で畦状の遺構を検出した（Fig.42）。3b層から6層にかけて、9基の土壇、13条の溝および、239基のピットを検出した。各遺構の実測、測量、写真撮影を行い、調査区の壁面および、層位観察用のベルトの断面実測図を作成して調査を終了した。なお、遺物としては、遺構や包含層から土器を中心に約4400点が出土した。

## 4 層位 (Fig.43・44)

1～6層までの基本層位を確認した。3～5層はさらにいくつかの層に細分することができた。

1層 表土層。暗灰黄色（2.5Y5/2）を呈するシラスの二次堆積土。

2層 表土層。橙色（5YR7/6）を呈するシラスの二次堆積土。

3a層 黄灰色（2.5Y5/1）を呈するシラスの二次堆積土。鉄分が浸透しており、パミスが含まれる。

3b層 灰黄褐色（10YR6/2）を呈する粗いシルト質砂層。0.5cm大のパミスを含む。

3c層 明褐色（10YR6/4）を呈する小粒パミス混じりのシルト質砂層。シラスの二次堆積土である。

4a層 にぶい黄橙色（10YR6/4）を呈するシルト質砂層で、小粒のパミスが混ざり、鉄分が浸透している。シラスの二次堆積土である。

4b層 黄褐色（10YR5/6）を呈し、小粒のパミスを含むシルト質砂層。3b層と砂層の混土層であ



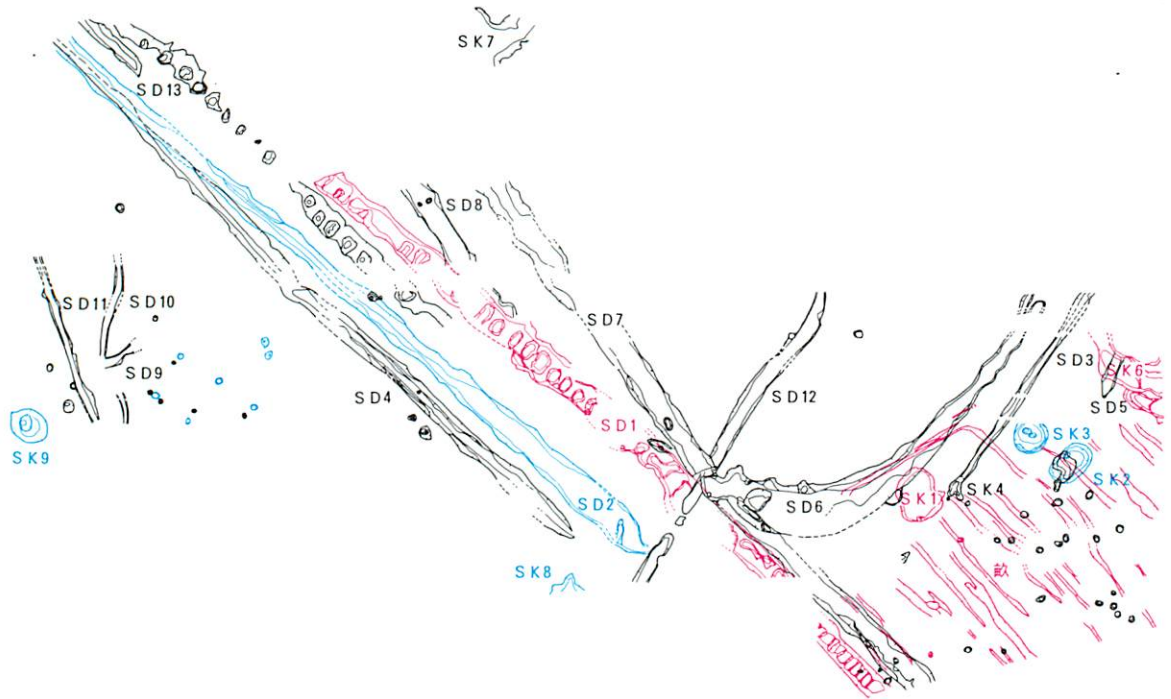


Fig.42 遺構平面図 S=1/250

- る。
- 4c層 明黄褐色(10YR6/8)を呈するシルト質砂層で、小粒のパミスが混ざり、鉄分が浸透している。シラスの二次堆積土である。5d層を基調として黄色砂をブロック状に含む。
- 4d層 暗褐色を呈する、4c層が暗くなった層。
- 4e層 黄褐色(10YR5/6)を呈する、小粒のパミスを含むシルト質砂層。あるいは、淡黄色(2.5Y7/3)から明黄褐色(10YR6/8)を呈する細砂を基調とする層。東から西方向に傾斜して、縞状に堆積しており、粗砂が混ざる。
- 4f層 図面58 明黄褐色(10YR6/8)を呈する粗いシルト質砂層、または、黄褐色(10YR5/8)を呈する、鉄分が多く浸透したシルト質砂層。0.5cm大のパミスを含む。
- 5a層 明黄褐色(10YR6/8)を呈し、粗砂を基調とする。5g層をブロック状に含み、また、パミスも含む。5c層と同一の層であると考えられる。
- 5b層 暗赤褐色(5YR3/2)を呈する細かいシルト質細砂層。5g層に鉄分が浸透した感じの層である。
- 5d層 黒色(7.5YR2/1)を呈するシルト層で、粘性は無く、パミスの礫を若干含む。

- 5f層 黒褐色(10YR3/2)を呈するシルト層で、粘性は無く、パミスの礫を若干含む。
- 5g層 黒色(10YR2/1)または極暗赤褐色(2.5YR2/2)を呈するシルト層で、粘性は無く、パミスの礫を若干含む。
- 6層 黄褐色(10YR5/6)～黒褐色(2.5Y3/2)を呈する粗砂層。グラデーションで下ほど薄くなり、2～4cm大のパミスを多く含む。

基本土層の他、局部的に以下の層を観察することができた。

- ① SD11の埋土。にぶい赤褐色(5YR4/4)を呈するシルト質砂層。堅くしまっており、5g層土をブロック状に含む。
- ② SD4の埋土の上層。黄褐色(10YR5/8)を呈するシルト質砂を基調とし、黄灰色(2.5Y5/1)土をブロック状に含む。0.5cm大のパミスを含み、下部には粗砂が混ざる。
- ③ SD4の埋土の下層。オリーブ黒(5Y3/1)を呈するシルト質砂を基調とし、6層土をブロック状に含む。
- ④ SD2の埋土。灰黄褐色(10YR6/2)を呈するシルト質砂層。1cm大のパミス、マンガンを含む。4e層と考えられる粗砂をブロック状に含

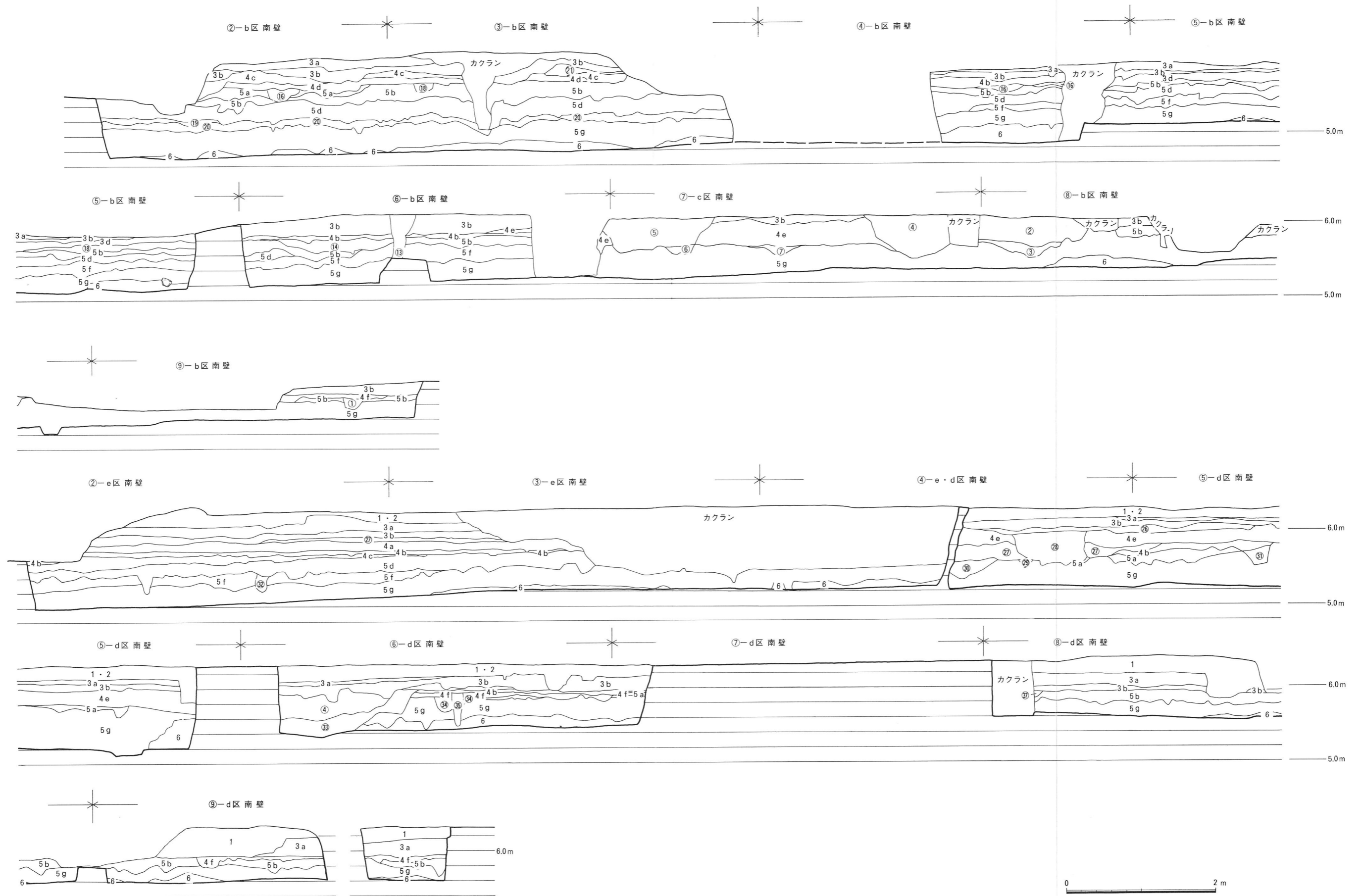


Fig.43 層位断面図(1) S=1/50

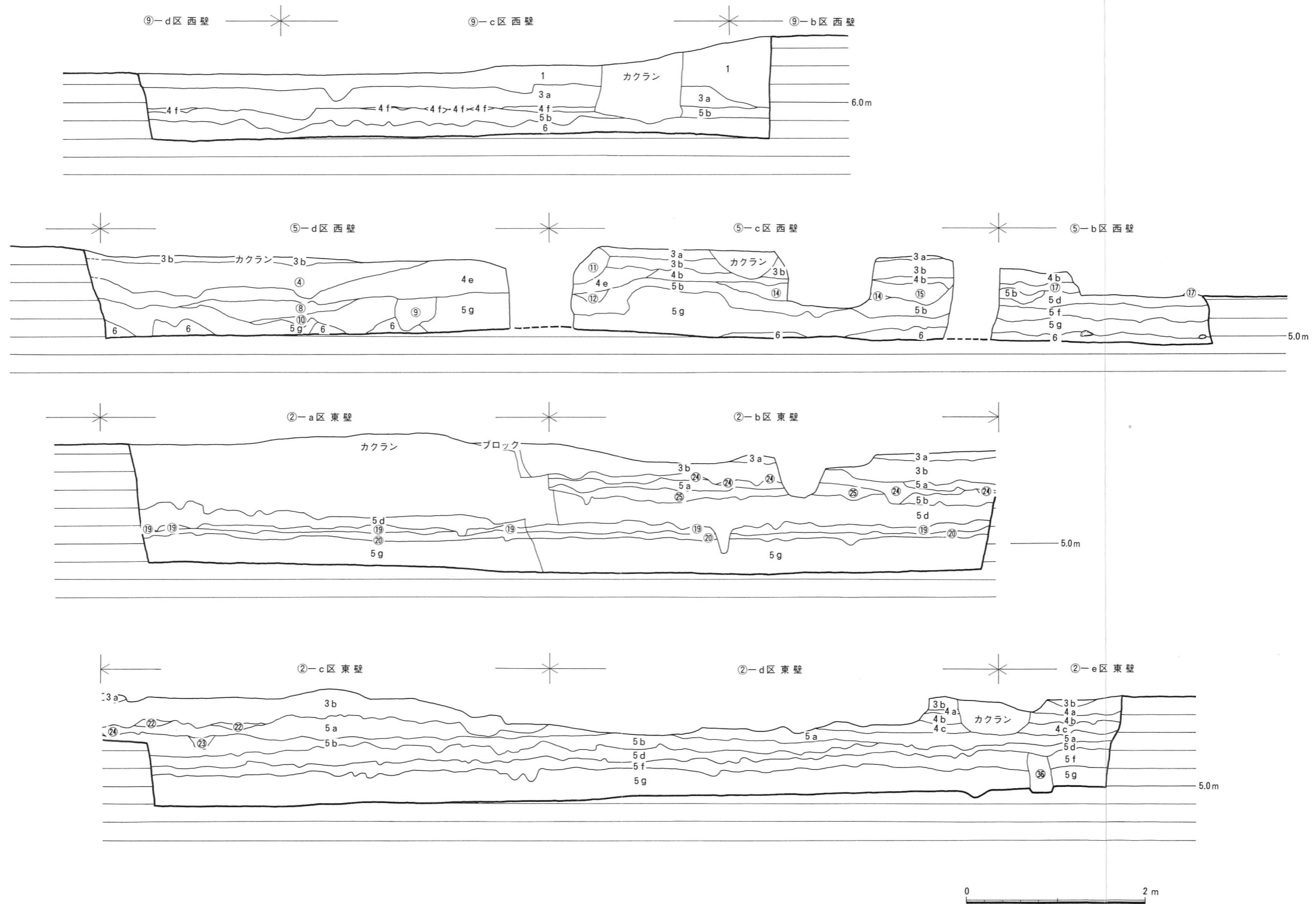


Fig.44 層位断面図(2) S=1/50

- む。
- ⑤ SD1の埋土。2.5Y5/3(黄褐色)を呈するシルト質砂を基調とし、5g層をブロックで含む。0.5cm大のパミスを含む。
- ⑥ SD1の埋土。⑤層土と⑧層土の混土。
- ⑦ SD6の埋土。オリーブ黒色(5Y3/1)を呈するシルト質砂層で、5g層土が混ざる。SD4の埋土と非常に似ている。
- ⑧ 4e層と粗砂層の混土。縞状に礫などを多く含む。
- ⑨ 5g層と非常に似ているが、軟らかいため、樹痕の可能性が高い。
- ⑩ 5g層に鉄分が浸透した層で、非常に堅い。
- ⑪ SD1の埋土、3a層を基調とし、4e層が混ざる。パミス、礫などを含む。
- ⑫ 4e層を基調とし、5層土をブロック状に含む。
- ⑬ 3a層を基調とし5b・5f層をブロック状に含む混土である。粘性が無く軟らかい。
- ⑭ SD7の埋土。上部は明黄褐色(10YR6/8)を呈する粗砂層。下部は褐色(10YR4/6)を呈する粗砂層であるが、細砂も見られる。
- ⑮ 暗黄褐色(2.5Y6/8)を呈し、粒子は細かく粘性は無い。鉄分が浸透している。4c層に類似する層である。
- ⑯ SD3の埋土。淡黄色(2.5Y8/4)の細砂と粗砂が縞状に堆積しており、底の方には5b層土が薄く堆積している。⑱層に類似している。
- ⑰ 黄褐色(10YR5/6)を呈するシルト質砂層。小粒のパミスを多く含む。
- ⑱ SK5の埋土。黄色(2.5Y7/8)の細砂と粗砂が縞状に堆積。底の方には5b層が薄く堆積している。⑲層に類似している。
- ⑲ 5f層と同じであるが、この部分では2層に分けられ、その上部に相当する、黒褐色(10YR2/3)～褐灰色(7.5YR4/1)を呈するシルト層。
- ⑳ 5f層と同じであるが、この部分では2層に分けられ、その下部に相当する、黒褐色(2.5Y3/2)～にぶい黄褐色(10YR4/3)を呈するシルト層。
- ㉑ 灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂層で、パミスが混ざる。
- ㉒ 黄褐色(10YR5/6)を呈するシルト質砂層で、パミス、鉄分の固まりを含む。
- ㉓ 明黄褐色(10YR6/8)を呈するシルト質砂層で、パミス、鉄分の固まりを含む、堅くしまった層である。
- ㉔ 黄橙色(10YR7/8)を呈する砂層を基調とし、底には27層土をブロック状に含む。
- ㉕ 灰黄褐色(10YR5/2)を呈するシルト質砂層で、マンガンを含む。
- ㉖ 灰黄色(2.5Y7/2)細砂層で、マンガンを含む。
- ㉗ 灰黄色(2.5Y6/2)を呈する砂混じりの細砂層。マンガンを多く含み、小粒のパミスも含む。
- ㉘ SD1の埋土。黄褐色(2.5Y5/3)を呈し、シルト質砂を基調とし、パミスを含む。
- ㉙ 橙色(7.5Y6/8)を呈するシルト質砂を基調とする層である。底には6層土がブロックで含まれる。
- ㉚ SD7の埋土。上部は明褐色(7.5YR5/8)を呈し、下部は暗褐色(7.5YR6/3～3/4)を呈する細砂で、5g層を縞状に含む。
- ㉛ 褐灰色(5YR5/1)を呈するシルトと、5g層土、パミス礫との混土。
- ㉜ 黒色(10YR2/1)を呈するシルト層。ピットの埋土と考えられる。
- ㉝ 灰黄色(2.5Y6/2)～にぶい黄橙色(10YR7/3)を呈する粗砂を基調とし、灰黄褐色(10YR6/2)を呈する細砂が縞状に堆積している。
- ㉞ にぶい黄褐色(10YR4/3)を呈するシルト質砂層。
- ㉟ にぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する粘性の無いシルト質砂層。非常に軟らかいため樹痕と考えられる。
- ㊱ 黒褐色(7.5YR3/1)を呈するシルト層。ピットの埋土であると考えられる。
- ㊲ 黄灰色(2.5Y4/1)を呈するシルト質砂に、明黄褐色(2.5Y6/8)の鉄分を非常に多く含む層。

## 5 遺構と遺構出土の遺物

3～6層にかけて、畝、溝状遺構13条、土壇状遺構9基、ピット239基を検出した。以下に各層ごとに検出された遺構および出土遺物の説明を行いたい<sup>3)</sup>。

(1) 3層検出の遺構 (Fig.47)

畝

調査区南東部の3b層で、20数条の細長いわずかな落ち込みを検出した。埋土は3a層土で、それらのほとんどが北西-南東向きであるが、わずかに北東-南西向きのももある。それぞれの落ち込みの間隔は必ずしも一定ではないが、これらが検出された層は水田層と考えられることから、これらは畝に伴う落ち込みであると判断した。ほとんどの落ち込みは北西-南東向きであるが、これはすぐ東側で、同じ3b層から検出されたSD1と同じ向きである。方向などから考えて、これらが関係を有していた可能性は高いと考えられる。なお、畝からの出土遺物はほとんど無いため、これらが用いられていた年代を直接推定することはできない。

SK1 (Fig.45)

調査区南東部の3b層上面で検出されたが、遺物は出土しなかった。楕円形に近い形態を呈する。約1.8m×1.5mを測り、深さは約15cmほどである。先述の畦と同じ検出面であるが、直接の切り

合い関係はつかめない。SD1や畝と関連のある遺構である可能性は高いと推定できることから、「稲積み」であると考えたい。埋土は、黄色砂質シルトと3b層の混土である。

SK6

調査区東端の3b層上面で検出された。複数の土塊が組み合わさっている。全体の形を知ることはできず、性格は不明である。検出した規模は約2.6×2.3mで、遺物は出土していない。

SD1 (Fig.48・46)

調査区北西部～南東部にかけての3b層上面で検出された。北西-南東向きである。検出した部分の長さは約25m、幅約0.8m、深さ約0.3mである。底の部分にさらに四角形状の落ち込みが連続して見られる。埋土は基本的に砂（細砂～粗砂）で

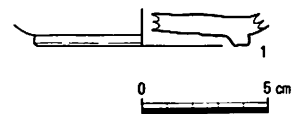


Fig.46 SD1出土の遺物 S=1/3

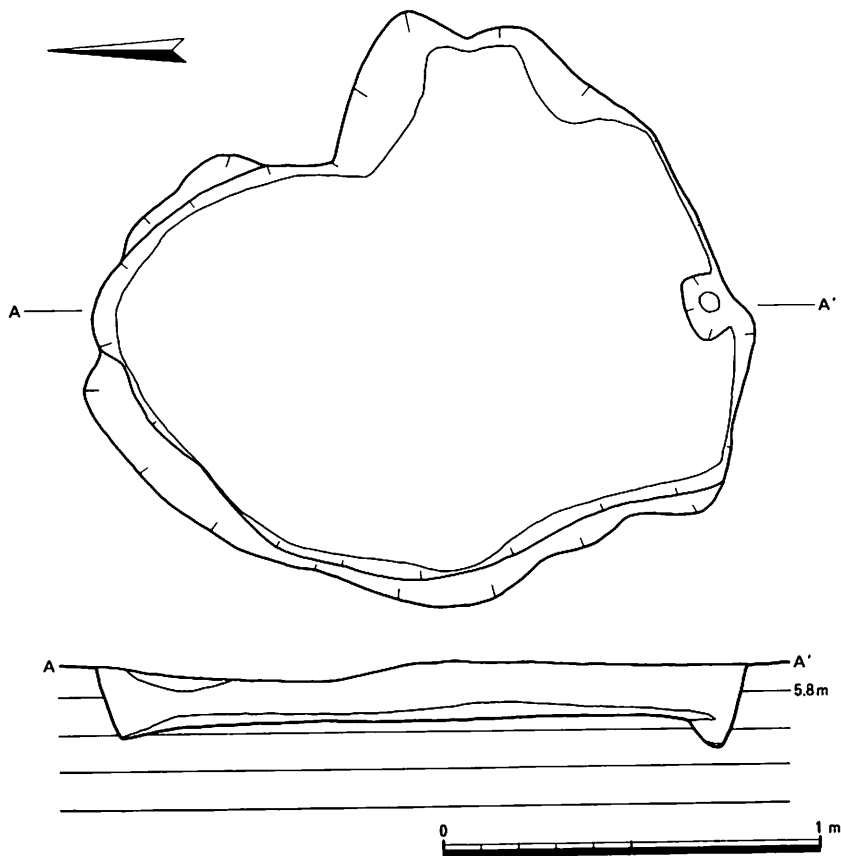


Fig.45 3層検出の遺構 SK1 S=1/20

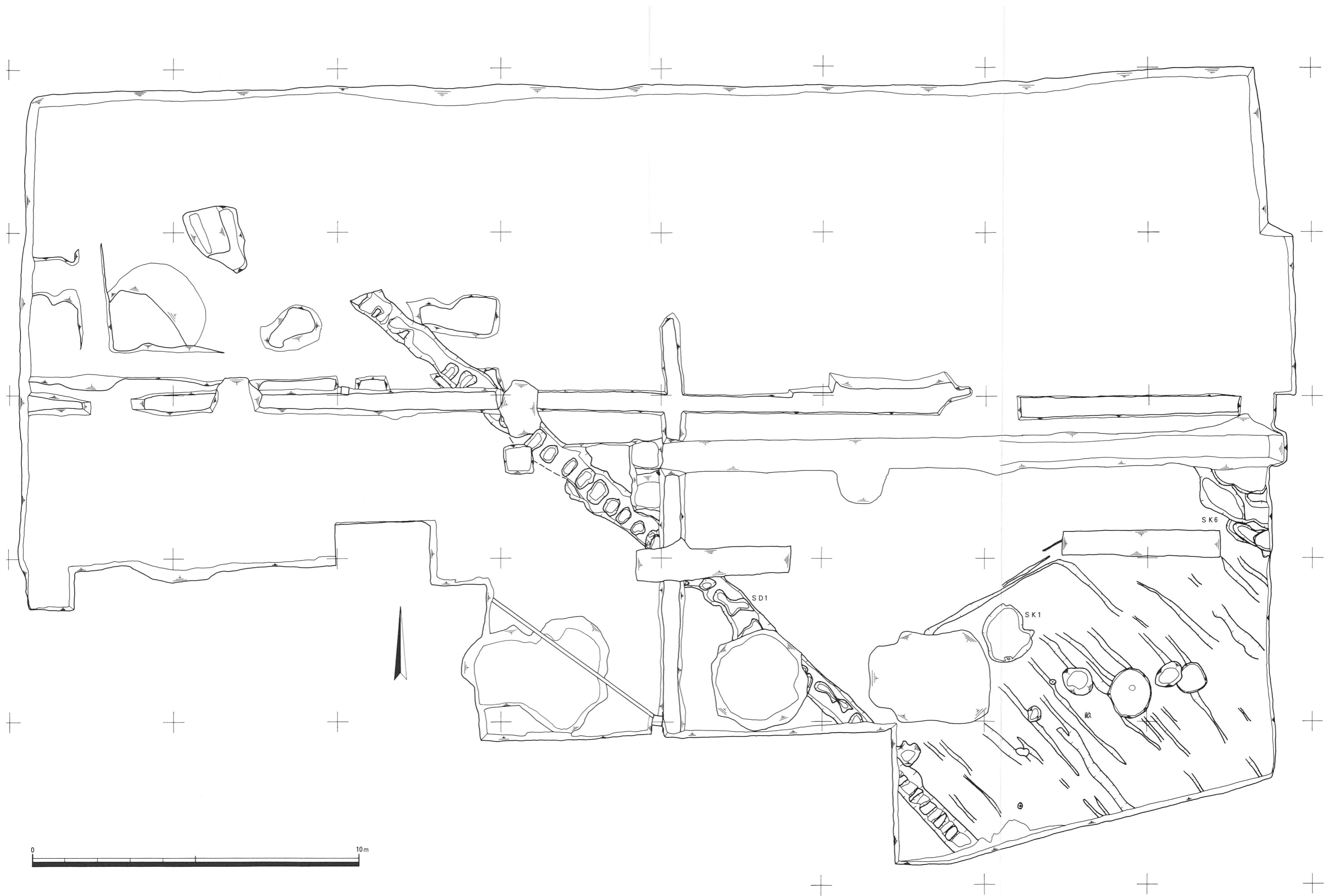


Fig.47 3層検出の遺構平面図 S=1/100

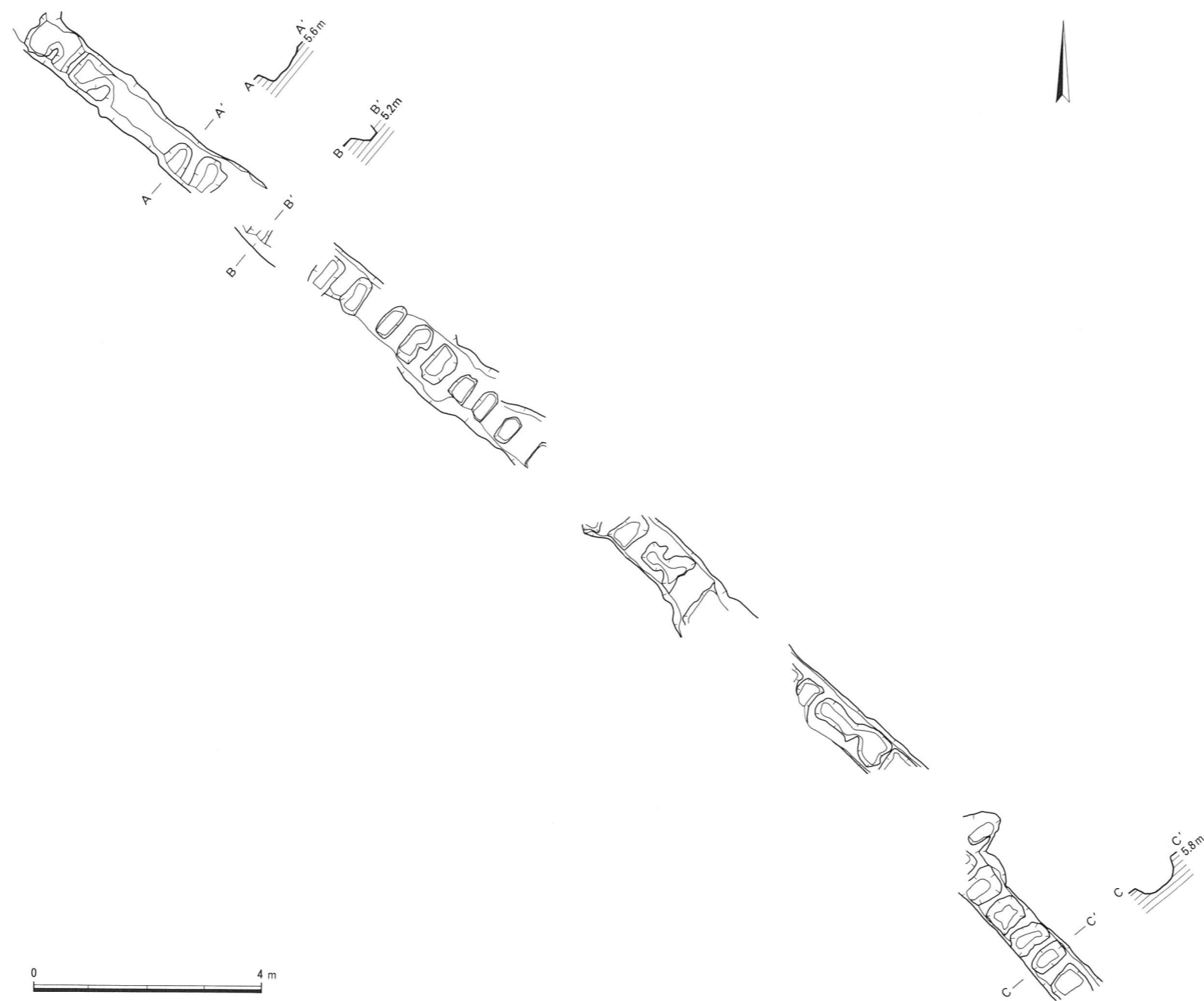


Fig.48 3層検出の遺構 SD1 S=1/100

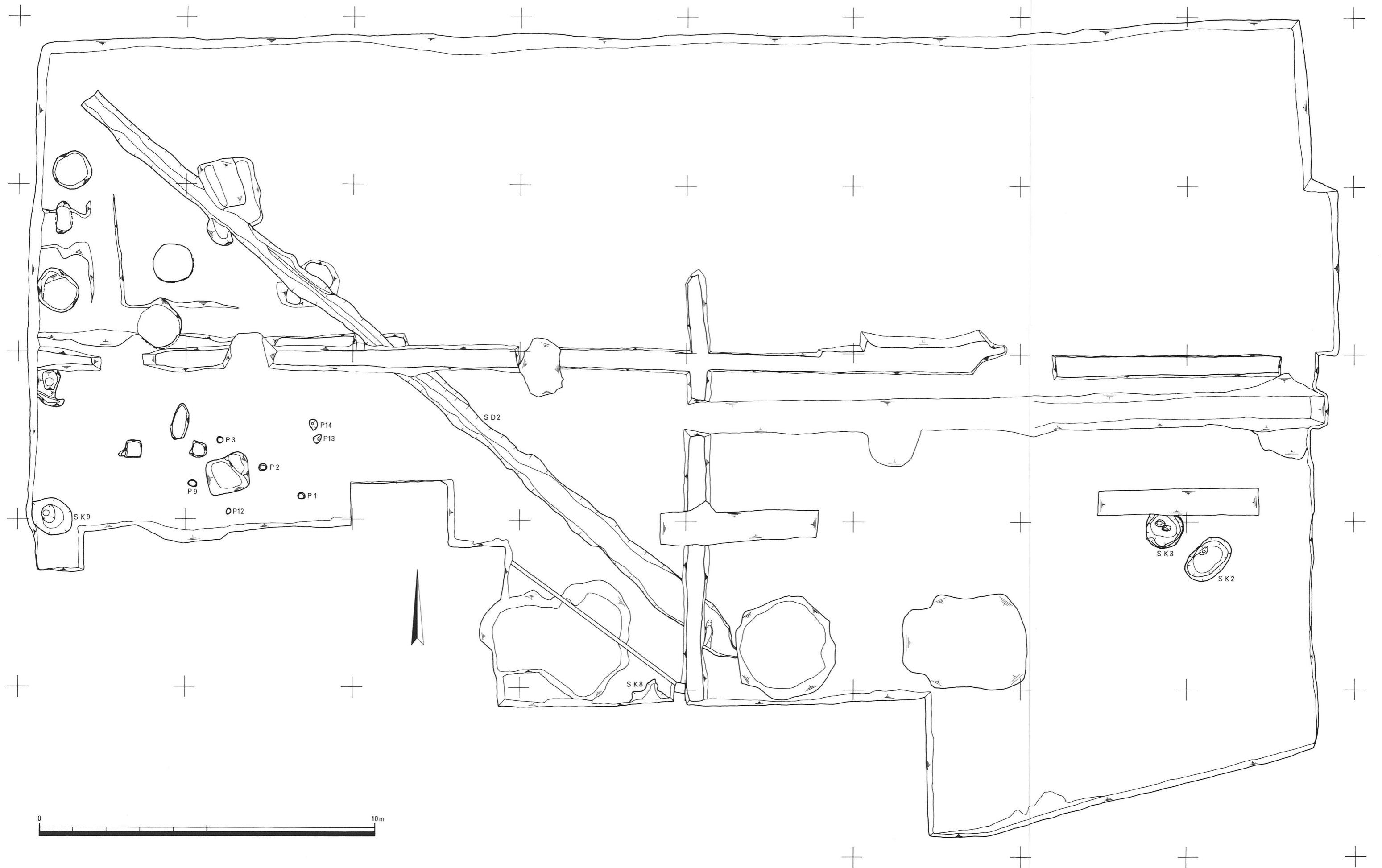


Fig.49 4層検出の遺構平面図 S=1/100



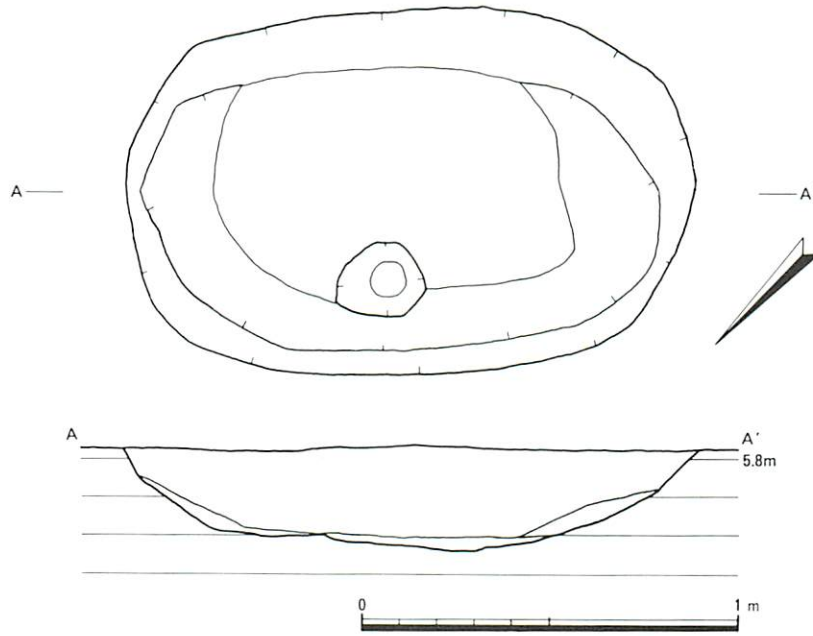


Fig.50 4層検出の遺構 SK2 S=1/20

## (2) 4層検出の遺構 (Fig.49)

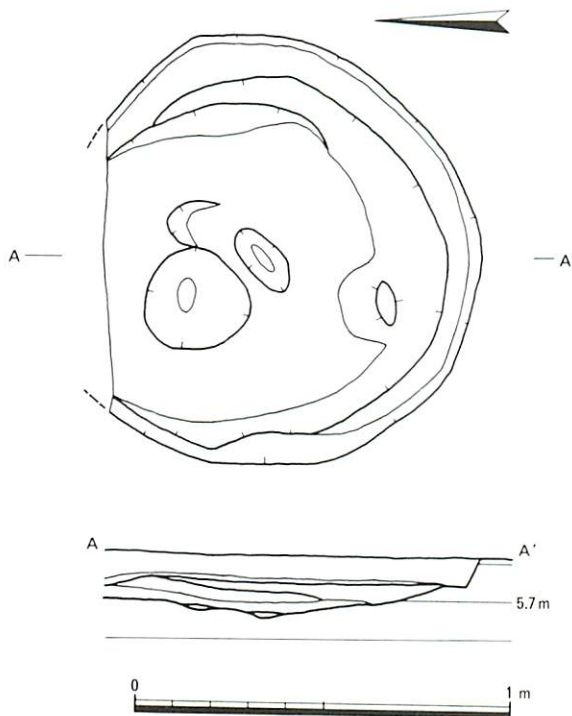


Fig.51 4層検出の遺構 SK3 S=1/20

ある。層位断面図 (Fig.43・44) では、⑤・⑥・⑪・⑳層がSD1の埋土である。遺物は陶磁器を中心に数点が出土している。

Fig.46-1は須恵器の杯で、高台を伴う。高台の取り付けられた場所や高台の形態から、中村浩氏による編年のIV型式以後に比定できると考えられる。

## SK2 (Fig.50)

調査区南東部の4c層上面で検出された。楕円形で、長径約1.5m、短径0.95m、深さ約0.2mを測る。内部に直径20cm、深さ7cm程の落ちこみがある。埋土は3b層と粗砂の混土である。遺物は出土していない。

## SK3 (Fig.51)

調査区南東部の4c層上面でSK2と隣接して検出された。一部試掘トレンチによって切られているが円形を呈し、直径は約1.1m、深さは約0.15mである。中央部にわずかな窪みが見られる。埋土は3b層と粗砂の混土である。遺物は出土していない。

SK2・3はSK1と形態などが類似しており、SK1と同様、「稲積み」の可能性が考えられる。

## SK8

調査区中央部南端の4b層で検出された。検出された形は略三角形を呈し、規模は約1.2×0.6m、深さは0.245mである。埋土の一部はSD2の埋土であるため、SD2と関連する遺構である可能性

が高いが、SD2とは連続していないため、SD2との関わりを断定することはできない。Fig.43の層位断面図では④・③層が埋土に相当する。

### SK9

調査区南西部の4f層で検出された。楕円形を呈し、埋土は3層土である。規模は西側が調査区外に延びるため不明であるが、残存部で長径1.35m、短径1.04mを測り、深さは0.41mである。

### SD2 (Fig52~56)

調査区北西部~南東部にかけての4b層上面で検出された。北西-南東向きで、南東に向かって傾斜している。検出した長さは約25m、幅は約0.7m、深さは深い部分で約0.4mである。Fig.43-④層が埋土に相当する。遺物は陶磁器類を中心に200点以上が出土している。

Fig.53-2~4は磁器の碗の小破片である。4の内外面には貫入が見られる。5・6は磁器の小杯と考えられる小破片である。7は磁器であるが器種は不明。8・9は磁器の碗。8の畳付は無釉である。9には赤色の色絵が施される。10・11は磁器の皿の小破片である。ともに透明の釉がかけられている。12は磁器の碗の底部付近で、内面の見込みには砂目残り、透明の釉が施されている。13は磁器であるが器種は不明。14は半磁器の鉢と考えられ、内外面には貫入が見られる。15・16は磁器の皿である。16の畳付は無釉である。17・18は磁器の茶家である。17の底部は無釉である。紺色の色絵が施される。円形状に色絵が描かれておらず、外方に突出する場所があるため、注ぎ口の付近の破片と思われる。18は紫色の色絵で蝶々を描いている。

19は陶器の碗である。内面見込みに3カ所砂目が見られる。内面には部分的に白色の釉がかけられている。高台内面には蛇の目状に粘土を削り取った痕跡が残る。高台畳付~高台内面は無釉である。20も陶器の碗であるが、内面見込みには蛇の目が見られ、砂目と思われる痕跡が残っている。内面と外面体部には鉛色の釉がかけられ、その上から透明釉がかけられている。21は陶器の碗または皿と考えられる。内面見込みには蛇の目が残る。内面と外面の体部には鉛色の釉の上に透明釉がかけられるが、外面体部下方は透明釉のみがかけられる。内外面に貫入が見られ、底部は無釉である。22は皿と考えられる。内面見込みには蛇の目が残る。内面と外面体部には白色の釉が、外面につい

ては流掛状にかけられ、その上から透明釉がかけられている。外面体部下方は透明釉のみがかけられる。内外面には貫入が見られ、畳付と高台内面は無釉である。23は碗で、内面見込みには蛇の目が見られる。内面と外面体部には鉛色の釉の上に透明釉がかけられる。外面体部下方は透明釉のみであり、畳付と高台内面は無釉である。内面には貫入も見られる。24は碗で磨滅は激しいが、内面には透明の釉が残っている。25は碗で、内面見込みには蛇の目が見られる。外面の底部は無釉で、外面上部は鉛色の釉、その他には薄い緑色の釉がかけられている。26は碗で、内外面には灰色(鉛色)の釉がかけられる。27~33は陶器の甕の口縁部で薩摩焼と考えられる。27にはオリブ黒色の釉がかけられているが、口縁上端面は無釉である。29には緑灰色の釉がかけられている。30にはオリブ黒色の釉がかけられるが、口縁上端部は無釉である。31の口縁端部は丸みを帯びており、下方に突出している。オリブ黒色の釉がかけられるが、口縁端部は無釉である。32の外面にはわずかな凹凸が見られる。口縁部上端面にはカキメ状の痕跡が残る。緑褐色の釉がかけられるが、口縁部上端面は無釉である。33には灰白色の釉がかけられるが、口縁部上端面は無釉である。34は陶器で、オリブ褐色の釉がかけられ、内外面には貫入が見られる。薩摩焼と思われるが器種は不明。

Fig.54-35~37は染付の碗である。35・36の口縁端部はわずかに外反し、高台の畳付は無釉である。36は外面に網目文が施される。37は外面に文字が書かれている。38は染付の小杯で高台の畳付は無釉である。39は染付の小型碗と考えられる。40~46は染付の碗の小破片である。43は外面に貫入が見られる。45の口縁端部付近の内面は無釉である。47・48は染付であるが、小破片のため器種は不明である。49は碗で外面にたこ唐草文が施される。50は染付の碗の口縁部~体部の小破片である。51~57は染付の碗の体部~底部で、いずれも畳付は無釉である。54は体部がまっすぐに立ち上がる形態を呈し、畳付は無釉である。56の畳付とその付近は無釉である。57の畳付は無釉である。58~63は染付の皿である。58の外面には花卉と葉が描かれる。60の内外面にたこ唐草文が描かれている。64は染付の蓋と考えられる。かえりの部分は無釉である。

Fig.55-65は陶器の口縁部小破片であるが、器種は不明である。外面には鉛色の釉が、内面には

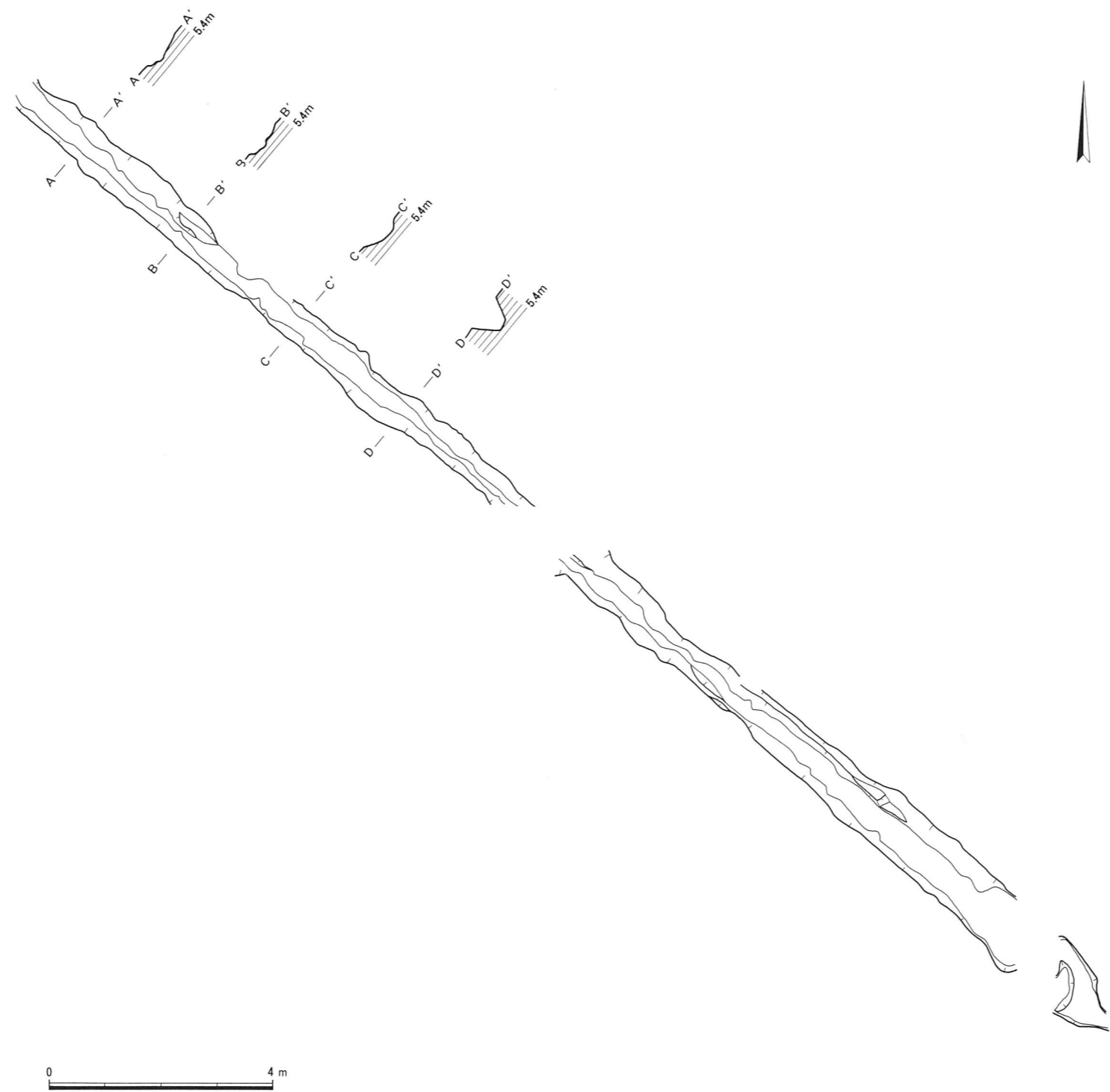


Fig.52 4層検出の遺構 SD2 S=1/100

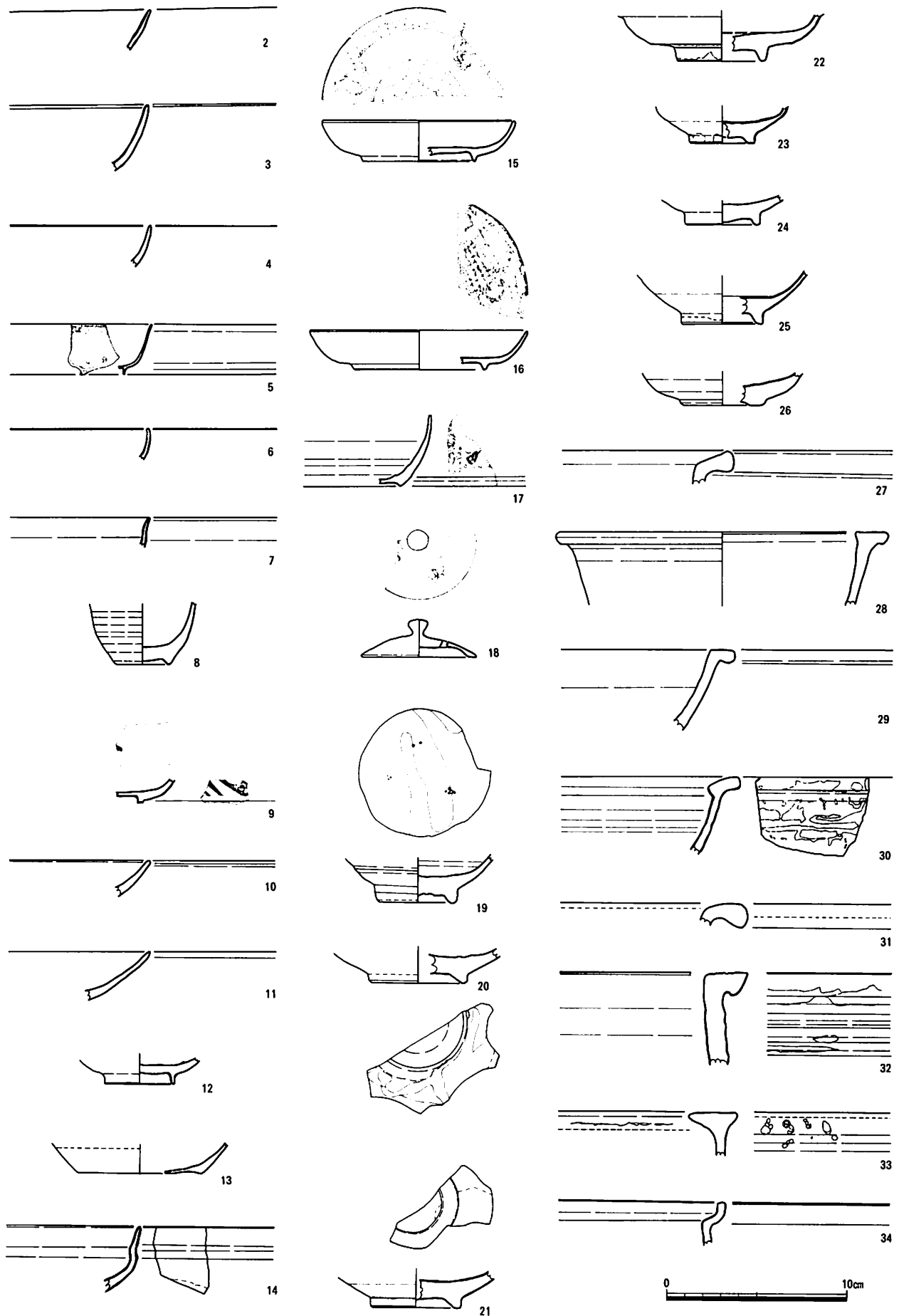


Fig.53 SD2出土の遺物 (1) S=1/3

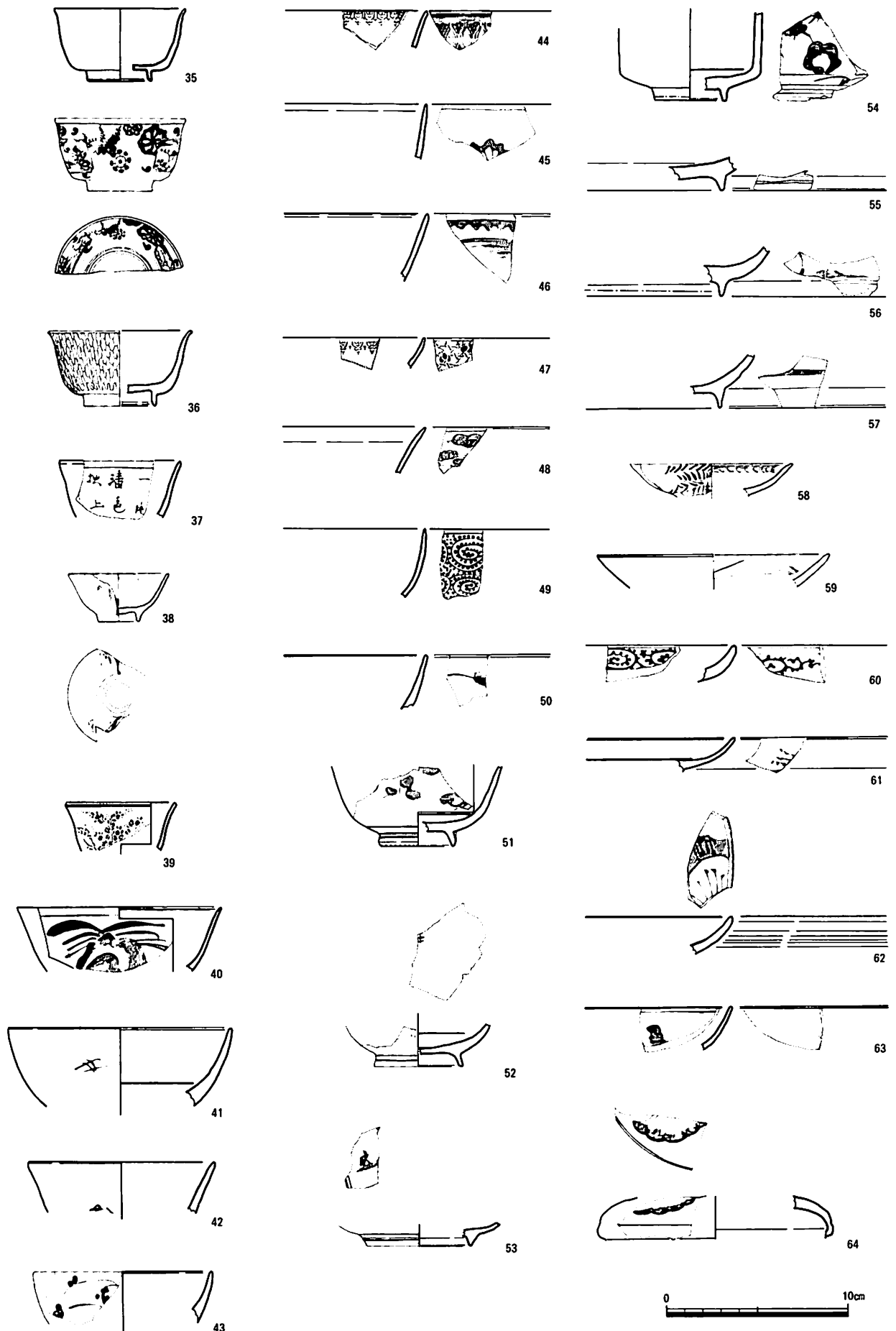


Fig.54 SD2出土の遺物（2） S=1/3

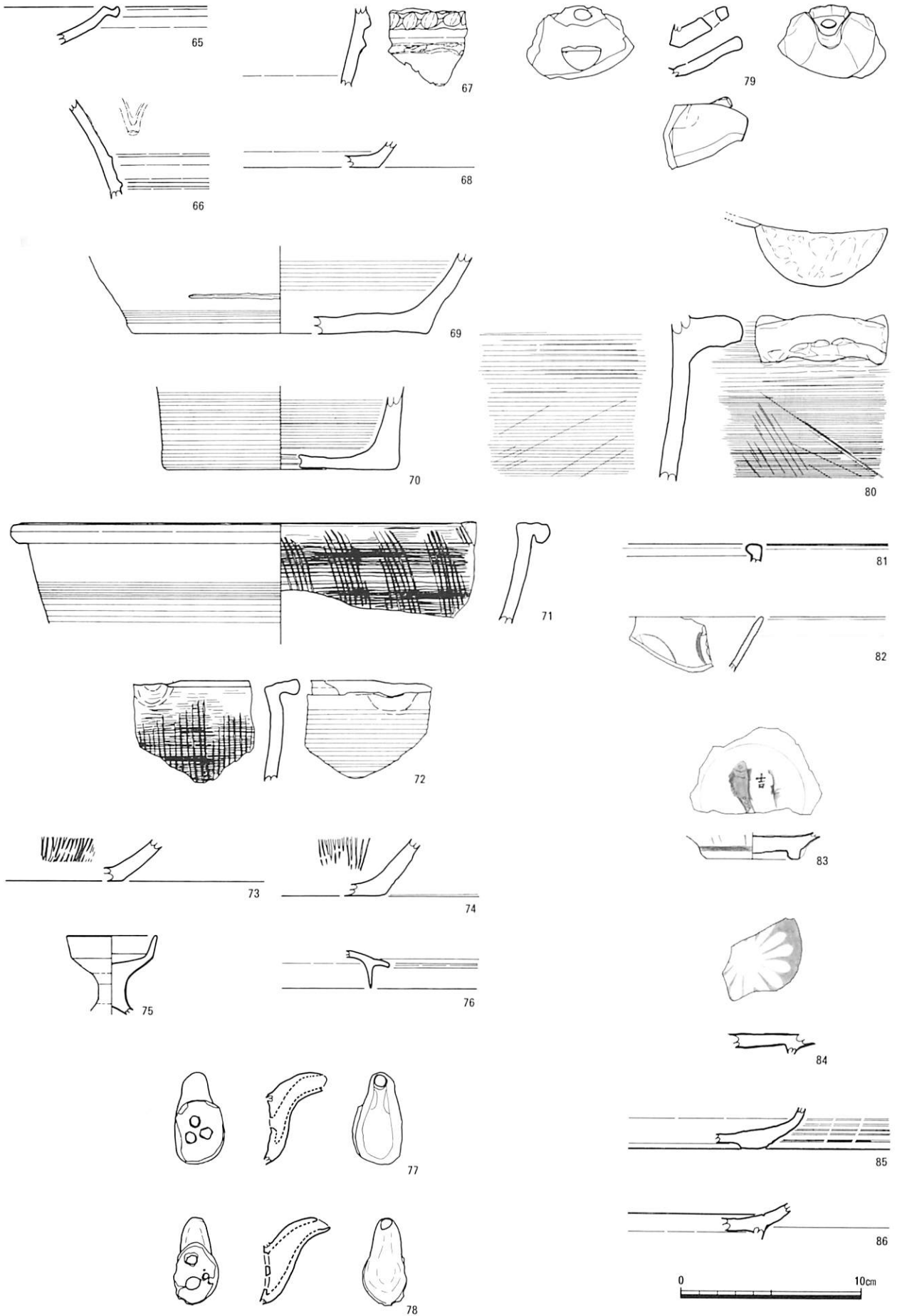


Fig.55 SD2出土の遺物 (3) S=1/3

白色の釉がかけられ、内面には貫入が見られる。66は陶器の胴部小破片である。低い突帯が2条見られ、灰色の釉がかけられている。67は陶器の甕の胴部小破片である。突帯が2条見られ、上側の突帯には刺突が施されている。黒褐色の釉がかけられている。68は陶器の甕の底部と思われる小破片である。黒褐色の釉がかけられ、底部は一部に釉が付着するものの、基本的には無釉である。薩摩焼と考えられる。69は陶器の甕の底部付近である。内外面の一部にはカキメ状の痕跡が残る。内面には灰オリーブ色の釉がかけられている。70は陶器の底部付近であるが、底部中央部に直径2センチほどの穴があけられていることから植木鉢と判断した。内外面にはカキメが施され、外面には暗オリーブ褐色の釉がかけられている。71・72は播鉢の口縁部付近である。注ぎ口を有し、内外面ともカキメが施されている。71の内面の溝は7本が1つの単位となる工具によって付けられており、その単位の幅は1.7cmである。内外面に黒褐色の釉がかけられており、口縁端部上面は無釉である。72の内面には黒褐色、外面には灰オリーブ色の釉がかけられるが、口縁端部上面は無釉である。73・74は播鉢の底部と考えられる小破片である。73の内面は磨滅しており、溝の凹凸は残っていない。しかし、溝の窪み部分であった場所に残った釉から播鉢と判断できる。釉は風化しており、灰白色を呈する。74は播鉢の底部の小破片である。灰褐色の釉が残っているが、内外面とも釉の風化が激しく、内面は溝の窪み部にのみ釉が残っている。75は陶器の仏飯器である。内外面には貫入が見られる。76～79は陶器の茶家でいづれも薩摩焼と考えられる。76は蓋で黒褐色の釉が天井部外面のみにかけられている。77～79は注ぎ口である。77・78には暗赤褐色の釉がかけられている。79は釣り手掛と一体化したものである。オリーブ黒色

の釉が外面にかけられている。80は陶器であるが器種は不明である。幅7.6cm、厚さ2.5cmの比較的大きな把手が付き、把手の下側にはユビオサエの跡が明瞭に残る。内外面にはカキメが施され、黄灰色の釉が内面にのみ施されている。甌と考えられるが断定はできない。

81は青磁の口縁端部小破片で器種は不明、外面には貫入が見られる。82～86は青磁の碗で82は口縁部、83～86は底部付近である。82は内面に花卉の文様が見られる。83の内面見込みには2匹の魚の文様がスタンプされ、その間には「吉」の字が見られる。外面には連弁状の文様がわずかに残っている。畳付と高台内面の一部は無釉である。84は内面見込みに花卉が彫り込まれており、高台付近は無釉である。85の高台は低くて幅があり、内面と高台の畳付は無釉である。86の高台内面は無釉である。

Fig.56-87は染付の花生である。ほぼまっすぐに立ち上がり、口縁部にいたる。外面はすべてに釉がかけられているが、内面は上方にのみ施釉されており、施釉部分については貫入が著しい。88は陶製品である。内面は全面に、外面は先端部にオリーブ黒色の釉がかけられている。何かの注ぎ口と考えられる。89は寛永通宝で裏は無文である。90・91は薬瓶である。90は薄い緑色を呈しており、91は無色である。色調は異なるものの、同一の規格品であると考えられる。

92は土師器の杯と考えられ、糸切り底である。93は甕の胴部で、1条の突帯が巡る。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。94は甕の底部で、内面には炭化物が付着している。弥生時代中期に比定できる。

ピット (P 1～3・9・12～14)

調査区南西部で検出されたP 1～3・9・12は

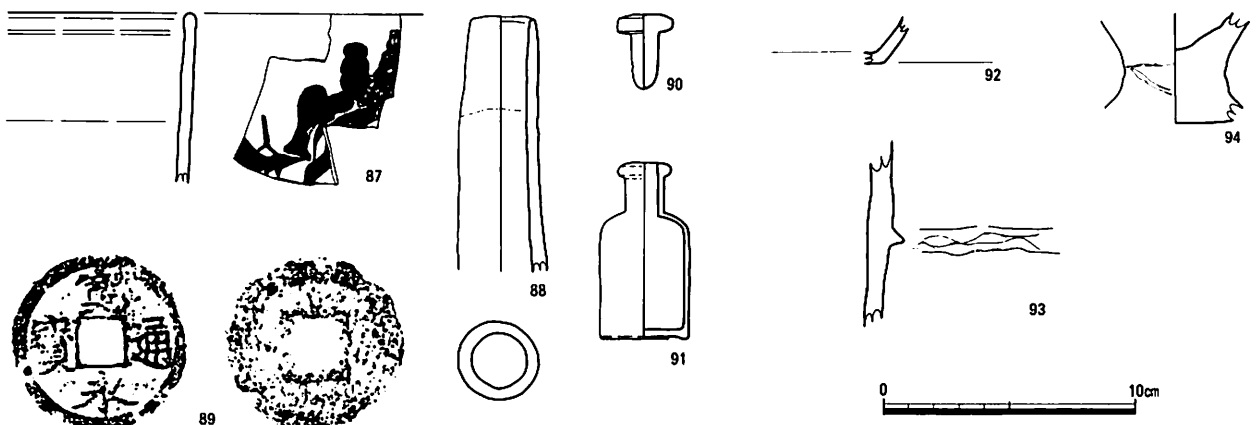


Fig.56 SD2出土の遺物 (4) S=1/3 (89 : S=1/1)

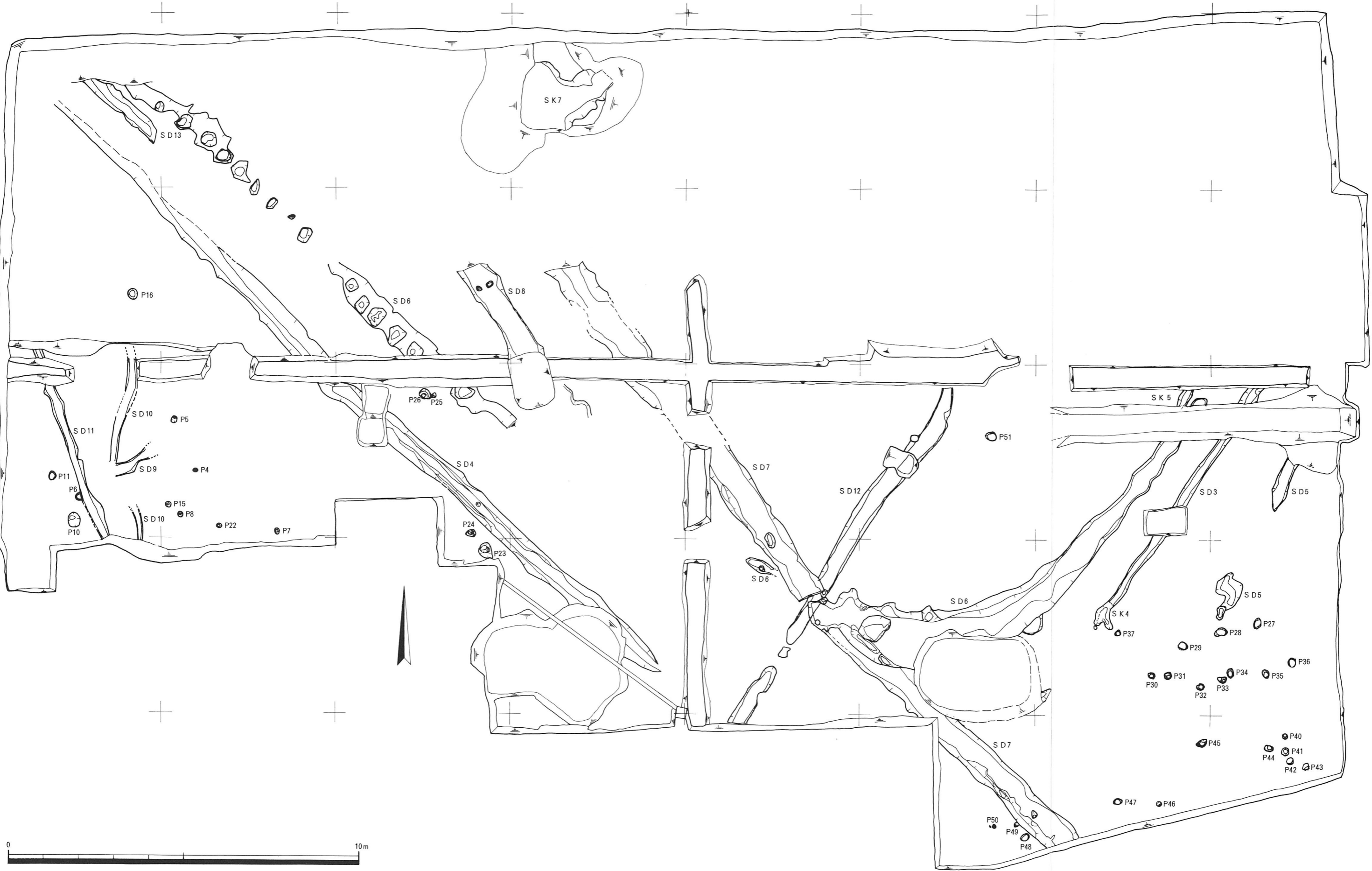


Fig.57 5層検出の遺構平面図 S=1/100



建物の柱穴になる可能性も否定できない。しかし、P 1 に対応するピットを検出することができなかったため、断定はできない。

(3) 5 層検出の遺構 (Fig.57)

SK 4 (Fig.60)

調査区南東部の5a層上面で検出された。不整形

で深さは6 cmほどしかない。埋土は灰褐色の少し粘質のある土である。遺物は出土していない。

SK 5

調査区南東部の5b層上面で検出され、南側はカクランによって切られている。細長い形状を呈し、埋土はFig.43-⑱層である。検出した規模は長さ約0.5 m、幅0.3 m、深さ約0.2 mである。

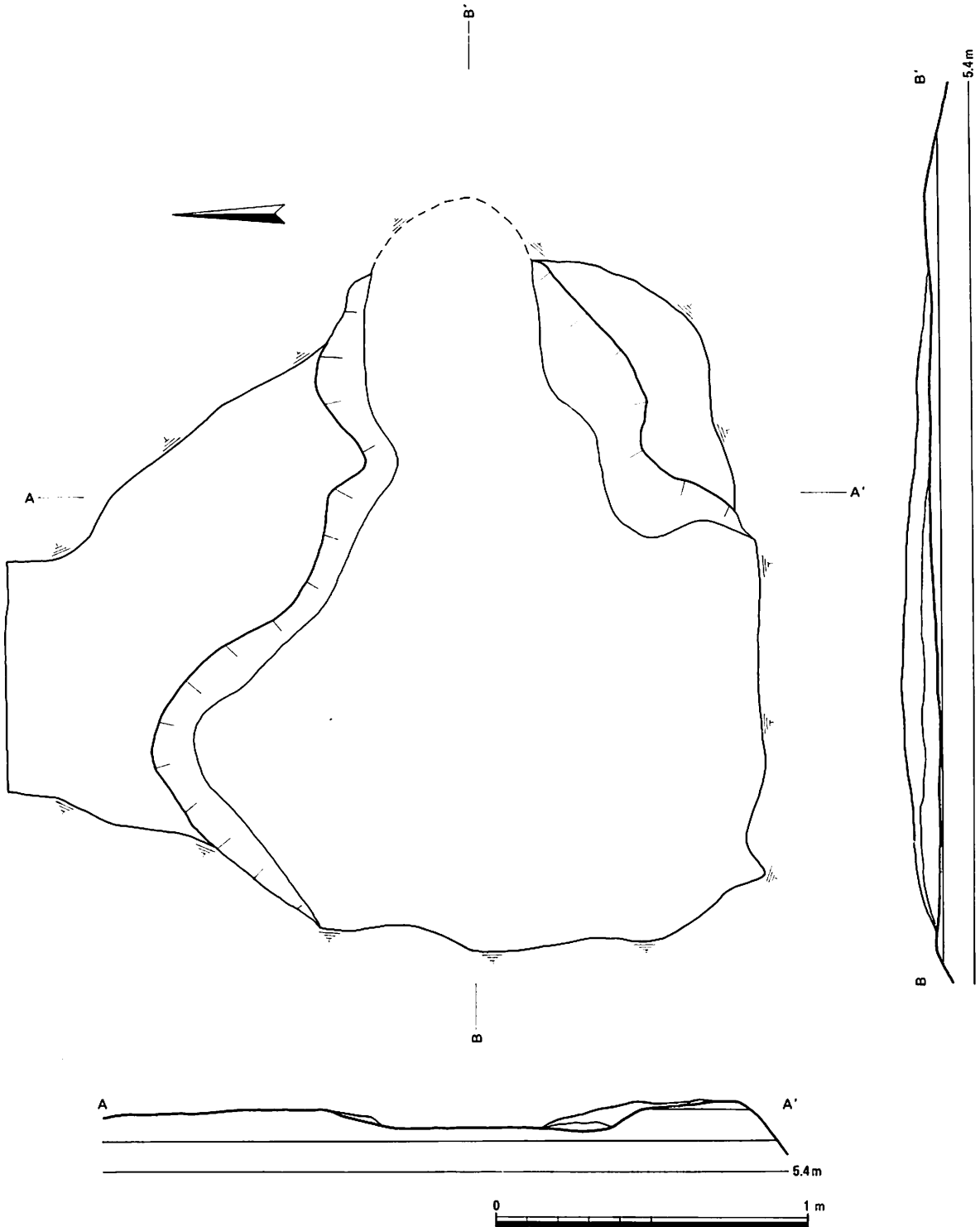


Fig.58 5層検出の遺構 SK7 S=1/20

SK7 (Fig.58・59)

調査区北部の5b層上面で検出され、5d層上面まで掘りこまれている。周囲はかなり削平されており、残存部の規模は約2.3×2m、深さは0.15mほどである。埋土は溝の埋土に類似し、とくに5b層上面で検出されたSD7の埋土と類似している。このため、溝である可能性が高いといえるが、SD7と連続するかどうかは決定できない。この遺構からは100点以上の土器が出土し、また、須恵器の出土も多いことが注意される。遺物は近接し

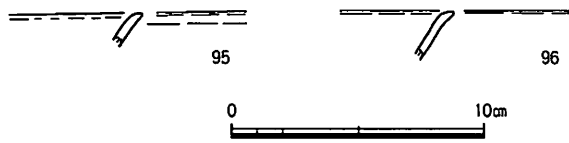


Fig.59 SK7出土の遺物 S=1/3

て出土したものについても、ほとんど接合することができないことから、二次的な移動を受けていると推測される。

Fig.59-95・96は須恵器の杯身と考えられる口縁部小破片である。同一個体の可能性が高い。

SD3 (Fig.60)

調査区南東部の5a層上面で検出した。北東-南西向きで、南西に向かって傾斜している。検出した長さは約7.5m、幅約0.3m、深さは約0.08mを測り、Fig.43-⑩層が埋土に相当する。遺物は出土していない。

SD4 (Fig.61・62)

調査区西側の5b層上面で検出し、北西-南東向きで、南東に向かって傾斜している。検出した長

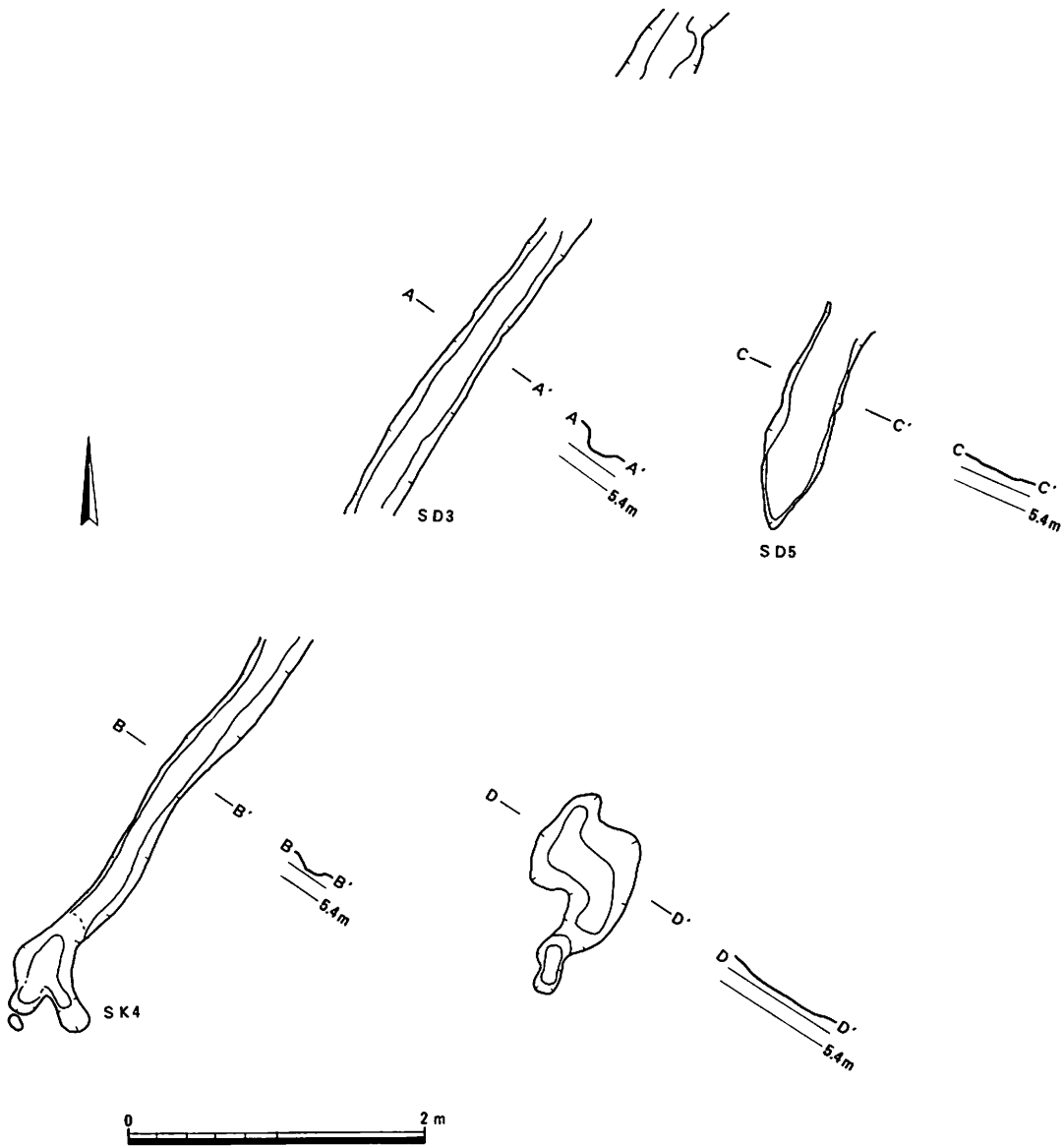
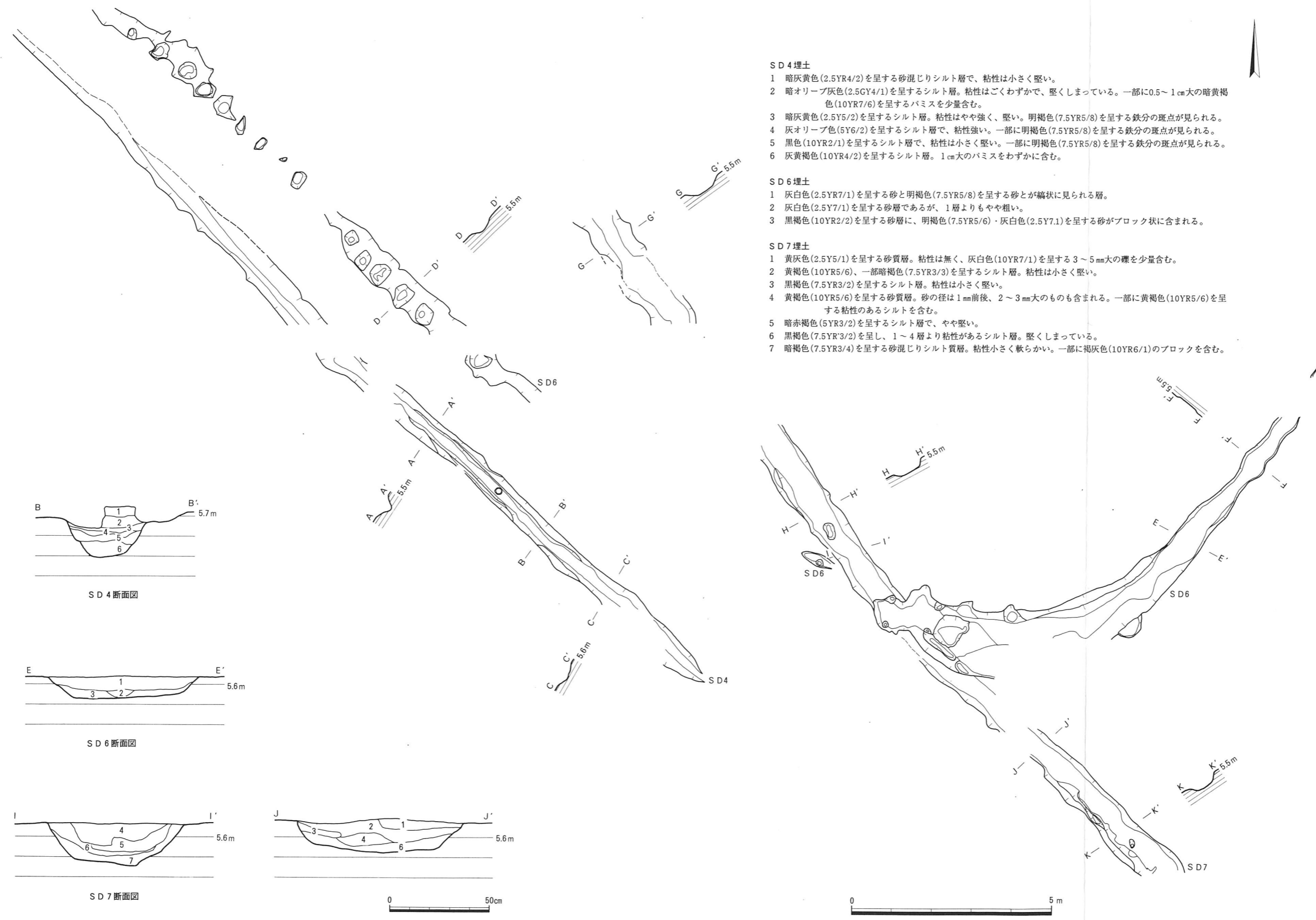


Fig.60 5層検出の遺構SD3・SD5・SK4 S=1/50



SD4埋土

- 1 暗灰黄色(2.5YR4/2)を呈する砂混じりシルト層で、粘性は小さく堅い。
- 2 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)を呈するシルト層。粘性はごくわずかで、堅くしまっている。一部に0.5~1cm大の暗黄褐色(10YR7/6)を呈するバミスを少量含む。
- 3 暗灰黄色(2.5Y5/2)を呈するシルト層。粘性はやや強く、堅い。明褐色(7.5YR5/8)を呈する鉄分の斑点が見られる。
- 4 灰オリーブ色(5Y6/2)を呈するシルト層で、粘性強い。一部に明褐色(7.5YR5/8)を呈する鉄分の斑点が見られる。
- 5 黒色(10YR2/1)を呈するシルト層で、粘性は小さく堅い。一部に明褐色(7.5YR5/8)を呈する鉄分の斑点が見られる。
- 6 灰黄褐色(10YR4/2)を呈するシルト層。1cm大のバミスをわずかに含む。

SD6埋土

- 1 灰白色(2.5YR7/1)を呈する砂と明褐色(7.5YR5/8)を呈する砂とが縞状に見られる層。
- 2 灰白色(2.5Y7/1)を呈する砂層であるが、1層よりもやや粗い。
- 3 黒褐色(10YR2/2)を呈する砂層に、明褐色(7.5YR5/6)・灰白色(2.5Y7/1)を呈する砂がブロック状に含まれる。

SD7埋土

- 1 黄灰色(2.5Y5/1)を呈する砂質層。粘性は無く、灰白色(10YR7/1)を呈する3~5mm大の礫を少量含む。
- 2 黄褐色(10YR5/6)、一部暗褐色(7.5YR3/3)を呈するシルト層。粘性は小さく堅い。
- 3 黒褐色(7.5YR3/2)を呈するシルト層。粘性は小さく堅い。
- 4 黄褐色(10YR5/6)を呈する砂質層。砂の径は1mm前後、2~3mm大のものも含まれる。一部に黄褐色(10YR5/6)を呈する粘性のあるシルトを含む。
- 5 暗赤褐色(5YR3/2)を呈するシルト層で、やや堅い。
- 6 黒褐色(7.5YR3/2)を呈し、1~4層より粘性があるシルト層。堅くしまっている。
- 7 暗褐色(7.5YR3/4)を呈する砂混じりシルト質層。粘性小さく軟らかい。一部に褐灰色(10YR6/1)のブロックを含む。

Fig.61 5層検出の遺構 SD4・SD6・SD7 S=1/100 埋土断面：1/20



Fig.62 SD4出土の遺物 S=1/3

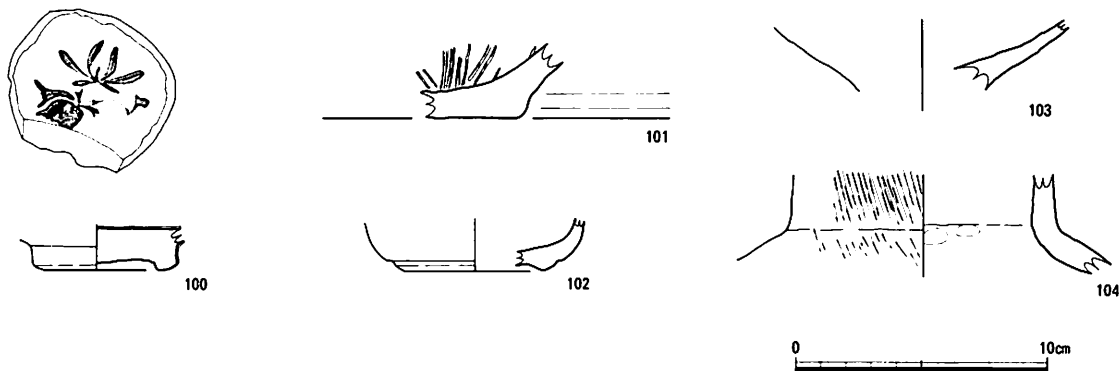


Fig.63 SD6出土の遺物 S=1/3

さは23.6m、幅約0.6m、深さは深いところで、約0.25m、浅いところで約0.12mを測る。Fig.43-②・③層が埋土に相当する。

97は青磁の碗の口縁部小破片である。口縁端部は肥厚し、内外面に貫入が見られる。98は須恵器の甕の胴部片と考えられる。99は土師器の杯の底部である。

#### SD 5 (Fig.60)

幅約0.35m、深さ0.03mを測る。調査区南東部の5c層上面で検出した。北東-南西向きで南西に向かって傾斜している。埋土は明黄褐色シルト質砂で、細かいパミスを含む。遺物は出土していない。

#### SD 6 (Fig.61・63)

調査区西側～南東部にかけての5c層上面で検出された。北西-南東向きであるが、④-d区で北東向きになる。西側の底部はSD 1と同様に四角形の落ち込みが連続して見られる。Fig.43-⑦層が埋土に相当する。幅約1m、深さ約0.15mを測る。遺物は成川式土器を中心に10数点が出土している。

100は青磁碗の底部である。内面見込みには花文のスタンプがある。内外面には貫入が見られ、畳付と高台内面は無釉である。101は瓦質の播鉢の底部小破片である。102は土師器の碗である。103は高杯の杯部～底部と考えられ、古墳時代に比定できる。104は壺の頸部である。頸部はまっすぐに立ち上がり、外面にはハケメが残る。弥生

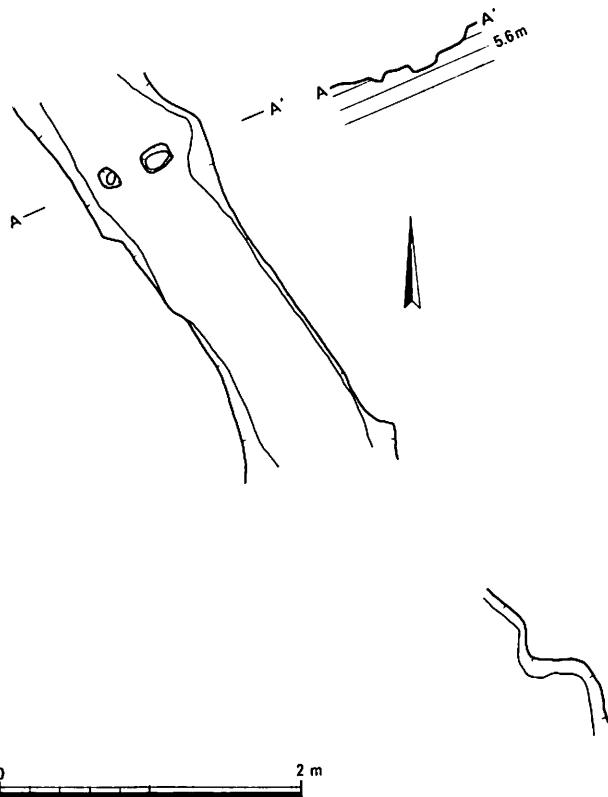


Fig.64 5層検出の遺構 SD8 S=1/50

時代から古墳時代のものに比定できる。

#### SD 7 (Fig.61)

調査区中央部付近の5b層上面で検出され、北西-南東向きで、南東に向かって傾斜している。検出部分の長さは22m、幅約1m、深さは約0.2m

である。Fig.43-⑭・⑳層が埋土に相当する。遺物は土器片が数点出土している。

**SD8 (Fig.64)**

調査区中央部付近の5b層上面で検出し、北西-南東向きである。検出部分の長さは約5.5m、幅約0.9m、深さ約0.12mである。埋土の上層は黄褐色粗砂、下層は5層と黄褐色土の混土である。遺物は出土していない。

**SD9 (Fig.65)**

調査区南西部の5b層上面で検出し、南西-北東向きである。検出した部分の長さは約1m、幅は約0.3m、深さ約0.03mである。遺物は出土していない。

**SD10 (Fig.65)**

調査区南西部の5b層上面で検出し、北-南向きである。検出した部分の長さは約5m、幅は約0.3m、深さ約0.03mである。遺物は出土していない。

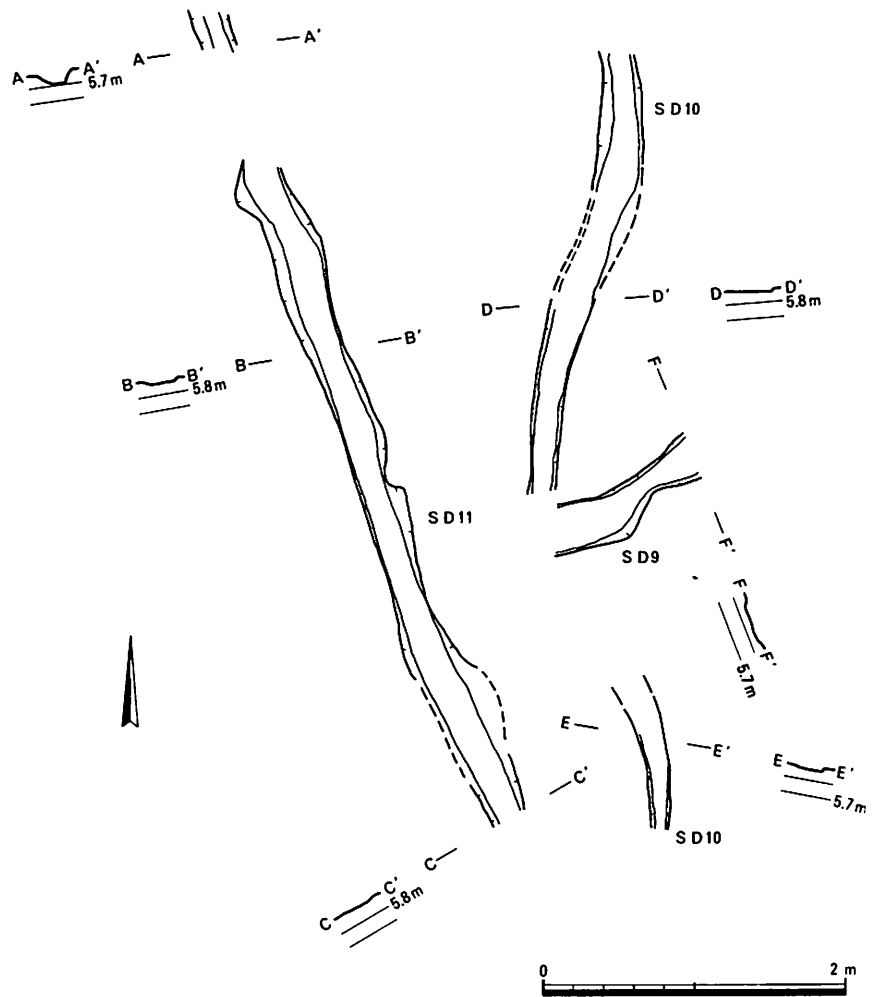


Fig.65 5層検出の遺構 SD9・SD10・SD11 S=1/50

**SD11 (Fig.65)**

調査区南西部の5b層上面で検出し、北北西-南南東向きである。検出した部分の長さは約5.6m、幅約0.3m、深さは深いところで約0.07mである。埋土はFig.43①に相当する。遺物は出土していない。

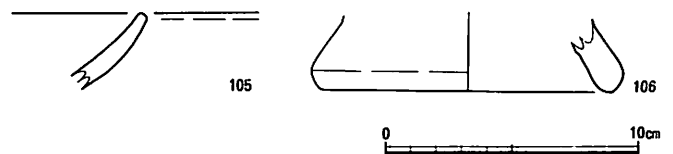


Fig.66 SD12出土の遺物 S=1/3

**SD12 (Fig.69・66)**

調査区南東部の5b層上面で検出した。北東-南南向きで南西に向かって傾斜している。検出した部分の長さは約11.2m、幅約0.6m、深さ約0.08mである。遺物は古墳時代の土器を中心に10数点が出土している。

Fig.66-105は高杯または埴の口縁部小破片である。外面には黒斑が見られる。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。106は壺の脚端部で、復元によると径はかなり大きめである。古墳時代に比定できる。

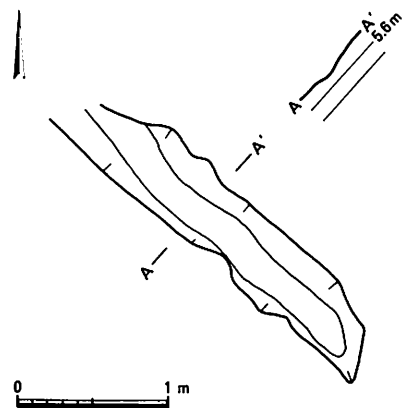


Fig.67 5層検出の遺構 SD13 S=1/50

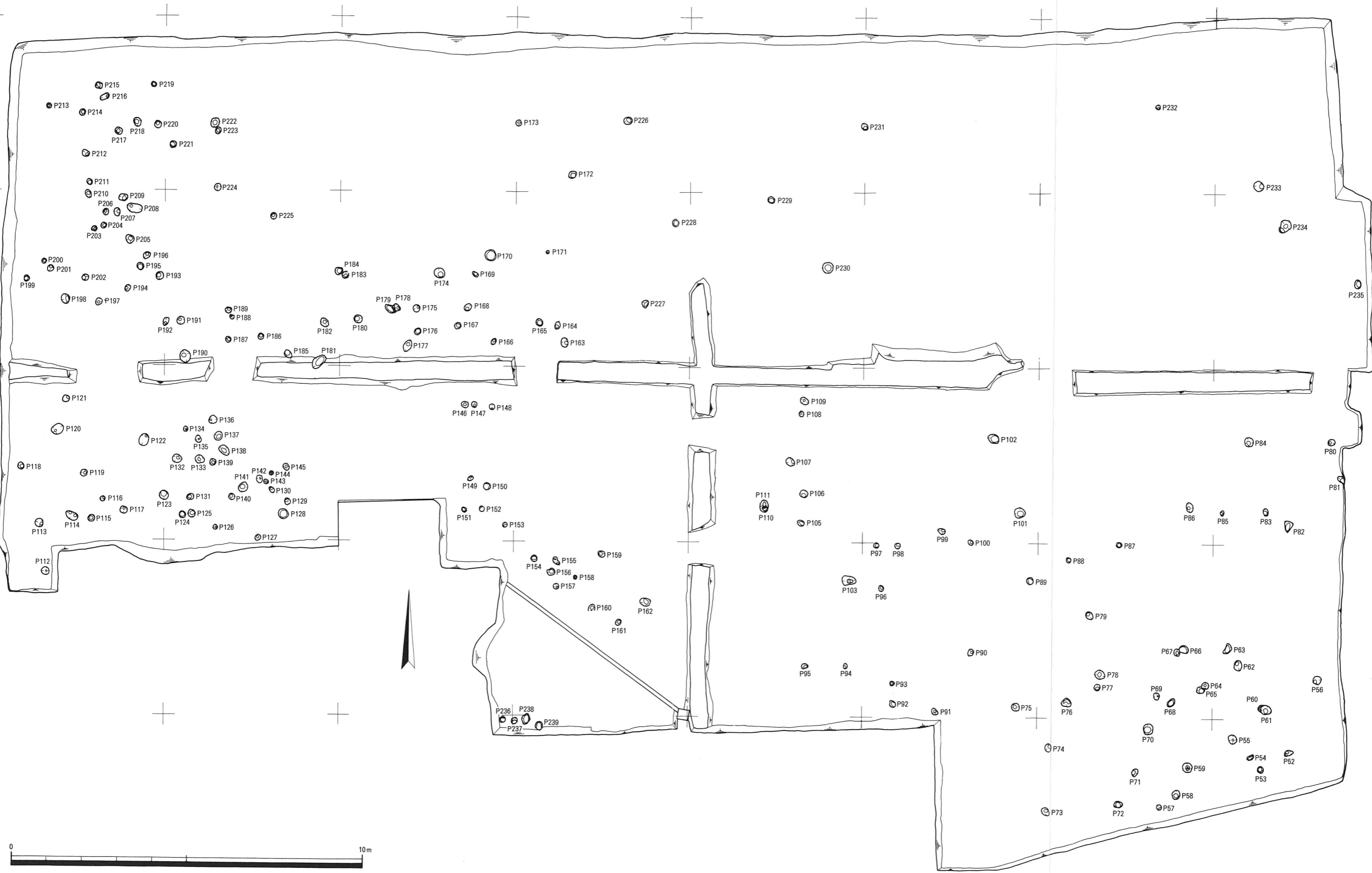


Fig.68 6層検出の遺構平面図 S=1/100

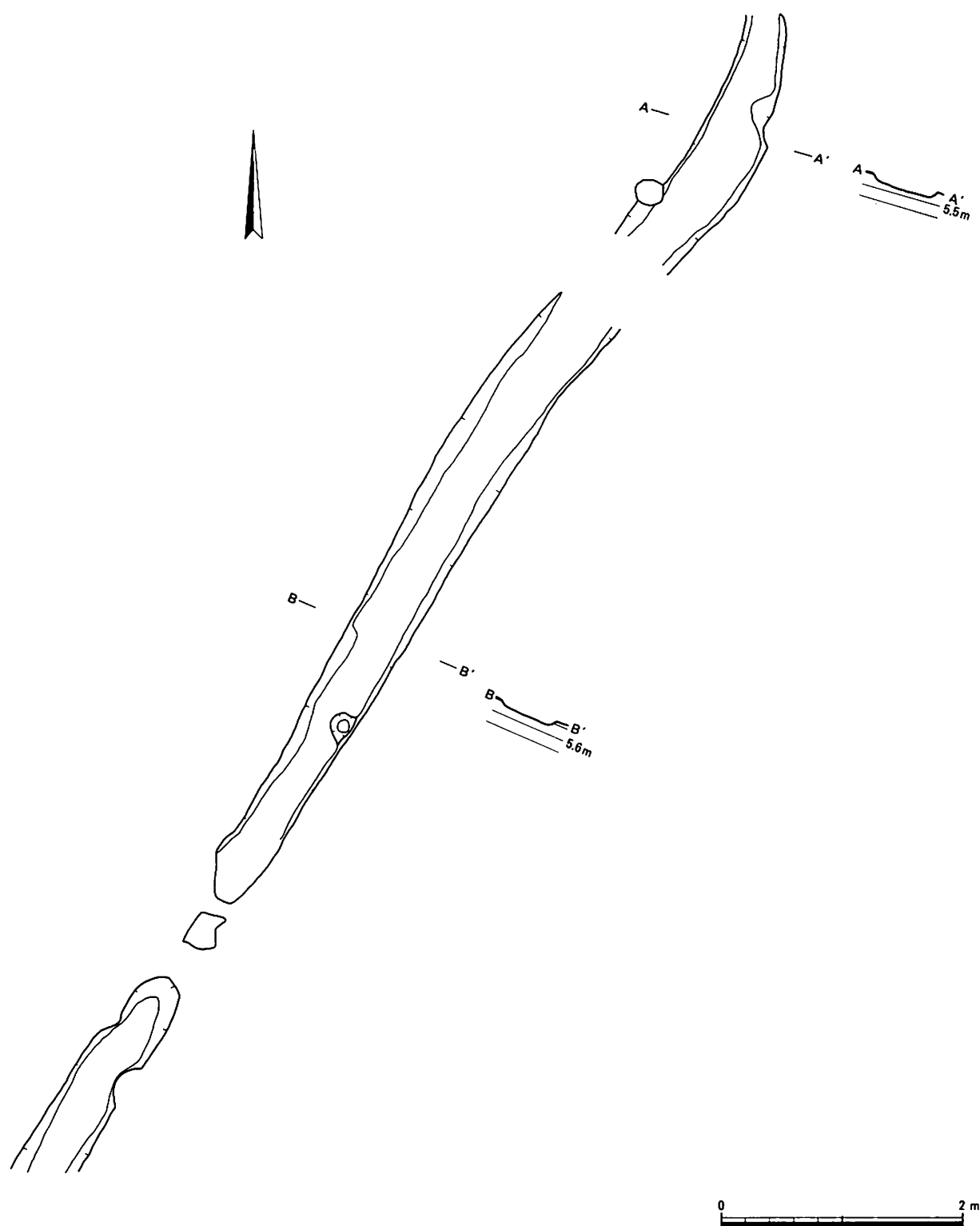


Fig.69 5層検出の遺構 SD12 S=1/50

## SD13 (Fig.67)

調査区北西部の5b層上面で検出し、北西-南東向きである。検出部分の長さは2.5m、幅約0.5m、深さは約0.03mである。遺物は出土していない。

## ピット

5層で検出されたピットはP 4～8・10・11・15・17～51の42基で、調査区の南東側でまとまって検出された。建物の柱穴と判断できるピットは確認されていない。

(4) 6層検出の遺構 (Fig.68)

ピット群 (P52~239)

6層で検出されたピットはP 52~239までの188基である。調査区のほぼ全面に見られるが、それらの並び方はランダムであり、また、規模もまちまちである。建物に伴う柱穴であると判断できるピットは確認されていない。

## 6 包含層出土の遺物

3a層出土遺物 (Fig.70)

107は染付の碗で、畳付は無釉である。

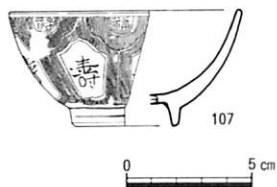


Fig.70 3a層出土の遺物 S=1/3

3b層出土遺物 (Fig.71)

108は染付の碗の口縁部小破片である。

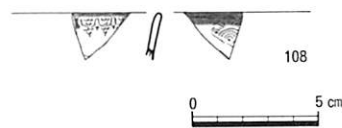


Fig.71 3b層出土の遺物 S=1/3

4a層出土遺物 (Fig.72)

109・110は青磁の碗の口縁部~体部にかけての小破片である。109の外面には連弁文様が片彫りされている。110は口縁部で外反し、口縁端部は肥厚する。内外面には貫入が見られる。111は挿鉢の底部である。溝を刻む工具は7条が1つの単位になるものと考えられ、その単位の幅は1.9 cmである。現状では釉は残っていない。

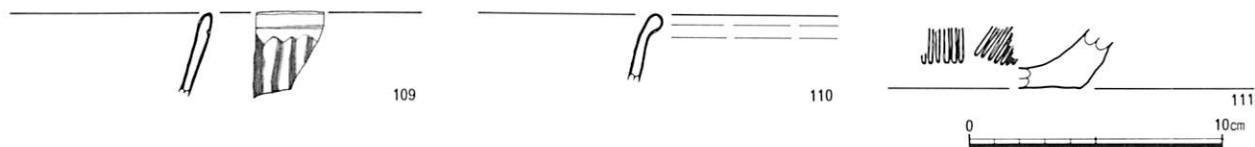


Fig.72 4a層出土の遺物 S=1/3

4c層出土遺物 (Fig.73)

112は青磁の皿の口縁部から体部にかけての小破片である。口縁端部付近で外反し、外面には連弁状の隆起がある。内外面には貫入が見られる。113は須恵器の甕の口縁部である。口縁端部で外方に肥厚し、1条の三角形を呈する突帯が巡る。外面には平行タタキの痕跡が残るが、内面の当て具痕は完全に消されている。陶邑産のものよりも、鹿児島県内の須恵器窯出土品に類似しているといえる。9世紀頃のものと考えられる。114は甕の口縁部小破片である。口縁部は外反し、口縁端部

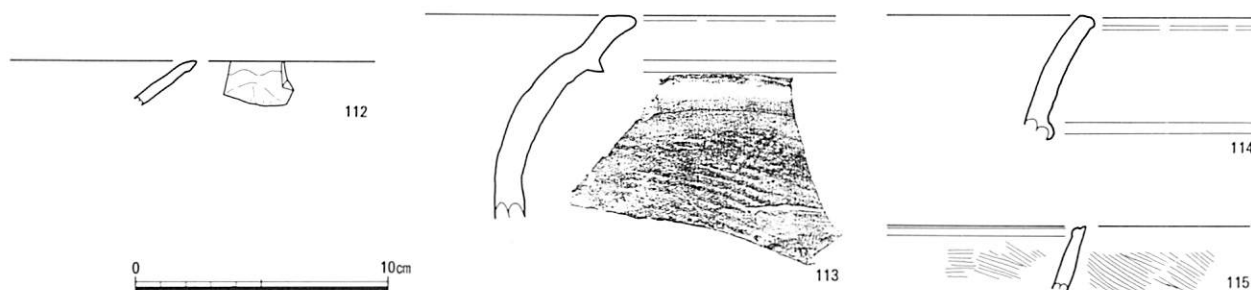


Fig.73 4c層出土の遺物 S=1/3



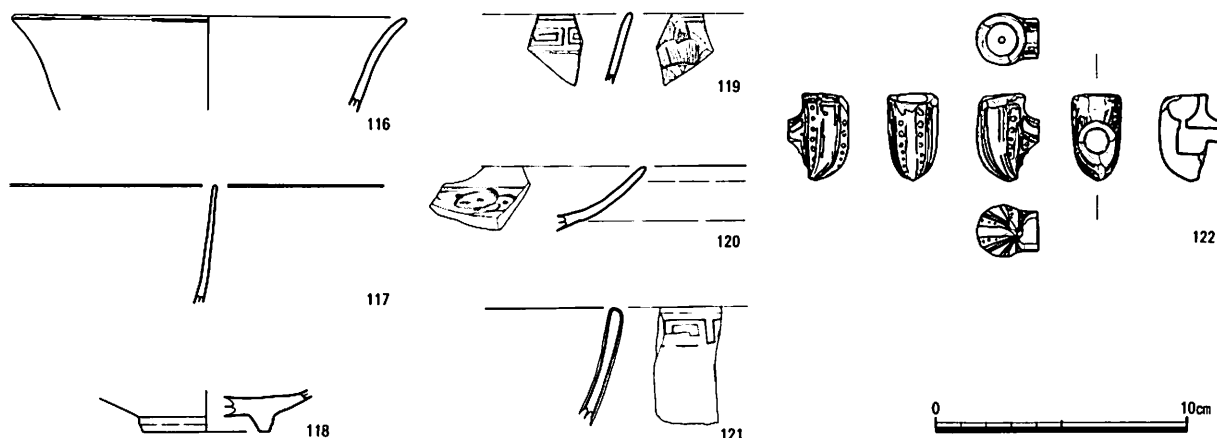


Fig.74 4e層出土の遺物 S=1/3

で外方にわずかに肥厚する。断面が半円形を呈する突帯が1条巡る。古墳時代の東原～辻堂原式に比定することができる。115は甕の口縁部小破片である。口縁端部にわずかな窪みが見られる。内外面には横～斜め方向のハケメの痕跡が残る。古墳時代の笹貫式に比定できると考えられる。

#### 4e層出土遺物 (Fig.74)

116は磁器であるが器種は不明である。口縁部外面に赤色の色絵で1条の線が描かれる。117も磁器であるが器種は不明である。ほぼ直立しながら口縁端部にいたり、器壁は非常に薄手である。118は陶器の碗の底部付近である。残存部全面に施釉されており、内外面には貫入が見られる。内面見込みに2カ所胎土が付着している部分がある。119は染付の碗の口縁部小破片である。120は染付の皿の口縁部～体部にかけての小破片である。121は青磁の碗の口縁部～体部にかけての小破片である。内面上方には雷文が彫り込まれている。122は陶器のキセルの先端部である。上部は少し黒みがかっており、キセルとして使用されていたことがうかがえる。文様を凸線によって表現し、その上から鉛色の釉がかけられ、貫入が見られる。

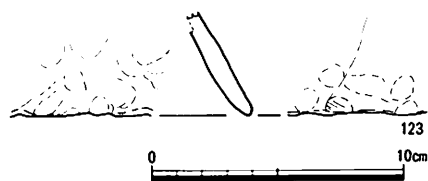


Fig.75 5a層出土の遺物 S=1/3

#### 5a層出土遺物 (Fig.75)

123は甕の脚部の小破片である。内外面にはユビオサエの痕跡が残る。

#### 5b層出土遺物 (Fig.76・77)

Fig.76 - 124は須恵器の甕である。口縁端部で上方に肥厚している。肩部の外面には平行タタキ痕が、内面には同心円文の当て具痕が残る。陶邑産のものよりも、鹿児島県内の須恵器窯の出土品に類似しているといえる。9世紀頃のものと考えられる。

125は甕の口縁部～胴部の小破片である。口縁は上方で外反し、内面にはハケメの痕跡が残る。弥生時代の中津野式～古墳時代の東原式に比定できる。126～131は甕の胴部小破片である。いずれも突帯に刺突が施されている。126・127の刺突部分には布目圧痕が残っている。126は古墳時代の東原～辻堂原式に比定できると考えられる。127は古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。128の内外面にはハケメの痕跡が残る。刺突に直角する線が見られることから、刺突にはハケ工具を用いたものと考えられる。128・129は古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。132は甕の胴部小破片と考えられ、古墳時代に比定できる。133～136は甕の脚部の破片である。133・134は古墳時代に比定できる。134の外面にはハケメの痕跡が残る。135は厚み、形態などから弥生時代後期～中津野式の時期に比定できる。136は厚み、形態などから弥生時代後期～終末期に比定できる。

137は壺の口縁部で、外反しながら立ち上がる。外面にはハケメの痕跡が残る。弥生時代終末期に比定できる。138は壺の口縁部小破片で、ほぼ直

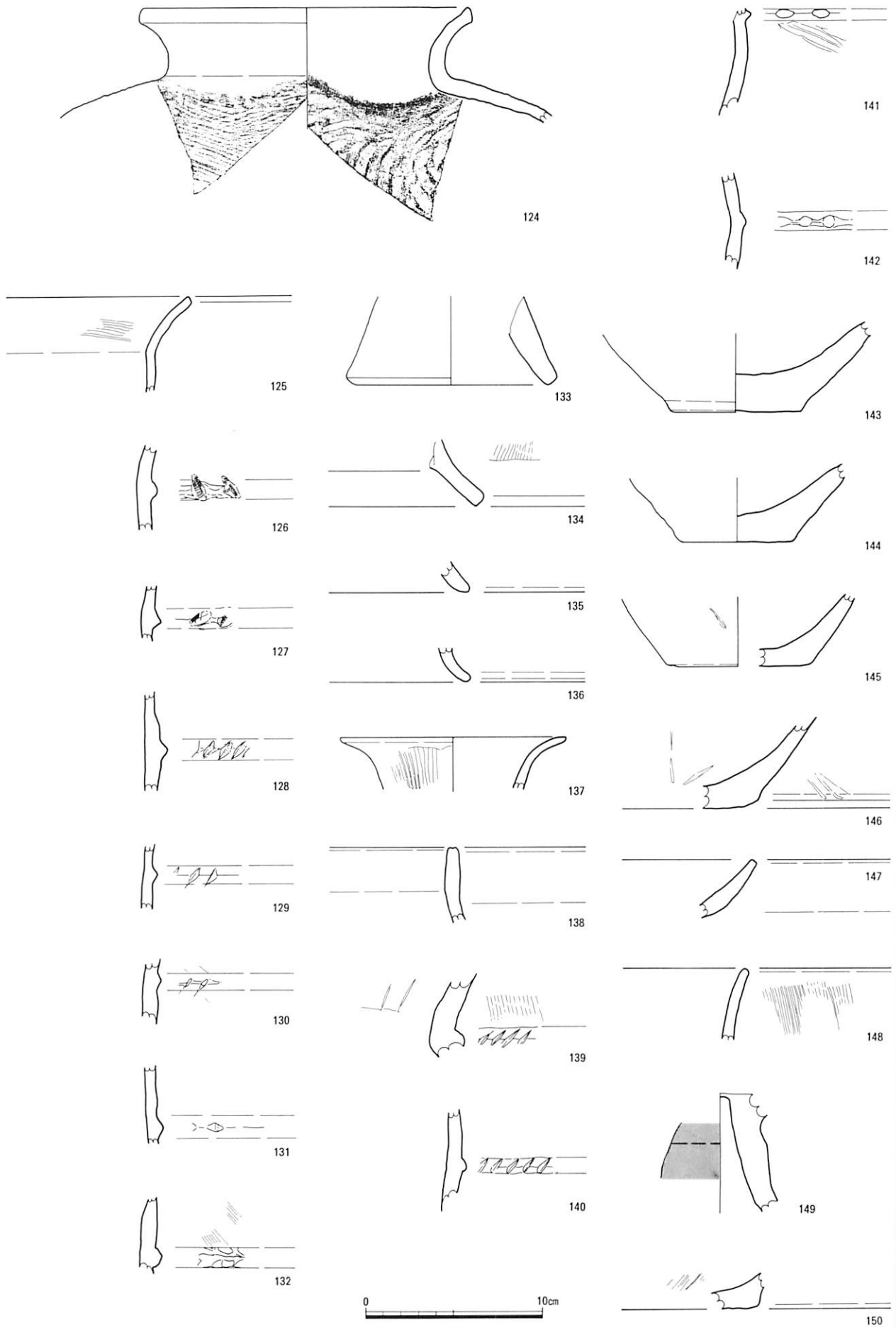


Fig.76 5b層出土の遺物（1） S=1/3

立して立ち上がる。139は壺の頸部の小破片である。胴部と頸部の境界には突帯が巡り、刺突が施される。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定することができる。140～142は壺の胴部小破片で、突帯には刺突が施される。いずれも弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できる。140の突帯はハケ工具による刺突である。142の外面にはハケメの痕跡が残る。143～146は壺の底部である。143～145は平底、146はやや丸みがあった平底である。143・144は弥生時代中期後半～終末期に比定できると考えられるが、底部に厚みがあることから古墳時代のものである可能性も残る。145は弥生時代後期～終末期に比定できる。146は弥生時代終末期に比定できる。

147はおそらく埴の口縁部と考えられ、古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。

148は甕と考えられる小破片である。やや外反しながら立ち上がり、外面にハケメの痕跡が残る。成川式で、笹貫式よりも古いものであると考えられる。

149は高杯の脚部である。外面には赤色顔料が塗布されている。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。

150は土師器の杯である。

Fig.78 - 151は砥石である。実測図に示した平面と左側面、下面は砥ぐのに用いられていたようである。

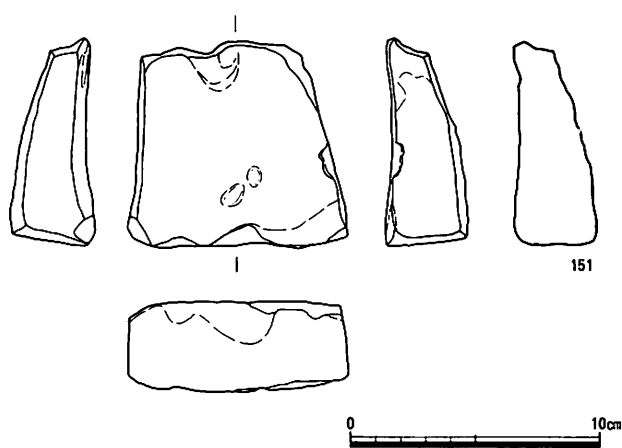


Fig.77 5b層出土の遺物(2) S=1/3

#### 5d層出土遺物 (Fig.78)

152は須恵器の甕の口縁部小破片である。

153～156は甕の胴部小破片である。155は外反

しながら、156は内湾しながら立ち上がる。153～155の突帯には刺突が施される。155は古墳時代の東原～辻堂原式に比定できる。156は古墳時代に比定できる。157～159は甕の胴部～底部にかけてである。157・158は脚台部径が小さいことから弥生時代の中津野式に比定できると考えられる。159は古墳時代に比定できる。160～165は甕の脚部である。160は弥生時代後期～中津野式に比定できる。161・163・164は形態や厚みなどから弥生時代の中津野式に比定できると考えられる。

166は壺の口縁部小破片で、外湾しながら立ち上がる。弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できると考えられる。167・168は壺の胴部小破片である。167は突帯上に刺突が施される。168は幅広の突帯上に細沈線が施される。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。169は壺の胴部である。球形に近い形態を呈し、内外面にはハケメの痕跡が残る。胴部最大径部に1条の突帯が巡り、刺突されている。弥生時代後期～古墳時代の東原式に比定できるが、中津野式の可能性が高い。170は壺の胴部～底部である。径・器壁の厚さなどから、小型のものと考えられる。外面にはハケ状の圧痕が残る。弥生時代の中津野式以降のものに比定できると考えられる。

171は高杯の脚部である。弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できる。

172は甕の口縁端部付近の小破片で、口縁上端部は内側にやや突出している。口縁の下方が太く先端が細く上向きであるという特徴から、弥生時代中期後半頃に比定できる。173は甕の口縁部小破片である。外方に突出し、端部に窪みを有する。口縁部と口縁端部との接合面が観察できる。外面には赤色顔料が残っている。弥生時代中期中葉に比定できる。

174は埴の頸部～胴部の小破片で、古墳時代に比定できる。

175は甕の底部で、弥生時代中期に比定できる。

#### 5f層出土遺物 (Fig.79)

176は土師器の杯である。

177は甕の口縁部で、外湾しながら口縁端部に至る。弥生時代の中津野式～古墳時代の東原式に比定できると考えられる。178は甕の口縁部小破片で、外方に肥厚している。179・180は甕の胴部小破片である。179は古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。180の突帯には刺突が施され、布目圧痕が残っている。古墳時代に比定できる。181

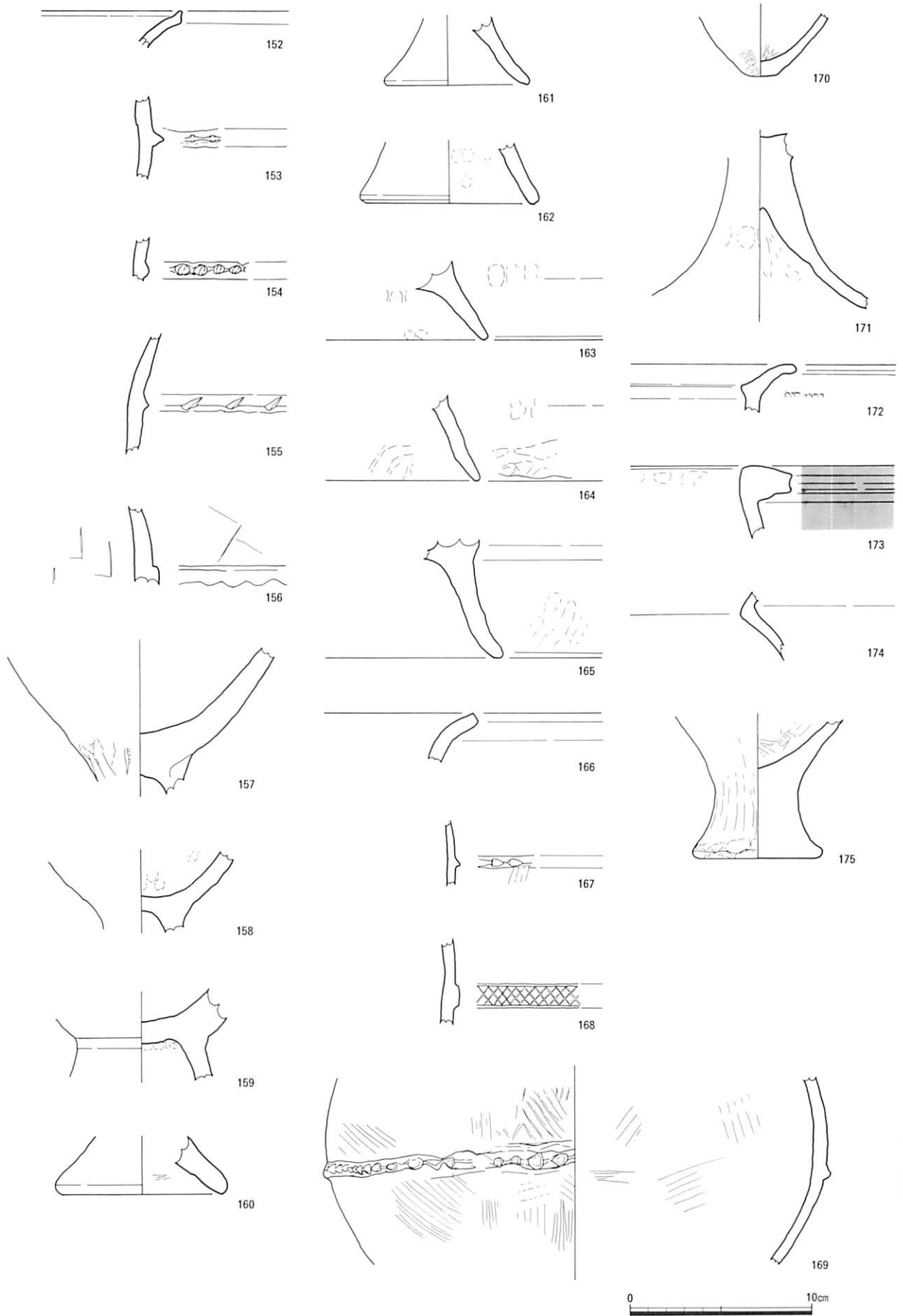


Fig.78 5d層出土の遺物 S=1/3

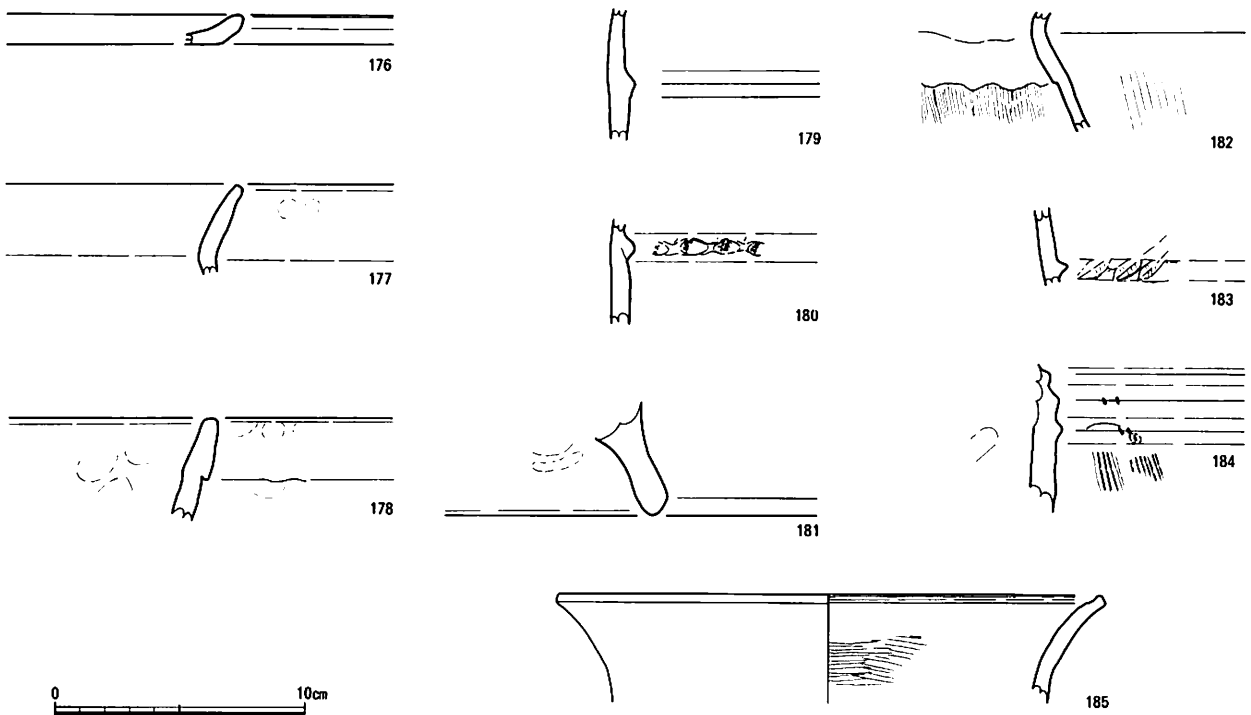


Fig.79 5f層出土の遺物 S=1/3

は甕の脚部小破片である。胴部との接合面で剥離している。

182は壺の頸部付近の小破片である。内外面ともハケメが残る。内面には接合線が観察でき、ハケメが消えていることから、ハケで調整を行った後、接合されたことがわかる。古墳時代に比定できる。183は壺の胴部小破片である。突帯にはハケ工具によると思われる刺突が施される。弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できる。184は壺の胴部である。3条の突帯が巡り、内外面にはハケメが残る。弥生時代の中津野式に比定できると考えられる。185は壺の口縁部である。外湾しながら口縁端部に至り、口縁端部付近の内面はわずかに窪む。内面にハケの痕跡が残る。

#### 5g層出土遺物 (Fig.80)

186は甕の口縁部で、外面にはハケメが残る。中津野式に比定できると考えられる。187は甕の底部である。脚部の接合面で剥離している。188は甕の脚部である。弥生時代の中津野式～古墳時代の東原式に比定できると考えられる。

189は壺の胴部小破片である。内外面にはハケが施される。胴部最大径部に1条の突帯が巡り、ハケ工具によると思われる刺突が施される。弥生時代の中津野式以降の時期に比定できる。190は

壺の胴部である。内面にはヨコハケが、外面には縦方向のハケが施される。胴部最大径部には1条の突帯が巡り、その上に刺突が施される。胴部上方には黒斑が見られる。中津野式以降に比定できる。191は壺の底部である。内外面ともハケによる調整が行われているが、内面はその後ナデられておりハケの痕跡はほとんど残っていない。弥生時代の中津野式に比定できる。192は壺の底部の小破片である。外面には黒斑が見られる。古墳時代に比定できる。

#### 5層出土遺物 (Fig.81～86)

5d・5e・5f・5g層のいずれの層から出土したのか特定できなかった遺物は5層出土とした。

193は陶器の碗の口縁部～体部の小破片である。灰オリーブ色の釉がかけられているが、外面の釉は風化している。194・195は染付の碗の口縁部～体部にかけての小破片である。195の内面には雷文が描かれる。5層は基本的に成川式土器の包含層であると考えられることから、193～195については上部の層からの落ち込みの可能性が高い。

196は須恵器の蓋の小破片である。

197～205は甕の口縁部～胴部の破片である。いずれも突帯を有する。197は内湾ぎみに立ち上がる。突帯の上から刺突が施されるが、その痕跡

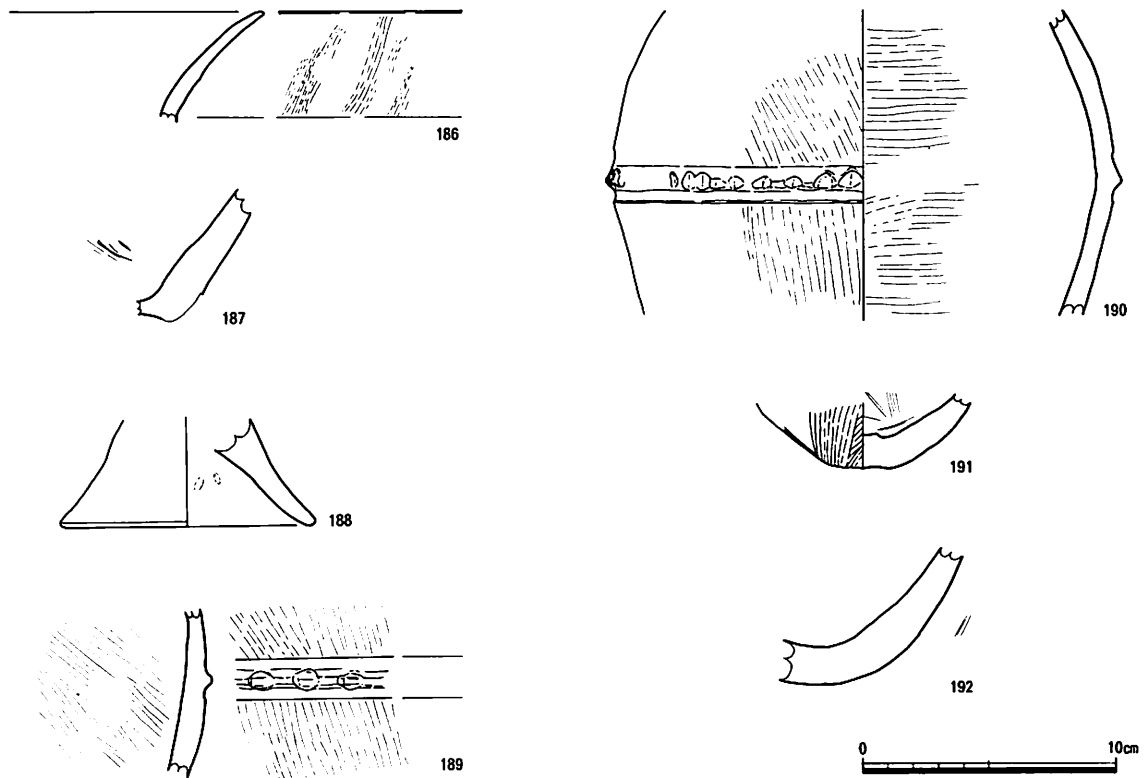


Fig.80 5g層出土の遺物 S=1/3

は胴部にまで及んでいる。突帯の刺突部分の中心には布目圧痕が、その周囲にはハケ状の痕跡が残ることから、ハケ工具に布をかぶせて刺突されたものと考えられる。古墳時代の笹貫式に比定することができる。198はやや外反しながら立ち上がり、口縁端部で内側にわずかに肥厚する。内面と外面の突帯より上方にはヨコハケが、外面の突帯よりも下方にはタテハケが施される。笹貫式に比定できる。199～203・205はほぼまっすぐに立ち上がる。200の内外面にはタテ～ナナメハケが施される。笹貫式に比定できる。201の突帯は絡縄突帯である。笹貫式に比定できる。202の突帯にはハケ工具による刺突が施され、刺突の痕跡は器壁にまで及んでいる。内面にはヨコハケが施される。笹貫式に比定できる。203は突帯の位置がきわめて高く、突帯にハケ工具による刺突が施される。外面にはタテハケの痕跡が残る。笹貫式に比定できる。204はやや内湾しながら立ち上がり、突帯には刺突が施される。204・205は笹貫式に比定できる。206は甕の口縁部小破片で、外反しながら立ち上がる。笹貫式に比定できる。207は甕の口縁部～胴部である。突帯の位置はかなり高く、突帯から上はやや外反している。外面には黒斑が

見られる。古墳時代の辻堂原式に比定できる。208は甕の口縁部で、外面にはハケが施される。笹貫式に比定できる。209は甕の口縁部で、内外面にはハケが施される。中津野式に比定できる。210は甕の口縁部である。中津野式に比定できると考えられる。Fig.82-211は甕と考えられる口縁部の小破片である。

212・213は甕の胴部で、上方で屈曲し、外面にはハケが施される。212の内面はハケ後ナデが施されている。213は弥生時代の中津野式に比定できると考えられる。214～236は甕の胴部小破片でいずれも突帯を有する。214～216・218は古墳時代に比定できる。220は古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。221は絡縄突帯を有する。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。222の突帯はヨコナデが施され、平坦面を有している。古墳時代の笹貫式に比定できる。223～236の突帯には刺突が施され、いずれも古墳時代に比定できる。227～232の刺突はハケ工具によって施されたものと考えられる。229の外面にはハケメが残る。233の突帯に施された刺突には布目圧痕が残る。235の刺突はハケ工具によるものと思われる。237は甕の胴部小破片で、突帯の上から外反する。

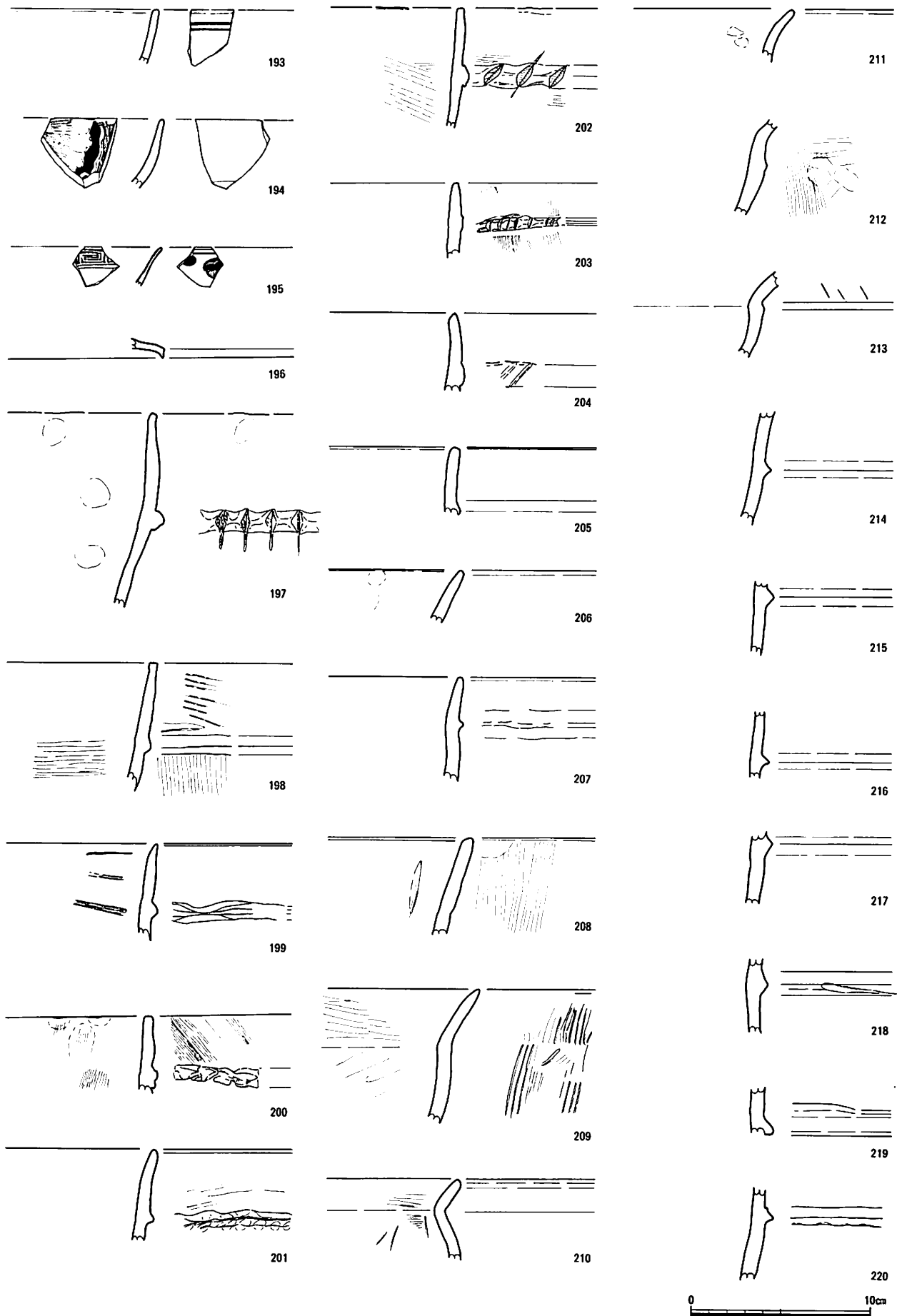


Fig.81 5層出土の遺物(1) S=1/3

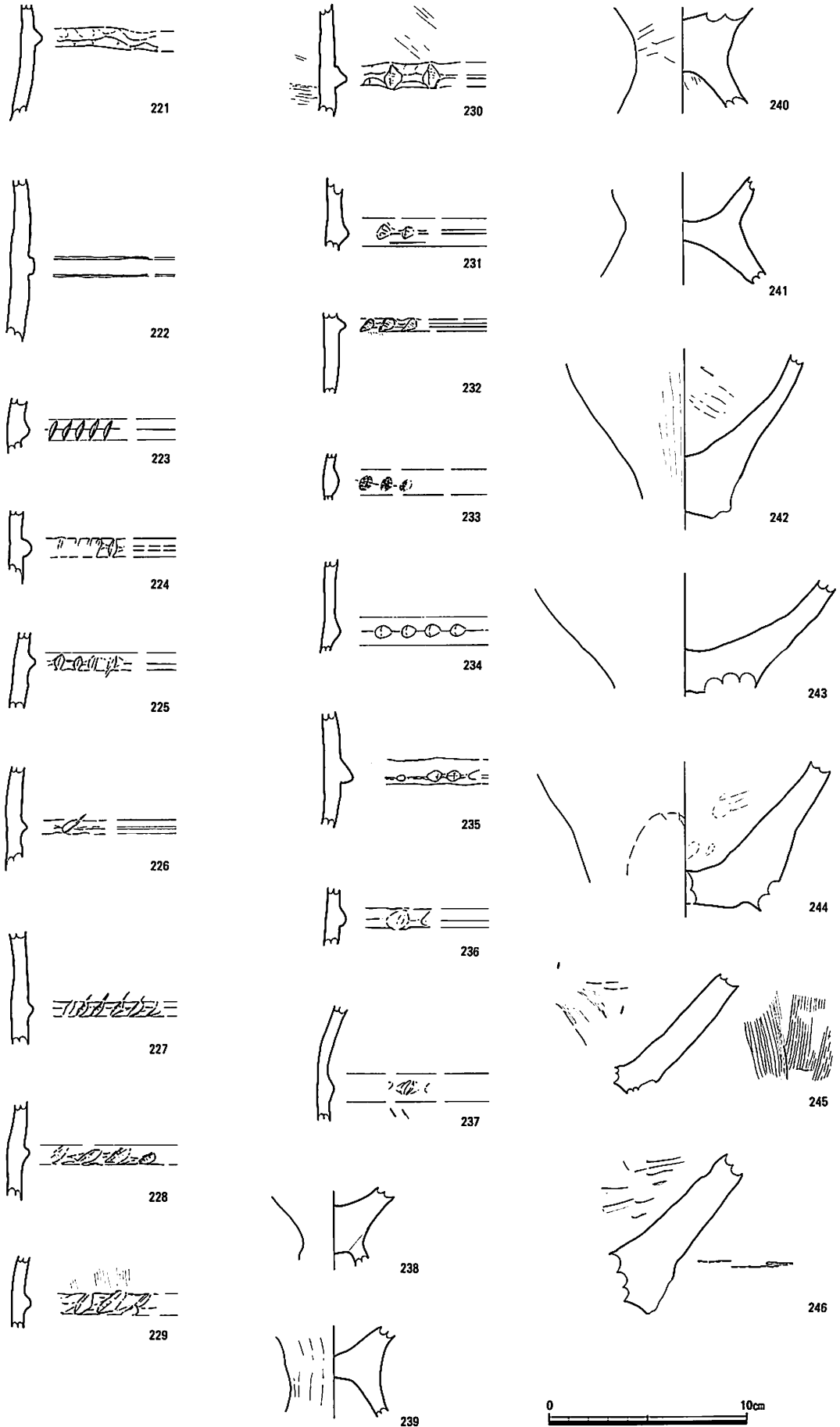


Fig.82 5層出土の遺物（2） S=1/3



突帯には刺突が施される。成川式土器であるが、笹貫式より古いものと考えられる。

238～241は甕の胴部～底部である。238～240は脚台部の径が小さいことや脚部の形態などから弥生時代の中津野式に比定できる。241は古墳時代に比定できる。242～Fig.83 - 250は甕の胴部である。242・247・249の外面と245の内外面にはハケメが残る。242は弥生時代の中津野～古墳時代に比定できる。243・244・246～250は古墳時代に、245は弥生時代終末期～古墳時代に比定できる。251～253・256は甕の胴部～底部である。251は弥生時代の中津野式～古墳時代の東原式に比定できる。252は脚台が低く、脚部径が小さいこと、脚の開き方などから弥生時代の中津野式に比定できる。253の底部の厚さはかなり薄い。胴部外面にはハケメが残る。古墳時代の東原式に比定できる。256の外面にはハケメの痕跡が残る。弥生時代の中津野式に比定できる。254・255・257～260は底部である。254の底部の厚さはかなり薄い。弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できる。255は弥生時代の中津野式に比定できる。257～260は古墳時代に比定できる。259・260の脚台内天井部は下方に膨らむ。このタイプのものは、本調査区ではそれほど多くない。261～263は甕の脚部である。261は弥生時代後期～中津野式に比定できる。262は接合面から剥離している。弥生時代の中津野式～古墳時代の東原式に比定できる。263の脚部はかなり直に立ち上がる。弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できる。264～272は甕の脚部小破片である。264は弥生時代の中津野式に比定できると考えられるが、小型品のため断定はできない。265・266は弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できる。267は古墳時代に比定できる。

273～275は鉢と考えられる口縁部の破片である。いずれも口縁端部付近で外方に屈曲する。273の口縁端部は下方に肥厚している。成川式土器であると考えられる。Fig.84 - 276は鉢の胴部で、内面にはハケメが残る。古墳時代に比定できる。

277は壺の口縁部である。やや外反しながら立ち上がる。成川式土器と考えられる。278～284は壺の口縁部小破片である。いずれも外反しながら立ち上がる形態を呈する。278は成川式土器と考えられる。279は口縁端部付近の内面にわずかな窪みがあり、口縁端部には明瞭な段を有する。外面には縦方向のハケメが残る。弥生時代の中津野

式に比定できると考えられる。280の内面には横方向のハケメが、外面には縦方向のハケメが施される。281・284は成川式土器であると考えられる。282は弥生時代の中津野式に比定できると考えられる。

285～287は壺の頸部小破片である。286と287はかなり強く外反する。いずれも内面には横～斜め方向のハケメが、外面には縦方向のハケメが残る。成川式土器であると考えられる。288は壺の頸部小破片である。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定することができる。289～Fig.85 - 299・301～306は壺の胴部の小破片である。289～291は幅の広い突帯を有するものである。289の突帯の上には細かい沈線が斜め方向に、格子目状に施される。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。290～306の突帯には刺突が施される。290・291の突帯上にはハケ工具による刺突が交差して施される。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。292の内外面と294の外面には縦方向のハケメが残る。292～294の突帯に施された刺突にはいずれも布目圧痕が見られる。古墳時代の笹貫式に比定できる。295の刺突にはハケ工具が用いられていると考えられる。弥生時代後期～古墳時代に比定できる。297は成川式土器であると考えられる。298は古墳時代に比定できる。299は弥生時代後期～古墳時代に比定できる。302の外面には縦方向のハケメが施される。突帯よりも上の位置に施されたタテハケの一部は、突帯が取り付けられた後に施されたことがわかる。303の外面には縦方向のハケメが残る。305の内面には横方向のハケメが残る。外面には工具によるナデ痕が残る。301～305は弥生時代後期～古墳時代に比定することができる。306の内外面には赤色顔料が塗布されている。弥生時代後期～古墳時代に比定できる。300は雍であろうと考えられる。内面には横方向のハケメが、外面には縦方向のハケメが残る。突帯にはハケ工具によると思われる刺突が施される。古墳時代に比定できる。

307～313は壺の底部である。307～311は丸底であり、311～313は平底である。307は古墳時代に比定することができる。308の内面はハケ後ナデ調整が施される。弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できる。309の外面には縦方向のハケメが残り、内面調整はハケ後ナデである。弥生時代の中津野式～古墳時代の東原式に比定することができる。310～312の底部付近には黒斑が見られる。弥生時代の中津野式に比定できる。313の外

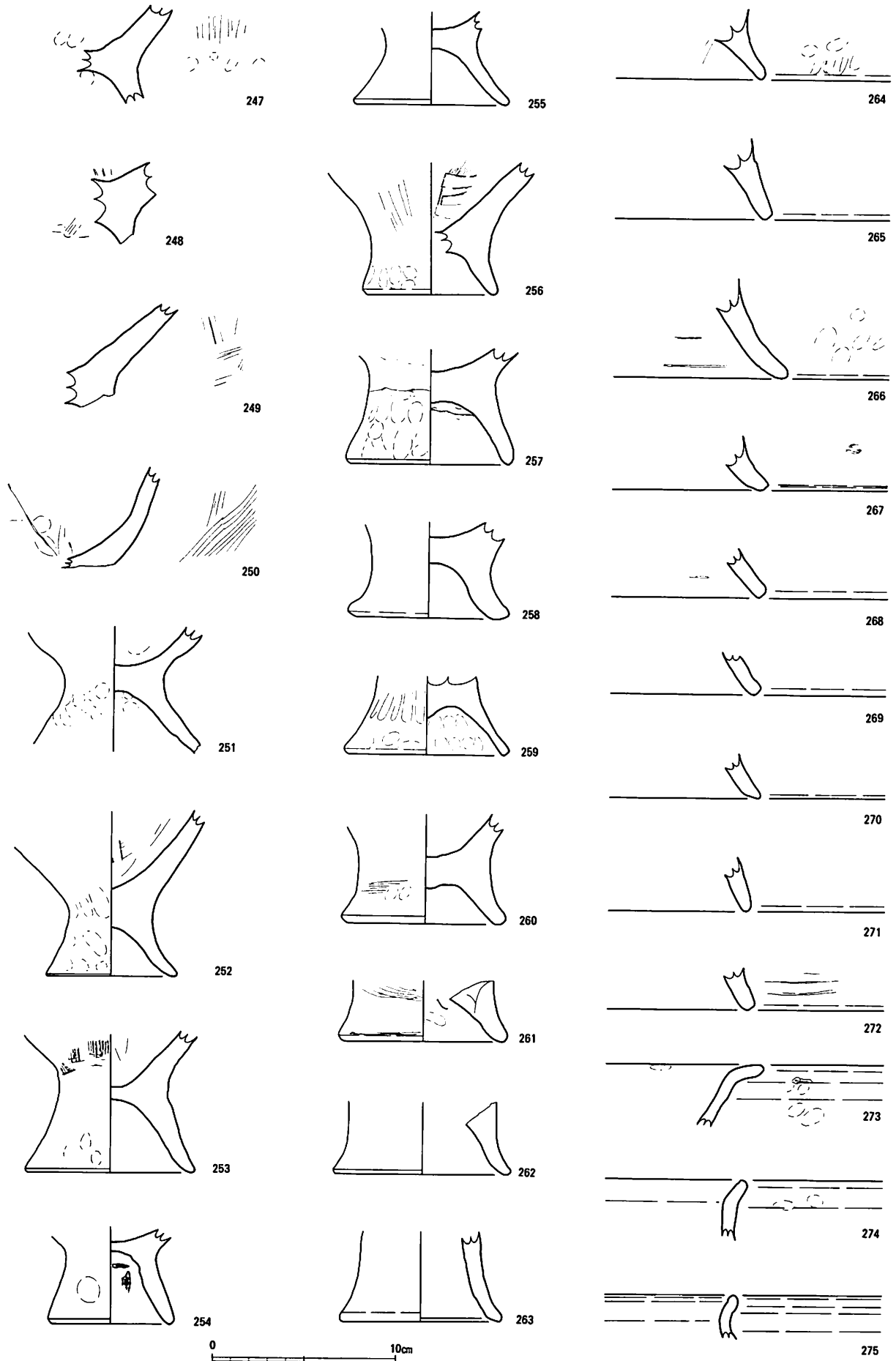


Fig.83 5層出土の遺物（3） S=1/3

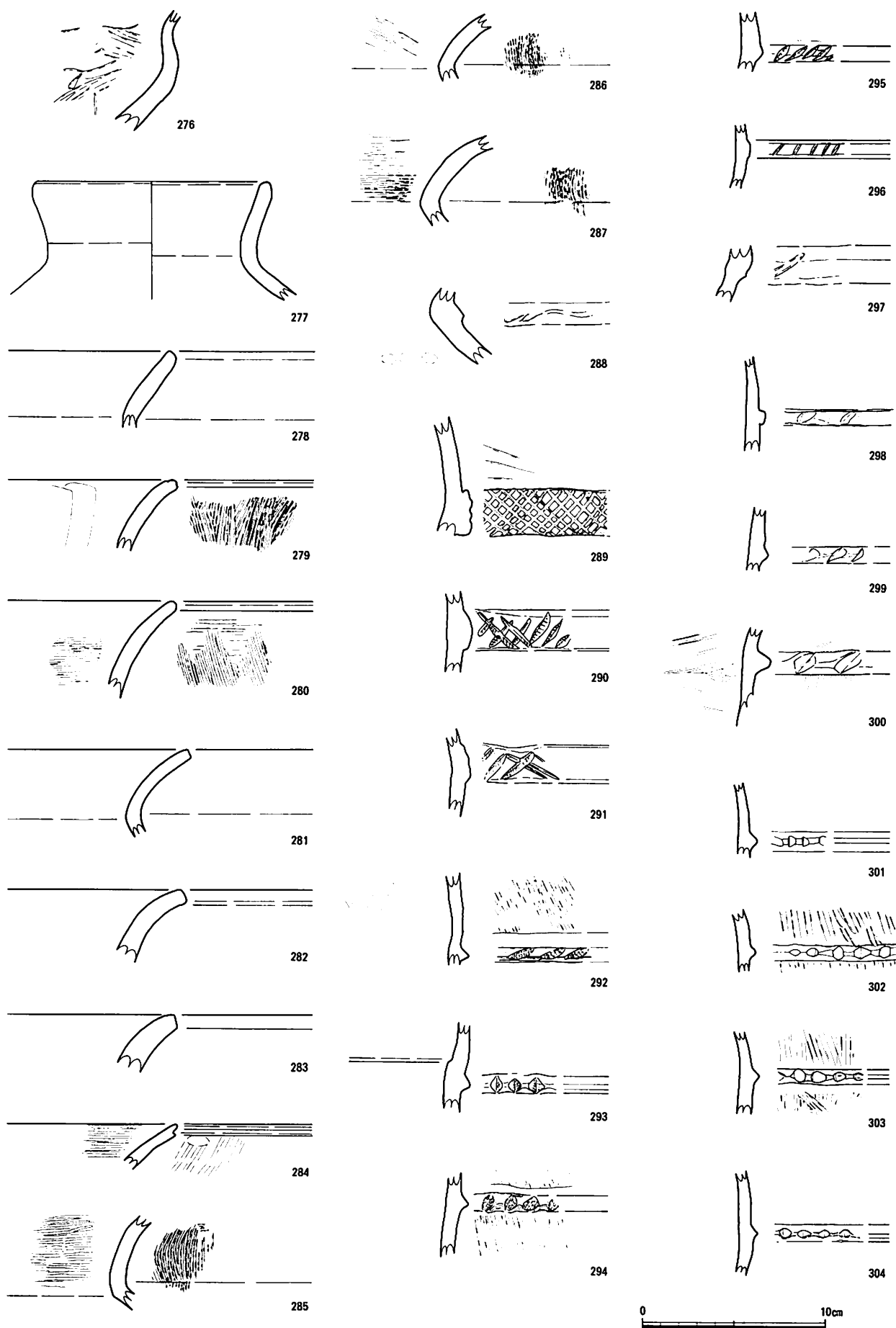


Fig.84 5層出土の遺物(4) S=1/3

面には縦方向のハケメが見られる。弥生時代後期～中津野式に比定できる。

314は高杯の杯部である。杯部の中央部にわずかな段を有する。杯部内面は黒みがかっている。外面には赤色顔料が塗布されている。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。315・316は高杯の口縁部である。315は口縁端部付近の外面がわずかに窪む。315・316は古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。

317は甕の口縁部小破片であると考えられる。

318は高杯の杯部の小破片である。外面に明瞭な段を有し、その部分に接合線が観察できる。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。319～322は高杯の脚部である。319の外面には赤色顔料が塗布されている。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。321は脚部上方が膨らみを有する。323～328は高杯の脚端部付近の小破片である。324は端部にわずかな窪みを有し、内面はヨコハケがわずかに残っている。326は端部付近でわずかに肥厚している。

329は埴の口縁部である。外面には赤色顔料が塗布されている。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。330は埴の頸部付近である。古墳時代に比定できる。Fig.86-331は埴の胴部である。胴部最大径は中央よりも低い位置にある。外面の頸部付近には赤色顔料が認められる。外面のほぼ全体にわたって黒みがかっている。古墳時代に比定できる。332は埴の底部付近の小破片である。平底で、外面底部付近には黒斑が見られる。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。

333～337は弥生土器の甕の口縁部である。333は口縁端部の大きさから小型の甕と考えられる。333～336は弥生時代中期に比定できる。337は弥生時代中期～後期に比定できる

338は弥生土器の壺の頸部である。現状で2条の突帯が確認でき、外面には縦方向のハケメが残る。弥生時代中期から後期に比定できる。339は壺の胴部小破片である。多条の突帯を有し、内面には横方向のハケメが残る。弥生時代中期から後期に比定できる。340は弥生土器の壺の底部である。

341は砂岩製の砥石である。実測図で示した両方の面が砥石として使用された面であったと考えられる。

## 6層出土遺物 (Fig.88・89)

342は磁器の小杯である。出土したのは調査区

の壁際であり、また、上の層は古墳時代の包含層と考えられることから、この遺物は落ち込みによるものと考えられる。

## 層位断面観察用のベルトなどから出土の遺物 (Fig.88・89)

これらの遺物は調査終了直前に土層観察用ベルトや、ベルトコンベヤの台として残っていた部分を調査した際に出土した遺物である。時間的な制約から、平板にドットを落としてレベルを記入して取り上げることはできなかった。層位は不明のものがほとんどであるが、出土した遺物は古墳時代のものが多いことから、5層出土のものが主であると考えられる。

Fig.88-343・344は陶器の皿である。343の内面、外面、口縁部には灰白色の釉が、外面体部には透明釉がかけられる。内外面の口縁付近には貫入が見られる。344の内面には透明釉がかけられている。345は陶器の皿または碗と考えられる。内面と外面の一部には透明釉がかけられ、貫入が見られる。346～348は陶器の甕の口縁部小破片である。いずれも薩摩焼と考えられる。346の口縁部付近外面には1条の沈線が巡る。暗オリーブ灰色の釉がかけられ、口縁端部上面は無釉である。347にはオリーブ黒色の釉がかけられ、口縁端部上面は無釉である。348には極暗褐色の釉がかけられるが、口縁端部上面は無釉もしくは薄くかかっている程度である。口縁端部上面には砂目が見られる。349は薩摩焼の茶家の口縁部～釣り手掛部分である。暗灰黄色の釉がかけられている。350は磁器の碗と考えられる口縁部小破片である。内面には雷文が描かれる。351～355は染付の碗の口縁部～体部にかけての小破片である。352の外面には貫入が見られる。356は染付の碗と考えられる。357～359は染付の碗である。358・359の畳付は無釉である。359の内外面には貫入が見られる。360は染付の皿の底部の小破片である。畳付は無釉である。361は染付であるが器種は不明。外面に貫入が見られる。362は青磁の碗の口縁部小破片で、外面に片彫りがある。

363は須恵器の甕の口縁部である。口縁端部は上方と下方にわずかに突出している。鹿児島県内では比較的よく見られる形態のものであり、9世紀頃のものと考えられる。

364は甕の口縁部と考えられる。傾きや厚さからは高杯の可能性も否定できないが、高杯にして

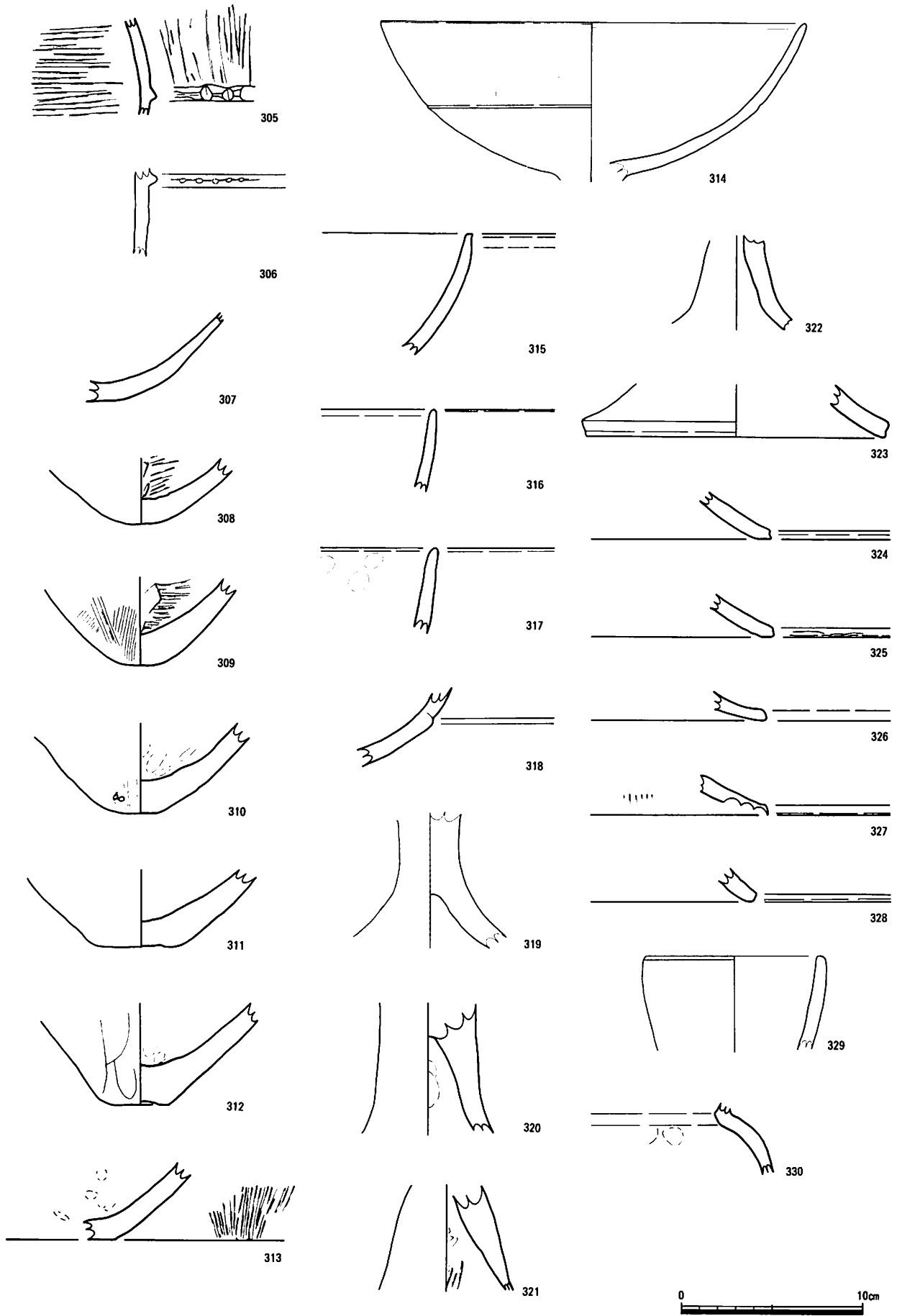


Fig.85 5層出土の遺物(5) S=1/3

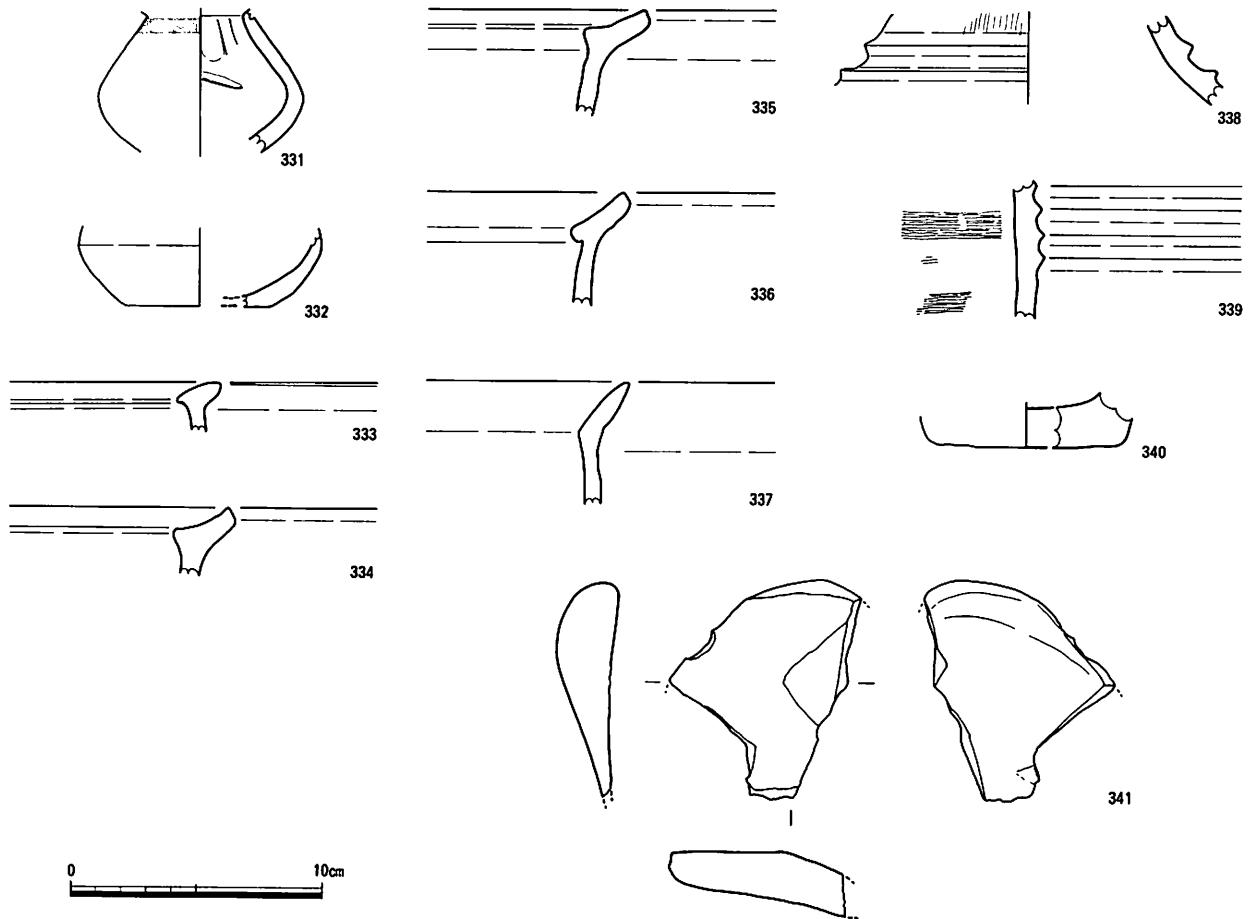


Fig.86 5層出土の遺物（6） S=1/3

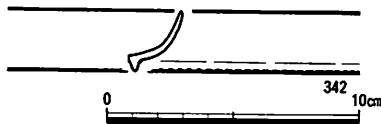


Fig.87 6層出土の遺物 S=1/3

は胎土が粗いため甕であると判断した。365は甕の口縁部～胴部である。突帯から上はほぼまっすぐに立ち上がり、口縁端部付近でわずかに外反する。突帯は非常に低く、その上に刺突が施される。古墳時代の笹貫式に比定できる。366は甕の口縁部～胴部である。外反しながら立ち上がる。突帯にはハケ工具によると思われる刺突が施される。367は甕の口縁部～胴部と考えられ、外面にはタテハケが残る。

368～370は甕の胴部小破片である。369は古墳時代に比定できる。370の突帯には刺突が施される。371・372は甕の胴部～底部である。371は底部付近に段を有し、脚部との接合面で剥離している。371～372は弥生時代の中津野式～古墳時代

に比定できる。

373～Fig.89-375は甕の底部付近である。373は弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できる。374・375は古墳時代に比定できる。376～377は甕の脚部である。376・377は古墳時代に比定できる。378～380は甕の脚部小破片である。378は弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できる。

381は壺の口縁部と考えられる。弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できる。

382・383は壺の胴部小破片である。いずれの突帯にも刺突が施される。382は古墳時代に、383は弥生時代後期～中津野式に比定できる。384は壺の胴部である。突帯にハケ工具による刺突が施され、内面には縦方向のハケメが残る。385は壺の胴部小破片である。内面には横方向のハケメが、外面には縦方向のハケメが残る。外面ハケが施された後突帯が取り付けられており、突帯にはハケ工具による刺突が施される。弥生時代後期～中津野式に比定できる。

386は壺の胴部の破片である。387～389は壺の底部である。387は丸底と平底との中間的な形態を呈する。388・389は平底を呈する。387は弥生

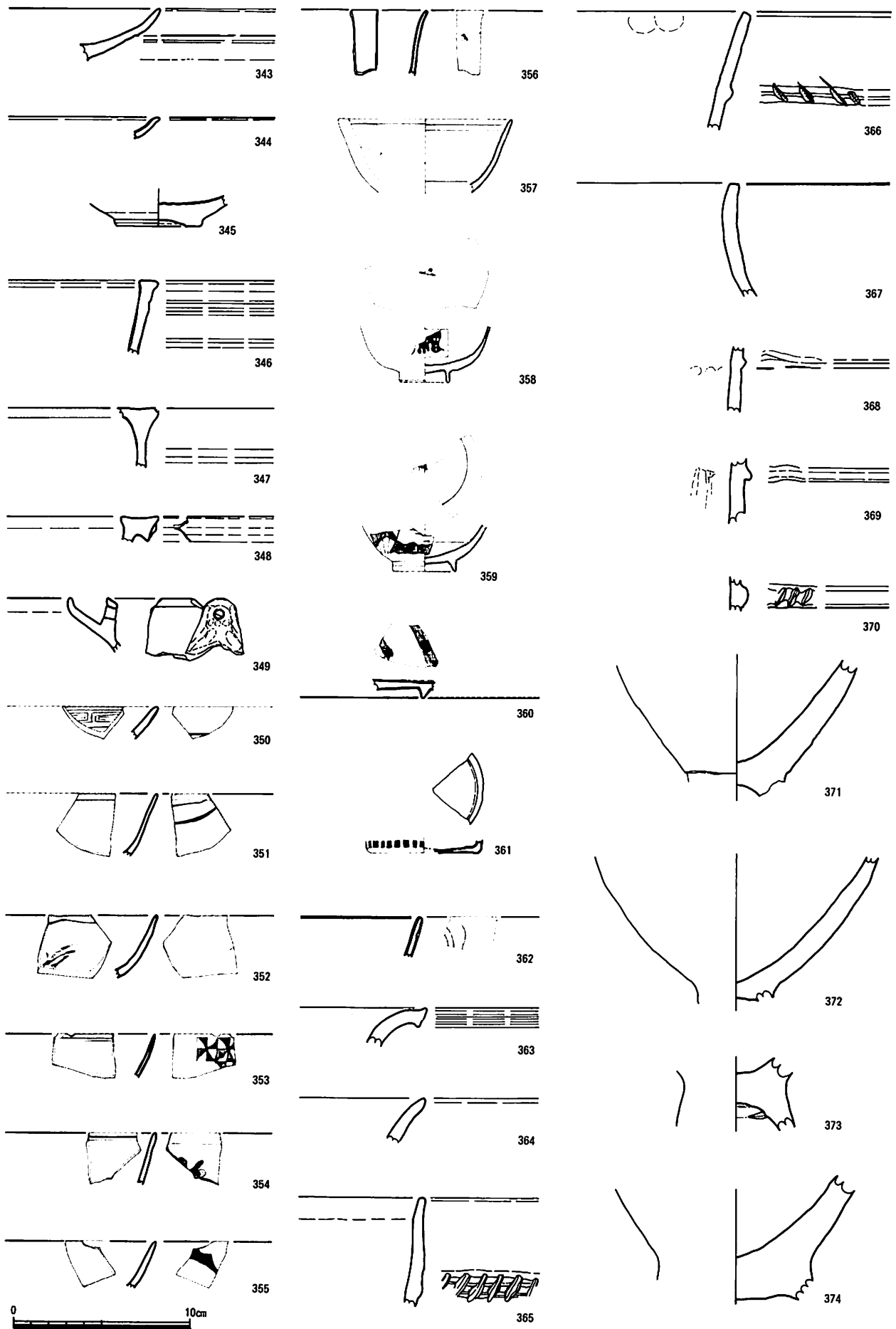


Fig.88 層位観察ベルト等から出土の遺物 (1) S=1/3

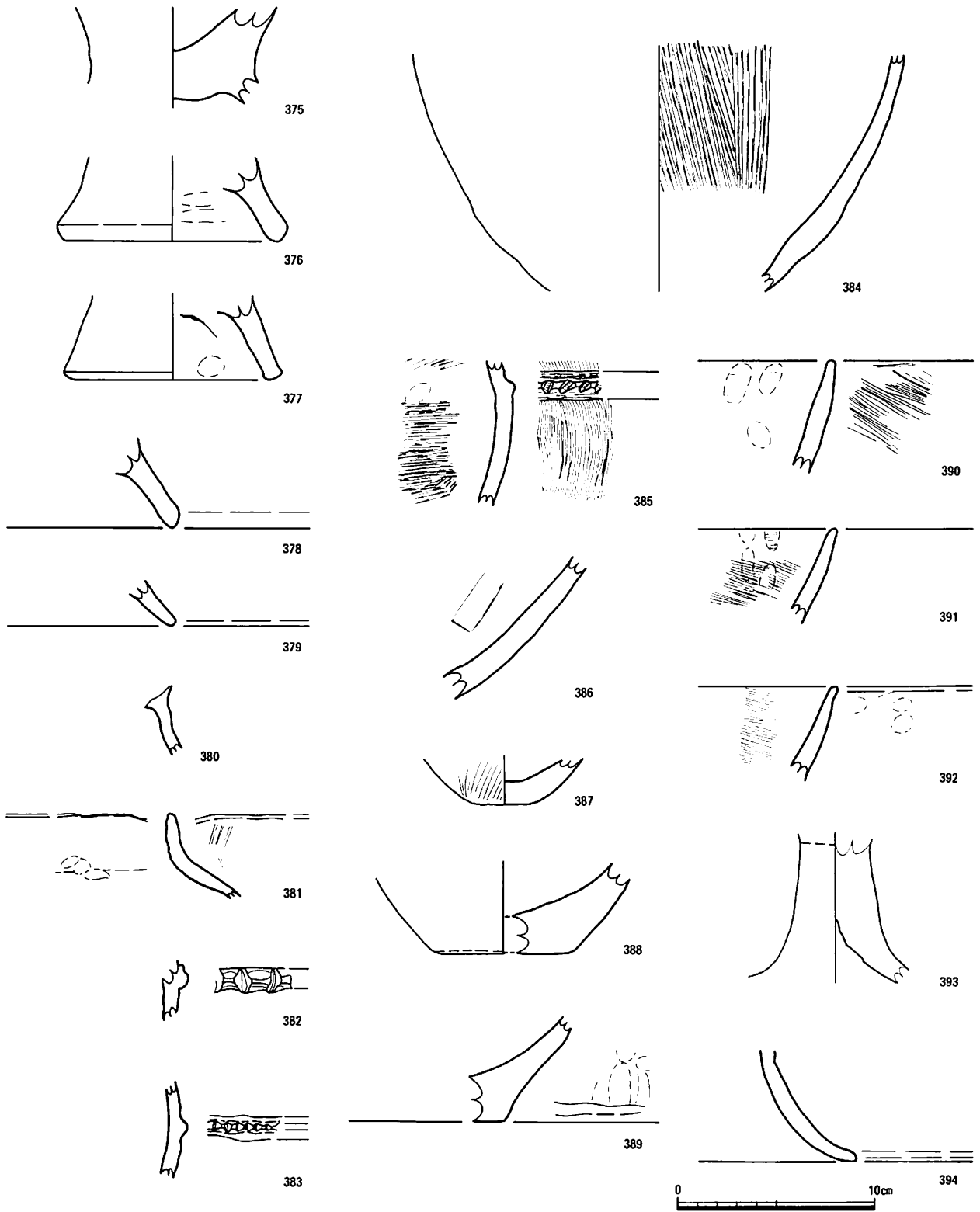


Fig.89 層位観察ベルト等から出土の遺物（2） S=1/3



時代の中津野式に、388は弥生時代後期～中津野式に、389は弥生時代の中津野式～古墳時代に比定できる。

390～392は高杯の口縁部～杯部である。390の外面には斜め方向のハケメが、内面には縦方向のハケメがわずかに残っている。390・391は古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。392の口縁端部はわずかにくびれる。内面には横方向のハケメが残る。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。393は高杯の脚部である。外面にはミガキが施され、赤色顔料が塗布されている。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。394は高杯の脚部小破片である。

#### 表土・カクラン出土の遺物 (Fig.90)

395は磁器の皿と考えられる。内面には白色の釉で突起が作られている。内面には貫入が見られる。

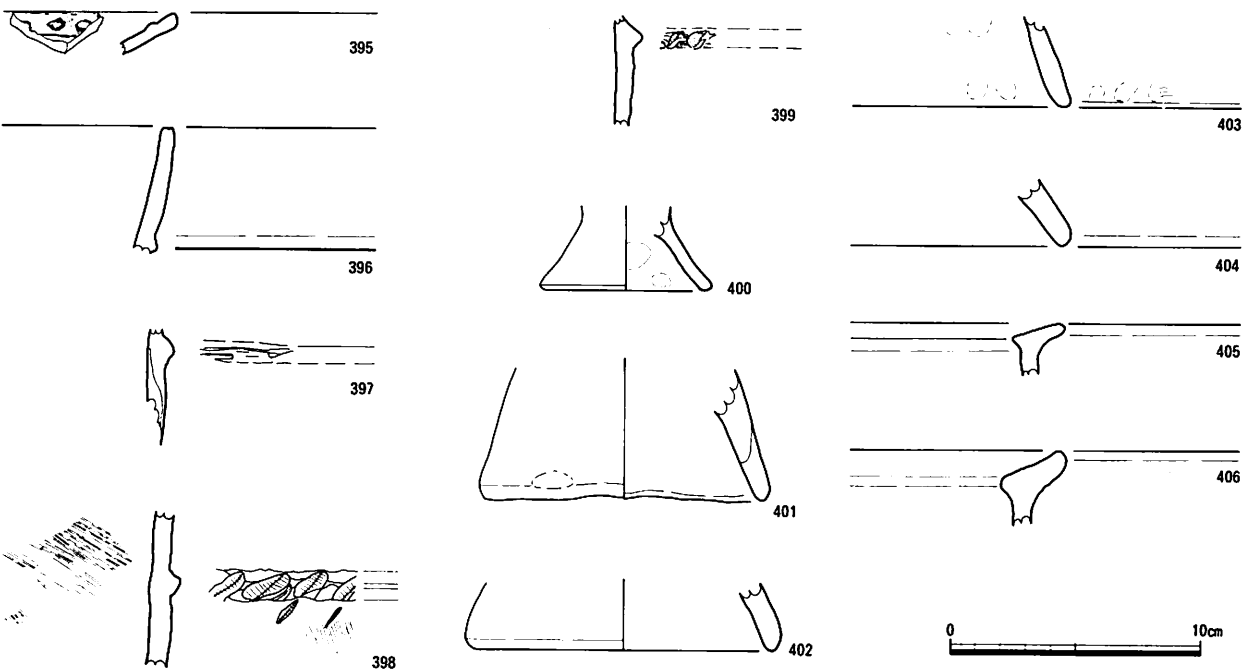


Fig.90 表土・カクラン層出土の遺物 S=1/3

396は甕の口縁部～胴部の小破片で突帯を有する。口縁端部にわずかな窪みを有する。古墳時代の笹貫式に比定できる。397～399は甕の胴部小破片である。いずれも突帯を有する。397は古墳時代に比定できる。398・399の突帯にはハケ工具によると思われる刺突が施される。398の突帯に施された刺突は胴部にまで及んでいる。古墳時代の笹貫式に比定できる。400～404は甕の脚部である。400は非常に小型の甕である。弥生時代の中津野式に比定できる。他は古墳時代に比定できる。

405・406は弥生土器の甕の口縁部である。405は弥生時代中期に、406は弥生時代中期後半に比定できる。

#### その他の遺物 (Fig.91)

407は染付であるが器種は不明。408は染付の碗の小破片である。409は甕の胴部の小破片であ

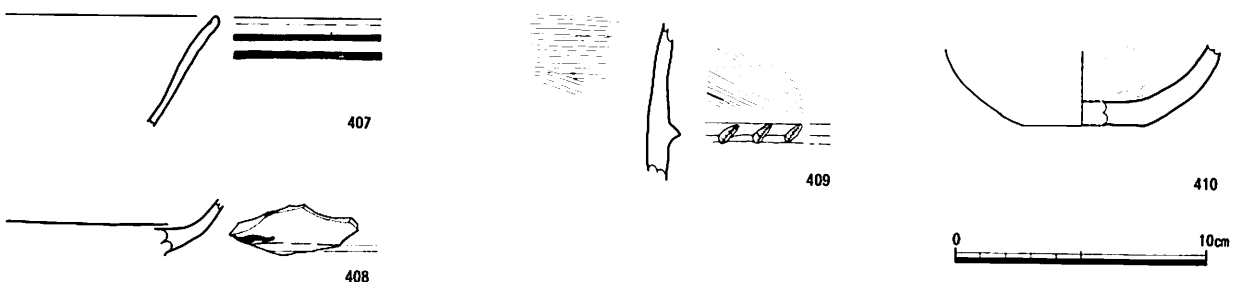


Fig.91 その他の遺物 S=1/3

る。内面にはヨコハケが施され、外面にはナナメハケが施される。その後突帯が取り付けられ、ハケ工具による刺突が施される。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。410は埴の底部付近で、底部には黒斑が見られる。古墳時代の辻堂原～笹貫式に比定できる。

## 7 まとめ

### 層について

1・2層は表土層、3・4層は、検出された遺構や層の特徴などから水田層であったと考えられる。5層は成川式土器を中心とする包含層、6層は地山で、砂層である。なお、この砂層中に貝殻などは見られなかった。

3層から出土した遺物は少ないものの、遺物などを参考に、明治以降の年代を考えることができる。

4層は薩摩焼が出土していることなどから、江戸時代以降の年代を想定したい。

5層はいずれも弥生時代から古墳時代の成川式土器を包含する層である。しかし、古墳時代よりも新しい時期の須恵器も少量見られる。5層のうちでも下方に位置する5g層では弥生時代の中津野式土器と判別できる資料の頻度が高いことから、弥生時代の包含層である可能性もあるといえる。その場合、5層にはかなりの時間幅が見込めそうである。

調査の結果、地山面（6層上面）は東に向かって低くなっていることがわかった。5層は調査区東側でかなり厚く堆積しており、そのため、5層の上端を追いかけるとほぼ水平になっている。なお、調査区西側で確認された5層は、5層のうちでも下方に位置する層である5g層であることから、調査区西側においても5g層より上位の層が、もともとは堆積していた可能性が高い。

ところで、5層は古墳時代を中心とする包含層、4層は江戸時代以降の年代を想定した。この場合、時代はかなり隔たる層が接していることになる。この要因として、自然作用（洪水などによる削平）、あるいは水田を作るための整地などが考えられる。3・4層が水田層であると考えられることから、後者の可能性も高いものと思われる。

### 遺構について

調査区南東部の3・4層で、「稲積み」と考えら

れる遺構を3基検出した（SD1～3）。「稲積み」は郡元団地F-3区（大学院連合農学研究科校舎建設予定地）での発掘調査においても検出されており<sup>4)</sup>、形態・規模、推定される年代は類似しているといえる。しかし、F-3区で確認されたような「稲積み」内部に明確な柱穴を有するものは見られなかった。その他の土壙状遺構については、その性格を明らかにすることはできなかった。

ピットは4・5・6層から239基検出したが、建物に伴うものと判断できるものはなかった。また、その他の性格についても明確にすることはできなかった。

溝状遺構は3・4・5層から全部で13条検出された。その方向はおおきく2つに分けることができる。半数以上が北西-南東向き（SD1・2・4・6・7・8・13）、次に多いのは北東-南西向き（SD3・5・6・12）である。溝底の傾きが明らかなものについては、南に向かって傾斜するものが多い。この傾向は、近接する水町遺跡<sup>5)</sup>での状況と同様である。

SD1の年代は出土遺物や、それが検出された3層の年代、その下の層で検出されたSD2の出土遺物を参考にすると明治時代以降の比較的新しい時期を想定できる。

SD2は4層で検出され、多くの遺物が出土したが、ほとんどは陶器や磁器である。ガラス製の薬瓶が出土していることなどから明治以降の比較的新しい時期を推定できる。

SD3～12はいずれも5層で検出された。このうち遺物実測図を掲載した遺構は、SD4・6・12である。SD4で出土した青磁は小破片のため、時期を知ることができない。SD6の青磁碗は12世紀以降の時期を推定できる。SD12は古墳時代に比定できる遺物が出土しているが、検出面は5b層であるため、その他の5b層検出の溝の年代とそれほど変わらないと考えられる。溝の年代としては、出土遺物が少ないため推定の域を出ないものの、中世以降であると考えたい。

3層で検出されたSD1と5層で検出されたSD6は、それぞれの年代は異なると考えられるが、溝の底に長方形を呈する落ち込みが連続して見られる点で共通している。人為的なものか、自然作用によるものか決定できないが、比較的よく整った落ち込みであるため、人為的なものである可能性が高い。

3・4層上面から検出された溝、特にSD1に

については、そのすぐ近くから畝や「稲積み」遺構が検出されているため、水田に伴うものであると考えられる。SD2についてはその埋土中から、かなり多量の遺物が出土しているため、水田に伴うのかどうかを断定することはできない。5層で検出されたSD3～13については、水田、あるいは畑などの遺構が検出されていないため、その用途についての結論を下すことはできない。

先述したように、地山のレベルは調査区西側に向かって高くなっている。一方、本調査地点の西側に位置する福利厚生施設建設地における発掘調査では、地山のレベルは東に向かって高くなっていることがわかった。同様に、西側に位置する水町遺跡でも地山のレベルは東に向かって高くなっている<sup>6)</sup>。このことから、本調査地点の西側は微高地であったと推定でき、本調査地点は微高地からの傾斜面に位置するものと考えられる。郡元団地内では微高地を中心に古墳時代の住居跡が多数検出されているが、本調査地点西側の微高地上に住居跡が存在していたかどうかは不明である。これらの調査地点からの出土遺物の多くが小破片であり、また、量的にもそれほど多くないということや、これらの調査の結果推定できる微高地の範囲はそれほど広くないということから、この微高地に住居が作られなかった可能性の方が高いのではないかと考えられる。

古代および中世の層は確認されていないため、その後の状況は不明であるが、近世には、この傾斜面はもはや存在せず、本調査地点一帯は水田として利用されていたといえる。

#### 遺物について

本遺跡からは約4400点の遺物が出土した。そのうちの大部分は土器である。土器は小破片のものが多く、接合することができた資料もそれほど多くなかったため、二次的な移動を受けていると考えられる。最も多く出土したのは弥生時代から古墳時代にかけてのいわゆる成川式土器であるが、溝(SD2)からは陶磁器も比較的多く出土した。各層から須恵器もわずかに出土し、5層を中心に弥生土器も少量ではあるが出土している。

郡元団地内から比較的多く出土する中世の土器類は、ここではあまり見られなかった。これは、中世に比定できる包含層が無いとためと考えられるが、該期の遺物が皆無というわけではない。中世の包含層は水田造成あるいは洪水などの自然作用により削平されたのではないかと考えられる。

成川式土器のうち最も多い器種は甕、次に多いのが壺であり、時期的には古墳時代後期に比定できる笹貫式の占める割合が最も高い。郡元団地ではこれまでの発掘調査によって多量の成川式土器が出土している。そのうち最も多く出土しているのは、笹貫式と呼ばれる型式のものである。本調査地点でもその傾向に変わりはないといえるが、弥生時代に位置づけられる中津野式のものも比較的多いことが注意される。

弥生土器のうち最も多い器種は成川式土器と同様、甕であり、次に多いのが壺である。時期別に見ると、中期に属するものの比率が高いといえる。

#### 註

- 1) 坪根伸也編「水町遺跡（鹿児島大学郡元団地内遺跡 P-6・7 地点）－鹿児島大学教育学部校舎新築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」鹿児島大学教育学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室、1987
- 2) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室「第2章 鹿児島大学郡元団地P-4・5区における試掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報IV 昭和63年度』鹿児島大学埋蔵文化財調査室、1989
- 3) 出土遺物の説明には、以下の文献などを参考にした。  
中村直子「成川式土器再考」『鹿大考古』6、鹿児島大学法文学部考古学研究室、1987  
上村俊雄「鹿児島県荒平須恵器古窯址群発見の意義とその問題点について」『古文化談叢』14、1984  
上村俊雄・坪根伸也「鹿児島県中岳山麓須恵器古窯址群に関する一考察」『古文化談叢』15、1985  
中村浩「和泉陶器窯の研究－須恵器生産の基礎的考察－」柏書房、1981  
中村浩「須恵器」柏書房、1990  
峯崎幸清編「妻山元遺跡」国分市埋蔵文化財調査報告書(1)、国分市教育委員会、1985  
松元健郎編「生産遺跡基本調査報告書Ⅱ－須恵器窯跡・瓦窯跡・陶磁器窯跡」『熊本県文化財調査報告第48集』、熊本県教育委員会、1980  
向田民夫「日本の陶磁9 薩摩」保育社、1978  
本田道輝・下山覚編「大龍遺跡－大龍小学校校舎改築及び給食室建設に伴う第5次・第6次緊急発掘調査報告書－」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(7)、鹿児島市教育委員会、1986  
出口浩編「大龍小学校体育館建設工事に伴う第7次緊急発掘調査報告書－第1集 歴史時代編 大龍寺跡」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(15)、鹿児島市教育委員会、1992  
弥栄久志編「鹿児島城二之丸跡（遺物編）－鹿児島県立図書館・鹿児島県立視聴覚センター建設に伴う発掘調査報告書－」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告

書(60)、鹿児島県教育委員会、1992

矢部良明・水尾比呂志・岡村吉右衛門「日本のやきもの⑧ 薩摩・民窯」講談社、1992

上田耕編「南別府城跡一城山遺跡一」知覧町埋蔵文化財発掘調査報告書第4集、知覧町教育委員会、1993

4) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室「第3章 鹿児島大学郡

元団地F-3・4区(大学院連合農学研究科校舎建設予定地)における発掘調査報告」「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報V 平成元年度」鹿児島大学埋蔵文化財調査室、1990

5) 註1文献に同じ。

6) 註1文献に同じ。

Tab. 7 遺物観察表

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
46	1	杯	底部	SD1	灰白色(10Y7/1)		回転ナデ	須恵器, 残存率1/8, 底径(8.55) cm
53	2	碗	口縁部	SD2	灰白色(7.5Y8/1)/釉調 透明		施釉	磁器
53	3	碗	口縁部	SD2	灰白色(7.5Y8/1)/釉調 透明		施釉	磁器
53	4	碗	口縁部	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 透明, 貫入		施釉	磁器
53	5	小杯	口縁部~高台	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 透明, 内面文様: 青灰色(5B6/1)		施釉, 内面: 文様(文様上の釉剥離)	磁器
53	6	小杯	口縁部	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 緑透明, 明緑灰色(10GY8/1)		施釉	磁器
53	7	?	口縁部	SD2	灰白色(2.5GY8/1)/釉調 緑色, 緑灰色(5G5/1), 貫入		施釉	磁器
53	8	碗	底部	SD2	灰白色(2.5GY8/1)/釉調 白透明, 明緑灰色(7.5GY8/1)		施釉, 高台皿付: 無釉, 外面: 回転ヘラケズリ?	磁器, 残存率1/2, 底径(3.10) cm
53	9	碗	底部	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 透明		施釉, 外・内面: 色絵	磁器
53	10	皿	口縁部	SD2	灰白色(7.5Y8/1)/釉調 透明, 外面: 貫入		施釉	磁器
53	11	皿	口縁部	SD2	灰白色/釉調 透明		施釉	磁器
53	12	碗	底部	SD2	灰白色(7.5Y8/1)/釉調 青透明, 明青灰色(10BG7/1), 高台下端文様: 橙色(5YR7/6)		施釉, 高台皿付: 無釉, 内面見込に砂目	磁器, 残存率1/2, 底径(4.00) cm
53	13	?	底部	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 外面: 橙色(7.5YR7/6)~灰白色(10YR8/2)・透明釉, 内面: 灰白色(2.5Y8/2)		ナデ, 外面一部: 施釉	磁器, 残存率1/2, 底径(6.95) cm
53	14	鉢	口縁部	SD2	灰白色(7.5Y7/1)/釉調 白透明, 灰白色(2.5Y8/1), 外面下部: 透明, 貫入		施釉	半磁器
53	15	皿	口縁部~高台	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 透明, 口縁端部: 明褐色(7.5YR7/6)		施釉, 内面: 文様	磁器, 残存率1/2, 底径(6.38) cm
53	16	皿	口縁部~高台	SD2	灰白色(2.5GY8/1・N8/0)/釉調 透明, 口縁端部: 明褐色(7.5YR7/6), 内面文様: 緑灰色(10GY 6/1)に類似		施釉, 内面: 文様, 高台皿付: 無釉	磁器, 残存率1/5, 口径(7.50) cm
53	17	茶家	底部	SD2	灰白色(10Y8/1)/釉調 透明, 外面文様: 暗青灰色(5B4/1)に類似, 下端: 橙色(2.5YR7/6)		外・内面: 施釉, 外面: 色絵, 底部外面: 無釉	磁器, 外面円形状に隆起(注口?)
53	18	茶家	天井部~口縁部	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 透明, 外面: 文様(青): 暗青灰色(5B4/1)に類似, (紫): 紫灰色(5RP6/1)		施釉, 外面: 文様, かえり: 無釉	磁器, 残存率: 1/3, 口径(6.45) cm, 天井部: 穿孔(直径3mm)
53	19	碗	底部	SD2	高台皿付: 橙色(5YR6/8), 高台内面: 灰黄褐色(10YR6/2), 器内: におい橙色(7.5YR6/4)/釉調 外面: 灰色(7.5Y6/1), 内面: 灰白色(5Y8/2・7.5Y8/2)		外・内面: 施釉, 内面: 文様(流し掛け?), 内面見込: 砂目, 高台皿付~高台内面: 無釉, 高台内面蛇の目状に削り取り	陶器, 底径4.80cm
53	20	碗	底部	SD2	外面下部~高台内面: 灰黄褐色(10YR4/2), 器内: 青灰色(10BG5/1)/釉調 灰白色(5Y7/2), 外面中部: 灰色(5Y4/1), 透明釉, 貫入		施釉, 高台皿付~高台内面: 無釉, 内面見込: 蛇の目(幅8mm)・砂目	陶器, 残存率1/2, 底径(5.55) cm
53	21	碗or皿	底部	SD2	におい赤褐色(2.5YR5/4)/釉調 におい黄褐色(10YR4/3)・浅黄色(5Y7/3), 透明釉, 貫入		施釉(流し掛け), 高台~高台内面: 無釉・回転ナデ, 内面見込: 蛇の目(幅1 cm)	陶器, 残存率1/2, 底径(5.15) cm
53	22	皿	底部	SD2	皿付~高台内面: 黄灰色(2.5Y4/1), 器内: 褐色(7.5YR4/3)/釉調 外面上部・内面: 白色釉: 灰白色(5Y8/2), 外面下部: 透明釉, 貫入		施釉, 白色(流し掛け)・透明, 高台皿付~高台内面: 無釉・回転ナデ	陶器, 残存率1/2, 底径(5.05) cm
53	23	碗	底部	SD2	高台外・内面: 黄褐色(2.5Y5/3), 器内: におい黄褐色(10YR5/4)/釉調 外面上部・内面: 白色釉: 灰白色(5Y8/2), 貫入, 外面下部: 透明釉: 灰黄褐色(10YR5/2)		施釉, 白色・透明釉, 高台~高台内面: 無釉・回転ナデ, 内面見込: 蛇の目(幅7 mm)	陶器, 残存率1/2, 底径(3.75) cm
53	24	碗	底部	SD2	淡黄色(2.5Y8/3)/釉調 内面: 透明	微粒子をわずかに含む	外面: 風化, 内面: 施釉	陶器, 残存率2/3, 底径(4.20) cm
53	25	碗	底部	SD2	内面見込・高台外内面皿付: 黒褐色(10YR7/2), 器内: 褐色(7.5YR7/6)/釉調 薄い緑色: オリーブ灰色(2.5GY6/1), 外面上部: 灰白色(7.5Y7/2)		施釉, 高台・高台内面: 無釉, 内面見込: 蛇の目(幅1 cm)	陶器, 残存率1/4, 底径(4.65) cm
53	26	碗	底部	SD2	橙色(7.5YR7/6)/釉調 灰白色(7.5Y7/1)		施釉, 外面体部下~高台内面: 無釉・回転ナデ	陶器, 残存率1/4, 底径(4.75) cm

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
53	27	甃	口縁部	SD2	口縁端部：にぶい赤褐色(2.5YR5/4), 器内：橙色(7.5YR7/6)／釉調 オリーブ黒色(7.5Y3/2)		施釉, 口縁端部：無釉・回転ナデ	陶器(薩摩)
53	28	甃	口縁部	SD2	外面～内面上部：橙色(5YR6/8), 器内：橙色(5YR7/8)		回転ナデ, 外面～内面上部：顔料?	陶器?
53	29	甃	口縁部	SD2	口縁上端部：にぶい赤褐色(2.5YR4/3), 器内：にぶい橙色(2.5YR6/4)／釉調 暗灰黄色(2.5Y4/2)		施釉, 口縁上端部：無釉・回転ナデ	陶器(薩摩)
53	30	甃	口縁部	SD2	外面一部・口縁上端部：褐色(7.5YR4/3), 器内：にぶい赤褐色(5YR5/3)／釉調 オリーブ黒色(10Y3/2)		施釉, 外面：部分的に無釉, 口縁上端部：無釉・回転ナデ	陶器(薩摩)
53	31	甃	口縁部	SD2	口縁上端部：にぶい赤褐色(5YR4/3), 器内：にぶい橙色(5YR6/4)／釉調 オリーブ黒色(10Y3/2)		施釉, 口縁上端部：無釉・回転ナデ	陶器(薩摩)
53	32	甃	口縁部	SD2	外面一部・口縁上端部：にぶい赤褐色(5YR5/4), 器内：にぶい褐色(7.5YR5/4)／釉調 オリーブ灰色(5GY5/1)		施釉, 外面一部・口縁上端部：無釉・カキメ	陶器(薩摩)
53	33	甃	口縁部	SD2	黒褐色(10YR3/2), 器内：灰褐色(7.5YR4/2)／釉調 灰白色(5Y7/2)		施釉, 回転ナデ, 外・内面一部：無釉・ヨコナデ, 口縁端部：無釉	陶器(薩摩)
53	34	?	口縁部	SD2	にぶい橙色(7.5YR6/4)／釉調 オリーブ褐色(2.5Y4/6), 貫入		施釉	陶器(薩摩?)
54	35	碗	口縁部～高台	SD2	灰白色(N8/0)／釉調 透明		施釉, 外面・高台内面：文様, 高台畳付：無釉	染付, 残存率1/2, 底径(3.55) cm
54	36	碗	口縁部～高台	SD2	灰白色(N8/0)／釉調 透明		施釉, 外面：文様, 高台畳付：無釉	染付, 残存率1/2, 底径(4.05) cm
54	37	碗	口縁部	SD2	灰白色(N8/0)／釉調 透明		施釉, 外面：文様(文字)	染付, 残存率1/4, 口径(6.80) cm
54	38	小杯	口縁部～高台	SD2	灰白色(N8/0)／釉調 透明		施釉, 外面：文様, 高台畳付：無釉	染付, 残存率2/3, 底径(2.34) cm
54	39	碗	口縁部	SD2	灰白色(N8/0)／釉調 透明		施釉, 外面：文様	染付, 残存率1/4, 口径(6.20) cm
54	40	碗	口縁部～体部	SD2	灰白色(2.5GY8/1)／釉調 透明		施釉, 外面：文様	染付, 残存率1/3, 口径(11.40) cm
54	41	碗	口縁部～体部	SD2	灰白色(N7/0)／釉調 白透明：明オリーブ灰色(2.5GY7/1)		施釉, 外・内面：色絵	染付, 残存率1/6, 口径(12.45) cm
54	42	碗	口縁部	SD2	灰白色(7.5Y8/1)／釉調 透明		施釉, 外面：色絵	染付, 残存率1/6, 口径(10.3) cm
54	43	碗	口縁部	SD2	にぶい黄橙色(10YR7/4)／釉調 灰白色(7.5Y7/1)		施釉, 外面：色絵	染付, 残存率1/6, 口径(10.05) cm
54	44	碗?	口縁部	SD2	灰白色(N8/0)／釉調 透明		施釉, 外・内面：色絵	染付
54	45	碗?	口縁部	SD2	灰白色(2.5GY8/1)／釉調 透明・明緑灰色(10GY8/1)		施釉, 外面：色絵, 口縁端部上面～内面：無釉	染付
54	46	碗	口縁部～体部	SD2	灰白色(2.5GY8/1)／釉調 透明・灰白色(5GY8/1)		施釉, 外・内面：色絵	染付
54	47	?	口縁部	SD2	灰白色(7.5Y8/1)／釉調 透明		施釉, 外・内面：色絵	染付
54	48	?	口縁部	SD2	灰白色(10Y7/1)／釉調 透明, 貫入		施釉, 外面：色絵	染付
54	49	碗	口縁部～体部	SD2	灰白色(10Y8/1)／釉調 透明		施釉, 外面：色絵(たこ唐草文)	染付
54	50	碗	口縁部～体部	SD2	灰白色(10Y8/1)／釉調 透明		施釉, 外面：色絵	染付
54	51	碗	体部～底部	SD2	灰白色(10Y8/1)／釉調 透明		施釉, 外・内面：色絵, 高台畳付：無釉	染付, 残存率1/2, 底径(4.40) cm
54	52	碗	体部～底部	SD2	灰白色(5Y8/1)／釉調 透明		施釉, 外・内面：色絵, 高台畳付：無釉	染付, 残存率1/3, 底径(5.00) cm
54	53	碗?	体部～底部	SD2	灰白色(N8/0)／釉調 透明, 高台畳付：にぶい黄橙色(10YR7/4)		施釉, 外・内面：色絵, 高台畳付：無釉	染付, 残存率1/8, 底径(5.95) cm
54	54	碗	体部～底部	SD2	灰白色(N7/0)／釉調 青透明：明青灰色(5B7/1)		施釉, 外・内面：色絵, 高台畳付：無釉	染付, 残存率1/4, 底径(3.95) cm
54	55	碗	底部	SD2	灰白色(5Y7/1)／釉調 透明		施釉, 高台外面：色絵, 高台畳付：無釉, 内面見込：蛇の目?	染付
54	56	碗	体部～底部	SD2	灰白色(7.5Y8/1)／釉調 緑透明：明緑灰色(10GY8/1)		施釉, 外面：色絵, 高台畳付：無釉	染付
54	57	碗	体部～底部	SD2	灰白色(2.5GY8/1)／釉調 透明		施釉, 外面：色絵, 高台畳付：無釉	染付

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
54	58	皿	口縁部～ 体部	SD2	灰白色(2.5GY8/1)/釉調 透明		施釉, 外・内面: 色絵(草花)	染付, 残存率1/3, 口径(9.05) cm
54	59	皿	口縁部～ 体部	SD2	灰白色(10Y8/1)/釉調 透明		施釉, 内面: 色絵(草)	染付, 残存率1/6, 口径(12.90) cm
54	60	皿	口縁部～ 体部	SD2	灰白色(10Y8/1)/釉調 透明		施釉, 外・内面: 色絵(たご唐草文)	染付
54	61	皿	口縁部～ 体部	SD2	灰白色(10Y8/1)/釉調 透明		施釉, 外・内面: 色絵	染付
54	62	皿	口縁部～ 体部	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 緑透明: 明緑灰色(7.5GY8/1)		施釉, 内面: 色絵	染付
54	63	皿	口縁部～ 体部	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 緑透明: 明緑灰色(10GY8/1)		施釉, 外・内面: 色絵	染付
54	64	蓋	天井部	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 透明		施釉, 外面: 色絵, かえり: 無釉	染付
55	65	?	口縁部～ 体部	SD2	明赤褐色(2.5YR5/6)/釉調 外面: 褐色釉: 灰褐色(7.5Y5/2), 口縁端部～内面: 白色釉: 淡黄色(2.5Y8/3), 貫入		施釉, 外面: 褐色釉, 外面一部・内面: 白色釉, 外面下部: 無釉	陶器
55	66	?	胴部	SD2	外面一部・突帯部上部: 灰黄褐色(10YR4/2), 器肉: におい赤褐色(5YR5/4)/釉調 灰色(7.5Y6/1)		施釉, 外面上部一部: 釉掻き取り(V字形)	陶器
55	67	甕	胴部	SD2	器肉: におい橙色(7.5YR6/4)/釉調 黒褐色(10YR2/3)		施釉, 外面一部: 無釉, 上側の突帯に刺突	陶器(薩摩)
55	68	甕?	底部	SD2	底面一部: 灰褐色(5YR4/2), 器肉: 橙色(7.5YR7/6)/釉調 黒褐色(2.5Y3/2)		施釉, 底面一部: 無釉	陶器(薩摩?)
55	69	甕	底部	SD2	底面: 灰褐色(5YR4/2), 器肉: 灰色(N4/0)/釉調 外面: 灰色(5Y4/1), 内面: 灰オリーブ色(7.5Y5/2)に類似		外面: カキメ?, 内面: 施釉・カキメ?, 底面: 一部釉付着	陶器, 残存率1/6, 底径(16.50) cm
55	70	植木鉢?	底部	SD2	におい赤橙色(10R6/4)/釉調 外面: 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)		外面: 施釉・カキメ, 内面: 無釉・カキメ?, 内面底部: ナデ, 底面: 無釉・ナデ	陶器, 残存率1/3, 底径(13.35) cm, 底面中央部: 穿孔(径17mm)
55	71	搦鉢	口縁部	SD2	赤褐色(10R4/3)/釉調 外面: 黒褐色(5YR2/2)・灰オリーブ(5Y4/2)		外面: 施釉・カキメ, 内面: 無釉・カキメ, 溝は7条が1単位で幅は1.7cm, 口縁端部: 無釉・回転ナデ	陶器, 残存率1/8, 口径(30.40cm), 注口付
55	72	搦鉢	口縁部	SD2	におい橙色(2.5YR6/4)/釉調 外面: 灰オリーブ(5Y4/2), 内面: 黒褐色(7.5YR2/2)	微粒子(白色)をわずかに含む	外・内面: 施釉・カキメ, 口縁端部: 無釉・回転ナデ	陶器, 注口付
55	73	搦鉢	底部	SD2	橙色(5YR6/6)/釉調 外～底面・内面溝凹部: 灰白色(2.5Y7/1)		外～底面・内面溝凹部に釉が残る	陶器, 釉風化, 溝: 摩滅
55	74	搦鉢	底部	SD2	橙色(5YR6/6)/釉調 外面・内面溝凹部: 灰褐色(7.5YR5/2)		外面・内面溝凹部に釉が残る, 内面・底部外面: 無釉	陶器, 釉風化, 溝: 摩滅
55	75	仏飯器	口縁部～ 脚部	SD2	におい黄橙色(10YR6/4)/釉調 白色: 灰白色(2.5Y8/2), 貫入		外・内面: 施釉, 脚内面: 無釉・回転ナデ	陶器, 残存率1/2, 口径(5.15) cm
55	76	茶家	天井部～ 口縁部	SD2	口縁かえり～内面: におい褐色(7.5YR5/4), 器肉: におい橙色(7.5YR7/4)/釉調 外面: 黒褐色(2.5Y3/2)		外面: 施釉, 口縁かえり～内面: 無釉, 回転ナデ	陶器(薩摩, 茶家)
55	77	茶家	注口部	SD2	紫灰色(5P6/1)/釉調 外面: 暗赤褐色(2.5YR3/3), 内面: 暗赤灰色(2.5YR3/1)		施釉	陶器(薩摩)
55	78	茶家	注口部	SD2	灰白色(10YR7/1)/釉調 外面: 暗赤褐色(10R3/3), 内面: 赤灰色(2.5YR4/1)		施釉	陶器(薩摩)
55	79	茶家	注口部	SD2	注口付根上部: 灰赤色(10R5/2), 器肉: 暗緑灰色(10GY4/1)/釉調 オリーブ黒色(7.5Y3/2)		施釉, 内面・釣り手掛: 無釉	陶器(薩摩)
55	80	瓶?	胴部	SD2	内面: 灰赤色(10R6/2), 器肉: 緑黒色(5G2/1)・橙色(2.5YR6/6)/釉調 内面: 黄灰色(2.5Y6/1)		カキメ・一部は後ナデ, 内面: カキメ・施釉, 把手下部: ユビオサエ	陶器
55	81	?	口縁部	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 緑透明: 明緑灰色(10GY8/1), 貫入		施釉	青磁
55	82	碗	口縁部	SD2	灰白色(5Y7/1)/釉調 緑透明: オリーブ黄色(5Y6/3)		施釉, 内面: 片彫り(花卉?)	青磁
55	83	碗	底部	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 緑透明: 明緑灰色(5G7/1)		施釉, 外面: 片彫り(蓮弁?), 内面: 文様(魚・文字), 高台付: 無釉・回転ナデ, 高台内面: 無釉・一部釉付着	青磁, 残存率2/3, 底径(5.15) cm

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
55	84	碗	底部	SD2	灰白色(N8/0)/釉調 緑透明:明 緑灰色(10G7/1), 貫入		施釉, 内面:文様(花 弁?), 高台内面:一部無 釉	青磁
55	85	碗	底部	SD2	灰白色(10Y8/1)/釉調 外面・高 台内面:明緑灰色(10GY8/1)		外面・高台内面:施釉, 内 面・高台畳付:無釉	青磁?
55	86	碗	底部	SD2	灰白色(N7/0)/釉調 透明		外・内面:施釉, 高台内 面:無釉	青磁?
56	87	花生	口縁部~ 体部	SD2	灰白色(5Y8/2)/釉調 透明, 貫入		外面~内面上部:施釉・回 転ナデ, 外面:文様	染付
56	88	?	注口?	SD2	にぶい橙色(7.5YR6/4)/釉調 外 面半分~内面:オリーブ黒色 (5Y3/2)		外面先端部~内面:施釉・ 回転ナデ?	陶製品, 最大径3.60cm
56	89	古銭		SD2	オリーブ黒色(5Y3/2)			寛永通宝, 重量2.32 g
56	90	葉ビン	蓋	SD2	青透明	気泡あり		ガラス製, 長さ2.90cm, 幅2.25cm
56	91	葉ビン		SD2	透明			ガラス製, 高さ6.95cm, 最大幅3.65cm
56	92	杯?	底部	SD2	浅黄橙色(10YR8/4), 器内:浅黄色 (2.5Y7/4)		内面:回転ナデ, 外面:摩 滅のため調整不明, 底部: 糸切り	土師器
56	93	甕	胴部	SD2	外面:にぶい赤褐色(5YR4/4), 内 面:灰黄褐色(10YR4/2)	細粒子・微粒子をわずか に含む.	ナデ	古墳時代辻堂原~笹貫式
56	94	甕	底部	SD2	外面:橙色(7.5YR6/6), 内面:暗 青灰色(5B4/1), 器内:灰白色 (7.5YR8/2)	粗砂粒をわずかに含む	ナデ	弥生時代中期
59	95	杯?	口縁部	SK7	灰色(N5/0)		回転ナデ	須恵器, 96と同一個体 の可能性
59	96	杯?	口縁部	SK7	灰色(N7/1)		回転ナデ	須恵器, 95と同一個体 の可能性
62	97	碗	口縁部	SD4	灰白色(N7/0)/釉調 緑透明:オ リーブ灰色(10Y6/2), 貫入	微粒子(白色)をわずか に含む	施釉	青磁
62	98	甕?	胴部	SD4	外面:灰色(N4/0), 器内:灰白色 (N7/0)	微粒子(白色)をわずか に含む	回転ナデ	須恵器
62	99	杯	底部	SD4	浅黄橙色(7.5YR8/6)	微粒子(赤色他)をわず かに含む	摩滅のため調整不明	土師器, 残存率1/6, 底径 (6.95) cm
63	100	碗	底部	SD6	灰白色(N7/0)/釉調 緑色:オ リーブ灰色(5GY6/1), 貫入		施釉, 内面見込:花文のスタ ンプ, 高台畳付~高台内 面:無釉・一部釉付着・回 転ナデ	青磁, 残存率3/4, 底径 5.85cm
63	101	揺鉢	底部	SD6	外面:黒褐色(10YR3/1), 内面溝凹 部:灰色(N5/0), 底面:にぶい橙色 (2.5YR6/4), 器内:灰白色(5Y7/1)		ナデ?	瓦器?
63	102	碗	底部	SD6	橙色(5YR7/6), 器内:浅黄橙色 (7.5YR8/4)		回転ナデ?	土師器, 残存率1/4, 底径 (6.45) cm
63	103	高杯	杯部~底 部	SD6	外面:橙色(7.5YR6/6), 内面:(7/6)	微~細粒子をわずかに含 む	ナデ?	古墳時代?
63	104	壺	頸部	SD6	外面:浅黄橙色(7.5YR8/4), 内 面:灰褐色(7.5YR6/2), 器内:灰 白色(5Y7/1)	微~細粒子をわずかに, 砂粒~粗砂粒を含む	外面:タテハケ後ナデ, 内 面上部:ハケ後ナデ?(ハケ メは残らない)・下部:ナ デ, 頸部と胴部の境界部分 にユビオサエ痕が残る	
66	105	高杯or埴	口縁部	SD12	外面上部:灰色(7.5Y5/1), 下部:に ぶい黄橙色(10YR7/4), 内面:灰色 (7.5Y5/1)	黒色砂粒・細粒子を含 む.	ヨコナデ	古墳時代辻堂原~笹貫式
66	106	甕	脚部	SD12	上部:橙色(2.5YR6/6), 下部:に ぶい黄橙色(10YR7/4)	微~細粒子を若干含む	ナデ, 脚端部:ヨコナデ	古墳時代, 残存率1/8, 底 径?(12.35) cm
70	107	碗	口縁部~ 底部	3a	灰白色(N8/0)/釉調 透明		施釉, 外面:絵付け, 高台 畳付:無釉	染付, 残存率1/5, 口径 (9.25) cm
71	108	碗	口縁部	3b	灰白色(10Y8/1)/釉調 透明		施釉, 外・内面:絵付け	染付
72	109	碗	口縁部	4a	灰白色(5Y8/1)/釉調 緑透明:オ リーブ灰色(5GY6/1)に類似, 貫入		施釉, 外面:片彫り(蓮 弁?)	青磁
72	110	碗	口縁部	4a	灰白色(N7/1)/釉調 緑透明:オ リーブ灰色(2.5GY6/1)に類似, 貫 入		施釉	青磁
72	111	揺鉢	底部	4a	内面:浅黄橙色(7.5YR8/6), 器 内:灰黄色(2.5Y6/2)	微~細粒子・砂粒~粗砂 粒を若干含む	ナデ, 外面:へら状工具に よるナデ?, 内面の溝は7 本単位(1.9cm幅)	
73	112	皿	口縁部~ 体部	4c	灰白色(10Y8/1)/釉調 緑透明: 灰白色(10Y7/1), 貫入		施釉	青磁



Fig No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
73 113	甕	口縁部	4c	外面：灰色(7.5Y5/1), 内面・器肉：灰白色(7.5Y7/1)		外面下部：タタキ後ナデ, 内面下部：横方向のナデ, 口縁部：回転ナデ	須恵器
73 114	甕	口縁部	4c	外・内面：橙色(7.5YR7/6)～褐灰色(7.5YR4/1), 器肉：褐灰色(5YR5/1)	砂～礫を若干含む	横方向のナデ, 突帯部付近：ヨコナデ	古墳時代東原～辻堂原式
73 115	甕	口縁部	4c	外面：黒褐色(7.5YR3/1), 内面：灰黄褐色(10YR6/2), 器肉：灰白色(10YR8/2)	細粒子～砂粒を含む	斜め方向のハケ後ナデ, 口縁部：ヨコナデ	古墳時代笹貫式?
74 116	?	口縁部～体部	4e	灰白色(10Y8/1)／釉調 透明, 口縁部：橙色(7.5YR6/6)		施釉, 口縁部：色絵	磁器, 残存率1/8, 口径(15.8) cm
74 117	?	口縁部～体部	4e	灰白色(5Y8/1)／釉調 透明		施釉	磁器
74 118	碗	底部	4e	灰白色(2.5Y8/2)／釉調 外・内面：灰白色(5Y7/1), 高台内面：灰白色(5Y7/2), 貫入		施釉, 内面見込・高台付付近に胎土? 付着	陶器, 残存率1/4, 底径(5.00) cm, 内面見込に2ヶ所胎土付着
74 119	碗	口縁部	4e	灰白色(2.5Y8/2)／釉調 透明		施釉, 外・内面：文様	染付
74 120	皿	口縁部～体部	4e	灰白色(7.5Y8/1)／釉調 透明, 外面下部：灰白色(2.5Y8/2)		施釉, 内面：絵付け, 外面下部：無釉	染付
74 121	碗	口縁部～体部	4e	灰白色(N7/0)／釉調 緑透明：オリブ灰色(5GY6/1)に類似		施釉, 外面上部：文様(雷文)	青磁
74 122	キセル		4e	上部：にぶい黄橙色(10YR7/2), 下部：浅黄色(2.5Y7/3)／釉調 鉛釉		施釉, 雁首接続部内面：無釉, 粘土を突出させて文様を表現	陶器(薩摩?)
75 123	甕	脚部	5a	橙色(7.5YR7/6)	微～細粒子を若干, 砂粒(白色)をわずかに含む	ナデ, 外・内面にユビオサエ痕が残る	古墳時代
76 124	甕	口縁部～胴部	5b	灰色(N5/0), 外面頸部：暗青灰色(5B3/1)		口縁部～頸部：回転ナデ, 外面胴部：タタキ(平行), 内面胴部：当て具痕(同心円文)・上部は後ナデ	須恵器, 残存率1/3, 口径(18.90) cm
76 125	甕	口縁部～胴部	5b	外面：橙色(7.5YR6/8), 内面：にぶい橙色(7.5YR6/4), 器肉：オリブ灰色(2.5GY5/1)	微～細粒子・砂～礫(赤色その他)を含む	外面・内面下部：ナデ, 内面上部：ハケ後ナデ?	弥生時代中津野式～古墳時代東原式
76 126	甕	胴部	5b	外・内面：にぶい褐色(7.5YR6/3), 器肉：明黄褐色(10YR6/6)	微～細粒子を若干含む	外面：横方向のナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯刺突部に布目圧痕, 内面：ナデ	古墳時代東原～辻堂原式
76 127	甕	胴部	5b	外面：灰褐色(7.5YR4/2), 内面：にぶい橙色(7.5YR7/4), 器肉：灰白色(7.5YR8/2)	透明砂粒, 微～細粒子を若干含む	外面：横方向のナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯刺突部に布目圧痕, 内面：ナデ	古墳時代辻堂原・笹貫式
76 128	甕	胴部	5b	外面：黒褐色(10YR3/1)・明黄褐色(10YR6/6), 内面：にぶい黄褐色(10YR7/4), 器肉：灰黄褐色(10YR6/2)	砂粒を若干含む, 微～細粒子をわずかに含む	外面上部：タテハケ後ナデ?・下部：ナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯にハケ工具による刺突, 内面：ナデ・下部：ヨコハケ	古墳時代辻堂原・笹貫式
76 129	甕	胴部	5b	外面上部：灰黄褐色(10YR6/2)・下部：浅黄褐色(7.5YR8/4), 内面：橙色(7.5YR7/6), 器肉：灰白色(10YR8/2)	赤色その他砂粒, 微～細粒子を若干含む	ナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯に刺突	古墳時代辻堂原・笹貫式
76 130	甕	胴部	5b	外面：にぶい黄褐色(10YR6/4), 内面：灰黄褐色(10YR6/2)	微～細粒子を含む, 砂粒(透明他)を若干含む	斜め方向のナデ, 突帯に刺突	古墳時代
76 131	甕	胴部	5b	外面：明褐色(7.5YR5/6), 内面：浅黄褐色(7.5YR8/3), 器肉：褐灰色(7.5YR6/1)	微～細粒子を多く, 砂粒をわずかに含む	ナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯に刺突	
76 132	甕?	胴部	5b	外面：明黄褐色(10YR6/6), 内面：にぶい黄褐色(10YR7/4), 器肉：暗灰黄色(2.5Y5/2)	砂粒(赤色)・微～細粒子をわずかに含む	外面上部：斜め方向のハケ後ナデ, 内面：ナデ?, 絡縄突帯	古墳時代, 絡縄突帯
76 133	甕	脚部	5b	にぶい橙色(7.5YR7/4・5YR7/4), 器肉：淡橙色(5YR8/4)	透明粗砂粒をわずかに, 微～細粒子を若干含む	ナデ	古墳時代, 残存率1/3, 底径(11.95) cm
76 134	甕	脚部	5b	外面：明黄褐色(10YR6/6), 内面：明赤褐色(5YR5/6), 器肉：暗赤褐色(2.5YR3/3)	透明砂粒をわずかに, 微～細粒子(透明・白色その他)を若干含む	外面上部：ハケ後ナデ, 外面下部・内面：横方向のナデ	古墳時代
76 135	甕	脚部	5b	明黄褐色(10YR6/6)	白色砂粒をわずかに, 細粒子(透明・白色その他)を含む	外・内面：横方向のナデ	弥生時代後期～中津野式
76 136	甕	脚部	5b	外面：にぶい褐色(7.5YR5/4), 内面：灰黄褐色(10YR4/2), 器肉：にぶい褐色(7.5YR5/4)	白色砂粒をわずかに, 微粒子を若干含む	外・内面：横方向のナデ	弥生時代後期～終末期
76 137	壺	口縁部	5b	外面：にぶい黄褐色(10YR6/3), 内面：灰黄褐色(10R5/2), 器肉：灰白色(7.5Y4/1)	赤色細粒子・微～細砂粒をわずかに含む	外面：タテハケ, 内面：ナデ?, 口縁部：ヨコナデ	弥生時代終末?, 残存率1/8, 口径(12.85) cm

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
76	138	壺?	口縁部	5b	外面：灰黄褐色(10YR4/2)・橙色(7.5YR7/6), 内面：にぶい橙色(7.5YR7/3)	微～細粒子を若干含む	ナデ	
76	139	壺	頸部	5b	外面にぶい橙色(7.5YR6/4), 内面：橙色(5YR6/6), 器肉：橙色(5YR7/6)	礫・細粒子(赤色)を若干, 微～細粒子・砂粒を含む	外面：タテハケ後ヨコナデ, 突帯に刺突, 内面上部：工具によるナデ?・下部：ナデ	古墳時代辻堂原～笹貫式, 刻み目突帯(刺突)
76	140	壺	胴部	5b	外面：にぶい褐色(7.5YR5/3), 内面：にぶい黄褐色(10YR7/2), 器肉：灰色(5Y4/1)	砂粒・微～細粒子(白色その他)を含む	外・内面：横方向のナデ, 突帯にハケ工具による刺突?	弥生時代中津野式～古墳時代, 刻み目突帯(刺突)
76	141	壺	胴部	5b	外面：にぶい橙色(5YR6/4), 内面：にぶい赤褐色(5YR5/3), 接合面：明黄褐色(10YR6/6), 器肉：灰褐色(5YR6/2)	砂粒～礫(白色)をわずかに, 微～細粒子を若干含む	ナデ, 外面一部：工具等による抉り?, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯に刺突	弥生時代中津野式～古墳時代
76	142	壺	胴部	5b	外面：黄褐色(10YR8/6), 内面：にぶい黄褐色(10YR7/3), 器肉：暗緑灰色(10GY3/1)	砂粒(白色)・微～細粒子を若干含む	外面上部：ハケ, 下部：ナデ?, 突帯に刺突, 内面：ナデ	弥生時代中津野式～古墳時代
76	143	壺	底部	5b	外面・底面：にぶい橙色(7.5YR7/4)・オリーブ黒色(10Y3/1), 内面：灰白色(2.5Y7/1)	粗砂粒(赤色・白色)をわずかに, 微～細粒子を若干含む	外面：ナデ, 内面：摩滅のため調整不明	弥生時代中期後半～終末(～古墳時代?) 残存率1/2, 底径(7.60) cm
76	144	壺	底部	5b	灰白色(10YR8/2), 器肉：灰色(10Y6/1)	微～細粒子を若干含む	外面：ナデ, 内面：摩滅のため調整不明	弥生時代中期後半～終末(～古墳時代?) 底部完全, 底径(6.20) cm
76	145	壺	底部	5b	外面：暗緑灰色(5G3/1), 内面：灰黄褐色(10YR5/2), 器肉：灰黄褐色(10YR5/2)	赤色砂粒をわずかに, 微～細粒子(赤色・白色その他)を若干含む	ナデ(工具によるナデ?)	弥生時代後期～終末?, 残存率1/6, 底径(8.05) cm
76	146	壺	底部	5b	外面：褐色(7.5YR4/4), 内面：橙色(5YR7/6), 器肉：明赤褐色(5YR5/6)	砂粒(透明・赤色その他)を若干, 微～細粒子を含む		弥生時代終末
76	147	卍?	口縁部	5b	外面：にぶい黄褐色(10YR7/4), 外面一部・内面：黄灰色(2.5Y6/1)	微～細粒子を若干含む	横方向のナデ	古墳時代辻堂原～笹貫式
76	148	甕	口縁部	5b	外面：にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面：にぶい黄褐色(10YR7/3), 器肉：灰黄褐色(10YR6/2)	微～細粒子(透明・白色その他)を若干含む	外面：タテハケ, 内面：ナデ, 口縁部：ヨコナデ	古墳時代笹貫式以前
76	149	高杯	脚部	5b	灰色(5Y6/1), 脚内面・器肉：浅黄褐色(7.5YR8/6)／赤色顔料 明赤褐色(5YR5/8)	微～細粒子(白色その他)を若干含む	ナデ?	古墳時代辻堂原～笹貫式
76	150	杯	底部	5b	浅黄褐色(7.5YR8/6)	砂粒(赤色)をわずかに含む	ナデ?	土師器, 充実高台
77	151	砥石		5b	赤褐色(5YR4/6)～浅黄褐色(10YR8/3)			使用面3面, 長さ8.05 cm, 最大幅8.80 cm, 厚み：3.50 cm, 重量315 g
78	152	甕	口縁部	5d	灰色(N5/0), 器肉：灰白色(N5/0)	微～細粒子(白色他)を若干含む	回転ナデ	須恵器
78	153	甕	胴部	5d	外面：浅黄褐色(10YR8/4), 内面：灰色(5Y4/1)	微～細粒子を若干, 砂粒(白色)をわずかに含む	風化のため調整不明, 突帯に刺突	
78	154	甕	胴部	5d	外面：にぶい褐色(7.5YR5/3), 内面：橙色(7.5YR7/6), 器肉：浅黄褐色(10YR8/3)	微～細粒子を多く, 砂粒を若干含む	外面：ヨコナデ, 突帯に刺突, 内面：ナデ	
78	155	甕	胴部	5d	外面：灰白色(10YR8/2), 内面：橙色(5YR6/6)・浅黄褐色(10YR8/3), 器肉：灰白色(10YR8/2)	粗砂粒(赤色・白色)をわずかに, 微～細砂粒を若干含む	外面：ナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯に刺突, 内面：ナデ	古墳時代東原～辻堂原式
78	156	甕	胴部	5d	外面：にぶい黄褐色(10YR6/3), 内面：暗灰色(N3/0)・灰白色(2.5Y8/2), 器肉：灰白色(2.5Y8/2)	粗砂粒(透明・赤色・白色)をわずかに, 微～細砂粒を若干含む	工具によるナデ?	古墳時代
78	157	甕	胴部～底部	5d	外面：にぶい黄褐色(10YR7/3)・にぶい赤褐色(2.5YR5/4), 内面：浅黄褐色(7.5YR8/4), 脚内面：灰褐色(5YR5/2), 器肉：灰白色(2.5Y7/1)	微粒子を若干, 細粒子(透明・白色・赤色他)を多く含む	ナデ, 外面脚取付部：粘土を脚台→胴部方向へと押しつけて接合した痕跡が残る	弥生中津野式?
78	158	甕	胴部～底部	5d	外面：にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面：灰色(10Y5/1)	微～細粒子(赤色・白色)を含む, 砂粒～礫(白色他)を若干含む	ナデ, 内面底部付近にユビオサエ痕残る	弥生中津野式?
78	159	甕	底部	5d	外面：にぶい橙色(5YR7/4), 内面：にぶい黄褐色(10YR7/2), 脚内面：にぶい黄褐色(10YR6/3), 器肉：灰色(5Y5/1)	微～細粒子(赤色その他)を含む	ナデ	古墳時代, 残存率1/2, 脚取付部径(7.10) cm
78	160	甕	脚部	5d	浅黄褐色(10YR8/3), 器肉：橙色(2.5YR7/6)	砂粒(透明)をわずかに, 微～細粒子を含む	ナデ	弥生時代後期～中津野式, 残存率1/4, 底径(9.49) cm
78	161	甕	脚部	5d	外面：橙色(5YR6/6), 内面：灰褐色(5YR6/2), 器肉：浅黄褐色(7.5YR8/6)	粗砂～細粒子(赤色)を若干, 細粒子を含む	ナデ?	弥生時代中津野式, 残存率1/4, 底径(8.15) cm

Fig No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
78 162	甕	脚部	5d	橙色(5YR7/6), 脚端部: 灰褐色(5YR4/2), 器肉: 橙色(5YR6/6)	微~細粒子を若干, 砂粒(赤色)をわずかに含む	横方向のナデ, 脚端部: ヨコナデ	残存率1/6, 底径(10.05) cm
78 163	甕	脚部	5d	外面: にぶい橙色(7.5YR6/4)・にぶい赤褐色(5YR5/4), 内面: 灰黄褐色(10YR5/2), 器肉: 橙色(7.5YR7/6)	微~細粒子(白色その他)を若干含む	ナデ	弥生時代中津野式?
78 164	甕	脚部	5d	外面: にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面・器肉: 橙色(5YR6/6)	微~細粒子(白色その他)を若干含む	ナデ, ユビオサエ痕残る	弥生時代中津野式?
78 165	甕	脚部	5d	上部: 橙色(5YR6/6), 下部: にぶい黄褐色(10YR7/3)	微~細粒子・砂粒・粗砂粒(白色他)を含む, 褐色礫(大)・礫(灰色)をわずかに含む	ナデ	
78 166	壺	口縁部	5d	外面: 橙色(7.5YR7/6), 内面: 浅黄褐色(10YR8/3), 器肉: 褐灰色(10YR4/1)	微~細粒子(赤色・灰色その他)を含む	ナデ?	弥生時代中津野式? か古墳時代
78 167	壺	胴部	5d	外面: にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面: にぶい黄褐色(10YR7/3), 器肉: 褐灰色(10YR6/1)	微~細粒子を若干, 砂粒(赤色)をわずかに含む	ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ, 突帯に刺突	
78 168	壺	胴部	5d	外面: 灰白色(7.5YR8/2)~にぶい橙色(7/4), 内面: 浅黄褐色(10YR8/3), 器肉: 灰白色(2.5Y8/2)	砂粒~粗砂粒(赤色・白色)・微~細粒子を若干含む	外面: ナデ?, 突帯に格子目文	古墳時代辻堂原~笹貫式, 幅広突帯
78 169	壺	胴部	5d	外面: 橙色(7.5YR6/6), 黒斑: 灰色(10Y4/1), 内面・器肉: 灰白色(10YR8/2)	微粒子を若干, 細粒子(赤色・白色その他)を多く含む	外面: ハケ, 突帯部付近: ヨコナデ, 突帯に刺突, 内面: ハケ	弥生時代後期~古墳時代東原式, 残存率1/2, 胴部径(27.60) cm
78 170	壺	胴部~底部	5d	外面: 浅黄褐色(7.5YR8/4), 内面: 灰白色(2.5Y8/1), 器肉: 灰色(5Y4/1)	微~細粒子(赤色その他)を含む	ナデ, 外面底部付近: ハケ状圧痕	弥生時代中津野式以降?
78 171	高杯	脚部	5d	外面・脚内面: 浅黄褐色(10YR8/3), 黒斑: 灰黄褐色(10YR4/2), 内面: にぶい黄褐色(10YR7/2), 器肉: 浅黄褐色(10YR8/3)	微粒子をわずかに含む	ナデ?	弥生時代中津野式~古墳時代, 脚上部径完全
78 172	甕	口縁部	5d	褐灰色(10YR4/1)~にぶい褐色(7.5YR6/3), 器肉: 浅黄褐色(7.5YR8/3)	微~細粒子(赤色・黒色他)を若干, 砂粒(透明)をわずかに含む	外面下部: タテハケ後ナデ?, 口縁部: ヨコナデ	弥生中期後半
78 173	甕	口縁部	5d	浅黄褐色(7.5YR8/4), 赤色顔料: 橙色(5YR6/8), 器肉: 黄灰色(2.5Y6/1)	砂粒~粗砂粒(透明・赤色)をわずかに, 微~細粒子を若干含む	ナデ, 赤色顔料, 口縁部: ヨコナデ	弥生時代中期中葉
78 174	埴	頸部~胴部	5d	外面: 橙色(5YR7/6), 内面: 淡黄色(2.5Y8/3), 器肉: 橙色(5Y7/6)・黄灰色(2.5Y5/1)	微粒子(白色その他)をわずかに含む	外面: 横方向のナデ, 内面: ナデ	古墳時代
78 175	甕	底部	5d	外面: にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面: 褐灰色(7.5YR4/1), 底面: にぶい黄褐色(10YR7/3), 器肉: にぶい橙色(7.5YR7/4)	微~細粒子を含む	ナデ, 脚端部にユビオサエ痕	弥生時代中期, 残存率2/3, 底径(7.20) cm
79 176	杯	口縁~底部	5f	浅黄褐色(10YR8/4)~褐灰色(10YR4/1), 器肉: 灰白色(10YR7/1)・橙色(5YR7/6)	微粒子をわずかに含む	ナデ, 口縁部: 回転ナデ	土師器
79 177	甕	口縁部	5f	外面: オリーブ黒色(5Y3/1), 内面: 浅黄褐色(7.5YR8/4), 器肉: 浅黄褐色(7.5YR8/4)	細粒子(赤色・黒色その他)を若干, 砂粒(灰色)をわずかに含む	ナデ	弥生時代中津野式? ~古墳時代東原式?
79 178	甕	口縁部	5f	外面: にぶい橙色(7.5YR6/4), 内面: 黄灰色(2.5Y5/1), 器肉: 灰白色(10YR8/2)	微~細粒子(透明他)をわずかに含む	ナデ	
79 179	甕	胴部	5f	外面: 浅黄褐色(7.5YR8/4)・灰褐色(7.5YR5/2), 内面: 浅黄褐色(7.5YR8/6)・灰白色(10YR8/2), 器肉: 浅黄褐色(7.5YR8/6)	砂粒~礫(赤色)・微~細粒子を若干含む	ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ	古墳時代辻堂原~笹貫式
79 180	甕	胴部	5f	外面: 灰黄褐色(10YR4/2), 内面: 橙色(7.5YR7/6), 器肉: にぶい黄褐色(10YR7/3)	微~細粒子(透明その他)を多く含む	ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ・突帯刺突部に布目圧痕	古墳時代
79 181	甕	脚部	5f	外面: 灰白色(10YR8/2)・橙色(2.5YR6/6), 内面: 灰黄褐色(10YR6/2)	微~細粒子(白色他)を含む, 砂粒(白色)を若干含む	横方向のナデ・タテハケ後ナデ, 頸部: 横方向のナデ	接合面から剥離
79 182	壺	頸部~胴部	5f	外面: 橙色(7.5YR6/6), 内面: 浅黄褐色(7.5YR8/4), 器肉: 灰色(5Y4/1)	微~細粒子(赤色その他)を含む, 粗砂粒をわずかに含む	外面上部: ユビオサエ・ナデ, 外面下部: タテハケ後ナデ	古墳時代
79 183	壺	胴部	5f	橙色(7.5YR6/6), 器肉: にぶい橙色(7.5YR7/3)	微~細粒子を含む, 砂粒(赤色・白色)をわずかに含む	ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ, 突帯にハケ工具?による刺突	弥生時代中津野式~古墳時代
79 184	壺	胴部	5f	外面: 橙色(7.5YR6/6), 内面: 橙色(5YR6/8), 器肉: 橙色(7.5YR6/6)	微~細粒子・砂粒(赤色・白色)を若干含む	外面: タテハケ後ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ, 内面: ヨコハケ後ナデ	弥生時代中津野式

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
79	185	壺	口縁部	5f	にぶい橙色(7.5YR7/4), 器肉: オリーブ灰色(2.5GY5/1)	微~細粒子(透明・白色・赤色)を若干, 粗砂粒(赤色・白透明)をわずかに含む	ナデ, 内面下部: ヨコハケ	弥生時代? 残存率1/6, 口径(22.00) cm
80	186	甕	口縁部	5g	にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面口縁端部: 灰色(5Y6/1), 器肉: 灰色(N4/0)	微~細粒子・砂粒(透明・赤色・白色)を若干含む	外面: タテハケ後ナデ?, 内面: ナデ, 口縁端部: ヨコナデ?	弥生時代中津野式?
80	187	甕	底部	5g	外面: にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面: 黒褐色(10YR3/2), 脚内面: にぶい黄褐色(10YR6/3)	微~細粒子を含む, 砂粒(透明)をわずかに含む	外面: ナデ, 内面: 工具によるナデ?, 脚内面: ナデ	接合面から剥離
80	188	甕	脚部	5g	外面: 淡橙色(5YR8/4-7.5YR8/2), 内面: 浅黄褐色(10YR8/3), 器肉: 浅黄褐色(10YR8/3)	微~細粒子(透明その他)を含む, 砂粒(透明・赤色・白色)をわずかに含む	ナデ	弥生時代中津野式~古墳時代東原式?, 残存率1/4, 底径(10.22) cm
80	189	壺	胴部	5g	橙色(5YR6/6), 器肉: 暗灰黄色(2.5Y5/2)	微~細粒子を若干, 砂粒(透明・白色)をわずかに含む	外面: 斜め方向のハケ, 突帯部付近: ヨコナデ, 突帯に刺突, 内面: ハケ後ナデ	弥生時代中津野式以降
80	190	壺	胴部	5g	外面: にぶい橙色(7.5YR7/4), 黒斑: 暗灰色(N3/0)内面: にぶい黄褐色(10YR7/3), 器肉: 黒褐色(2.5Y3/1)	微~細粒子を若干, 砂粒~粗砂粒(赤色・白色)をわずかに含む	外面上部: 斜め方向のハケ後ナデ・下部: タテハケ後ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ?, 突帯に刺突, 内面: ヨコハケ後ナデ	弥生時代中津野式以降, 残存率1/8, 胴部径(20.50) cm
80	191	壺	底部	5g	外面: 淡橙色(5YR8/4), 黒斑: 灰色(N4/0), 内面: 灰白色(7.5YR8/2), 器肉: 灰色(N4/0)	微~細粒子(白色・赤色)を含む, 砂粒(白色その他)をわずかに含む	外面: タテハケ, 内面: ハケ後ナデ(工具によるナデ?)	弥生時代中津野式
80	192	壺	底部	5g	外面: 灰白色(7.5YR8/2), 内面: 黒斑: 浅黄褐色(7.5YR8/4), 器肉: 灰色(N6/0)	微~細粒子・砂粒(透明・赤色・白色)を若干含む	ナデ	古墳時代
81	193	碗	口縁部~体部	5	灰褐色(7.5YR4/2)/釉調 外面: 灰白色(2.5Y7/1~N8/0), 内面: 黄灰色(2.5Y6/1)		施釉, 外面: 色絵	陶器, 外面: 釉風化, 上部の層からの落ち込みである可能性大
81	194	碗	口縁部~体部	5	灰白色(N8/0)/釉調 透明		施釉, 文様	染付, 上の層からの落ち込みである可能性大
81	195	碗	口縁部~体部	5	灰白色(2.5Y8/1)/釉調 透明, 貫入		施釉, 文様	染付, 上部の層からの落ち込みである可能性大
81	196	蓋	口縁部	5	灰色(N6/1)		回転ナデ	須恵器
81	197	甕	口縁部~胴部	5	外面: にぶい黄褐色(10YR7/3)・灰黄褐色(10YR5/2), 内面: 橙色(7.5YR7/6), 器肉: 浅黄褐色(10YR8/4)		外面: ナデ, 口縁端部: ヨコナデ, 突帯部: ヨコナデ, 突帯にはハケ工具に布をかぶせた状態で刺突, 内面: ナデ	古墳時代笹貫式
81	198	甕	口縁部~胴部	5	にぶい橙色(7.5YR7/3)~褐色(7.5YR4/4), 器肉: 浅黄褐色(10YR8/4)	微~細砂粒を若干, 砂粒(白色他)をわずかに含む	外面上部: 斜め方向のハケ後ヨコナデ・下部: タテハケ後ヨコナデ, 突帯部付近: ヨコナデ, 内面: ヨコハケ後縦方向のナデ, 口縁端部: ヨコナデ	古墳時代笹貫式
81	199	甕	口縁部~胴部	5	外面: 黄灰色(2.5Y4/1), 内面: 橙色(5YR6/6), 器肉: 褐灰色(10YR5/1)	微~細粒子を含む, 砂粒・礫(白色)をわずかに含む	横方向のナデ, 内面一部: 工具によるナデ?, 口縁端部: ヨコナデ	古墳時代?
81	200	甕	口縁部~胴部	5	外面: 褐灰色(10YR4/1)・にぶい黄褐色(10YR7/3), 内面: 浅黄褐色(10YR8/3), 器肉: 褐灰色(10YR6/1)	微~細粒子を若干含む	斜め方向のハケ後ナデ	古墳時代笹貫式, 絡縄突帯
81	201	甕	口縁部~胴部	5	外面: 黒褐色(7.5YR3/1-10YR3/2), 内面・器肉: 橙色(5YR7/6)	細粒子(白色その他)を若干, 砂粒(赤色・灰色)をわずかに含む	横方向のナデ, 口縁端部: ヨコナデ, 絡縄突帯	古墳時代笹貫式, 絡縄突帯
81	202	甕	口縁部~胴部	5	外面: にぶい黄褐色(10YR7/3)・にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面: にぶい橙色(7.5YR7/3), 器肉: 灰褐色(7.5YR5/2)	微~細粒子を若干, 砂粒・礫(白色)をわずかに含む	ヨコナデ, 突帯にハケ工具による刺突, 内面: 斜め方向のハケ後ナデ, 口縁端部: ヨコナデ	古墳時代笹貫式
81	203	甕	口縁部~胴部	5	外面: 浅黄褐色(10YR8/4), 内面: 淡黄色(2.5Y8/4), 器肉: 淡黄色(2.5Y8/4)	微~細粒子(透明その他)を多く, 砂粒(透明)をわずかに含む	外面: タテハケ, 突帯にハケ工具による刺突	古墳時代笹貫式
81	204	甕	口縁部~胴部	5	外面: 灰黄色(2.5Y7/2), 内面: 橙色(5YR7/6), 器肉: 灰色(5Y5/1)	微~細粒子を多く, 砂粒・礫(白色)をわずかに含む	ナデ?, 口縁端部: ヨコナデ?	古墳時代笹貫式
81	205	甕	口縁部~胴部	5	外面: 黒褐色(10YR3/2), 外面突帯部・内面: にぶい橙色(7.5YR6/4), 器肉: にぶい黄褐色(10YR7/2)	微~細粒子を若干, 砂粒(灰色)をわずかに含む	ナデ?	古墳時代笹貫式

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
81	206	甕	口縁部	5	灰褐色(7.5YR5/2), 器肉: 明褐色(7.5YR7/2)	微~細粒子(黒色他)を若干, 砂粒(透明)をわずかに含む	ナデ, 口縁端部: ヨコナデ	古墳時代笹貫式
81	207	甕	口縁部~胴部	5	外面: 暗灰色(N3/0)・にぶい橙色(7.5YR6/4), 内面: 橙色(5YR6/6), 器肉: 灰白色(10YR8/2)	微~細粒子を含む, 砂粒(透明・白色)を若干含む	横方向のナデ, 口縁端部・突帯部付近: ヨコナデ	古墳時代辻堂原式以降
81	208	甕	口縁部	5	外面: 橙色(5YR6/6), 内面: 褐色(10YR5/1)・灰白色(10YR8/2), 器肉: 灰白色(10YR8/2)	微~細粒子(白色・黒色他)を含む	外面: タテハケ後ナデ, 内面: ナデ・工具痕?, 口縁端部: ヨコナデ?	古墳時代笹貫式
81	209	甕	口縁部	5	外面: 浅黄橙色(7.5YR8/3), 内面: 淡橙色(5YR8/3), 器肉: 暗灰色(N3/0)	微~細粒子(赤色他)を若干含む	外面: ハケ, 内面上部: ヨコハケ, 内面下部: ナデ	弥生時代中津野式?
81	210	甕	口縁部	5	橙色(5YR6/6), 内面一部: にぶい橙色(5YR7/3), 器肉: にぶい橙色(5YR7/3)	微~細粒子・砂粒(白色)をわずかに含む	外面: 横方向のナデ, 内面上部: ヨコハケ・下部: ヨコハケ後ナデ	弥生時代中津野式?
81	211	甕?	口縁部	5	外面: 灰褐色(7.5YR6/2), 内面・器肉: 橙色(7.5YR7/6)	細粒子・砂粒(赤色)を若干含む	ヨコナデ	
81	212	甕	胴部	5	外面: 橙色(5YR6/6)・にぶい黄褐色(10YR5/3), 内面: 明赤褐色(5YR5/6), 器肉: 褐色(5YR5/1)	細粒子(白色・灰色)を含む	外面: タテハケ後ナデ, 内面: ハケ後ナデ	古墳時代
81	213	甕	胴部	5	外面: 明赤褐色(5YR5/6), 内面: 灰黄褐色(10YR6/2), 器肉: 明赤褐色(5YR5/6)・灰黄褐色(10YR6/2)	細粒子(白色他)を含む, 砂粒(白色)を若干含む	ナデ	弥生時代中津野式?
81	214	甕	胴部	5	外面上部: 暗赤灰色(2.5YR3/1), 下部: 浅黄橙色(7.5YR8/4), 外面突帯下部: にぶい黄褐色(10YR5/3), 内面・器肉: 灰白色(2.5Y8/2)	微~細粒子をわずかに, 砂粒(透明)を含む, 粗砂粒(透明・白色他)を若干含む	ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ	古墳時代
81	215	甕	胴部	5	外面: 浅黄橙色(10YR8/3), 内面: 淡黄色(2.5Y8/3), 器肉: 浅黄橙色(10YR8/3)	細粒子(黒色他)を若干, 砂粒(透明・灰色)をわずかに含む	ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ	古墳時代
81	216	甕	胴部	5	外面上部: 浅黄橙色(7.5YR8/4), 下部: にぶい褐色(7.5YR5/3), 内面: 淡黄色(2.5Y7/3), 器肉: 橙色(7.5YR7/6)	微~細粒子・砂粒(透明・赤色・白色)を多く含む	ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ	古墳時代
81	217	甕	胴部	5	外面: 橙色(5YR7/6)~灰褐色(7.5YR4/2), 内面・器肉: 橙色(5YR6/6)	微~細粒子を含む, 砂粒~粗砂粒(透明・白色他)を多く, 白色礫(大)をわずかに含む	ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ	
81	218	甕	胴部	5	外面: にぶい橙色(7.5YR7/4)・灰黄褐色(10YR4/2), 内面: にぶい褐色(7.5YR5/3), 器肉: にぶい橙色(5YR6/4)	微~細粒子・砂粒~粗砂粒(透明・白色他)を若干含む	ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ	古墳時代
81	219	甕	胴部	5	外面: にぶい黄褐色(10YR7/2), 内面・外面一部: にぶい褐色(5YR7/4), 器肉: 灰白色(10YR8/2)	細粒子(透明・白色他)をわずかに含む	ナデ?	古墳時代
81	220	甕	胴部	5	外面: にぶい黄褐色(10YR7/3)~橙色(5YR7/6), 内面: にぶい黄褐色(10YR7/4), 黒斑: 黄灰色(2.5Y4/1), 器肉: 浅黄橙色(10YR8/4)	微~細粒子を若干, 砂粒(白色他)を若干含む	斜め方向のナデ, 突帯部付近: ヨコナデ	古墳時代辻堂原~笹貫式, 外面黒斑: 炭化物付着
82	221	甕	胴部	5	外面: 灰黄褐色(10YR4/2)・にぶい褐色(7.5YR7/4), 内面: 明黄褐色(10YR6/6), 器肉: 灰黄褐色(10YR6/2)	微~細粒子を含む, 砂粒(透明・白色)を若干含む	ナデ, 絡縄突帯	古墳時代辻堂原~笹貫式
82	222	甕	胴部	5	外面: 黄灰色(2.5Y4/1), 内面: 浅黄褐色(10YR8/4), 器肉: 灰白色(10YR7/1)	微~細粒子を含む, 砂粒(白色)・礫(透明)をわずかに含む	ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ	古墳時代笹貫式
82	223	甕	胴部	5	外面: にぶい褐色(7.5YR5/4), 内面: 橙色(5YR6/8), 器肉: オリーブ黒色(5Y3/1)	微~細粒子を若干含む	外面: ヨコナデ, 突帯に刺突, 内面: ナデ	古墳時代
82	224	甕	胴部	5	外面: にぶい褐色(7.5YR6/3)・黒色(2/1), 内面: 浅黄褐色(7.5YR8/6), 器肉: 浅黄褐色(10YR8/3)	微~細粒子・砂粒(透明)を若干含む	ヨコナデ, 突帯に刺突	古墳時代
82	225	甕	胴部	5	外面: 灰黄褐色(10YR6/2), 内面: 浅黄褐色(10YR8/3), 器肉: 褐色(10YR6/1)	微~細粒子を若干, 砂粒(透明)をわずかに含む	ナデ?, 突帯に刺突	古墳時代
82	226	甕	胴部	5	外面: にぶい褐色(7.5YR6/3), 内面: 浅黄褐色(7.5YR8/6), 器肉: にぶい褐色(7.5YR7/4)	微~細粒子を含む, 砂粒(透明・赤色)を若干含む	外面: ヨコナデ, 突帯に刺突, 内面: 横方向のナデ	古墳時代
82	227	甕	胴部	5	外面: にぶい赤褐色(5YR4/4), 内面: 褐色(7.5YR6/6), 器肉: にぶい黄褐色(10YR5/3)	微~細砂粒を多く, 砂粒(白色)をわずかに含む	外面上部: ハケ後ナデ, 突帯部付近: ヨコナデ?, 突帯にハケ工具による刺突, 内面: ナデ	古墳時代

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
82	228	甕	胴部	5	外面：橙色(7.5YR7/6)・にぶい黄橙色(10YR7/3)、内面：にぶい橙色(7.5YR7/4)、器肉：にぶい橙色(5YR7/4)	微～細粒子・砂粒(透明)・礫をわずかに含む	ナデ、突帯部付近：ヨコナデ、突帯にハケ工具による刺突	古墳時代
82	229	甕	胴部	5	外面：浅黄橙色(10YR8/4)、内面：浅黄橙色(10YR8/3)、器肉：浅黄橙色(10YR8/3)	微～細粒子・砂粒(透明・白色他)を若干、粗砂粒(赤色)をわずかに含む	外面：ハケ後ナデ、外面突帯部付近：ヨコナデ?、突帯にハケ工具による刺突	古墳時代
82	230	甕	胴部	5	外面：浅黄橙色(2.5Y7/3)、内面：にぶい橙色(7.5YR7/4)、器肉：浅黄橙色(10YR8/3)	微～細粒子を多く、砂粒(透明他)を若干含む	外面上部：斜め方向のハケ後ナデ・下部：ナデ、突帯にハケ工具による刺突、内面：ヨコハケ後ナデ	古墳時代
82	231	甕	胴部	5	外面：にぶい橙色(7.5YR6/4)、内面：灰褐色(7.5YR6/2)、器肉：暗灰黄色(2.5Y4/2)	微～細粒子をわずかに、砂粒(白色・赤色)を若干含む	ナデ、突帯部付近：ヨコナデ、突帯にハケ工具による刺突	古墳時代
82	232	甕	胴部	5	外面：にぶい褐色(7.5YR6/3)、内面：浅黄橙色(7.5YR8/4)、器肉：にぶい橙色(7.5YR7/4)	微～細粒子を多く、砂粒～粗砂粒(赤色)を若干含む	ナデ、突帯部付近：ヨコナデ、突帯にハケ工具による刺突	古墳時代
82	233	甕	胴部	5	外面：にぶい橙色(7.5YR7/3)、内面：にぶい黄橙色(10YR7/4)、器肉：灰白色(10YR8/2)	微～細粒子を多く、砂粒(透明)を若干含む	外面：ヨコナデ、突帯刺突部に布目圧痕、内面：ナデ	古墳時代
82	234	甕	胴部	5	外面：にぶい黄橙色(10YR7/2)、内面：にぶい黄橙色(10YR6/3)、器肉：灰白色(2.5Y7/1)	微～細粒子を若干、砂粒(透明・白色他)を含む	ナデ、突帯部付近：ヨコナデ、突帯に刺突	古墳時代
82	235	甕	胴部	5	外面：浅黄橙色(10YR8/3)、内面：灰黄色(2.5Y7/2)、器肉：灰色(5Y4/1)	微～細砂粒(赤色・白色他)を含む、砂粒～粗砂粒(白色)を若干含む	ナデ、突帯部付近：ヨコナデ、突帯にハケ工具による刺突	古墳時代
82	236	甕	胴部	5	外面：浅黄橙色(7.5YR8/4)、内面：灰黄色(2.5Y7/2)、器肉：灰白色(2.5Y8/2)	微～細粒子を若干、砂粒(透明)・礫(白色)をわずかに含む	ナデ?、突帯に刺突	古墳時代
82	237	甕	胴部	5	外面：浅黄橙色(10YR8/3)、内面：にぶい橙色(7.5YR7/4)、器肉：浅黄橙色(10YR8/3)	微～細粒子を若干、砂粒(透明)をわずかに含む	横方向のナデ、突帯部付近：ヨコナデ、突帯に刺突	古墳時代
82	238	甕	底部	5	橙色(5YR6/6)、脚内面：黒色(2.5Y2/1)、器肉：橙色(5YR6/6)	微～細粒子を含む、砂粒(透明・赤色・白色)を若干含む	ナデ	弥生時代中津野式?
82	239	甕	底部	5	橙色(7.5YR7/6)、外面一部：浅黄橙色(10YR8/4)、器肉：浅黄橙色(10YR8/3)	微～細粒子(赤色他)を多く、砂粒(赤色・白色)を若干含む	ナデ、外面脚取付部にユビオサエ痕残る	弥生時代中津野式
82	240	甕	底部	5	橙色(5YR7/6)、内面：オリーブ黒色(7.5Y3/1)、器肉：灰白色(10YR8/2)・灰色(7.5Y4/1)	微～細粒子をわずかに、砂粒～礫(白色・黒色他)を若干含む	外面：ユビオサエ・ヘラによる調整後ナデ、内面：ナデ、脚内面：ナデ	弥生時代中津野式
82	241	甕	底部	5	浅黄橙色(10YR8/3)、内面：灰色(N5/0)、器肉：浅黄橙色(10YR8/3)	微～細粒子(赤色他)を含む	ナデ	古墳時代
82	242	甕	胴部～底部	5	外面：灰白色(7.5YR8/2)、黒斑：灰色(5Y5/1)、内面：にぶい橙色(7.5YR7/4)、脚内面：橙色(7.5YR6/6)、器肉：灰白色(7.5YR8/2)	微～細粒子を含む、砂粒(白色他)・礫(赤色)をわずかに含む	外面：タテハケ後ナデ、内面：ナデ	弥生時代中津野式～古墳時代
82	243	甕	胴部～底部	5	にぶい橙色(7.5YR7/4)、内面：橙色(5YR7/6)、器肉：浅黄橙色(10YR8/3)・灰色(5Y4/1)	微～細粒子を含む、砂粒(白透明・白色・赤色)を若干含む	ナデ	古墳時代
82	244	甕	胴部～底部	5	外面：にぶい橙色(7.5YR7/3)、内面・脚内面：橙色(5YR6/6)、器肉：赤橙色(10R6/6)・にぶい黄褐色(10YR5/3)	微～細粒子を若干含む	ナデ	古墳時代
82	245	甕	胴部～底部	5	にぶい橙色(7.5YR7/4)、内面：灰褐色(7.5YR4/2)、器肉：灰色(N4/1)	微～細粒子(白色他)を若干、礫(赤色・灰色)をわずかに含む	外面：タテハケ、脚取付部：ヨコナデ、内面：ナデ?、脚内面：ナデ	弥生時代終末～古墳時代
82	246	甕	胴部～底部	5	外面：浅黄橙色(2.5Y7/3)、内面・脚内面：にぶい黄褐色(10YR6/3)、器肉：橙色(2.5YR7/6)	微～細粒子(白色他)を若干含む	外面：ナデ、内面：ハケ後ナデ?(ハケメは見られない)	古墳時代
83	247	甕	胴部～底部	5	外面：橙色(7.5YR6/6)、にぶい褐色(7.5YR6/3)、内面・脚内面：にぶい橙色(7.5YR7/4)、器肉：オリーブ黒色(10Y3/1)	微～細粒子を若干、砂粒(白色・白透明)を含む	外面：タテハケ、内面：ナデ、脚内面：ナデ	古墳時代
83	248	甕	胴部～底部	5	外面：にぶい褐色(7.5YR5/3)、内面：灰黄褐色(10YR6/2)、脚内面：にぶい黄褐色(10YR7/3)、接合面：橙色(5YR6/6)、器肉：灰黄褐色(10YR4/2)	微～細粒子・砂粒(透明・白色他)を若干含む	内面：ハケ後ナデ(ハケメは見られない)?、脚内面：ナデ	古墳時代

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
83	249	甕	胴部～底部	5	外面・脚内面：にぶい橙色(7.5YR6/4), 内面：橙色(7.5YR6/6), 器肉：灰色(5Y4/1)	微～細粒子を含む, 砂粒(白色)を若干含む	外面：ハケ?後ナデ?, 内面：摩滅のため調整不明	古墳時代
83	250	甕	胴部～底部	5	外面：明褐色(7.5YR5/6)・灰色(5Y4/1), 内面：橙色(7.5YR6/6), 器肉：暗赤褐色(5YR3/2)・黄灰色(2.5Y4/1)	微～細粒子・砂粒を若干, 粗砂粒(赤色)をわずかに含む	外面：斜め方向のハケ後ナデ, 内面：ハケ後ナデ(ハケメはほとんど見られない)	古墳時代?
83	251	甕	胴部～底部	5	外面：橙色(7.5YR6/6), 内面・脚内面：にぶい橙色(5YR6/4), 器肉：黄灰色(2.5Y5/1)	微～細粒子を含む, 粗砂粒(白色・赤色・灰色)を若干含む	外面：ナデ, 脚取付部外・内面：ユビオサエ後ナデ, 内面：ユビオサエ後ナデ, 脚内面：ナデ	弥生時代中津野式～古墳時代東原式
83	252	甕	胴部～底部	5	外面：にぶい黄橙色(10YR6/3), 内面：にぶい黄褐色(10YR5/3), 脚内面：褐灰色(7.5YR5/1), 器肉：灰色(N4/0)	微～細粒子・砂粒(白色・赤色)を含む	外面：ナデ, 脚取付部：ユビオサエ後ナデ, 内面：ハケ後ナデ?(ハケメは見られない), 脚内面：ナデ	弥生時代中津野式, 残存率1/8, 底径7.15cm
83	253	甕	胴部～底部	5	外面：にぶい黄橙色(10YR6/3)・灰白色(10YR8/2), 内面：にぶい黄橙色(10YR7/4), 脚内面：浅黄褐色(10YR8/3), 器肉：褐灰色(10YR6/2)	微～細粒子を若干, 砂粒(白色・赤色)をわずかに含む	外面底部：タテハケ後ナデ・脚取付部：ユビオサエ後ナデ・脚部：ナデ, 脚内面：ナデ	古墳時代東原式?, 残存率1/2, 底径(9.25)cm
83	254	甕	底部	5	にぶい橙色(7.5YR7/3), 灰黄褐色(10YR5/2), 器肉：黄灰色(2.5Y6/1)	微～細粒子を若干含む	ナデ	弥生時代中津野式～古墳時代, 残存率1/2, 底径(6.85)cm
83	255	甕	底部	5	明赤褐色(5YR5/6), 器肉：浅黄褐色(10YR8/3)	微～細粒子・砂粒(透明他)・粗砂粒(白色・灰色)を若干含む	ナデ?, 脚取付部にユビオサエ痕残る	弥生時代中津野式, 残存率1/8, 底径(8.60)?cm
83	256	甕	胴部～底部	5	外面：灰黄褐色(10YR6/2)・褐灰色(10YR4/1), 内面：黒褐色(10YR3/2), 脚内面：黒褐色(10YR3/1), 暗緑灰色(10GY4/1)	微～細粒子を含む, 礫(灰色)を若干含む	外面底部：縦・斜め方向のハケ, 脚取付部～脚部：ヨコナデ, 内面：ハケ工具?によるナデ, 脚内面：横方向のナデ	弥生時代中津野式, 残存率1/2, 底径(7.56)cm
83	257	甕	底部	5	外面：にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面：灰白色(2.5Y7/1), 脚内面：橙色(2.5YR6/6), 器肉：黄灰色(2.5Y5/1)	微～細粒子(白色他)を含む, 砂粒(白色)をわずかに含む	外面：ナデ, 脚部にユビオサエ痕残る, 脚取付部：ヨコナデ, 内面：ナデ, 脚内面：ナデ	古墳時代
83	258	甕	底部	5	外面：橙色(7.5YR6/6), 内面：褐灰色(10YR4/1), 脚内面：橙色(7.5YR7/6), 器肉：橙色(7.5YR7/6)	微～細粒子(白色他)を若干, 砂粒(白透明)をわずかに含む	外面：ナデ, 脚取付部：ユビオサエ痕残る, 脚内面：ヨコナデ	古墳時代, 残存率1/2, 底径(8.90)cm
83	259	甕	底部	5	外面：黄褐色(2.5Y5/6), 内面：灰黄褐色(10YR5/2), 器肉：にぶい橙色(2.5YR6/4)・橙色(5YR6/6)	微～細砂粒(白色他)を若干含む	ユビオサエ後ナデ	古墳時代, 残存率1/8, 底径(9.15)?cm
83	260	甕	底部	5	外面：明褐灰色(7.5YR7/2), 内面：にぶい橙色(5YR7/4), 脚内面：橙色(7.5YR7/6), 器肉：橙色(7.5YR7/6)	微粒子を若干, 細粒子(透明・白色)を多く含む	外面・脚内面：ヨコナデ, 内面：摩滅のため調整不明	古墳時代, 残存率1/3, 底径(9.10)cm
83	261	甕	脚部	5	外面：浅黄褐色(7.5YR8/3), 内面：橙色(7.5YR7/6), 器肉：にぶい橙色(5YR7/4)	微～細粒子(白色他)を含む	ナデ	弥生時代後期～中津野式, 残存率1/4, 底径(9.49)cm
83	262	甕	脚部	5	外面：灰白色(10YR8/2), 内面：浅黄褐色(10YR8/4), 器肉：淡褐色(5YR8/4)	微～細砂粒を若干, 砂粒(白色)をわずかに含む	横方向のナデ	弥生時代中津野式～古墳時代東原式, 残存率1/6, 底径(9.80)cm
83	263	甕	脚部	5	外面：浅黄褐色(10YR8/3), 内面：橙色(2.5YR7/6), 器肉：橙色(2.5YR7/6)	微～細粒子(赤色他)を若干, 砂粒(褐色)をわずかに含む	横方向のナデ	弥生時代中津野式～古墳時代, 残存率1/4, 底径(9.00)cm
83	264	甕	脚部	5	外面：明黄褐色(10YR6/6), 内面：明褐色(7.5YR5/6), 器肉：褐灰色(7.5YR4/1)	微～細粒子・砂粒(白色他)をわずかに含む	ナデ, 脚取付部にユビオサエ痕	弥生時代中津野式?
83	265	甕	脚部	5	にぶい黄褐色(10YR6/4), 内面一部：橙色(2.5YR6/8)	微～細粒子(透明・白色・黒色他)を多く, 砂粒(透明・白色)を若干含む	ナデ	弥生時代中津野式～古墳時代
83	266	甕	脚部	5	外面：にぶい黄褐色(10YR6/4), 内面：にぶい橙色(7.5YR6/4), 器肉：黄褐色(7.5YR7/8)	細粒子(白色他)を含む, 礫(白色・赤色・灰色)を若干含む	外面：ユビオサエ後ナデ, 内面：横方向のナデ	弥生時代中津野式～古墳時代
83	267	甕	脚部	5	外面：浅黄褐色(10YR8/3), 内面：にぶい黄褐色(10YR7/4), 器肉：橙色(5YR6/8)	微～細粒子・砂粒(透明・白色他)を含む	外面：ナデ, 内面・脚端部：ヨコナデ	古墳時代
83	268	甕	脚部	5	外面：黄褐色(2.5Y5/3), 内面：橙色(7.5YR6/6)	微～細粒子を若干, 砂粒(透明・黒色他)をわずかに含む	ナデ	
83	269	甕	脚部	5	浅黄褐色(10YR8/4), 外面一部：灰黄褐色(10YR6/2)	細粒子・砂粒(赤色他)を若干含む	ナデ?	

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・軸調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
83	270	甕	脚部	5	外面：橙色(2.5YR6/6)、内面：に ぶい黄橙色(10YR6/4)	微～細粒子を若干、砂粒 (白色)をわずかに含む	ナデ?	
83	271	甕	脚部	5	橙色(2.5YR7/6)、内面一部：灰白 色(7.5YR8/2)	微～細粒子を若干含む	ナデ	
83	272	甕	脚部	5	外面：橙色(7.5YR7/6)、内面：橙 色(5YR6/6)、器肉：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	微～細粒子(白色他)を 若干含む	ヨコナデ	
83	273	鉢?	口縁部	5	外面：にぶい橙色(5YR7/4)・オリ ブ黒色(5Y3/1)、内面：灰白色(10 YR8/2)、器肉：黒褐色(10YR3/2)	微～細粒子を若干、粗砂 粒(灰色他)をわずかに 含む	ナデ	古墳時代
83	274	鉢?	口縁部	5	外面：にぶい橙色(5YR6/4)、灰黄褐 色(10YR6/2)、内面：灰白色(10 YR8/2)、器肉：褐灰色(10YR5/1)	微粒子を若干、細粒子 (白色他)を多く、砂粒 (灰色)を若干含む	ヨコナデ	
83	275	鉢?	口縁部	5	外面：浅黄褐色(10YR6/3)、内面： にぶい黄橙色(10YR7/3)、器肉：灰 黄褐色(10YR6/2)	微粒子をわずかに、細粒 子を若干、砂粒(白色) をわずかに含む	ヨコナデ、内面下部：ナデ	
84	276	鉢	胴部	5	外面：にぶい黄褐色(10YR7/3)・橙 色(5YR6/8)、内面：灰黄褐色 (10YR6/2)、器肉：にぶい黄褐色 (10YR7/3)	微粒子を若干、細粒子 (白色・黒色他)を含む	外面：ナデ、内面：ハケ後 ナデ	古墳時代
84	277	壺	口縁部	5	にぶい橙色(5YR7/4)、外面：黒 斑：褐灰色(5YR4/1)、器肉：灰白 色(2.5Y7/1)	微～細粒子(黒色他)を 含む、砂粒(黒色・灰 色)をわずかに含む	ナデ	古墳時代、残存率1/4、 径(13.45)cm
84	278	壺	口縁部	5	にぶい橙色(7.5YR7/4)、器肉：黄 灰色(2.5Y6/1)	微～細粒子を多く、砂粒 (褐色)をわずかに含む	ナデ?	古墳時代
84	279	壺	口縁部	5	外面：明赤褐色(5YR5/6)、内面： 橙色(5YR6/8)、器肉：浅黄褐色 (7.5YR8/3)	微～細粒子・砂粒(白色 他)をわずかに含む	外面：タテハケ、内面：横 方向のナデ、口縁端部：ヨ コナデ	弥生時代中津野式?
84	280	壺	口縁部	5	灰黄褐色(10YR5/2)、外面一部：黒 褐色(10YR3/2)、器肉：明黄褐色 (10YR7/6)	微～細粒子をわずかに含 む	外面：タテハケ、内面下 部：ヨコハケ後ナデ、口縁 端部：ヨコナデ	
84	281	壺	口縁部	5	浅黄褐色(7.5YR8/4)、器肉：灰白 色(10YR7/1)	微～細粒子を含む、砂粒 (赤色)をわずかに含む	ナデ?	古墳時代
84	282	壺	口縁部	5	外面：浅黄褐色(7.5YR8/3)・橙色 (5YR6/6)、内面：明褐色 (7.5YR5/6)、器肉：橙色(7.5YR7/6)	微粒子を若干、細粒子 (白色・赤色他)を多く 含む	ナデ、口縁端部：ヨコナデ	弥生時代中津野式?
84	283	壺	口縁部	5	外面：にぶい橙色(5YR6/4)、内 面：オリブ黒色(7.5Y3/1)、脚端 部：灰黄褐色(10YR5/2)	微～細粒子(白色他)を 含む、砂粒(白色・灰 色)をわずかに含む	ナデ	
84	284	壺	口縁部	5	にぶい橙色(7.5YR6/4・7/4)	微～細粒子(白色他)を 若干含む	外面：斜め方向のハケ後ナ デ、内面：ヨコハケ後ナ デ、口縁端部：ヨコナデ	古墳時代
84	285	壺	頸部	5	外面：にぶい橙色(7.5YR7/4)、内 面：にぶい橙色(7.5YR6/4)、器 肉：灰色(5Y5/1)	微～細粒子を含む、砂粒 (赤色・白色)を若干含 む	外面：タテハケ、内面上 部：ヨコハケ後ナデ、内面 下部：ナデ	古墳時代
84	286	壺	頸部	5	外面：浅黄褐色(10YR8/3)、内面： にぶい橙色(5YR7/4)、器肉：褐灰 色(7.5YR6/1)	微～細粒子(白色・赤色 他)・砂粒(赤色)を若 干含む	外面：タテハケ、内面上 部：斜め方向のハケ後ナ デ、内面下部：ナデ	弥生時代中津野式以降
84	287	壺	頸部	5	外面：にぶい黄褐色(10YR7/3)、内 面：橙色(7.5YR6/6)、器肉：褐灰 色(7.5YR5/1)	微～細粒子(赤色他)を 含む、砂粒(白色)をわ ずかに含む	外面：タテハケ・上部は後 ヨコナデ、内面上部：ヨコ ハケ後ナデ、内面下部：ナ デ	古墳時代
84	288	壺	頸部	5	外面：橙色(5YR6/6)、内面：浅黄 褐色(7.5YR8/6)、器肉：灰白色 (7.5YR8/2)	微粒子を若干、細粒子・ 砂粒(透明・赤色・白 色)を含む	ナデ?	古墳時代辻堂原～笹貫式
84	289	壺	胴部	5	にぶい橙色(7.5YR6/4)、器肉：浅 黄褐色(10YR8/3)	微～細粒子を若干、砂粒 (白色)をわずかに含む	外面：ハケ?後ナデ(ハケメ は見られない)、内面：ナ デ、突帯部に格子状刻み	古墳時代辻堂原～笹貫式
84	290	壺	胴部	5	外面：にぶい褐色(7.5YR6/3)、内 面：にぶい橙色(7.5YR6/4)、器 肉：明褐灰色(7.5YR7/1)	微～細粒子を若干、砂粒 ～礫(白色・赤色)をわ ずかに含む	外面：ヨコナデ、突帯にハ ケ工具による刺突、内面： ナデ	古墳時代辻堂原～笹貫式
84	291	壺	胴部	5	にぶい橙色(7.5YR6/4)	微～細粒子・砂粒(雲母 他)を若干含む	ナデ、突帯にハケ工具によ る刺突	古墳時代辻堂原～笹貫式
84	292	壺	胴部	5	外面：浅黄褐色(10YR8/3)、内面： 橙色(7.5YR6/6)、器肉：灰白色 (2.5Y8/2)	微～細粒子を若干、砂粒 ～礫(白色・赤色)をわ ずかに含む	外面：斜め方向のハケ、突 帯部付近：ヨコナデ、突帯 刺突部に布目圧痕、内面上 中部：斜め方向のハケ後ナ デ、内面下部：ナデ	古墳時代笹貫式
84	293	壺	胴部	5	外面：浅黄褐色(10YR8/3)、内面： 灰白色(10YR8/2)、器肉：灰白色 (10YR8/2)	微～細粒子(赤色他)を 多く含む	ナデ、突帯の刺突部に布目 圧痕	古墳時代笹貫式



Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
84	294	壺	胴部	5	外面：にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面：浅黄橙色(7.5YR8/4), 器肉：暗緑灰色(10GY3/1)	微～細粒子(赤色・赤母他)を含む, 砂粒～礫(赤色)をわずかに含む	外面：タテハケ後ナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯の刺突部に布目圧痕, 内面：ナデ	古墳時代笹貫式
84	295	壺	胴部	5	外面：浅黄橙色(7.5YR8/6), 内面：橙色(7.5YR6/6), 器肉：浅黄橙色(10YR8/3)	微～細粒子(赤色他)を多く, 砂粒(赤色)を若干含む	ナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯にハケ工具による刺突	弥生時代後期～古墳時代
84	296	壺	胴部	5	外面：にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面：橙色(7.5YR6/6), 器肉：黄灰色(2.5Y6/1)	微～細粒子(透明他)を若干, 砂粒(赤色・白色)をわずかに含む	外面：ナデ, 突帯に刺突, 内面：風化のため調整不明	
84	297	壺	胴部	5	外面：にぶい黄褐色(10YR7/4), 内面：橙色(5YR6/6), 器肉：灰白色(7.5YR8/2)	細粒子(白色他), 粗砂粒(白色・白透明)を若干含む	外面：ナデ, 突帯に刺突, 内面：風化のため調整不明	古墳時代
84	298	壺	胴部	5	外面：橙色(5YR7/6), 内面：にぶい橙色(7.5YR7/4), 器肉：灰色(5Y4/1)	微～細粒子を若干, 砂粒(白色他)をわずかに含む	ナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯に刺突	古墳時代
84	299	壺	胴部	5	外面：灰白色(10YR8/2), 内面：橙色(7.5YR7/6)	微～細粒子・砂粒(赤色他)を若干含む	ナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯に刺突	弥生時代後期～古墳時代
84	300	甕?	胴部	5	外面：灰黄褐色(10YR4/2), 内面：灰白色(10YR8/2), 器肉：浅黄褐色(10YR8/3)	微～細粒子を含む, 砂粒(透明・白色)を若干含む	外面上部：縦方向のハケ後ナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯にハケ工具による刺突, 内面：ヨコハケ後ナデ	古墳時代
84	301	壺	胴部	5	外面：にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面：浅黄褐色(10YR8/4), 器肉：オリープ黒色(7.5Y3/1)	微～細粒子を若干, 砂粒をわずかに含む	外面突帯部付近：ヨコナデ, 他は風化のため調整不明, 内面：ナデ	弥生時代後期～古墳時代
84	302	壺	胴部	5	外面：にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面：にぶい黄褐色(10YR6/4), 器肉：黄灰色(2.5Y5/1)	微～細粒子を若干, 砂粒をわずかに含む	外面：縦方向のハケ, 突帯付近：ヨコナデ, 突帯に刺突, 内面：ナデ	弥生時代後期～古墳時代
84	303	壺	胴部	5	外面：橙色(7.5YR7/6), 内面：黒色(5Y2/1)	微～細粒子を含む, 砂粒(白色)をわずかに含む	外面：縦方向のハケ, 突帯に刺突, 内面：ナデ	弥生時代後期～古墳時代
84	304	壺	胴部	5	外面：橙色(7.5YR6/6), 内面：明赤褐色(5YR5/6), 器肉：黄灰色(2.5Y5/1)	微～細粒子を若干, 砂粒～粗砂粒(白色他)をわずかに含む	ナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯部分に刺突	弥生時代後期～古墳時代
85	305	壺	胴部	5	外面：にぶい橙色(7.5YR6/4), 内面：にぶい黄褐色(10YR7/3), 器肉：灰黄褐色(10YR5/2)	微～細粒子を含む, 砂粒～粗砂粒(白色)をわずかに含む	外面：ハケ?, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯部分に刺突, 内面：ヨコハケ後ナデ	弥生時代後期～古墳時代
85	306	壺	胴部	5	外面：にぶい黄褐色(10YR7/3), 赤色顔料：明赤褐色(2.5YR5/8), 内面：赤色顔料：明赤褐色(5YR5/8)	細粒子を含む, 砂粒(透明・白色)を若干含む	外・内面：赤色顔料塗付・ヨコ方向のナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 突帯部に刺突	弥生時代後期～古墳時代
85	307	壺	底部	5	外面：にぶい橙色(7.5YR7/4), 内面：にぶい黄褐色(10YR7/3), 器肉：黄灰色(2.5Y4/1)	微～細粒子を若干, 砂粒(赤色・灰色)をわずかに含む	ナデ	古墳時代
85	308	壺	底部	5	外面：にぶい黄褐色(10YR7/4), 内面：灰黄褐色(10YR6/2), 器肉：灰色(N4/0)	微粒子をわずかに, 細粒子(白色他)を若干, 粗砂粒(白色)をわずかに含む	外面：ナデ, 内面：ハケ後ナデ(ハケメは見られない)	弥生時代中津野式～古墳時代
85	309	壺	底部	5	外面：にぶい橙色(5YR7/4), 内面：にぶい黄褐色(10YR5/3), 器肉：オリープ黒色(10Y3/1)	微～細粒子(白色他)を含む	外面：タテハケ, 内面：横方向のハケ後ナデ	弥生時代中津野式～古墳時代東原式
85	310	壺	底部	5	外面：にぶい橙色(5YR7/4)・灰白色(5YR8/2), 内面：灰色(10Y4/1), 器肉：暗緑灰色(10GY3/1)	微～細粒子を若干, 砂粒(白色他)をわずかに含む	外面：ナデ?, 内面：ナデ・ユビオサエ痕が残る	弥生時代中津野式
85	311	壺	底部	5	外面：浅黄褐色(7.5YR8/6), 黒斑：暗灰色(N3/0), 内面：灰白色(2.5Y8/1), 器肉：灰白色(10YR8/1)	微～細粒子を含む	風化のため調整不明	弥生時代中津野式
85	312	壺	底部	5	外面：にぶい橙色(5YR7/4)・オリープ黒色(10Y3/1), 内面：灰白色(7.5YR8/2)	微～細粒子を含む, 砂粒～礫(赤色)を若干含む	外面：ケズリ(砂粒の動きは下向き)? 後ナデ, 内面：縦方向のナデ	弥生時代中津野式
85	313	壺	底部	5	外面：にぶい橙色(5YR7/4), 内面：(6/4), 器肉：暗オリープ灰色(2.5GY3/1)	微～細粒子(白色他)を含む, 砂粒(白色他)をわずかに含む	外面：タテハケ, 内面：斜め方向のナデ	弥生時代後期～中津野式
85	314	高杯	杯部	5	外面：明赤褐色(2.5YR5/8), 内面：にぶい黄褐色(10YR7/4)・橙色(5YR6/8)・褐灰色(10YR5/1)	微～細粒子(赤色他)をわずかに含む	外面上部：タテハケ後ナデ, 外面下部・内面：ナデ, 外面：赤色顔料	古墳時代辻堂原～笹貫式, 残存率1/4, 口径(23.65) cm
85	315	高杯	口縁部	5	外面：橙色(5YR6/6), 内面：(7/6), 器肉：明褐灰色(7.5YR7/1)	微～細粒子を若干含む	ナデ, 口縁部：ヨコナデ	古墳時代辻堂原～笹貫式
85	316	高杯	口縁部	5	灰色(7.5Y4/1), 器肉：灰黄褐色(10YR6/2)・灰白色(10YR7/1)	微～細粒子(透明・白色他)を多く含む	ナデ, 口縁部：ヨコナデ	古墳時代辻堂原～笹貫式

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
85	317	甕	口縁部	5	外面：灰黄褐色(10YR4/2)・灰白色(10YR8/2), 内面：橙色(7.5YR7/6), 器肉：灰白色(5Y7/1)	微～細砂粒を若干, 砂粒(透明)・粗砂粒(白色)をわずかに含む	ナデ, 口縁端部：ヨコナデ	
85	318	高杯	杯部	5	外面：橙色(5YR6/6), 内面：(7/6)	微～細粒子(雲母?他)を含む, 砂粒(赤色他)をわずかに含む	ナデ	古墳時代辻堂原～笹貫式
85	319	高杯	脚部	5	外面：赤色顔料：赤褐色(2.5YR4/8), 脚内面：にぶい橙色(7.5YR7/3), 器肉：浅黄橙色(7.5YR8/4)	微～細粒子・砂粒(透明・白色・赤色)を若干含む	ナデ, 外面：赤色顔料塗付	古墳時代辻堂原～笹貫式
85	320	高杯	脚部	5	浅黄橙色(10YR8/3), 器肉：黄灰色(2.5Y5/1)	微～細粒子(白色他)を若干含む	ナデ	残存率1/2, 径(5.40) cm
85	321	高杯	脚部	5	灰白色(10YR8/2)～灰黄褐色(10YR6/2), 器肉：灰白色(2.5Y7/1)	微粒子をわずかに含む, 精製粘土	外面：ナデ, 脚内面：ナデ・板状工具による圧痕あり	
85	322	高杯	脚部	5	外面：浅黄橙色(7.5YR8/6), 脚内面：(8/4)	微～細粒子を若干含む	ナデ	
85	323	高杯	脚部	5	外面：浅黄橙色(7.5YR8/6), 脚内面：(8/4), 器肉：灰色(N5/0)	微～細粒子(白色他)を若干, 粗砂粒(赤色)をわずかに含む	ナデ, 脚端部：ヨコナデ	残存率1/8, 脚径(17.00) cm
85	324	高杯	脚部	5	外面：浅黄橙色(7.5YR8/3), 内面：灰黄褐色(10YR6/2), 器肉：黄灰色(2.5Y5/1)	微～細粒子を含む, 砂粒(褐色・白透明)を若干含む	外面：ナデ, 内面：ヨコハケ後ナデ, 脚端部：ヨコナデ	
85	325	高杯	脚部	5	外面：にぶい橙色(5YR6/4・7/3), 内面：褐灰色(10YR4/1)	微～細粒子を若干含む, 砂粒(白色)をわずかに含む	ナデ, 脚端部：ヨコナデ	
85	326	高杯	脚部	5	にぶい橙色(7.5YR7/4)・灰白色(2.5Y7/1), 器肉：灰白色(2.5Y8/1)	微粒子をわずかに, 細粒子(赤色)を若干含む	ナデ	
85	327	高杯	脚部	5	外面：橙色(7.5YR7/6), 内面：にぶい橙色(7.5YR7/4), 器肉：灰色(7.5Y4/1)	微～細粒子・砂粒(白色)を若干含む	外面：横方向のナデ, 内面：ハケ, 脚端部：ヨコナデ	内面：剥離
85	328	高杯	脚部	5	外面：暗褐色(10YR3/3), 内面：黒褐色(7.5YR3/1)	細粒子(白色他)を若干含む	ヨコナデ	
85	329	埴	口縁部	5	外面：赤色顔料：赤色(10R5/6), 内面：橙色(7.5YR7/6)	微～細粒子をわずかに含む	ナデ, 外面：赤色顔料	古墳時代辻堂原～笹貫式, 残存率1/6, 口径(10.15) cm
85	330	埴	頸部	5	外面：橙色(5YR6/8), 内面：(6/6), 器肉：浅黄橙色(7.5YR8/3)	微粒子・砂粒(白色・灰色)をわずかに含む	ナデ	古墳時代
86	331	埴	胴部	5	浅黄橙色(10YR8/3)・灰褐色(7.5YR5/2), 外面赤色顔料：橙色(5YR7/6), 器肉：灰白色(10YR8/2)	微～細粒子をわずかに含む	ナデ, 外面上部一部：赤色顔料	古墳時代
86	332	埴	底部	5	外面：にぶい橙色(5YR6/4)・暗緑灰色(5G3/1), 内面：暗灰色(N3/0), 器肉：黄灰色(2.5Y6/1)	微～細粒子(白色他)を若干含む	ナデ	古墳時代辻堂原～笹貫式, 残存率1/4, 底径(5.69) cm
86	333	甕	口縁部	5	外面：明赤褐色(5YR5/6), 内面：橙色(5YR6/6), 口唇部：にぶい橙色(5YR6/4), 器肉：灰色(5Y5/1)	微～細粒子(白色他)を含む, 砂粒(白色)をわずかに含む	ヨコナデ?	弥生時代中期
86	334	甕	口縁部	5	外面：黄橙色(10YR8/6), 内面・口唇部：浅黄橙色(10YR8/3)	微～細粒子を多く, 砂粒(透明・白色)を若干含む	風化のため調整不明	弥生時代中期
86	335	甕	口縁部	5	浅黄橙色(10YR8/4), 器肉：灰白色(10YR8/2)	微～細粒子(白透明他)を多く, 砂粒(灰色)をわずかに含む	ナデ, 口縁端部：ヨコナデ?	弥生時代中期
86	336	甕	口縁部	5	外面：灰黄褐色(10YR4/2), 内面：浅黄橙色(10YR8/3), 器肉：灰白色(10YR8/1)	微～細粒子・砂粒(灰色)を含む, 礫(白色)をわずかに含む	ナデ, 口縁端部：ヨコナデ	弥生時代中期
86	337	甕	口縁部	5	にぶい赤褐色(5YR5/4), 器肉：淡橙色(5YR8/3)	微～細粒子を含む, 砂粒(白色他)をわずかに含む	ナデ, 口縁端部：ヨコナデ	弥生時代中～後期
86	338	壺	頸部	5	浅黄橙色(10YR8/3), 器肉：灰色(5Y5/1)	微～細粒子を若干, 砂粒～礫(赤色他)をわずかに含む	外面：タテハケ後ナデ, 突帯部付近：ヨコナデ, 内面：風化のため調整不明	弥生時代中～後期, 多条突帯
86	339	壺	胴部	5	外面：にぶい橙色(5YR7/4), 内面：橙色(7.5YR7/6), 器肉：褐灰色(10YR5/1)	微～細粒子・砂粒～礫(赤色他)を若干含む	ナデ?	弥生時代中～後期, 多条突帯
86	340	壺	底部	5	浅黄橙色(10YR8/3), 器肉：褐灰色(10YR4/1)	微～細粒子(赤色・黒色他)を含む, 砂粒・礫(灰色)をわずかに含む	摩滅のため調整不明, 底面：ハケ?	弥生時代, 残存率1/4, 底径(7.55) cm
86	341	砥石		5	使用面：灰褐色(7.5YR6/2), 自然面：褐灰色(10YR5/1)			砂岩製, 長さ8.35cm, 幅7.15cm, 厚み2.3cm, 重量144 g
87	342	小杯	口縁～高台部	6	灰白色(N8/0)／釉調 透明		施釉, 高台付付：無釉	磁器, 上の層からの落ち込みと考えられる

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
88	343	皿	口縁部		灰白色(5Y7/1)/釉調 外面：透明，外面上部～内面：白色：灰白色(10Y8/1)，貫入		施釉	陶器，南北ベルト南側⑤-d区出土
88	344	皿	口縁部		外面：浅黄色(2.5Y7/3)，器肉：にぶい黄橙色(10YR7/3)/釉調 内面：黄透明：黄褐色(2.5Y5/4)		外面：無釉・回転ナデ，内面：施釉	陶器，南北ベルト南側⑤-d区出土
88	345	皿or碗	底部		外面：灰白色(5Y8/1)，器肉：灰白色(5Y8/1)/釉調 外面一部・内面：緑透明：オリブ黄色(5Y6/3)，貫入		外面：無釉・回転ナデ，外面一部・内面：施釉	陶器，⑤-b区ベルト内出土，残存率1/3，底径(4.95)cm
88	346	甕	口縁部		口縁端部上面：にぶい赤褐色(5YR5/3)，器肉：橙色(2.5YR6/6)/釉調 灰色：暗オリブ灰色(2.5GY4/1)		施釉，外面口縁部付近：沈線(一条)・下部：カキメ，口縁端部上面：無釉・回転ナデ	陶器(薩摩)，南北ベルト南側⑤-d区出土
88	347	甕	口縁部		口縁端部上面：灰褐色(7.5YR5/2)，器肉：明赤褐色(5YR5/6)/釉調 オリブ黒色(7.5Y3/1)		施釉，口縁端部上面：無釉・カキメ	陶器(薩摩)，南北ベルト南側⑤-d区出土，器肉中央に整形時にできたと思われる穿孔?
88	348	甕	口縁部		暗青灰色(5B3/1)/釉調 黒褐色：極暗褐色(2.5YR2/3)，口縁端部上面：赤褐色(10R4/3)	砂粒をわずかに含む	施釉，口縁端部上面：カキメ	陶器(薩摩)，口縁上端部に砂目，南北ベルト南側⑤-d区出土
88	349	茶家	口縁部～釣手掛		橙色(2.5YR6/6)/釉調 外面：暗灰黄色(2.5Y5/2)，内面：黄褐色(2.5Y5/3)		施釉	陶器(薩摩)，南北ベルト南側⑤-d区出土
88	350	碗?	口縁部		灰白色(7.5Y8/1)/釉調 緑透明：明緑灰色(10GY8/1)		施釉，外・内面：文様(内面：雷文)	磁器，南北ベルト南側⑤-d区出土
88	351	碗	口縁部～体部		灰白色(N8/0)/釉調 透明		施釉，外・内面：文様	染付，南北ベルト南側⑤-d区出土
88	352	碗	口縁部～体部		灰白色(N8/0)/釉調 透明，外面：貫入		施釉，外・内面：文様	染付，南北ベルト南側⑤-d区出土
88	353	碗	口縁部～体部		灰白色(2.5GY8/1)/釉調 透明		施釉，外・内面：文様	染付，⑥-d区表層出土
88	354	碗	口縁部～体部		灰白色(N8/1)/釉調 透明		施釉，外・内面：文様	染付，南北ベルト南側⑤-d区出土
88	355	碗	口縁部～体部		灰白色(N8/0)/釉調 緑透明：明緑灰色(7.5GY8/1)		施釉，外面：文様	染付，南北ベルト南側⑤-d区出土
88	356	碗?	口縁部～体部		灰白色(N8/0)/釉調 青透明：明青灰色(10BG7/1)		施釉，外面：文様(鳥)	染付，南北ベルト南側⑤-d区出土
88	357	碗	口縁部～体部		灰白色(2.5GY8/1)/釉調 緑透明：明緑灰色(7.5GY8/1)		施釉，外・内面文様，外面上部：釉がのっていた部分あり	染付，南北ベルト南側⑤-c-d区出土，残存率1/4，口径(9.85)cm
88	358	碗	体部～底部		灰白色(N8/0)/釉調 緑透明：明緑灰色(10GY8/1)		施釉，外・内面：文様，高台付：無釉	染付，南北ベルト南側⑤-c-d区出土，底径2.95cm
88	359	碗	体部～底部		灰白色(5Y8/1)/釉調 緑透明：明緑灰色(7.5GY8/1)，貫入		施釉，外・内面：文様(草花・文字)，高台付：無釉	染付，南北ベルト南側⑤-c-d区出土，残存率1/4，底径(3.65)cm
88	360	皿?	底部		高台付：橙色(7.5YR6/6)，器肉：灰白色(7.5Y8/1)/釉調 緑透明：明緑灰色(10GY8/1)，文様：暗青灰色(5PB3/1)		施釉，内面：文様，高台付：無釉	染付，南北ベルト南側⑤-c-d区出土
88	361	?	底部		灰白色(N7/0)/釉調 緑透明：明緑灰色(7.5Y8/1)，文様：暗灰黄色(2.5Y5/2)・青灰色(10BG5/1)，貫入		施釉，外面：文様，底面：無釉	染付，南北ベルト南側⑤-c-d区出土，残存率1/4，底径(6.58)cm
88	362	碗	口縁部		灰白色(10Y7/1)/釉調 緑透明：オリブ黄色(5Y6/3)		施釉，外面：文様：片彫り	青磁，⑤-b区ベルト内出土
88	363	甕	口縁部		外面：暗灰色(N3/0)，内面：灰色(N4/0)，器肉：灰白色(N7/0)		回転ナデ	須恵器，東西ベルト東側②③-b区出土
88	364	甕?	口縁部		外面：明赤褐色(5YR5/8)，内面：にぶい橙色(7.5YR7/3)・灰色(N4/0)	微～細粒子(透明・赤色他)を多く含む	ナデ，口縁端部：ヨコナデ	東西ベルト東側②③-b区出土
88	365	甕	口縁部～胴部		外面：橙色(5YR7/6)，内面：灰白色(7.5YR8/2)，器肉：浅黄褐色(7.5YR8/3)	微～細粒子を多く，砂粒・礫(赤色)をわずかに含む	ナデ?，口縁端部：ヨコナデ，内面：ナデ	古墳時代後期式，東西ベルト東側②③-b区出土
88	366	甕	口縁部～胴部		外面：にぶい橙色(5YR6/4)・にぶい褐色(7.5YR6/3)，内面：橙色(5YR6/6)	微～細粒子を含む，砂粒(透明・白色他)を若干含む	外面：ナデ，突帯部付近：ヨコナデ，突帯にハケ工具による刺突，内面：ナデ	古墳時代後期式，東西ベルト東側②③-b区出土
88	367	甕	口縁部～胴部		外面：明褐色(7.5YR7/1)・褐色(10YR4/1)，内面：灰白色(10YR8/2)，器肉：灰色(5Y4/1)	微～細粒子・砂粒・礫(白色)を若干含む	外面：タテハケ後ナデ，口縁端部：ヨコナデ，内面：ナデ	東西ベルト東側出土
88	368	甕	胴部		外面：にぶい赤褐色(5YR5/3)，内面：にぶい橙色(5YR7/4)，器肉：橙色(2.5YR7/6)	微～細粒子を若干，砂粒(透明・白色他)をわずかに含む	外面：横方向のナデ?，内面：ナデ	②-c区ベルト内出土

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
88	369	甕	胴部		外面：にぶい黄橙色(10YR7/3)、内面：橙色(7.5YR7/6)、器肉：灰黄色(2.5Y7/2)	微～細粒子・砂粒を若干含む	外面：ヨコナデ・下部：ナデ、内面：ナデ	古墳時代、東西ベルト東側②③-b区出土
88	370	甕	胴部		にぶい橙色(7.5YR7/4)、器肉：黄灰色(2.5Y5/1)	微～細粒子をわずかに、砂粒(透明他)を若干含む	外面：ヨコナデ、突帯にハケ工具による刺突、内面：ナデ	⑤-b区ベルト内出土
88	371	甕	胴部～底部		外面：橙色(7.5YR7/6)、内面：にぶい橙色(5YR7/4)、器肉：灰色(7.5Y4/1)	微～細粒子をわずかに、砂粒～粗砂粒(白色・赤色他)を若干含む	ナデ	弥生時代中津野式～古墳時代、③-a区ベルコンの土台出土
88	372	甕	胴部～底部		外面：にぶい橙色(5YR7/4)、内面：浅黄橙色(10YR8/3)、器肉：灰色(N4/0)	微～細粒子を多く、砂粒～粗砂粒(赤色・白色他)を若干含む	ナデ	弥生時代中津野式～古墳時代、③-a区ベルコンの土台出土
88	373	甕	底部		外面：橙色(2.5YR6/6)、内面：にぶい黄橙色(10YR7/4)、器肉：オリープ灰色(2.5GY5/1)	微～細粒子をわずかに、砂粒～礫(赤色・白色)を若干含む	ナデ	弥生時代中津野式～古墳時代、④-a区東側ベルコン下出土
88	374	甕	胴部～底部		橙色(5YR6/6)～にぶい橙色(7.5YR7/4)、脚内面：灰色(5Y5/1)、器肉：オリープ灰色(2.5GY5/1)	微～細粒子をわずかに、砂粒(白色)を若干含む	ナデ	古墳時代、③-a区ベルコン土台出土
89	375	甕	底部		外面：浅黄橙色(10YR8/4)、内面：にぶい黄褐色(10YR5/3)、器肉：橙色(5YR7/6)	微～細粒子・砂粒～粗砂粒(透明・赤色)を若干含む	ナデ	古墳時代、②-c区ベルト内出土、内面：剥離著しい
89	376	甕	脚部		外面：にぶい黄褐色(10YR7/4)、内面：にぶい黄褐色(10YR6/3)、器肉：橙色(2.5YR7/6)	微～細粒子(白色他)を多く含む	横方向のナデ、脚端部：ヨコナデ	古墳時代、東西ベルト東側②③-b区出土、残存率1/3、底径(11.85)cm
89	377	甕	脚部		にぶい橙色(7.5YR7/3)・橙色(2.5YR6/6)	微～細粒子・砂粒(白色)をわずかに含む	ヨコナデ	古墳時代、②-c区ベルト内出土、残存率1/3、底径(11.15)cm
89	378	甕	脚部		外面：にぶい黄褐色(10YR7/4)、内面：橙色(2.5YR6/6)、器肉：にぶい赤褐色(2.5YR4/3)	微～細粒子(透明・白色他)を若干、砂粒(白色)をわずかに含む	ヨコナデ	弥生時代中津野式～古墳時代、⑤-b区ベルト内出土
89	379	甕	脚部		黄褐色(10YR7/8)	微～細粒子(赤色・灰色他)を含む、砂粒(白色・灰色)を若干含む	外面：横方向のナデ、内面：摩滅のため調整不明	⑤-b区ベルト内
89	380	甕	脚部		外面：橙色(5YR6/6)、内面：灰褐色(7.5YR4/2)、器肉：にぶい褐色(7.5YR5/4)	微～細粒子(白色)を若干含む	横方向のナデ	東西ベルト東側、接合面剥離
89	381	壺	口縁部		外面：にぶい橙色(5YR6/4)、内面：橙色(5YR7/6)、器肉：にぶい黄褐色(10YR7/2)	微～細粒子を含む、砂粒(赤色・白色)を若干含む	外面：ハケ?後ヨコナデ、内面：ナデ、口縁端部：ヨコナデ	弥生時代中津野式～古墳時代、②-c区ベルト内出土
89	382	壺	胴部		外面：にぶい黄褐色(10YR6/4)、内面：灰白色(10YR8/2)、器肉：黄灰色(2.5Y5/1)	微～細砂粒を若干、砂粒(透明他)を含む	ナデ?、突帯にハケ工具による刺突	古墳時代、東西ベルト東側②③-b区出土
89	383	壺	胴部		外面：にぶい黄褐色(10YR7/4)、内面：浅黄褐色(7.5YR8/3)、器肉：灰色(5Y4/1)	微～細粒子(白色他)を含む	ナデ?、突帯に刺突	弥生時代後期～中津野式、③-a区ベルコン土台出土
89	384	壺	胴部		外面：橙色(7.5YR6/6)・灰黄色(2.5Y7/2)、内面：にぶい橙色(7.5YR7/4)、器肉：黄灰色(2.5Y4/1)	微～細粒子を多く、砂粒(赤色)をわずかに含む	外面：ナデ、突帯にハケ工具による刺突、内面上中部：ハケ、下部：ハケ後ナデ	東西ベルト東側②③-b区出土
89	385	壺	胴部		外面：橙色(5YR7/6)、内面：にぶい橙色(5YR6/4)、器肉：灰色(5Y5/1)	微～細粒子(赤色・白色他)を含む、砂粒(白色)を若干含む	外面：タテハケ、突帯部付近：ヨコナデ、突帯にハケ工具による刺突、内面：ヨコハケ・上部は後横方向のナデ	弥生時代後期～中津野式、東西ベルト東側②③-b区出土
89	386	壺	胴部(底部付近)		にぶい褐色(7.5YR6/3)・褐灰色(10YR4/1)、器肉：灰色(N4/0)	微～細粒子を若干含む	ナデ、外面上部：ケズリ?、内面一部：工具によるナデ?	東西ベルト東側②③-b区出土
89	387	壺	底部		外面：橙色(5YR7/6)、内面：黄灰色(2.5Y4/1)	微～細粒子を若干、砂粒～礫(白色他)を含む	外面：ハケ、内面：ナデ?	弥生時代中津野式、③-a区ベルコン土台出土
89	388	壺	底部		外面：にぶい褐色(7.5YR6/4)、内面：にぶい赤褐色(5YR5/4)	微～細粒子・砂粒を若干含む	ナデ	弥生時代後期～中津野式、東西ベルト東側②③-b区、残存率1/4、底径(7.30)cm
89	389	壺	底部		外面：浅黄褐色(7.5YR8/4)・灰褐色(7.5YR5/2)、内面：灰白色(10YR8/2)、器肉：灰色(10Y5/1)	微～細粒子を多く、砂粒(白色他)を若干含む	摩滅のため調整不明	弥生時代中津野式・古墳時代辻堂原～笹貫式?東西ベルト東側②③-b区出土
89	390	高杯	口縁部		外面：にぶい褐色(7.5YR6/3)・灰褐色(7.5YR4/2)、内面：浅黄褐色(7.5YR8/3)	微～細粒子を若干、砂粒(透明他)をわずかに含む	外面：斜め方向のハケ、内面：タテハケ後ナデ(ハケメはほとんど残っていない)、口縁端部：ヨコナデ?	古墳時代辻堂原～笹貫式、③-a区ベルコン土台

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
89	391	高杯	口縁部		外面：灰黄褐色(10YR5/2), 内面： にぶい黄褐色(10YR4/3), 器肉：灰 白色(10YR7/1)	微～細粒子(透明・白 色)を含む	外面：横方向のナデ, 内 面：斜め方向のハケ, 口縁 端部：ヨコナデ?	古墳時代辻堂原～笹貫 式, 東西ベルト東側②③ -b区出土, 392と同一個 体の可能性高い
89	392	高杯	口縁部		外面：にぶい橙色(10YR7/4), 内 面：橙色(7.5YR7/6), 器肉：灰黄 褐色(10YR6/2)	微～細粒子(透明他)を 含む, 砂粒(灰色)をわ ずかを含む	外面：横方向のナデ, 内 面：斜め方向のハケ, 口縁 端部：ヨコナデ	古墳時代辻堂原～笹貫 式, 東西ベルト東側②③ -b区出土, 391と同一個 体の可能性高い
89	393	高杯	脚部		外面：赤色顔料：橙色(2.5YR 6/8), 脚内面：浅黄褐色(10YR 8/3), 器肉：灰白色(10YR7/1)	微～細粒子を含む, 砂粒 ～礫(赤色)を若干含む	外面：横方向のミガキ?, 内面：ナデ	古墳時代辻堂原～笹貫 式, 東西ベルト東側②③ -b区出土
89	394	高杯	脚部		外面：灰白色(10YR8/2), 内面：に ぶい黄褐色(10YR7/4)	微～細粒子・砂粒～礫 (透明・赤色・白色)を 含む	摩滅のため調整不明	東西ベルト東側②③-b区 出土
90	395	皿?	口縁部		灰白色(10YR8/1)／釉調 外面：白 色半透明：灰白色(2.5GY8/1), 内 面：緑色：オリーブ灰色(10Y4/1) に類似, 貫入, 赤茶色：暗赤褐色 (2.5YR3/4)		施釉, 内面：白色釉で円形 の突起を作り, その上下を 赤茶色の色絵で区画, その 上から緑色の透明釉を带状 にかける	磁器, ③-c区? 攪乱中出 土
90	396	甕	口縁部～ 胴部		外面：明黄褐色(10YR6/8)・黄褐色 (10YR7/8), 内面：にぶい褐色 (7.5YR5/4), 器肉：灰白色 (7.5YR5/4)	微～細粒子を若干, 砂粒 をわずかに含む	ヨコナデ	古墳時代笹貫式, ⑤-c区 攪乱中出土
90	397	甕	胴部	表土	外面：橙色(5YR6/6)・にぶい橙色 (7.5YR7/3)・灰褐色(7.5YR5/2), 内 面：橙色(7.5YR7/6), 器肉：灰色 (5Y4/1)	微～細粒子(白色他)を 若干含む	横方向のナデ	古墳時代
90	398	甕	胴部	表土	外面：褐灰色(10YR6/1), 内面： (5/1), 器肉：にぶい黄褐色 (10YR7/4)	微～細粒子を若干, 砂粒 (赤色・白色)を含む	外面：ヨコナデ, 下方：斜 め方向のハケ後ナデ?, 突 帯にハケ工具による刺突, 内面：斜め方向のハケ後ナ デ?	古墳時代
90	399	甕	胴部	表土	外面：にぶい褐色(7.5YR5/4), 内 面：橙色(7.5YR7/6)	微～細粒子(赤色他)を 多く, 砂粒・礫(赤色) を若干含む	外面：横方向のナデ, 突帯 にハケ工具による刺突, 内 面：ナデ	
90	400	甕	脚部	表土	外面：橙色(5YR6/6), 脚内面：に ぶい黄褐色(10YR6/4)	微～細粒子・砂粒～礫 (白色他)を若干含む	横方向のナデ	弥生時代中津野式, 底径 の約1/3がのこる, 底径 (6.95) cm
90	401	甕	脚部	表土	外面：にぶい黄褐色(10YR7/3), 内 面：橙色(7.5YR6/6)	微～細粒子を若干, 砂粒 をわずかに含む	横方向のナデ	古墳時代, 底径の約1/2が のこる, 底径(11.7) cm
90	402	甕	脚部	表土	にぶい黄褐色(7.5YR7/4), 器肉：灰 白色(7.5YR8/2)	微～細粒子を含む, 砂粒 (透明他)をわずかに含 む	横方向のナデ	古墳時代, 底径の1/6が のこる, 底径(12.65) cm, 404と同一個体
90	403	甕	脚部	表土	外面：浅黄褐色(10YR8/3), 内面： にぶい橙色(7.5YR7/4), 器肉：明 褐色(7.5YR7/1)	微～細粒子(透明・白色 他)を含む	ユビオサエ後横方向のナ デ, 脚端部：ヨコナデ?	古墳時代?
90	404	甕	脚部	表土	外面：にぶい橙色(7.5YR6/4), 内 面：橙色(7.5YR6/6), 口縁端部： 橙色(5YR6/6), 器肉：橙色 (5YR7/6)	微～細粒子を含む	横方向のナデ	402と同一個体
90	405	甕	口縁部	表土	橙色(5YR7/6)・にぶい橙色 (7.5YR7/4), 器肉：浅黄褐色 (10YR8/4)	微～細粒子(赤色他)を 多く含む	ヨコナデ	弥生時代中期
90	406	甕	口縁部	表土	浅黄褐色(7.5YR8/6)	微～細粒子を若干, 砂粒 (透明・赤色・白色他) を多く含む	ヨコナデ?	弥生時代中期後半, 摩滅 著しい
91	407	?	口縁部		灰白色(2.5Y8/1)／釉調 白透明： 灰白色(N8/0), 貫入		施釉, 内面上部：片彫り	染付
91	408	碗	体部		灰白色(2.5Y8/1)／釉調 白透明： 灰白色(5GY8/1)		施釉	染付
91	409	甕	胴部		器肉：にぶい橙色(7.5YR6/4)・暗灰 色(N3/0), 内面：灰色(N4/0)・浅黄 褐色(10YR8/3)	微～細粒子を若干, 砂 粒・粗砂粒(透明他)を 含む	外面：斜め方向のハケ・一 部は後ナデ, 突帯部付近： ヨコナデ, 突帯にハケ工具 による刺突, 内面：ヨコハ ケ, 下方：ナデ	古墳時代辻堂原～笹貫式
91	410	埴	底部		外面：浅黄褐色(7.5YR8/4)・灰色 (N7/0), 内面：灰色(5Y5/1), 器 肉：灰白色(5Y7/1)	微粒子をわずかに含む	外・内面：ナデ	古墳時代辻堂原～笹貫式

# 付編Ⅱ 郡元団地0-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査報告

## 1 調査に至る経過

鹿児島大学では、教育学部に福利厚生施設の建設を計画している。埋蔵文化財調査室では福利厚生施設予定地の試掘調査として昭和60年に郡元団地0-3・4区の調査を行っている<sup>1)</sup>が、試掘調査の後、建設地が変更になった。

建設地は昭和59年度に発掘調査が行われた水町遺跡<sup>2)</sup>の南側、平成4年度に発掘調査を行った郡元団地P-4・5区（教育学部音楽美術科棟<sup>3)</sup>の西側に隣接しているため、両調査区の結果から、古墳時代を中心とする埋蔵文化財の存在の可能性が高い地点と推定でき、調査を行った。

## 2 調査の体制

調査は以下の体制で行った。

調査期間 平成4年10月19日～12月25日  
 調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室長  
 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室員 中村直子・大西智和・黒木綾子・前幸男  
 発掘調査作業員 安倍松伊都子・巽谷ミエ子・岩戸エミ子・岩戸タツ子・岩戸トシ子・岩戸ミツ子・請園アキエ・請園チリ・坂口ミエ子・寺光ミツ子・末吉ナミ・末吉ミヤ・菅村弘子・諏訪田フサエ・谷口テル・田野邊昭穂・中原チツ子・名越ヒデ子・西庄司・西村チエ子・野下チリ子・野下ヨシエ・福永シノブ・福永花江・牧島知子・増満ミエ子・松下ミチ・盛満アイ子・柳田キミ子・柳田二三子・吉永セツ子・脇ツルエ・脇俊子

## 3 調査の経過

今回調査を行った地点は、1. 調査に至る経過でも触れたとおり、水町遺跡と音楽美術科棟に隣接して。したがって、両地点で確認できた古墳時代の包含層の存在が予想された。

施設工事における掘削は、建築物の基礎部分に

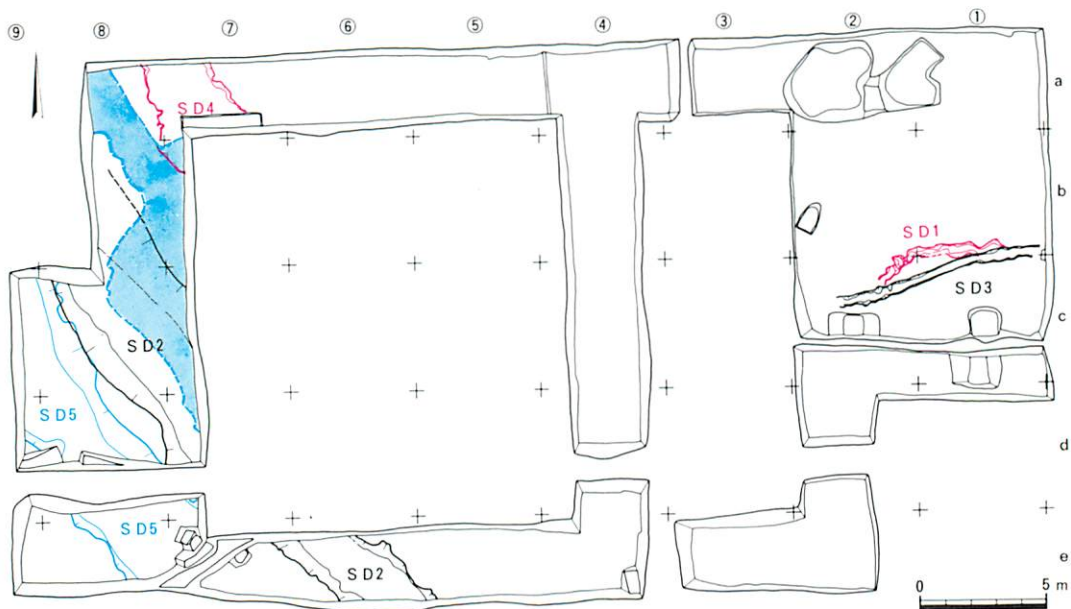


Fig.92 遺構平面図 S=1/300

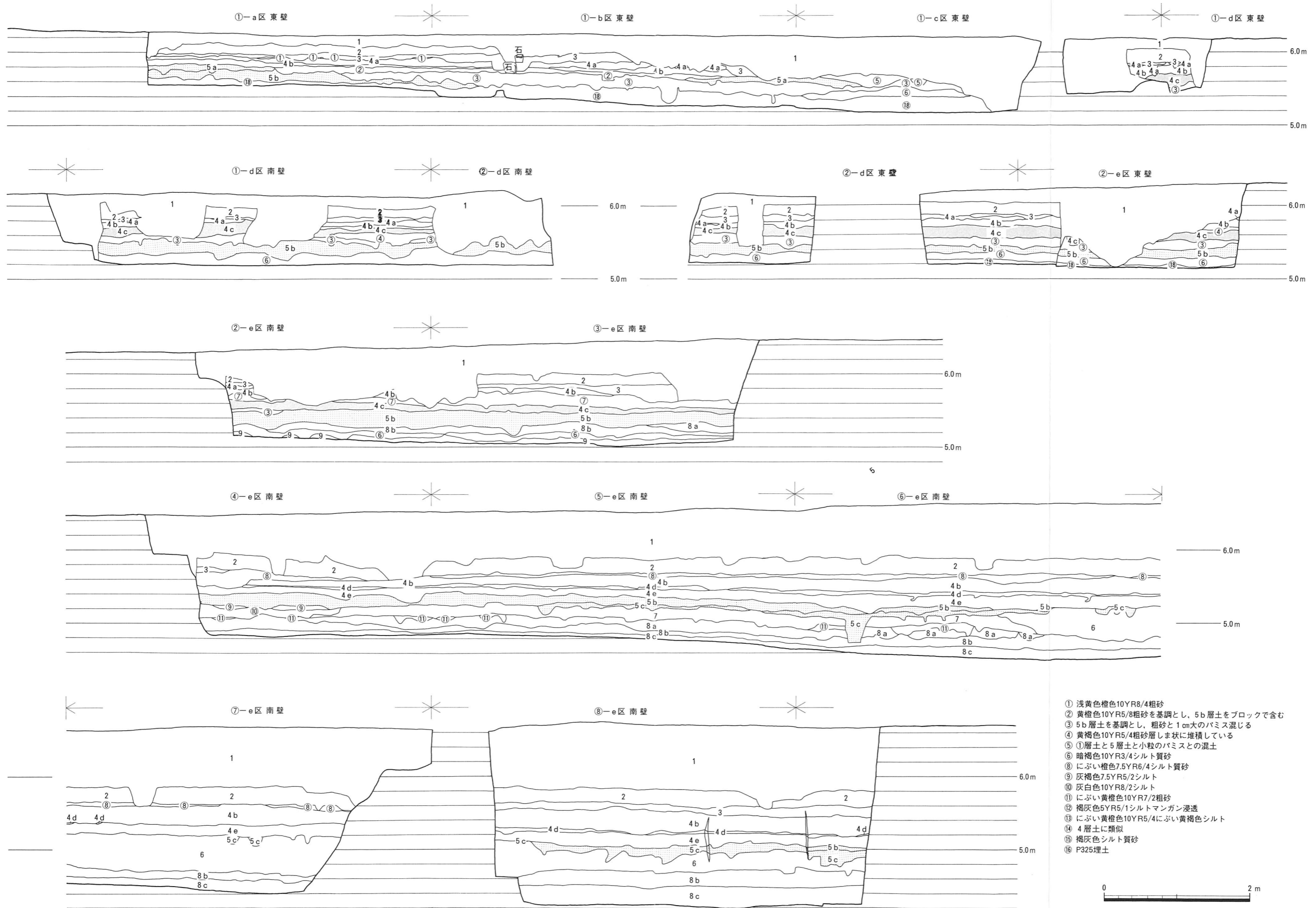


Fig.93 層位断面図(1) S=1/50

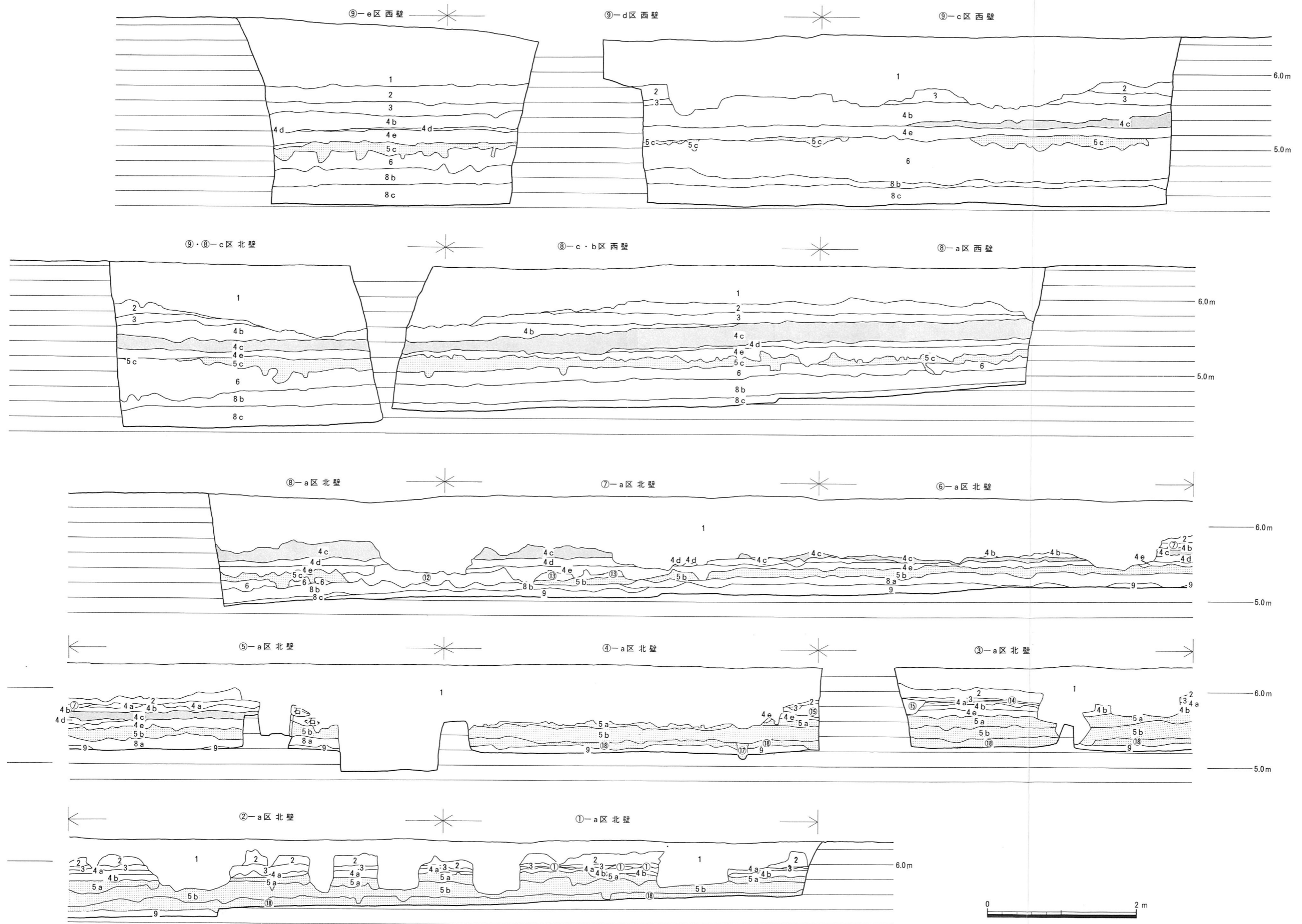


Fig.94 層位断面图 (2) S=1/50



のみとどまる工事であるため、その部分のみを調査の対象地域とした。調査区は5mごとのグリッドを設定し、東から西へ①～⑧、北から南へa～eと設定した。

最初に重機によって表土層の除去を行い、プライマリーな層である2層以下の掘削を行った。掘削は層ごとに遺構を確認しながら行ったが、5層を除去した時点で溝状遺構とピット群を検出した。そのため、これらの写真撮影と実測を行った。調査は8b層上面までを掘り下げ、それ以下は、層と遺物の包含の有無の確認のため、調査区西側にテストトレンチを設け、地山である9層までの掘り下げを行った。しかし、遺構・遺物は全く確認できなかつたため、調査を終了した。

## 4 層位について

地表下約2.4mの深さまでの基本層位は1層から9層までを確認した。遺物の出土層は、この基本層位の名称に従っているが、層位断面図作成の際、色調や質が若干異なるものもあつた。このため、層位断面図では、基本層位の名称に合わないものを①層、②層という記述で表し、それぞれの説明を行った。ただし、基本層位と同一層だと考えられるものは、それに含めて以下に説明を行う。

1層 表土

2層 褐灰色10YR5/1 シルト質砂 軽石(0.5cm大)を含む

3層 灰色5Y6/1 シルト質砂

⑧層 7.5YR6/4 シルト質砂

4a層 黄橙色10YR7/8 シルト質砂

4b層 黄灰色2.5YR5/1 シルト質砂 軽石(1～0.5cm大)を含む

5a層 褐灰色 砂質シルト

5b層 褐灰色10YR4/1 砂質シルト～黒褐色7.5YR3/2 シルト質砂

⑥層 暗褐色 10YR3/4 シルト質砂

5c層 褐灰色5YR4/1砂層 小粒の軽石を含む

⑩層 10YR5/2 東は砂層だが、西に傾斜するにしたがって粘質が強い 5層の最下層

6層 黄橙色10YR7/8～明黄橙色10YR6/8 粗砂層

7層 橙色2.5YR7/6 粗砂層 かたく締まっている 軽石を含む

6・7層は粗砂層で、整合的に上下に堆積しているのではなく、大きくは同質の層であると考えられる。

8a層 灰黄褐色10YR5/2 シルト 黄橙色10YR7/8まじり

8b層 黒褐色7.5YR3/2 シルト

8c層 黒色10YR1.7/1 シルト

9層 におい黄色2.5Y6/3～10YR6/1 粗砂層  
地山と考えられる9層の砂層は西に傾斜している。調査区東側が微高地になっており、西に向かって5層と9層との間に6～8層が堆積している状態である。

遺構は5b層上面、5層直下、8b層上面から検出した。また、2層から8b層までが遺物包含層である。古墳時代の土器が大半を占めるが、4層から出土する遺物は、陶磁器、青磁や白磁、土師器なども多く、5層は古墳時代の土器が主体を占める。

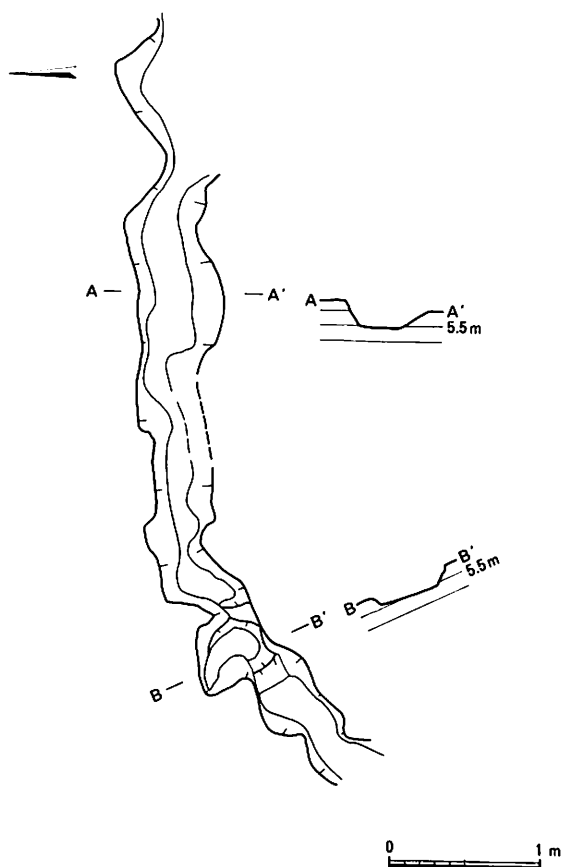


Fig.95 5b層上面検出の遺構 SD1 S=1/50

## 5 遺構

遺構は、溝状遺構が5条、ピット373基を検出した。遺構は、5b層上面、5層直下、8b層上面の3面で検出している。以下、検出面ごとに説明を行う。

### (1) 5b層上面検出遺構

溝状遺構が2条検出した。これらは幅、方向、埋土とも異なるものである。

#### SD1 (Fig.95)

SD1は調査区東側に位置し、ほぼ東西方向に走っているが、西端が南側に少し蛇行している。幅約50cm、深さは10~15cmを測る。上部は後世に削平されたらしく、東西端は次第に浅くなって検出不可能な状態である。埋土は、黄褐色の粗砂層で、検出ライン周辺は検出面の5b層であるが、若干埋土が混ざっている。

埋土中から古墳時代の土器と考えられる破片が4点出土している。いずれも小片で図示できないが、1点は甕の突帯付近だと考えられるものである。

#### SD4 (Fig.96)

調査区北西部に位置し、北西-南東方向に走っている。幅は約2.7m、深さ10cmを測り、浅いものである。埋土は褐灰色5YR5/1のシルトで、粘質である。色調は5b・5c層に類似している。南側延長線上ではSD4を検出できなかった。

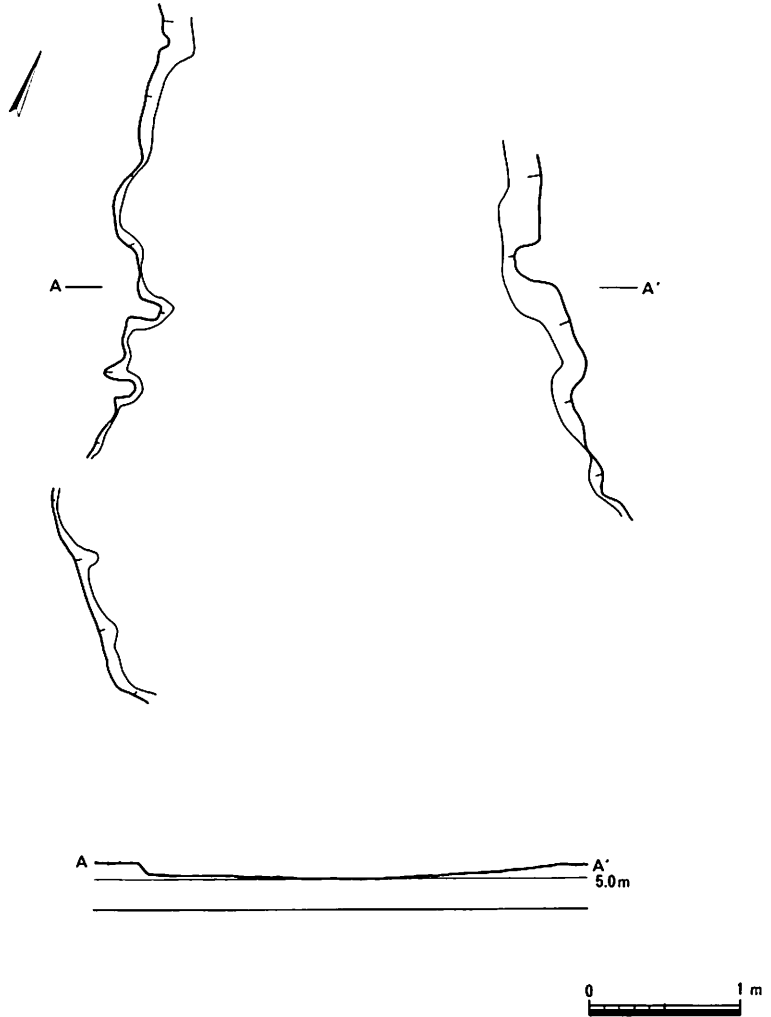


Fig.96 5b層上面検出の遺構 SD4 S=1/50

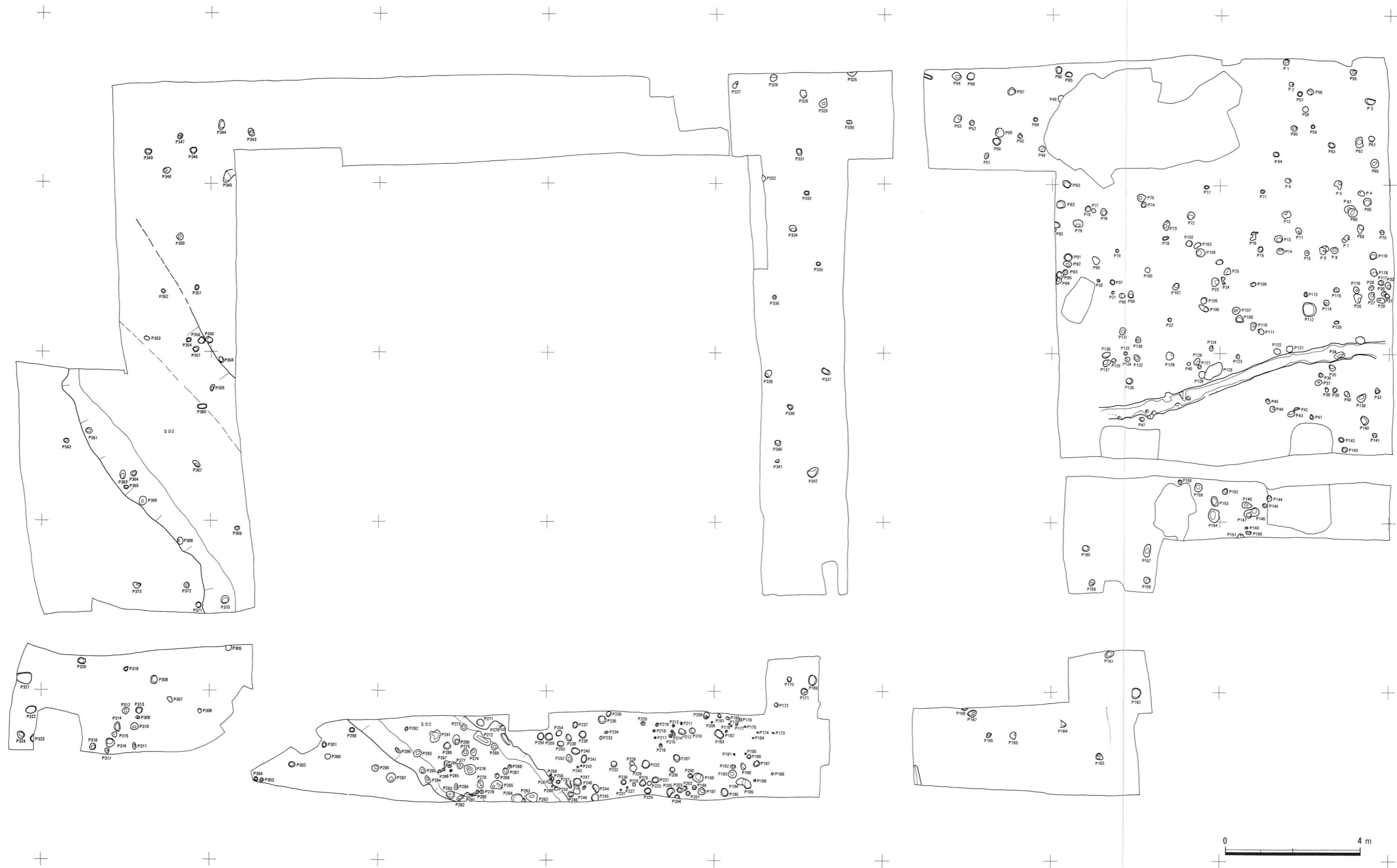


Fig.97 5層直下検出の遺構平面図 S=1/120

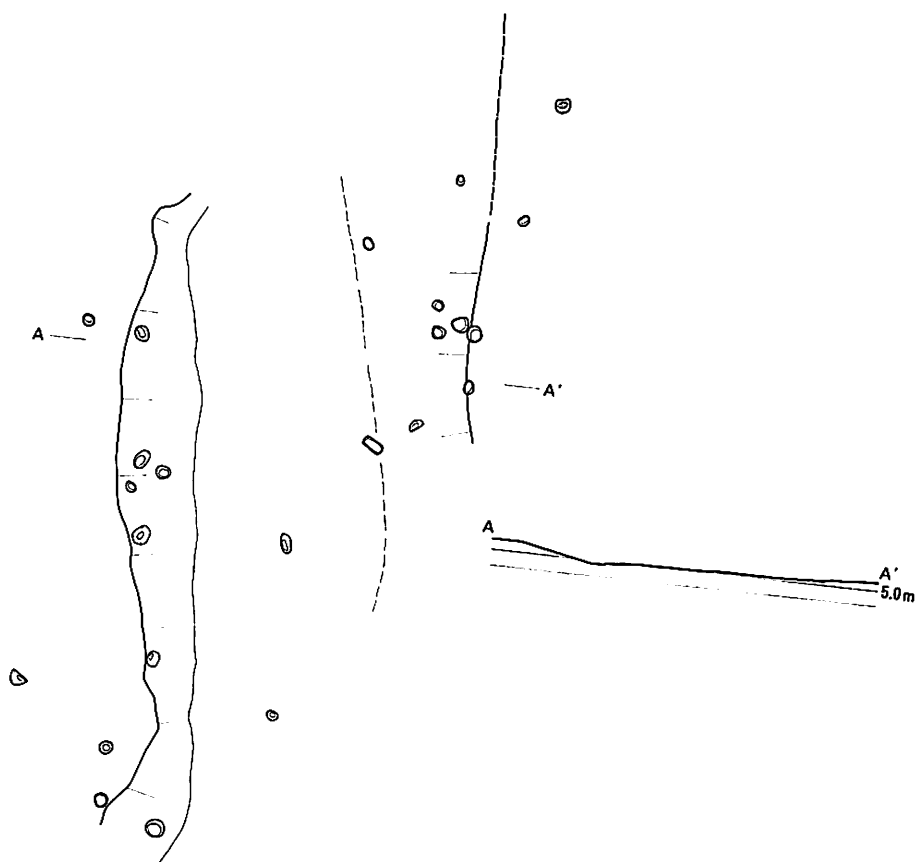


Fig.98 5層直下検出の遺構 SD2 S=1/100

(2) 5層直下の遺構 (Fig.97)

層位でも触れたが、地山である9層は西に傾斜しており、5層と9層の間の層は、西に傾斜しながら堆積しているため、5層を除去した面では、複数の異なる層が露出しているという状況である。また、露出した面に、5層土を埋土とした溝やピットを検出したため、これらの遺構は検出面の層は違って、ほぼ同じ検出面の遺構として捉えた。この面からは溝状遺構が2条、ピットを373基検出した。

SD 2 (Fig.98)

調査区西側に位置し、北西-南東方向に走っている。方向は上層で検出されたSD 4の西側に平行に位置している。幅は南西部が約2.4m、北東部が約4.5m、深さは約10cmを測り、かなり浅いものである。北東部は特に、緩やかにくぼんでいて、北側の検出ラインは不明瞭である。埋土は、5c層土である。SD 2内部に多数のピットが認められたが、規則性はなく、関連性は認められない。

SD 3 (Fig.99)

調査区東側に位置し東西方向に走っている。幅は約40cm、深さ約13cmを測り、断面は台形を呈する。上層で検出したSD1の南に沿うように位置し、やはり東西は次第に浅くなって、とぎれている。埋土は5層土である。SD1に比べ、緩やかに南西方向に蛇行するが、比較的直線的である。

ピット

373基のピットを検出した。大きさ、埋土等は一括してTab. 8に示した。掘立柱建物等の規則性が認められるものはなかった。ピットの量は、調査区の南側と東側に多く検出した。

(3) 8層上面検出遺構

8層上面ではSD 5と調査区西側に足跡状の遺構を検出した。どちらも、8b層上面検出であるが、8a・8b層は水平層位による整合的な上下関係を示すものではないため、8層上面検出として取り扱う。

SD 5 (Fig.100)

調査区南西隅に北西-南西方向に位置する。SD

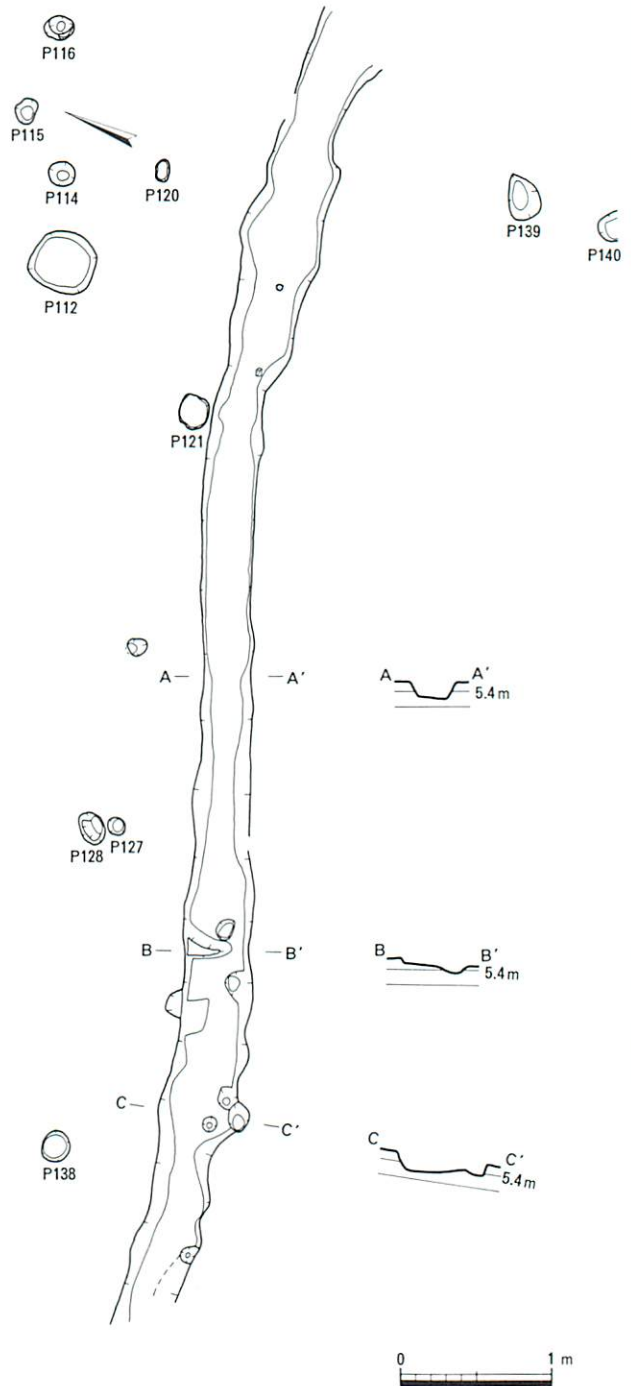


Fig.99 5層直下検出の遺構 SD3 S=1/100

2の西側に平行している。幅約2m、深さ約10cmを測り、幅が広く浅い溝である。埋土は7層土の粗砂層である。

足跡状遺構

調査区西側に位置する。シルトである8b層に食い込むように7層土の砂が落ち込んでおり、その範囲がFig.92の網掛けで示した部分である。7層土が落ち込んでいる平面形が足跡の形であるこ

Tab.8 ピット一覧表

ピット	埋土	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	ピット	埋土	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	ピット	埋土	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
1	5b	21	19	7.1	51	5b	19	14	12	101	5b	21.5	16	18.9
2	5b	15	14	7.6	52	5b	15.5	15	14.4	102	5b	20	20	
3	5b	31	18	12.1	53	5b	26	19	18.7	103	5b	25	17.5	
4	5b	20	14	7.7	54	5b	23	21.5	25.6	104	5b	27.5	24	34.5
5	5b	26.5	24	8.6	55	5b	21	17	15.5	105	5b	18	22	21.5
6	5b	17	13.5	15.1	56	5b	21	20	19.7	106	5b	33.5	16	30.1
7	5b	24	13	22.8	57	5b	17	15		107	5b	23	20.5	18.6
8	5b	24	20	16.5	58	5b	16			108	5b	24.5	22	18.6
9	5b	29	22	13.9	59	5b	13	13	11.8	109	5b	17	12	8
10	5b	16	15	20.3	60	5b	21	18	23.4	110	5b	25	17	24.5
11	5b	21	15.5	29.2	61	5b	18	18	18.7	111	5b	20.5	15	35.8
12	5b	28	19	23.2	62	5b	31	22	37.8	112	5b	42	40	6.3
13	5b	25	22	32.2	63	5b	18	17.5	9.7	113	5b	15.5	11	12.5
14	5b	22	18	5.7	64	5b	16.5	17	17.8	114	5b	18	17	18.5
15	5b	18	14.5	14.5	65	5b	25	25	21.1	115	5b	18	14	16.4
16	5b	27	15	7.3	66	5b	24	24	24.3	116	5b	20	16	18.6
17	5b	15	11	7.5	67	5b	35	25		117	5b	17	16	9.9
18	5b	20	11	12.1	68	5b	29	25		118	5b	23	20	12.7
19	5b	11	11	5.1	69	5b	28	22	11.8	119	5b	24	20	11
20	5b	10	9	14.9	70	5b	15	13	21	120	5b	14.5	9.5	2.7
21	5b	9	9	7.8	71	5b	13.2	12	13.2	121	5b	23	22	11
22	5b	12	12	4.5	72	5b	24	23	29.7	122	5b	20	18	
23	5b	28	23	28.5	73	5b	17.5	17	17.7	123	5b	16	16	
24	5b	22	13	9	74	5b	25	24	39.5	124	5b	16	11	14.5
25	5b	24	18	15.5	75	5b	21.5	18	6.8	125	5b	66	32	0.5
26	5b	28	24	25.2	76	5b	14.5	13	10.9	126	5b	21	21	0.6
27	5b	23	17	22.7	77	5b	18	18	12.5	127	5b	12	11.5	8.8
28	5b	17	15	11.1	78	5b	27	21.5	21.3	128	5b	22	16	7.7
29	5b	24	14	26.8	79	5b	10+ $\alpha$	6+ $\alpha$	5.7	129	5b	19+ $\alpha$	24	
30	5b	16	12+ $\alpha$	8	80	5b	17+ $\alpha$	18	13.3	130	5b	20	15	
31	5b	16	12	2.6	81	5b	24.5	26	18.2	131	5b	20	16	
32	5b	23	15	13	82	5b	26	24.5	18.2	132	5b	23	15.5	7.5
33	5b	19	16	10.6	83	5b	24	19.5	21.2	133	5b	13	14	6.5
34	5b	32	17	14.4	84	5b	14	12.5	5.5	134	5b	17	14	9.2
35	5b	22	17	15	85	5b	20	16	15.4	135	5b	15	13.5	9.2
36	5b	15	15	9.6	86	5b	22	18	9.7	136	5b	26	18	8.9
37	5b	21	15.5	14.3	87	5b	24	23	18.8	137	5b	23	18	19.5
38	5b	15	12	8.9	88	5b	27	27	19.4	138	5b	21	19	9.9
39	5b	14	14	16	89	5b	25.5	22	13	139	5b	30.5	21	22.6
40	5b	19	14	10.4	90	5b	21.5	21	10.5	140	5b	28	19.5	8.2
41	5b	16	12	5.5	91	5b	23	21	31.8	141	5b	14	12	14.5
42	5b	20+ $\alpha$	8	3.6	92	5b	22	16	2.9	142	5b	17	15	9.5
43	5b	23	16	16	93	5b	16	13+ $\alpha$	4.2	143	5b	17	16	22.2
44	5b	18	15	18.3	94	5b	18+ $\alpha$	16	8.8	144	5b	17	13	29
45	5b	17	12	9.2	95	5b	20.5	18	34.6	145	5b	13	12	22.4
46	5b	13	10	7.2	96	5b	30	22.5		146	5b	26	25	10.2
47	5b	16	14	3.7	97	5b	16	14.5	5	147	5b	24	21+ $\alpha$	22.1
48	5b	21	18	22.7	98	5b	19	16	23.2	148	5b	30	18	5.1
49	5b	18	13	20.2	99	5b	22	18	20.6	149	5b	11	7	8.5
50	5b	16	15	12.6	100	5b	16	14.5	23.2	150	5b	17	10	4.3

付編Ⅱ 郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査報告

ビット	埋土	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	ビット	埋土	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	ビット	埋土	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
151	5b	12+ $\alpha$	22		201	5c	13.5	13.5	3.8	251	5c	22.5	22.5	
152	5b	20	15	22.8	202	5c	16	14.5	7.1	252	5c	15	15	
153	5b	31	19	4.2	203	5c	18	15	5.6	253	5c	21	16	7.6
154	5b	42	32	6.5	204	5c	15	9+ $\alpha$	4.8	254	5c	19	15	4.5
155	5b	27	23	10	205	5c	27.5	17	5.2	255	5c	23	23	6
156	5b	13	9	6.7	206	5c	16	15	7.6	256	5c	22	19	4.9
157	5b	40	21	7.3	207	5c	23	19	3.3	257	5c	13.5	12	6.8
158	5b	20.5	20.5	11.7	208	5c	7	5	3.4	258	5c	13	9+ $\alpha$	9.8
159	5b	21	5	5.4	209	5c	21	17	3.2	259	5c	8	6	3.7
160	5b	23	18	8.1	210	5c	19	18.5	5	260	5c	6	6	2.4
161	5b	28	18	17.3	211	5c	9	7	5	261	5c	13.5	13	6.8
162	5b	32	26	11.9	212	5c	23	17	7.8	262	5c	35	27	9.1
163	5b	25	20	26.8	213	5c	8.5	8	3.3	263	5c	10+ $\alpha$	10+ $\alpha$	5.7
164	5b	19+ $\alpha$	19	18.1	214	5c	18	8	2.1	264	5c	32	23+ $\alpha$	27.6
165	5b	23	19	6.1	215	5c	11	9.5	4.5	265	5c	36	31	3.9
166	5b	27	13	6.5	216	5c	18	10	2.9	266	5c	14	13	5.8
167	5b	23	21	7	217	5c	7	6	2.6	267	5c	20	17	11.8
168	5b	23	7+ $\alpha$	7.7	218	5c	8	7	2.7	268	5c	14	10	3.6
169	5b	29	27.5	8.2	219	5c	12	8	2.9	269	5c	22	20	2.6
170	5b	15	14	5.8	220	5c	12	11	4.6	270	5c	19	15	4.9
171	5b	21	19	9.9	221	5c	21.5	18	6.1	271	5c	23.5	20	20.4
172	5b	12	12	3.5	222	5c	25	23	9.1	272	5c	56	28	2.2
173	5b	7	4.5	4	223	5c	14.5	13	3.2	273	5c	19	19	
174	5b	6	4	1	224	5c	21	17.5	4	274	5c	23	19	2.3
175	5b	6.5	5	2.5	225	5c	21	18	5.7	275	5c	22	20	4.2
176	5b	8	9	4	226	5c	10	9	3.7	276	5c	38	34	14.1
177	5b	6.5	5	8	227	5c	7	7	2.1	277	5c	19	12	9.8
178	5b	6	6	9	228	5c	14	14		278	5c	25	18	3.1
179	5c	6	6	4	229	5c	15	15		279	5c	13	11	4.5
180	5c	12.5	8.5	2.3	230	5c	16	16	3.1	280	5c	11	10	2.1
181	5c	13	9.5	2.2	231	5c	6	5.5	4.1	281	5c	36	15	4.4
182	5c	10	6.5	3.5	232	5c	17.5	17.5	6.7	282	5c	22	11	6
183	5c	29.3	20.5	10.2	233	5c	7.5	7.5	1.8	283	5c	25	21	10.5
184	5c	5.5	5.5	5	234	5c	12	8	3.9	284	5c	18.5	11	8.9
185	5c	5	5	3	235	5c	23	23	8.1	285	5c	10	7	4.4
186	5c	12	12	1.9	236	5c	17	13	11.6	286	5c	14	10	5.7
187	5c	21	16	3.2	237	5c	19	15	4.5	287	5c	23	13	1.9
188	5c	7	7	2.8	238	5c	21	20	6	288	5c	25	9	6.6
189	5c	8	7	6.3	239	5c	22	16	5.9	289	5c	21	20	10.8
190	5c	20	15	6.1	240	5c	22	18	5.1	290	5c	30	20	18.5
191	5c	7	5	6	241	5c	24	17	5.4	291	5c	40	31	6.8
192	5c	16	13	4.3	242	5c	5	5	3	292	5c	14	8.5	3.7
193	5c	25	25	5.7	243	5c	6	6	3	293	5c	25	20	4.8
194	5c	23	20+ $\alpha$	2.2	244	5c	27	16	4.4	294	5c	24	13	5.2
195	5c	31	20	5.3	245	5c	22	21+ $\alpha$	6.6	295	5c	20	17	4.1
196	5c	26	22	4.5	246	5c	14	8	4.3	296	5c	23	10	3
197	5c	21	21	8.7	247	5c	27	21	20.5	297	5c	28	28	7.8
198	5c	31	26	12.2	248	5c	26	22	4.6	298	5c	22	20	4.9
199	5c	13	13	8.3	249	5c	18	16	5.5	299	5c	17	14	4.8
200	5c	15	13.5	7.2	250	5c	25	11	11.2	300	5c	12	12	9

ビット	埋土	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	ビット	埋土	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	ビット	埋土	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
251	5c	22.5	22.5		301	5c	18	14	16.2	351	B	16	12	8.9
252	5c	15	15		302	5c	21	17	8.2	352	B	13	11	9.8
253	5c	21	16	7.6	303	5c	12	10	7.2	353	B	16	13	
254	5c	19	15	4.5	304	5c	14	12	7.6	354	B	16	14	9.5
255	5c	23	23	6	305	5c	32	30+ $\alpha$	8.5	355	B	22	21	6.4
256	5c	22	19	4.9	306	5c	25	28	6.5	356	B	22	18	15.5
257	5c	13.5	12	6.8	307	5c	41	26	5.6	357	B	18	17	8
258	5c	13	9+ $\alpha$	9.8	308	5c	39	47	12.4	358	B	18	13	6.2
259	5c	8	6	3.7	309	5c	22	18	8.6	359	B	20	10.5	9.7
260	5c	6	6	2.4	310	5c	12	8	7.4	360	B	28	14	4.1
261	5c	13.5	13	6.8	311	5c	25	22	24.1	361	B	21	18	18.2
262	5c	35	27	9.1	312	5c	21	12	12.9	362	B	17	15	9.4
263	5c	10+ $\alpha$	10+ $\alpha$	5.7	313	5c	22	21	19.8	363	B	27	17	5.8
264	5c	32	23+ $\alpha$	27.6	314	5c	30	19	14.3	364	B	19	16	6.3
265	5c	36	31	3.9	315	5c	17	16	15	365	5b	16	12	8.9
266	5c	14	13	5.8	316	5c	27	27	13.1	366	5b	22.7	21	9.6
267	5c	20	17	11.8	317	5c	17.5	13	8.4	367	5b	26	14	12.6
268	5c	14	10	3.6	318	5c	21	19	14.1	368	5b	21	16	
269	5c	22	20	2.6	319	5c	16	12	3.3	369	5b	17	13	
270	5c	19	15	4.9	320	5c	23	18	13.2	370	5b	24	23	18.9
271	5c	23.5	20	20.4	321	5c	42+ $\alpha$	34	11.8	371	5b	18	17	10.6
272	5c	56	28	2.2	322	5c	34	21	6.7	372	5b	17	17	8.7
273	5c	19	19		323	5c	21+ $\alpha$	14+ $\alpha$	9.6	373	5b	23	21	13.9
274	5c	23	19	2.3	324	5c	24	22						
275	5c	22	20	4.2	325	5b	28.5	14.5+ $\alpha$	27.5					
276	5c	38	34	14.1	326	C	21	20	13.1					
277	5c	19	12	9.8	327	C	24	11	11.1					
278	5c	25	18	3.1	328	C	24	19	19.8					
279	5c	13	11	4.5	329	C	30	25	18.8					
280	5c	11	10	2.1	330	C	18.5	10	11.4					
281	5c	36	15	4.4	331	C	21.5	17	6.7					
282	5c	22	11	6	332	C	17+ $\alpha$	12+ $\alpha$						
283	5c	25	21	10.5	333	C	16	14	12.8					
284	5c	18.5	11	8.9	334	C	23	20	21.2					
285	5c	10	7	4.4	335	C	12	12	10.5					
286	5c	14	10	5.7	336	C	12	11	5.3					
287	5c	23	13	1.9	337	5b	27	15.5	6					
288	5c	25	9	6.6	338	5b	23	18	4.9					
289	5c	21	20	10.8	339	5b	18	4	5					
290	5c	30	20	18.5	340	5b	17	17	7.3					
291	5c	40	31	6.8	341	5b	14	9	3.7					
292	5c	14	8.5	3.7	342	5b	36	24	4.8					
293	5c	25	20	4.8	343	A	24	17	37.7					
294	5c	24	13	5.2	344	A	31	19	37.4					
295	5c	20	17	4.1	345	A	31	27	39.9					
296	5c	23	10	3	346	B	22	21	5.4					
297	5c	28	28	7.8	347	A	18	4	18					
298	5c	22	20	4.9	348	A	25	19	29.3					
299	5c	17	14	4.8	349	A	21	19	9					
300	5c	12	12	9	350	A	20	17.5	15.3					

凡例

埋土5b：5b層土

5c：5c層土

A：灰色、砂まじりシルト

B：5b層土で、パミス多いもの

C：Ⓢ層土

+ $\alpha$ ：全径が不明なもの



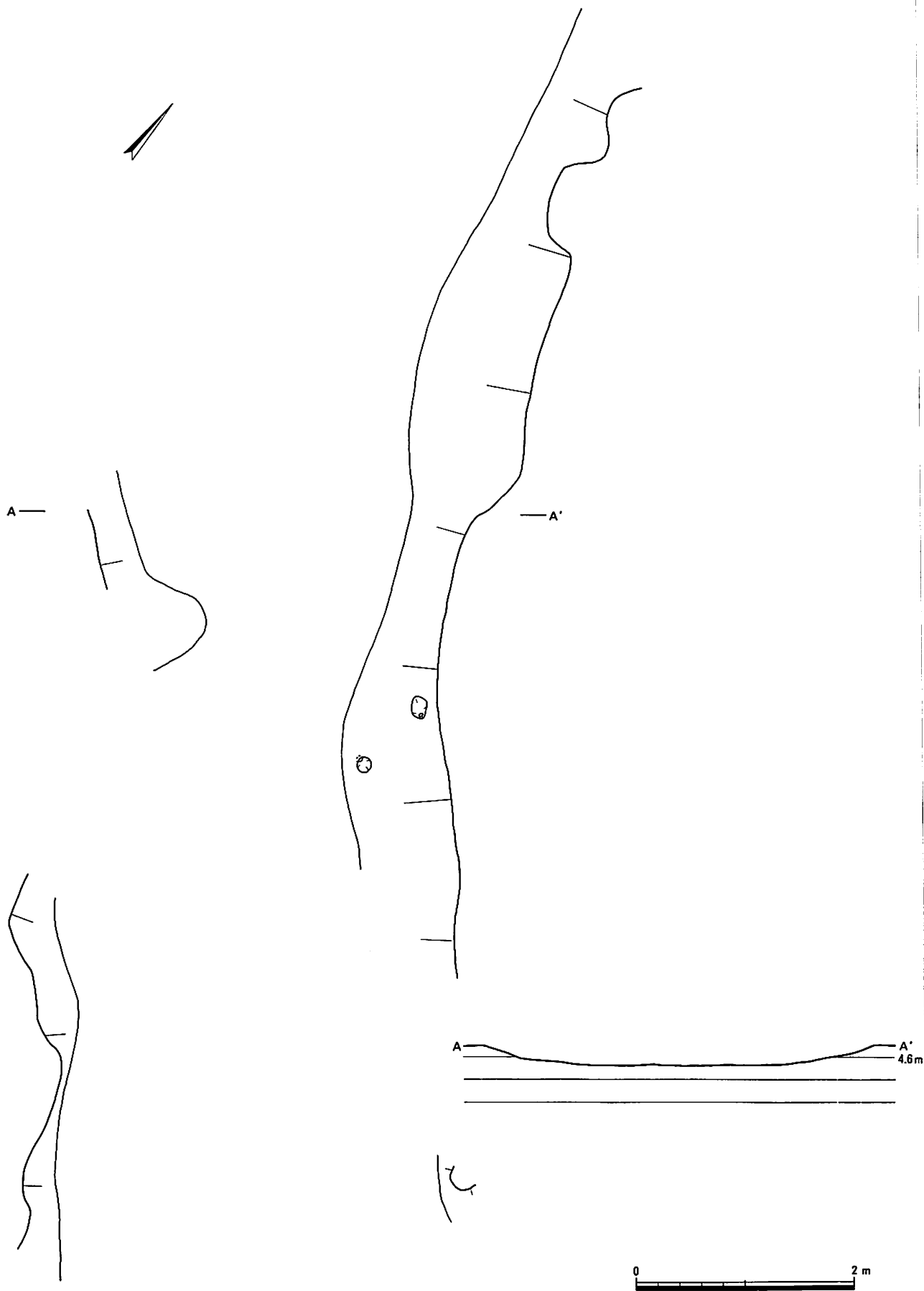


Fig.100 8b層上面検出の遺構 SD5 S=1/50

と、また、深さも数cmから10cm程度であることから、足跡状遺構とした。範囲はSD5に平行し、途中から直角に曲がって、北側部分は幅2mほどの帯状を呈しながら、やはりSD5に平行している。

## 6 遺物

遺構から出土した遺物がSD1以外なく、大半が包含層出土のものであった。遺物の出土状況はTab.9の通りである。このうち、図示できるものを層ごとに説明する。

### (1) 2層出土の遺物 (Fig.101)

1から4は陶器である。1は碗の底部である。外面には磁胎を彫り込んで施文している。2は鉢の胴部で、低い突帯を有し、その下に張り付け文様を施しているようである。3は皿の底部である。緩やかな上げ底を呈する。4は陶器の底部である。底面からみると高台の屈曲から、六角形を呈するようである。外面に鉄絵を施している。

5は染め付けの碗の口縁部である。磁胎は灰色で、内外面とも大きな貫入が認められる。

6・7は白磁碗の口縁部である。6は玉縁状を呈するものである。7は端部が外湾している。

8・9は青磁である。8は碗の口縁部である。端部は丸く、外面の口縁部直下に退化した蓮弁を施している。9は碗の体部の下半部分である。外面に縦方向に1条の施文が認められる。

10は須恵器の杯の底部である。底部内面に沈線が1条認められる。

11~16は土師器の杯か皿の底部である。11は少し上げ底状を呈し、底面は回転ヘラ切りである。12~15は平底で、底面からの体部への立ち上がりがまっすぐなものである。16は底面は剥落しているが、平底のようである。立ち上がり部は少し外へ突き出している。

17は古墳時代の甕形土器の口縁部である。少し反り気味に直立する形態を呈する。

18は土錘である。胴部が少し膨らむ筒状を呈し、端部は両方とも欠損している。

2層出土の遺物は、土師器と古墳時代の土器、土錘が少し磨滅していることが共通の特徴のようである。

### (2) 4層出土の遺物 (Fig.102~109)

4層は4a層から4e層まで細分できるが、遺

Tab.9 遺物出土状況

層位	陶磁器	瓦器	青・白磁	染付	須恵器	土師器	古墳時代の土器	弥生	石器	フイゴ	寛永通宝	銃弾	土錘
1	11	0	1	0	2	2	32	0	0	0	0	0	0
2	25	0	4	1	5	68	112	0	1	0	0	0	1
3	0	0	0	0	0	4	9	0	0	0	0	0	0
4 a	0	0	0	0	0	2	21	0	0	1	0	0	0
4 b	1	0	0	0	5	3	80	0	0	0	0	0	0
4 c	35	2	26	6	36	308	636	12	2	3	1	1	3
4 d	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0
4 e	1	0	0	0	5	4	76	0	0	0	0	0	1
4	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
5 a	4	1	0	0	12	12	126	1	0	0	0	0	0
5 b	4	0	0	0	21	21	419	14	0	0	0	0	0
5 c	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	8	2	78	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0

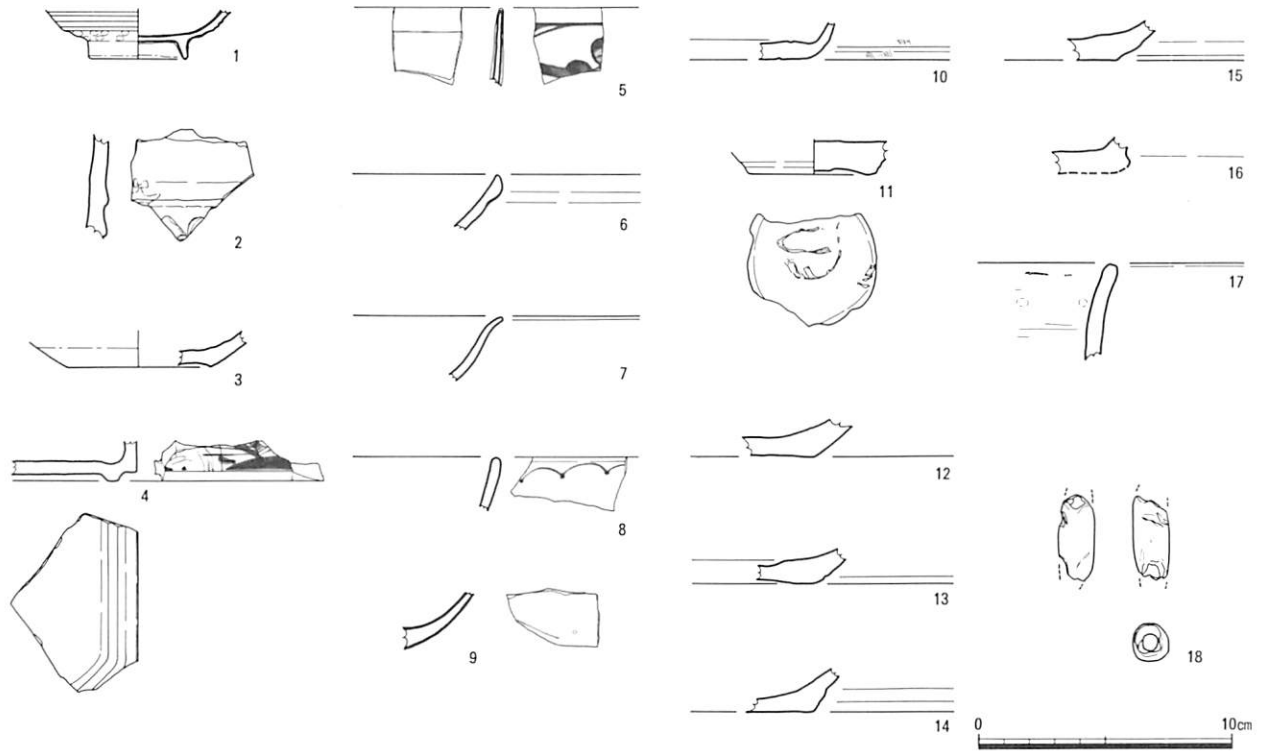


Fig.101 2層出土の遺物 S=1/3

物は4c層から出土した量が他の層に比べて圧倒的に多かった。

4a層 (Fig.102)

19は土師器の杯の底部である。高台は低く、外側へ踏ん張るような形態を呈する。断面に高台と杯部の接合痕が認められる。

20はフィゴの羽口のようなものである。筒状を呈すると考えられ、外面端部はガラス質の付着物が認められる。

4b層 (Fig.103)

21は須恵器の口縁部である。器種は短頸壺と考えられる。外湾する器形を呈し、端部は丸く仕上

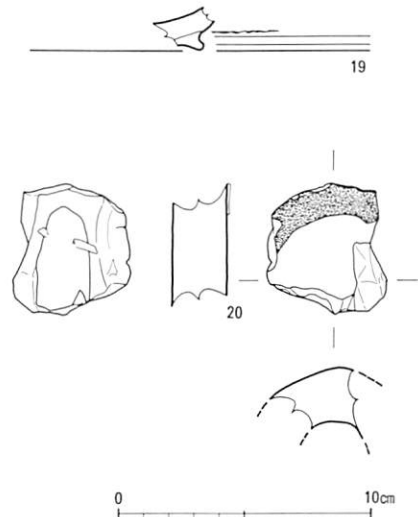


Fig.102 4a層出土の遺物 S=1/3

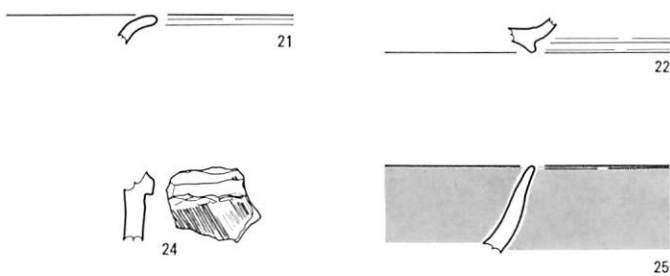


Fig.103 4b層出土の遺物 S=1/3

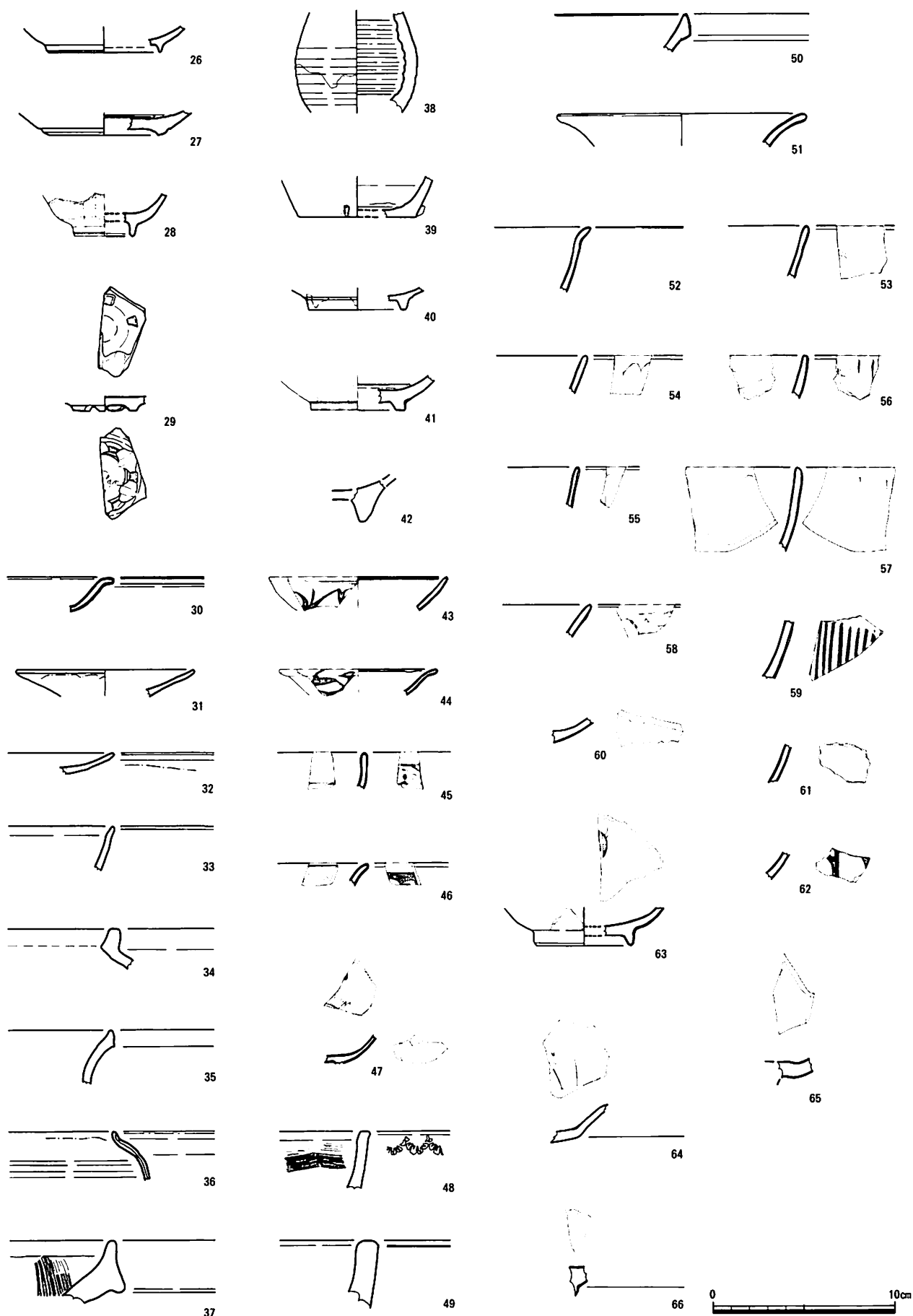


Fig.104 4c層出土の遺物(1) S=1/3

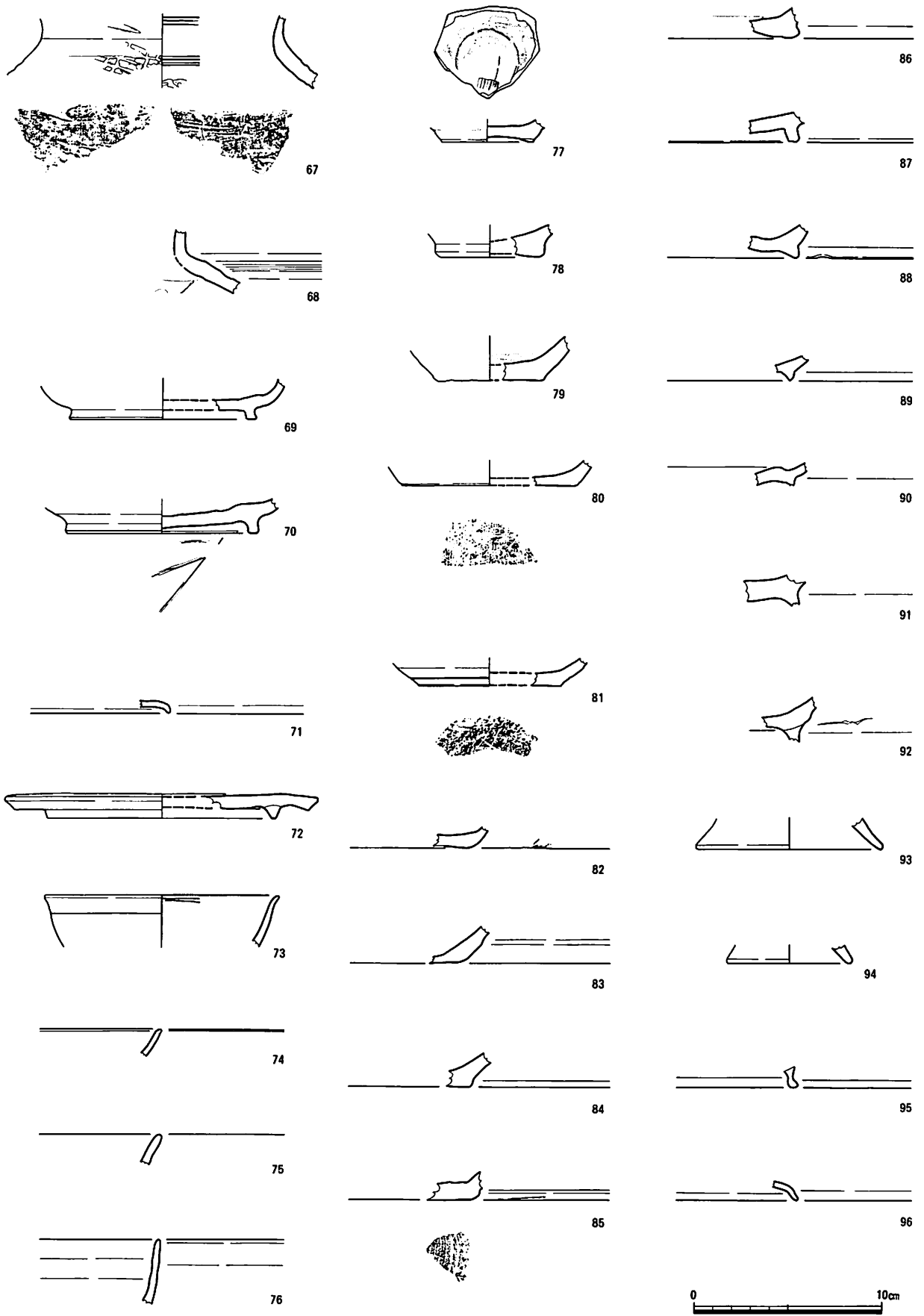


Fig.105 4c層出土の遺物（2） S=1/3

げている。

22は土師器の杯の底部である。高台は低く、少し外へ踏ん張るような形態を呈する。

23～25は古墳時代の土器である。23は、甕形土器の底部である。脚は緩やかに外湾する。脚台内面の上部にはハケ調整が明瞭に残っている。下部はその後、ナデ消しているようである。断面には脚と胴部の接合痕が認められる。24は甕か壺の突帯である。突帯は断面台形状を呈するが、下端部は突帯下に施したハケ工具の打ち込んだ跡が認められる。25は埴の口縁部である。端部は器壁が細くなりながら、少し外湾する形態を呈する。

#### 4c層 (Fig.104～107)

26・27・29は磁器の底部である。26は低く、断面三角形を呈する高台である。27は見込み部分を削りだし、高台を作り出している。内面には回転ケズリの跡が低い段状をなしているのが認められる。29は高台を削り取って脚状を呈する。重ね焼きをしたらしく、内面見込み部分も高台接地部分と同じ形の釉のはぎ取られた跡が認められる。

30～33・36～42は陶器である。30は鉢の口縁部で、端部は外湾している。胎土が磁器のようでもあるが、不透明な灰色を呈しているため、陶器として扱った。31・32は皿の口縁部である。32は釉がかなり風化して白濁している。33は鉢の口縁部である。端部は少し外湾し、鉛色の透明釉を施している。36は短頸壺の口縁部である。端部は短く直立し、肩部はかなり張る。端部は無釉である。37は備前焼の播り鉢の口縁部である。断面が三角形様を呈し、内面には6条の沈線を施している。38は鉢の胴部であると考えられる。内面には回転ケズリによる凹凸が著しい。外面は釉をたらして文様の効果を出している。39は鉢の底部である。平底で、底面からまっすぐ外開きに立ち上がる形態を呈する。外面に豆状の粘土が張り付いている。40・41は碗の底部である。40は断面台形を呈する高台を持ち、外面は高台まで釉が垂れている。41は外面に縦方向の2本の沈線を胎土に彫り込み、施釉して模様を成している。内面見込みに蛇の目が認められる。42は鉢の脚である。内面は施釉されていたようであるが、風化のため白濁している。

28・43～47は染め付けである。28は碗の底部で、外面には2条を1単位とした格子状の模様が施されている。43・44は鉢の口縁部のようである。

43は内碗する口縁部で、端部は丸い。44は端部が外湾する形態を呈する。45・46は小片のため器種は不明だが、口縁部のようである。47は碗の見込み付近である。43から46は表面が黄色を帯び、呉須の色合いも薄い。

48は瓦器で火鉢か風炉のようである。外面の口縁部直下にはスタンプによる菊花文が施されている。49は素焼きのもので器種は不明である。少し内碗気味に直立する口縁部で、端部上面は丸い。

50は白磁碗の口縁部である。玉縁状を呈するものである。

51から65は青磁である。51は外湾する口縁部で、端部は丸く、釉が厚い。52は端部が外反する口縁部で、碗である。53から55・58は碗の口縁部である。外面に連弁の文様を施しているが、54・55は退化した文様で、沈線のみである。56・57は外面の口縁部直下に雷文を施している。56は内面に横方向の沈線が一条認められる。57の文様は内外面とも薄く、判別しにくいものであるが、内面にも文様が認められる。59から62は碗の体部である。59の外面には、10条の縦方向の文様が施されている。61も外面に細い縦方向の文様を施されている。60と62は連弁の文様を磁胎に彫り込んで造り出している。63は碗の底部である。内面見込みと外面に文様を施している。64～66は底部付近で、内面見込みに文様を施している。

34・35・67～71は須恵器である。34は短頸壺の口縁部である。35は甕の口縁部である。口唇部は断面三角形を呈し、外湾する器形である。67・68は壺の頸部である。69・70は杯の底部である。69は低く少し踏ん張るような形態を呈する高台である。70は外面見込みに、ヘラ状の工具で線刻されている。71は杯蓋の端部である。端部が下方へ屈曲し、細く収まる形態を呈する。

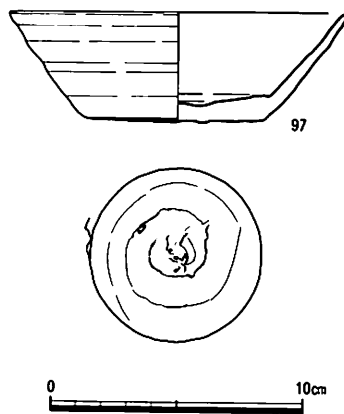


Fig.106 4c層出土の遺物 (3) S=1/3

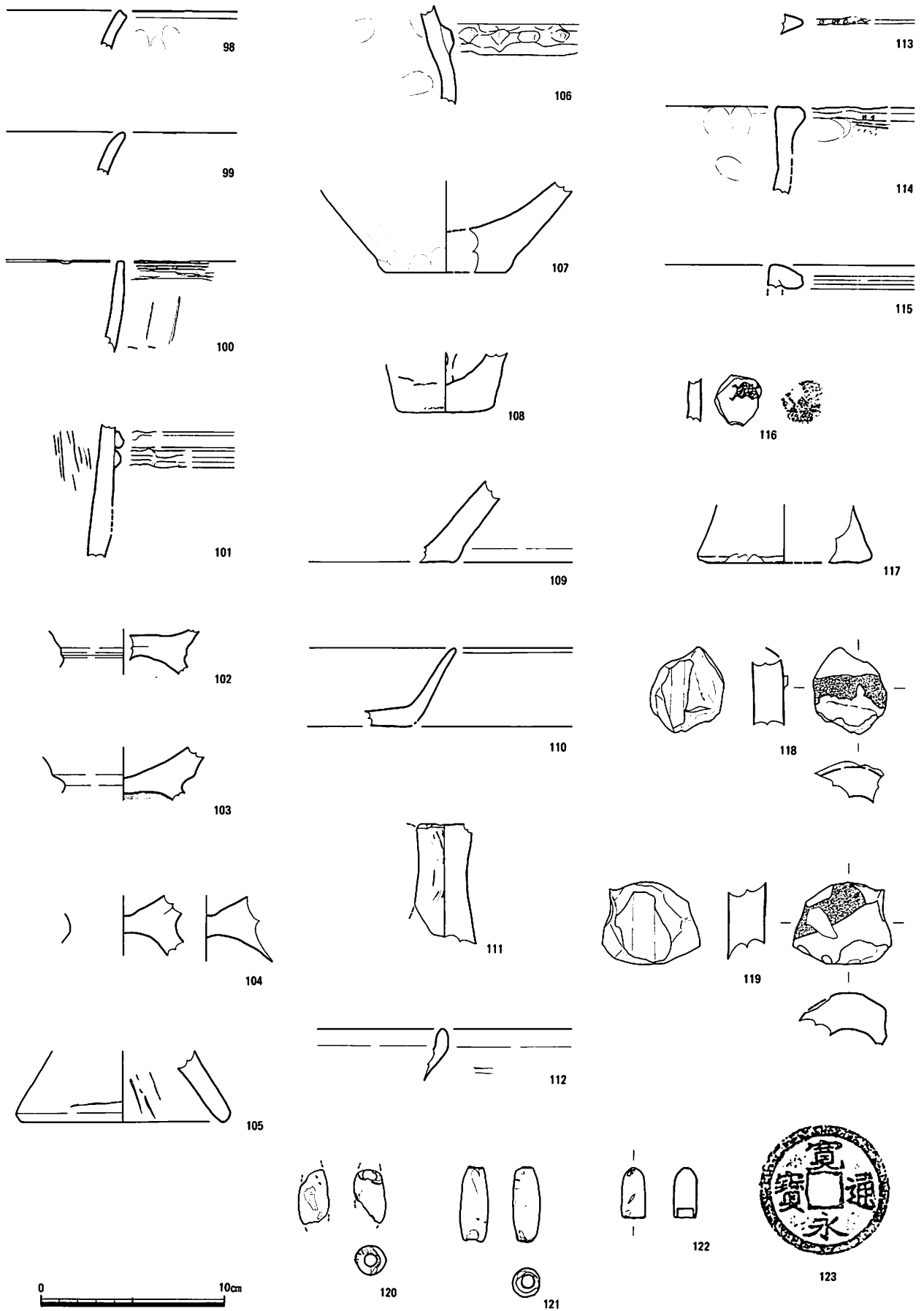


Fig.107 4c層出土の遺物（4） S=1/3（123：S=1/1）

72～97・102・103・110は土師器である。72は皿である。高台は断面三角形を呈し、体部との接合痕が断面に認められる。73～76は杯の口縁部である。73は端部がわずかに外湾し、外面には低い段を有する黒色土器である。74から76は少し内湾して直立する口縁部である。76は内外面とも回転ナデ調整の凹凸が認められる。外面は磨いているようである。

77～95・102・103・110は杯の底部である。77は非常に低い高台を持ち、外面と内面に赤色顔料を添付している。高台と体部との接合痕で剥離している面があり、ハケ状の複数の沈線が体部に施されている。78と84・86は底部が厚く、体部の立ち上がりが底面より少し高い位置にある形態を呈するものである。非常に磨滅している。86は底面が少し上げ底になっている。79から83・84は平底で、底面から体部へ立ち上がる形態を呈するものである。79は内面に赤色顔料を添付している。83は磨滅のため、不明だが、そのほかは糸切り底である。87は少し外湾気味の高台である。88は非常に磨滅しているが、低く、外に開く形態を呈する高台である。89は断面三角形を呈する高台を持つ。90は低く、小さい高台を持つが、内面見込みは高台の直上がくぼんでいる。91・92・102・103は高台が端部で欠損しているものである。92は体部と高台との接合面でも欠損している部分がある。102・103は底面見込み部分に回転ナデがみとめられる。103の底面には、赤色顔料が添付され、また、胎土内に赤色の砂粒が非常に多い。93は先端が細く外開きの形態を呈する高い高台で、体部との接合面で欠損している。94は低い外開きの高台で、これも体部との接合面で欠損している。95は、端部を肥厚させ、踏ん張るような形態を呈する高台で、接合面で欠損している。96は杯蓋の端部である。屈曲部には内外面とも緩い稜線を有し、端部は細くすぼむ形態を呈する。97・110は杯である。両方とも平底で、底面から体部へ少し外へ開きながら立ち上がる形態を呈する。97は杯部の回転ナデの凹凸が明瞭である。底面は回転ヘラ切りである。110は口縁部は直立し、端部は細く収まる。底部と杯部の接合が断面に認められる。

98～101・104～106は古墳時代の土器である。98・100・101・104・105は甕形土器で、98・100は口縁部である。98は端部が少し外湾するもの、100は直立する形態を呈するものである。101は突帯を有する胴部で、突帯は一部しか

残存せず剥落した痕から判断すると、1条の絡縄突帯で、1周めぐらした連結部をずらして、一部2条の突帯に見えるものである。104は底部であるが、非常にゆがんでおり、胴部の中心と底部内面の中心がずれている。焼成も悪く、やわらかい。105は底部の脚で、端部を丸く収めている。非常に磨滅している。

106は突帯を有する壺の胴部である。断面台形の突帯で、丸く浅い刻み目を施している。

99・111は高坏である。99は少し外湾する形態を呈し、端部が細い。口唇部のごく一部に赤色顔料が付着している。111は脚の上部である。非常に磨滅しているが、杯部との接合部分と考えられる破片の上面に、一文字状の沈線が認められる。郡元団地出土の古墳時代の高坏では、脚部と杯部との接合面に刻線をいれたものが確認されており、これも同様なものである可能性がある。

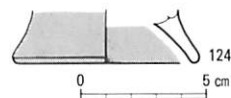
112の器種は不明である。口縁端部が直立し、丸い形態を呈する。

113～117は弥生土器である。113～115は甕形土器の口縁部である。113は口縁部の端部である。細かい刻みが施されている。114は上面が水平で、端部は丸く、粗雑なものである。磨滅も著しい。115は上面が少し下向きの口縁部で、端部はヨコナデによって平坦になっている。断面に接合痕が認められる。116は中期の甕形土器で胴部に櫛描きの波状文を施しているものである。3条の沈線が1単位になっているようである。117は甕形土器の充実した脚台である。破損した面から外面にわたって赤色で、二次的加熱を受けているようである。107～109は平底の底部である。108は胴部が比較的直立する形態を呈するものである。107・109は胴部が外開きの形態を呈するもので、107は胴部へと開く位置が高く、109は底面から開くものである。

118・119はフイゴの羽口である。筒状を呈するようで、外面にはガラス質の付着物が認められる。

120・121は土錘である。中膨らみの筒状を呈する。120は途中で欠損しており、また、磨滅も著しい。

122は銃弾である。先端が丸く、29.0 gを測る。123は寛永通宝である。



4 d層 (Fig.108)

124は土師器の高台であ

Fig.108 4d層出土の遺物 S=1/3



る。ハの字に外へ開く形態を呈する。内外面とも赤色顔料を添付している。

4 e 層 (Fig.109)

125は磁器の皿の口縁部である。若干内湾気味の口縁部で、大きな貫入が認められる。

126は須恵器の甕の口縁部である。端部は断面三角形を呈し、外湾する形態を呈する。

127~129は土師器である。127と128は口縁部で、外反する形態を呈し、端部を丸く収めるものである。128・129は黒色土器で、内面が黒く、磨いている。129は底部で、高台は太く、少し外へ開く形態を呈する。

130は壺の突帯である。突帯は細い断面三角形を呈し、先端に小さな刻みを施している。131は小型の壺の頸部から肩部の部分である。頸部に1条突帯をめぐらし、細長い刻み目を斜めに施している。内面には粘土の接合線が認められる。

132は土錘である。少し中膨らみの筒状を呈する。端部に紐ずれのようなくぼみが認められる。

(4) 5層出土の遺物

5層は5 a層・5 b層・5 c層に分かれるが、遺物の量は5 b層出土のものが多かった。また、ここで説明できる遺物は5 a・5 b層のみである。

5 a 層 (Fig.110)

133・134は陶器である。133は鉢の口縁部で、若干内湾する形態を呈する。134は上面が水平で、直立する口縁部である。

135は瓦質のもので、器種は不明である。口縁部のようなものである。

136は須恵器の甕の口縁部である。口縁端部を欠損しているが、断面三角形を呈し、外湾する形態を呈す。

137~139は土師器である。137は杯の口縁部で、端部が細く、内湾する形態を呈する。外面は回転ヘラミガキによって、縞状に磨かれた痕が残っている。138・139は底部で、断面三角形の低い高台を有する。139は見込み部を同心円上に磨いている。

140~150は弥生時代終末期から古墳時代の土器である。141は甕形土器の胴部で、絡縄突帯を有する。144は甕形土器の胴部の下部である。142・143は甕形土器の胴部から底部部分である。142は胴部の径に比べて、脚台の付け根の径が小さく、脚台内面上部がゆるやかに湾曲している。145は小型の甕か鉢の底部である。径が小さく、低い脚台である。146~149は壺形土器である。146・147は肩部付近の三角突帯が施されている。148と149は底部である。148は底部が厚く、平底状を呈する。149は平底で、底面から外開きに胴部へ立ち上がる形態を呈する。外面に粘土帯の接合線が認められる。140と150は高坏の杯部である。140は口縁部で、端部が若干外湾するものである。外面に赤色顔料が添付されている。150は杯部の屈曲部である。緩やかに屈曲し、少し反り気味に立ち上がる形態を呈する。

5 b 層 (Fig.111・112)

151~155は須恵器である。151は甕の口縁部である。端部は丸く、内面がくぼんでいる。151~

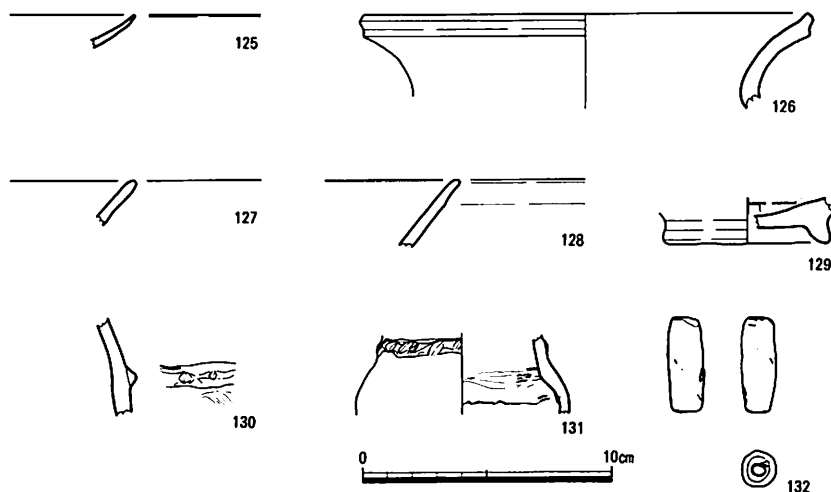


Fig.109 4e層出土の遺物 S=1/3

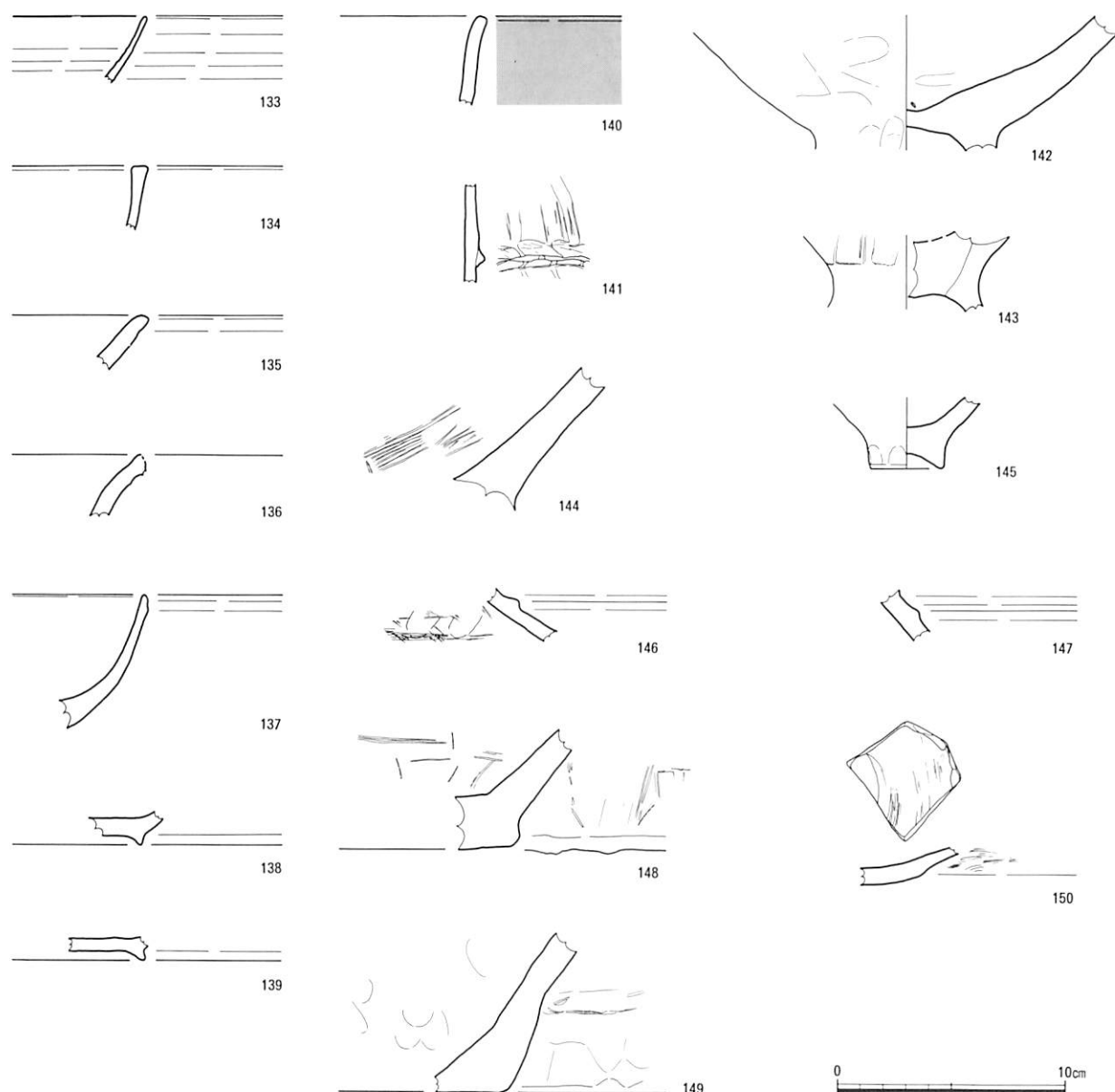


Fig.110 5a層出土の遺物 S=1/3

155は先端が細く、断面三角形を呈するものである。

156～160は土師器である。156は碗の口縁部で、外反する形態を呈するものである。157・158は碗の口縁部で端部が若干外湾する形態を呈し、外面・内面とも回転ヘラミガキによって縞状に磨いた痕が認められる。159・160は蓋の端部である。端部は丸く収めている。161～174は甕形土器である。

161・162はくの字に屈曲する口縁部で、161は端部がヨコナデによってくぼんでいる。163・164は緩やかに屈曲する形態を呈する。163は外面にススが付着している。164は少しゆがんだ土

器である。165は内湾気味に立ち上がり、端部が若干外湾する形態を呈する。166は直立する口縁部である。外面にススが付着している。167～169は胴部突帯部である。167と168は絡縄突帯である。167は突帯が下方に屈曲している。169は断面三角形を呈する。170～174は甕形土器の底部である。170～172は脚台付け根の径が小さく、脚がハの字状に開く形態を呈する。173は胴部との接合部分で欠損している。174は脚台内面の天井部中央が、突き出している。

175～179は壺形土器である。175・176は胴部の突帯である。175は布目圧痕が認められる。176は低く平たい突帯で、縦方向に細長い刻み目

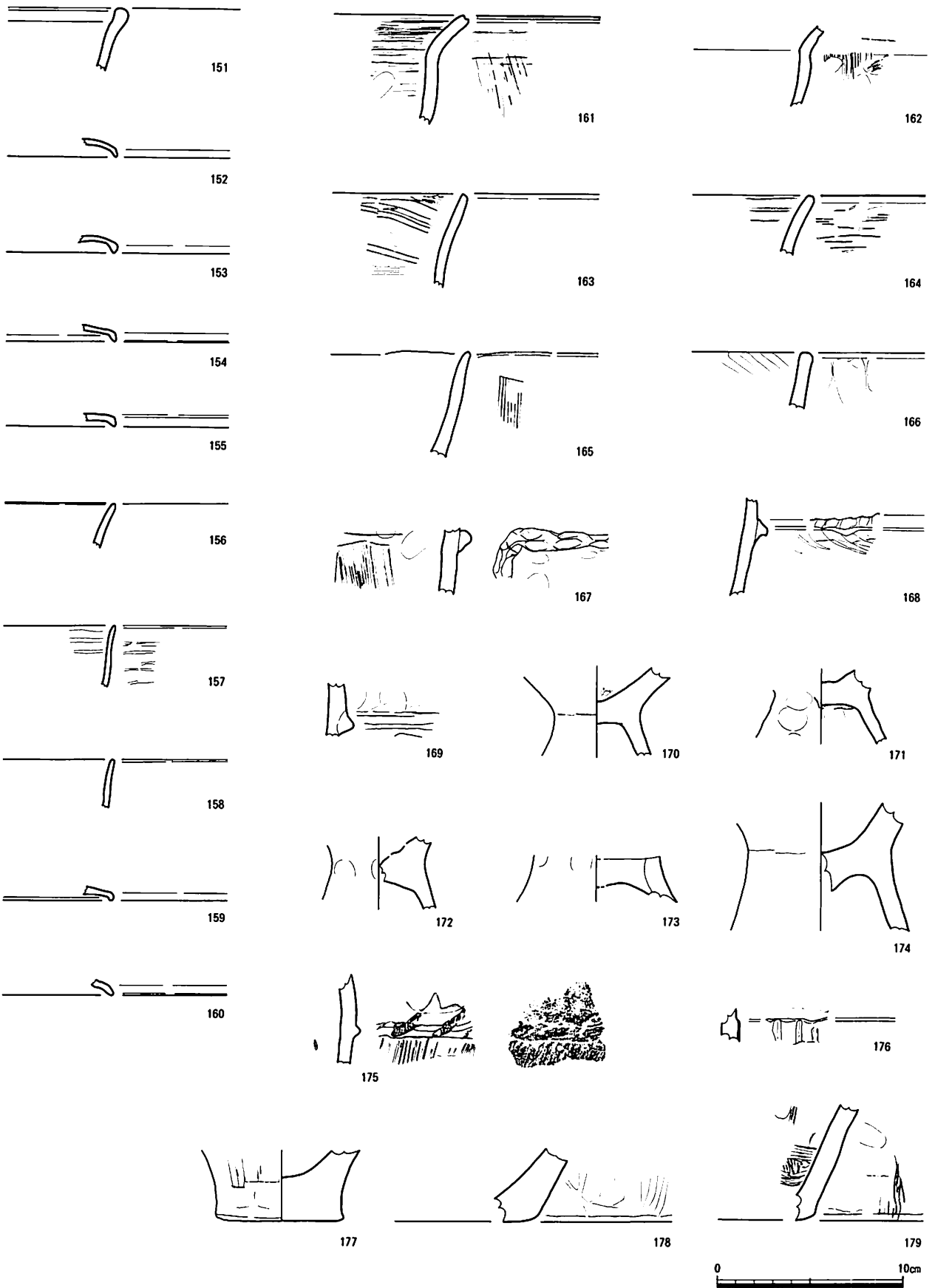


Fig.111 5b層出土の遺物（1） S=1/3

を施す。177・178は平底の底部である。177は厚い底部で、胴部があまり開かない器形のものである。179は凸レンズ状に膨らむ底面を呈するものと推定できる。

180～183は高坏である。180は杯部の屈曲部である。181は脚部である。あまり外へ広がらず、裾部は少し外湾する器形を呈する。182・183は脚端部で、丸く仕上げている。

184は罎の口縁部である。端部は細く、若干内湾気味である。185は口縁端部を欠損している。丸底を呈すると推定できる。

186～188は甕の口縁部で、弥生時代中期のものである。

189は小型の壺の胴部で、外面が屈曲し、その部分に細かい刻みを直接施している。刻みはハケ工具で施している。

5 b層土に砂混じりの部分を、発掘調査時には5 d層として扱い、そこから出土した遺物を5 d層出土遺物として取り上げたが、検討の結果、5 d層は5 b層に含まれると捉えた。190～195はその部分からの出土遺物である。190～192は甕形土器である。190は絡縄突帯で、突帯直下で欠

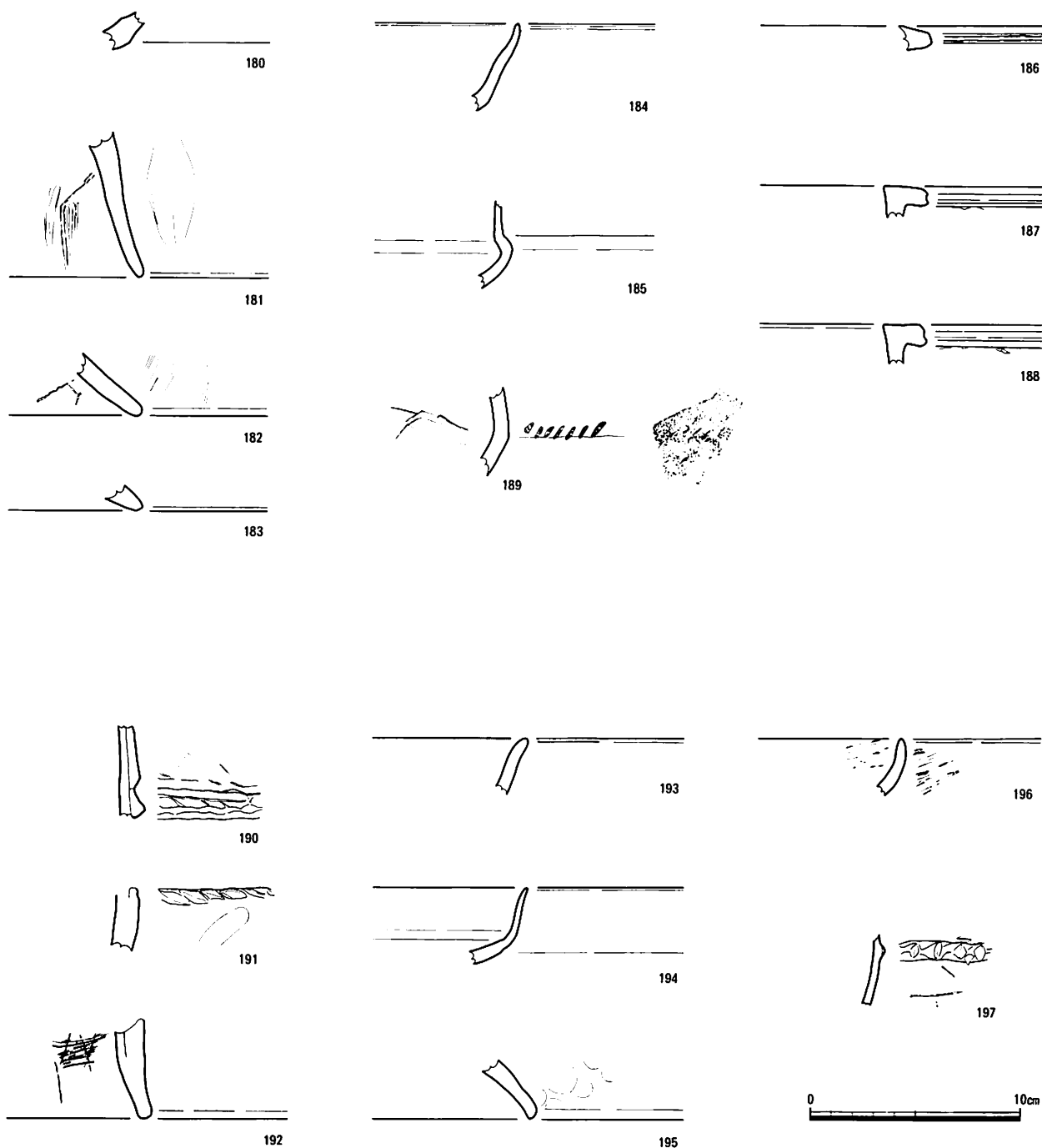


Fig.112 5b層(2)・7層出土の遺物 S=1/3 (5b層180～196, 7層197)

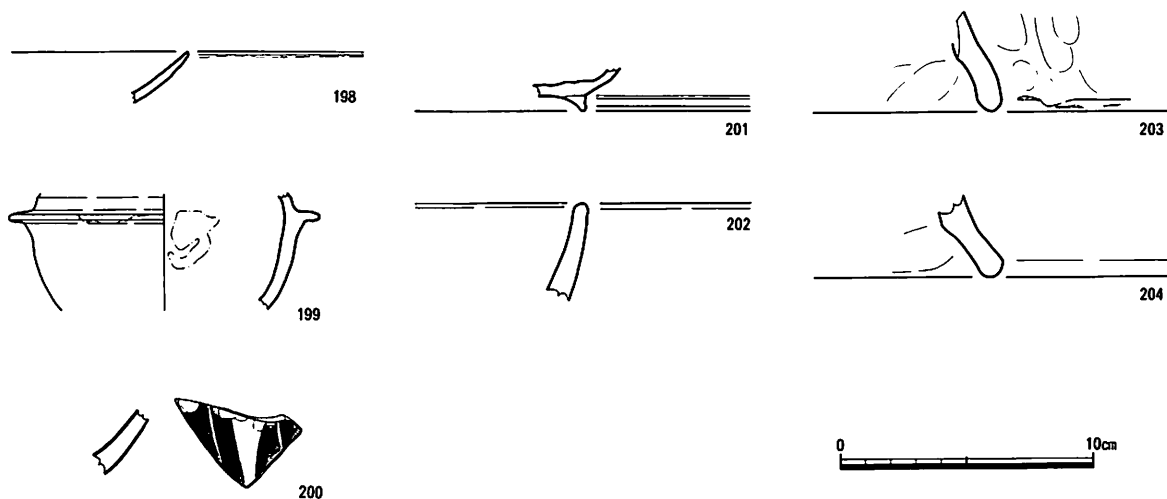


Fig.113 カクランおよび出土層不明の遺物 S=1/3

損している。191は胴部の突帯直下の部分である。突帯に刻み目を施した痕が認められる。192は脚である。胴部との接合面で欠損している。

193・194は高坏の口縁部である。端部が若干外湾している。194は外面に低い段を有する。195は高坏の脚部であると考えられる。少し内湾する形態を呈する。外面にはユビオサエの痕が顕著である。

196は柑の口縁部である。内湾する形態を呈し、端部は細くすぼまる。

201は土師器杯の底部である。低く、踏ん張るような高台を有する。

202は高坏の口縁部ではないかと考えられる。端部は丸く収め、内湾気味に立ち上がる形態を呈する。203・204は甕の脚部である。203は端部が若干内湾し、端部を丸く収める。胴部との接合部で欠損している。204は少し反り気味に外へ開く形態を呈する。

### (5) 7層出土の遺物 (Fig.112)

197は壺の胴部である。1条突帯を有し、刻みを施している。

### (6) カクランおよび出土層不明の遺物 (Fig.113)

ここでは、表土除去後の、土層が攪乱されている部分で出土したものと表面採集の遺物を掲載する。

198と199は陶器である。198は皿の口縁部である。若干内湾する形態を呈する。199は羽釜の胴部である。突帯以上に施釉し、以下には釉を施していない。突帯以下の外面に、煤が付着している。

200は青磁碗の胴部である。鎬のはいった連弁を外面に施している。

## 7 まとめ

### (1) 層について

本調査区の地形は、地山である9層が西に向かって傾斜しており、2層までの上層はその傾斜にしたがって、全体に西に傾斜して堆積している。しかし、5層以上はほぼ水平に堆積しており、6～8層が5層と9層の西ほど厚くなる間に、堆積しているという状況である。そのため、5層を除去した後の面は場所によって異なるいくつかの層が露出していた。

層を大まかにみていくと、2層から4層までは灰色を帯び、また、鉄分やマンガンが浸透しているのが確認できたため、数回にわたって営まれた水田層と判断できる。5層は郡元団地一帯に広がる、古墳時代を主体とする遺物包含層である。6・7層は粗砂層で、河川の氾濫によって堆積したものと考えられる。本調査区の北方300mに位置する理学部や工学部で、近世から古墳時代か弥

生時代まで流路を変えながら流れていた河川跡が検出されており、それらとの関連が考えられる。8層は粘質のシルト層である。9層は、地山である砂層である。

## (2) 遺物について

遺物の種類をあげると、陶器、磁器（染め付け・青磁・白磁を含む）、須恵器、土師器、瓦器、古墳時代の土器、弥生土器、土錘、フイゴの羽口、寛永通宝、銃弾、黒曜石の剥片である。

このうち、もっとも量が多かったのは古墳時代の土器である。また、次いで土師器も多く出土し、古代から中世の遺物の種類が多かったことがこの調査区の特徴であろう。

### 陶磁器

陶器や青磁、白磁以外の磁器は小片が多く、量も少なかったが、近世のもののみとめられる。青磁は竜泉窯系のものが多く、削り出しの蓮弁やヘラ描きの蓮弁などがある。13、14世紀ころのものである。白磁は玉縁状のものがあり、11世紀中頃から12世紀にあてられる。

### 瓦器

瓦器は備前焼きの播り鉢と火鉢らしい口縁部が出土しており、播り鉢は15世紀ごろにあてられる。

### 須恵器

須恵器甕や杯の高台、蓋形土器が出土している。甕の口縁部は断面三角形状を呈し、外湾するものが多かったが時期を特定できなかった。高台は上部を欠損しているが、だいたい8世紀あたりに比定できるだろう。蓋は、浅く、端部が三角形を呈する形態のみで、8世紀に比定できる。

### 土師器 (Fig. 114)

土師器は、全形を知りうるものが少なかったが、類型化すると以下の通りである。

- a 黒色土器。本調査区で出土したものは内面黒色のもののみであった。杯の口縁部 (a 1) と高台 (a 2) がある。口縁部は、わずかに端部が外湾する器形を呈する。
- b 黄褐色や橙褐色を呈し、外面または高台内面を磨き、胎土は硬く締まっているもの。内湾する口縁部で、内外面とも磨きを施しているもの

(b 1)、若干外湾する口縁部で橙褐色を呈し、回転へら磨きを施しているもの (b 2)、低い三角形状で、若干外側に踏ん張るような形態を呈する高台をもつ底部で、外面または高台内面を磨いているもの (b 3) があげられる。

c 回転へら切り底の平底の杯。

d 低い高台で黄白色を呈するもの。

e ハの字に開く高い高台を持つもの。色調は黄白色だが、赤色顔料を添付しているものもある。

f 高台を持つ底部と考えられるが、大型のもの。内面見込みに赤色顔料を貼付しているものもある。

g 糸切りの底部。平底で厚い底部 (g 1) と、薄い平底の底部 (g 2) がある。

h 杯蓋。須恵器の杯蓋の模倣品と考えられる。

i 高台を持つ皿。

a b c e g は9、10世紀ごろにあてられる。g は12世紀以降と捉えられる。h は須恵器の杯蓋の模倣品と考えると、8世紀に比定できるだろう。

### 古墳時代の土器

古墳時代の土器は、甕、壺、高坏、埴等の器種が出土しているが、篋貫式と呼称される、古墳時代でも新しいタイプのものが多い。

### 弥生土器

弥生土器は、中期の時期のものと、終末期の中津野式がある程度まとまって出土している。器種は甕と壺である。

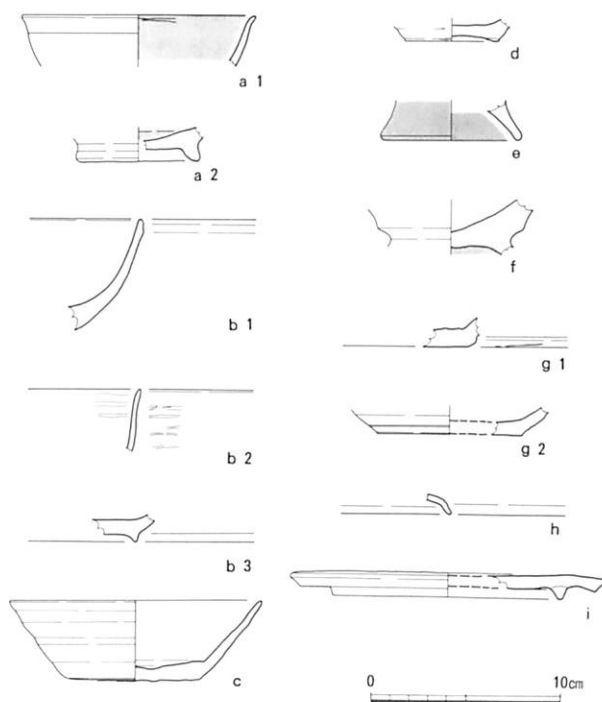


Fig.114 土師器の分類 S=1/4

このように、遺物は弥生時代、古墳時代、平安時代から室町時代、近世まで及んでいる。

各層とも、古墳時代の土器が多く出土している。次に多いのが、土師器だが、これは4層がピークになっている。また、5層出土の土師器と4層出土のものを比べると、4層出土のものはほとんどの種類が含まれているが、5層からはb、f、cの口縁部が出土しており、新しい時期のものではなく、その出土状況は層の上下関係と整合的である。また、4層では瓦器や青磁、白磁、須恵器など多様な遺物もあるが、5層になると量的に減少する。一方、古墳時代の土器はほとんど減少せず、弥生土器は増加している。これらの結果は、層の上下関係と遺物の時期と整合的であるが、5層中にも陶磁器が残るなど、漸意的な遺物の時期的な変化を示している。

6層以下は、7層に須恵器が1点と古墳時代の土器と考えられる破片のみで古墳時代以前の層と考えると良いだろう。

### (3) 遺構について

遺構は、溝状遺構とピットを確認している。この中で一番時期が新しいものは、5b層上面で検出したSD1である。SD1の埋土からは古墳時代の土器と考えられる破片が数点出土したのみだが、古墳時代の土器を主体として包含している5a層にバックされている。古墳時代の遺構の可能性が高い。

SD2・SD3とピット群は5層を埋土としており、やはり古墳時代の遺構と捉え、SD5と足跡状遺構はそれ以前のものであると考えられる。

3つの検出面で遺構を確認したのだが、それぞれの溝状遺構には共通した連続性が認められる。SD1とSD3は調査区東側に位置するが、どちらもだいたい東西方向に走っており、SD1はSD3のすぐ北側に位置している。SD4、SD2、SD5は反対側の調査区西側に北西-南東方向に走っており、新しい時期になるにしたがって、北側へ移動している。これらはいずれも非常に浅く、遺物も出土しなかったことから、遺構として捉えられるか疑問な点があるが、これらに連続性が認められ

ること、SD5と同じ面で検出した足跡状遺構が、SD5と方向が平行であることなどから、遺構としてとりあげることにした。

遺構が方向が変わらないこと、連続性が認められることから、これらに大きな時間の隔絶があるとは考えられず、比較的短い時期に連続して営まれたと考えられる。

最後に遺構の機能が問題として残るが、住居跡が立地する微高地と異なり、太い溝が低い場所に位置することから、水路などが考えられる。ただし、郡元団地からは、古墳時代以前の水田などの農耕に関する遺構は未検出で、推定の域を出ない。遺物としては、これまで、鉄製の鋤先や木製の鋤が出土しており、今後の周辺の調査に対するこの点に関する注意と、郡元団地全体の調査結果を総合した評価が必要になるだろう。

### 註

- 1) 坪根伸也「第四章 2. 郡元団地O-4・5区における発掘調査(教育学部福利厚生施設新設に伴う埋蔵文化財確認調査)の報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅰ 昭和60年度』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1985
- 2) 『水町遺跡(鹿児島大学郡元団地内遺跡 P-6・7区)-鹿児島大学教育学部校舎新築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』鹿児島大学教育学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室 1987
- 3) 本書付編Ⅰに発掘調査報告を掲載
- 4) 古代・中世の遺物に関しては以下の文献を参考にした。
  - 『平泉城跡』大口市埋蔵文化財発掘調査報告書(1) 鹿児島県大口市教育委員会 1982
  - 山本信夫「太宰府における古代末から中世の土器・陶磁器-10~12世紀の資料(1)本文編-」『中近世土器の基礎研究Ⅳ』1988
  - 菅原正明「『瓦器』は何を語るか」『中近世時の基礎的研究Ⅵ』1990
  - 山村信栄「太宰府出土の瓦質土器」『中近世時の基礎的研究Ⅵ』1990
  - 森隆「九州系黒色土器の器形的系譜に関する若干の覚書-畿内系黒色土器との対比における-」『古文化談叢』第21集 1989
  - 佐藤浩司「北部九州における黒色土器の生産と流通-豊前北部地域とその周辺-」『生産と流通の考古学』横山浩一先生退官記念論文集Ⅰ 1989

Tab.10 遺物観察表

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
104	1	碗	底部	2	白色の半透明釉，器肉：白色。		回転ナデ，凹線，円形の凹文	磁器，残存率1/2，底径(4.0) cm.
104	2	鉢	胴部	2	外面：黒褐色10YR3/1，内面：黒褐色5YR2/1～2/2，器肉：赤色10R4/6。	細粒子（白色）を含む。	突帯，文様あり	陶器。
104	3	皿	底部	2	外面：無釉部分褐色7.5YR4/3，施釉部分赤黒色10R2/1，内面：橙色2.5YR6/8～明赤褐色2.5YR5/8。	微粒子（白色）を若干含む。	回転ナデ	陶器，残存率1/8，底径(5.75) cm.
104	4	不明	底部	2	透明釉，貫入，器肉：灰白色5Y8/2。		黒色で草木文	白薩摩？
104	5	碗	口縁部	2	灰白色10Y7/2の半透明釉，器肉：灰白色N7/～灰色N6/。		内面：一条の圈線	染付。
104	6	碗	口縁部	2	灰白色7.5Y7/2の半透明釉，器肉：灰白色N8/～7/。	微粒子（黒・白色）を若干含む。	外面：ヨコナデ	白磁，玉縁口縁。
104	7	碗	口縁部	2	透明釉，器肉：白色。	微粒子（黒色）を若干含む。		白磁。
104	8	碗	口縁部	2	緑灰色の半透明釉，貫入，器肉：灰白色N7/～灰色N6/。		外面：簡略化した蓮弁文	青磁。
104	9	碗	底部	2	緑灰色の半透明釉，貫入，器肉：灰白色N7/～灰色N6/。		外面：蓮弁文？	青磁。
104	10	杯？	底部	2	灰白色N7/。	細粒子（黒色）を若干含む。	外面：回転ナデのち？，内面：回転ナデ	須恵器。
104	11	杯か皿	底部	2	浅黄橙色7.5YR8/4。	砂粒（赤褐色），微～細粒子を含む。	底面：ヘラ切り	土師器，底径5.15cm.
104	12	杯か皿	底部	2	外面：浅黄橙色10YR8/3，内面：浅黄橙色7.5YR8/4。	微粒子をわずかに含む。		土師器。
104	13	杯か皿	底部	2	にぶい黄橙色10YR7/3。	砂粒（赤褐色），細粒子を含む。	回転ナデ。底面；糸切り。	土師器。
104	14	杯か皿	底部	2	外面：浅黄橙色10YR8/3，内面：浅黄橙色7.5YR8/4。	細～砂粒（赤褐色），細粒子を含む。	外面：回転ナデ，底面；糸切り	土師器。
104	15	杯か皿	底部	2	外面：浅黄橙色7.5YR8/4，内・底面：橙色2.5YR7/6。	細粒子（赤褐色），微粒子（白色等）を含む。	外面：回転ナデ	土師器。
104	16	不明	底部	2	浅黄橙色7.5YR8/6。	微粒子（白・黒色），細～砂粒（赤褐色），粗砂粒，礫を多く含む。	外・内面：回転ナデ，見込部：ナデ	土師器。
104	17	甃	口縁部	2	にぶい橙色5YR6/3。	微粒子～礫を多く含む。	外面：横方向のナデ，内面：ハケのちナデ	古墳時代。
104	18	土鍾		2	浅黄橙色10YR8/4。	微～細粒子を含む。		長さ；3.2+ $\alpha$ ，幅1.45cm，重さ5.99g.
105	19	杯	底部	4 a	外面：橙色5YR7/6，内面：橙色7.5YR6/8。	微粒子～砂粒，赤褐色粒を含む。	回転ナデ？	土師器。
105	20	ふいこの羽口		4 a	外面：にぶい橙色7.5YR7/3，内面：浅黄橙色10YR8/3。	細粒子，礫を含む。		付着物あり。
106	21	短頸壺？	口縁部	4 b	青灰色5B～5PB5/1。	細～砂粒，白色粒を含む。	回転ナデ	須恵器。
106	22	杯	底部	4 b	橙色5YR6/8。	微粒子，細粒子（赤褐色）を含む。	回転ナデ	土師器。
106	23	甃	底部	4b,5a,5b,SD1	外面：浅黄橙色10YR8/4～黄褐色10YR8/6，内面：淡褐色5YR8/4～浅黄橙色7.5YR8/4。	細粒子～礫を多く含む。	外面：ユビオサエのちナデ，内面：ナデ，脚内面：ハケのちナデ？	古墳時代。底径11.2cm.
106	24	甃か壺	胴部	4 b	外面：明赤褐色2.5YR5/6～赤褐色2.5YR4/6，内面：明赤褐色2.5YR5/8。	微～砂粒（白色）を多く含む。	外面：斜方向のハケ，内面：ナデ？	古墳時代。
106	25	埴	口縁部	4b,4c	赤褐色2.5YR4/8（赤色顔料）。	微粒子，砂粒（赤色）を含む。	横方向のハケのちミガキ	古墳時代，赤色顔料。
107	26	碗	底部	4 c	褐色の半透明釉，器肉：灰白色N8/。	微粒子をわずかに含む。		磁器，残存率1/8，底径(6.48) cm.
107	27	碗か皿	底部	4 c	器肉：灰白色。	微粒子をわずかに含む。	回転ナデ	磁器，残存率1/6，底径(6.0) cm.
107	28	碗	底部	4 c	透明釉，器肉：灰白色N8/。		外面：二条の圈線，格子文	磁器，残存率1/6，底径(3.45) cm.
107	29	不明	底部	4 c	透明釉，貫入，器肉：白色。	微粒子をわずかに含む。	回転ナデ	磁器，残存率1/2，底径(3.6) cm，五脚？，目跡あり。



Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・軸調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
107	30	鉢	口縁部	4 c	灰白色5Y8/1の半透明釉, 貫入, 器肉: 褐灰色10YR6/1.		回転ナデ?	陶器.
107	31	皿	口縁部	4 c	暗赤褐色5YR3/4~3/6, 器肉: 暗赤褐色2.5YR3/3~3/4.	微粒子, 白色粒をわずかに含む.	回転ナデ	陶器, 残存率1/8, 口径(10.0) cm.
107	32	皿	口縁部	4 c	白色, 器肉: 灰白色2.5Y8/1~8/2.		回転ナデ	陶器.
107	33	鉢	口縁部	4 c	外面: 褐色7.5YR4/6, 内面: 極暗赤褐色2.5YR2/2, 胎釉?, 器肉: 暗赤褐色2.5YR3/4.	微粒子(白色)を若干含む.	回転ナデ?	陶器.
107	34	短頸壺	口縁部	4 c	外面の一部: 暗赤褐色5YR3/6, 器肉: 黄灰色2.5Y6/1.	細~砂粒を含む.	回転ナデ	須恵器.
107	35	甕	口縁部	4 c	灰赤色2.5YR4/2, 器肉: にぶい橙色5YR7/4.	微粒子を若干含む.	回転ナデ	須恵器.
107	36	無頸壺	口縁部	4 c	明オリーブ灰色5GY7/1の半透明釉, 貫入, 器肉: 灰白色2.5YR8/1~8/2.	微粒子(白色)を含む.	回転ナデ	陶器.
107	37	掘鉢	口縁部	4 c	外面上部: 明青灰色5B7/1~青灰色5B6/1, 外面下部: 浅黄橙色10YR8/3~8/4, 内面: 明黄褐色10YR~2.5Y7/6	細粒子~疎, 白色粒を含む.	回転ナデ	備前焼.
107	38	不明	胴部	4 c	黒褐色7.5YR3/2, 釉の厚い部分: 黒褐色5YR2/1, 釉の薄い部分: オリーブ色5Y5/6, 器肉: 褐灰色7.5YR4/1~灰褐色7.5YR4/2.	細粒子, 粗砂粒(白色)を含む.	回転ナデ	陶器, 残存率1/4, 胴部最大径(6.85) cm.
107	39	鉢	底部	4 c	外面: オリーブ黒色7.5Y2/2, 内面: オリーブ灰色10Y4/2~オリーブ黒色10Y3/2, 器肉: 暗紫灰色.	細粒子(白色)をわずかに含む.	回転ナデ?	陶器, 残存率1/8, 底径(6.65) cm.
107	40	碗	底部	4 c	外面: 極暗赤褐色7.5R2/3, 釉の厚い部分: オリーブ灰色10Y5/2~4/2, 内面: 極暗赤褐色7.5R2/3, 器肉: 暗赤褐色10R3/3.	微粒子(白色)をわずかに含む.	回転ナデ	陶器, 残存率1/6, 底径(5.4) cm.
107	41	碗	底部	4 c	外面: 灰オリーブ色7.5Y5/3, 内面: オリーブ色5Y5/4, 器肉: 浅黄橙色7.5YR8/3.	微粒子を若干含む.	回転ナデ, 見込部: 蛇の目状に釉を拭き取る	陶器, 残存率1/4, 底径(5.32) cm.
107	42	鉢	脚部	4 c	外面: 黄灰色2.5Y4/1, 内面: 灰白色7.5Y8/2~7/2, 器肉: 赤色10R5/8~4/8.	微粒子を若干含む.	横方向のナデ	陶器, 風化している.
107	43	鉢	口縁部	4 c	透明釉, 器肉: 灰白色N8/.		外面: 二条の圈線, 草文, 内面: 一条の圈線	染付, 残存率1/8, 口径(10.0) cm, 風化している.
107	44	鉢	口縁部	4 c	明オリーブ灰色2.5GY7/1の半透明釉, 器肉: 灰白色N8/7/.	微粒子(白色)をわずかに含む.	内面: 一条の圈線	染付, 残存率1/8, 口径(8.8) cm.
107	45	碗?	口縁部	4 c	明緑灰色7.5GY8/1の半透明釉, 器肉: 灰白色2.5Y8/2.		内面: 一条の圈線	染付.
107	46	鉢?	口縁部	4 c	灰白色2.5GY8/1の半透明釉, 器肉: 灰白色2.5Y8/2.		内面: 一条の圈線	染付.
107	47	碗	底部	4 c	明青灰色10BG7/1に類似の半透明釉, 器肉: 灰白色N8/に類似.		回転ナデ, 見込部: 二条の圈線	染付.
107	48	火鉢?	口縁部	4 c	暗青白色5PB4/1に類似, 器肉: 灰白色5Y7/1.	微~細粒子を若干含む.	外面: 菊花文の印版, 内面: 横方向のハケ	瓦器.
107	49	不明	口縁部	4 c	外面: 橙色5YR7/6~7/8, 内面: 橙色2.5YR6/8~明赤褐色2.5YR5/8.	微~砂粒(白色等)を若干含む.	ハケのちナデ?	素焼土器.
107	50	碗	口縁部	4 c	緑がかった半透明釉, 貫入, 器肉: 灰白色N7/に類似.	微粒子をわずかに含む.	回転ナデ	白磁.
107	51	碗	口縁部	4 c	緑灰色, 器肉: 灰白色N7/.	微粒子をわずかに含む.		青磁, 残存率1/10, 口径(13.86) cm.

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
107	52	碗	口縁部	4 c	浅黄色75Y7/3に類似の半透明釉, 貫入, 器肉: 灰色N6/.	微粒子を含む.		青磁.
107	53	碗	口縁部	4 c	明緑灰色75GY7/1に類似の半透明釉, 器肉: 灰色N6/.	微粒子を若干含む.	外面: 蓮弁文 (片彫り)	青磁, 風化している.
107	54	碗	口縁部	4 c	明緑灰色75GY7/1に類似の半透明釉, 貫入, 器肉: 灰色N6/.	微粒子を若干含む.	外面: 蓮弁文	青磁, 風化している.
107	55	碗	口縁部	4 c	明オリーブ灰色5GY7/1に類似の半透明釉, 器肉: 灰白色N7/.	微粒子を含む.	外面: 蓮弁文	青磁.
107	56	碗	口縁部	4 c	明オリーブ灰色25GY7/1に類似の半透明釉, 貫入, 器肉: 灰白色N8/~7/.	微粒子を若干含む.	外面: 雷文	青磁.
107	57	碗	口縁部	4 c	明オリーブ灰色25GY7/1に類似の半透明釉, 貫入, 器肉: 灰白色N8/.	微粒子を若干含む.	外面: 雷文, 内面: 草文?	青磁.
107	58	皿	口縁部	4 c	明緑灰色75GY7/1に類似の半透明釉, 器肉: 灰色N6/.	微粒子をわずかに含む.	外面: 蓮弁文?	青磁.
107	59	碗	胴部	4 c	緑白色の半透明釉, 器肉: 灰白色N8/~7/.	微粒子をわずかに含む.	外面: 蓮弁文	青磁.
107	60	碗	胴部	4 c	緑灰色75GY6/1に類似の半透明釉, 貫入, 器肉: 灰白色N7/.	微粒子をわずかに含む.	外面: 蓮弁文	青磁.
107	61	碗	胴部	4 c	明オリーブ灰色25GY7/1に類似の半透明釉, 貫入, 器肉: 灰白色N7/.	微粒子をわずかに含む.	外面: 蓮弁文?	青磁.
107	62	碗	胴部	4 c	オリーブ灰色10Y6/2に類似の半透明釉, 貫入, 器肉: 灰白色N8/.	微粒子をわずかに含む.	外面: 蓮弁文?	青磁.
107	63	碗	底部	4 c	緑白色の半透明釉, 底部見込: にぶい橙色25YR6/4, 器肉: 灰白色N7/.	微粒子をわずかに含む.	外面: 蓮弁文?	青磁, 残存率1/5, 底径(5.58) cm.
107	64	不明	胴部	4 c	灰白色25GY8/1に類似の半透明釉, 器肉: 灰白色N8/.	微粒子をわずかに含む.	回転ナデ	青磁.
107	65	不明	底部	4 c	明緑灰色75GY7/1に類似の半透明釉, 貫入, 器肉: 灰色N6/.	微粒子をわずかに含む.	回転ナデ	青磁.
107	66	不明	底部	4 c	明緑灰色75GY7/1に類似の半透明釉, 貫入, 器肉: 灰白色N8/.	微粒子をわずかに含む.		青磁.
108	67	甕	頸部	4 c	青灰色5PB6/1~5/1	微粒子を若干含む	外面: 回転ナデ, 格子状たたき, 内面: 回転ナデ, たたき	須恵器, 残存率1/7, 頸部径(12.85) cm.
108	68	甕	頸部	4 c	青灰色5PB5/1~暗青灰色5PB4/1, 器肉: 灰白色25Y7/1.	砂粒を若干含む.	外面: 回転ナデ, 内面上部: 回転ナデ, 内面下部: 横方向のナデ	須恵器.
108	69	杯	底部	4 c	灰白色N7/~灰色N6/	微粒子(白色)を含む	回転ナデ	須恵器, 残存率1/6, 底径(9.98) cm.
108	70	杯	底部	4 c	外面: 灰色N6/, 内面: 灰白色N7/.	細粒子(白色)を若干含む.	回転ナデ	須恵器, 残存率1/5, 底径(10.3) cm.
108	71	蓋	口縁部	4 c	青灰色5PB6/1	微粒子(白色等)を含む.	回転ナデ	須恵器.
108	72	皿	口~底部	4 c	外面: 黒褐色5YR3/1, 内面: 黒色75YR2/1.	微~細粒子(赤・白色等)を含む.	回転ナデ	土師器, 残存率1/6, 底径(12.25) cm.
108	73	杯	口縁部	4 c	外面: にぶい黄橙色10YR7/3, 内面: 黒色	微粒子を若干含む.	外面: 回転ナデ, 内面: ミガキ	黒色土器(内黒), 残存率1/6, 口径(12.5) cm.
108	74	杯	口縁部	4 c	外面: 浅黄橙色10YR8/3, 内面: 浅黄橙色75YR8/4, 口唇部: 橙色25YR7/6	微~細粒子(白・赤褐色等)を含む.		土師器.
108	75	杯	口縁部	4 c	浅黄橙色75YR8/4	微粒子(赤褐色等)を若干含む.	回転ナデ	土師器.
108	76	杯	口縁部	4 c	橙色25YR6/8	微粒子を若干含む.	横方向のミガキ	土師器.
108	77	杯	底部	4 c	浅黄橙色10YR8/3, 赤色10R4/8(赤色顔料).	微~細粒子を含む.	回転ナデ	土師器, 残存率1/2, 底径(5.05) cm, 赤色顔料.

付編Ⅱ 郡元団地O-7区(福利厚生施設建設地)における発掘調査報告

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・軸調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
108	78	杯	底部	4c	浅黄橙色10YR8/3~8/4, 底面: にぶい黄橙色10YR7/3.	微~砂粒を含む.	外面: 回転ナデ?	土師器, 残存率1/4, 底径(5.98) cm.
108	79	杯	底部	4c	浅黄橙色7.5YR8/3.	細粒子(赤褐色等)を含む.	内面: 回転ナデ	土師器, 残存率1/3, 底径(5.72) cm, 内面: 赤色顔料.
108	80	杯	底部	4c	浅黄橙色10YR8/3.	微粒子を若干含む.	回転ナデ?, 底面: 糸切り	土師器, 残存率1/4, 底径(9.38) cm.
108	81	杯	底部	4c	浅黄橙色7.5~10YR8/4.	微粒子を多く含む.	回転ナデ, 底面: 糸切り	土師器, 残存率1/4, 底径(7.7) cm.
108	82	杯	底部	4c	外面: 浅黄橙色7.5YR8/4, 内面: 浅黄橙色10YR8/4.	微~細粒子(赤褐色等)を含む.	内面: 回転ナデ?, 底面: 糸切り?	土師器.
108	83	杯	底部	4c	浅黄橙色10YR8/3	微~細粒子を含む.	内面: 回転ナデ	土師器.
108	84	杯	底部	4c	浅黄橙色10~7.5YR8/3	微~砂粒(赤褐色等)を含む.	回転ナデ, 底面: 糸切り?	土師器.
108	85	杯	底部	4c	外面: 浅黄橙色10YR8/3~淡黄褐色2.5Y8/3, 内面: 黒色7.5YR2/1, 赤褐色5YR4/8.	微~細粒子(赤褐色等)を含む.	回転ナデ, 底面: 糸切り	土師器.
108	86	杯	底部	4c	浅黄橙色10YR8/3.	微細粒を若干含む.	回転ナデ	土師器, 内面: 赤色顔料.
108	87	杯	底部	4c	浅黄橙色7.5YR8/6.	細~砂粒(赤褐色等)を多く含む.	回転ナデ?	土師器.
108	88	杯	底部	4c	浅黄橙色10YR8/3~8/4.	微~細粒子(赤褐色等)を含む.		土師器.
108	89	杯	底部	4c	橙色5YR7/6.	砂粒(赤褐色等)を含む.	回転ナデ	土師器.
108	90	杯	底部	4c	外面: 浅黄橙色10YR8/3, 内面: 浅黄褐色7.5YR8/3~8/4.	微~砂粒(赤褐色等)を含む.	回転ナデ, 底面: 糸切り	土師器.
108	91	杯	底部	4c	浅黄褐色7.5YR8/6.	細粒子(白・赤褐色等)と礫を含む.		土師器.
108	92	杯	底部	4c	外面: 浅黄褐色7.5YR8/4~8/6, 高台部分: 浅黄褐色7.5~10YR8/3, 内面: にぶい黄褐色10YR7/2.	細粒子(赤褐色等)を含む.	回転ナデ	土師器.
108	93	杯	底部	4c,5b	浅黄褐色10YR8/3.	微粒子, 細粒子~礫(赤褐色粒)を若干含む.	回転ナデ	土師器, 残存率1/6, 底径(10.0) cm.
108	94	杯	底部	4c	外面: 浅黄褐色10YR8/3, 内面: 灰白色2.5Y7/1.	微粒子(赤褐色等)を若干含む.		土師器, 残存率1/7, 底径(6.72) cm.
108	95	杯	底部	4c	外面: 橙色7.5YR7/6に類似, 内面: 黄褐色2.5Y5/3~5/4.	微~細粒子を若干含む.		土師器.
108	96	蓋	口縁部	4c	橙色7.5YR7/6.	細粒子を含む.	横方向のナデ?	土師器.
109	97	杯	完形	4C,4e	外面: 淡橙色5YR8/3.5, 内面: 灰白色10YR8/2~浅黄褐色10YR8/3.	細粒子~礫を多く含む.	回転ナデ, 底面: ヘラ切り	土師器, 口径13.5cm, 底径6.95cm, 器高4.3cm.
110	98	甑	口縁部	4c	外面: にぶい橙色5YR6/4, 内面: にぶい橙色5YR7/4.	微~砂粒を多く含む.	外面: ユビオサエのち横方向のナデ, 内面: 横方向のナデ	古墳時代.
110	99	甑	口縁部	4c	外面: 明赤褐色2.5YR5/6, 内面: 赤色10R5/6~4/6.	微~砂粒を多く含む.	横方向のナデ	古墳時代.
110	100	甑	口縁部	4c	外面: 浅黄褐色10YR8/3, 褐灰色10YR5/1, 内面: にぶい黄褐色10YR7/3, 褐灰色10YR5/1.	微~礫を多く含む.	口唇~口縁部: ヨコナデ, 外面: ハケ?	古墳時代.
110	101	甑	胴部	4c	外面: にぶい橙色7.5YR7/4, 浅黄褐色7.5YR8/3, 灰黄褐色10YR6/2, 内面: 浅黄褐色7.5~10YR8/4, にぶい橙色5YR7/4.	微~礫を多く含む.	内面: 縦方向のハケ?	古墳時代.
110	102	杯?	底部	4c	浅黄褐色10YR8/3.	細粒子(赤褐色等)を若干含む.	外面: 横方向のナデ?, 見込部: ヨコナデ	古墳時代, 残存率1/3, 底径(6.85) cm.
110	103	杯?	底部	4c	外面: 橙色5YR7/6, 内面: 褐灰色7.5YR5/1に近, 底部見込: 橙色2.5~5YR6/8.	微粒子と細~礫(赤色粒10R4/8)を含む.	外面: 横方向のナデ, 底部見込: ヨコナデ	古墳時代, 残存率1/2, 底径(6.38) cm, 底部見込: 赤色顔料.
110	104	甑	底部	4c	浅黄褐色7.5YR8/4~8/6.	細~礫を多く含む.		古墳時代, 底径5.78cm.

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・軸調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
110	105	甕	脚部	4 c	外面：灰白色10YR8/2, 淡橙色5YR8/4, 内面：浅黄褐色10YR8/3.	細～砂粒を多く含む.	内面：ハケ?	古墳時代, 残存率1/5, 底径(11.1) cm.
110	106	壺?	胴部	4 c	外面：橙色5YR7/6, 明赤褐色2.5YR5/8, 内面：橙色5YR7/6.	微～細粒子, 細～礫(赤色10R4/8)を多く含む.	内面：ユビオサエのち?	古墳時代.
110	107	壺	底部	4 c	外面：橙色5YR7/7, 浅黄褐色10YR8/3, 暗灰色N3/～黒色N2/, 内面：浅黄褐色7.5YR8/3, にぶい橙色7.5YR7/3.	細～礫を多く含む.	外面：ユビオサエ, 縦方向のナデ?	弥生中津野式, 残存率1/4, 底径(6.7) cm.
110	108	壺	底部	4 c	外面：橙色2.5YR7/8, 灰白色2.5Y8/2, 暗灰色N3/～黒色N2/, 内面：黄褐色10YR7/8～明黄褐色10YR6/8.	細～礫を多く含む.	ハケ	弥生中期, 底径5.42cm.
110	109	壺	底部	4 c	橙色5YR7/6～7/8.	細～礫を多く含む.	内面：ハケ	弥生中津野式.
110	110	杯	口縁部	4 c	外面：淡褐色5YR8/4, 内面：浅黄褐色7.5YR8/6.	微～細粒子(赤褐色粒)を含む.	横方向のナデ	土師器.
110	111	高杯	脚部	4 c	浅黄褐色7.5YR8/5.	細～砂粒を多く含む(赤褐色粒も若干含む)	ハケ?	古墳時代.
110	112	埴?	口縁部	4 c	内外面上部：灰色N5/, 内外面下部：灰白色2.5Y7/1.	微～粗砂粒を多く含む.	横方向のナデ?	古墳時代?.
110	113	甕	口縁部	4 c	灰褐色7.5YR4/2.	微～細粒子, 礫を含む.	横方向のナデ, 口唇部に刻み目	弥生土器前期?
110	114	甕	口縁部	4 c	外面：灰赤色2.5YR4/2, 内面：にぶい橙色7.5YR7/4.	細粒子～礫を多く含む.	外面：ユビオサエ, 内面：ユビオサエのちハケ?	弥生土器中期.
110	115	甕	口縁部	4 c	橙色5YR7/6.	細～砂粒を多く含む.	ヨコナデ	弥生土器中期.
110	116	甕	胴部	4 c	外面：橙色5～7.5YR7/6, 内面：黄灰色2.5Y6/1.	細～粗砂粒(白色等)を多く含む.	外面：櫛描波状文	弥生土器中期.
110	117	甕	底部	4 c	にぶい黄褐色10YR7/3.	細～砂粒を含む.	摩滅のため不明.	弥生土器中期. 底径9.5 cm.
110	118	ふいこの羽口		4 c	外面：暗赤褐色2.5YR3/3, 内面：暗赤褐色10R3/2～極暗赤褐色10R2/2.	微～細粒子をわずかに含む.		ガラス質の付着物あり.
110	119	ふいこの羽口		4 c	外面：黒色N2/, 内面：浅黄褐色10YR8/4.	微～細粒子を若干, 礫をわずかに含む.		ガラス質の付着物あり.
110	120	土錘		4 c	赤褐色10R6/6.	微～細粒子(赤・白色粒等)を含む.	ナデ?	長さ; 2.85 + a cm, 幅1.75 cm, 重さ4.75g.
110	121	土錘		4 c	浅黄褐色10YR8/3, 褐灰色10YR6/1, にぶい橙色5YR6/4.	微粒子を多く含む, 粗砂粒(赤褐色等)をわずかに含む.	ナデ?	長さ; 4.05 + a cm, 幅1.5 cm, 重さ7.6g.
110	122	銃弾		4 c	青灰色5PB6/1に類似.			長さ; 2.7cm, 幅1.3cm, 重さ29.0g.
110	123	銅銭		4c?				寛永通寶, 重さ; 3.18g.
111	124	杯?	底部	4d,5b	外面：橙色2.5YR6.5/8, 内面：赤褐色2.5YR4/8.	微粒子, 細～粗砂粒(赤褐色)を含む.	回転ナデ	土師器. 底径; (7.5) cm, 内面：赤色顔料.
112	125	皿	口縁部	4 e	緑色を帯びた半透明軸, 貫入.	微粒子(白色)をわずかに含む.		磁器.
112	126	甕	口縁部	4 e	外面：青灰色5PB5/1, 内面：青灰色5PB6/1～5/1.	細～粗砂粒を含む.	回転ナデ	須恵器, 残存率1/6, 口径(18.15) cm.
112	127	杯?	口縁部	4 e	浅黄褐色7.5YR8/4～にぶい橙色7.5YR7/4.	微粒子を若干含む.	回転ナデ	土師器.
112	128	杯?	口縁部	4 e	外面：橙色5YR7/6, 内面：黒色N2/.	微粒子, 粗砂粒(赤褐色)を含む.	外面：回転ナデ, 内面：ミガキ	黒色土器(内黒).
112	129	杯	底部	4 e	外面：橙色5YR7/6, 内面：黒色N2/.	微～細粒子(赤褐・白色等)を含む.	外面：回転ナデ, 内面：ミガキ	黒色土器(内黒), 残存率2/3, 底径(6.65) cm.
112	130	壺	胴部	4 e	外面：淡褐色5YR8/4～にぶい橙色5YR7/4, 内面：橙色5YR7/6.	砂粒を多く含む.	突帯部：横方向のナデ, 突帯上部：縦方向のナデ	弥生土器.
112	131	埴	頸部	4e,5a	外面：にぶい橙色5YR6/4～黒色N2/, 内面：赤色10R5/7.	細～砂粒を多く含む.	外面：横方向のナデ?	古墳時代. 頸部径; 6.8 cm.
112	132	土錘		4 e	浅黄褐色7.5YR8/6, 灰白色10YR7/1.	微粒子(赤褐色等)を含む.		糸痕?, 最大径1.4cm, 長さ3.75cm, 重さ5.67g.

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・軸調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
113	133	鉢	口縁部	5 a	オリーブ灰色10Y6/2~5/2の半透明軸, 器肉: 灰白色N7/に類似.	微粒子を若干含む.	回転ナデ	陶器.
113	134	不明	口縁部	5 a	外面: オリーブ灰色10Y6/2~5/2, 内面: 暗オリーブ灰色2.5GY4/1~3/1, 器肉: 黒褐色7.5YR3/2.	微粒子を若干含む.	回転ナデ, 口唇部軸拭き取り	陶器, 風化している.
113	135	不明	口縁部	5 a	灰白色N8/~7/.	微~細粒子を含む.	回転ナデ	瓦質の土器.
113	136	甃	口縁部	5 a	自然軸, 暗オリーブ灰色2.5GY3/1~黒色2.5GY2/1, 器肉: 灰白色N7/に類似.	微~細粒子を若干含む.	回転ナデ	須恵器.
113	137	埴?	口縁部	5a,5b	赤褐色5YR4/8, 浅黄橙色10YR8/3.	細粒子, 粗砂粒を若干含む.	横方向のナデのちミガキ	古墳時代?.
113	138	不明	底部	5 a	外面: 橙色5YR7/8, 内面: 黄橙色7.5YR8/8~7/8.	微粒子, 砂粒(赤褐色)を含む.	回転ナデ?	土師器.
113	139	不明	底部	5 a	橙色5YR7/8~6/8.	微粒子, 砂粒(赤褐色)を若干含む.	回転ナデ	土師器.
113	140	甃	口縁部	5 a	外面: 暗赤褐色10R3/3(赤色顔料), 内面: 橙色5YR7/6~6/6.	細粒子~礫を含む.	横方向のナデ	古墳時代, 外面: 赤色顔料.
113	141	甃	胴部	5 a	にぶい黄橙色10YR6/3.	細~粗砂粒を含む.	外面: 縦方向のハケ, 突帯部: ユビによるつまみ出し	古墳時代.
113	142	甃	底部	5 a	外面: にぶい橙色5YR6/4, 内面: 明赤褐色5YR5/6, 黒色, 脚部見込: にぶい黄橙色10YR7/3.	細~砂粒を多く含む.	ユビオサエのちナデ, 内面にモミ痕?	弥生時代中津野式?, 残存率1/3, 径(8.0)cm.
113	143	甃	底部	5 a	外面: にぶい橙色5YR7/4, 脚部見込: にぶい橙色7.5YR6/4.	細粒子~礫(赤褐色等)を多く含む.	外面: 縦方向のヘラによるナデ, 脚部見込: ユビオサエのちナデ	古墳時代, 残存率1/3, 径(6.4)cm.
113	144	甃	底部	5 a	外面: 浅黄橙色10YR8/3, 内面: 浅黄橙色10YR8/3, 橙色5YR6/7.	細粒子~礫(赤褐色等)を含む.	外面: ナデ?, 内面: ハケ	古墳時代.
113	145	小型甃	底部	5 a	外面: 灰白色10YR8/2, 橙色5YR7/6, 内面: 灰白色10YR8/2.	微~砂粒を含む.	外面: ユビオサエのちナデ?, 脚部見込: ヨコナデ.	底径3.28cm.
113	146	壺	頸部	5 a	外面: 黒褐色2.5YR3/1に類似, 内面: 橙色5YR6/6.	微~砂粒を含む.	外面: 横方向のナデ, 突帯下部: 縦のち横方向のナデ?, 内面: ユビオサエのち横, 斜方向のハケ?	弥生土器?.
113	147	壺	頸部	5 a	外面: にぶい橙色7.5YR7/4, 内面: 褐灰色7.5YR4/1.	微~砂粒を含む.	外面: 横方向のナデ	弥生土器?.
113	148	壺	底部	5 a	外面: 黒色N2/, 暗灰色N3/, 内面: 黄灰色2.5Y5/1~4/1.	微~砂粒を含む.	外面: ハケ?, 内面: 横方向のハケ	弥生土器?.
113	149	壺	底部	5 a	外面: 暗灰黄色2.5Y5/2に類似, 内面: 黒褐色10YR2/3に類似.	微~砂粒を多く含む.	外面: ハケ?, 内面: ユビオサエのちナデ?	弥生土器?.
113	150	高杯	杯部	5 a	橙色5YR6/8.	微~細粒子(赤褐色等)を含む.	横方向のミガキ	
114	151	甃	口縁部	5 b	青黒色5PB1.7/1に類似.	微粒子をわずかに含む.	回転ナデ?	須恵器.
114	152	蓋	口縁部	5 b	青灰色5PB5/1.	微~粗砂粒を含む.	回転ナデ	須恵器.
114	153	蓋	口縁部	5 b	灰色N5/~4/.	細粒子~礫を含む.	回転ナデ	須恵器.
114	154	蓋	口縁部	5 b	暗青灰色5PB5/1~4/1に類似.	微~砂粒を若干含む.	回転ナデ	須恵器.
114	155	蓋	口縁部	5 b	緑灰色5G6/1~5/1.	微~細粒子, 粗砂粒を若干含む.	回転ナデ	須恵器.
114	156	杯	口縁部	5 b	橙色5YR7/6.	微粒子を若干含む.	回転ナデ	土師器.
114	157	杯	口縁部	5 b	明赤褐色2.5YR5/8.	微粒子, 砂粒(赤褐色)をわずかに含む.	回転ナデのち横方向のミガキ	土師器.
114	158	杯	口縁部	5 b	橙色5YR7/8.	微粒子, 細粒子(赤褐色)を若干含む.	回転ナデのち横方向のミガキ?	土師器.
114	159	蓋?	口縁部	5 b	外面: 橙色5YR6/8~明赤褐色5YR5/8, 内面: 橙色2.5YR6/8.	微~砂粒を含む.	外面: ナデのちミガキ?, 内面: 回転ナデ	土師器.

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
114	160	蓋?	口縁部	5 b	橙色7.5YR6/6~明褐色7.5YR5/6.	微~砂粒を若干含む.	回転ナデ?	土師器.
114	161	甕	口縁部	5 b	外面:淡橙色5YR8/4,内面:浅黄褐色7.5YR8/4,淡橙色5YR8/4.	微粒子~礫(赤色等)を多く含む.	外面:縦のち横方向のナデ,内面:横方向のナデ,ユビオサエ	弥生土器中津野式.
114	162	甕	胴部	5b,(5c,4e)	外面:橙色5YR6/6~6/8,灰黄褐色10YR5/2,内面:橙色5YR6/6~6/8.	微~砂粒を含む.	外面上部:横方向のナデ,外面下部:縦方向のハケのちユビオサエ,内面:横方向のナデ	弥生土器中津野式.
114	163	甕	口縁部	5 b	外面:暗赤色10R3/6,内面:にぶい橙色7.5YR6/4.	微~砂粒を多く含む.	横方向のハケ	古墳時代.
114	164	甕	口縁部	5 b	外面:灰褐色5YR4/2,黒褐色5YR3/1,内面:にぶい橙色5YR7/4,にぶい赤褐色5YR5/4.	微~砂粒を多く含む.	外面:縦方向のナデ,内面:右下斜方向のハケ	古墳時代.
114	165	甕	口縁部	5 b	外面:にぶい橙色5YR7/4,内面:にぶい橙色7.5YR7/4.	微~粗砂粒を含む.	外面:縦方向のハケ?	古墳時代.
114	166	甕	口縁部	5 b	外面:黒色7.5YR1.7/1,内面:にぶい橙色7.5YR7/4.	微~砂粒を若干含む.	ユビオサエ	古墳時代.
114	167	甕	胴部	5 b	外面:にぶい黄褐色10YR7/4,内面:浅黄褐色10YR8/3.	微~砂粒を多く含む.	突帯部:ユビつまみ出し,内面:ユビオサエ,縦方向のハケ	古墳時代.
114	168	甕	胴部	5 b	外面:黒色7.5YR1.7/1,内面:褐灰色10YR4/1.	微~砂粒を多く含む.	突帯部:ユビオサエ,ハケ	古墳時代.
114	169	甕	胴部	5 b	外面:褐灰色7.5YR4/1,黒色,内面:黄灰色2.5Y6/1~5/1.	微~砂粒,礫を含む.	外面:ユビオサエ,突帯部:横方向のナデ,内面:ナデ?	古墳時代.
114	170	甕	底部	5 b	にぶい橙色7.5YR7/4.	微~粗砂粒を多く含む.	外面:ハケ?	弥生土器中津野式?,内面:赤色顔料.
114	171	甕	底部	5 b	浅黄褐色10YR8/3,にぶい橙色7.5YR7/3,灰白色10YR8/2.	微粒子~礫を含む.	ユビオサエのちナデ?	弥生土器中津野式?.
114	172	甕	底部	5b,5c	外面:にぶい橙色5YR7/4~橙色5YR7/6,脚部見込:褐灰色10YR6/1.	細粒子~礫を多く含む.	ユビオサエのちナデ	弥生土器中津野式?.
114	173	甕	底部	5 b	外面:灰白色10YR8/1~8/2,橙色5~7.5YR7/6,褐灰色10YR4/1,脚部見込:浅黄褐色7.5YR8/3.	微~粗砂粒を含む.	ユビオサエ,ハケ?	古墳時代,残存率1/3.
114	174	甕	底部	5 b	外面,脚部見込:浅黄褐色7.5~10YR8/3,内面:褐灰色7.5YR5/1.	細~砂粒を含む.	外面:ハケ?,内面:ナデ,脚部見込:ナデ,ユビによって中央に凸部を作りだしている	古墳時代.
114	175	壺	胴部	5 b	外面:突帯より上:褐灰色7.5YR6/1,突帯より下:褐灰色7.5YR4/1,内面:にぶい橙色5~7.5YR7/4.	細粒子,礫を多く含む.	外面:突帯より上:ナデ,突帯より下:ハケ,内面:ナデ?,もみ痕?	古墳時代.
114	176	壺	胴部	5 b	橙色5YR7/6.	微~砂粒を多く含む.	外面:横方向のナデ	古墳時代.
114	177	壺	底部	5 b	外面:にぶい橙色5YR7/4,橙色5YR7/6,内面:灰黄褐色10YR6/2.	細粒子~礫を多く含む.	外面:横方向のナデ,ユビオサエ,ハケ	弥生土器中期?,底径6.9cm.
114	178	壺	底部	5 b	外面:にぶい赤褐色2.5YR4/4,内面:浅黄褐色7.5YR8/6.	細粒子~礫を多く含む.	外面:ハケ,内面:ナデ?	古墳時代.
114	179	壺	底部	5 b	外面:灰褐色7.5YR5/2~褐灰色7.5YR4/1,内面:にぶい橙色7.5YR6/4.	細~砂粒を含む.	外面:ナデ?,ユビオサエ,内面:ハケ?	古墳時代.
115	180	高杯	杯部	5 b	外面:橙色7.5YR7/6,内面:橙色5YR6/6~6/8.	微~砂粒を含む.	横方向のナデ?	古墳時代.
115	181	高杯	脚部	5 b	外面:黒褐色2.5Y3/1~黒色2.5Y2/1,内面:浅黄褐色10YR8/3.	微~砂粒を多く含む.	ハケのちナデ?	古墳時代.
115	182	高杯	脚部	5 b	外面:黄褐色10YR8/6,内面:橙色7.5YR7/6~黄褐色7.5YR7/8.	微~砂粒を多く含む.	ハケ?	古墳時代.

付編Ⅱ 郡元団地O-7区(福利厚生施設建設地)における発掘調査報告

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・軸調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
115	183	高杯	脚部	5 b	浅黄橙色7.5YR8/6~黄橙色7.5YR8/8.	微~砂粒を含む.	横方向のナデ	古墳時代.
115	184	埴	口縁部	5 b	外面: にぶい橙色5YR7/4, 内面: 橙色5YR7/6.	微~砂粒(赤褐色等)を含む.	外面: ナデ?, 内面: 横方向のナデ	古墳時代.
115	185	埴	頸部~底部	5 b	外面上部: 暗青灰色5B4/1, 外面下部, 内面: 浅黄橙色10YR8/4~にぶい黄橙色10YR7/4.	微~砂粒を多く含む.	横方向のナデ?	古墳時代.
115	186	甃	口縁部	5 b	黒色N2/, にぶい黄橙色10YR7/3.	細~砂粒を含む.	ヨコナデ	弥生土器中期.
115	187	甃	口縁部	5 b	浅黄橙色10YR8/3.	微~砂粒, 礫を含む.	ヨコナデ, ユビオサエ	弥生土器中期.
115	188	甃	口縁部	5 b	浅黄橙色10YR8/3.	微~砂粒を含む.	ヨコナデ	弥生土器中期.
115	189	壺	胴部	5 b	外面上部: にぶい褐色7.5YR5/4, 褐色7.5YR4/4, 外面下部: 黒褐色7.5YR3/1, 黒色7.5YR2/1, 内面: にぶい橙色7.5YR7/4~6/4.	微~細粒子, 粗砂粒を含む.	外面: ナデ, ヘラ刻み目, 内面: ハケ	弥生土器後期?.
115	190	甃	胴部	5 b	外面: 褐灰色7.5YR4/1, 突部: 浅黄橙色7.5YR8/4, 内面: 灰褐色7.5YR4/2.	細~砂粒を多く含む.	外面: 右下斜方向のナデ?, 突部: ナデ, 内面: ナデ	古墳時代.
115	191	壺	胴部	5 b	外面: 暗赤褐色5YR3/2, 内面: 褐灰色7.5YR5/1~4/1.	微~砂粒を含む.	外面: ユビオサエ, ナデ?, 内面: ナデ?	古墳時代.
115	192	甃	脚部	5 b	外面: 黄橙色10YR8/6, 内面: 浅黄橙色10YR8/3, 橙色5YR7/6.	細~粗砂粒を多く含む.	外面: 横方向のナデ?, 内面: ハケ?	古墳時代.
115	193	高杯	口縁部	5 b	橙色5YR7/6(赤色顔料).	微~砂粒(赤褐色等)を含む.	横方向のナデ	古墳時代, 赤色顔料.
115	194	高杯	口縁部	5 b	明赤褐色2.5YR5/8.	微~細粒子(赤褐色等)を若干含む.	横方向のナデのちミガキ?	古墳時代.
115	195	高杯	脚部	5 b	浅黄橙色10YR8/3.	微~細粒子を多く含む.	ユビオサエのち横方向のナデ	古墳時代.
115	196	皿	口縁部	5 b	外面: 暗灰色N3/, 内面: 灰白色N7/~灰色N6/.	微~細粒子を多く含む.	横方向のナデ?	古墳時代.
115	197	壺	胴部	7	浅黄橙色7.5YR8/3.	細~砂粒を多く含む.	外面: ハケ?, 刻み目突部, 内面: 横方向のナデ	弥生土器中津野式.
116	198	皿	口縁部	不明	内面: 灰オリーブ色7.5Y5/2~4/2, 器内: 暗青灰色5PB4/1.	微粒子を若干含む.	回転ナデ	陶器, 風化している.
116	199	羽釜	胴部	不明	施軸部分: 暗褐色7.5~10YR3/4, 外面無施軸部分: 褐灰色10YR5/1, 内面無施軸部分: にぶい赤褐色2.5YR5/3.	微~細粒子(白色等)を若干含む.	回転ナデ	陶器, 残存率1/8, 最大径(12.38) cm.
116	200	不明	胴部	カクラン	オリーブ灰色10Y6/2の半透明軸, 器内: 明青灰色5PB7/1.	微粒子をわずかに含む.	外面: 蓮弁文	青磁.
116	201	不明	底部	カクラン	橙色5YR7/8~6/8.	微粒子, 砂粒(赤褐色)を若干含む.	回転ナデ	土師器.
116	202	甃	口縁部	カクラン	外面: にぶい黄橙色10YR7/4, 口縁部: 褐灰色10YR5/1, 内面: 灰黄褐色10YR6/2.	微~砂粒を含む.	ナデ	古墳時代.
116	203	甃	脚部	不明	外面: 橙色7.5YR7/6~6/6, 内面: にぶい橙色7.5YR6/4.	微~粗砂粒を含む.	ユビオサエのちナデ	古墳時代.
116	204	甃	脚部	カクラン	にぶい黄橙色10YR7/3~7/4.	微~粗砂粒を若干含む.	ユビオサエのちナデ	古墳時代.

# 付編Ⅲ 中央図書館南側樹木移植及び撤去 工事に伴う立合調査における出土 遺物について

ここでは、平成4年12月17・18日に実施した立合調査で出土した遺物について説明を行う。調査については、埋蔵文化財調査室年報Ⅷで報告を行っているが、ここで紹介する遺物はE地点として報告した場所から出土したものである。E地点は教養部文科研究室棟の東側にあり、周辺ではその北側に釘田第1地点として知られる古墳時代の住居跡が多く検出した遺跡がある。

遺物は、地表下80cmから露出した5層、黒褐色砂質シルト層から出土している。土器片が多数出土したが、ここでは図示できるものについてのみ説明を行う。

1は甕形土器の口縁部で、胴部からまっすぐに立ち上がる器形を呈する笹貫式と呼ばれるものであろう。口唇部は内外面からユビオサエを施されており、端部が細くなっている。2は甕形土器の胴部の突帯で、大きな刻みを施している。突帯は

断面は三角形だが、かなり下向きで突帯端部はシャープな角をなさず、面になっている。これらのくせから、古墳時代の甕の突帯であると判断できる。

3・4は高杯である。3は少し外側にそりながら直立する杯部の口縁部で、外面には赤色顔料が添付されている。ミガキを施しているようであるが、磨滅して、ミガキの単位などはわからない。4は脚の上部で、外面には横方向の細かいミガキを施している。5は埴の肩部から頸部付近の土器片で、頸部は少し外側に開くように屈曲している。外面には赤色顔料が付着し、細かい横方向のミガキを施されている。

いずれの土器も、古墳時代の新しい時期に比定できるもので、周辺で発見されている住居跡の時期とも符合するものである。

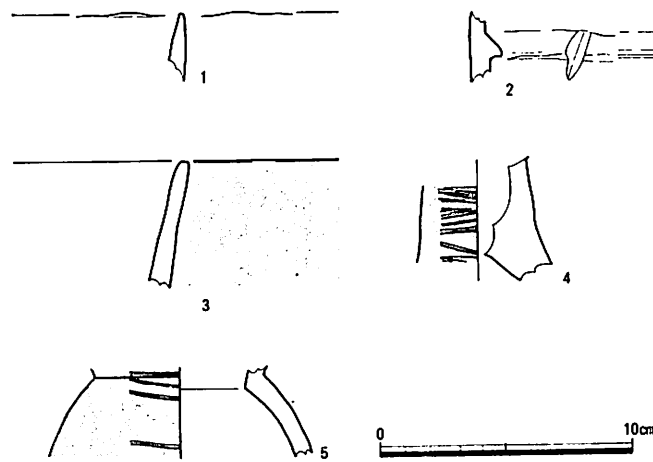


Fig.115 出土遺物 S=1/3

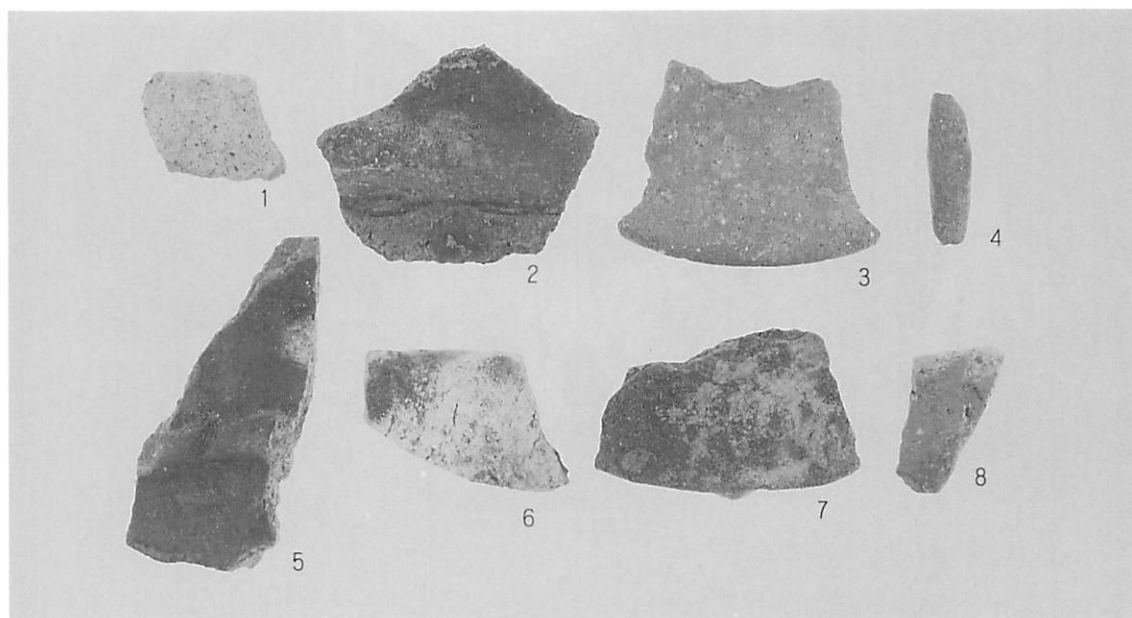
Tab.11 遺物観察表

Fig	No.	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
115	1	甕	口縁部	5層	外面；にぶい褐色7.5YR5/4. 内面；橙色5YR6/6.	細砂粒を含む。白色粒、赤色粒、透明な砂粒を含む。	ナデ。	古墳時代の土器。
115	2	甕	突帯	5層	外面；にぶい黄橙色10YR6/3・黒色N2/. 内面；にぶい黄橙色10YR7/4.	微細な砂粒を含む。白色粒、赤色粒、透明な砂粒を含む。	ナデ。	
115	3	高杯	口縁部	5層	外面；にぶい赤褐色2.5YR5/4 (赤色顔料)。磨滅している。内面；灰色5Y6/1.	砂粒を少し含む。白色粒、赤色粒。	外面；ミガキ。内面；ハケのちナデ。	古墳時代の土器。外面；赤色顔料。
115	4	高杯	脚部	5層	外面；赤色10R4/6 (赤色顔料)。内面；灰黄褐色10YR5/1.	微細な砂粒を含む。赤色粒、白色粒、透明な砂粒。	外面；横方向のミガキ。内面；ナデ。	古墳時代の土器。外面；赤色顔料。
115	5	埴	頸部	5層	外面；赤色10R4/6 (赤色顔料)。内面；にぶい黄褐色10YR7/2.	微細な砂粒を含む。白色粒。	外面；横方向のミガキ。内面；ナデ。	古墳時代の土器。頸部径(6.8) cm。外面；赤色顔料。

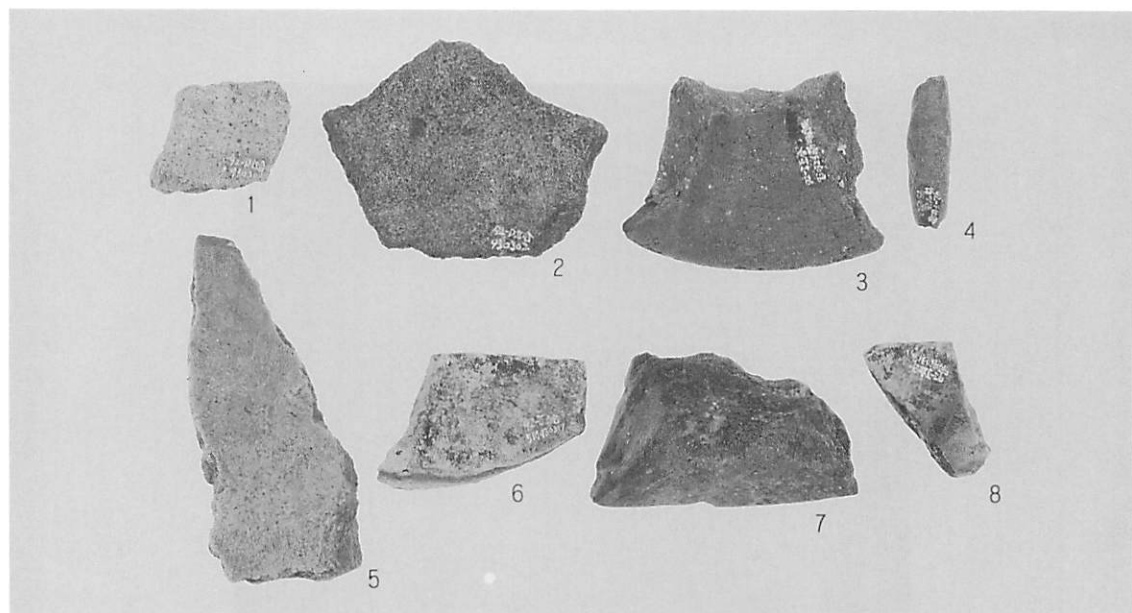


# 版 圖

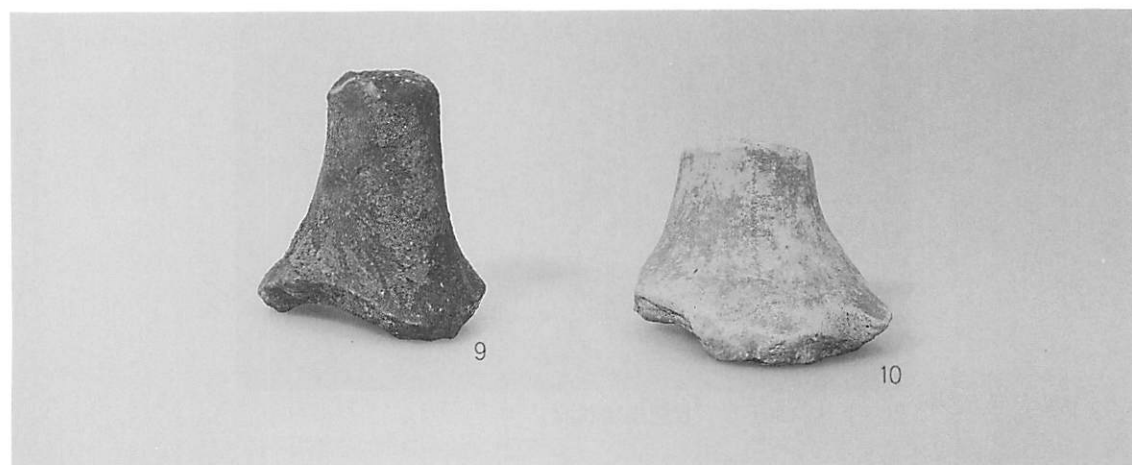
PL.1 平成4年度立合調査



1. 出土遺物1 (表)



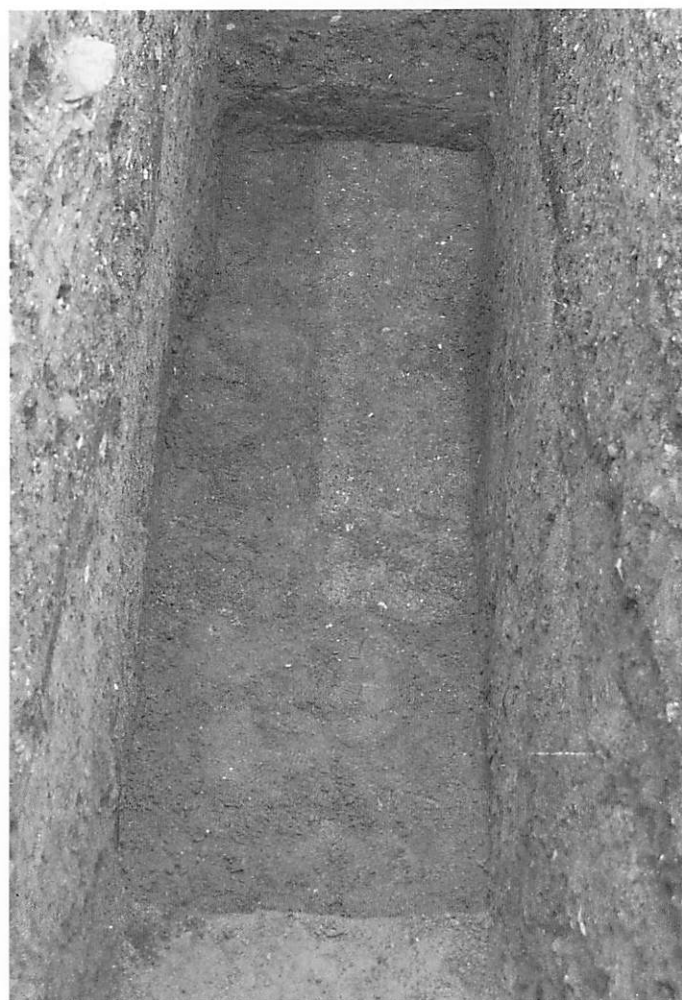
2. 出土遺物1 (裏)



3. 出土遺物2



1. 調査地点



2. 1トレンチ5・6層検出状況

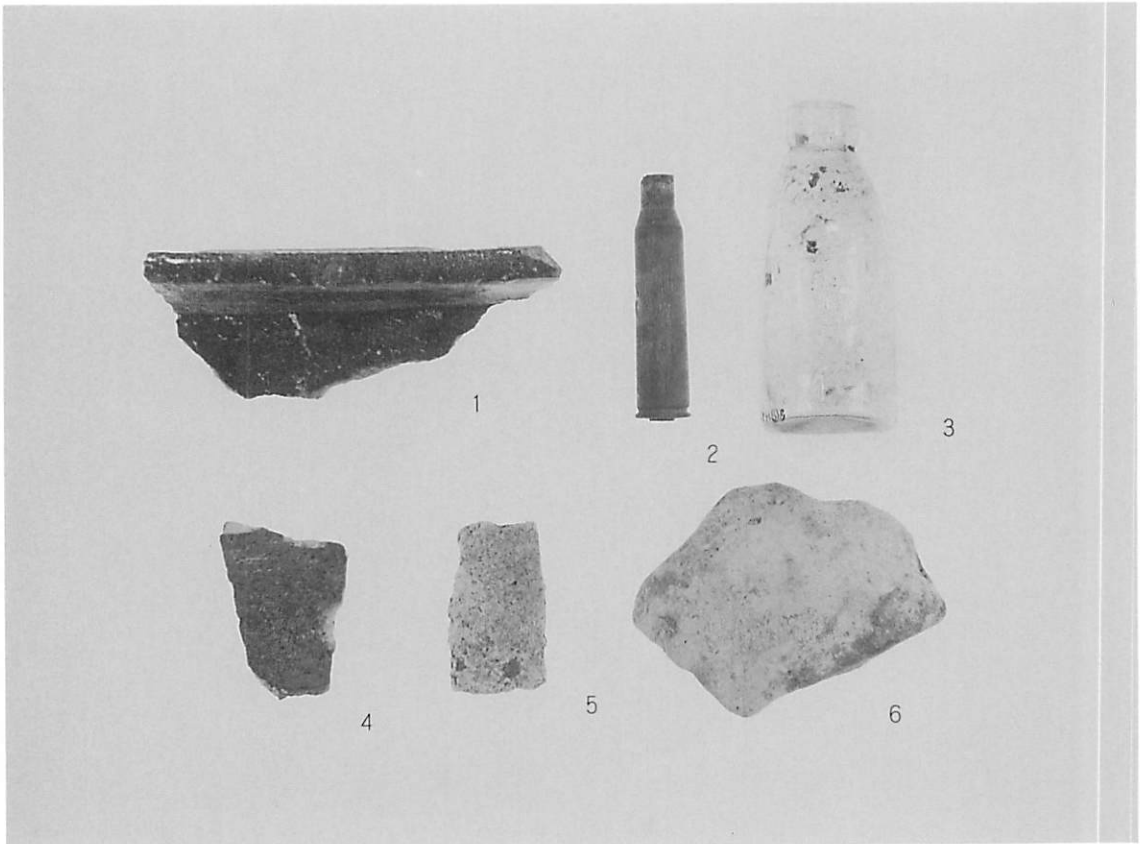
PL.3 教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設地における試掘調査（2）



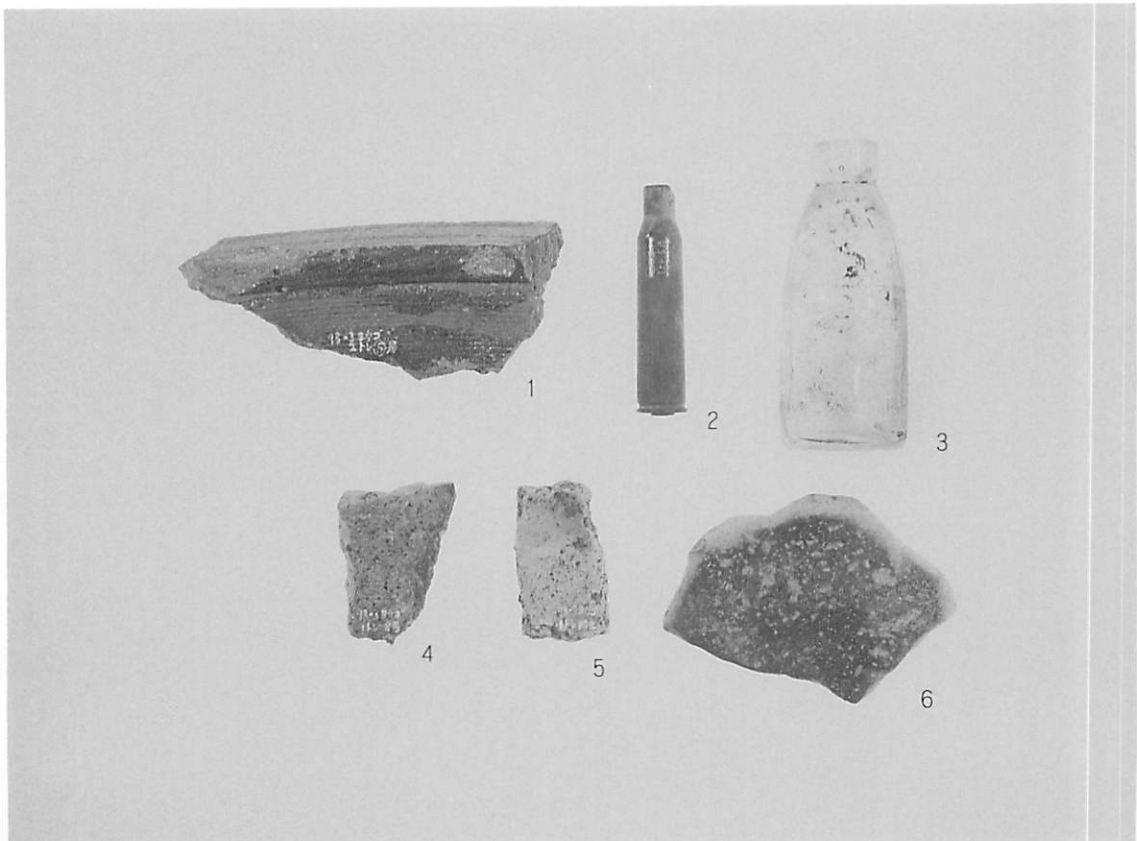
1. 1トレンチ西壁



2. 2トレンチ西壁



1. 出土遺物（表）



2. 出土遺物（裏）

PL.5 郡元団地M・N-3・4区（水泳プール建設地）における試掘調査（1）



1. 調査地点（1トレンチ）



2. 調査地点（2トレンチ）



3. 1トレンチ北壁



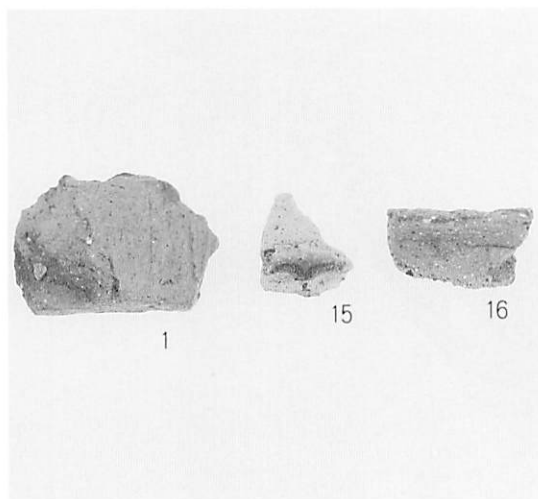
1. 2トレンチ東壁



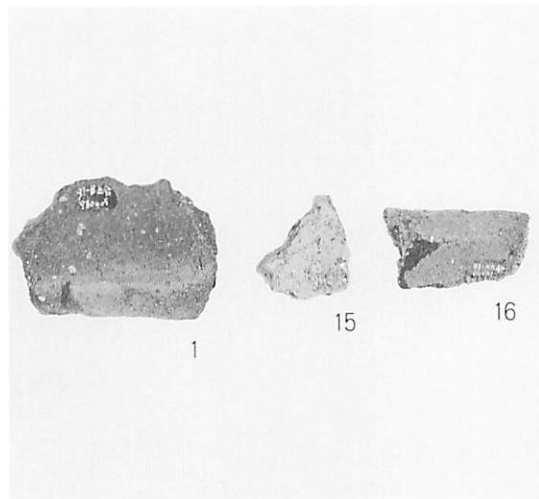
2. 1トレンチ完掘状況



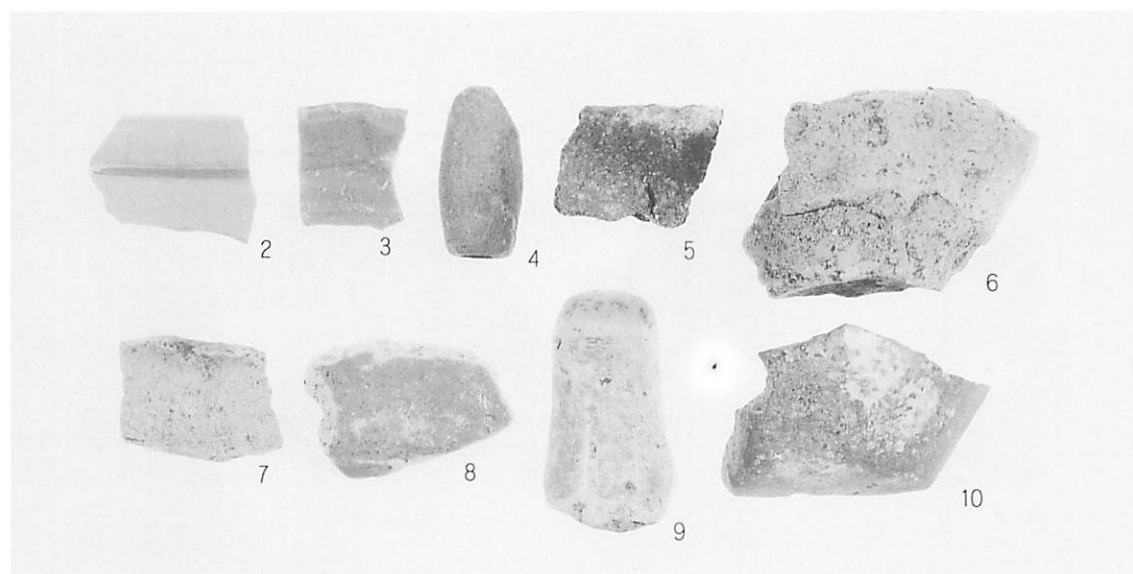
3. 2トレンチ完掘状況



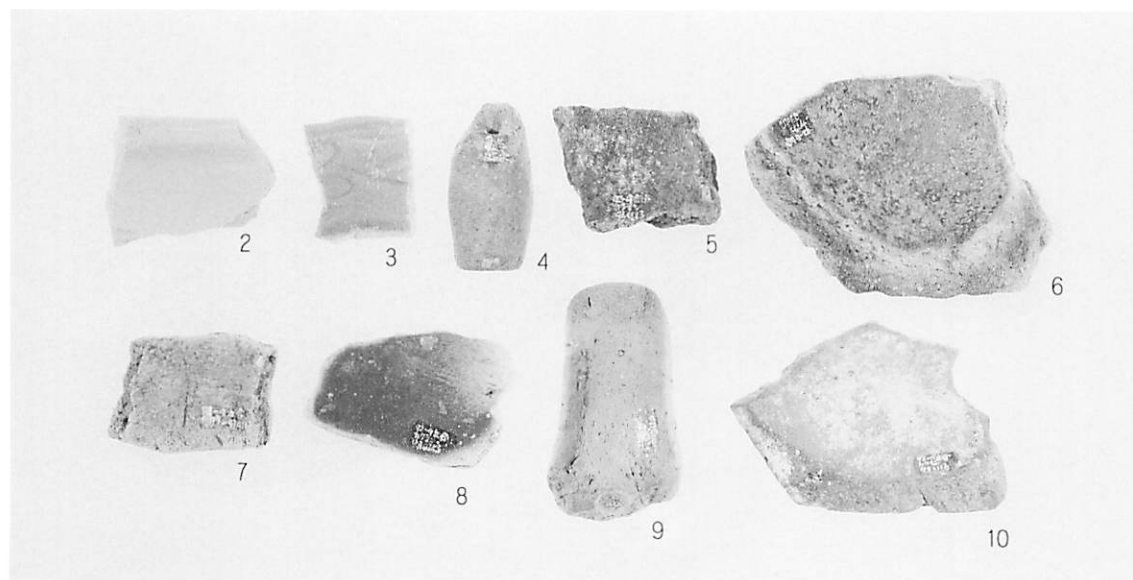
1. 出土遺物1(表)



2. 出土遺物1(裏)

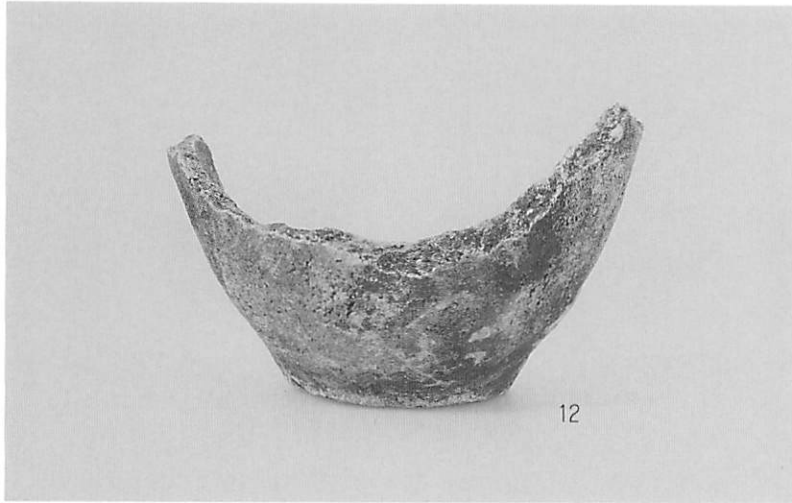


3. 出土遺物2(表)

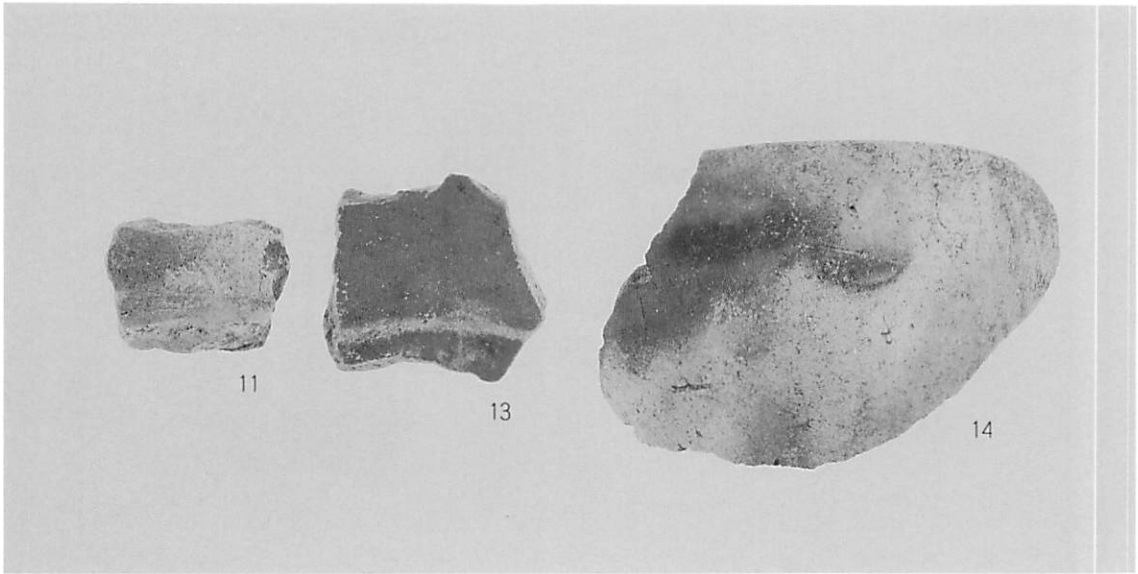


4. 出土遺物2(裏)

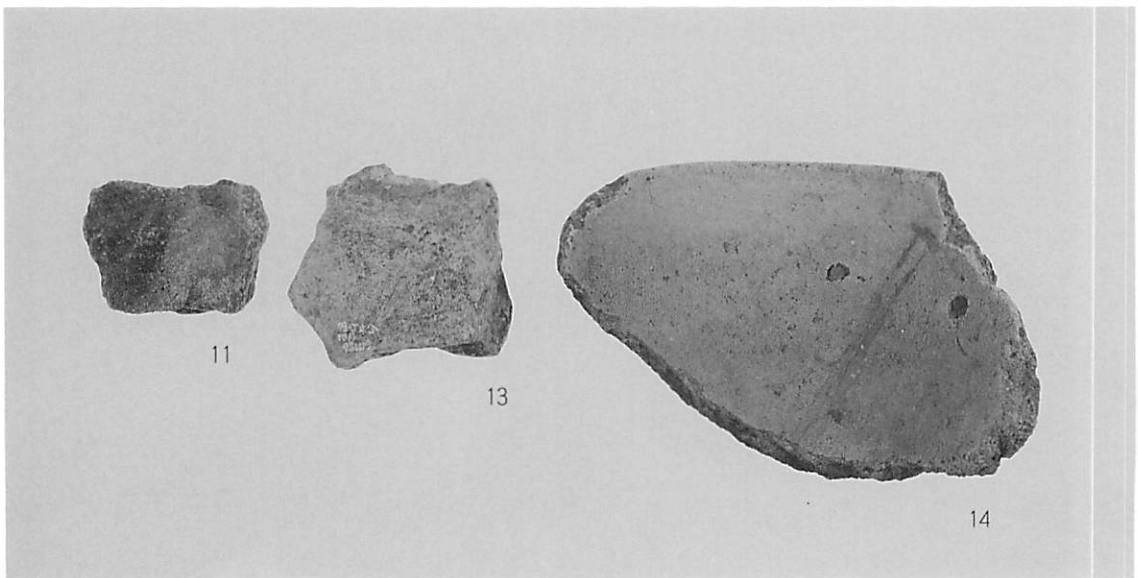




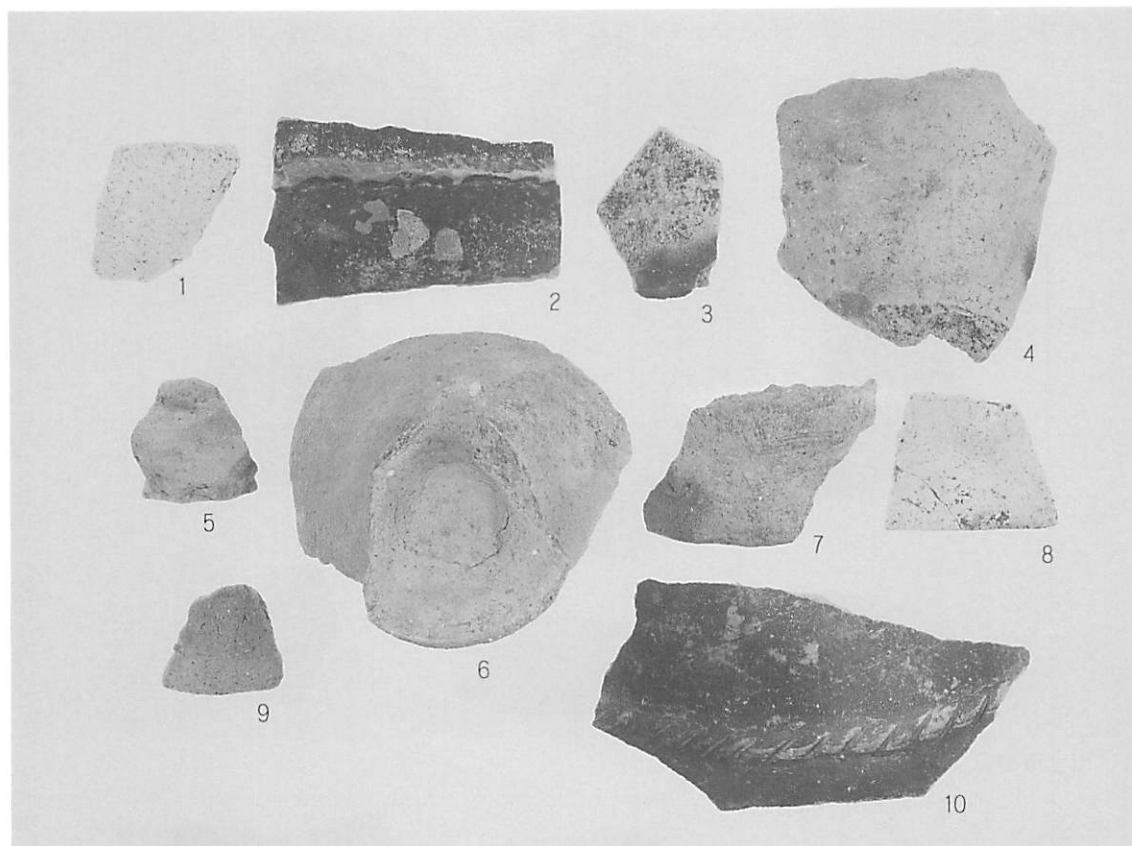
1. 出土遺物3 (側面)



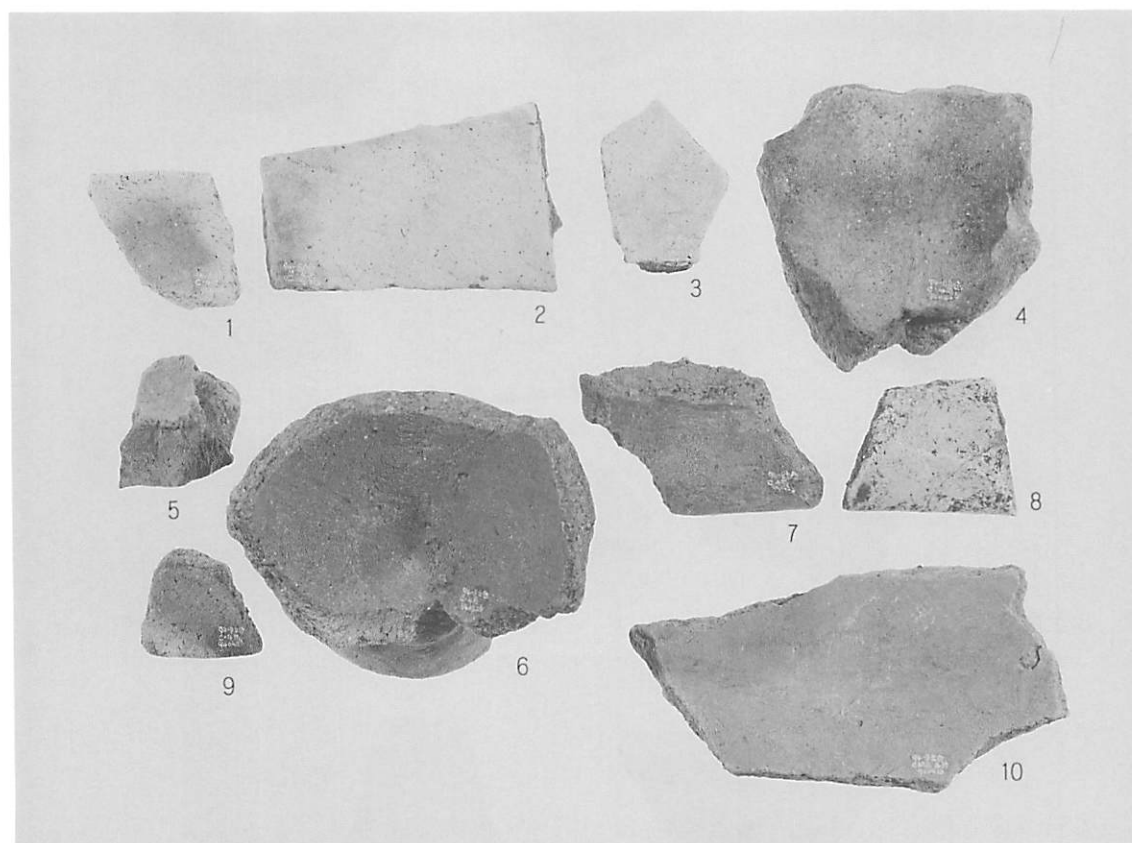
2. 出土遺物4 (表)



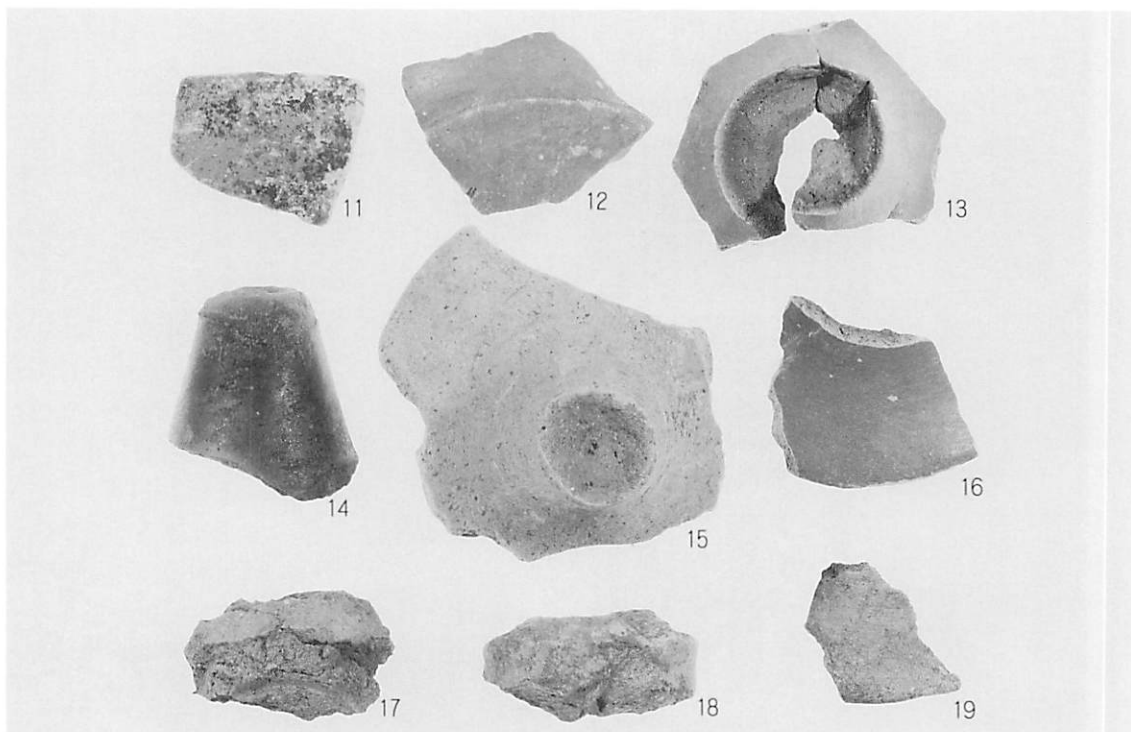
3. 出土遺物4 (裏)



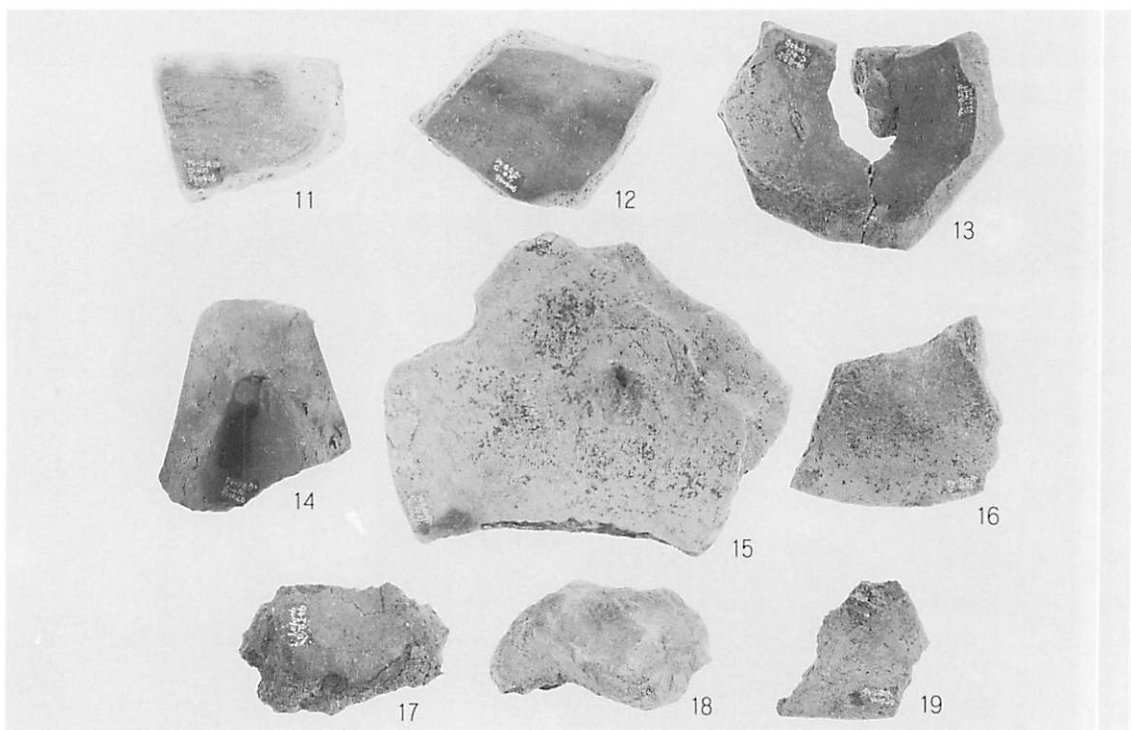
1. 出土遺物1(表)



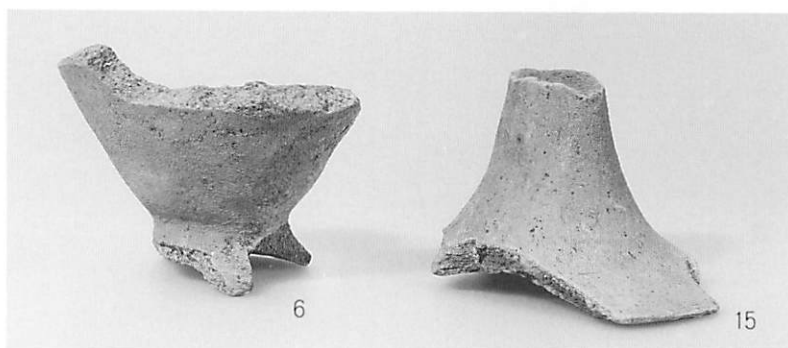
2. 出土遺物1(裏)



1. 出土遺物 2 (表)



2. 出土遺物 2 (裏)



3. 出土遺物 2 (側面)



1. ㊸-e区南壁



2. ㊹-e区南壁



1. ⑤-c区西壁



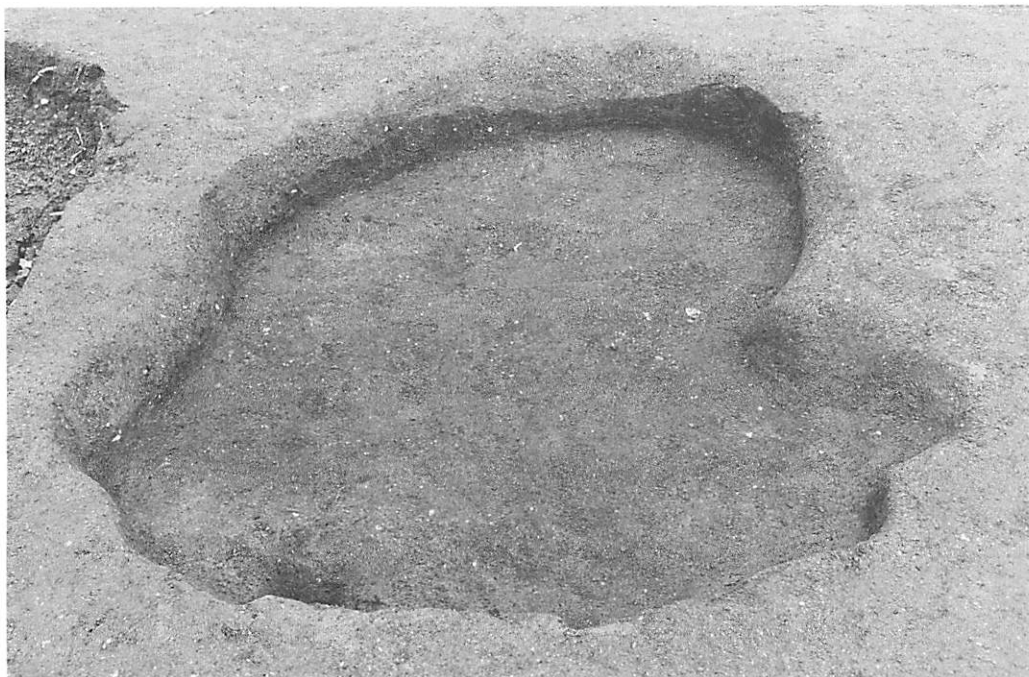
2. ⑦-b区南壁



1. 3b層上面畝検出状況



2. 3b層上面畝完掘状況



3. SKI完掘状況



1. SK6完掘状況



2. SD1完掘状況



3. SD2遺物出土状況



1. SD 2 遺物出土状況



2. SD 2 完掘状況



3. SD 3, SK 4 完掘状況





1. P1・2・3完掘状況



2. P2断面



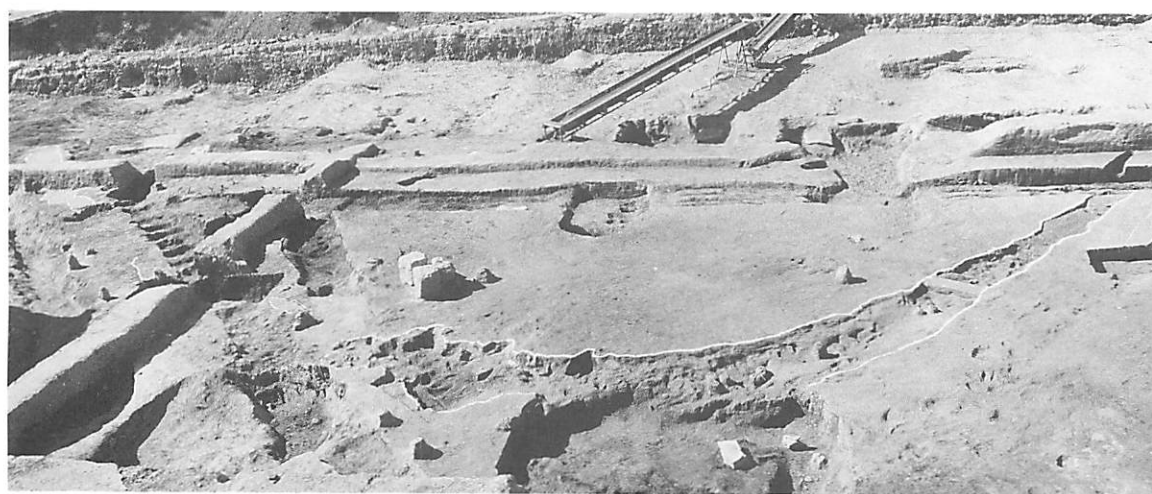
3. SD4断面



1. SD 4 完掘状況



2. SK 5, SD 6 完掘状況



3. SD 6 完掘状況



1. SD7断面（南）



2. SD7断面（北）



3. SD7完掘状況



1. SD 8 検出状況



2. SD 8 完掘状況



3. SD 9～11, ピット検出状況



1. ⑧・⑨-c区5b層検出状況



2. P23・24検出状況



3. P23・24完掘状況



1. P25・26検出状況



2. P25・26完掘状況



3. SK7検出状況



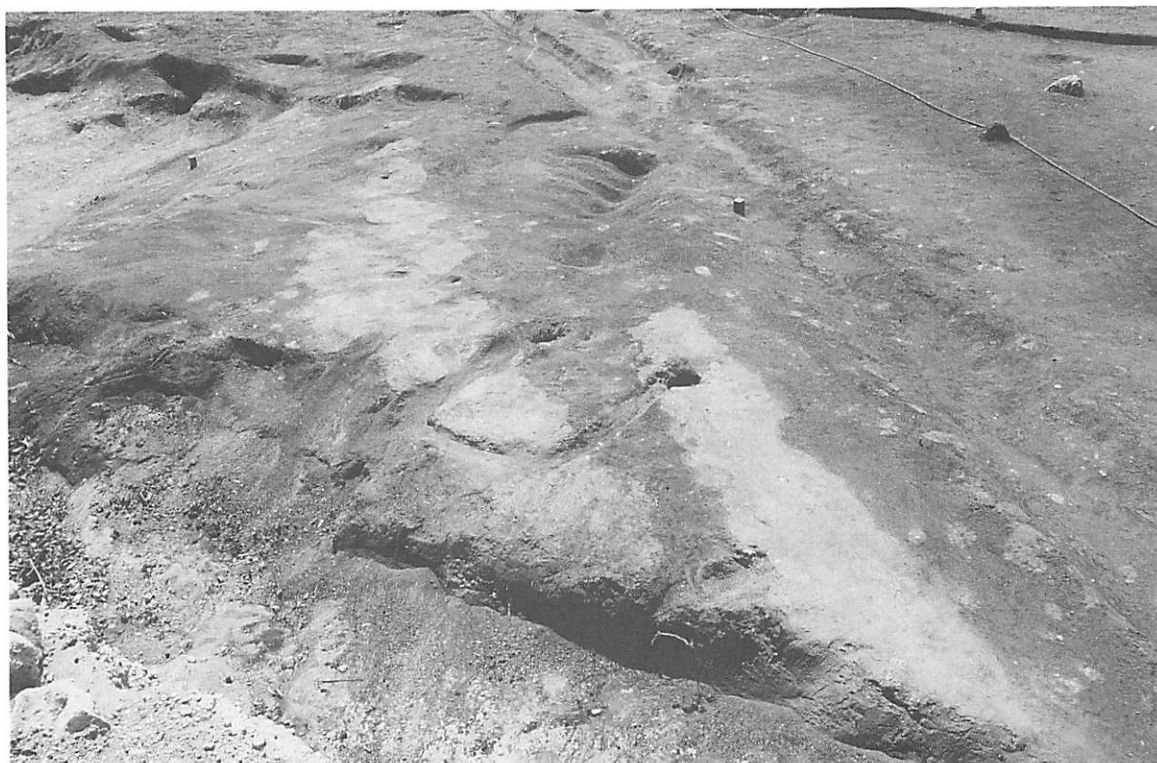
1. SK 7完掘状況



2. SD12検出状況



3. SD12完掘状況



1. SD6, SD13検出状況



2. SD6, SD13完掘状況



3. ②・③-c区5層遺物出土状況

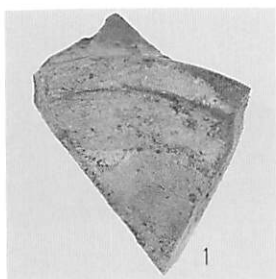




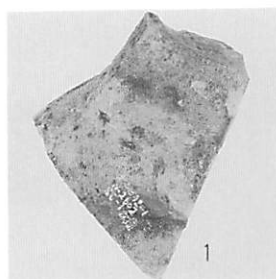
1. 6層検出状況（P27～51）



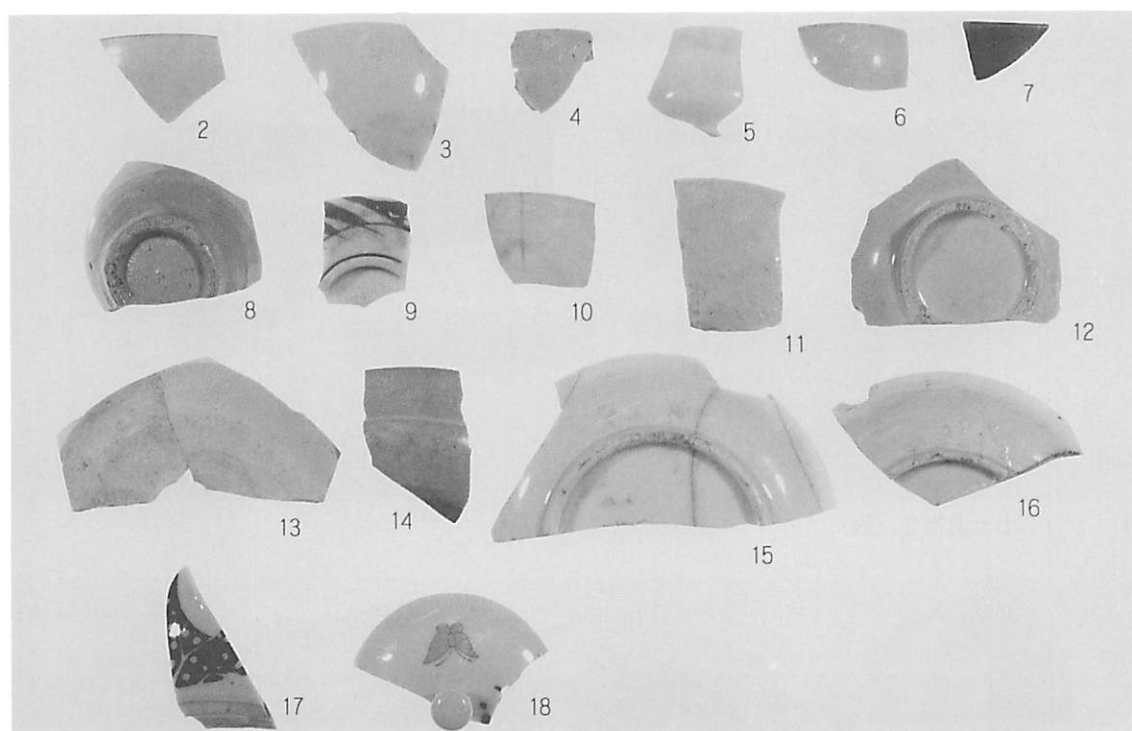
2. 調査区完掘状況



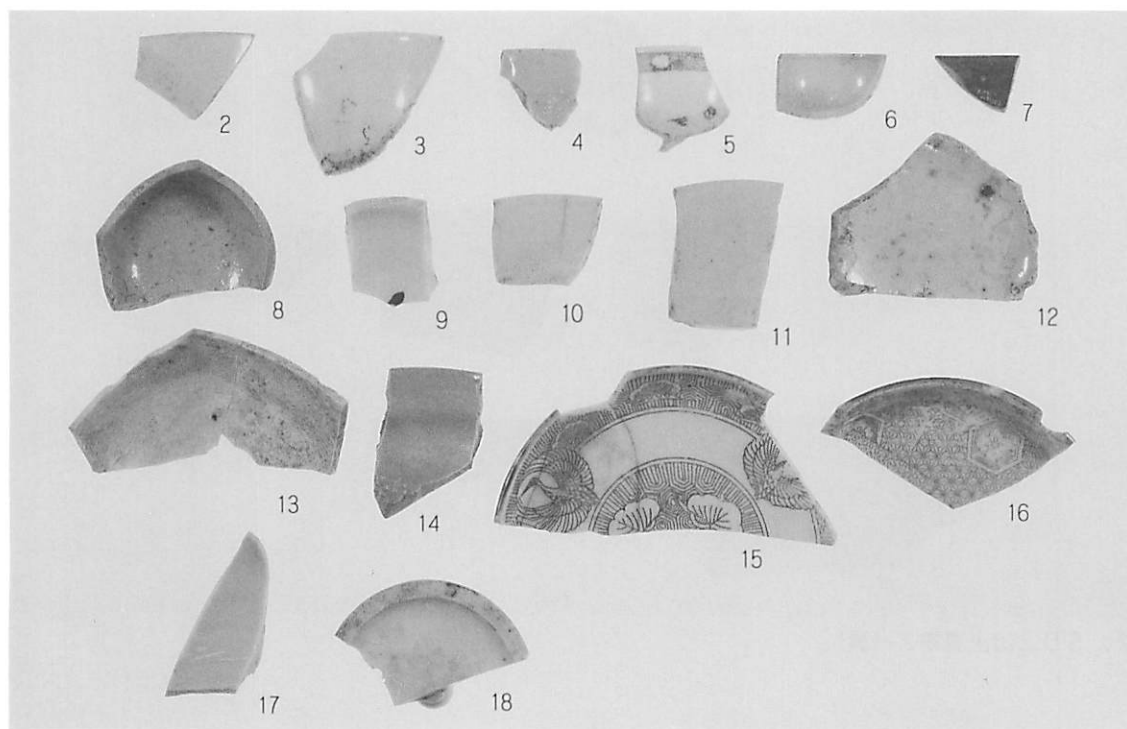
1. SD 1出土遺物（表）



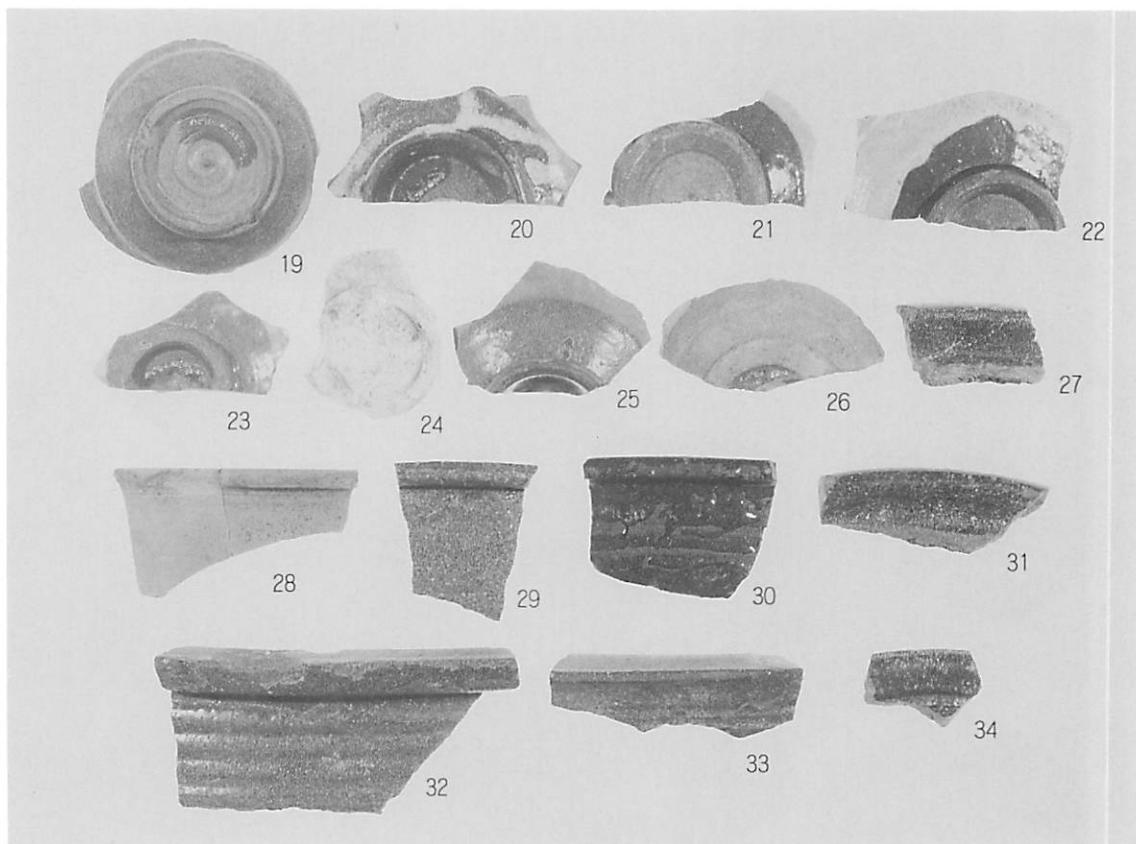
2. SD 1出土遺物（裏）



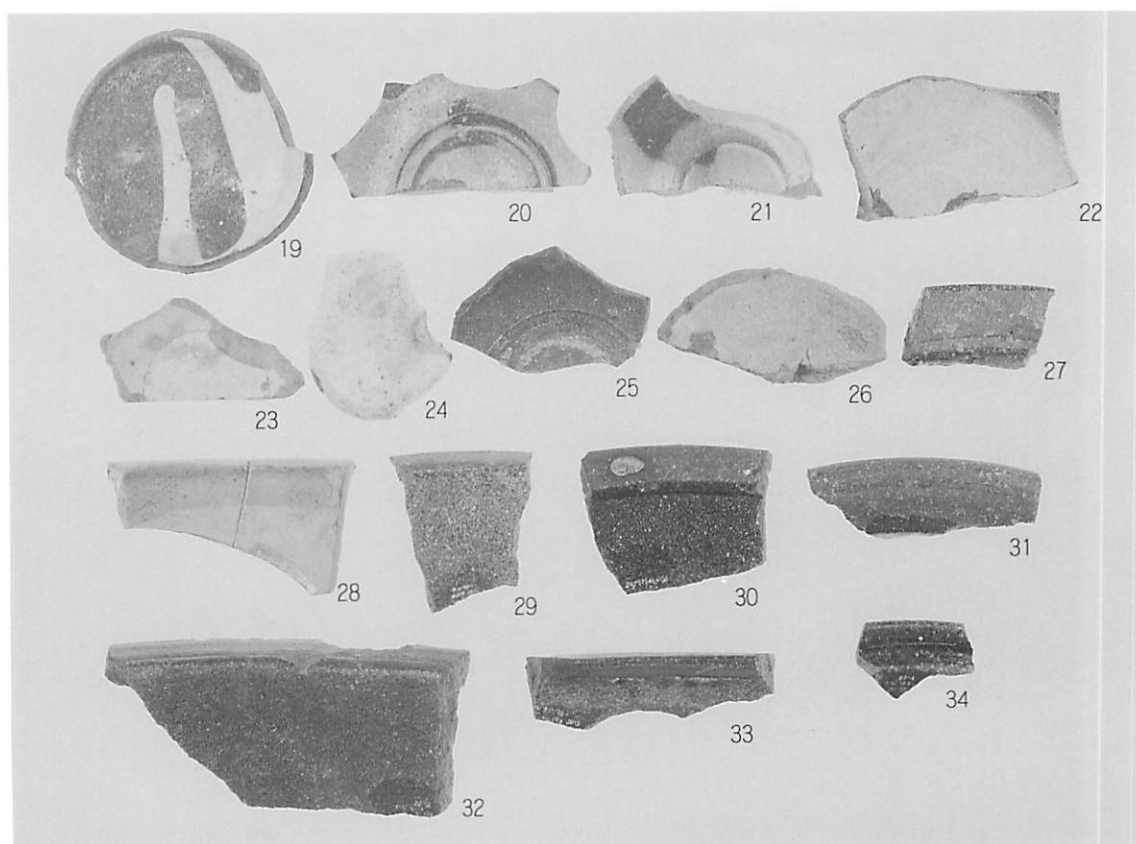
3. SD 2出土遺物 1（表）



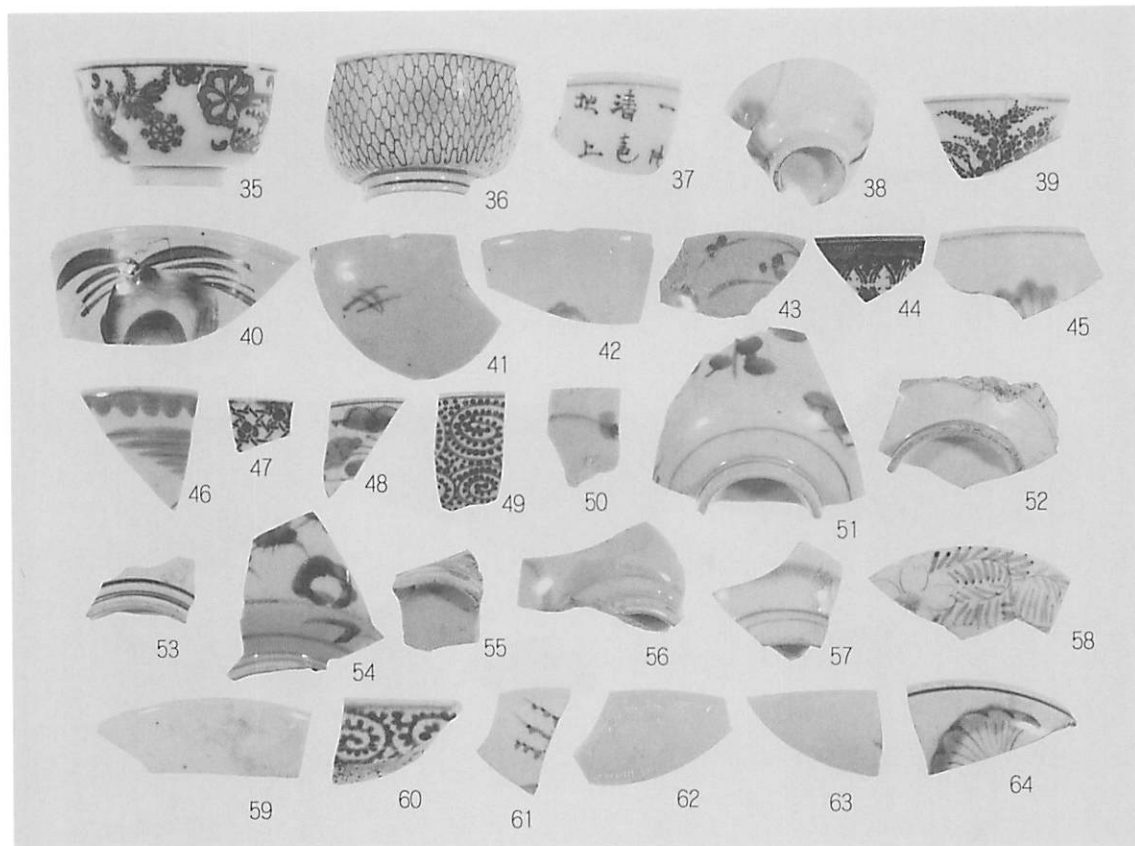
4. SD 2出土遺物 1（裏）



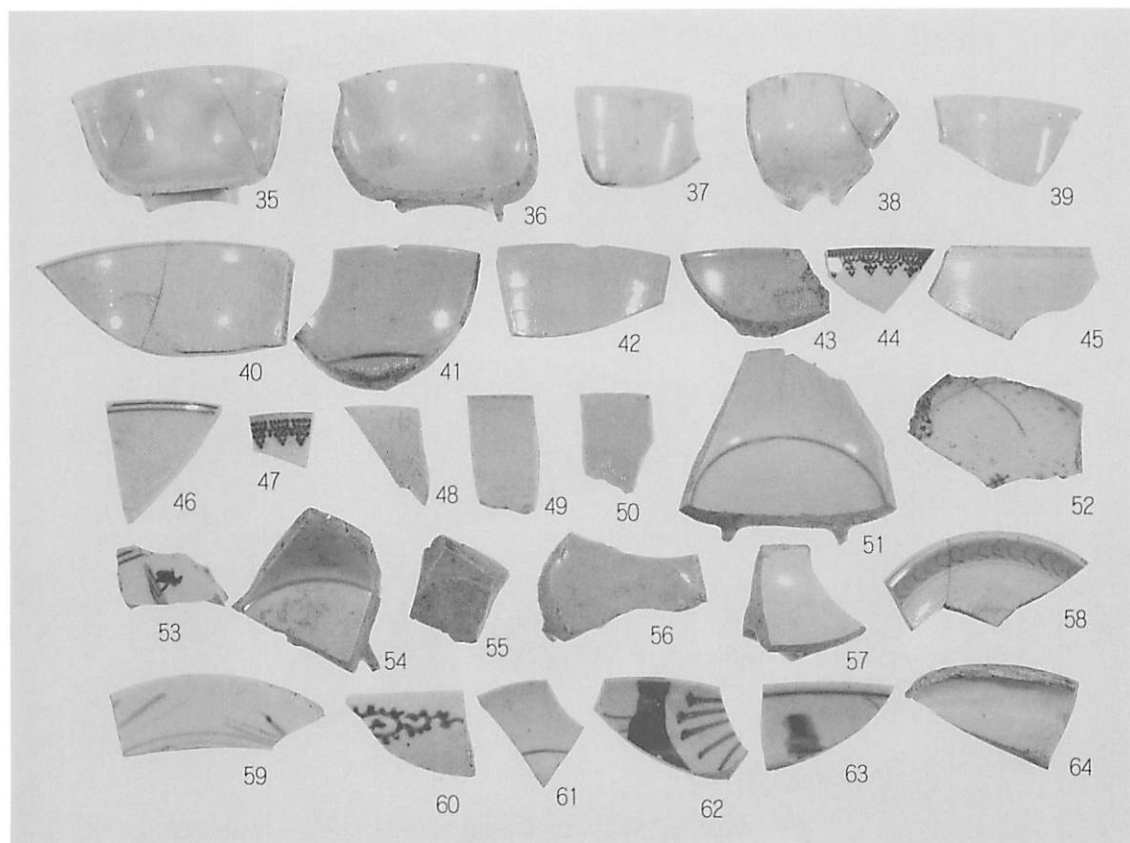
1. SD 2 出土遺物 2 (表)



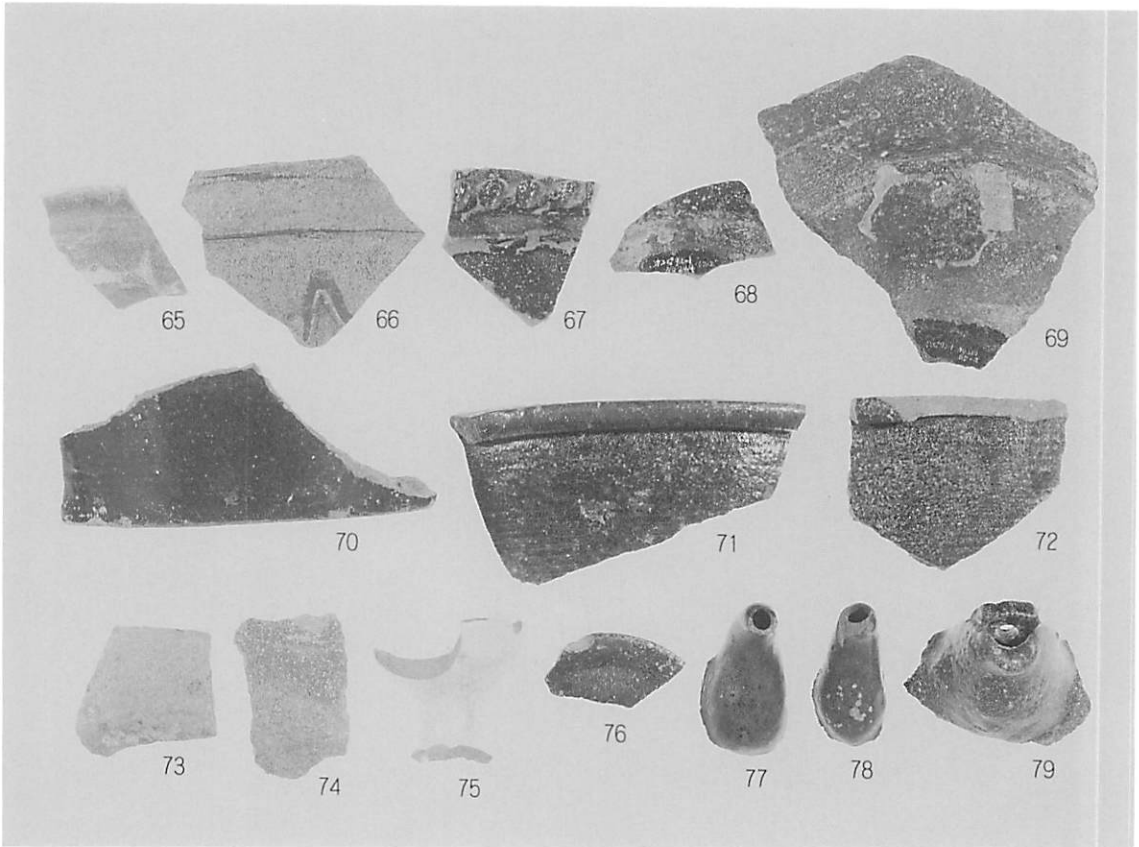
2. SD 2 出土遺物 2 (裏)



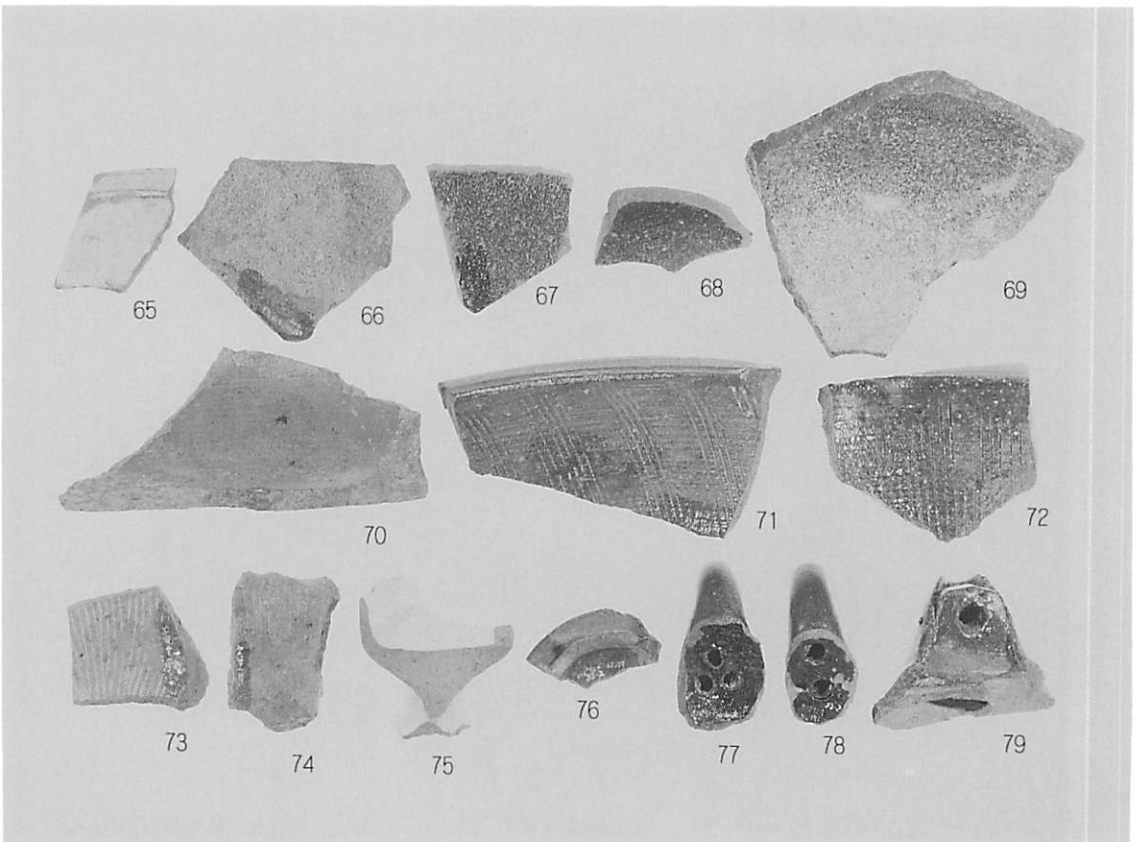
1. SD 2出土遺物3（表）



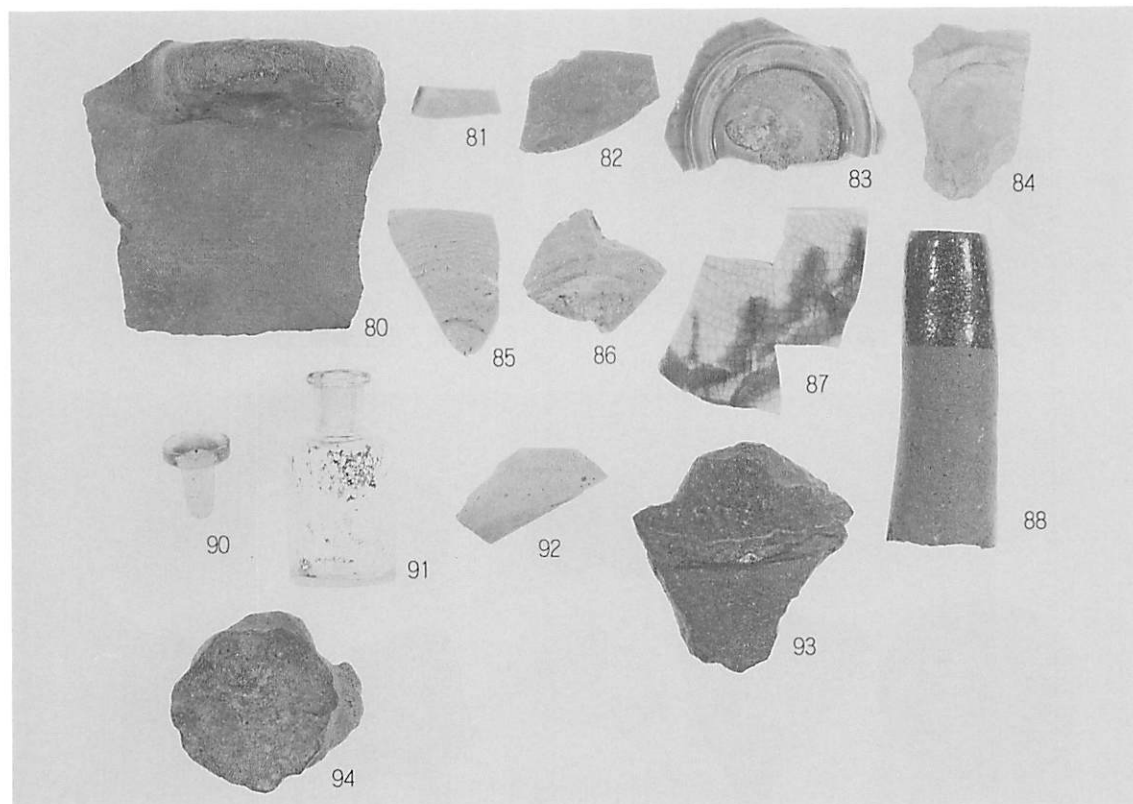
2. SD 2出土遺物3（裏）



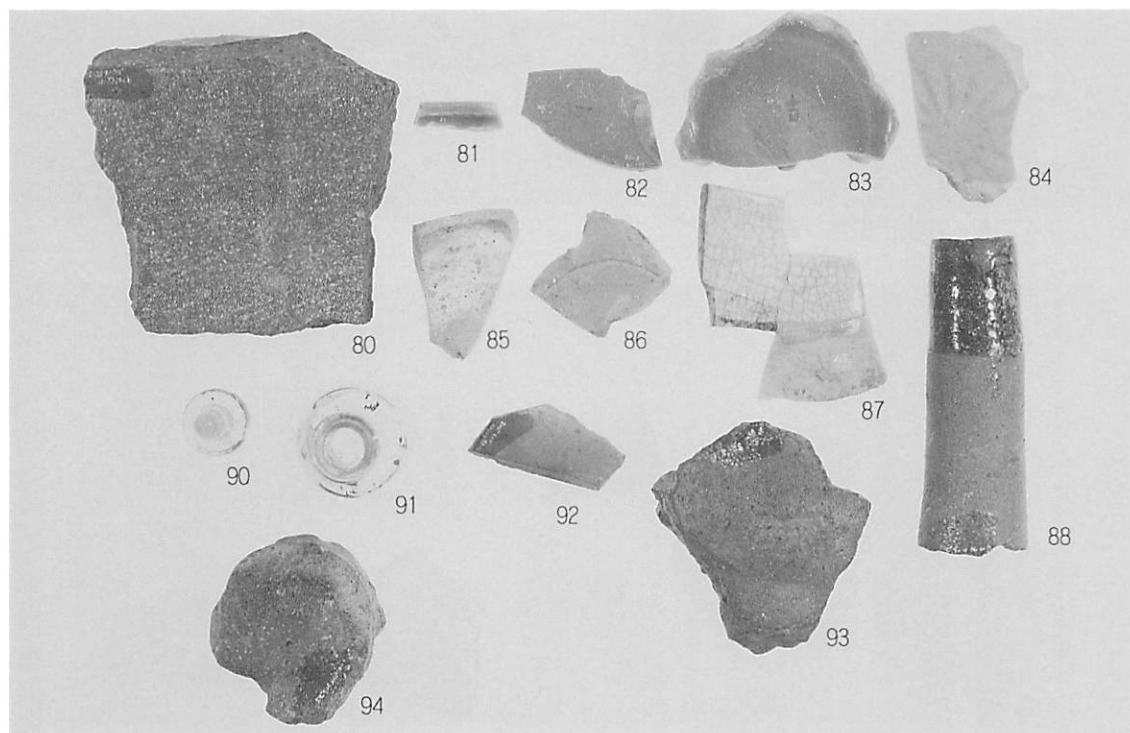
1. SD 2 出土遺物 4 (表)



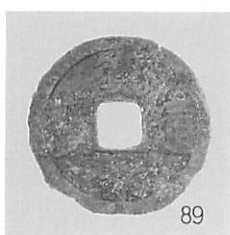
2. SD 2 出土遺物 4 (裏)



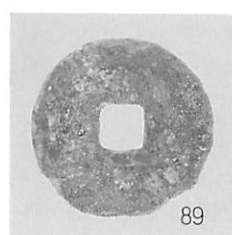
1. SD 2 出土遺物 5 (表)



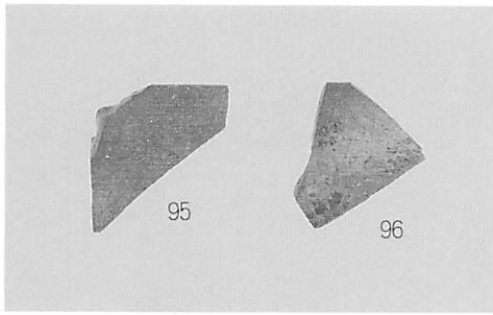
2. SD 2 出土遺物 5 (裏)



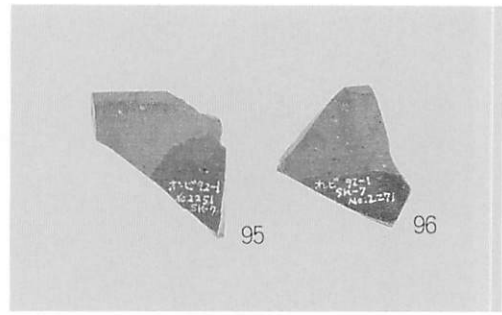
3. SD 2 出土寛永通寶 (表)



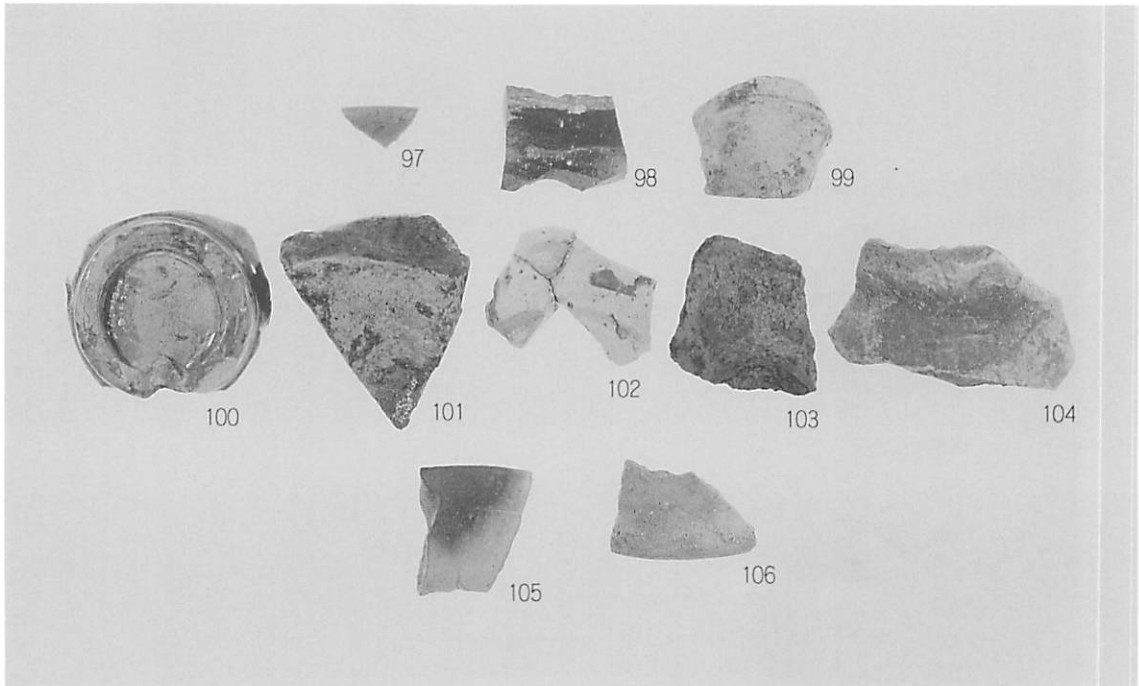
4. SD 2 出土寛永通寶 (裏)



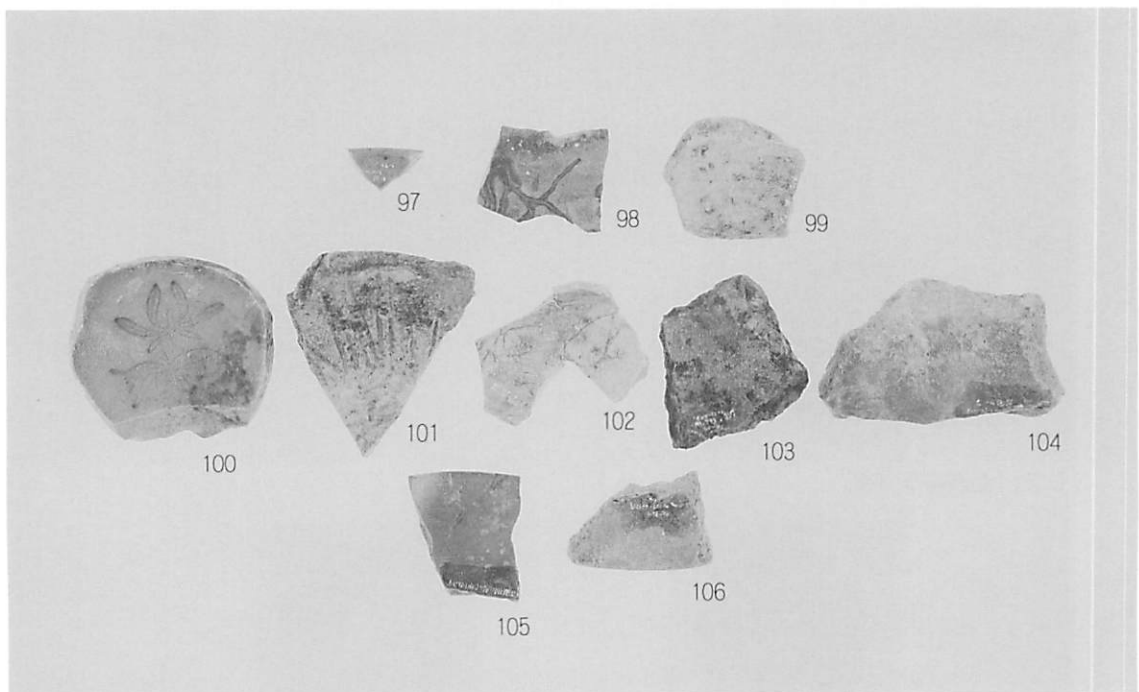
1. SK7出土遺物（表）



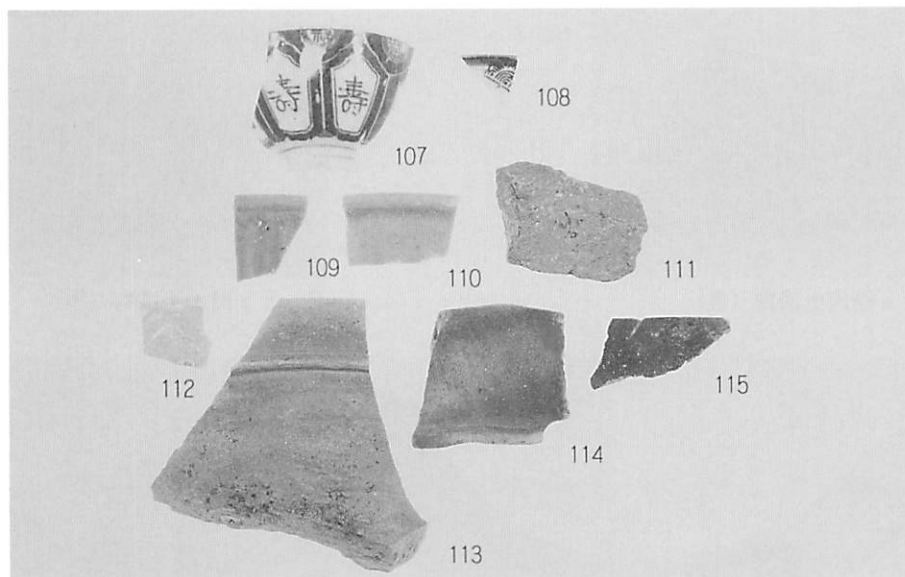
2. SK7出土遺物（裏）



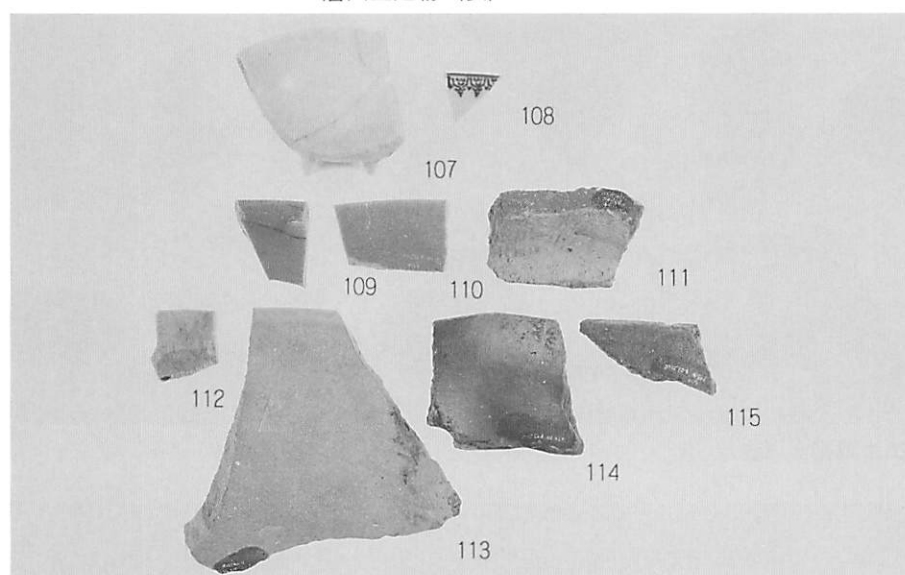
3. SD4・6・12出土遺物（表）



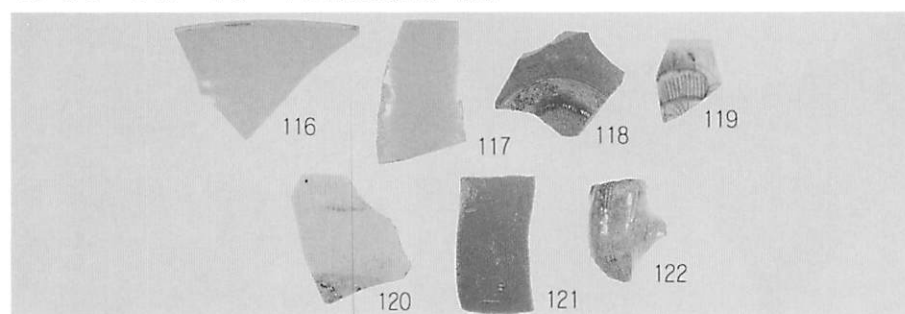
4. SD4・6・12出土遺物（裏）



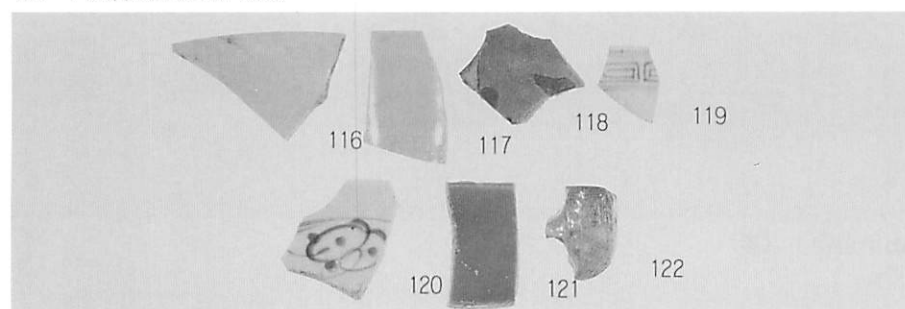
1. 3 a・3 b・4 a・4 c 層出土遺物（表）



2. 3 a・3 b・4 a・4 c 層出土遺物（裏）

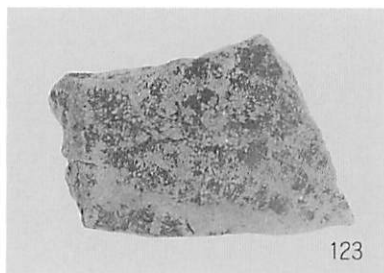


3. 4 e 層出土遺物（表）

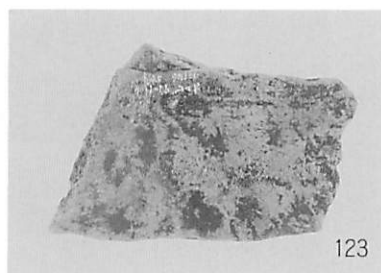


4. 4 e 層出土遺物（裏）

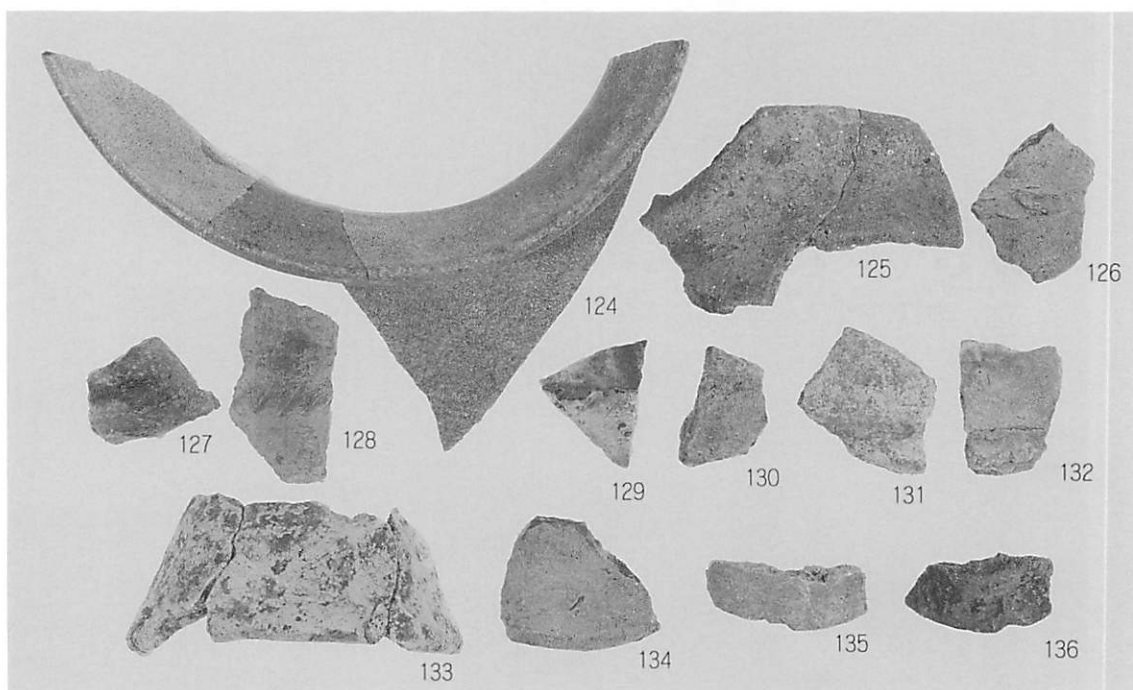




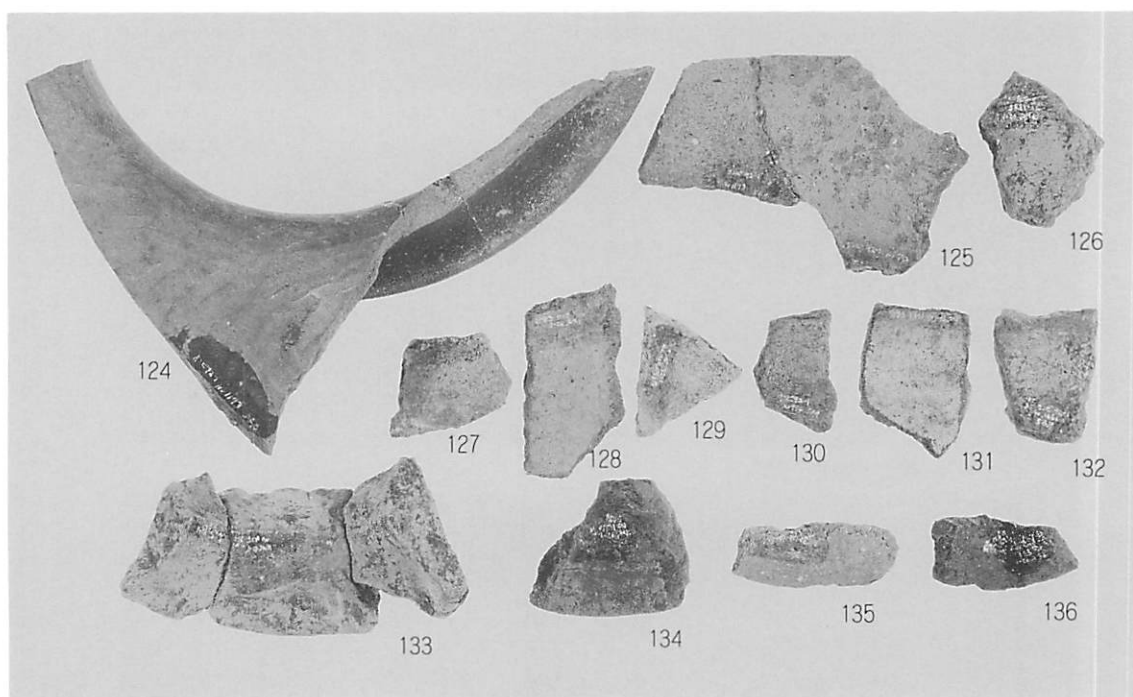
1. 5 a層出土遺物（表）



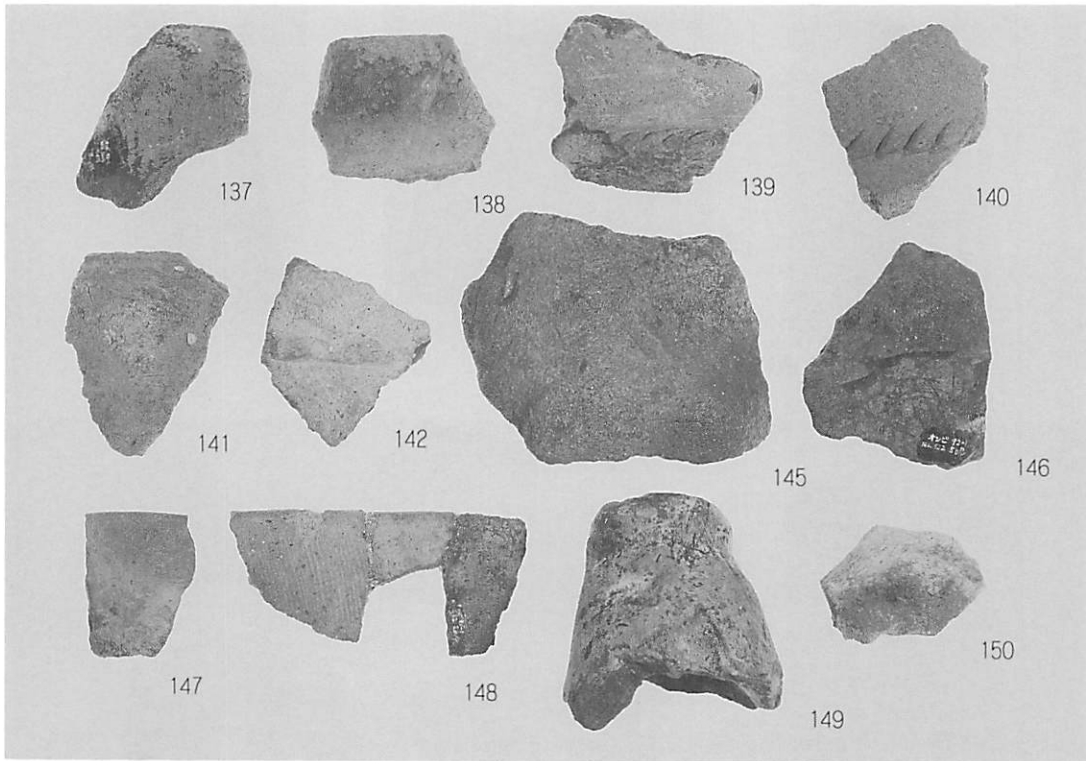
2. 5 a層出土遺物（裏）



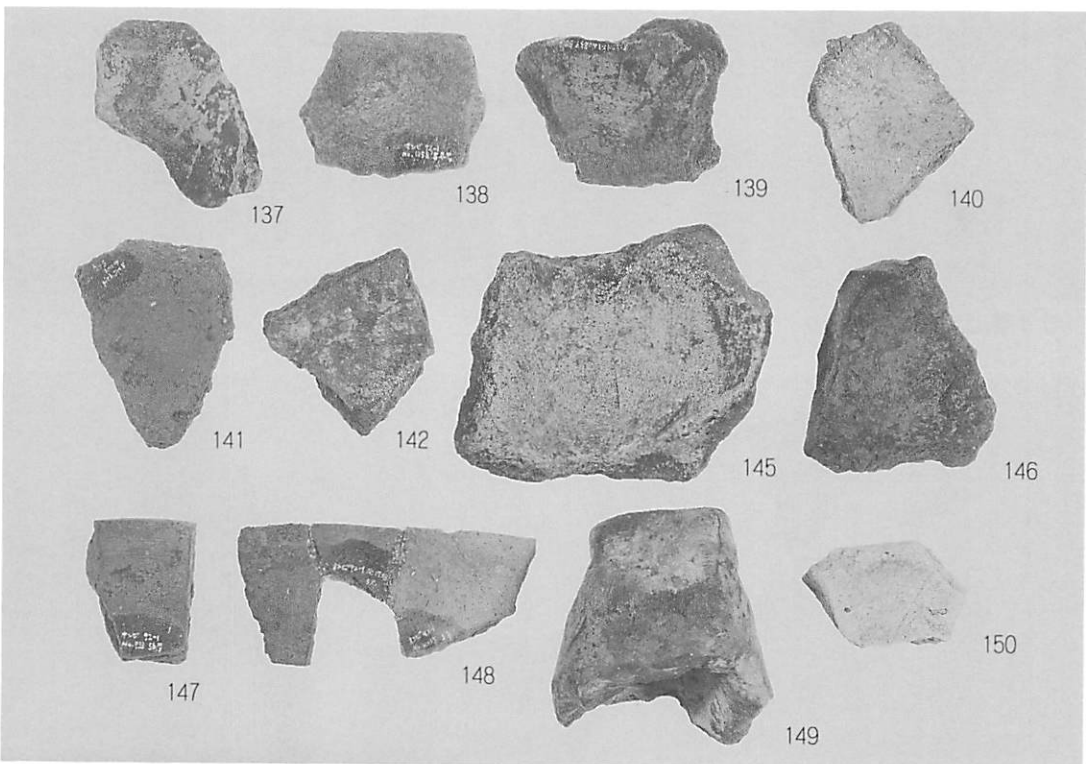
3. 5 b層出土遺物 1（表）



4. 5 b層出土遺物 1（裏）



1. 5 b層出土遺物2（表）



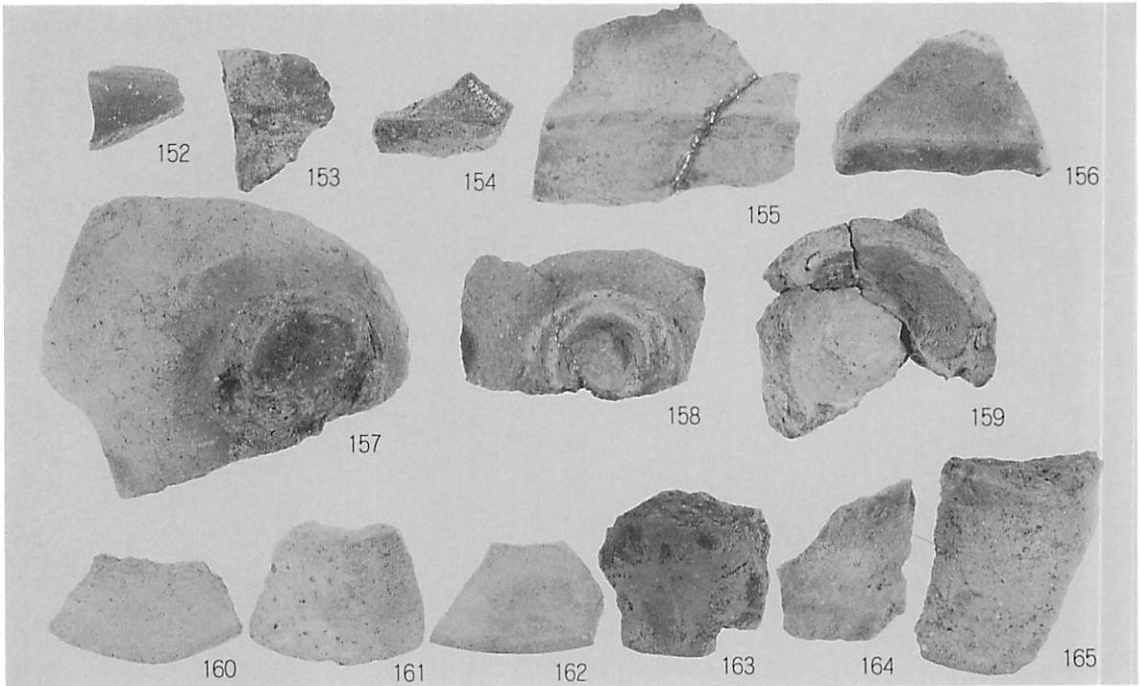
2. 5 b層出土遺物2（裏）



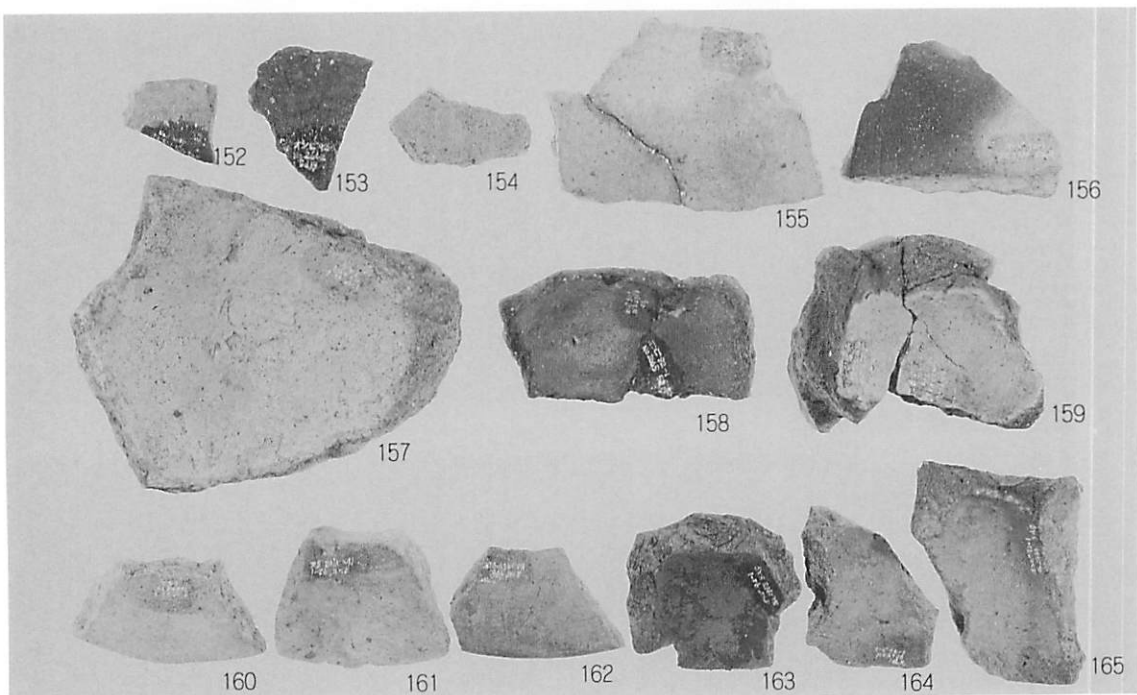
3. 5 b層出土遺物2（側面）



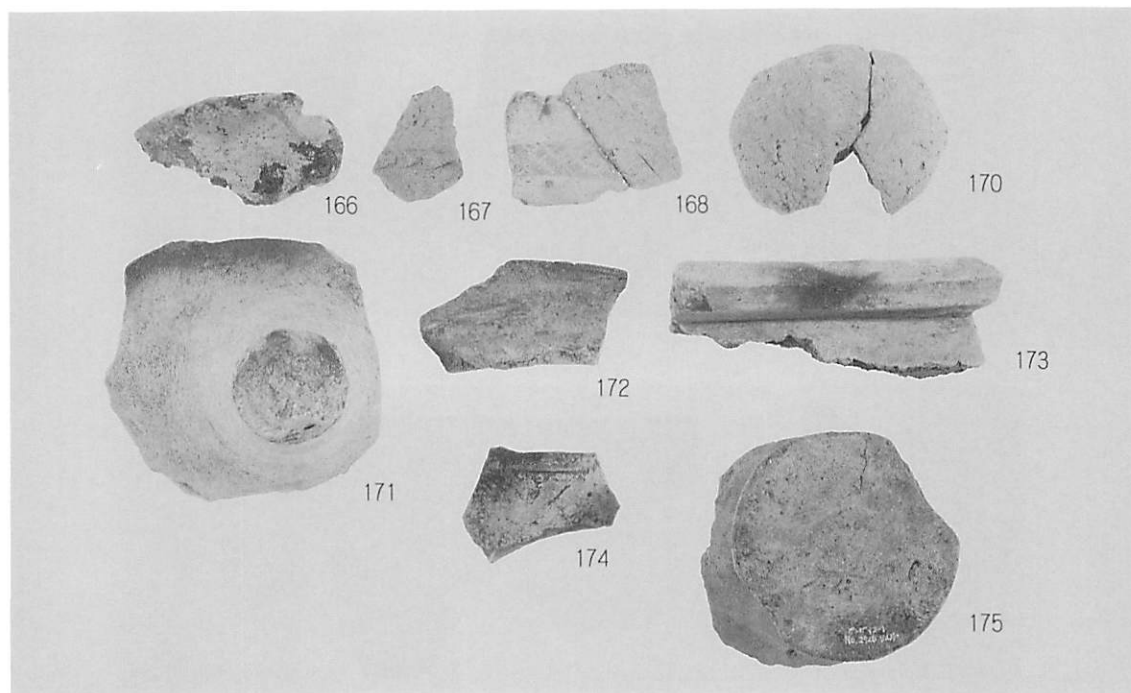
1. 5 b 層出土遺物 3



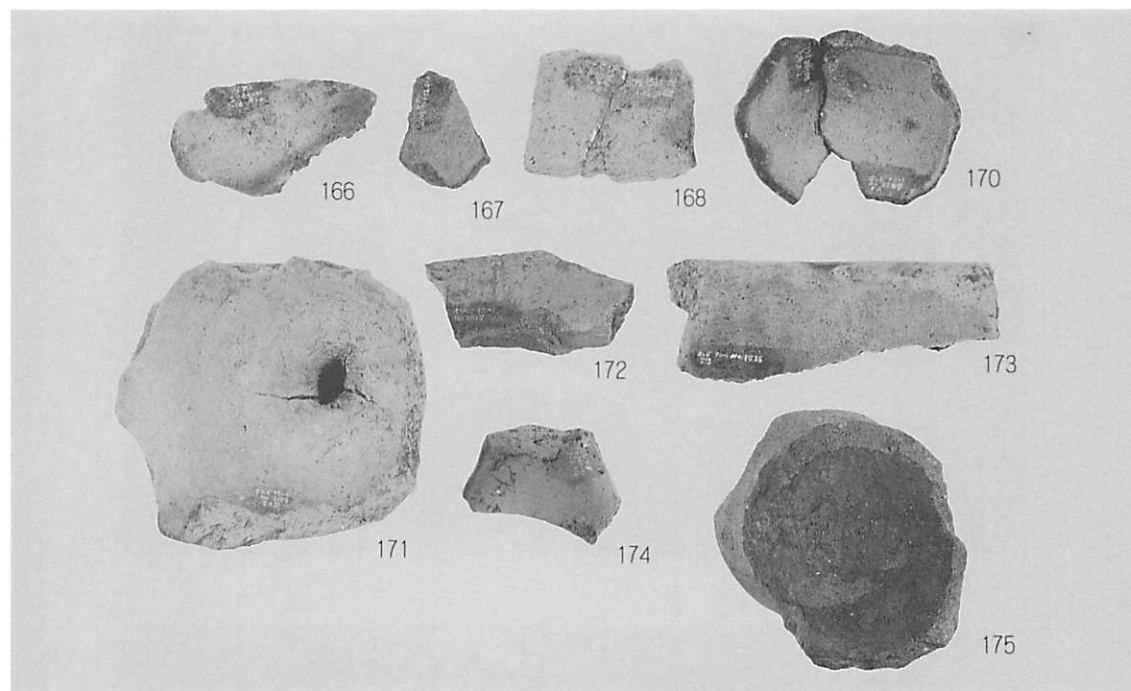
2. 5 d 層出土遺物 1 (表)



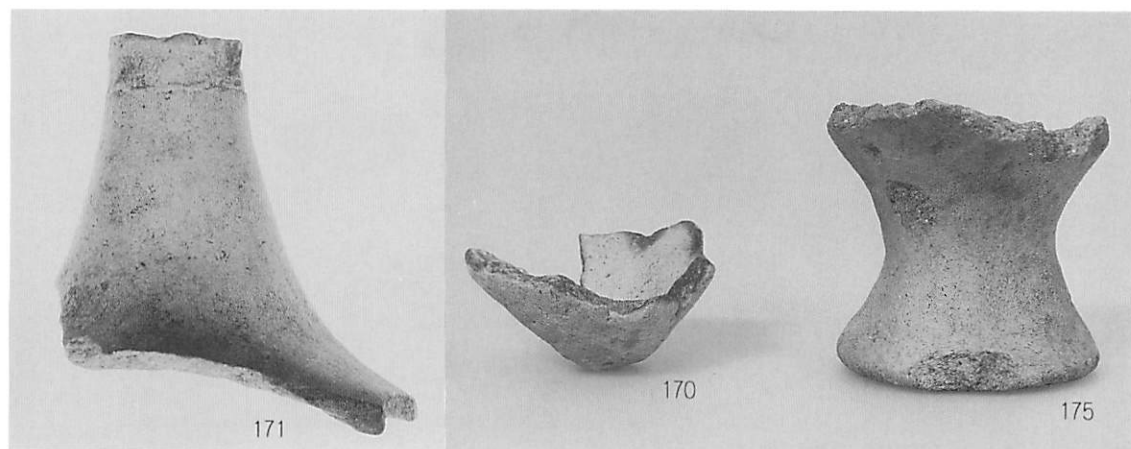
3. 5 d 層出土遺物 1 (裏)



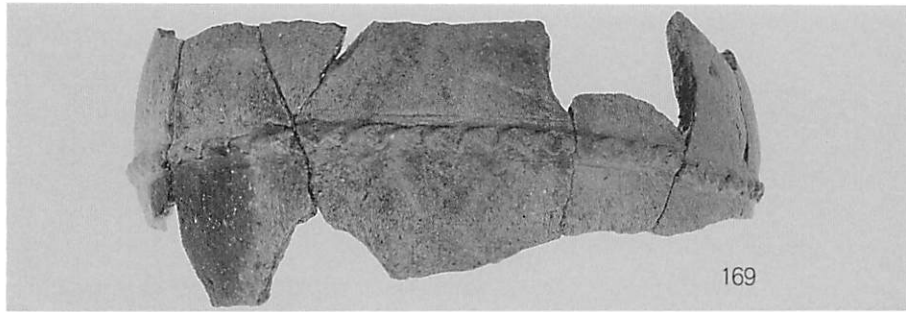
1. 5 d 層出土遺物 2 (表)



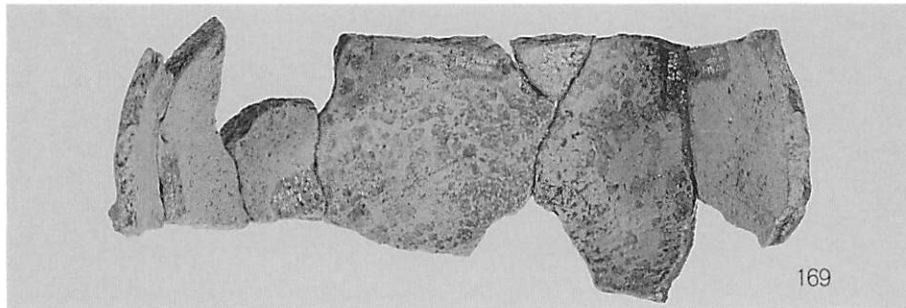
2. 5 d 層出土遺物 2 (裏)



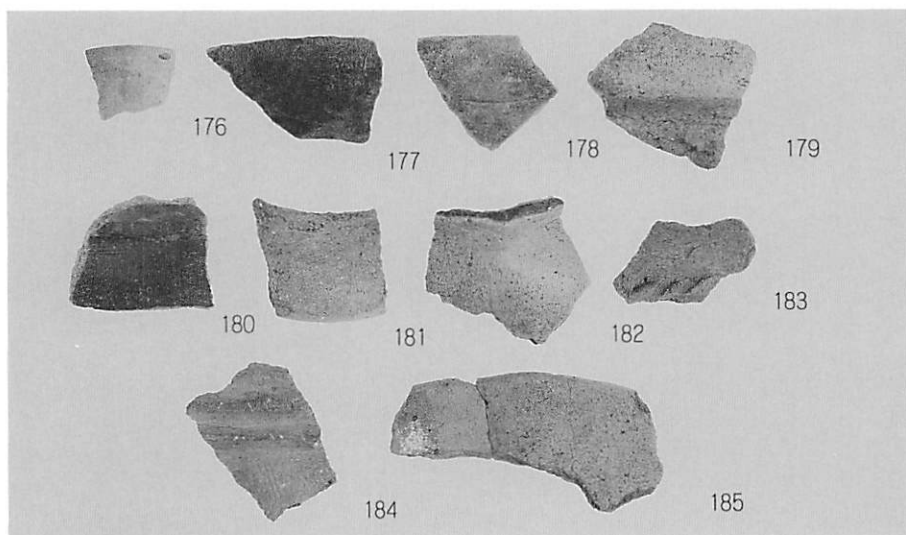
3. 5 d 層出土遺物 2 (側面)



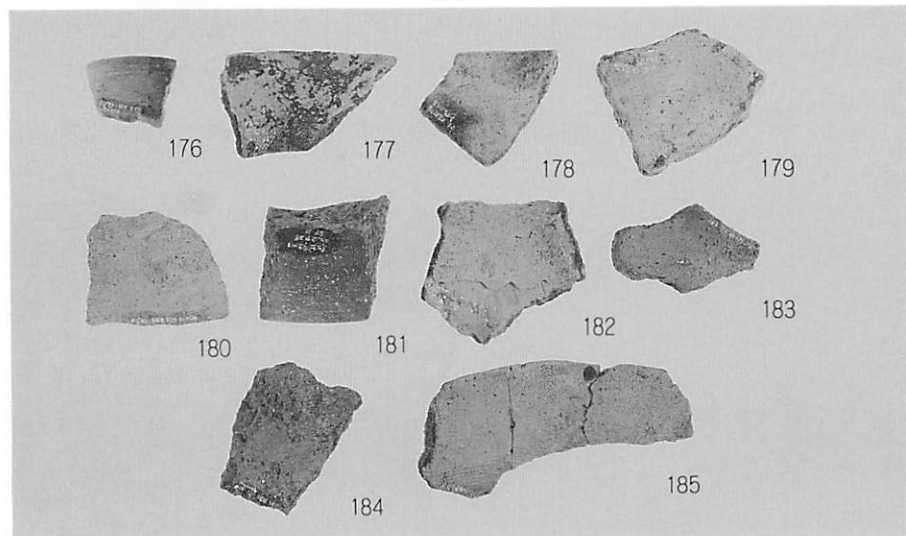
1. 5 d 層出土遺物 3 (表)



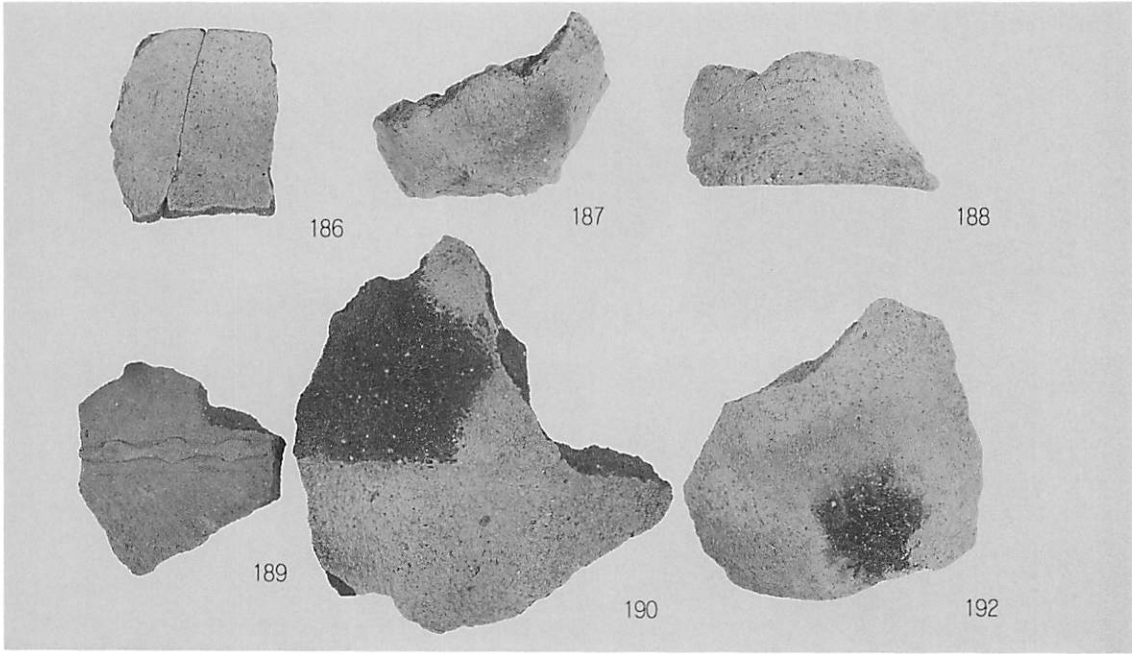
2. 5 d 層出土遺物 3 (裏)



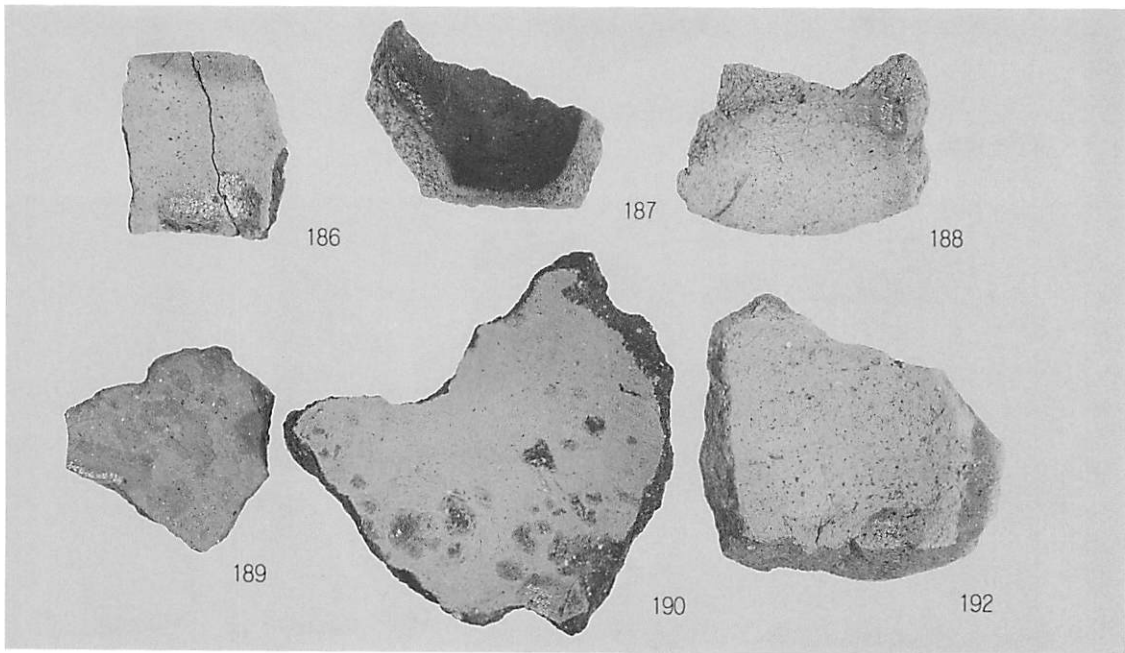
3. 5 f 層出土遺物 (表)



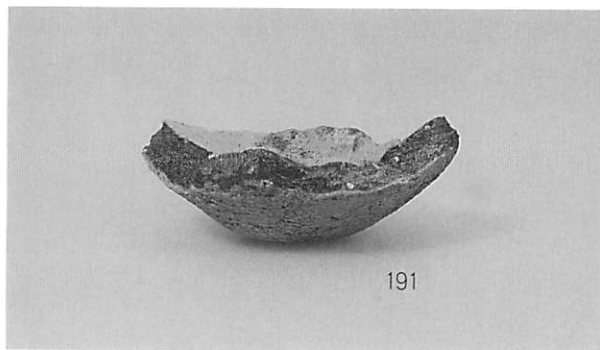
4. 5 f 層出土遺物 (裏)



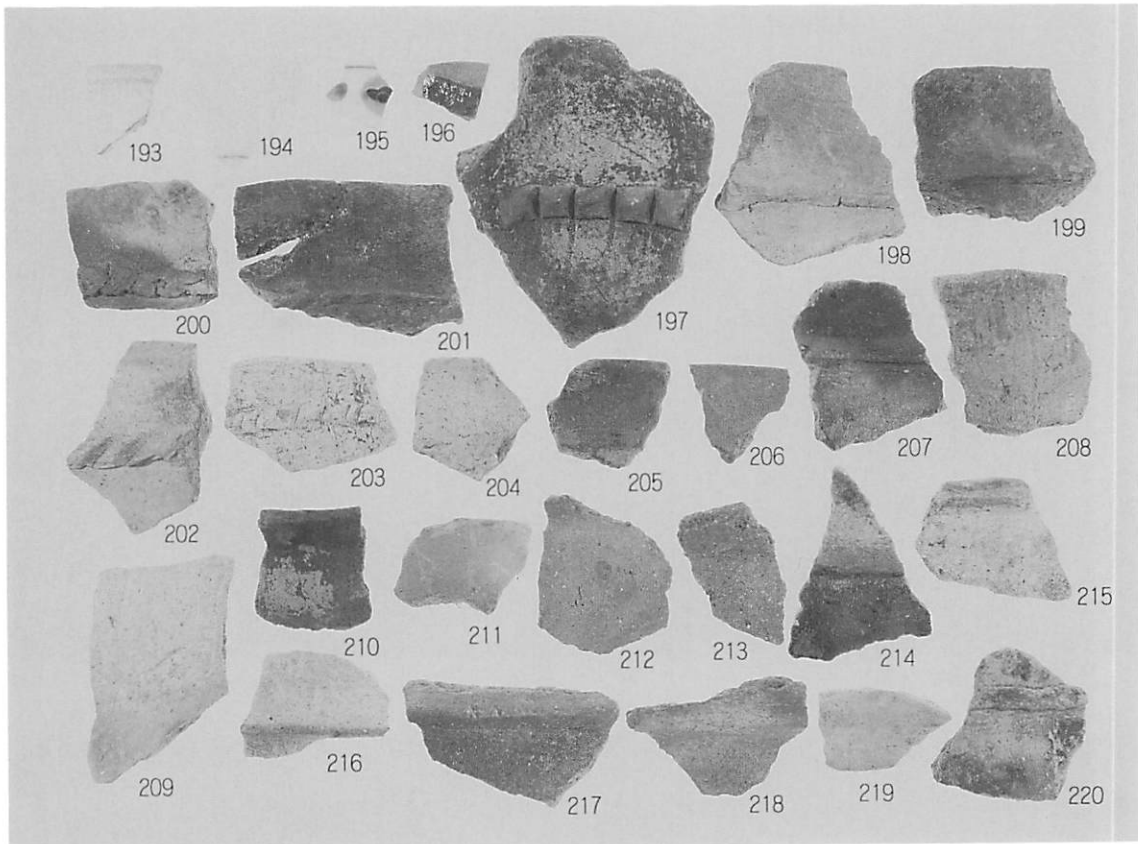
1. 5 g 層出土遺物（表）



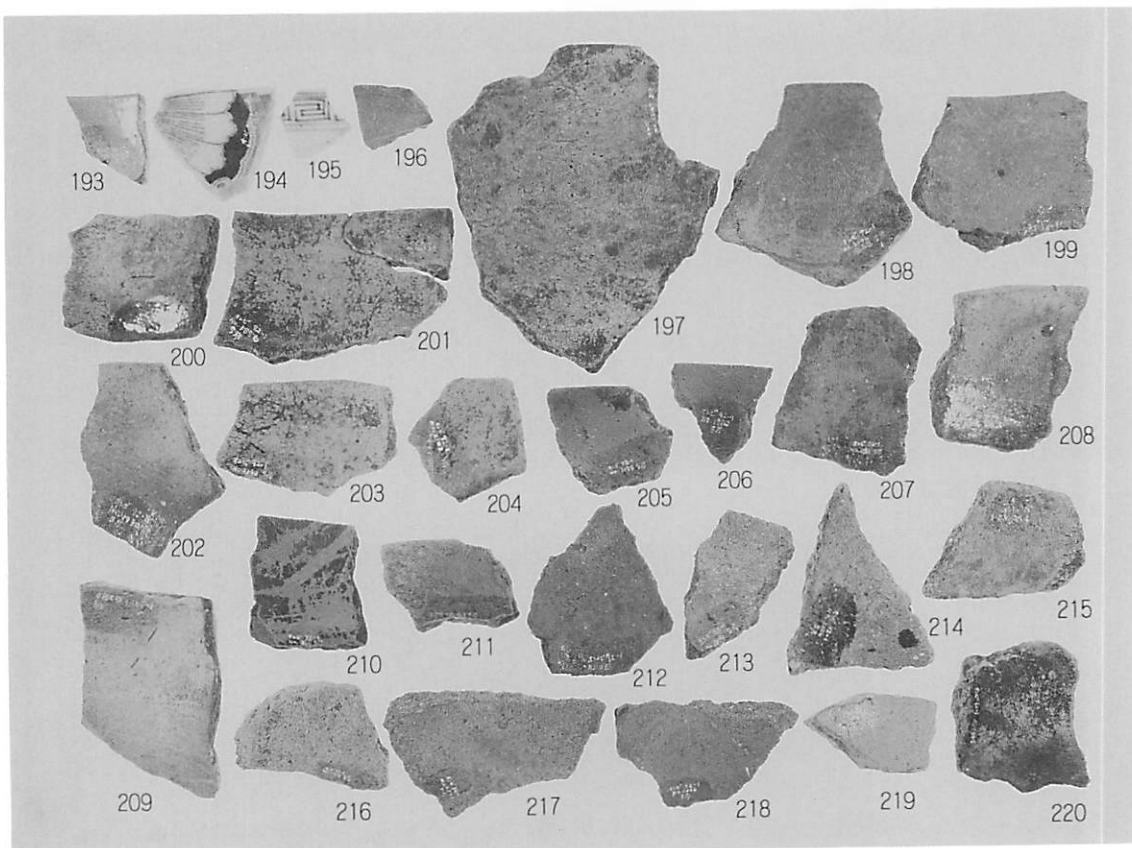
2. 5 g 層出土遺物（裏）



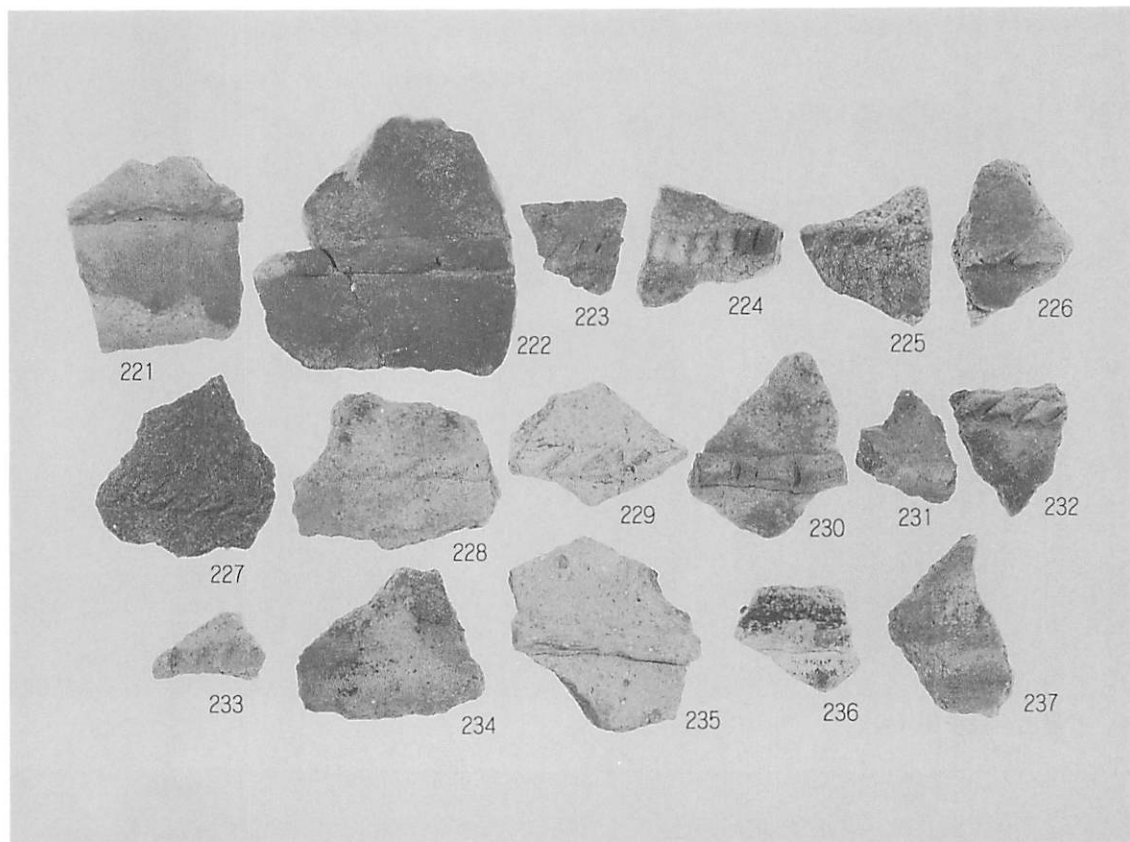
3. 5 g 層出土遺物（側面）



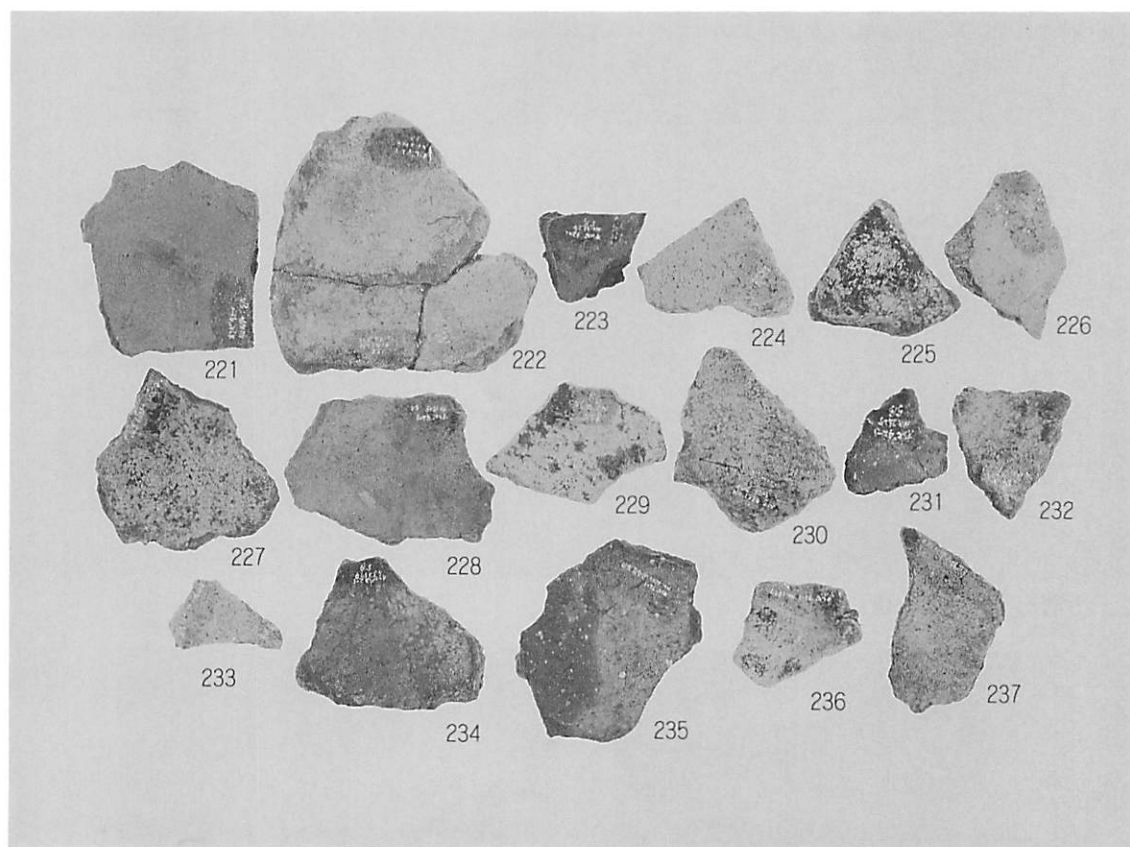
1. 5層出土遺物1（表）



2. 5層出土遺物1（裏）

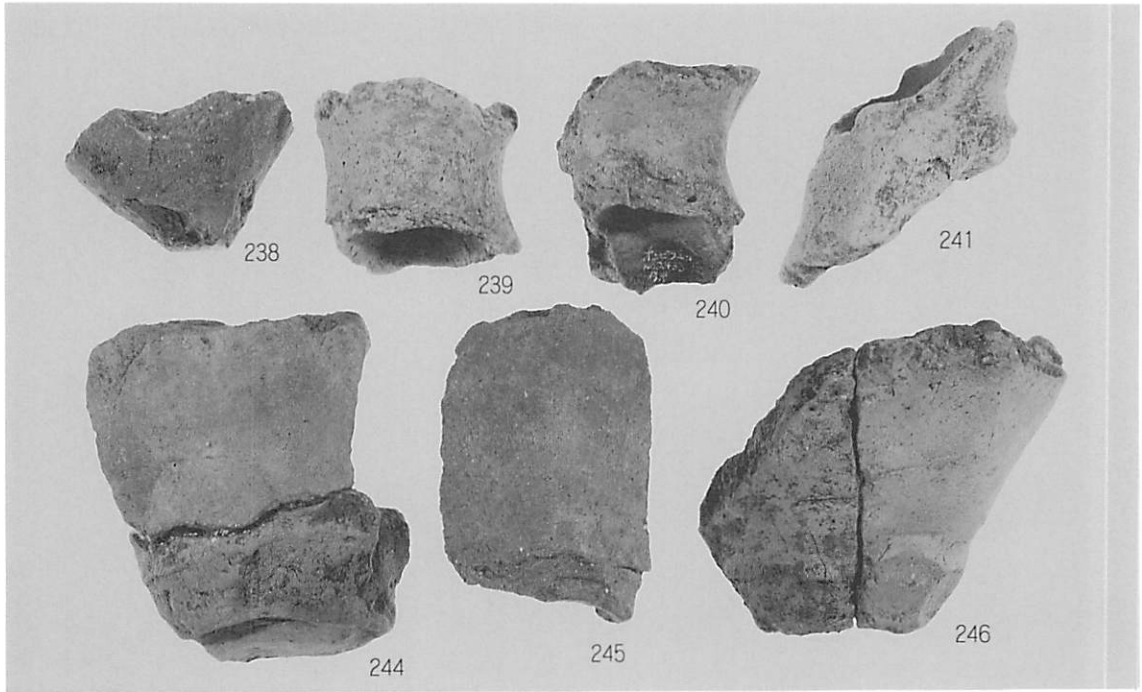


1. 5層出土遺物2（表）

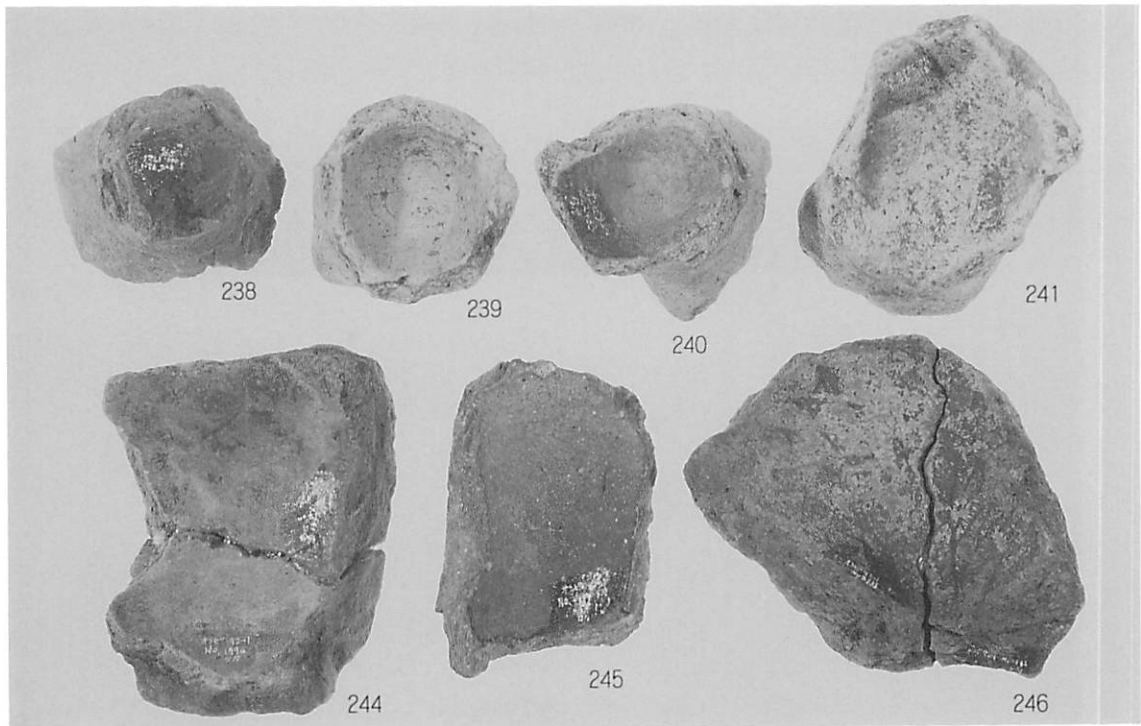


2. 5層出土遺物2（裏）

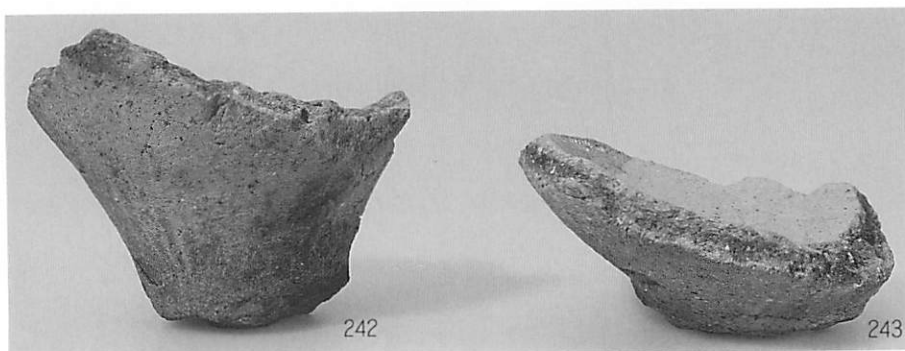




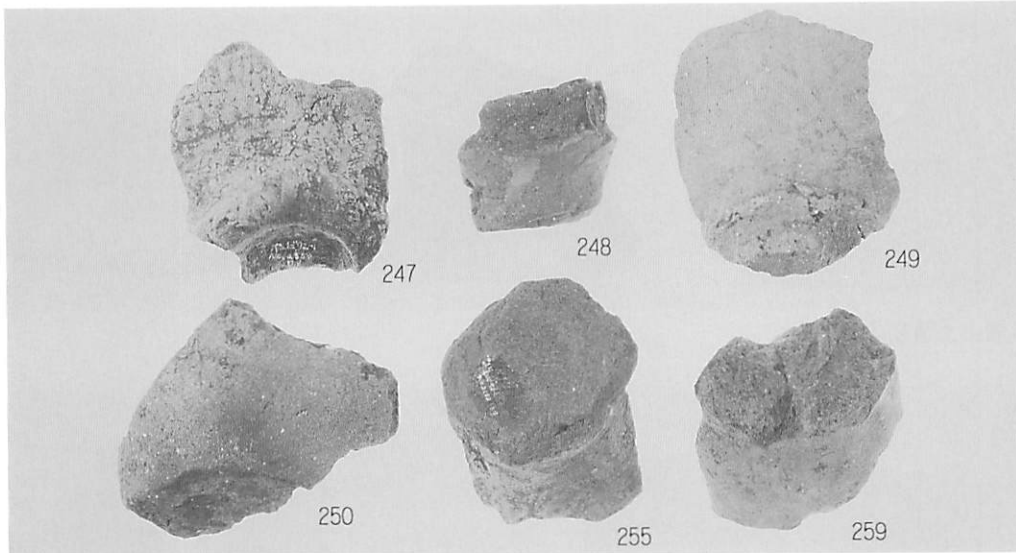
1. 5層出土遺物3（表）



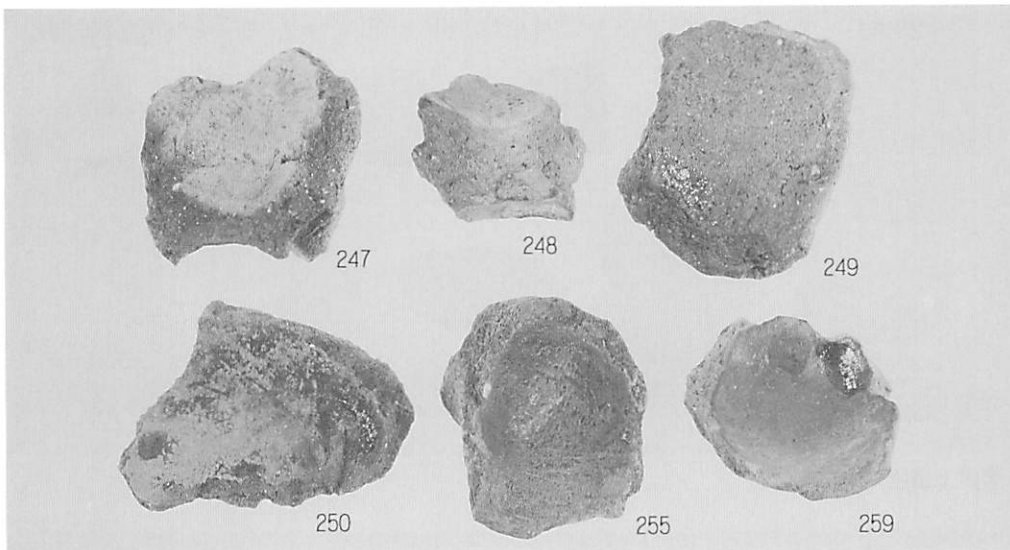
2. 5層出土遺物3（裏）



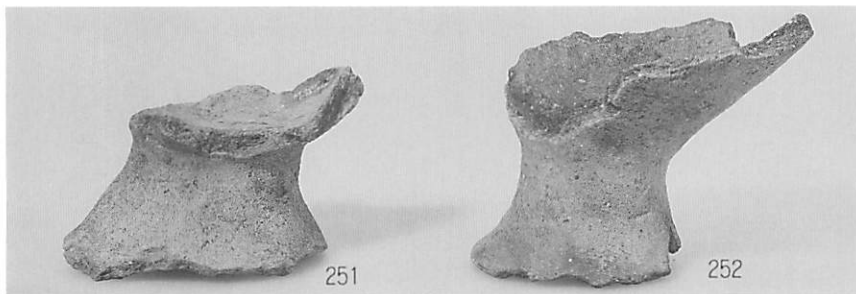
3. 5層出土遺物3（側面）



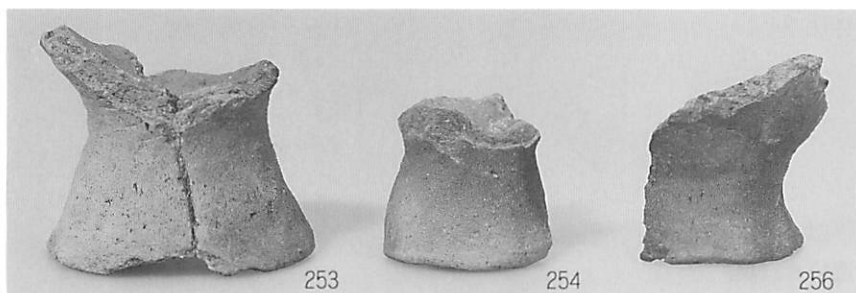
1. 5層出土遺物4（表）



2. 5層出土遺物4（裏）



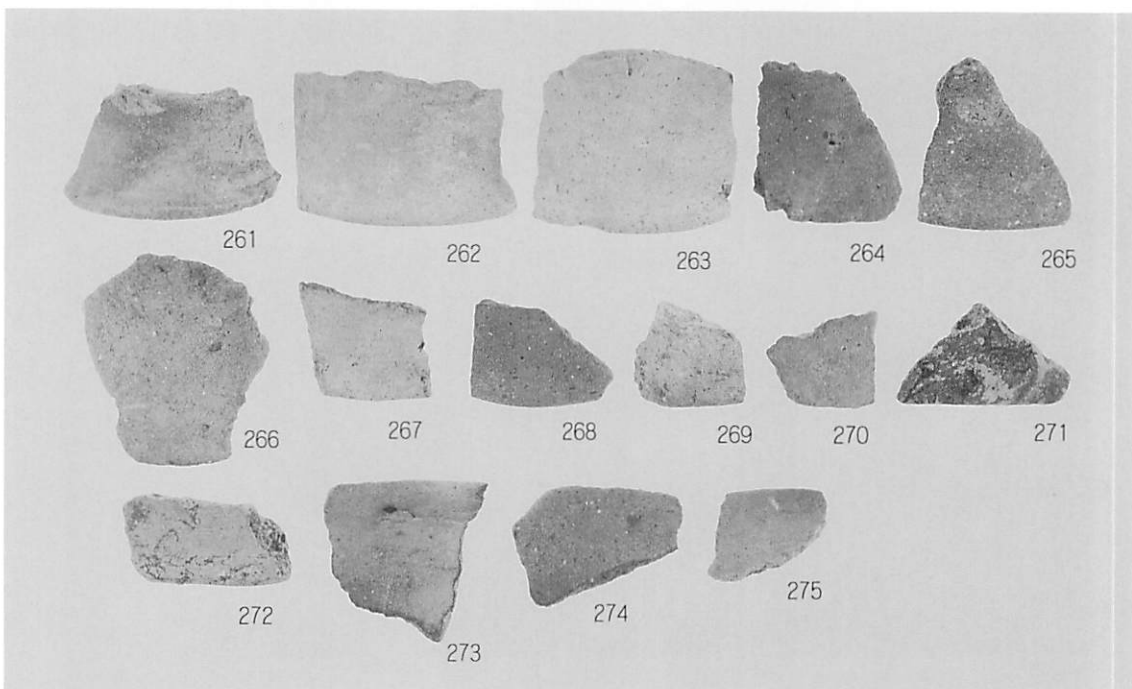
3. 5層出土遺物5（側面）



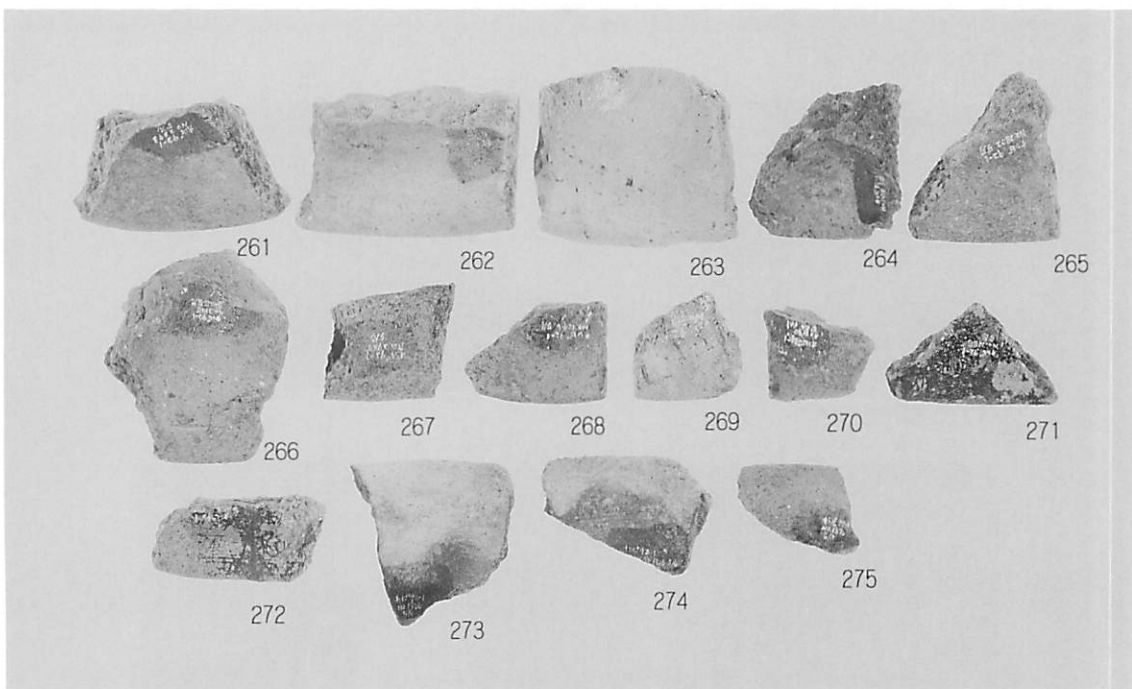
4. 5層出土遺物6（側面）



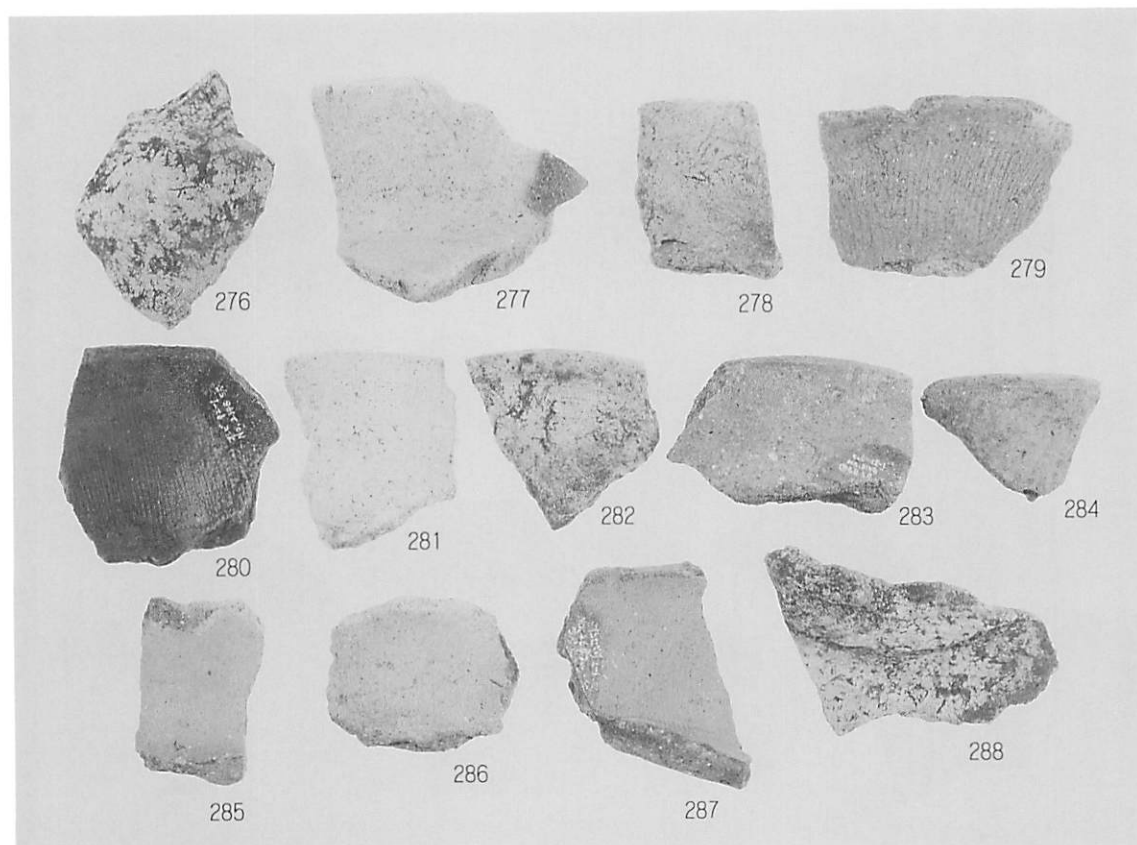
1. 5層出土遺物7（側面）



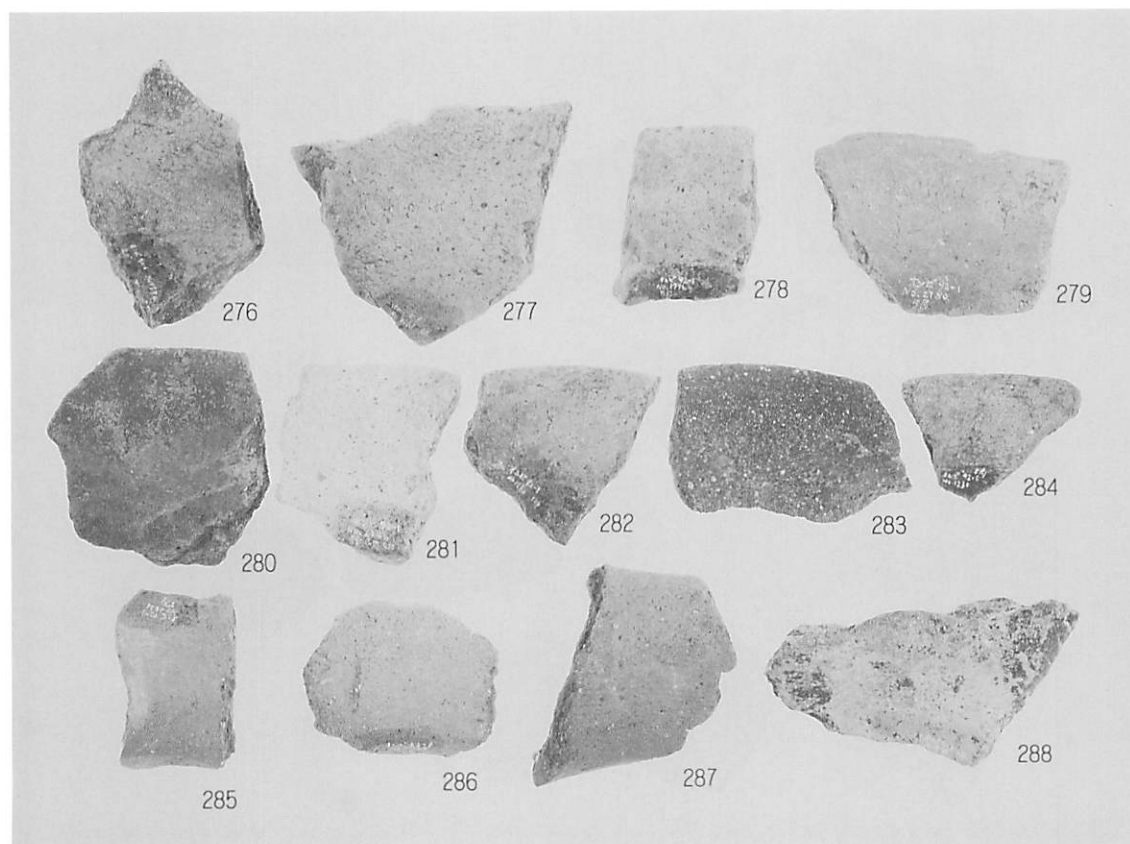
2. 5層出土遺物8（表）



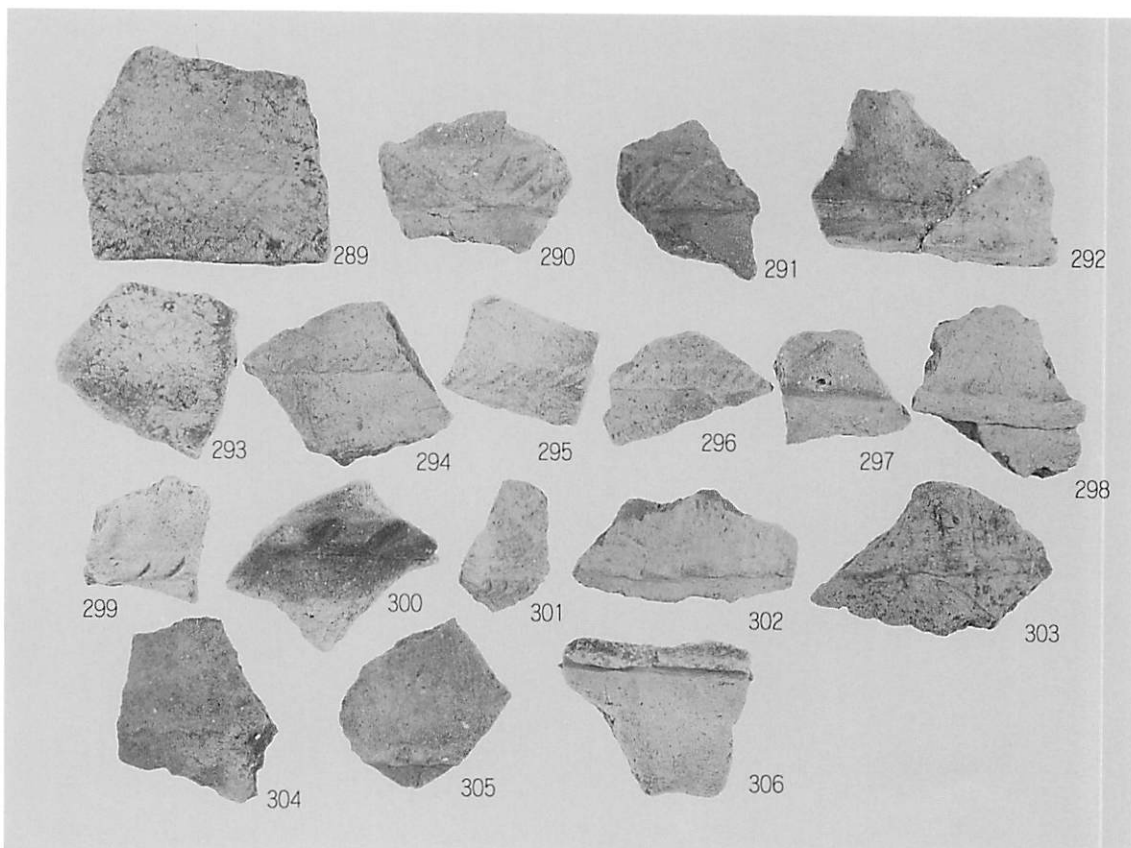
3. 5層出土遺物8（裏）



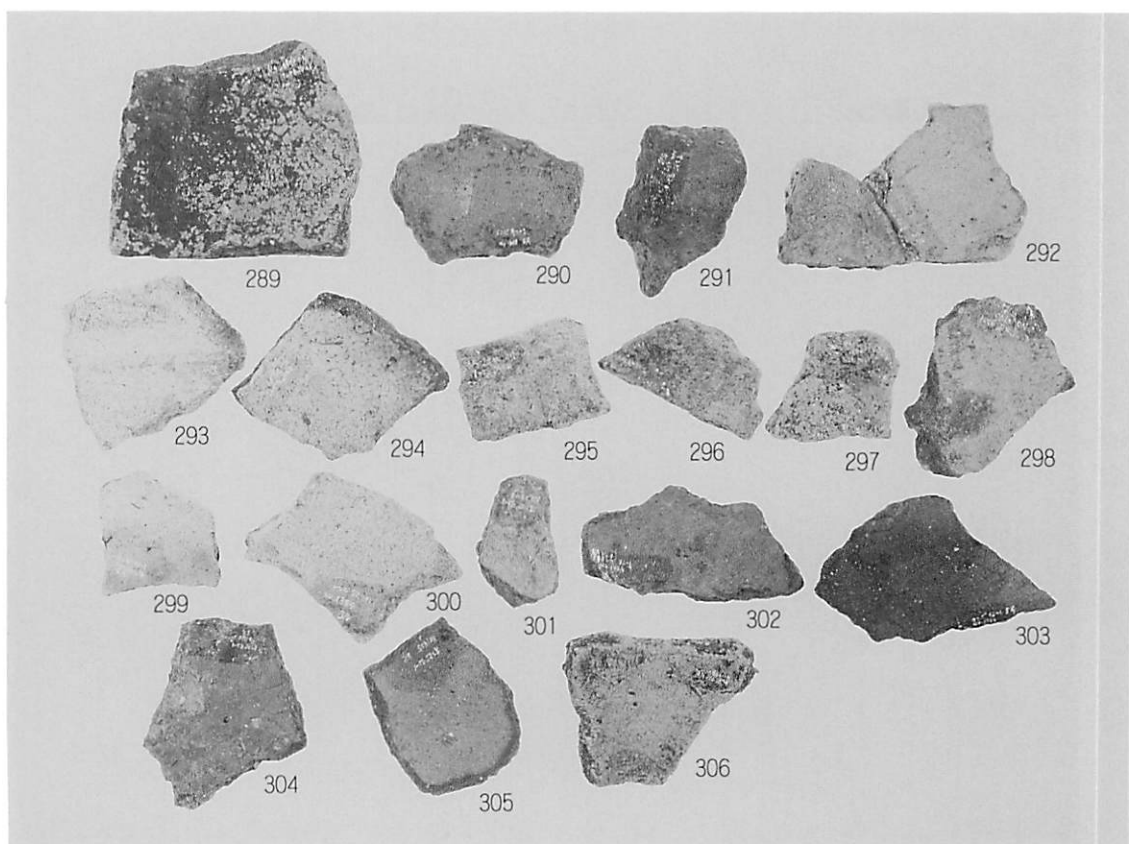
1. 5層出土遺物9（表）



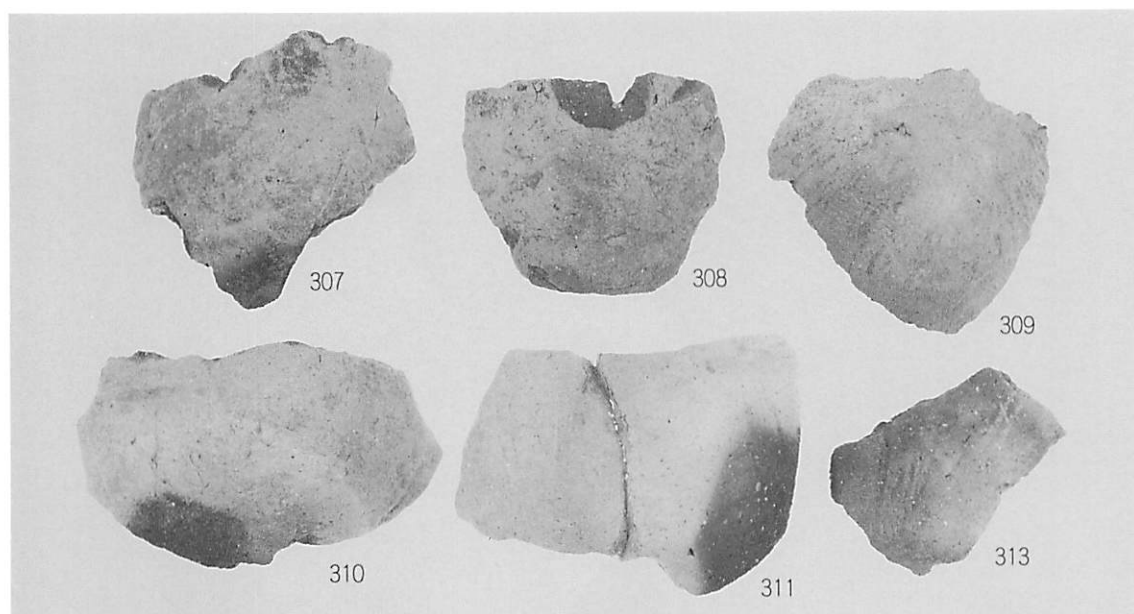
2. 5層出土遺物9（裏）



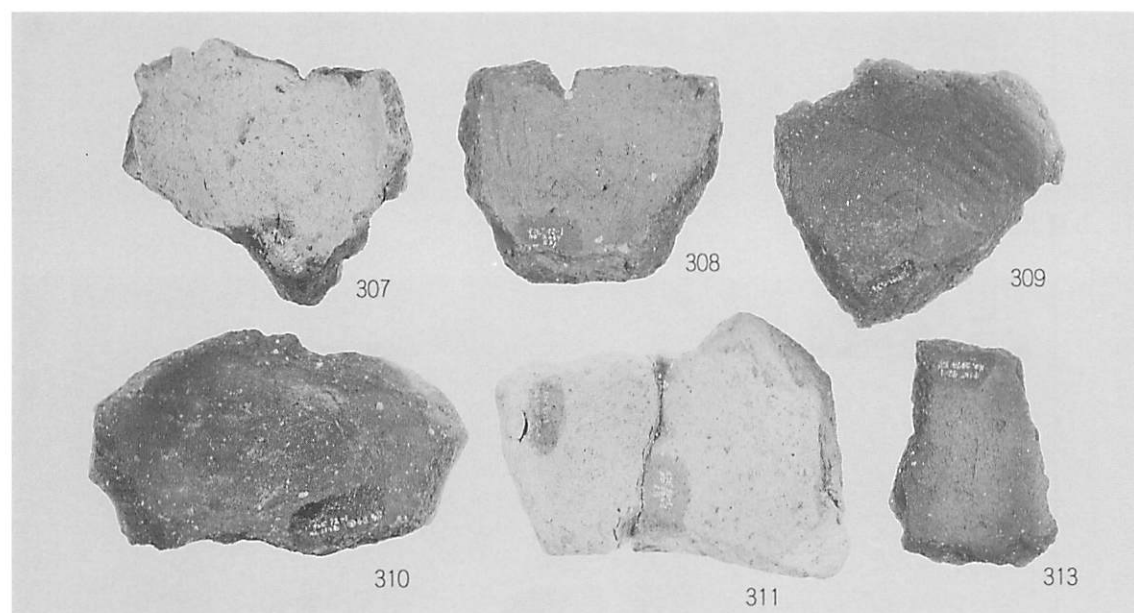
1. 5層出土遺物10（表）



2. 5層出土遺物10（裏）



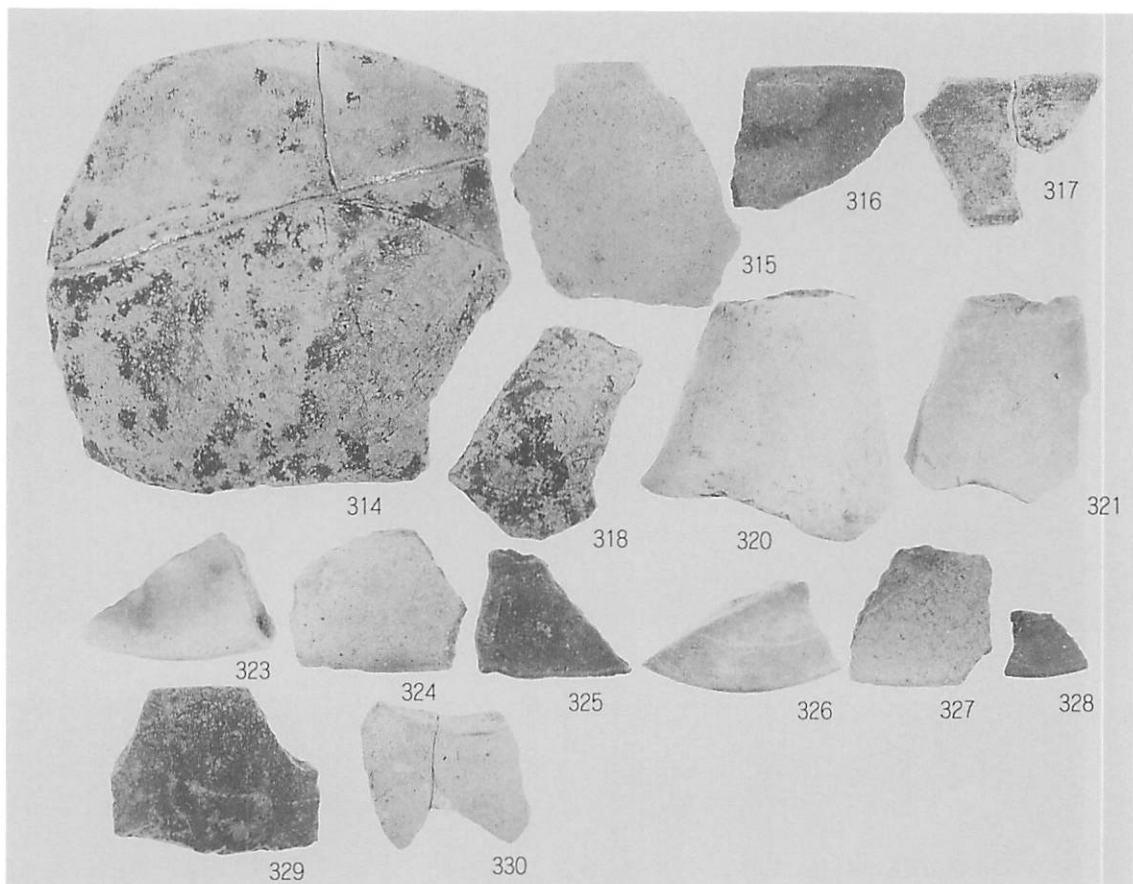
1. 5層出土遺物11（表）



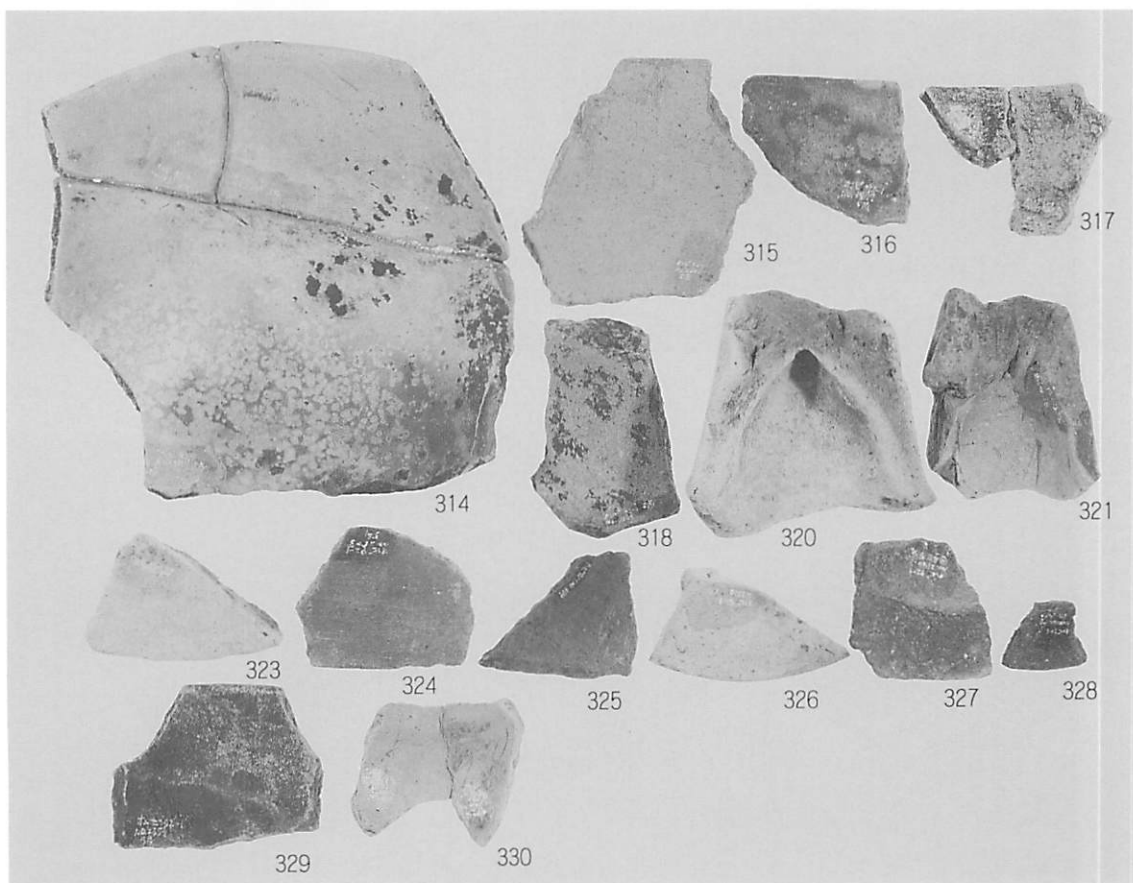
2. 5層出土遺物11（裏）



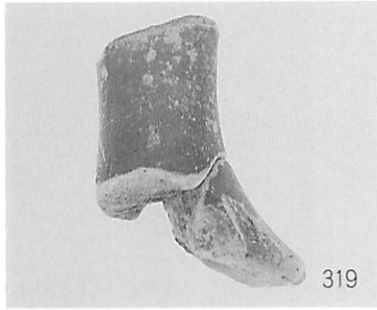
3. 5層出土遺物11（側面）



1. 5層出土遺物12（表）



2. 5層出土遺物12（裏）

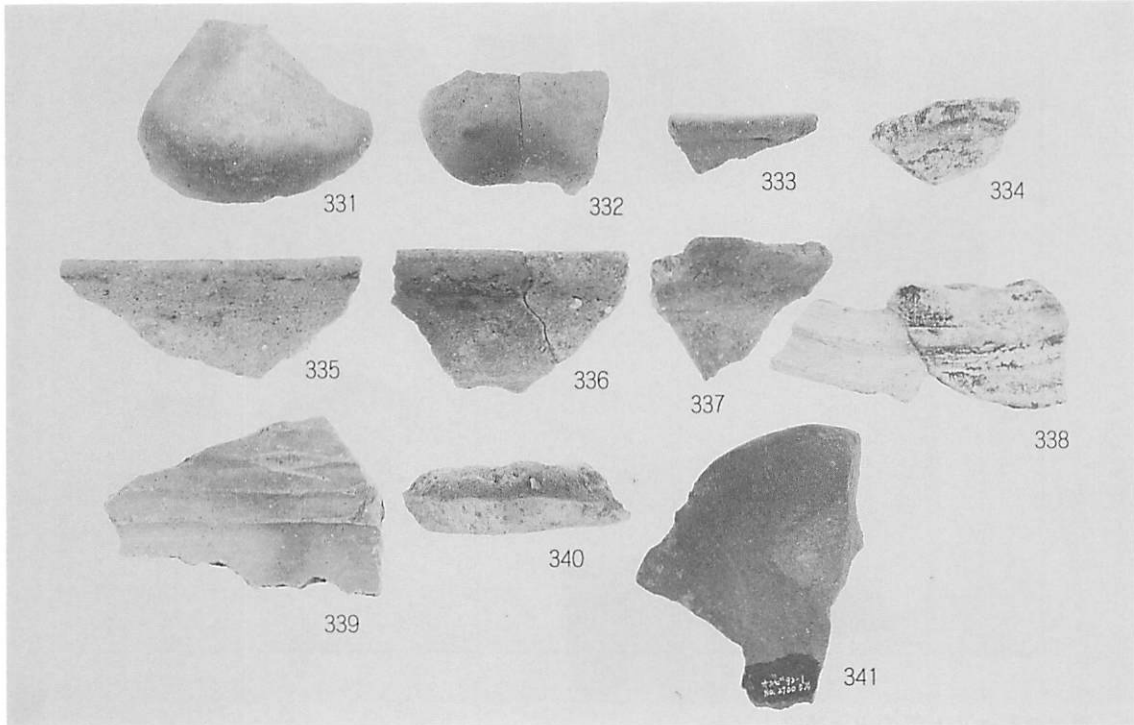


319

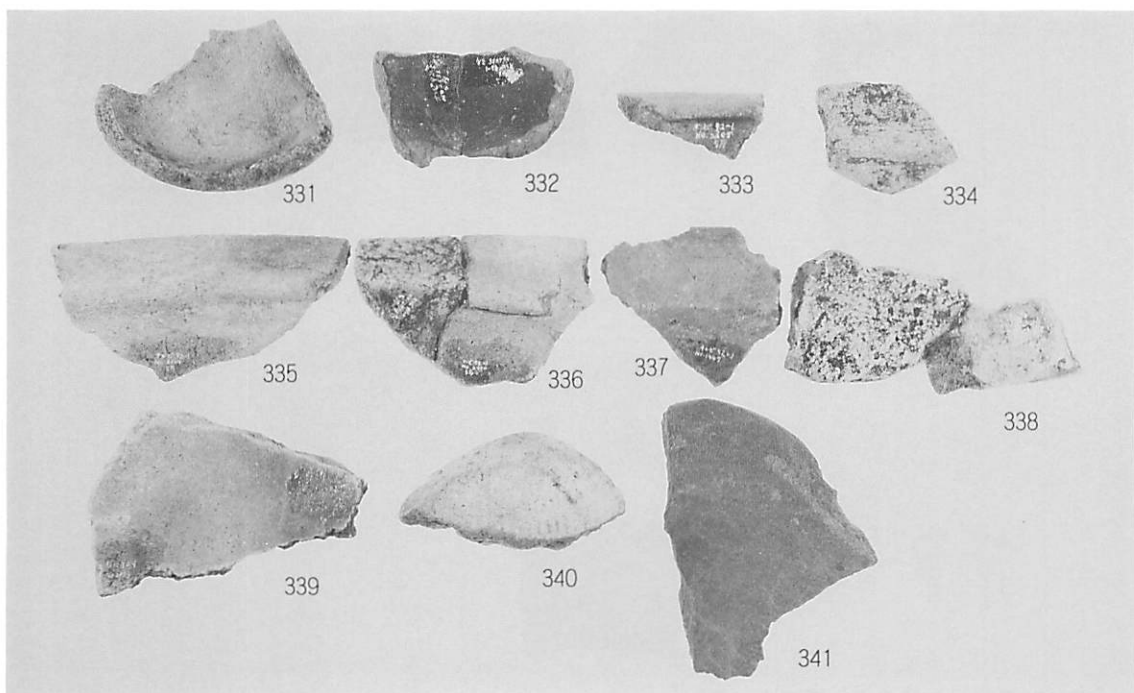


322

1. 5層出土遺物13（側面）

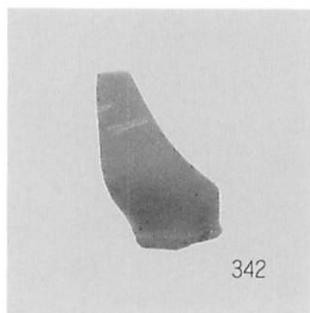


2. 5層出土遺物14（表）

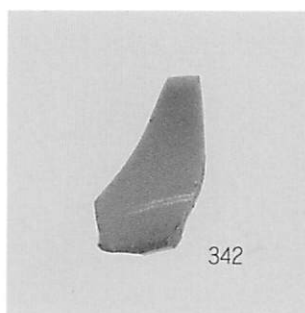


3. 5層出土遺物14（裏）

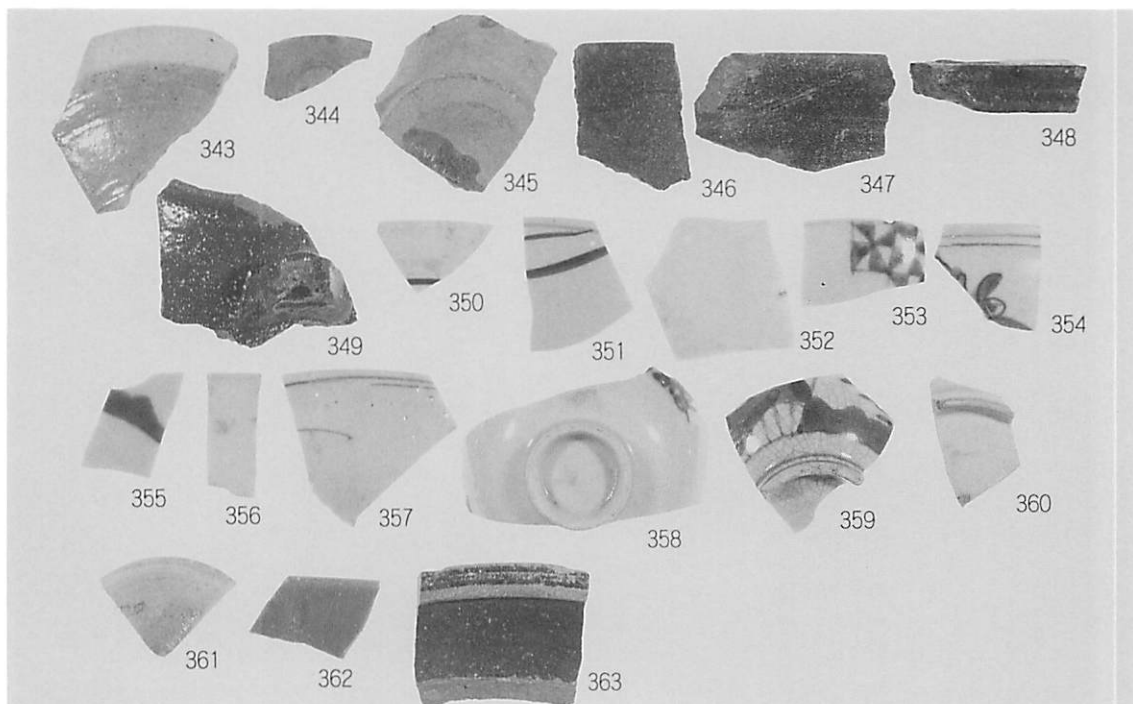




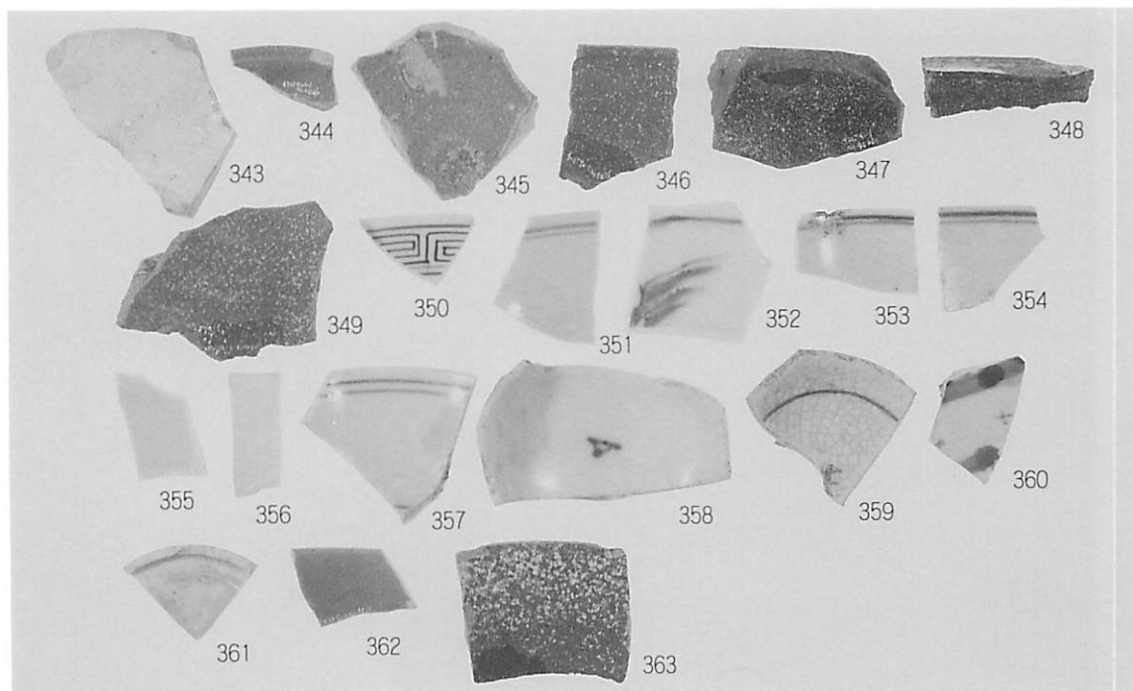
1. 6層出土遺物（表）



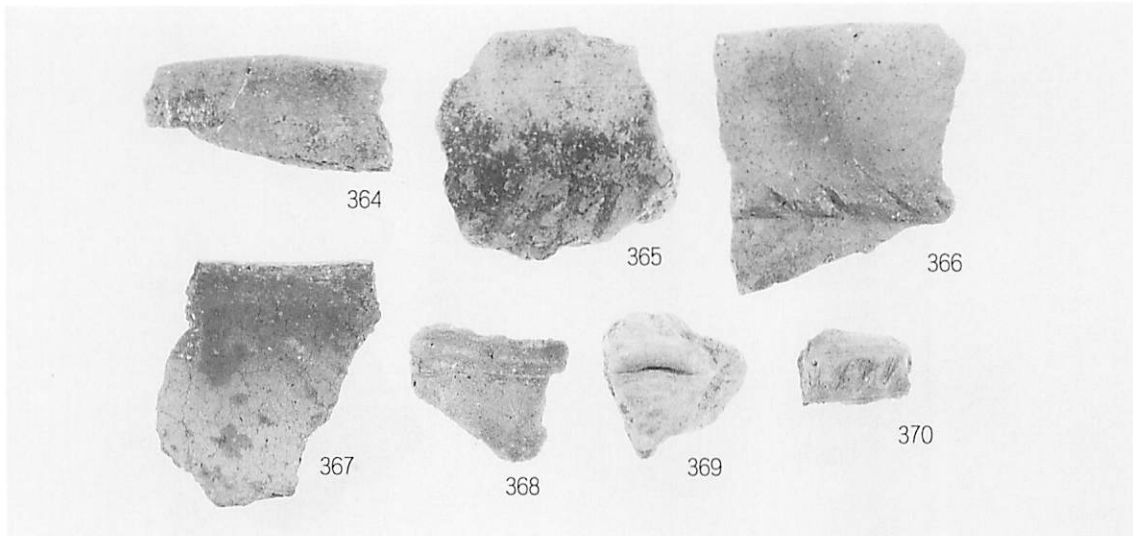
2. 6層出土遺物（裏）



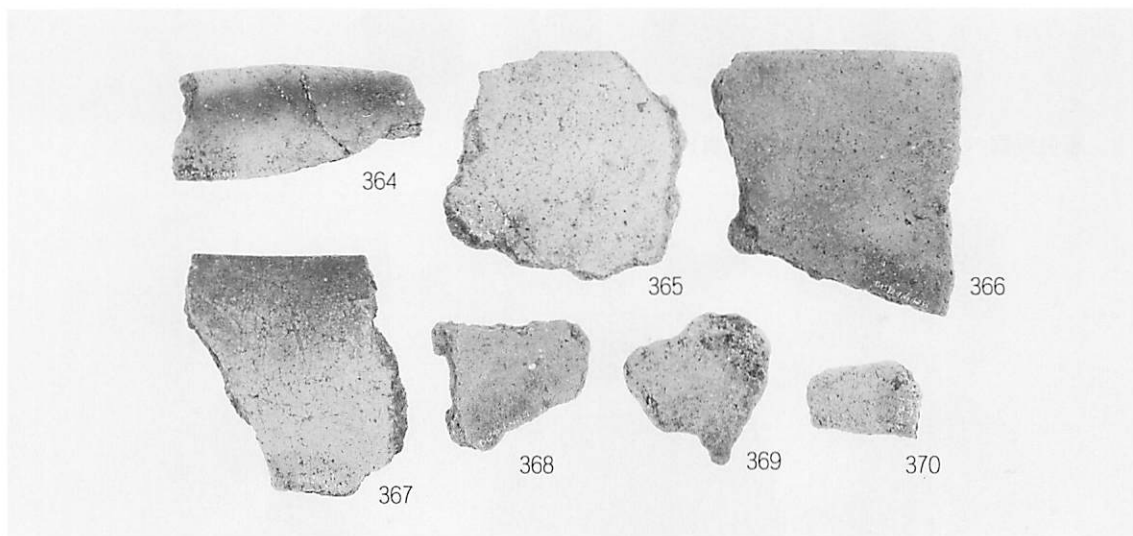
3. 層位観察ベルト等の出土遺物 1（表）



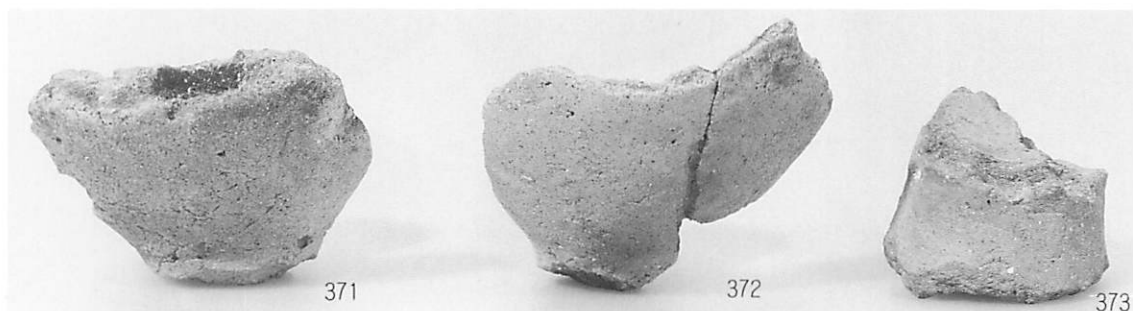
4. 層位観察ベルト等の出土遺物 1（裏）



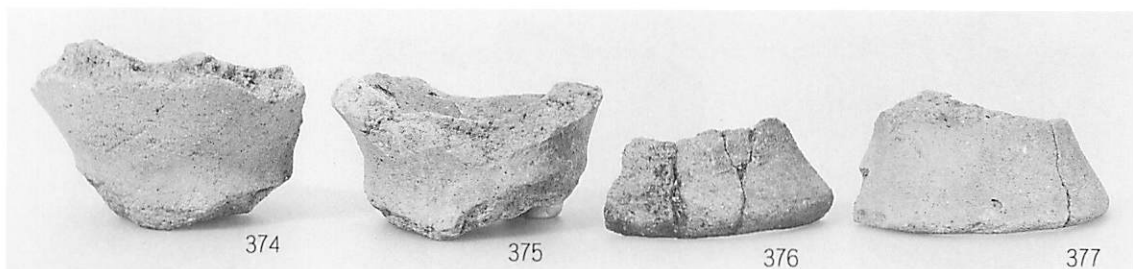
1. 層位観察ベルト等の出土遺物 2（表）



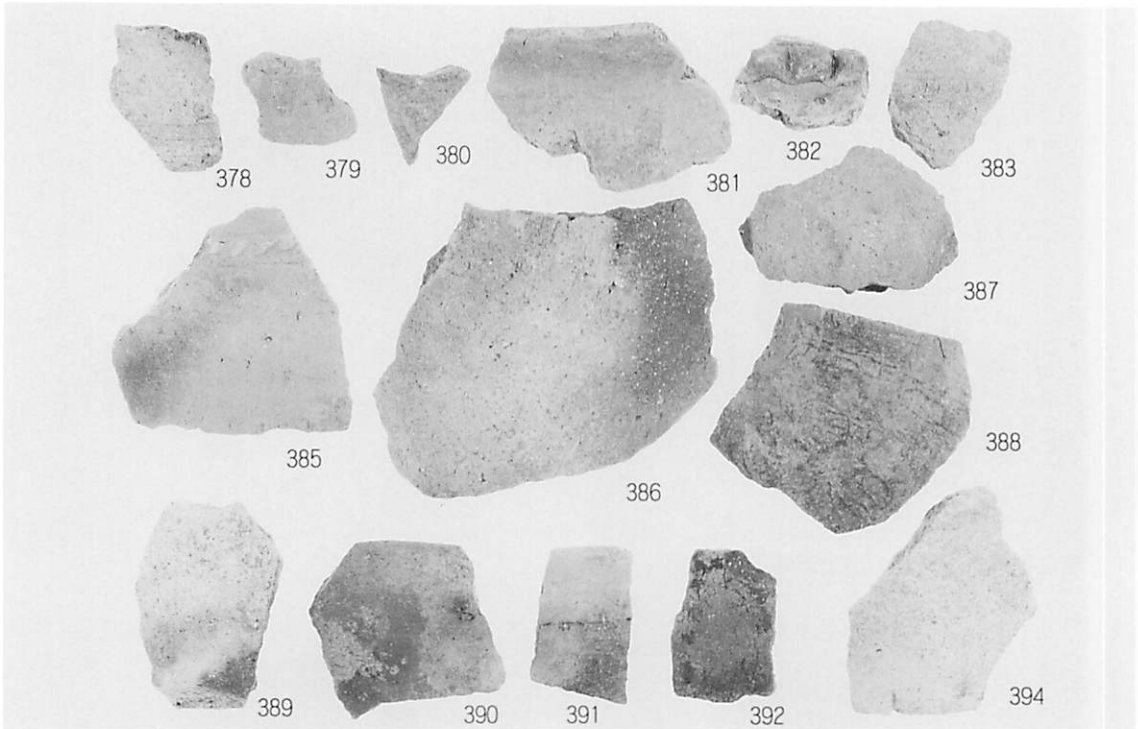
2. 層位観察ベルト等の出土遺物 2（裏）



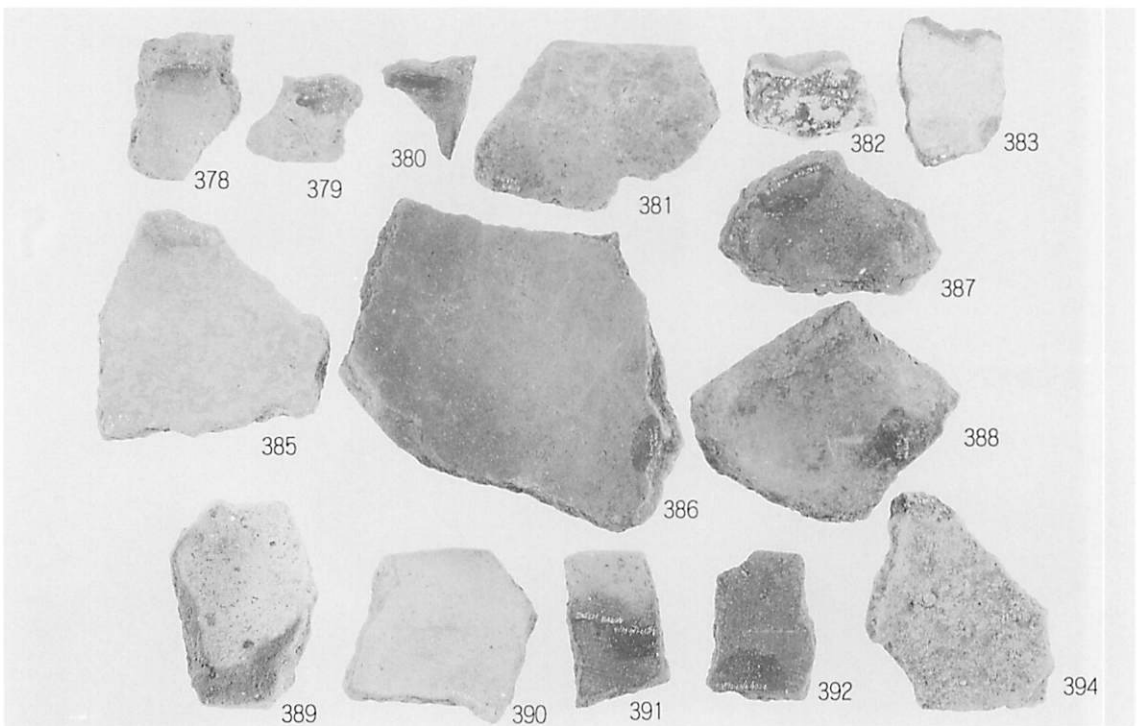
3. 層位観察ベルト等の出土遺物 3（側面）



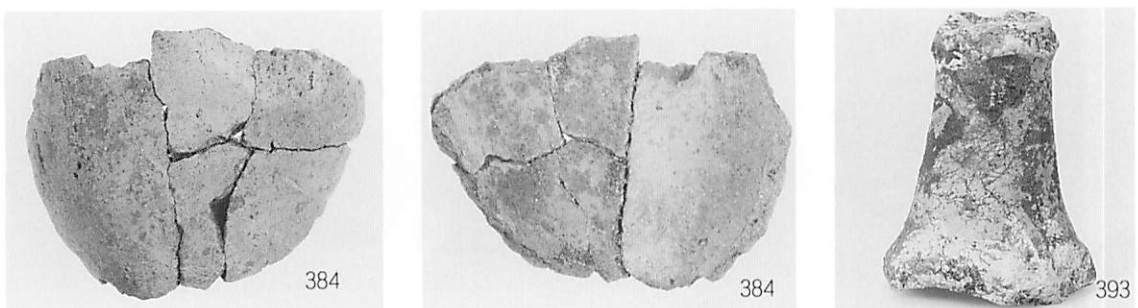
4. 層位観察ベルト等の出土遺物 4（側面）



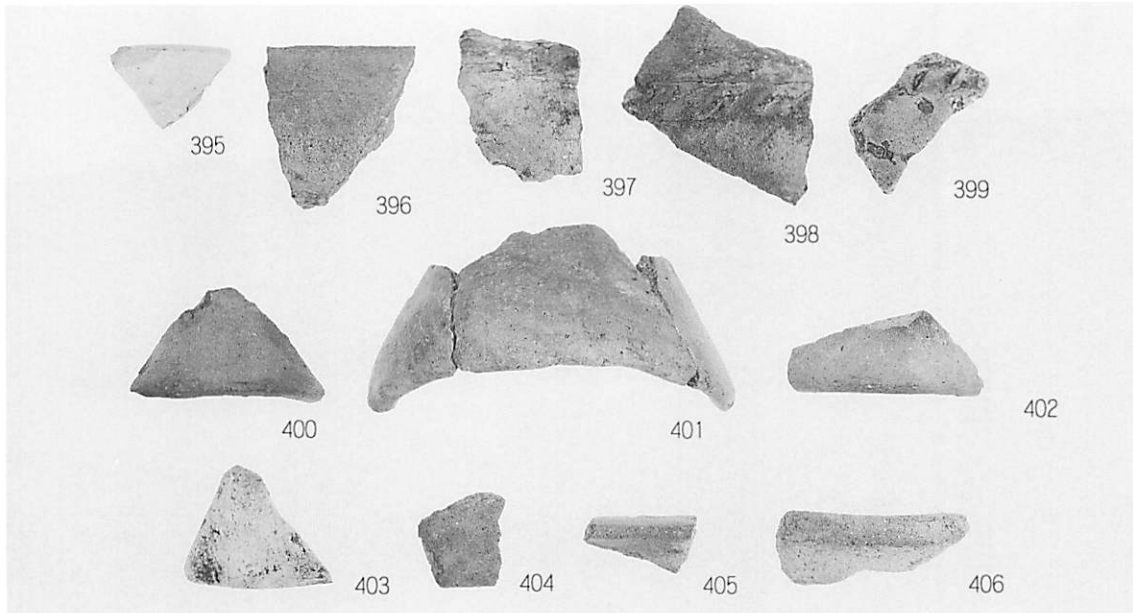
1. 層位観察ベルト等の出土遺物 5（表）



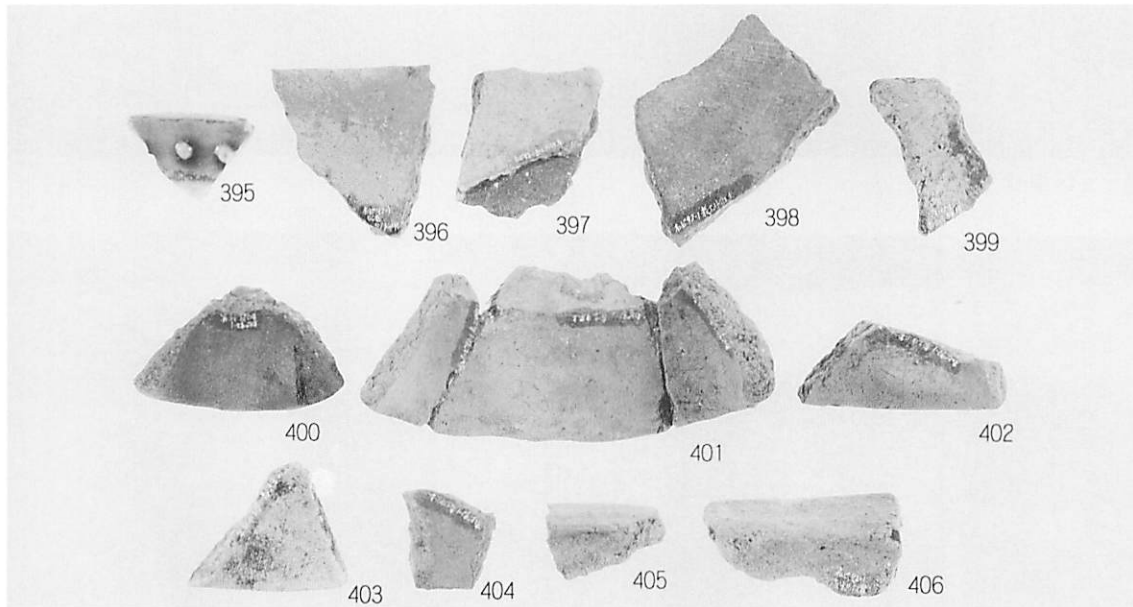
2. 層位観察ベルト等の出土遺物 5（裏）



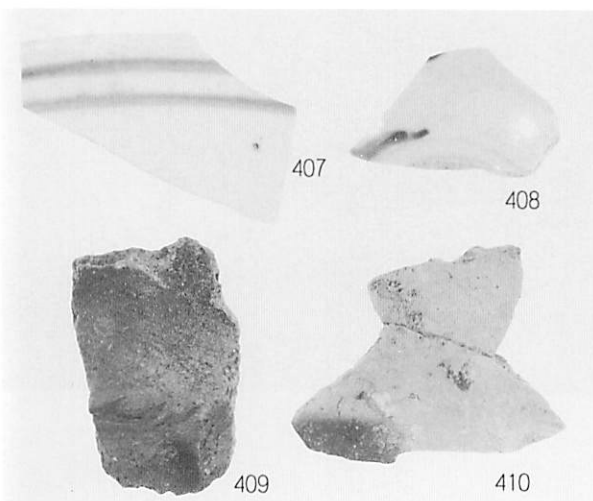
3. 層位観察ベルト等の出土遺物 6



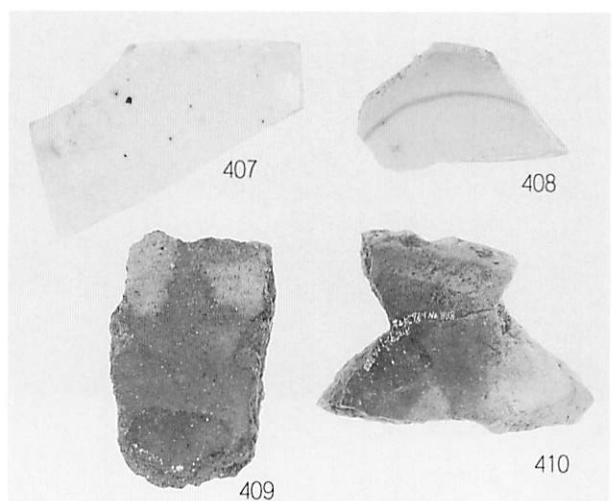
1. 表土・カクラン出土遺物（表）



2. 表土・カクラン出土遺物（裏）



3. その他の遺物（表）



4. その他の遺物（裏）



1. ①-a区東壁



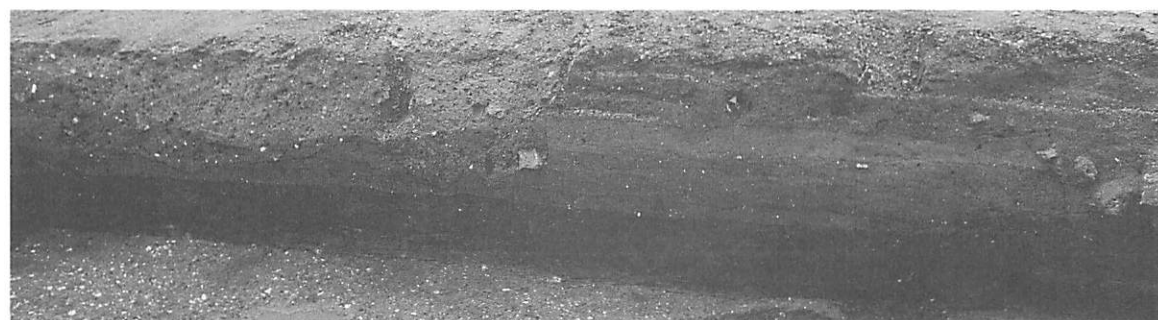
2. ⑨-e区西壁



1. ⑧-a区北壁



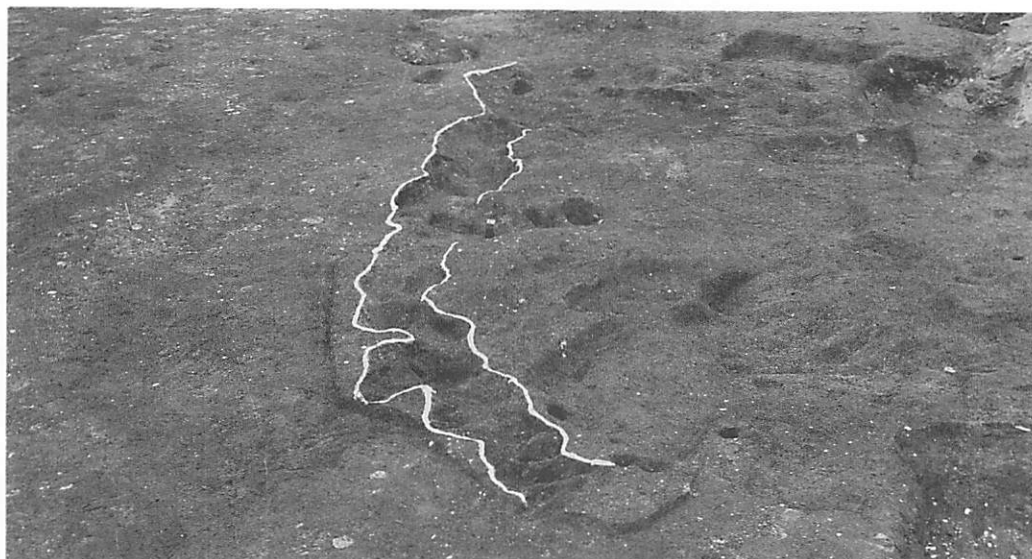
2. ⑧・⑨-c区北壁



3. ②・③-e区南壁



4. ⑥-e区南壁



1. SD1完掘状況



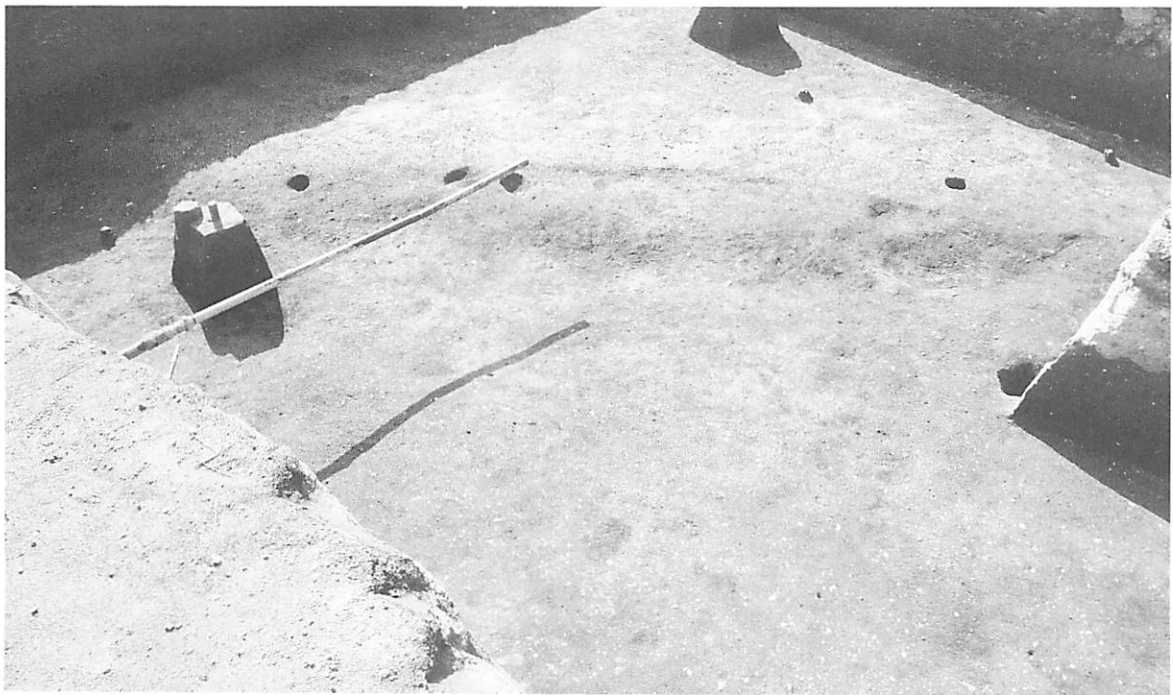
2. SD2検出状況



3. SD2完掘状況



1. SD 2 検出状況



2. SD 2 完掘状況





1. ④～⑦-e区ピット完掘状況



2. ②・③-e区ピット完掘状況



1. ⑦～⑨-e区ピット完掘状況



2. ⑦・⑧-a・b区ピット完掘状況



3. ⑦・⑧-b・c区ピット完掘状況



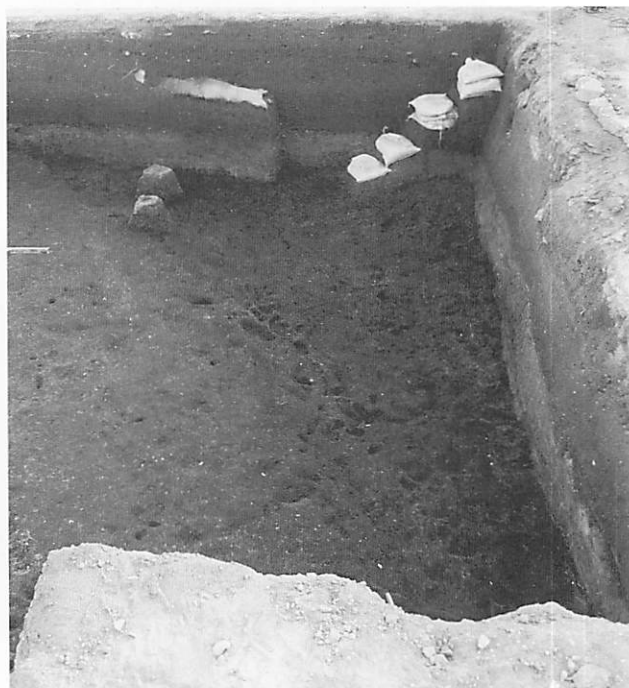
1. ⑦~⑨-c・d区ピット完掘状況



2. SD 4 完掘状況



3. SD 5 完掘状況



4. SD 5 完掘状況



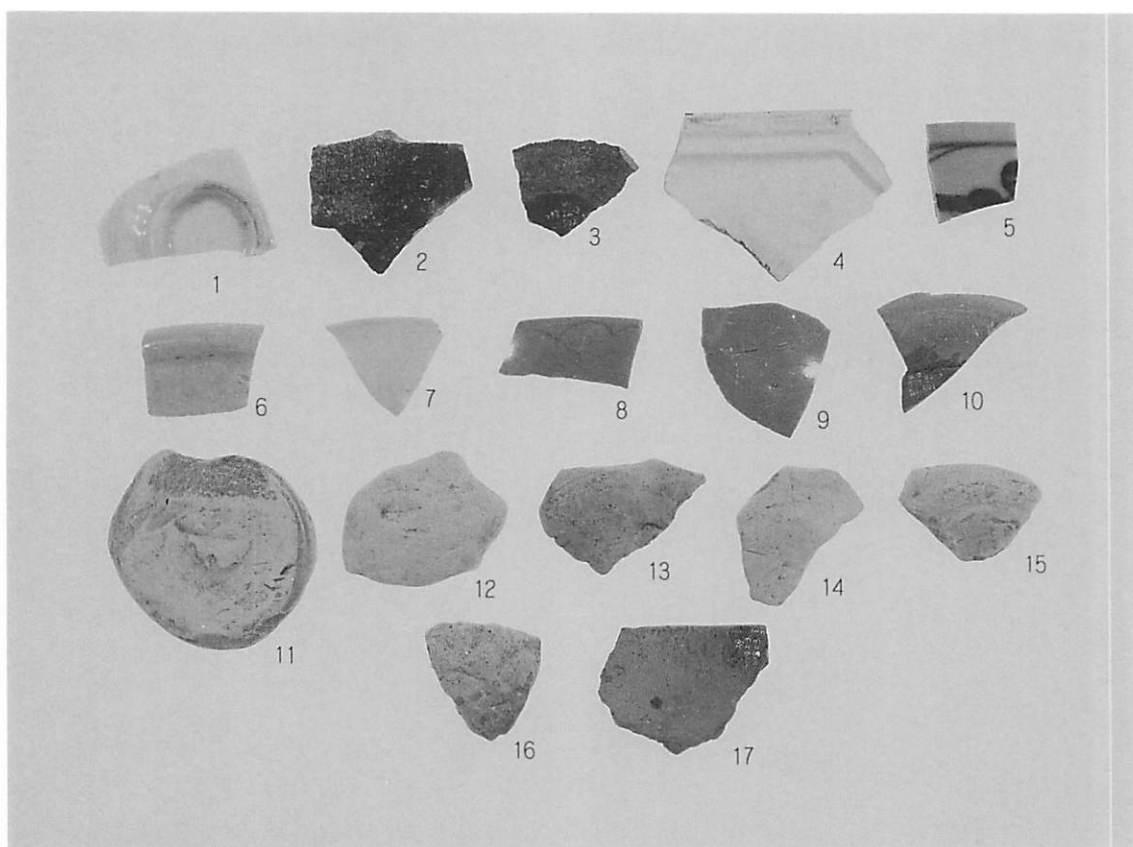
1. 足跡状遺構完掘状況（南から）



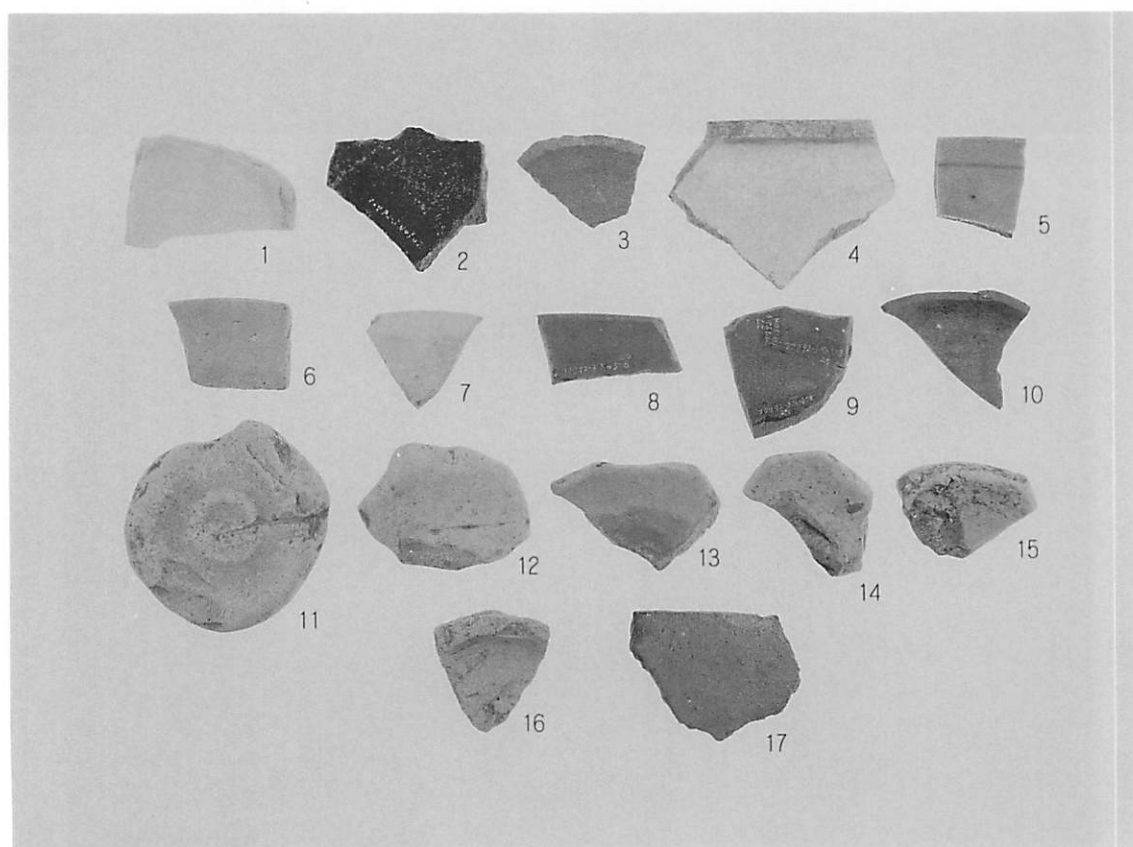
2. 足跡状遺構完掘状況（北から）



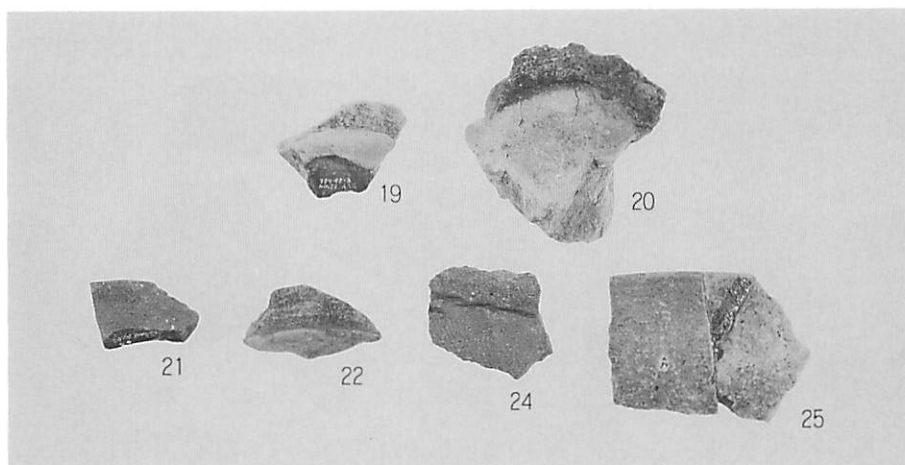
3. 足跡状遺構完掘状況（西から）



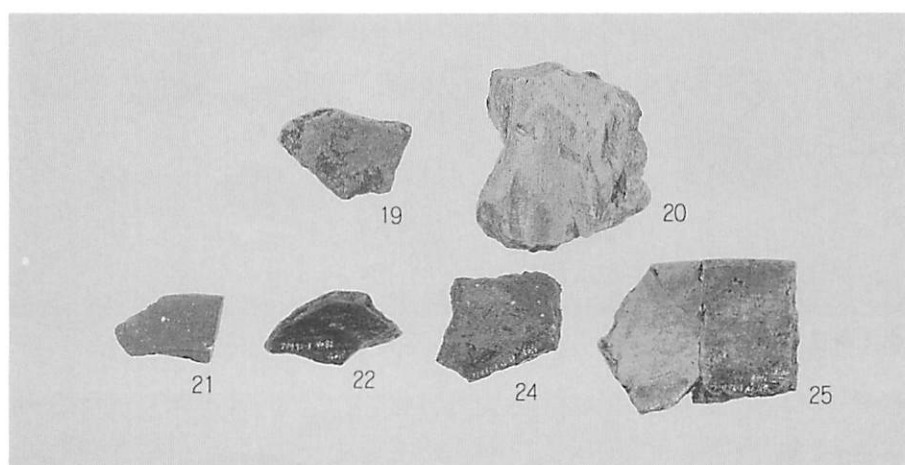
1. 2層出土遺物（表）



2. 2層出土遺物（裏）



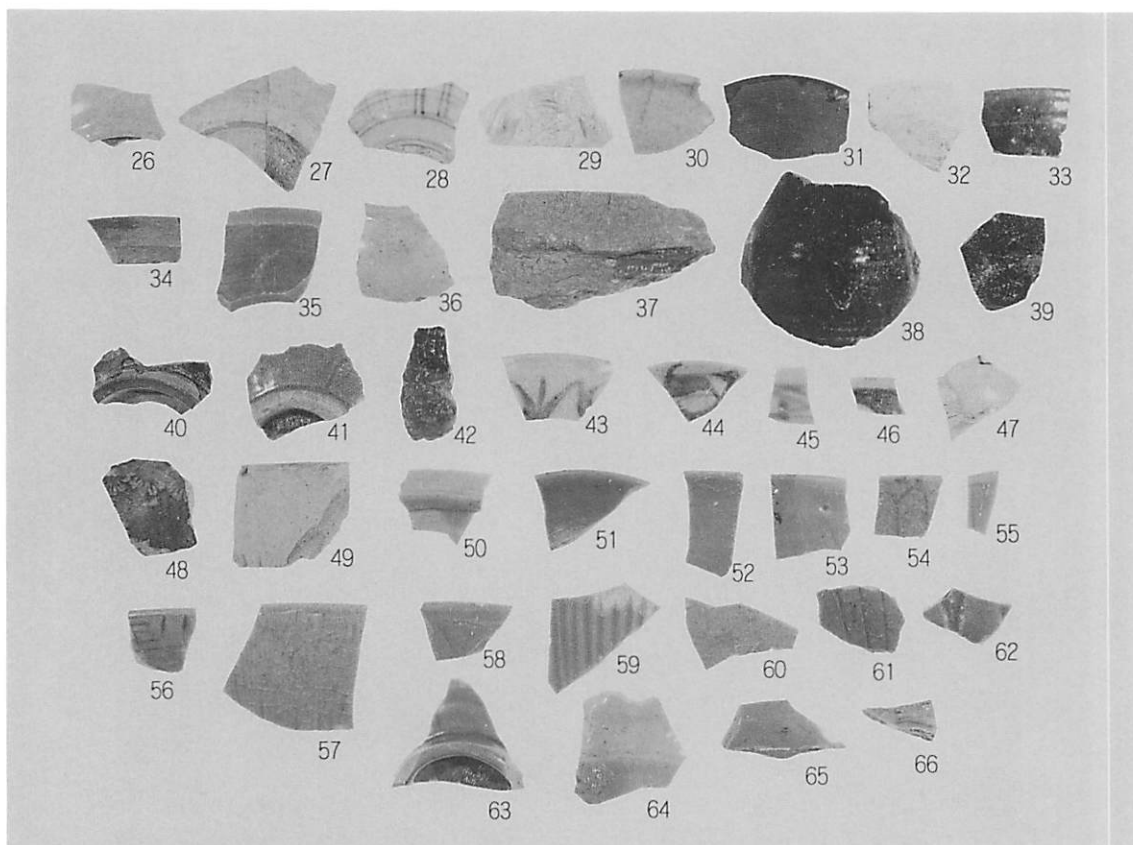
1. 4 a・4 b層出土遺物(表)



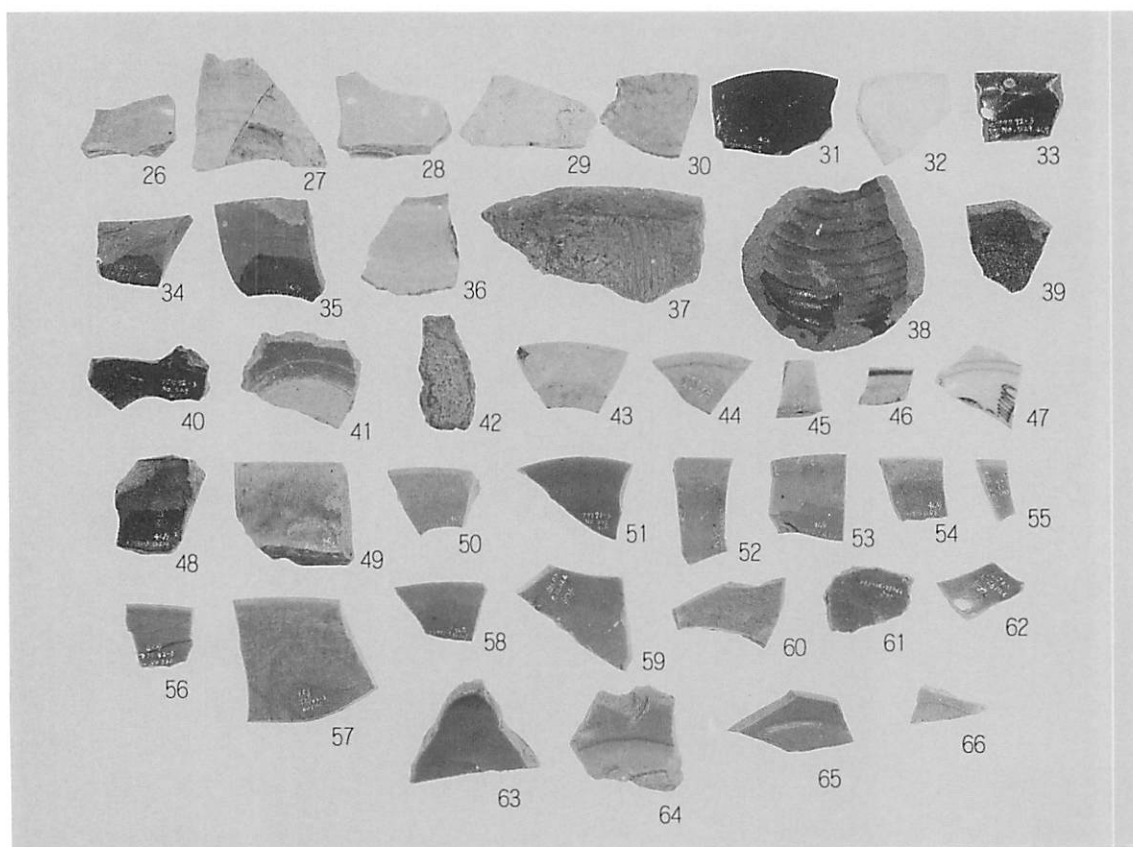
2. 4 a・4 b層出土遺物(裏)



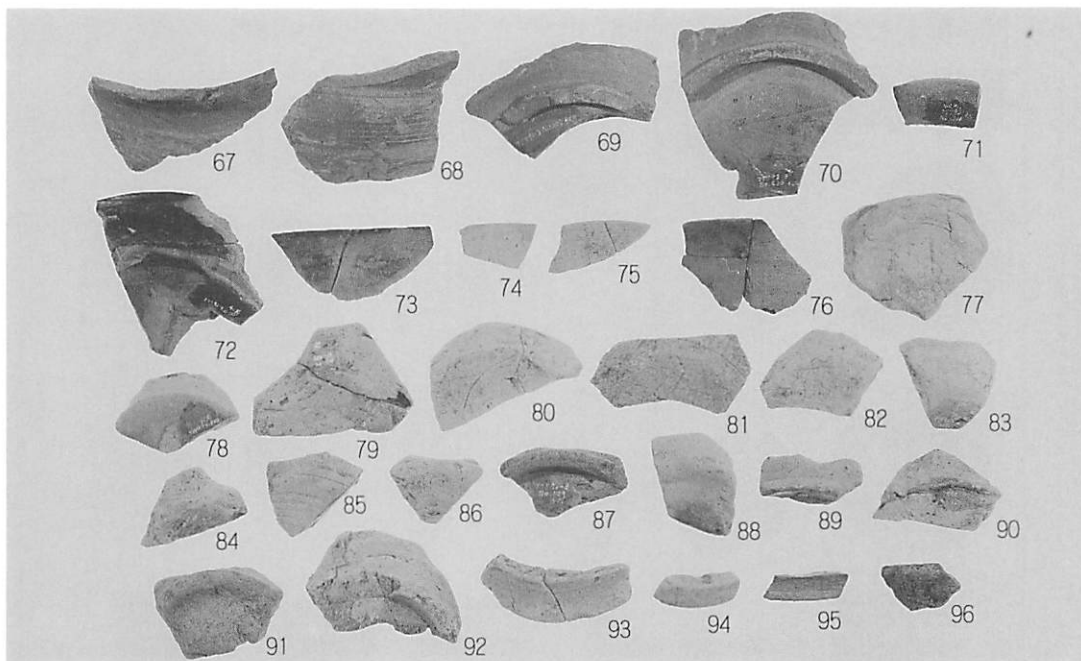
3. 4 b層出土土器(側面)



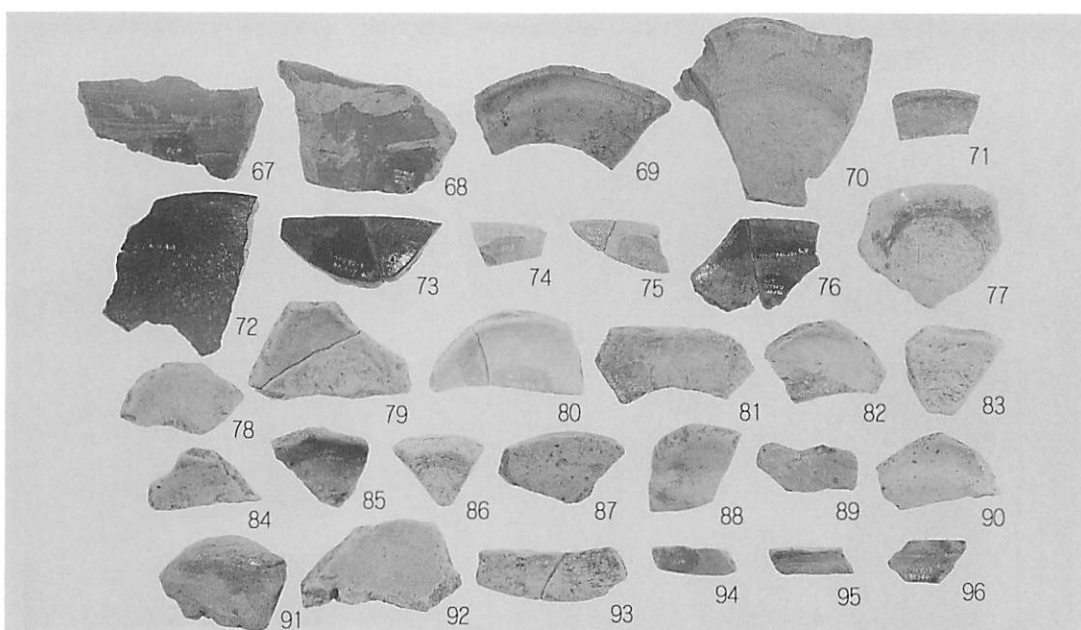
1. 4c層出土遺物1（表）



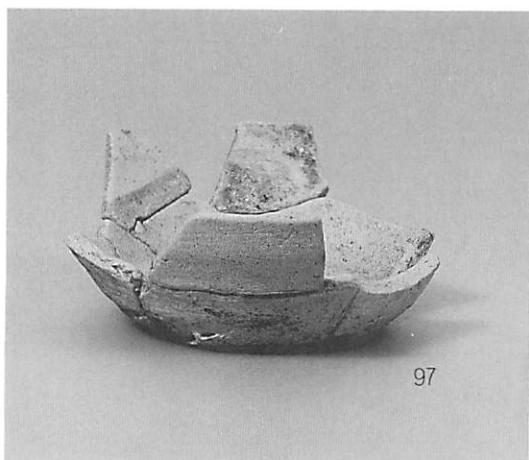
2. 4c層出土遺物1（裏）



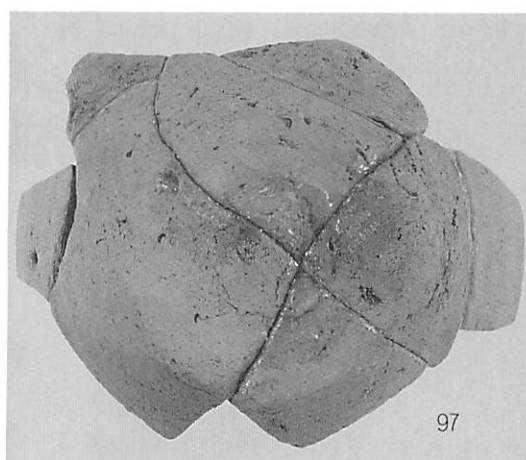
1. 4c層出土遺物2（表）



2. 4c層出土遺物2（裏）

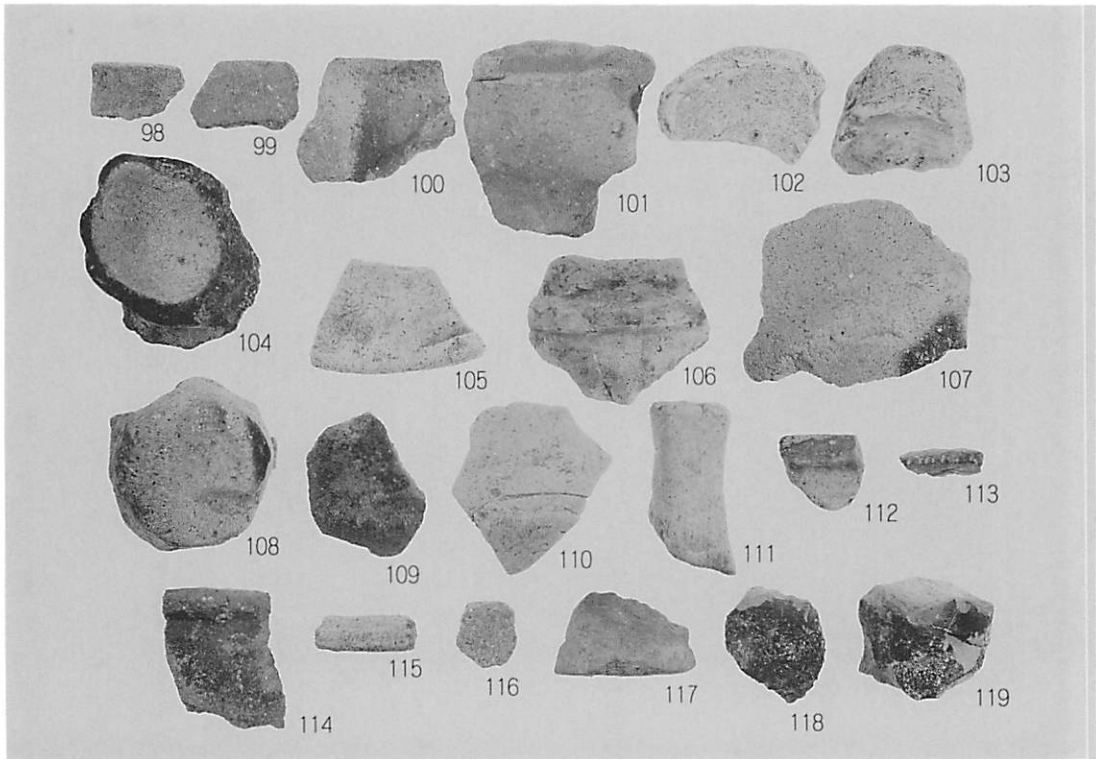


3. 4c層出土土師器（側面）

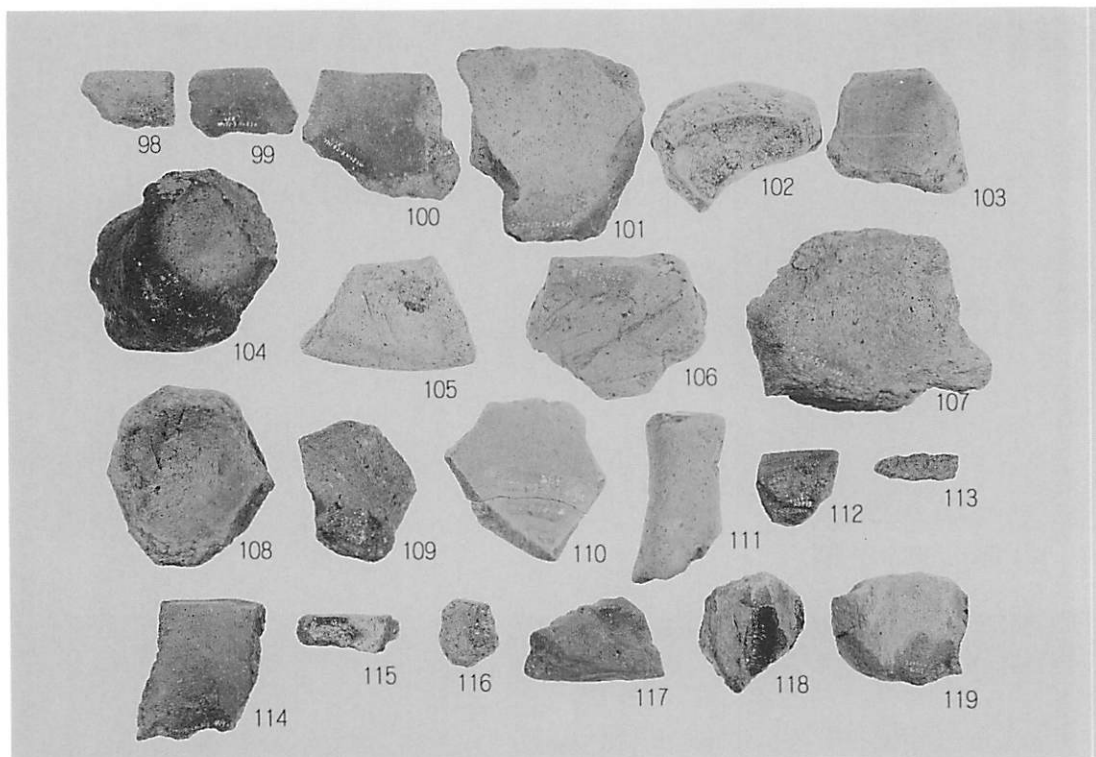


4. 4c層出土土師器（真下から）

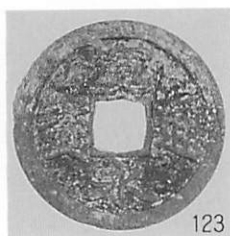




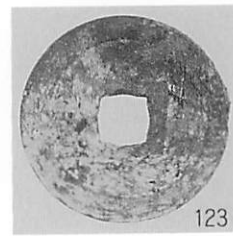
1. 4c層出土遺物3（表）



2. 4c層出土遺物3（裏）

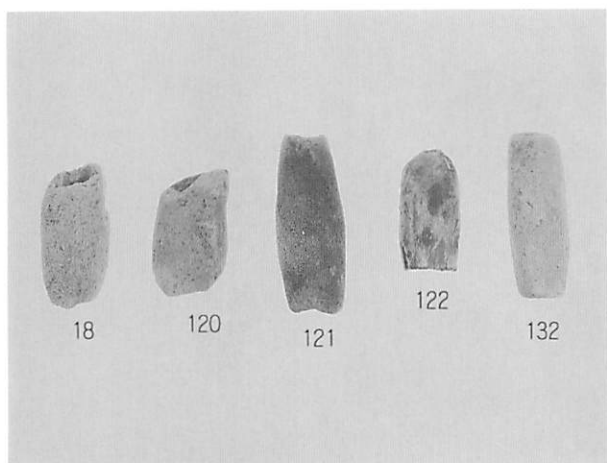


3. 4c層出土寛永通寶（表）

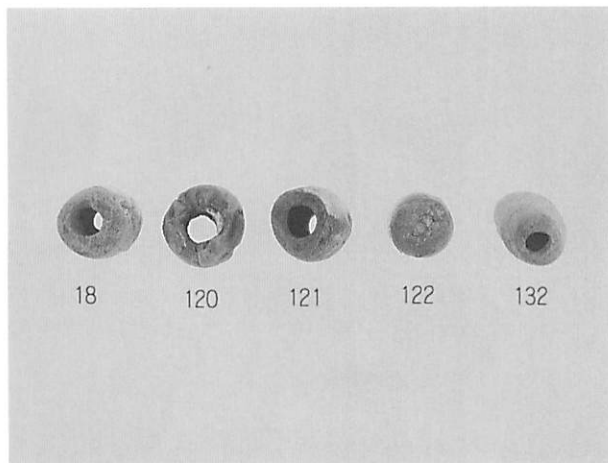


4. 4c層出土寛永通寶（裏）

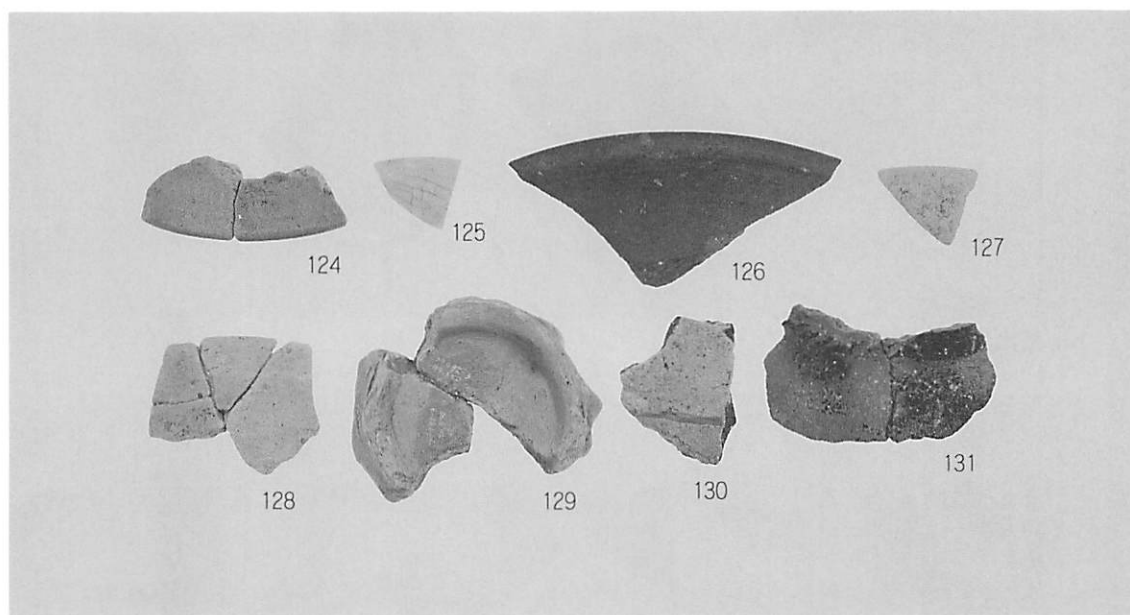
PL. 65 郡元団地O-7区（福利厚生施設建設地）における発掘調査（14）



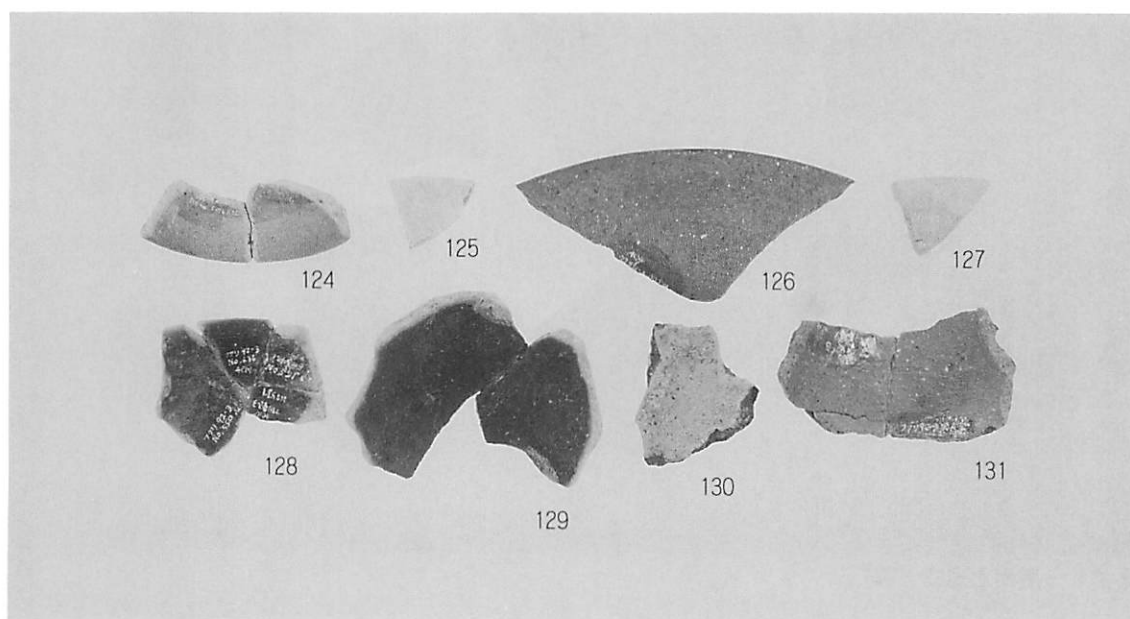
1. 2・4c・4e層出土土錘，銃弾（側面）



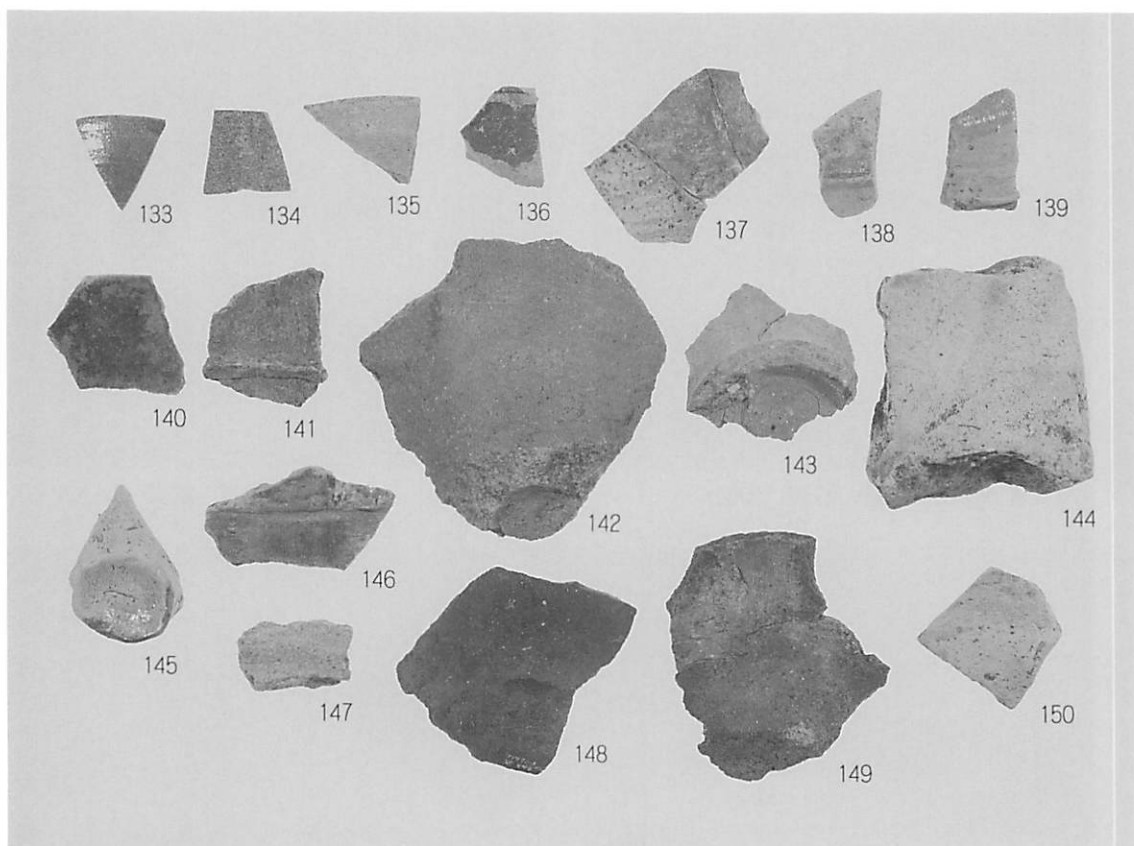
2. 2・4c・4e層出土土錘，銃弾（真上から）



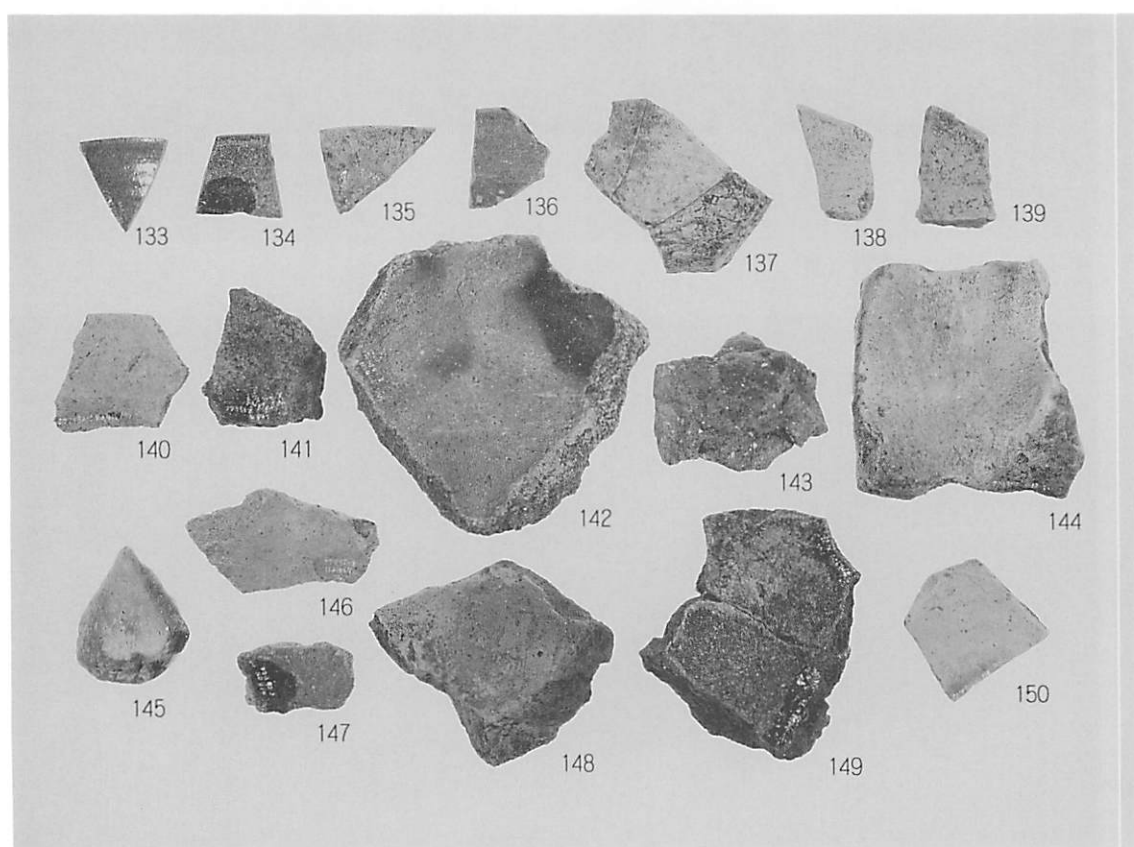
3. 4d・4e層出土遺物（表）



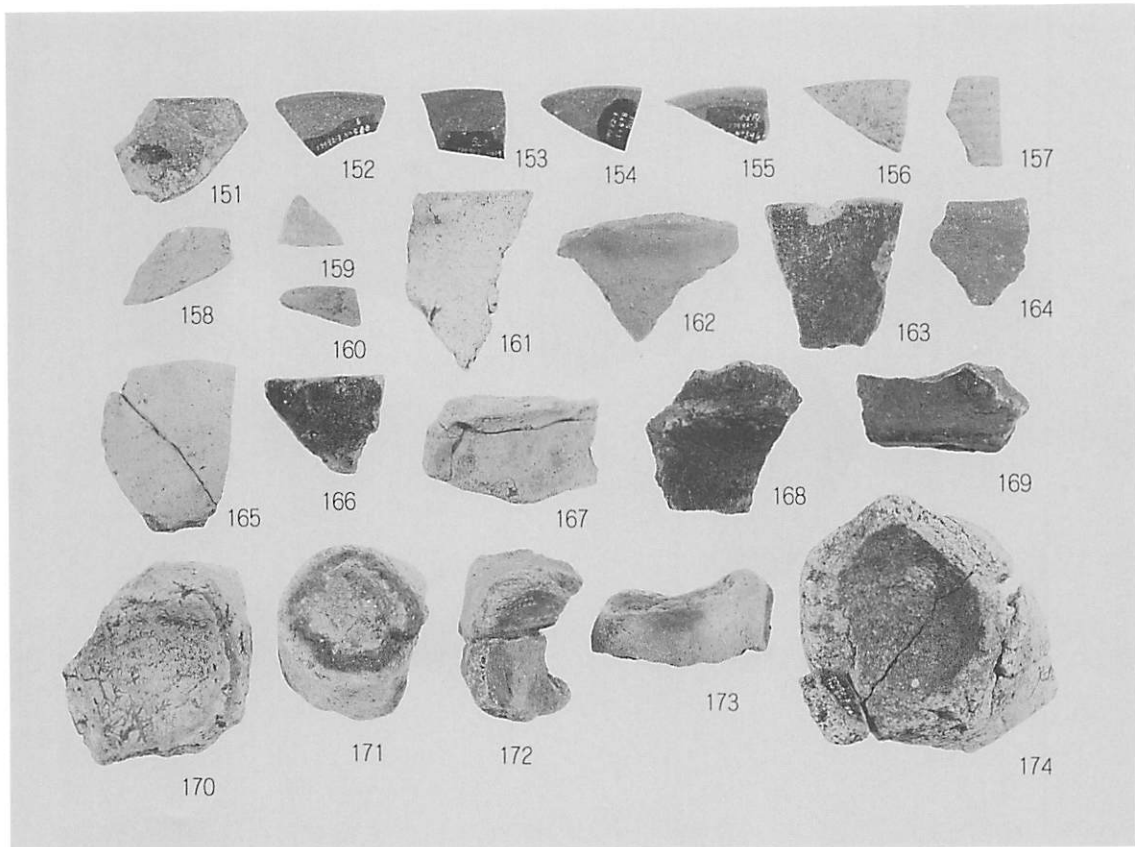
4. 4d・4e層出土遺物（裏）



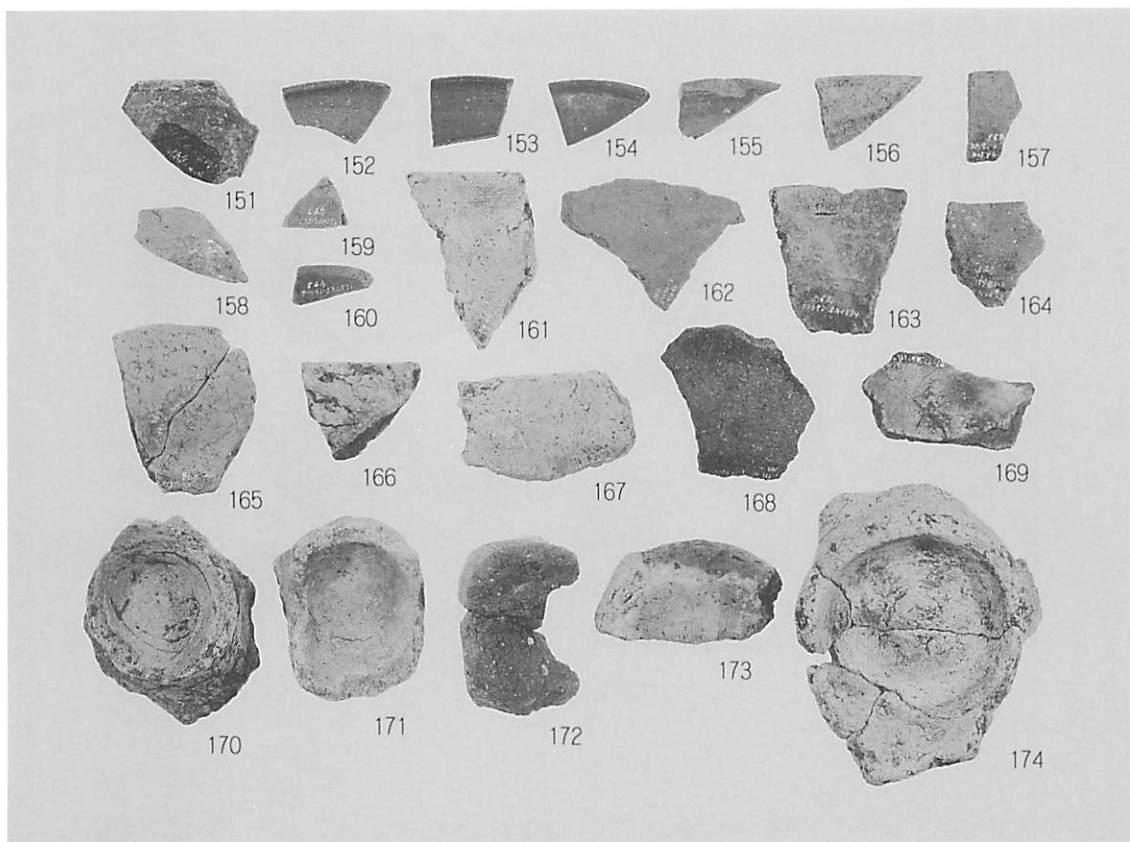
1. 5 a層出土遺物（表）



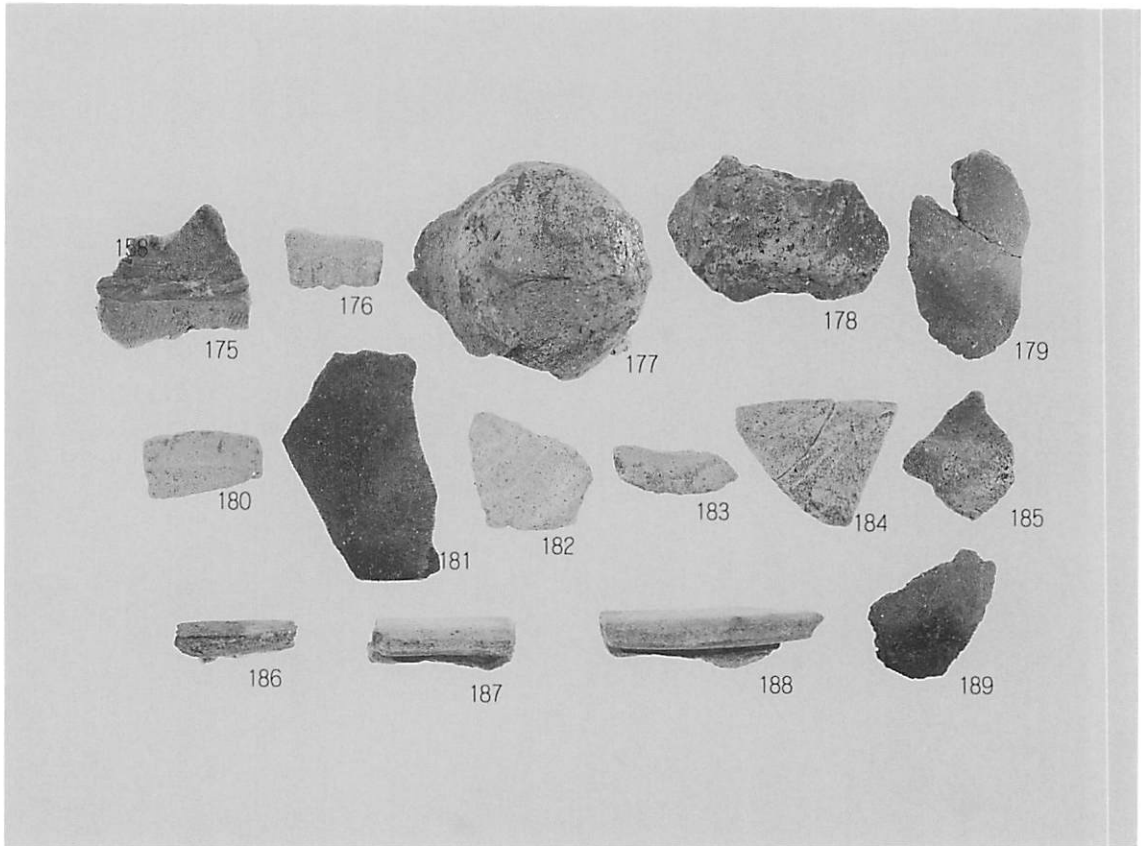
2. 5 a層出土遺物（裏）



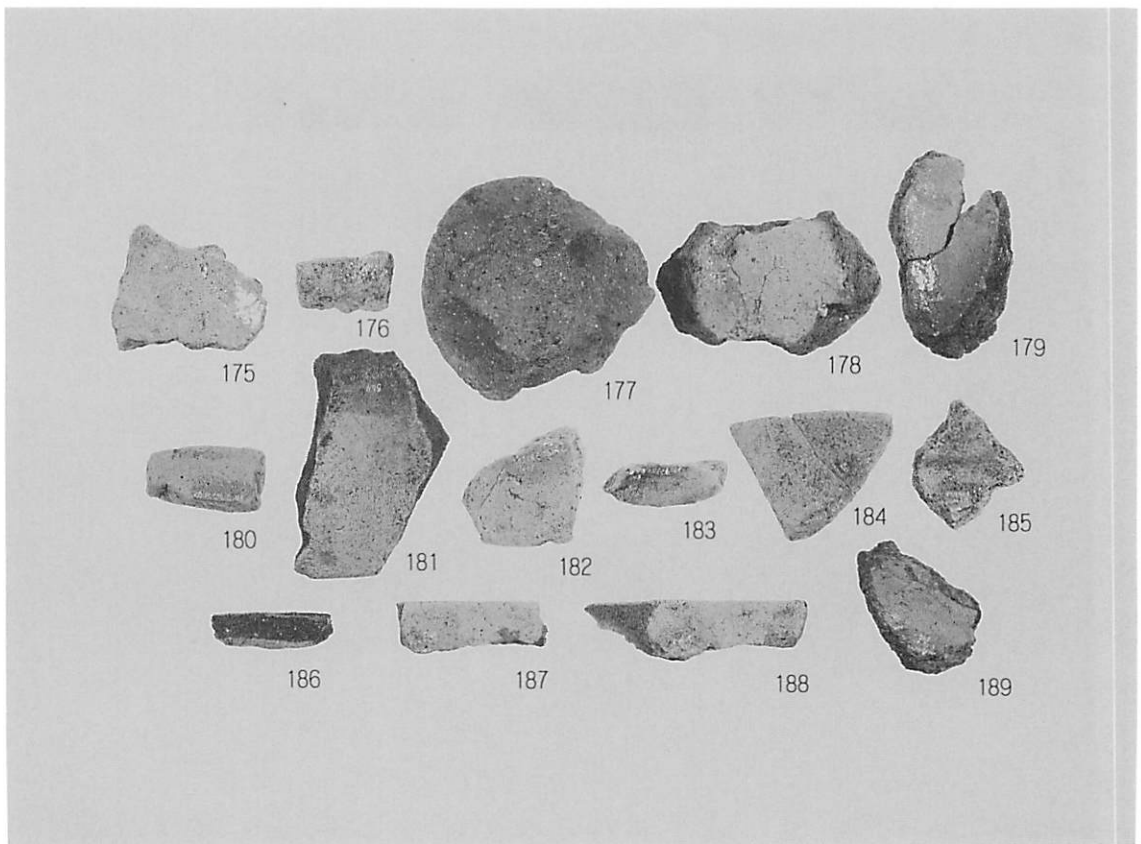
1. 5 b層出土遺物1（表）



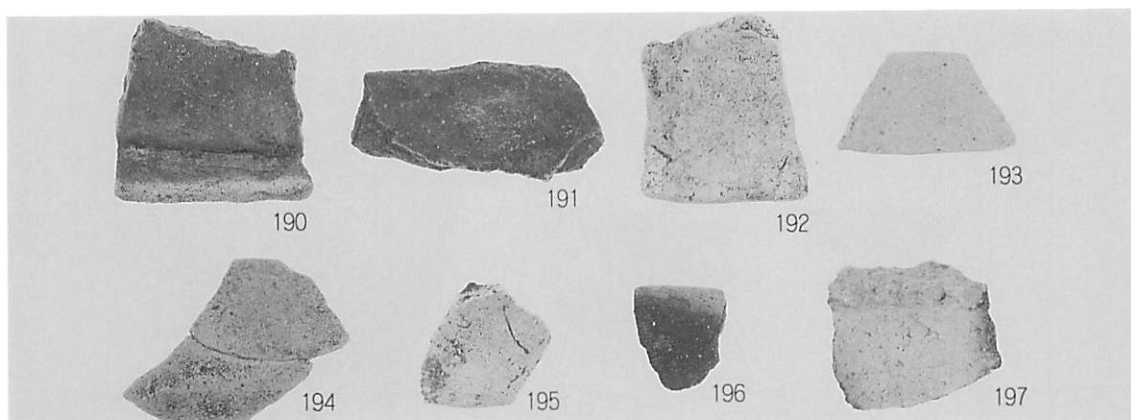
2. 5 b層出土遺物1（裏）



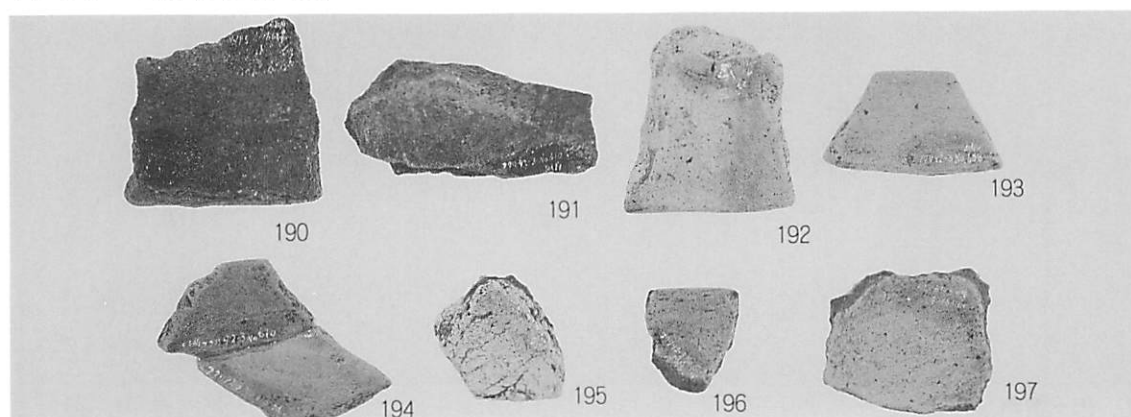
1. 5 b層出土遺物 2（表）



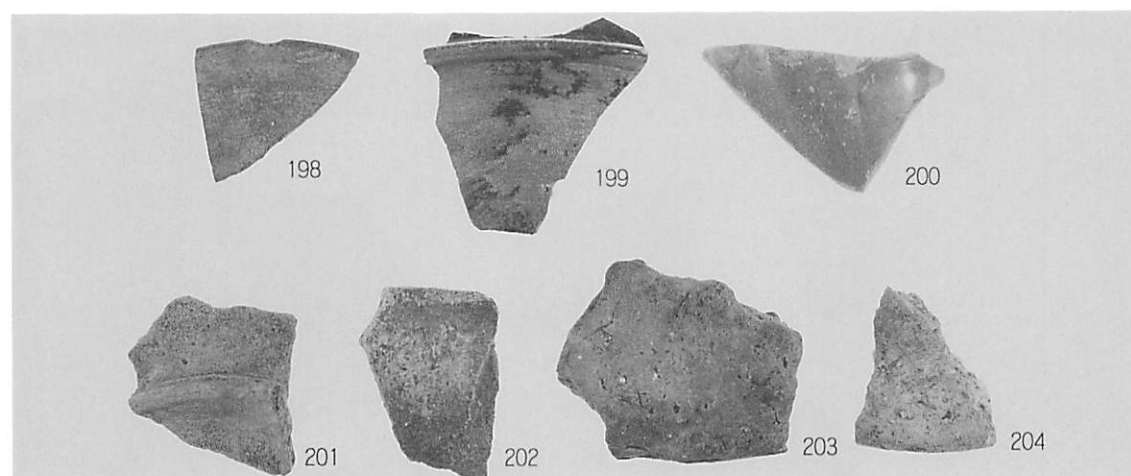
2. 5 b層出土遺物 2（裏）



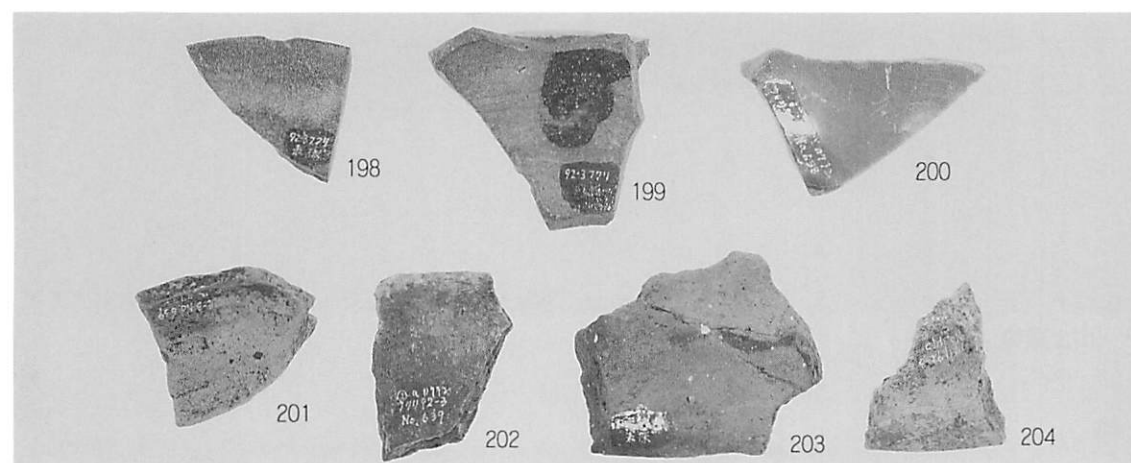
1. 5 b ・ 7 層出土遺物 (表)



2. 5 b ・ 7 層出土遺物 (裏)



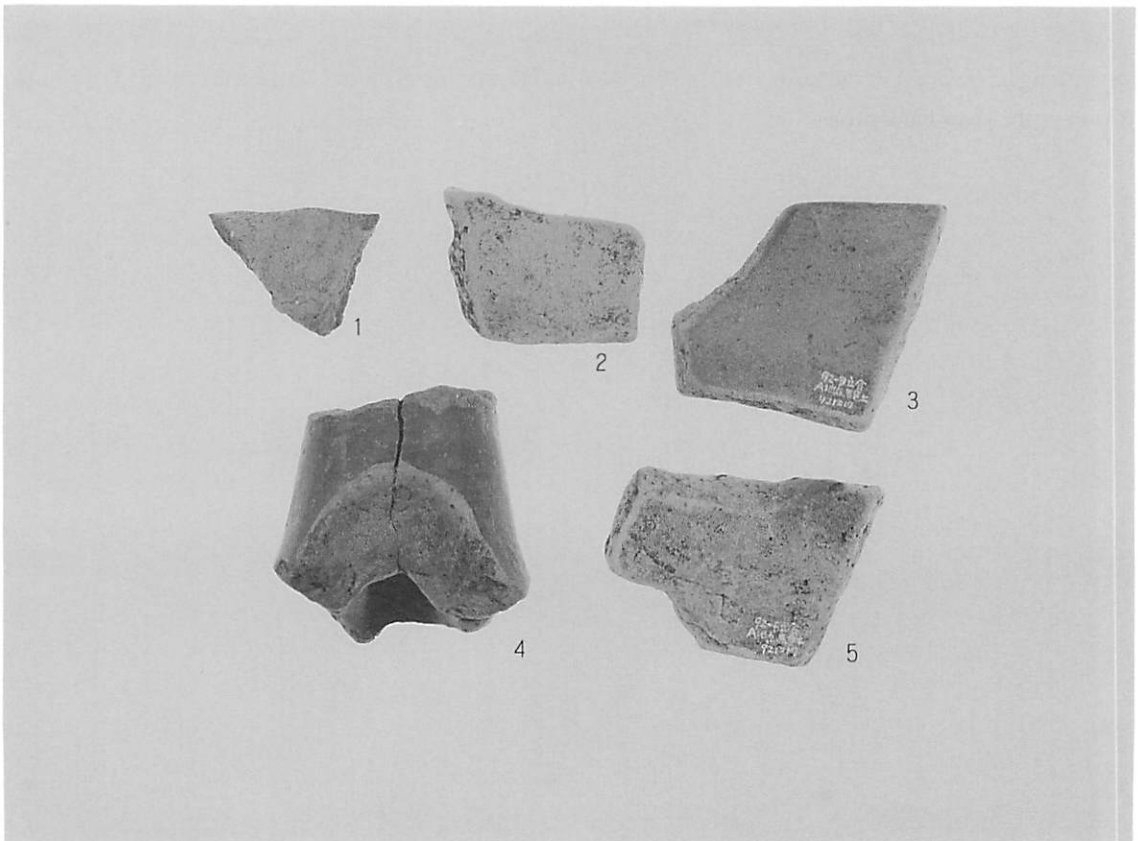
3. カクランおよび出土層不明遺物 (表)



4. カクランおよび出土層不明遺物 (裏)



1. 出土遺物（表）



2. 出土遺物（裏）

## SUMMARY

This is the report of the rescue excavations and surveys of the sites in the campuses of Kagoshima University. Kagoshima University Archaeological Research Center made them for the duration from January 1993 to December 1994. This report also includes the results of the excavations carried in 1992 in three appendixes. Appendix I reports the excavations of Area P-4 and 5 in Korimoto campus, appendix II reports those of Area O-7. Appendix III provides the report and the analysis of the pottery collected on the occasion of the rescue survey of the central library.

### LOCATION AND HISTORICAL BACKGROUND

Kagoshima University is located in the center of Kagoshima city, south Kyushu Island. The western part of the city is highland and the eastern part is lowland. Active volcano Mt. Sakurajima is in the center of Kagoshima Bay. This report includes the results of excavations and field surveys at Korimoto campus, Sakuragaoka campus and Handicapped Children's School attached to Faculty of Education. Korimoto campus and Handicapped Children's School are located in the lowland, and Sakuragaoka campus is situated in the highland. The sites at Korimoto campus are registered to be those of late Kofun period at 500 to 700 AD., and those at Sakuragaoka campus are registered to be the site of Jomon and Yayoi periods. Archaeological sites of Yayoi and Kofun periods have been found at and around Handicapped Children's School.

### EXCAVATIONS IN KORIMOTO CAMPUS

The center carried six excavations, two test excavations and twenty-six surveys. They were all rescue archaeological surveys. There are two different habitation areas in Korimoto campus. We found houses in each area, one is a pit house with corridor in Area L-6, and the others are ten square pit houses and one pit houses with corridor in Areas M-T-7-12. They measure three to four by three to four meters.

A lot of pottery of Yayoi period was found concentrated in Areas L-6 and P-4. In Area H-11, an ancient river was found, along which about two hundred wooden piles were found in lines. Each pile is fifty to two hundred centimeters long. The pile lines measure two meters wide and fifteen meters long. They were built for the water gate of irrigation or the river bank protection.

### EXCAVATIONS IN SAKURAGAOKA CAMPUS

Two excavations and five surveys in Sakuragaoka campus revealed archaeological remains and layers in early Yayoi and early Jomon periods. Three pit houses of Yayoi period were excavated in Area I-8. They are two circular ones, three meters in diameter, and oval one of which major axis measures six meters and minor axis measures four meters. Sherds and a stone spindle whorl were collected buried in the houses.

We also excavated a rectangular pit house of early Jomon period in Area G-11 and a stone-piled fireplace in Area I-8. The house measures three by four meters, and have small holes on the floor along the walls.

### EXCAVATION AT HANDICAPPED CHILDREN'S SCHOOL ATTACHED TO FACULTY OF EDUCATION

It is situated at 44-5 Shimoishiki, Kagoshima city. Our excavation found a paddy field after Edo era, pre-modern times.

### APPENDIX I : Area P-4 and 5 in Korimoto Campus

Archaeological Research Center made a rescue excavation from June 10 to October 3, 1992, before the construction of a building at Faculty of Education. We excavated twelve ditches of Kofun period and after Meiji era on, and archaeological layers that contained artifacts of Kofun period. About four thousand and four hundred artifacts were collected. Most of them are small sherds of Kofun period. They were moved and deposited by the flow.



## APPENDIX II : Area O-7 in Korimoto Campus

Archaeological Research Center made a rescue excavation from October 19 to December 25, 1992, before the construction of the students' restaurant at Faculty of Education. Five ditches and 374 pit holes were excavated in three stratified cultural levels. The sherds collected in the ditch SD1 show it belongs to Kofun period. Other ditches that were dug in the same direction as SD1 also belong to Kofun period.

Archaeological remains were found between the second to the seventh layers, two of which contained most of the artifacts. Most of them are artifacts of the medieval times, such as sherds of celadon, white porcelain and earthenware, and those of Kofun period.

# 報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぼうきゅう・じゅう							
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅸ・X							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	中村直子・大西智和							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒890 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号 TEL.0992-85-7270							
発行年月日	西暦1995年3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 m <sup>2</sup>	調査起因
		市町村	遺跡番号					
かごしまだいがくこうないいせきこおりもとだん 鹿児島大学構内遺跡郡元団 地H-11区	かごしましこおりもといち 鹿児島市郡元一 丁目21番40号	46201		31	130	19940323 ~	16	建物建設
				34	32	19940330		
かごしまだいがくこうないいせきこおりもとだん 鹿児島大学構内遺跡郡元団 地M・N-3・4区	かごしましこおりもといち 鹿児島市郡元一 丁目20番6号			11	48	19940322 ~	10	
かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡P-4・ 5区						19920616 ~	666	
かごしまだいがくこうないいせきこおりもとだん 鹿児島大学構内遺跡郡元団 地O-7区						19921019 ~	673	
きょうがくぶふぞくようごがっこうにちじょう 教育学部附属養護学校日常 生活訓練施設建設予定地	かごしまししもいしき 鹿児島市下伊敷 町44番5号					19931025 ~	10	
						19931104		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鹿児島大学構内遺跡郡元団 地H-11区	散布地							
鹿児島大学構内遺跡郡元団 地M・N-3・4区						遺構・遺物なし		
鹿児島大学構内遺跡P-4・ 5区	水田 散布地	近世 弥生時代～近世	溝状遺構	弥生土器 古墳時代の土器 土師器 須恵器 青磁・白磁				
鹿児島大学構内遺跡郡元団 地O-7区								
教育学部附属養護学校日常 生活訓練施設建設予定地	散布地			近世				

---

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅸ・Ⅹ

1994年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

鹿児島市郡元一丁目21番24号

TEL 0992-85-7270

印刷 斯文堂株式会社

鹿児島市南栄3番1号

TEL 0992-68-8211

---

# Kagoshima University Archaeological Research Center Report Vol. IX X

## CONTENTS

### Chapter

I Location and historical background of Kagoshima University .....	1
II Report of archaeological research in fiscal year 1992 .....	7
II.1 General outline of archaeological research .....	9
II.2 Reports of the rescue survey .....	10
III Report of archaeological research in fiscal year 1993 .....	15
III.1 General outline of archaeological research .....	17
III.2 Excavation at Area H-11 in Korimoto campus .....	19
III.3 The test excavation at Handicapped Children's School Attached to Faculty of Education .....	21
III.4 The test excavation at Area M·N-3·4 in Korimoto campus .....	26
III.5 Reports of rescue surveys .....	35
IV Reports of archaeological research in fiscal year 1994 .....	37
IV.1 General outline of archaeological research .....	39
IV.2 Reports of rescue surveys .....	45
The gist of Kagoshima University Archaeological Research Center	

### Appendix

I Report of excavations at Area P-4 and 5 in Korimoto campus .....	59
II Report of excavations at Area O-7 in Korimoto campus .....	130
III Report and analysis of the pottery collected on the occasions of the rescue survey of the central library .....	167

Published by  
Kagoshima University Archaeological Research Center  
1995